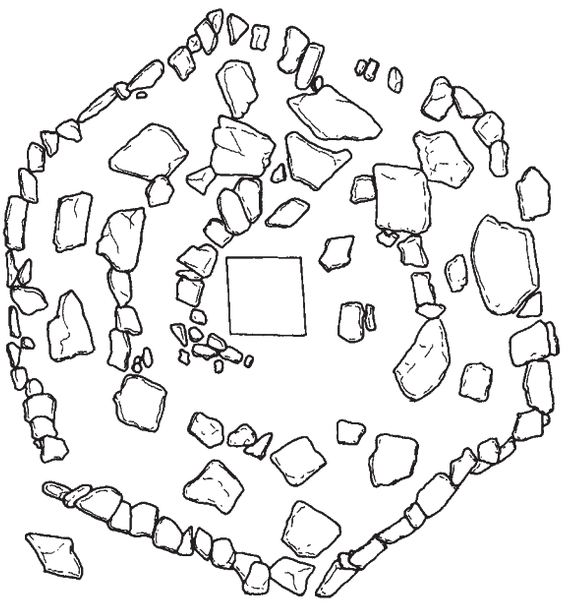
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第260集

山梨県内
中世寺院分布調査報告書

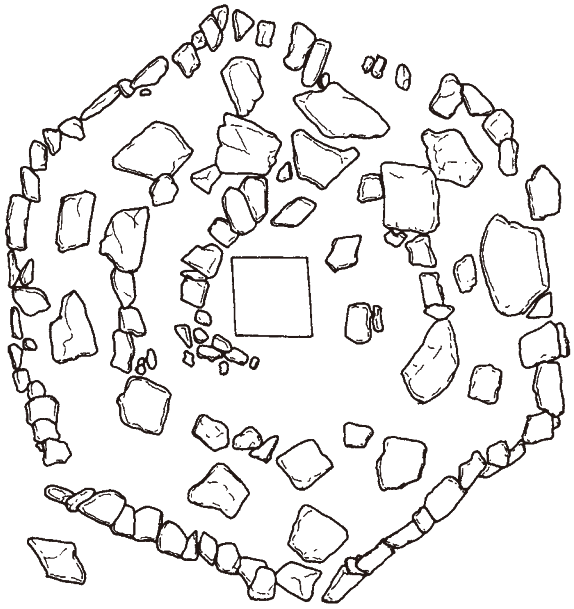


2009. 3
山梨県教育委員会

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第二六十集
山梨県内中世寺院分布調査報告書
二〇〇九・三
山梨県教育委員会

山梨県内

中世寺院分布調査報告書



2009. 3

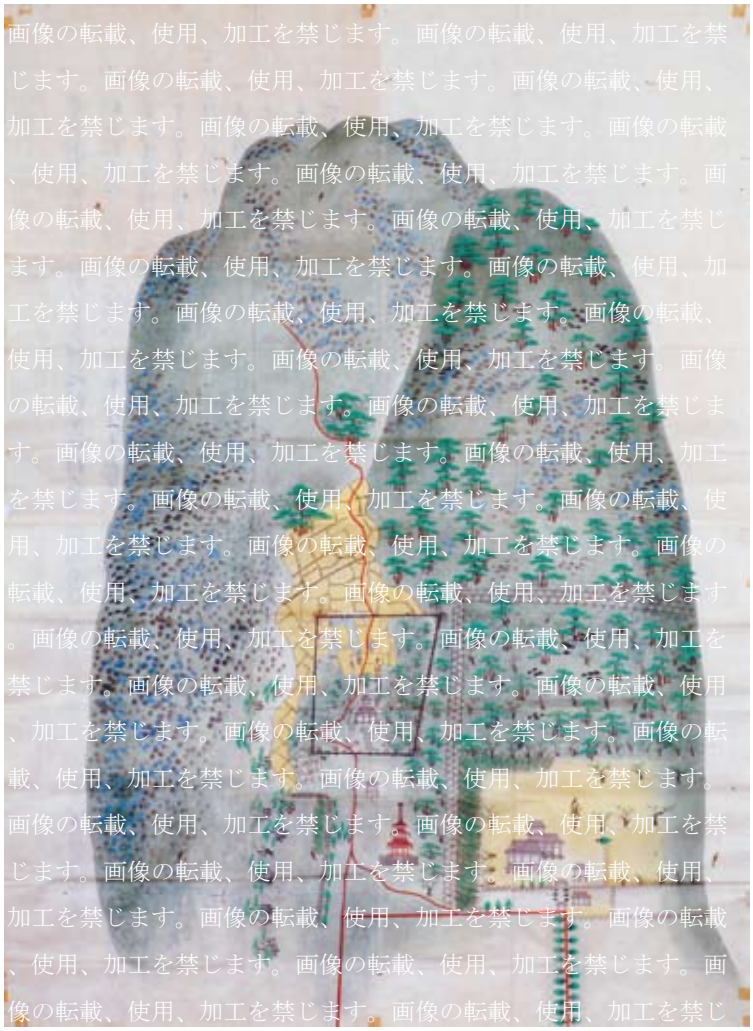
山梨県教育委員会

富士山二合目
小室浅間神社
境内行者堂跡
石列検出状況
（奥は小室浅間神社）

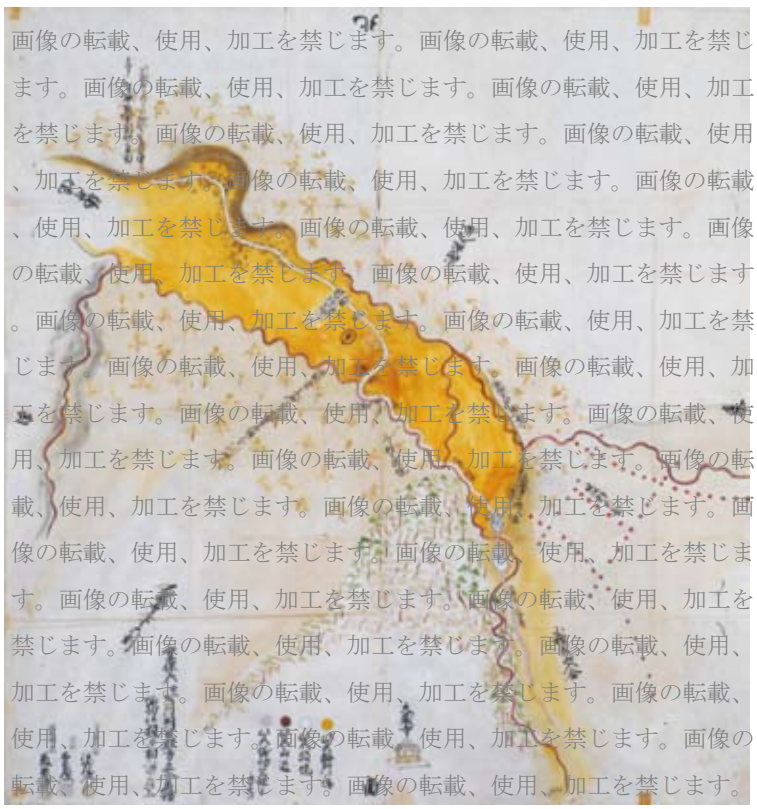
富士山二合目小室浅間神社
境内行者堂跡出土磁器・陶器

富士山二合目小室浅間神社
境内行者堂跡出土陶器

巻頭図版 2



貞享二年大蔵経寺寺域絵図（大蔵経寺所蔵）



享保六年大蔵経寺寺域絵図（大蔵経寺所蔵）

序

本書は、平成 16 年度から平成 20 年度まで 5 年間にわたり国庫補助金を受けて実施した、『山梨県内中世寺院分布調査』の報告書です。

山梨県内には多くの遺跡が所在しており、中でも縄文時代の遺跡は質量ともにすぐれたものが多く、全国的にもよく知られております。しかし中世においても、武田氏関連を始めとした城館跡には著名なものがあり、また山岳信仰を含む宗教関係の分野にも大変重要な遺跡が数多く知られてきております。特に近年には、寺院にかかわる遺跡の発掘調査が増加しつつあり、これに伴って文献史料との連携による検証も進められつつあります。ことに中世における寺院は、都市や村落の中心施設として民衆の拠り所となる一方、時の権力と強く結びつき展開するといった特性を有しており、中世の歴史を理解する上で欠くことのできない役割を持っています。

このような中世寺院については、文献記録は残るものの実際には埋没してしまったもの、あるいは記録から消えてしまったものも数多いのではないかとも推測されていますが、その実態はよく分かっていないというのが実情でありました。

そこで、埋蔵文化財包蔵地として周知化が図られていなかったこれら中世寺院の所在を明らかにし、開発行為との調整等の保護措置をとることができるよう、基礎資料を作成することを目的に『山梨県内中世寺院分布調査』として、5 年計画で実施することになった事業であります。

分布調査については、平安時代の終わり頃（概ね 12 世紀後半代）から近世の始め頃（慶長年間の初頭）までに造営あるいは存在した寺院を中心に、県下全域を対象として基礎データを集めることから開始し、年度ごとに地域を限り現地踏査や発掘調査をも実施しました。最終的には、県内 10 カ所の発掘を実施するとともに、地図上には 2,913 カ所にもおよぶ寺院や関連施設それに遺跡等の所在地を掲載、併せてその概要まで記述することができました。

この報告書が、本県の中世史や信仰の歴史を知る上で、また各種開発と文化財保護との円滑な調整に役立つことができれば、望外の喜びです。

最後になりましたが、発掘調査を快諾していただいた土地所有者の皆様や史資料を提供して下さった方々、並びにご指導いただいた調査検討委員会の先生方をはじめ、さまざまなご協力をいただいた関係者・関係機関の方々には厚く御礼申し上げます。

平成２１年３月１０日

山梨県埋蔵文化財センター
所　長　　新　津　　健

例　言

1　本書は、平成 16 年度（2004）から平成 20 年度（2008）の 5 カ年でおこなわれた、山梨県内中世寺院分布調査報告書である。

2　調査は、山梨県教育委員会が文化庁の国庫補助を受け、山梨県埋蔵文化財センターが中世寺院分布調査・発掘調査・整理作業・報告書作成を実施したものである。

2　本書の編集は、山梨県埋蔵文化財センター石神孝子がおこなった。

3　本書の執筆は、次の通りである。

第 3 章第 2 節第 1 項　善光寺・第 5 項　小井川遺跡・第 3 節第 5 項　杣口金桜神社奥社地遺跡・第 6 節第 1 項円通寺は上原健弥（非常勤嘱託）・第 1 章・第 2 章・第 3 章上記以外の項・第 4 章・第 5 章は石神孝子（主任文化財主事）

特論は第 1 節　時枝務氏・第 2 節　秋山敬氏・第 3 節　高橋一樹氏・第 4 節　清雲俊元氏の各氏に依頼した。

4　遺跡における遺構等の写真には、平成 17 年度は石神孝子、平成 18・19 年度は石神孝子・長田隆志（非常勤嘱託）が撮影した。また遺物の写真は、スタジオトータルアイ　清水守氏に撮影を委託した。

5　鉄器の保存処理及び X 線撮影については、帝京大学山梨文化財研究所に委託した。

6　善応寺平面図の測量は、株式会社テクノプランニングに委託した。

7　本書で作成した中世寺院分布図（第 5 図分布図 1 ～第 51 図分布図 47）については、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図及び 1 万分の 1 地形図を複製・加筆したものである。（承認番号　平 20 業複、第 618 号）

8　本書掲載の分布図をさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。

9　古銭観察表は『日本出土銭総覧』1996 年度版によった。

10　本報告書にかかる出土品・記録図面・写真・調査カード等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

11　付録の DVD は、山梨県中世寺院データベース及び『日本社寺明鑑』（明治 36 年刊行）の「社寺由緒の部」である。

12　データベース内で用いた中世寺院番号は、平成 16 年度の調査開始時に分類したエリアごと付してある。詳細は P7 第 2 章に示した分布図及び巻末の中世寺院一覧表の番号と同一である。

凡　例

1　遺構・遺物の縮尺は、各図面に付した通りである。

2　遺構断面図中のレベルポイント部分にあたる数字は標高（単位はm）を示す。

3　遺物観察表中の括弧付き数値は推定値である。

4　第 2 章分布図中の●は中世に創建年代を、▲は近世に創建年代を持つ。なお創建年代は『甲斐国志』（佐藤八郎編 1971 雄山閣）・『甲斐国社記・寺記』（1969 山梨県立図書館）によった。

目　次

巻頭図版
序
例言
凡例
目次
第１章　調査経過と組織 …… 1
　第１節　調査目的 …… 1
　第２節　調査方法と調査の流れ …… 1
　第３節　調査組織 …… 2
　第４節　共同調査員 …… 3
　第５節　調査検討委員会 …… 4
第２章　山梨県内中世寺院の分布 …… 7
　第１節　分布図について …… 7
第３章　山梨県内中世寺院の調査事例 …… 102
　第１節　東八代地域（A エリア） …… 102
　　第１項　慈眼寺 …… 102
　　第２項　大蔵経寺 …… 104
　　第３項　長谷寺 …… 106
　第２節　峡中地域（B エリア） …… 107
　　第１項　善光寺 …… 107
　　第２項　廃般舟院 …… 109
　　第３項　旧常説寺 …… 110
　　第４項　旧羅漢寺 …… 112
　　第５項　小井川遺跡 …… 114
　第３節　峡東地域（C エリア） …… 117
　　第１項　向嶽寺 …… 117
　　第２項　放光寺 …… 120
　　第３項　大善寺 …… 122
　　第４項　棲雲寺 …… 123
　　第５項　杣口金桜神社奥社地 …… 124
　第４節　峡北地域（D エリア） …… 127
　　第１項　深山田遺跡 …… 127
　　第２項　御崎前遺跡 …… 129
　　第３項　若神子宿遺跡長泉寺地点 …… 130
　　第４項　向山遺跡 …… 131
　第５節　峡西地域（E エリア） …… 133
　　第１項　福寿院跡 …… 133
　第６節　北都留地域（I エリア） …… 136
　　第１項　円通寺 …… 136
第４章　中世寺院の発掘調査 …… 138
　第１節　平成 17 年度の調査 …… 138
　　第１項　聖応寺 …… 138
　　（１）　概要と調査に至る経緯
　　（２）　発掘調査
　　第２項　楽音寺 …… 139
　　（１）　概要と調査に至る経緯
　　（２）　発掘調査
　　第３項　円楽寺 …… 139
　　（１）概要と調査に至る経緯
　　（２）坊寺の調査
　　（３）六角堂跡の調査
　　（４）行者堂跡の調査
　　（５）石塔の調査
　第２節　平成 18 年度の調査 …… 141
　　第１項　苗敷山山頂遺跡南西地点 …… 141
　　（１）概要と調査に至る経緯
　　（２）発掘調査
　　第２項　善応寺 …… 142
　　（１）概要と調査に至る経緯
　　（２）発掘調査
　　第３項　古長禅寺 …… 143
　　（１）概要と調査に至る経緯
　　（２）発掘調査
　　第４項　浄光寺 …… 143
　　（１）概要と調査に至る経緯
　　（２）発掘調査
　第３節　平成 19 年度の調査 …… 143
　　第１項　東円寺前地 …… 144
　　（１）概要と調査に至る経緯
　　（２）発掘調査
　　第２項　富士山二合目小室浅間神社境内地行者堂
　　跡・定善院跡 …… 145
　　（１）概要と調査に至る経緯
　　（２）発掘調査
　　第３項　古観音遺跡 …… 146
　　（１）概要と調査に至る経緯
　　（２）発掘調査
　第４節　踏査による表面採取遺物 …… 147
　　第１項　観音寺
　　第２項　勝善寺
　　第３項　長泉寺
　　第４項　寺平遺跡
　　第５項　権現堂遺跡
　　遺物観察表 …… 180
　　鉄製品観察表・古銭観察表 …… 183
第５章　中世寺院分布調査の成果と課題 …… 184

特論
第１節　「中世寺院遺跡の基礎概念」　時枝務 …… 186
第２節　「文献からみた寺院廃絶の実態」　秋山敬 …… 191
第３節　「文献史学からみた中世前期甲斐の寺院研究の課題」　高橋一樹 …… 196
第４節　「甲州中世における神仏習合の一考察」　清雲俊元 …… 201
中世寺院一覧表 …… 208

図　版　目　次

第１図　エリア位置図 …… 2
第２図　中世寺院分布調査カード …… 5
第３図　事業概要パンフレット …… 6
第４図　分布図位置図 …… 7
第５図　分布図１　小淵沢 …… 8・9
第６図　分布図２　長坂上条 …… 10・11
第７図　分布図３　鳳凰山 …… 12・13
第８図　分布図４　夜叉神峠 …… 14・15
第９図　分布図５　奈良田 …… 16・17
第 10 図　分布図６　新倉 …… 18・19
第 11 図　分布図７　七面山 …… 20・21
第 12 図　分布図８　谷戸 …… 22・23
第 13 図　分布図９　若神子 …… 24・25
第 14 図　分布図 10　韮崎 …… 26・27
第 15 図　分布図 11　小笠原 …… 28・29
第 16 図　分布図 12　鰍沢 …… 30・31
第 17 図　分布図 13　切石 …… 32・33
第 18 図　分布図 14　身延 …… 34・35
第 19 図　分布図 15　南部 …… 36・37
第 20 図　分布図 16　篠井山 …… 38・39
第 21 図　分布図 17　瑞牆山 …… 40・41
第 22 図　分布図 18　茅ヶ岳 …… 42・43
第 23 図　分布図 19　甲府北部 …… 44・45
第 24 図　分布図 20　甲府 …… 46・47
第 25 図　分布図 21　市川大門 …… 48・49
第 26 図　分布図 22　精進 …… 50・51
第 27 図　分布図 23　人穴 …… 52・53
第 28 図　分布図 24　上井出 …… 54・55
第 29 図　分布図 25　富士宮 …… 56・57
第 30 図　分布図 26　川浦 …… 58・59
第 31 図　分布図 27　塩山 …… 60・61
第 32 図　分布図 28　石和 …… 62・63
第 33 図　分布図 29　河口湖西部 …… 64・65
第 34 図　分布図 30　鳴沢 …… 66・67
第 35 図　分布図 31　富士山 …… 68・69
第 36 図　分布図 32　柳沢峠 …… 70・71
第 37 図　分布図 33　大菩薩峠 …… 72・73
第 38 図　分布図 34　笹子 …… 74・75
第 39 図　分布図 35　河口湖東部 …… 76・77
第 40 図　分布図 36　富士吉田 …… 78・79
第 41 図　分布図 37　須走 …… 80・81
第 42 図　分布図 38　丹波 …… 82・83
第 43 図　分布図 39　七保 …… 84・85
第 44 図　分布図 40　大月 …… 86・87
第 45 図　分布図 41　都留 …… 88・89
第 46 図　分布図 42　御正体山 …… 90・91
第 47 図　分布図 43　猪丸 …… 92・93
第 48 図　分布図 44　上野原 …… 94・95
第 49 図　分布図 45　大室山 …… 96・97
第 50 図　分布図 46　与瀬 …… 98・99
第 51 図　分布図 47　甲府（拡大） …… 100・101
第 52 図　慈眼寺全体図・１・４号トレンチ平面図 ……103
第 53 図　大蔵経寺塔礎石平面図・版木写し …… 105
第 54 図　長谷寺全体図・出土遺物 …… 106
第 55 図　善光寺境内の建物配置と調査地点 …… 107
第 56 図　調査区と出土遺物 …… 108
第 57 図　廃般舟院出土遺物 …… 109
第 58 図　旧常説寺全体図・石造物出土状況・山宮地遺跡出土遺物 …… 111
第 59 図　旧羅漢寺木版図・全体図 …… 113
第 60 図　小井川遺跡出土遺物 …… 115
第 61 図　１号建物跡と関連遺構の位置 …… 116
第 62 図　主屋を中心とする建物群の位置 …… 116
第 63 図　向嶽寺全体図 …… 118
第 64 図　向嶽寺庭園 …… 119
第 65 図　放光寺トレンチ配置図・出土遺物 …… 121
第 66 図　大善寺トレンチ配置図・出土遺物 …… 122
第 67 図　棲雲寺石造物・遺物 …… 123
第 68 図　杣口金桜神社奥社地遺跡全体図 …… 125
第 69 図　９号テラス・出土遺物 …… 126
第 70 図　深山田遺跡全体図 …… 128
第 71 図　御崎前遺跡全体図 …… 129
第 72 図　向山遺跡全体図・礎石建物跡 …… 132
第 73 図　農道二本柳遺跡（福寿院跡）全体図 …… 134
第 74 図　二本柳遺跡（福寿院跡）全体図・木棺出土遺物

…… 135
第 75 図　岩殿山境内絵図 …… 136
第 76 図　試掘調査地点・試掘トレンチ …… 137
第 77 図　聖応寺調査区配置図 …… 147
第 78 図　聖応寺本堂跡平面図・根石出土状況 …… 148
第 79 図　聖応寺開山堂・礎石建物跡平面図・断面図 ……
…… 149
第 80 図　楽音寺本堂跡平面図 …… 150
第 81 図　円楽寺全体図 …… 151・152
第 82 図　円楽寺坊寺トレンチ平面図 …… 153
第 83 図　六角堂跡平面図・断面図 …… 154
第 84 図　行者堂跡・中世石塔群平面図・断面図 …… 155
第 85 図　苗敷山山頂遺跡南西地点全体図・断面図 ……
…… 156
第 86 図　苗敷山山頂遺跡トレンチ平面図･断面図（1）
…… 157
第 87 図　苗敷山山頂遺跡トレンチ平面図・断面図（2）
善応寺全体図 …… 158
第 88 図　善応寺調査区 1 平面図・断面図 …… 159
第 89 図　善応寺調査区 2 ・湧水地点平面図・断面図
…… 160
第 90 図　古長禅寺建物跡平面図・断面図 …… 161
第 91 図　浄光寺全体図・トレンチ配置図 …… 162
第 92 図　東円寺前地（中尾根遺跡）全体図 …… 163
第 93 図　東円寺前地トレンチ平面図・断面図 …… 164
第 94 図　富士山二合目行者堂跡全体図・調査区北西側
石垣平面図・断面図 …… 165
第 95 図　富士山二合目行者堂跡石列平面図・断面図
…… 166
第 96 図　富士山二合目行者堂跡遺物分布図・セクション図
…… 167
第 97 図　古観音遺跡全体図 …… 168
第 98 図　古観音遺跡集石遺構・聖応寺出土遺物 …… 169
第 99 図　円楽寺出土遺物（1）…… 170
第 100 図　円楽寺（2）・苗敷山山頂遺跡・善応寺・古
長禅寺（1）出土遺物 …… 171
第 101 図　古長禅寺（2）・東円寺前地（中尾根遺跡）・
富士山二合目行者堂跡（1）出土遺物・172
第 102 図　富士山二合目行者堂跡（2）出土遺物 ……
…… 173
第 103 図　富士山二合目行者堂跡（3）・古観音遺跡出
土遺物 …… 174
第 104 図　踏査表面採集遺物・鉄製品 …… 175
第 105 図　古銭 …… 176
第 106 図　石造物実測図・拓影図 …… 177
第 107 図　石造物拓影図 …… 178
第 108 図　分布図内寺院名 …… 179

第１章　調査経過と組織

第１節　調査目的

近年、山梨県の中世の姿は、中世に記された記録の解析・研究や発掘調査によって検出された遺構・遺物の分析などから、徐々に明らかとなってきている。考古学の分野においては、開発目的または学術的視点に立った発掘調査等により寺院跡･墓域･居館跡･山城等様々な遺構が検証されてきた。中でも中世における寺院については、都市や村落の中心施設として、また場合によっては時の権力と強い結び付きを持った特徴的な施設であり、山梨県の中世史を理解する上では欠くことのできないものである。

その一方で中世寺院は埋蔵文化財包蔵地としての周知が進まず、開発行為による破壊・消滅、または既存寺院においても墓地の造成・施設の改変など、中世の遺構・遺物は時間の経過とともに姿を消しつつある。そこでこれらの分布を明らかにするために悉皆的な調査を行い、実態を把握するとともに、これらを保護・活用するための基礎資料を蓄積することを目的として、文化庁の補助金を得て５カ年計画で山梨県内における中世寺院分布調査を行うこととした。

第２節　調査方法と調査の流れ

本事業の調査対象とする「中世寺院」は、県内に所在するものとし、寺院に関わると判断される施設や墓地･墓堂･仏堂・塚・石造物等も参考とする。対象年代は、おおむね 12 世紀後半代から「山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項」（平成 12 年４月１日施行）第３条に規定された 1603 年までのおおよそ 400 年間とする。そのため、創建年代が古代に遡り、当該時期に存続するものも含まれる。調査の開始にあたって、「山梨県内中世寺院分布調査実施要項」（平成 16 年５月 13 日施行）により、16 ～ 20 年度の年次計画を策定した。その上で平成 16 年度は調査寺院の基礎資料を集約する作業を開始した。当初は、当該時期に所在する寺院数さえ明らかではなかったため、『甲斐国志』（佐藤八郎編 1971）･『甲斐国社記・寺記』（山梨県立図書館 1969）に掲載される寺院についてリスト化を行い、「基本カード」･「文献カード」･「補助カード」の３種から成る調査カードにより（第２図）、１ヶ寺ごとにデータ集約を行った。次に集約を行ったカードを市町村ごとに分割した（平成 16 年度当初は 41 市町村）。中世寺院を埋蔵文化財として認識し、県内に所在する中世寺院を集成する他、個々の寺院に対し地元でしか知り得ない情報について調査を行い、カード化することで共通認識を構築するため、平成 16 年５月 26 日付けで「山梨県内中世寺院共同調査員設置要項」を策定し、県内全域の市町村教育委員会と共同で調査を実施することとした。その上で共同調査員会議において、共同調査員に調査カードを配布した。このようにさらなる詳細情報の収集及び『甲斐国志』･『甲斐国社記・寺記』に未掲載で、地元に伝承・記録が残る寺院のカード化を行った。

一方県内を９エリアに分割し、平成 17 ～ 19 年度の３カ年で聞き取り・地域伝承・遺物の表面採集を目的として踏査を行った（第１図）。踏査結果により、さらなる情報収集が必要であると判断された地点については、発掘調査を実施した。発掘調査地は平成 17 年度が聖応寺・楽音寺（笛吹市）・円楽寺（甲府市）、平成 18 年度が苗敷山山頂遺跡（韮崎市）・善応寺・古長禅寺（南アルプス市）・浄光寺（南巨摩郡南部町）、平成 19 年度が東円寺前地（南都留郡忍野村）・富士山二合目小室浅間神社境内地行者堂・定善院跡（南都留郡富士河口湖町）・

エリア	地　域	市町村名	調査年度
Ａエリア	東八代地域	笛吹市	平成 17 年度
Ｂエリア	峡中地域	甲府市・甲斐市・中央市・昭和町	
Ｃエリア	峡東地域	甲州市・山梨市	
Ｄエリア	峡北地域	北杜市・韮崎市	平成 18 年度
Ｅエリア	峡西地域	南アルプス市	
Ｆエリア	峡南地域	増穂町・鰍沢町・早川町・身延町・南部町	
Ｇエリア	西八代地域	市川三郷町	平成 19 年度
Ｈエリア	南都留地域	富士吉田市・都留市・西桂町・富士河口湖町・山中湖村・道志村・忍野村	
Ｉエリア	北都留地域	大月市・上野原市・小菅村・丹波山村	

古観音遺跡（北都留郡小菅村）で、3 年間で合計 10 カ寺を数え、その内容は本書に報告するとおりである。

また本調査では、「山梨県内中世寺院分布調査検討委員会設置要項」を平成 16 年 5 月 26 日付けで施行し、これに基づき県内外の学識経験者 4 名よりなる調査委員会を設置した。検討委員会は年間 3 回を開催し、専門的かつ客観的な視点により調査方法の検討やその成果の検証・評価を行うことを目的とした。

〈山梨県内中世寺院分布調査実施要項〉

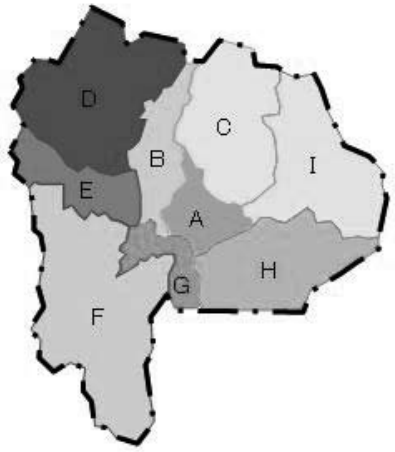
（調査目的）第 1 条　本事業は、埋蔵文化財包蔵地としての周知化が図られず、開発行為等による破壊や消滅の畏れがある山梨県内の中世寺院の所在位置・時期・内容等を調査・整理することにより、埋蔵文化財包蔵地として周知し、開発行為等との調整や保存整備・活用のための基礎資料を作成することを目的とする。なお、今回の事業は国庫補助を受け、平成 16 年度から平成 20 年度までの 5 カ年計画で実施するものとする。

（事業名称）第 2 条　本事業の名称は、「山梨県内中世寺院分布調査」とする。

（事業内容）第 3 条　本事業の内容は、山梨県内に残る中世寺院等の所在と内容についての悉皆確認調査とする。

（事業主体）第 4 条　本事業の主体は、山梨県教育委員会とし、山梨県埋蔵文化財センターが実施する。

（調査組織）第 5 条　本事業の調査組織は、以下のとおりとする。 ｱ）事務局　山梨県教育庁学術文化財課　山梨県埋蔵文化財センター　ｲ）調査検討委員会　調査に係る指導・助言を行なうために、「山梨県内中世寺院分布調査検討委員会設置要項」に基づいて設置される学識経験者からなる委員会組織　ｳ）共同調査員会議　調査を共同で行なうために、「山梨県内中世寺院共同調査員会議設置要項」に基づいて設置される県内市町村教育委員会文化財担当職員等からなる調査組織　ｴ）協力者・協力機関　県内各寺院ほか



第 1 図　エリア位置図

（調査対象）第 6 条　本事業の調査対象は、県内に所在する中世寺院（寺院跡含む）を主たる対象とし、それらに関連すると考えられる施設・遺構等（墓地・墓堂・仏堂・塚・石造物群など）も参考とする。対象時期は、寺院等の造営・存在時期の上限を概ね 12 世紀後半代とし、同じく下限を「山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項」（平成 12 年 4 月 1 日施行）第 3 条に規定された 1603 年 (慶長 8 年) までとする。

（調査計画）第 7 条　各年度における調査計画は、概ね以下の通りとする。ただし、各年度の調査対象の詳細については、平成 16 年度中に各年次調査計画を定める。平成 16 年度　基礎的資料の調査・整理および年次調査計画の策定　平成 17 年度　基礎的資料の調査、試掘・測量を伴う現地調査 1　平成 18 年度　基礎的資料の調査、試掘・測量を伴う現地調査 2　平成 19 年度　基礎的資料の調査、試掘・測量を伴う現地調査 3　平成 20 年度　補足追加調査および調査報告書の作成、印刷製本

（調査方法）第 8 条　調査は以下に挙げる基礎的資料の調査を経て、必要なものについては可能な範囲で発掘調査等の現地調査を行なうものとし、最終年度に調査結果を報告書にまとめる。なお、調査は事務局および共同調査員が協力の上、実施することを基本とする。 1）基礎的資料の調査　ｱ）各種の文献資料 (『甲斐国志』・『甲斐国社記・寺記』・『山梨県史』・各市町村誌等) の調査に基づく情報整理（カード化）　ｲ）発掘調査・遺跡詳細分布調査資料 (発掘調査報告書等) の調査に基づく情報整理（カード化）　ｳ）各地域・寺院等に残る口承・伝承等を含む資料の調査に基づく情報整理（カード化）　2）発掘調査等の現地調査　ｱ）中世寺院等の所在および範囲や性格を確認するための発掘（試掘）調査や測量調査　ｲ）関連遺物（瓦等）の散布状況や遺構（石垣・基壇等）の残存状況の現地調査

（その他）第 9 条　この要項に定めるもののほか、調査に関し必要な事項は、事務局が定める。

附則　この要項は、平成 16 年 5 月 13 日から施行する。

第 3 節　調査組織

調査主体　山梨県教育委員会　　**調査機関**　山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者　森原明廣（副主査 文化財主事・H16 年度）・森屋文子（臨時職員・H16 年度）・石神孝子（主任文化財主事・H17 ～ H20 年度）・猪俣美砂（臨時職員・H18 年 4 月～ 7 月）・長田隆志（非常勤嘱託・H18 年 11 月～ H19 年 3 月）

調査検討委員会　委 員 長　清雲　俊元（山梨県文化財保護審議会会長）
副委員長　秋山　敬（甲府市文化財審議委員）

委　　員　時枝　　務（立正大学文学部史学科准教授）
委　　員　笹生　　衛（現千葉県教育庁）※平成 16 年度
委　　員　高橋　一樹（国立歴史民俗博物館歴史研究系准教授）※平成 17 ～ 20 年度

共同調査員（平成 16 年度委嘱時）

Ａエリア：瀬田正明（笛吹市）・林部光（東八代郡中道町）・石田利和（同芦川村）
Ｂエリア：佐々木満（甲府市）・高須秀樹（甲斐市）・今村直樹（中巨摩郡玉穂町 H18 より中央市）・加賀美綾乃（同昭和町）・橘田修（同田富町）・岡野秀典（東八代郡豊富村）
Ｃエリア：飯島泉（塩山市）・三澤達也（山梨市）・室伏徹（東山梨郡勝沼町）・平山裕美（同大和村）・大崎文裕（東山梨郡牧丘町）・日原貴美保（同三富村）
Ｄエリア：閏間俊明（韮崎市）・山路恭之助※平 18 より雨宮正樹（北杜市）・佐藤勝廣（北巨摩郡小淵沢町）
Ｅエリア：田中大輔（南アルプス市）
Ｆエリア：小島利史（南巨摩郡増穂町）・秋山圭史（同鰍沢町）・深沢一比児（同早川町）・佐野王人※ H19 より坂口広太（同身延町）・佐野勝（同南部町）
Ｇエリア：河野治（南都留郡上九一色村）・和田豊（西八代郡三珠町）・小林東（同市川大門町）・井上和彦（同六郷町）
Ｈエリア：篠原武（富士吉田市）・杉本悠樹※平 18 より森屋雅幸（都留市）・佐藤太清（南都留郡道志村）・小川健（同西桂町）・天野俊彦（同山中湖村）・天野勇人（同忍野村）・日原和美※平 19 より杉本悠樹（同富士河口湖町）・渡辺重夫（同鳴沢村）
Ｉエリア：杉本正文（大月市）・小西直樹（上野原市）・原田宙（北都留郡秋山村）・船木直美（同小菅村）・吉野和也（同丹波山村）

協 力 者（順不同・敬称略）御山永済（聖応寺）・内藤睦雄（楽音寺）・野崎進・瀬田正明・小渕忠秋（笛吹市教育委員会）・北守順真（円楽寺）・関東財務局甲府財務事務所・山崎光昌・土橋高行・石原栄好・柿嶋正士・村松勇・中込雅・石原光雄・山崎昌・林部光（現甲府市都市整備課）・山本静雄・山下孝司・閏間俊明（韮崎市教育委員会）・金川精一・井上一博・滝川宗然（古長禅寺）・野沢達也（前南アルプス市教育長）・田中大輔・保坂太一・斉藤秀樹（南アルプス市教育委員会）・内藤幹彦・永冨文雄（浄光寺）・鷹野慈誠（東円寺）・渡辺正典・天野勝郎・天野一・大森達美・一瀬一浩・冨士小室浅間神社・杉本悠樹（富士河口湖町教育委員会）・堀内真・奥脇和男・布施光敏・篠原武・髙橋晶子（富士吉田市歴史民俗博物館）・菊池邦彦（現東京都立航空工業高等専門学校）・渡井英誉（静岡県富士宮市教育委員会）・鈴木敏則（静岡県浜松市教育委員会）・勝又直人（静岡県教育委員会）・守重公英（小菅村教育委員会）・守重文俊・守重長子・守重洋作・中村文明（多摩川源流研究所所長）・佐野隆・村松佳幸（北杜市教育委員会）・大嶌正之（甲斐市教育委員会）・坂口広太（身延町教育委員会）・井上秀天（大蔵経寺）・平塚洋一（甲府市教育委員会）・山崎金夫・櫛原功一・宮沢公雄・畑大介（帝京大学山梨文化財研究所）・大村和夫・沼田晃佑（身延山大学図書館）・山本義孝（静岡県袋井市教育委員会）・堀内亨（山梨県立博物館）・北条美和子

作 業 員

分布調査　樋口久子・浅野美代子・猪俣美砂
発掘調査　長田くみ子・小林としみ・中川美千子・矢崎緑・渡辺喜乃女・小菅春江・広瀬ありさ・正木なつ子・岡和子・渡辺洋子・大竹孝宏・菱井優介・守重文俊・守重長男・守重初男・守重道子
整理調査　望月寛子・垣内律子・小池美保子・土橋園子・小菅春江・正木なつ子・宮下真樹子

第４節　共同調査員

当事業では、調査主体である山梨県教育委員会・山梨県埋蔵文化財センターと市町村教育委員会の文化財担当者が、共同で調査を実施することとした。なお、進捗状況の確認及び調査時に生じた課題の検討、中世寺院に関わる研修等を行うため、1 年に 1 回程度を目途に共同調査員会議を開催した。

〈開催の記録〉

第 1 回共同調査員会議　平成 16 年 10 月 19 日 13:00 ～ 16:00　於風土記の丘研修センター講堂
◆内容：委嘱状交付・山梨県内中世寺院分布調査の実施についての説明・研修会「中世寺院遺跡の分類と変遷」笹生衛委員・「文献による中世寺院調査 - 山梨市を例に -」秋山敬委員
第 2 回共同調査員会議　平成 18 年 1 月 20 日　13:30 ～ 16:30　於風土記の丘研修センター講堂
◆内容：17 年度の状況と 18 年度の事業計画・調査カードの記入について・研修会「中世寺院の調査事例」村松佳行（北杜市教育委員会）・「小井川遺跡出土の文字資料について」秋山敬委員・「甲州の臨済宗」清雲俊元委員長
第 3 回共同調査員会議　平成 19 年 2 月 26 日　13:30 ～ 16:40　於風土記の丘研修センター講堂
◆内容：18 年度の状況と 19 年度の事業計画・調査カードの回収状況・研修会「18 年度の発掘調査事例」石神孝子（県埋蔵文化財センター）・「中世寺院の伽藍配置」時枝務委員・「文献史学からみた中世前期甲斐の寺院研究の課題」高橋一樹委員

〈山梨県内中世寺院分布調査　共同調査員設置要項〉

（設置）第 1 条　山梨県埋蔵文化財センター（以下、「センター」という。）が実施する山梨県内中世寺院分布調査事業（以下、「調査事業」という。）について、調査を事務局と共同で実施するための共同調査員（以下、「調査員」という。）を設置する。
（組織）第 2 条　調査員は、県内各市町村教育委員会の文化財担当職員等とする。2　調査員は、センター所長が各市町村教育委員会教育長あてに行う職員等の派遣申請をもって依頼する。
（所掌事項）第 3 条　調査員は、基礎的調査や現地調査に協力し、事務局と共同して調査を行う。
（調査員会議）第 4 条　事務局と各調査員の連絡調整および調査状況を確認するための調査員会議を置く。2　調査員会議は、所長が召集する。
（任期）第 5 条　調査員の任期は、事業の完了までとする。2　調査員は、各市町村教育委員会の文化財担当者の役職をもってあたることとし、調査員がその役職を離れた場合には任期を終えたものとする。
（関係者および有識者の会議出席等）第 6 条　調査員会議には、必要があると認められるときは、会議に調査員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。
（その他）第 7 条　この事項に定めるもののほか、調査員に関し必要な事項は、センター所長が定める。
附則　この要項は、平成 16 年 5 月 26 日から施行する。

第 5 節　調査検討委員会

当事業では、調査に関わる指導・助言を行うために、調査検討委員会を設置した。検討委員会は年間 3 回を目途に開催される。その内容についてはおおむね、年度初回は踏査寺院リストの検討や指導・助言、調査カードの進捗・回収状況の確認、各年度の対象エリアに所在する寺院への指導等を行う。2 回目は踏査により発掘調査が必要とされた寺院の検討・指導・助言に加え、発掘調査予定寺院の現地視察を行った。3 回目は発掘調査結果の検討及び次年度の調査計画についての助言を行った。さらにこれらの検討委員会の他、事業に関わる文献資料調査への参加や当事業における発掘調査の視察なども行った。

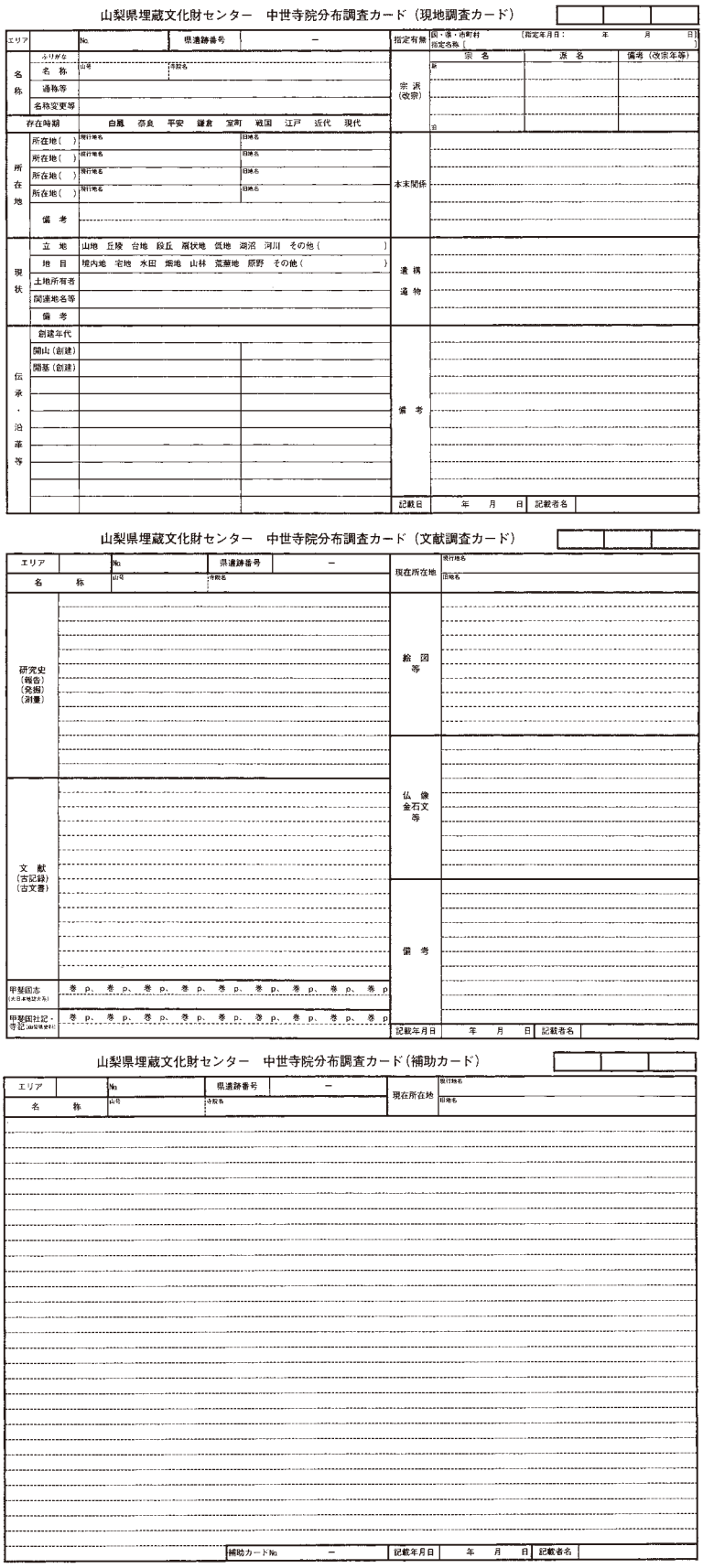
〈開催の記録〉

平成 16 年度　第 1 回　平成 16 年 7 月 23 日　15:00 ～ 17:30　於県民会館 402 号室
　　第 2 回　平成 16 年 10 月 19 日 10:00 ～ 12:00　於風土記の丘研修センター
　　第 3 回　平成 17 年 3 月 16 日 10:00 ～ 12:00　於県民会館 403 号室
平成 17 年度　第 1 回　平成 17 年 6 月 24 日 13:30 ～ 17:10　於県民情報プラザ 2 階会議室
　　第 2 回　平成 17 年 10 月 28 日　9:00 ～ 16:45　於山梨県庁第 2 南別館 302 号室
　　※現地視察　浄居寺・（山梨市）楽音寺・聖応寺（笛吹市）
　　第 3 回　平成 18 年 1 月 20 日　12:00 ～ 13:20　　於風土記の丘研修センター
平成 18 年度　第 1 回　平成 18 年 6 月 12 日　13:30 ～ 17:00　於県民会館 405 号室
　　第 2 回　平成 18 年 10 月 2 日　9:00 ～ 17:40　於県民会館 302 号室
　　※現地視察　善応寺・西光寺・古長禅寺・宝珠寺（南アルプス市）・浄光寺（南部町）
　　第 3 回　平成 19 年 2 月 26 日　13:30 ～ 16:40　於風土記の丘研修センター
平成 19 年度　第 1 回　平成 19 年 7 月 24 日　13:30 ～ 17:30　於県民会館 501 号室
　　第 2 回　平成 19 年 10 月 23 日・25 日　9:30 ～ 17:00

※現地視察　富士山二合目行者堂跡（富士河口湖町）・東円寺（忍野村）

第３回　平成 20 年２月 25 日　13:30 ～ 17:00　於県民会館 401 号室

平成 20 年度　第１回　平成 20 年 12 月 25 日　13:30 ～ 17:00　於県民会館 304 号室


山梨県埋蔵文化財センター　中世寺院分布調査カード（現地調査カード）

エリア　No.　県遺跡番号　－　指定有無　国・県・市町村指定名称（指定年月日：　年　月　日）

名称　ふりがな　名称　山号　寺院名　通称等　名称変更等

宗派（改宗）　宗名　派名　備考（改宗年等）　新　旧

存在時期　白鳳　奈良　平安　鎌倉　室町　戦国　江戸　近代　現代

所在地　所在地（　）現行地名　旧地名　所在地（　）現行地名　旧地名　所在地（　）現行地名　旧地名　所在地（　）現行地名　旧地名　備考

本末関係

現状　立地　山地　丘陵　台地　段丘　扇状地　低地　湖沼　河川　その他（　）　地目　畑内地　宅地　水田　畑地　山林　荒蕪地　原野　その他（　）　土地所有者　関連地名等　備考

遺構　遺物

伝承・沿革等　創建年代　開山（創建）　開基（創建）

備考

記載日　年　月　日　記載者名

山梨県埋蔵文化財センター　中世寺院分布調査カード（文献調査カード）

エリア　No.　県遺跡番号　－　名称　山号　寺院名

現在所在地　現行地名　旧地名

研究史（報告）（発掘）（測量）

絵図等

文献（古記録）（古文書）

仏像金石文等

甲斐国志（大日本地誌大系）　巻 p、巻 p、巻 p、巻 p、巻 p、巻 p、巻 p、巻 p、巻 p、巻 p

甲斐国社記・寺記（山梨県史資料）　巻 p、巻 p、巻 p、巻 p、巻 p、巻 p、巻 p、巻 p、巻 p、巻 p

備考

記載年月日　年　月　日　記載者名

山梨県埋蔵文化財センター　中世寺院分布調査カード（補助カード）

エリア　No.　県遺跡番号　－　名称　山号　寺院名

現在所在地　現行地名　旧地名

補助カードNo.　－　記載年月日　年　月　日　記載者名

第2図　中世寺院分布調査カード

〈山梨県内中世寺院分布調査検討委員会設置要項〉

（設置）第１条　山梨県埋蔵文化財センター（以下、「センター」という。）が実施する山梨県内中世寺院分布調査事業（以下、「調査事業」という。）について、その調査方法等を検討するために、山梨県内中世寺院分布調査検討委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

（組織）第２条　委員会は、４名の委員で組織する。

２　委員は、有識者のうちからセンター所長が委嘱する。

（所掌事項）第３条　委員会は、調査の方法・成果について検討し、指導・助言を行う。

（委員長）第４条　委員会に、委員長及び副委員長を置く。２　委員長及び副委員長は、委員の互選によって選任する。

３　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。４　委員長に事故があるときには、副委員長がその職務を代理する。

（会議）第５条　委員会の会議はセンター所長が招集し、委員長が主宰する。

（任期）第６条　委員の任期は、委嘱の日からセンター所長が定める日までとする。

（関係者および有識者の出席等）第７条　委員会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

（事務局）第８条　委員会の事務局は、山梨県埋蔵文化財センターに置く。

（その他）第９条　この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、センター所長が定める。

附則　この要項は、平成１６年５月２６日から施行する。

山梨県内

中世寺院分布調査事業

山梨県教育委員会では、平成16年度から5ヵ年計画で「山梨県内中世寺院分布調査事業」を開始しました。この調査は、山梨県内に約3,000ヶ所近く残っていると考えられる中世のお寺について、その場所や歴史をできるだけ明らかにし、将来に向けて保護・活用するための基礎にすることを目的としています。それでは、なぜ今、"中世のお寺"の調査が必要なのでしょうか。

山梨県教育委員会では、埋蔵文化財の保護の対象とする時代の範囲として「おおむね中世までの遺跡」とすることを原則としています(山梨県教育委員会「山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項」平成12年4月1日施行)。

中世とは今から約900年前から400年前頃(鎌倉時代～安土・桃山時代頃)を指し、戦さや争いごとが絶えない不安定な時代であったと言えます。中世に属する遺跡には城郭(お城・館・烽火台)や町・村跡など様々なものがありますが、忘れてならないのが「寺院」つまり「お寺」です。中世のお寺は町や村の中心として栄えた場合が多く、また人々の心の拠りどころとなった場合も多いため、中世の社会や人々の暮らしを探るために欠くことのできない文化財であると言えます。

山梨県内には約3,000ヵ所近くの中世の寺院があると考えられていますが、そのほとんどは埋蔵文化財包蔵地(遺跡のある場所)として把握されておらず、日々損なわれつつある非常に残念な状態にあります。中世の社会や暮らしを明らかにするための遺跡としての中世寺院を一刻も早く保護し、活用できるようにするために、この「山梨県内中世寺院分布調査」事業を進めてまいります。

山梨県内中世寺院分布調査は、広く県民の皆様からのご協力を得ながら進める必要があります。資料提供や発掘調査へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

山梨県教育委員会では県内に残る中世寺院の保存・活用を図るための調査を実施しています。

山梨県内中世寺院分布調査事業は、平成16年度から20年度までの5カ年事業として実施します。

現地調査は平成17年度から19年度の3カ年で、県内全域をA～Iの9エリアに分割して行います。

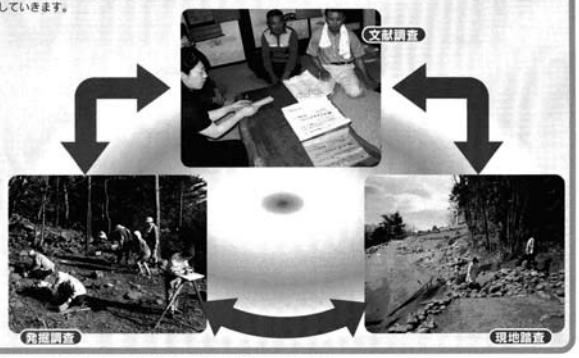
調査年次	エリア名	市町村名	調査内容
平成16年度	A～Iエリア	県内全域	基礎的データ整理
平成17年度	Aエリア 東八代エリア	笛吹市・中央市・昇川村	分布調査・発掘調査
	Bエリア 峡中エリア	甲府市・甲斐市・玉穂町・昭和町・田富町・豊富村	
	Cエリア 峡東エリア	塩山市・山梨市・勝沼町・大和村	
平成18年度	Dエリア 峡北エリア	韮崎市・北杜市・小淵沢町	分布調査・発掘調査
	Eエリア 峡西エリア	南アルプス市	
	Fエリア 峡南エリア	増穂町・鰍沢町・早川町・身延町・南部町	
平成19年度	Gエリア 西八代エリア	上九一色村・三珠町・市川大門町・六郷町	分布調査・発掘調査
	Hエリア 南都留エリア	富士吉田市・都留市・道志村・西桂町・山中湖村・忍野村・富士河口湖町・鳴沢村	
	Iエリア 北都留エリア	大月・上野原・小菅・丹波山	
平成20年度	A～Iエリア	県内全域	報告書作成・刊行

山梨県内中世寺院分布調査の方法

山梨県内中世寺院分布調査事業は5カ年を要する事業です。
調査は平成16年度の基礎的な文献資料調査から始まりましたが、平成17～19年度には発掘調査などを含む現地調査がいよいよ始まります。調査の結果については、平成20年度に「分布調査報告書」として出版される予定になっています。

調査方法や調査成果については、中世研究をご専門とされる各委員から構成される「山梨県内中世寺院分布調査検討委員会」にご検討いただくとともに、ご意見をいただきながら進めています。
また、今回の調査は、山梨県教育委員会と県内各市町村教育委員会が共同で実施することとなっており、「山梨県内中世寺院分布調査共同調査員会議」として組織されています。これは、各地域の調査をより詳細なものとするためであり、確認された中世寺院をすみやかに保護できるようにするためでもあります。

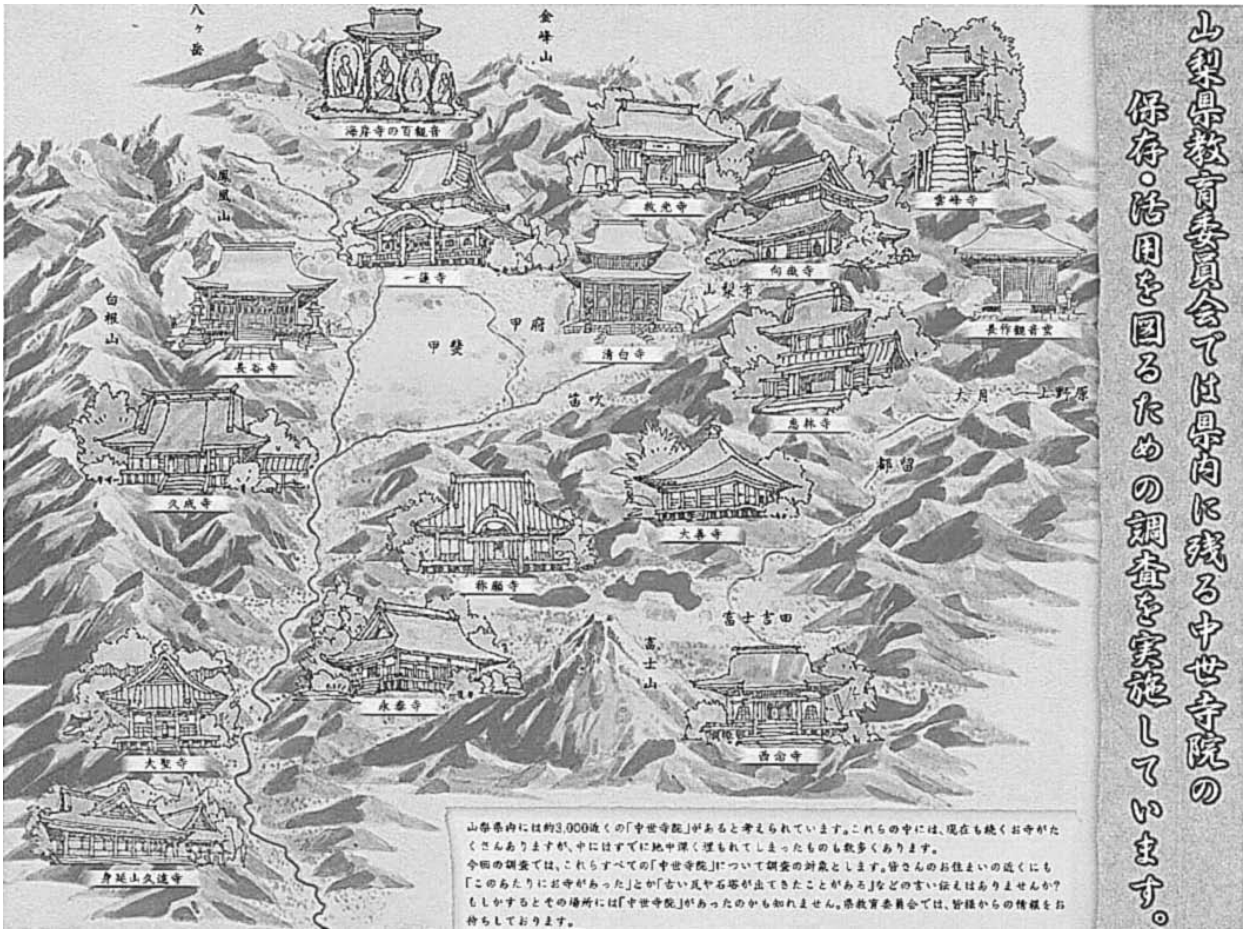
調査は、文献調査や現地調査などを複合的に組み合わせて実施しています。
平成16年度には基礎的な文献となる『甲斐国志』や『甲斐国社記・寺記』などに記載された寺院に関わる記載を整理し、現地調査に備えた「調査カード」を作成しています。これらをベースに、各地域に残る様々な伝承や記録を加えながら、中世寺院の所在に関わる情報を蓄積していきます。さらに、現地調査では、各地域に残る中世寺院に関わる古文書や伝承などを調査し、併せて寺院跡の踏査や測量作業などを実施します。
また、必要に応じて考古学的な発掘調査も実施し、出土品や検出遺構などから寺院の所在有無や存続時期などを確認していきます。



この事業に関わる情報のご提供やご質問等は下記までお願いします。

山梨県埋蔵文化財センター　資料普及課
〒400-1508 山梨県東八代郡中道町下曽根923
電話:055-266-3016　FAX:055-266-3882
E-mail:maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

山梨県内中世寺院分布調査事業
発行日:平成17年3月31日発行
編　集:山梨県埋蔵文化財センター
発　行:山梨県教育委員会
印　刷:株式会社 少国民社



第３図　事業概要パンフレット

第２章　山梨県内中世寺院の分布

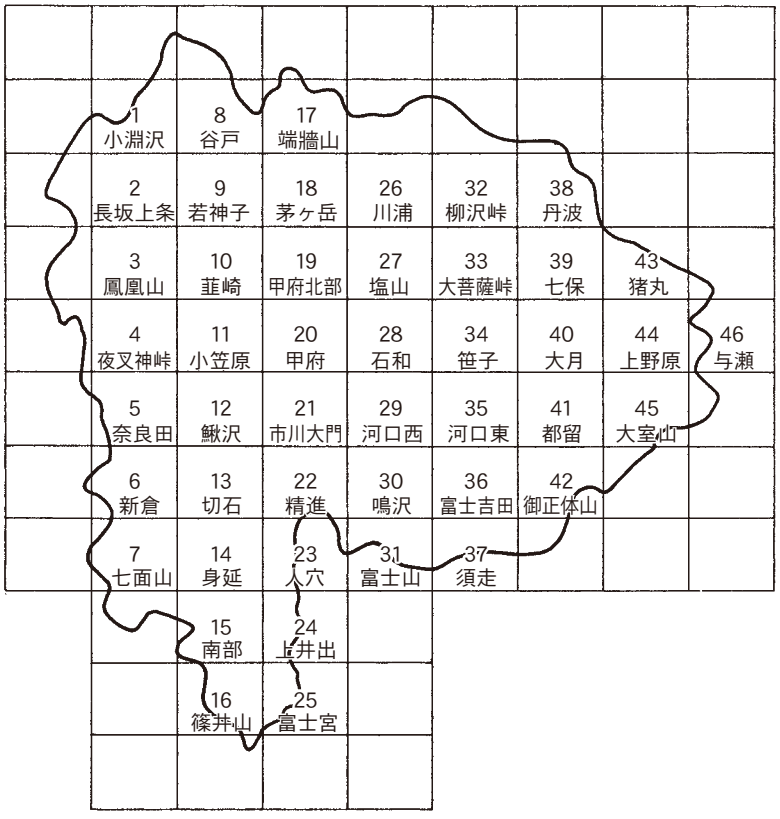
第１節　分布図について

今回の事業では、県内に所在する中世寺院を『甲斐国志』・『甲斐国社記・寺記』に記載されている寺院をベースに、各市町村誌や伝承等を参考としてカード化した。カード化した寺院は 2,819 ヵ寺にのぼる。ただしベースとなった『甲斐国志』「仏寺部」以外の項目に掲載される寺院で、仏寺部に掲載の認められないものや、仏寺部の寺院の項目中の塔頭などは一寺院としてカード化していないものもある。また『甲斐国志』・『甲斐国社記・寺記』の中で、創建年代が不明であるものは中世寺院として加え、創建年代が中世以降であるものでも市町村誌等では前身寺院がある、または考古学的な裏付けがないものは、中世寺院として扱った。

平成 16 年度に分類されたエリア・市町村に従って下記のように個別番号を付した。従って分布図の番号は別添の山梨県内中世寺院データベースの個別番号と一致する。

個別番号　１０　　０１　　００１
（エリア番号）（市町村番号）（寺院番号）

Ａエリア（10）：境川村（01）・八代町（02）・御坂町（03）・一宮町（04）・石和町（05）・春日居町（06）・芦川村（07）
Ｂエリア（20）：甲府市・上九一色村の甲府分（08）・中道町（09）・双葉町（10）・竜王町（11）・敷島町（12）・玉穂町（13）・昭和町（14）
田富町（15）・豊富村（16）
Ｃエリア（30）：塩山市（17）・勝沼町（18）・大和村（19）・山梨市（20）・牧丘町（21）・三富村（22）
Ｄエリア（40）：韮崎市（23）・明野村（24）・須玉町（25）・高根町（26）・長坂町（27）・大泉村（28）・白州町（29）・武川村（30）
小淵沢町（31）
Ｅエリア（50）：八田村（32）・白根町（33）・芦安村（34）・若草町（35）・櫛形町（36）・甲西町（37）
Ｆエリア（60）：増穂町（38）・鰍沢町（39）・下部町（40）・中富町（41）・身延町（42）・南部町（43）・富沢町（44）・早川町（45）
Ｇエリア（70）：三珠町（46）・市川大門町（47）・六郷町（48）
Ｈエリア（80）：富士吉田市（49）・都留市（50）・道志村（51）・西桂町（52）・山中湖村（53）・忍野村（54）・鳴沢村（55）・勝山村（56）
河口湖町と上九一色村の河口湖町分（57）・足和田村（58）
Ｉエリア（90）：大月市（59）・上野原町（60）・秋山村（61）・小菅村（62）・丹波山村（63）



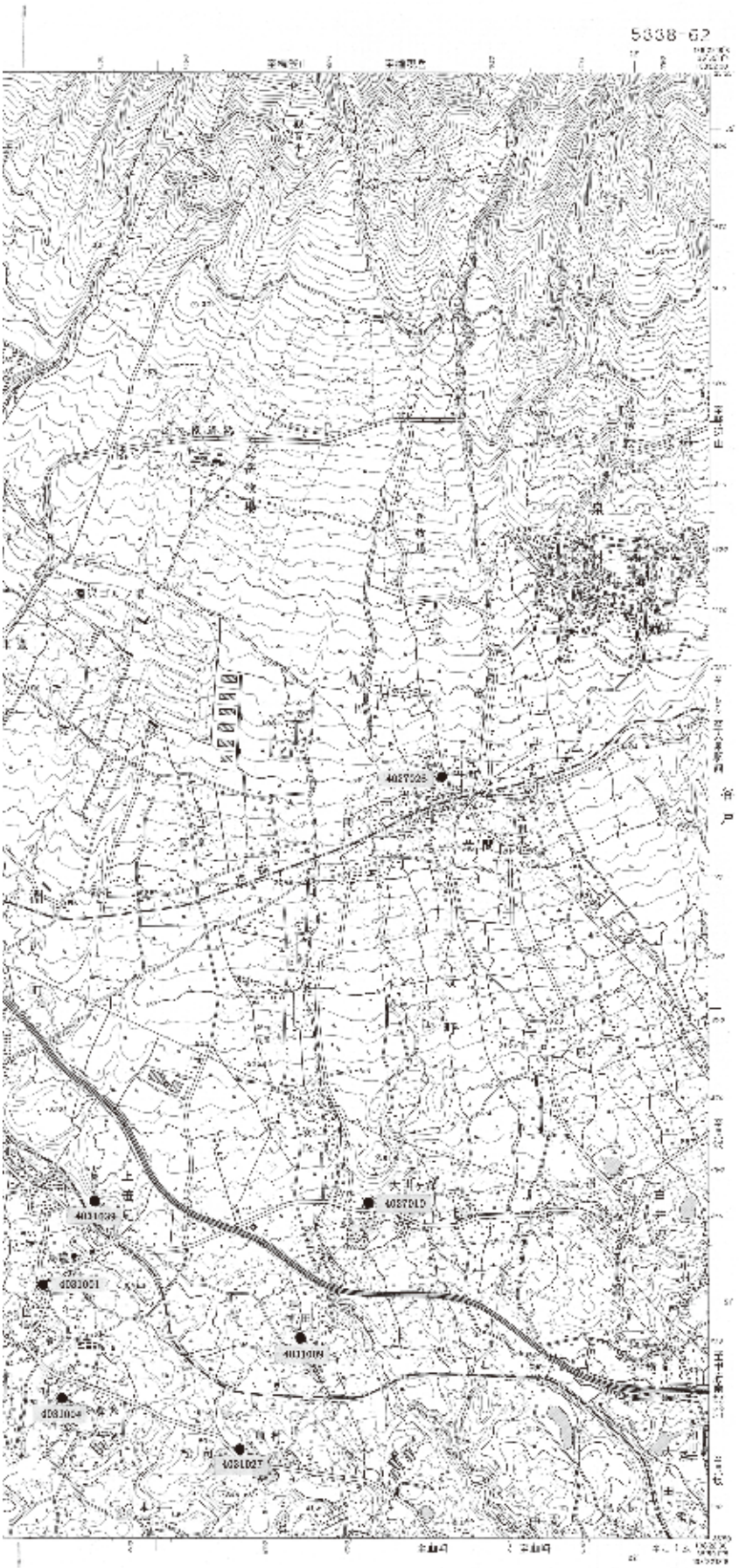
第4図　分布図位置図

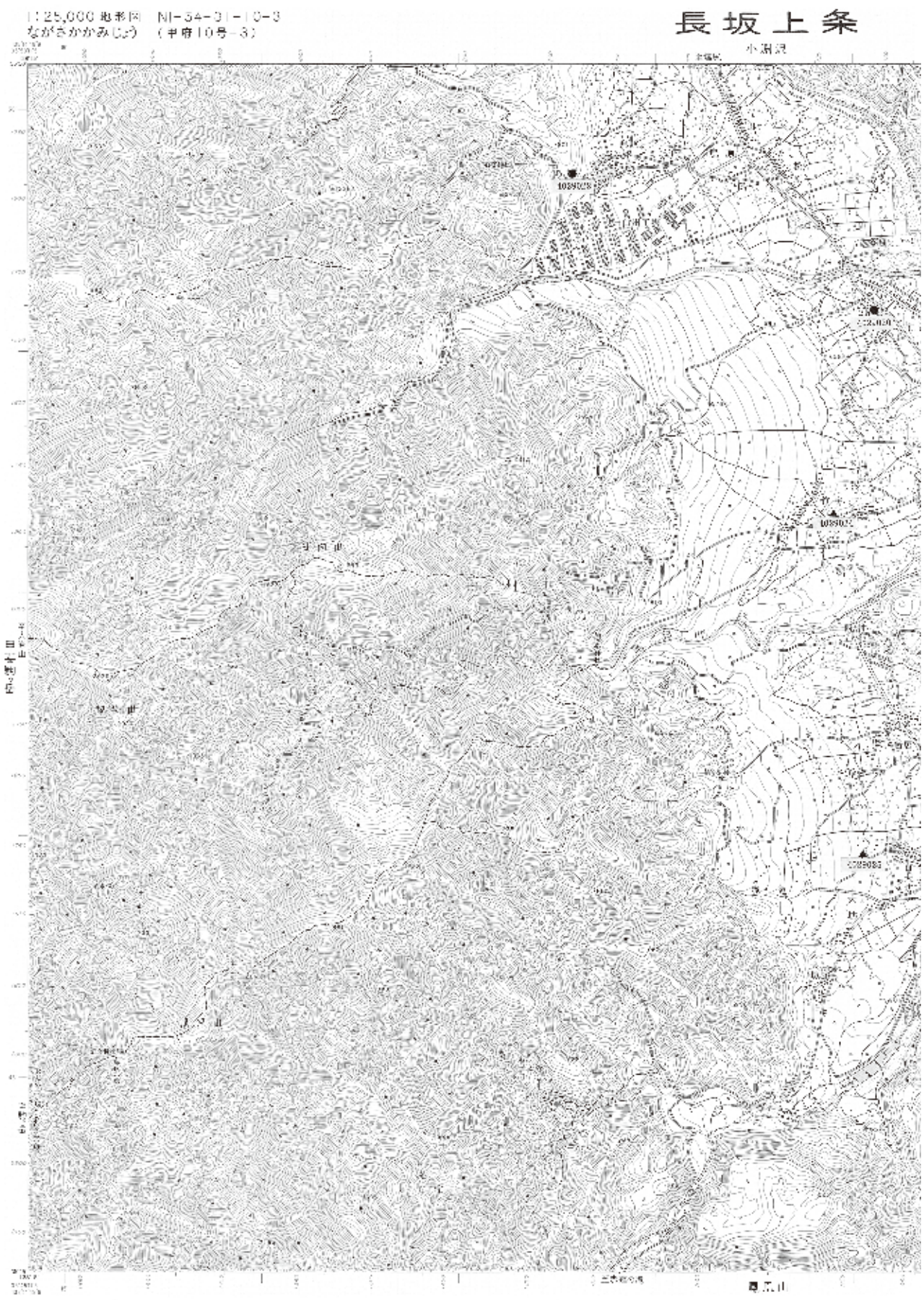
1:25,000地形図 NI-54-31-5-4
こぶちざわ (甲府9号-4)
小 淵 沢
八ヶ岳西部

第5図　分布図1

承認番号　平成20業複　第618号

北杜市（長坂町）
4027010　西方寺
4027026　法昌寺
北杜市（白州町）
4029005　教慶寺
4029023　福泉寺
4029029　来福寺
北杜市（小淵沢町）
4031001　安養寺
4031003　円寿院
4031004　円通寺
4031009　光山
4031012　高福寺
4031017　昌久寺
4031019　正福院
4031026　天沢寺
4031027　東照寺
4031028　福昌院
4031031　宝蔵院
4031035　本学院
4031037　薬王寺
4031039　滝法院




1:25,000 地形図 NI-54-3-[10-3
ながさかかみじょう （甲府10号-3）
長坂上条
小淵沢

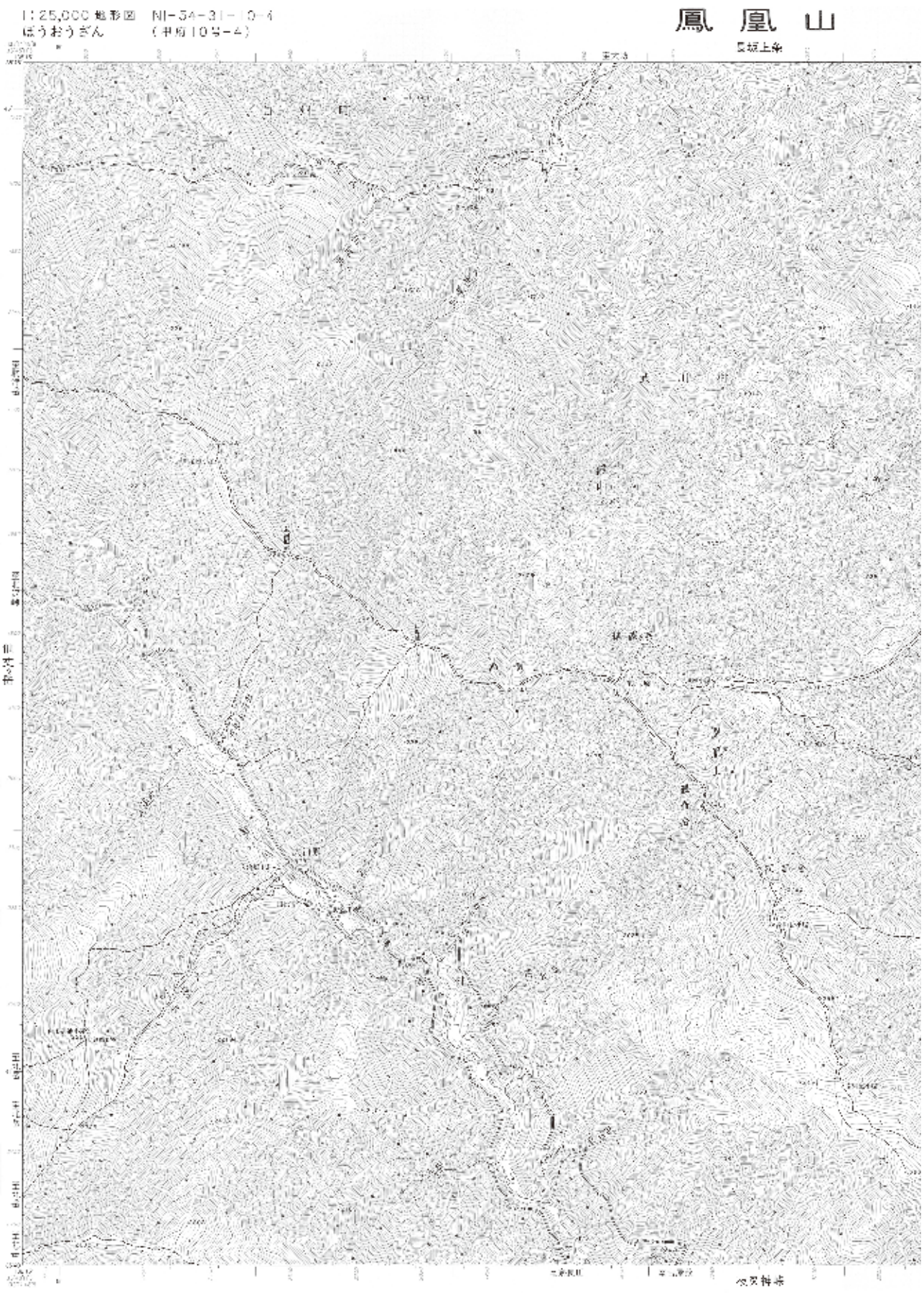
第6図　分布図2

承認番号　平成20業複　第618号

北杜市（長坂町）
4027006　見峯寺
4027027　本源寺
北杜市（白州町）
4029001　安福寺
4029009　自元寺
4029013　清泰寺
4029020　長光寺
4029022　福昌寺
4029024　法全寺
4029025　法輪寺
4029030　竜福寺
4029031　蓮照寺
北杜市（武川村）
4030007　興源寺
4030009　高竜寺
4030010　実相寺
4030011　常運寺
4030013　廃柳沢寺
4030014　万休院
4030021　無量院
北杜市（小淵沢町）
4031014　正因寺
4031029　宝泉院

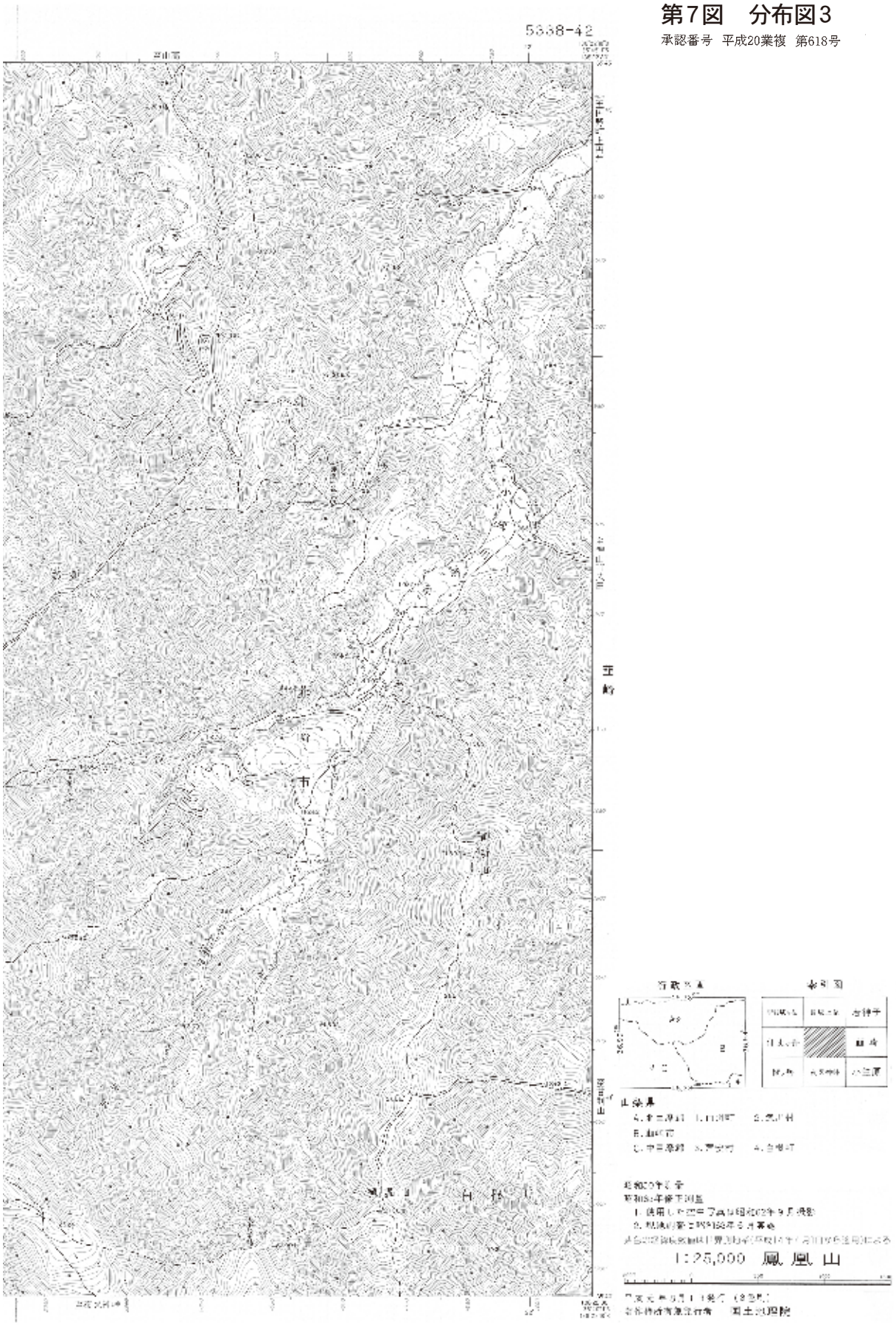
1:25,000 地形図　NI-54-31-10-4
ほうおうざん　（甲府10号-4）

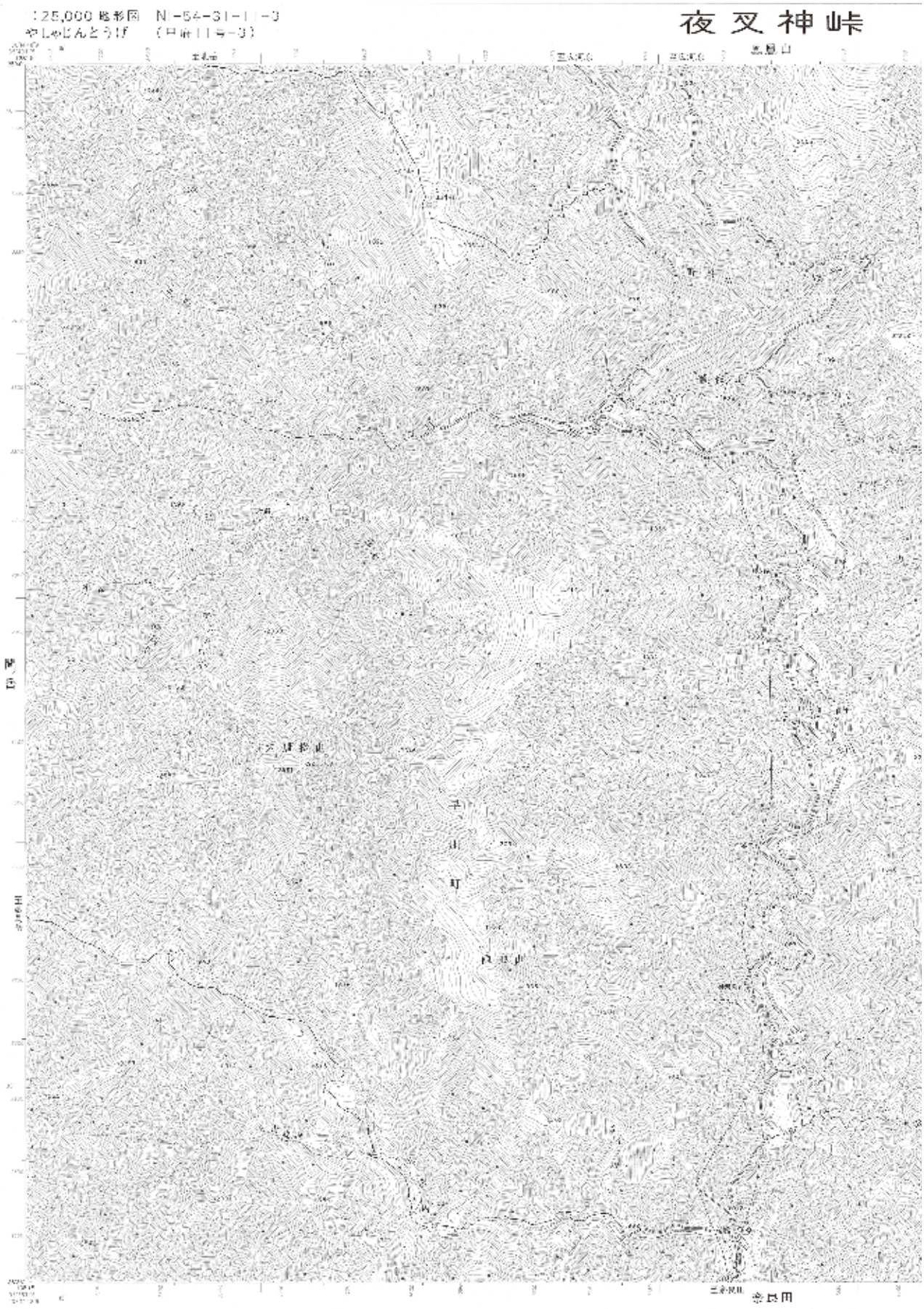
鳳凰山



第7図　分布図3

承認番号　平成20業複　第618号

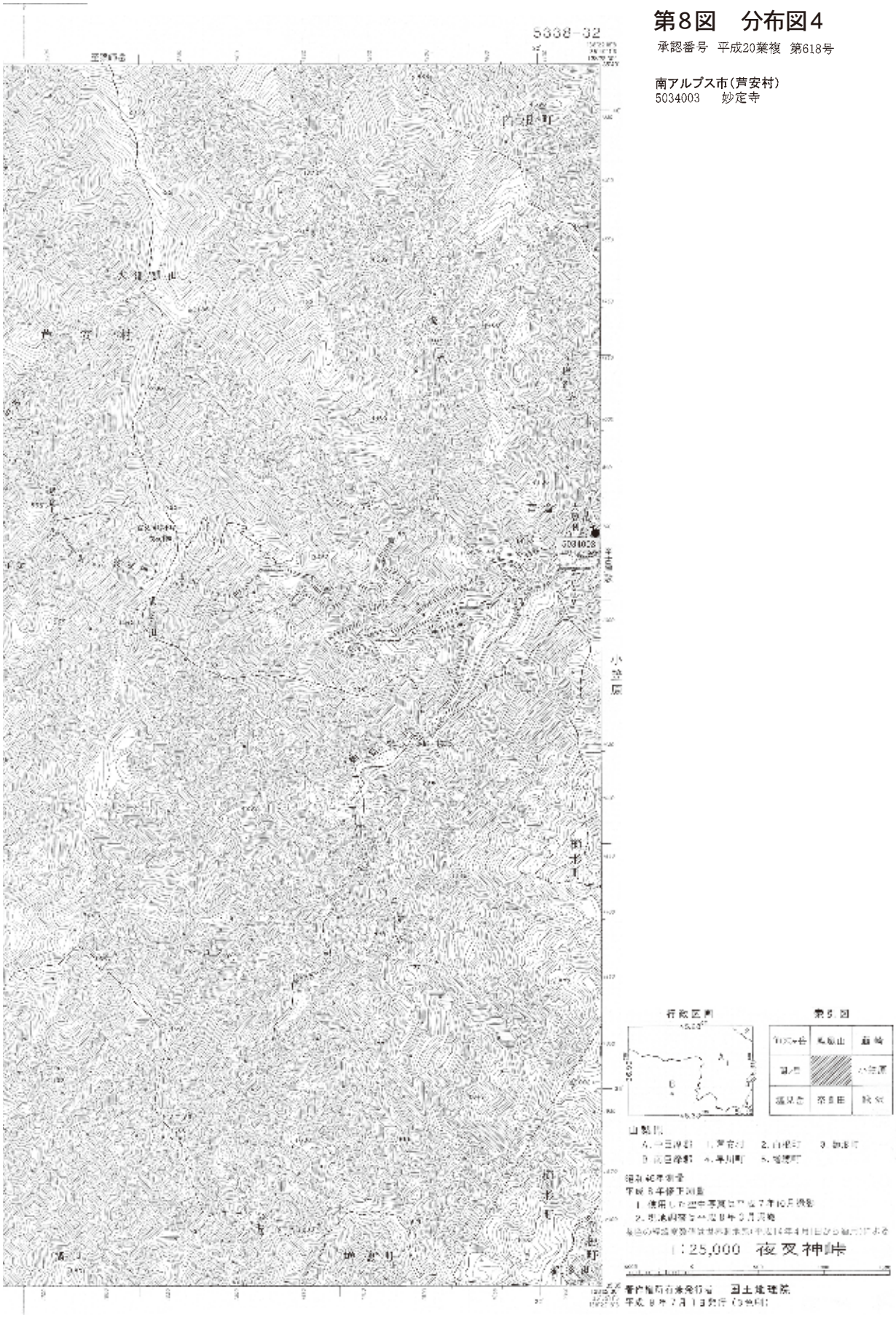


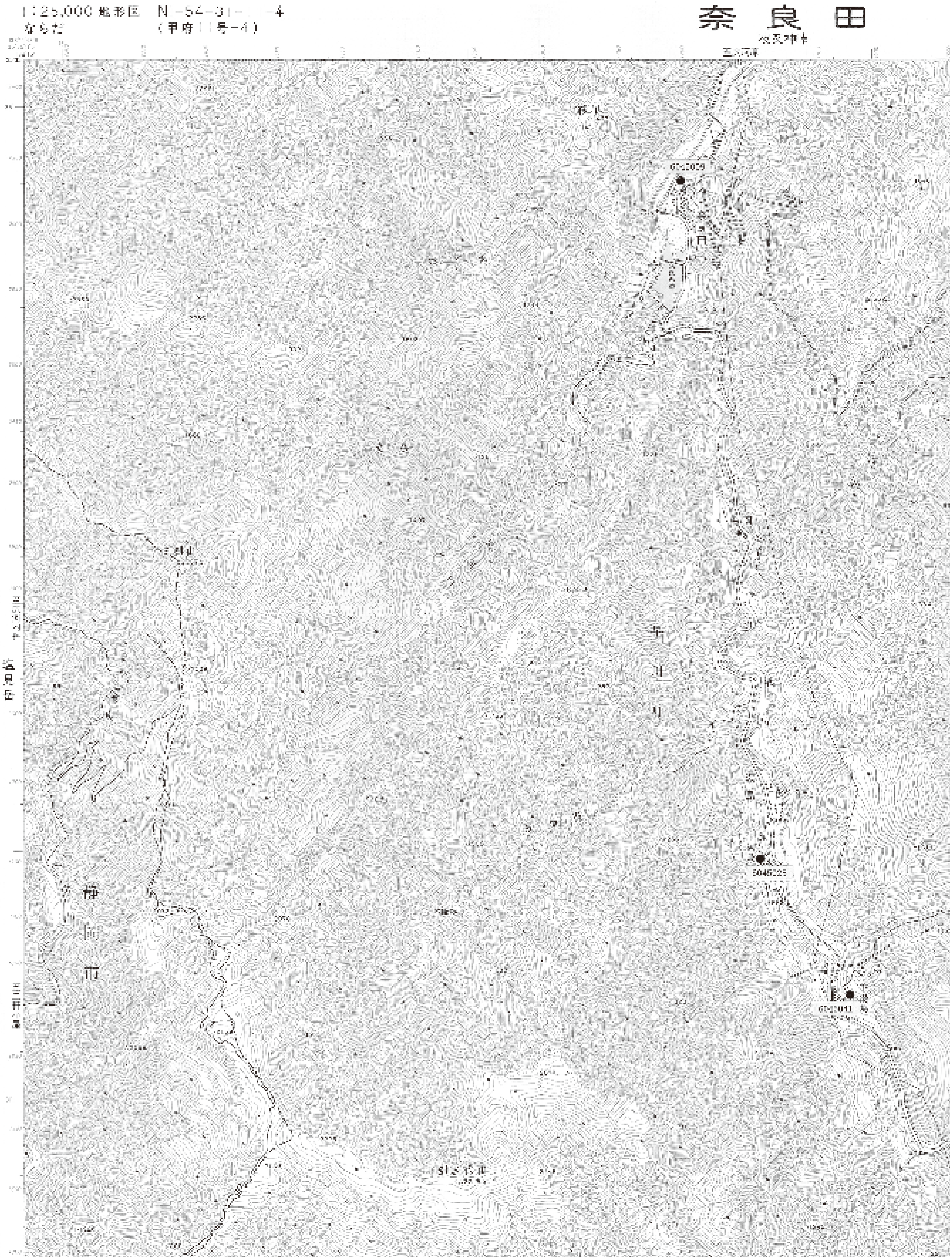

1:25,000 地形図　N-54-31-(1)-3
やしゃじんとうげ　(平成11年-3)
夜叉神峠

第8図　分布図4

承認番号　平成20業複　第618号

南アルプス市（芦安村）
5034003　妙定寺

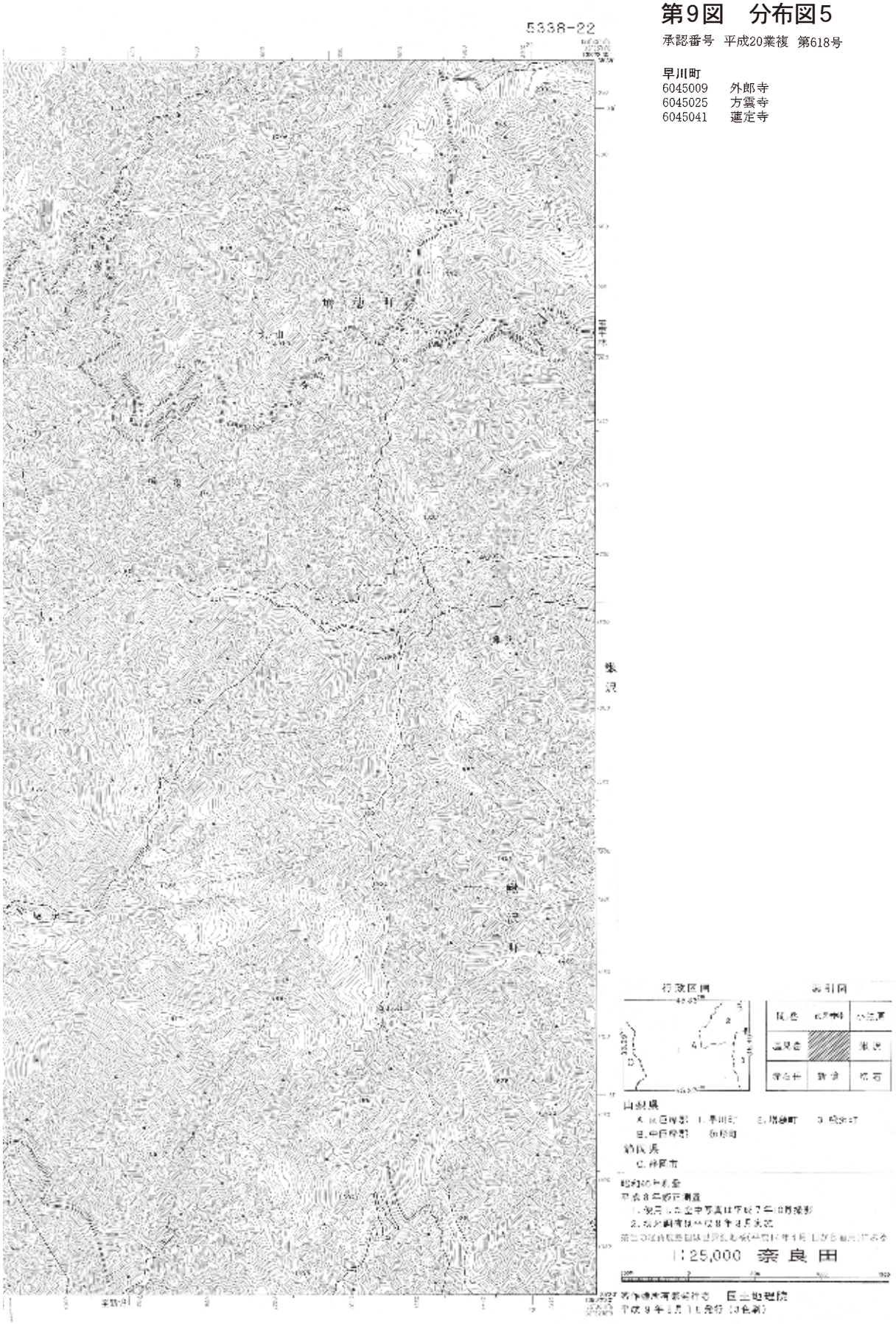



1:25,000 地形図 N-54-31-…-4
ならだ
（甲府11号-4）
奈 良 田

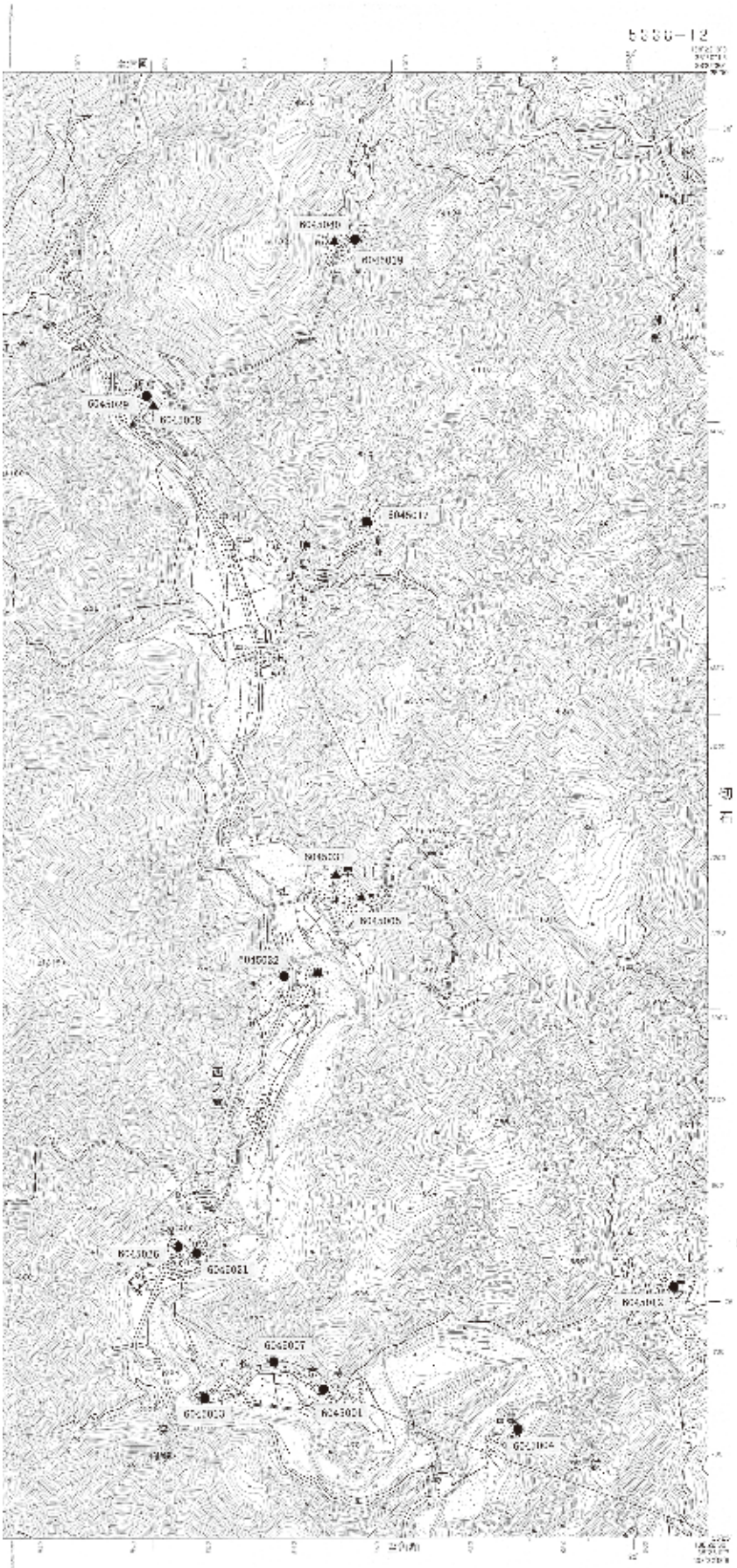
第9図　分布図5

承認番号　平成20業複　第618号

早川町
6045009　外郎寺
6045025　方雲寺
6045041　蓮定寺



1:25,000 地形図 NI-54-31-12-3
あらくら (甲府12号-3)
新 倉
奈良田
七面山

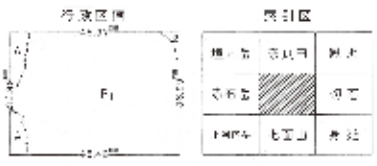


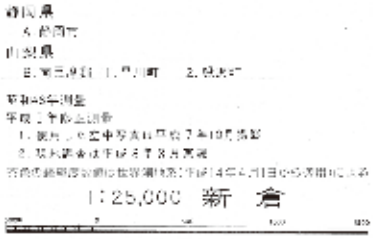
第10図　分布図6

承認番号　平成20業複　第618号

早川町

6045001	常昌院
6045004	浄蓮寺
6045005	真妙寺
6045007	宗伝寺
6045008	大祀院
6045012	塩上寺
6045013	円通院
6045017	建長寺
6045019	西方寺
6045021	朝晨庵
6045026	宝乗寺
6045029	法善寺
6045031	抱明院
6045032	宝竜寺
6045040	妙蓮寺





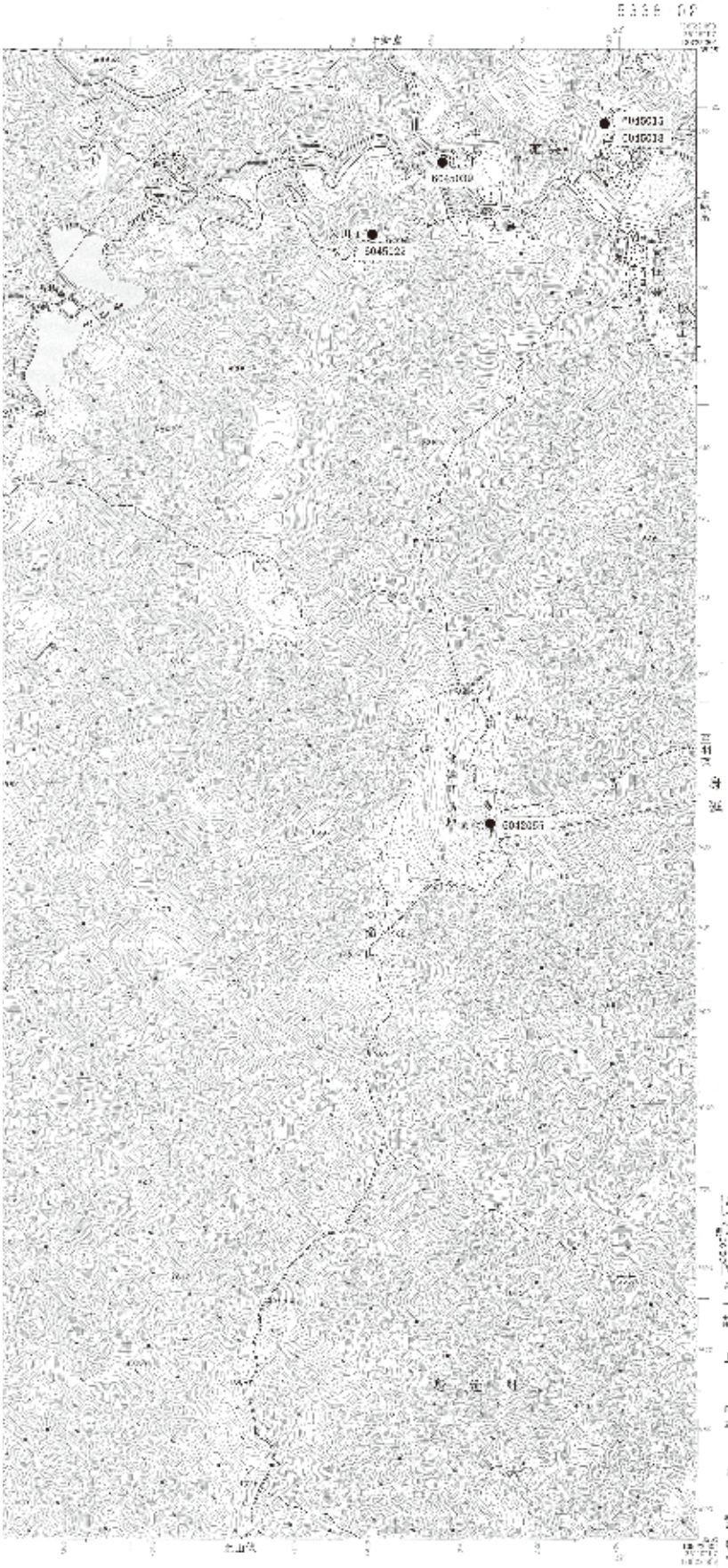
1:25,000　新倉

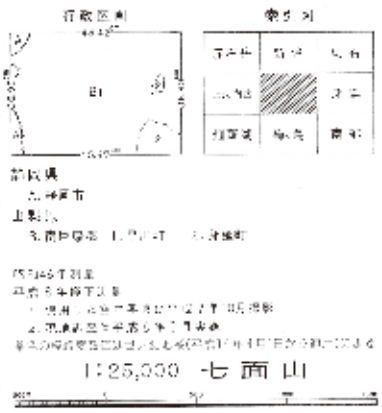
1:25,000 地形図 NI-54-3 - 2-4
しちめんざん (三宿 2号-4)
七面山
静岡市
静岡市

第11図　分布図7

承認番号　平成20業複　第618号

身延町
6042055　敬慎院
早川町
6045003　正徳寺
6045015　円立寺
6045018　西光寺
6045022　長徳寺
6045023　東陽寺
6045039　妙法寺



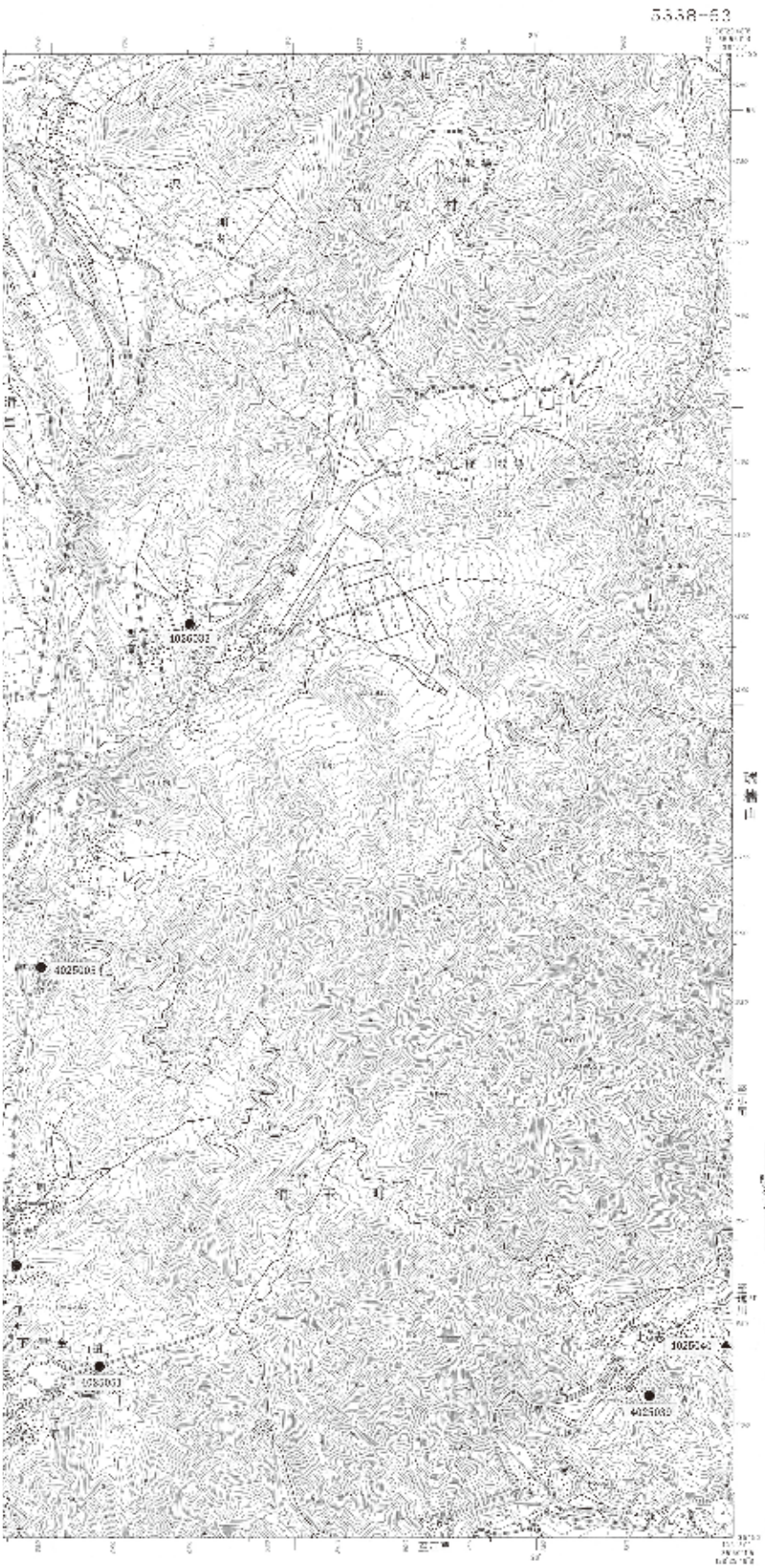


1:25,000 地形図　NI-54-31-9-2
やと　（甲府9号-2）

谷　戸

第12図　分布図8

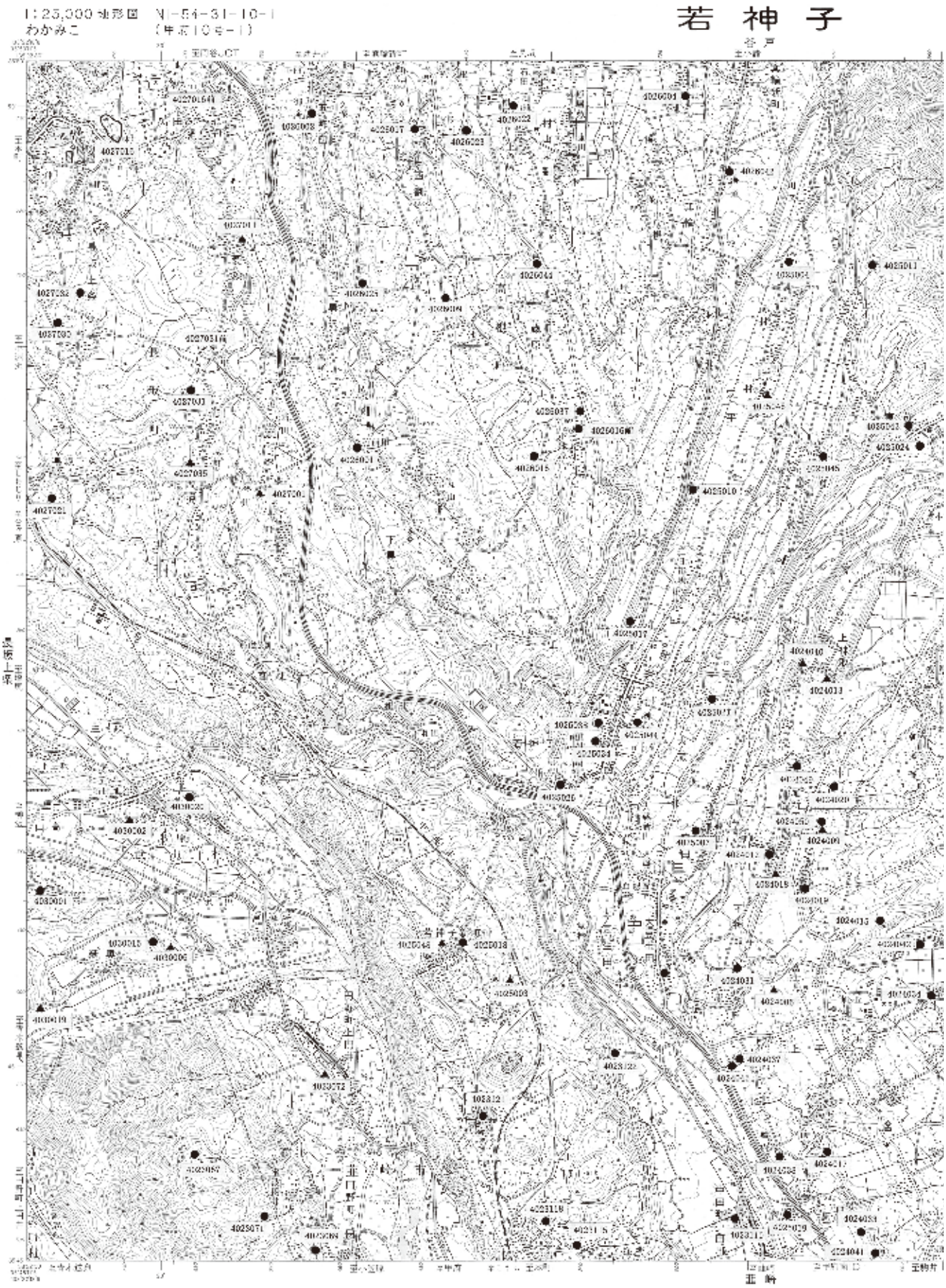
承認番号　平成20業複　第618号



北杜市(須玉町)
4025005　海岸寺
4025037　東泉院
4025039　徳泉寺
4025040　如意寺
4025051　養泉院
北杜市(高根町)
4026006　玉正院
4026008　光村寺
4026012　金剛院
4026014　祥雲寺
4026019　真鏡寺
4026024　大蔵寺
4026028　長谷院
4026030　長沢寺
4026031　東泉軒
4026033　不動寺
4026040　本応院
4026045　霊応寺
北杜市(長坂町)
4027014　声閒寺
4027016(前)　清光寺
4027028　妙喜院
4027033　竜沢寺
北杜市(大泉町)
4028001　安楽寺
4028005　観音寺
4028006　上行寺
4028009　道喜院

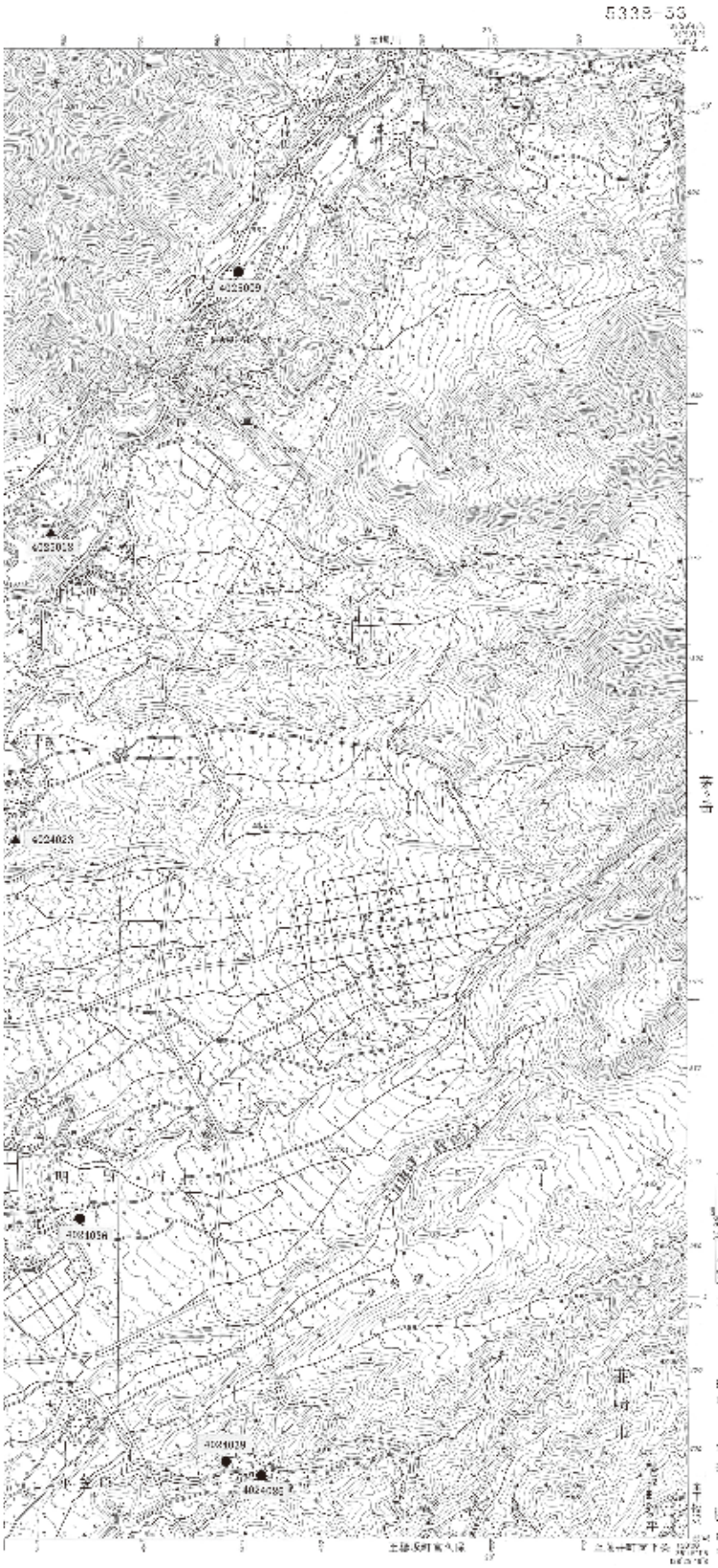
1:25,000 地形図　NI-54-31-10-1
わかみこ　（甲府10号-1）

若神子



第13図　分布図9

承認番号　平成20業複　第618号



韮崎市

4023067　宗泉院
4023069　法雲寺
4023071　竜珠院
4023072　妙浄寺
4023110　万松寺
4023115　慈眼寺
4023118　泉竜寺
4023121　福泉寺
4023122　満福寺

北杜市(明野村)

4024004　観音寺
4024006　源昌寺
4024009　金剛寺
4024012　充円寺
4024013　勝永寺
4024015　浄居寺
4024017　浄林寺
4024018　清普寺
4024019　清涼院
4024020　石塔庵
4024023　大福寺
4024026　西福寺
4024031　大林寺
4024033　長清寺
4024034　長泉寺
4024036　長竜寺
4024037　洞雲寺
4024038　東泉寺
4024039　繁昌寺
4024040　毘沙門堂
4024041　福性院
4024042　普門寺
4024045　宝前寺
4024049　妙覚寺
4024050　薬王寺

北杜市(須玉町)

4025003　円通院
4025004　遠照寺
4025007　顕光寺
4025009　見性寺
4025010　見明寺
4025011　見本寺
4025012　光厳寺
4025017　正覚寺
4025018　正行寺
4025019　昌福寺
4025021　少林寺
4025024　信光寺
4025026　誓福寺
4025034　長泉寺
4025038　東漸寺
4025043　法道寺
4025044　妙円寺
4025045　妙観寺
4025046　無量軒
4025048　門長寺

北杜市(高根町)

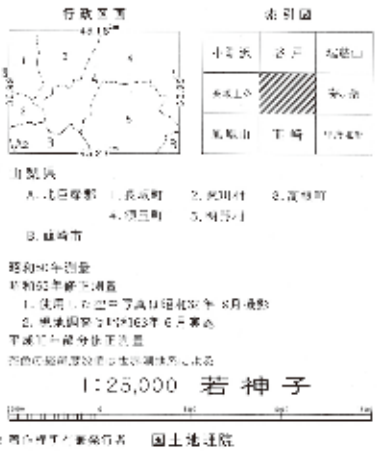
4026001　延寿院
4026002　円受院
4026004　起雲軒
4026009　広徳寺
4026016　浄光寺
4026016（前）浄光寺
4026017　昌照寺
4026022　全福寺
4026023　泉竜寺
4026025　大蔵寺
4026037　宝原寺
4026042　養福寺
4026044　竜体寺

北杜市(長坂町)

4027001　円浄寺
4027011　慈眼院
4027016　清光寺
4027016（前）清光寺
4027021　長昌院
4027030　妙要寺
4027031　妙林寺
4027031（前）妙林寺
4027032　竜岸寺
4027035　蓮成寺

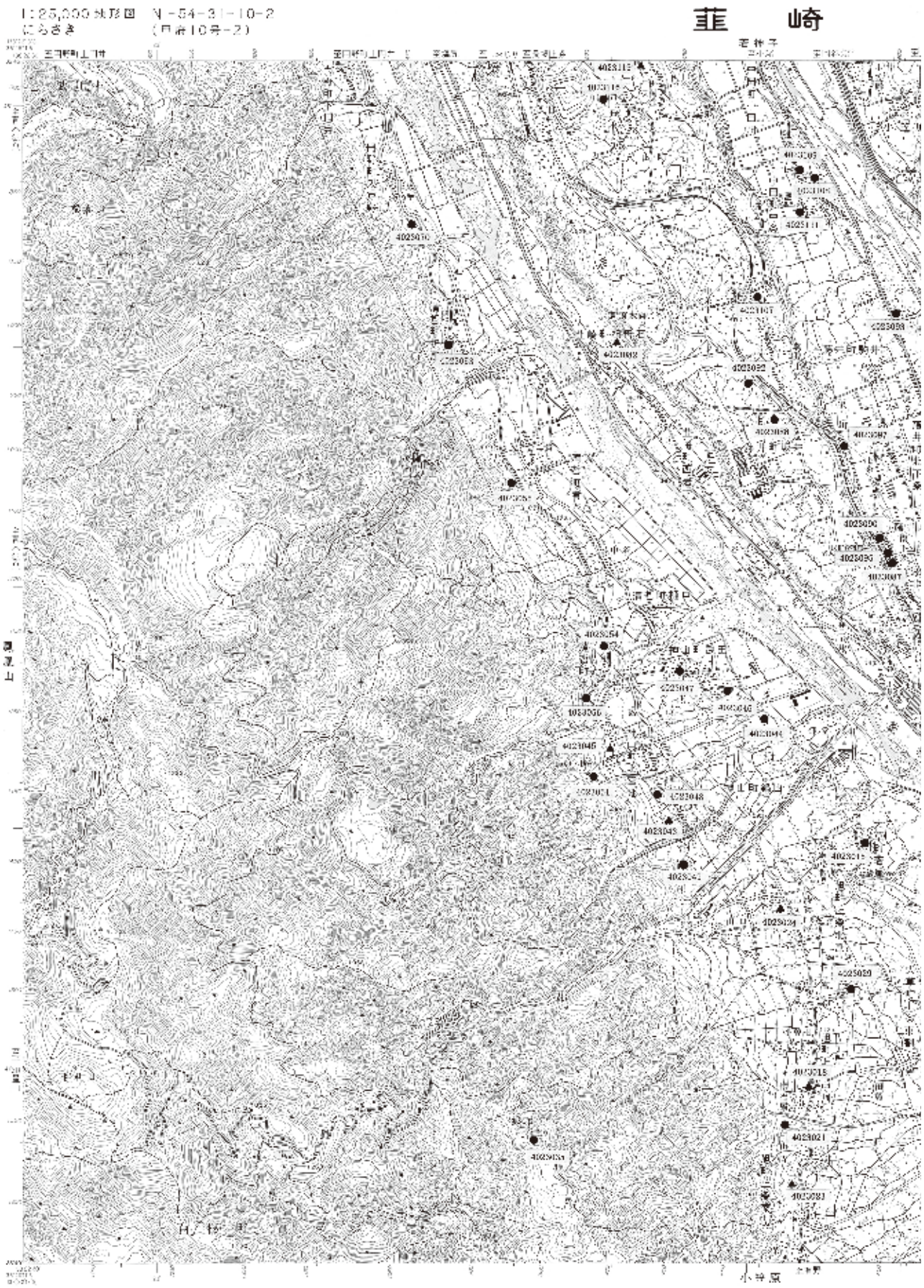
北杜市(武川村)

4030001　円通寺
4030002　延宝院
4030006　江原院
4030015　普光寺
4030019　宝前院
4030020　本法寺



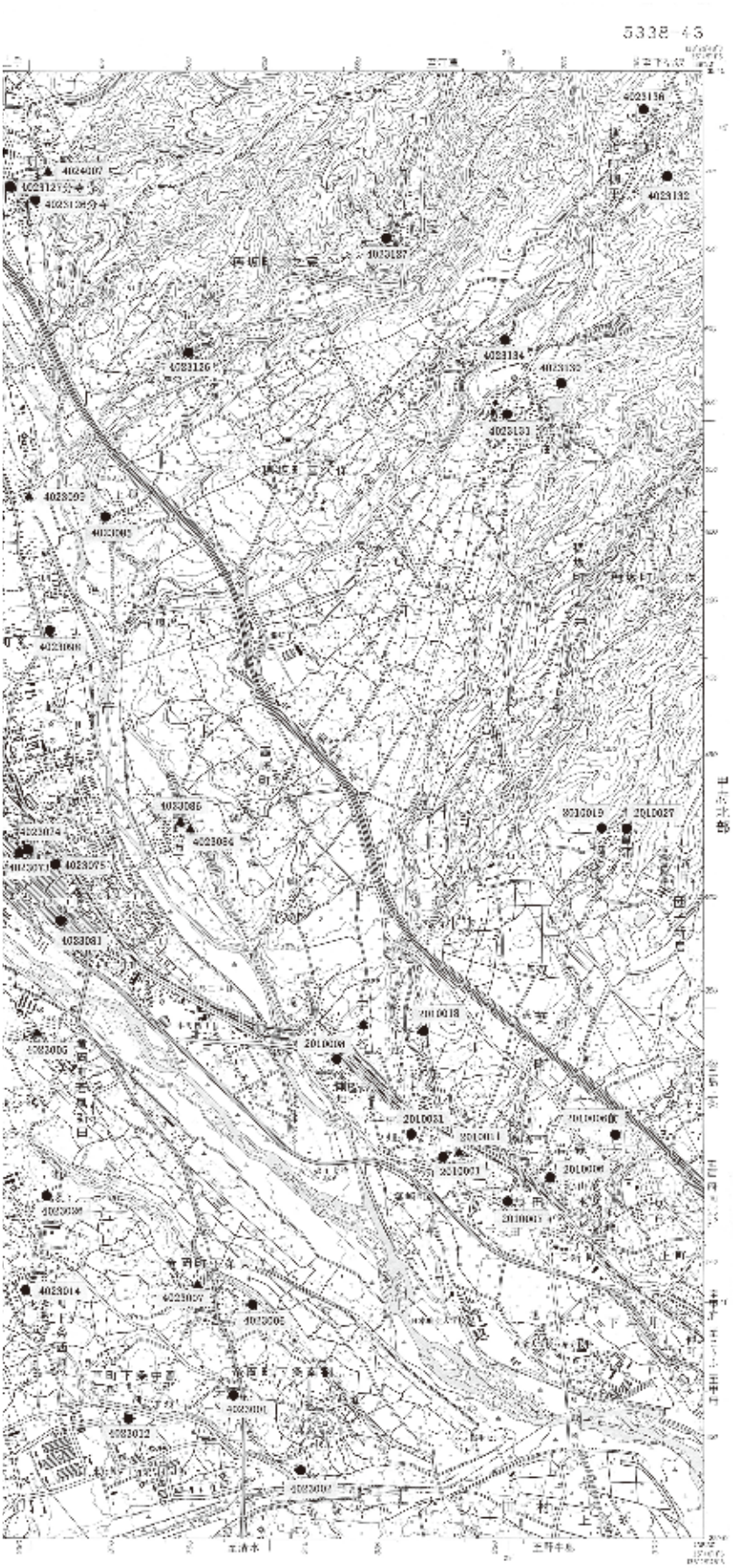
1:25,000 地形図　N-54-31-10-2
にらさき　（甲府10号-2）

韮　崎



第14図　分布図10

承認番号　平成20業複　第618号



甲斐市（双葉町）

2010001	往生院
2010006	光照寺
2010006（前）	光照寺
2010007	興禅寺
2010008	金剛寺
2010011	地蔵院
2010018	法喜院
2010019	法泉寺
2010021	妙善寺
2010027	三光院

韮崎市

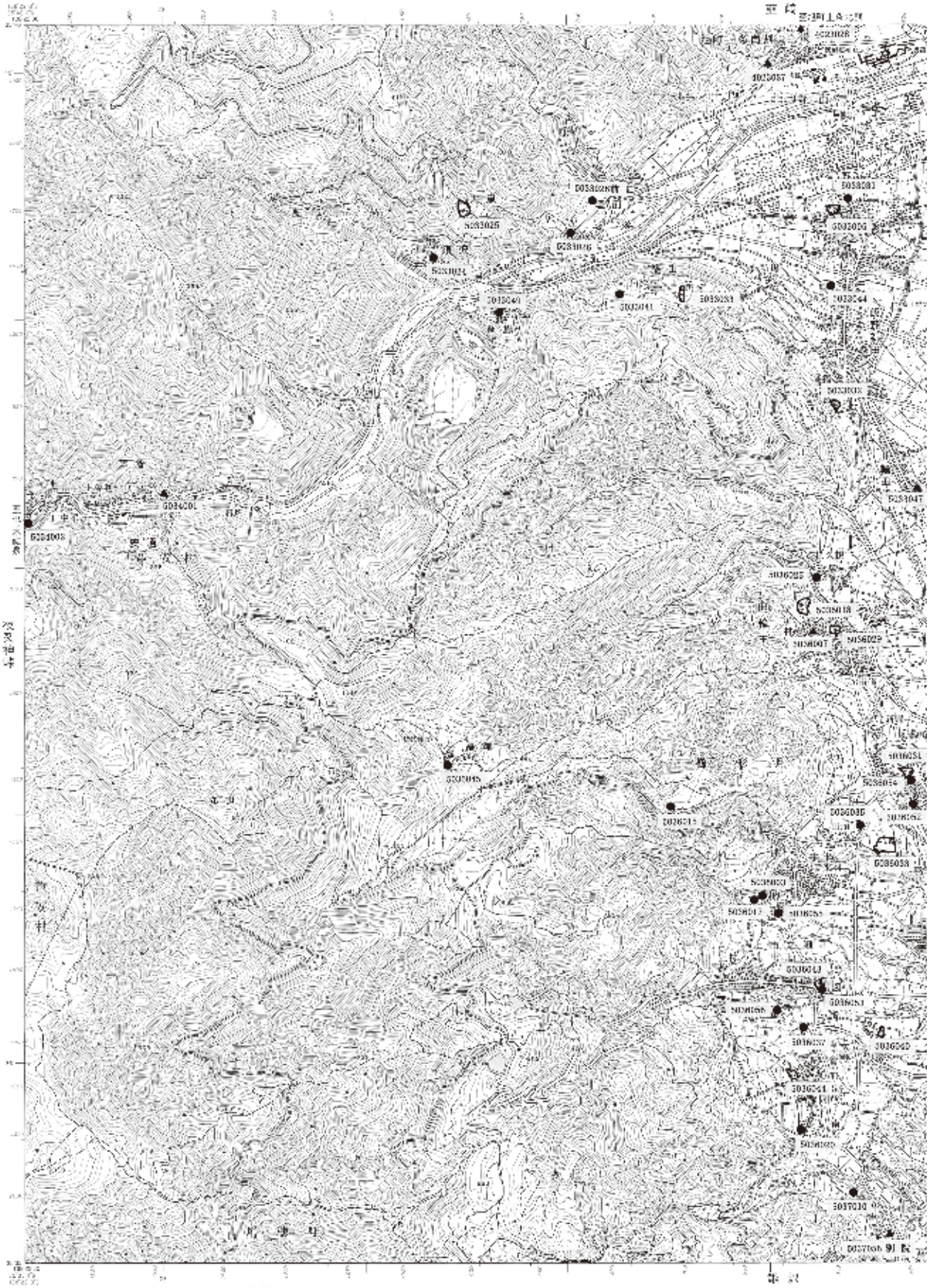
4023001	宗源寺
4023002	大聖寺
4023005	法伝寺
4023006	本照寺
4023007	蓮照寺
4023012	東光寺
4023014	永岳寺
4023015	正福寺
4023018	観音寺
4023021	大公寺
4023023	福寿院
4023024	永明院
4023026	教林寺
4023029	大輪寺
4023035	宝生寺
4023043	安養軒
4023044	願成寺
4023045	玉宝寺
4023046	城角寺
4023047	泉勝院
4023048	大慈寺
4023049	廃竜厳寺
4023051	神宮寺
4023053	雨宮寺
4023054	広福院
4023055	常光寺
4023056	普門寺
4023070	宝蔵寺
4023073	雲岸寺
4023074	穴観音
4023075	蔵前院
4023081	大蓮寺
4023082	城前寺
4023084	慈眼寺
4023085	福昌院
4023086	本領院
4023087	安昌寺
4023088	延命寺
4023090	見徳寺
4023092	光明寺
4023093	極楽寺
4023095	三光寺
4023097	慈法院
4023098	昌安寺
4023099	盛徳院
4023107	恩昌寺
4023108	松雲寺
4023109	昌福寺
4023111	光台寺
4023116	城源院
4023119	長安寺
4023126	東福院
4023127	宝積寺
4023130	慈眼院
4023131	沢蔵院
4023132	東光寺
4023134	法泉院
4023136	金剛寺

北杜市（明野村）

4023126（分）	東福院
4023127（分）	宝積寺
4024007	公案寺

1:25,000 地形図　NI-54-31-11-1
おがさわら　（甲府11号-1）

小笠原



第15図　分布図11

承認番号　平成20業複　第618号

韮崎市
4023027　昌善寺
4023028　浄蓮寺
4023081（前）大蓮寺

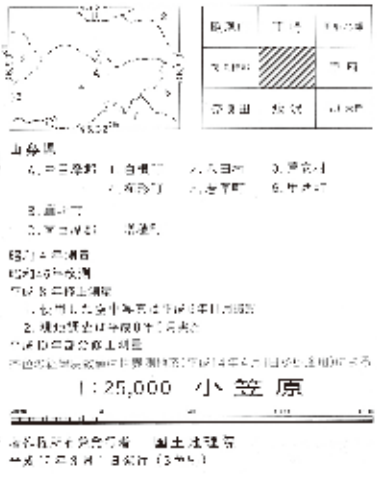
南アルプス市（八田村）
5032001　医泉寺
5032002　円覚寺
5032003　光昌院
5032004　広照寺
5032005　成就庵
5032006　昌重院
5032007　随心院
5032008　盛徳院
5032010　仲道院
5032011　長谷寺
5032012　長盛院
5032013　長泉寺
5032014　桃岳院
5032015　福昌院
5032016　豊光寺

南アルプス市（白根町）
5033001　円通寺
5033005　行善寺
5033009　久本寺
5033011　慈眼寺
5033012　持地院
5033015　秋月院
5033016　殊勝院
5033017　昌庵院
5033019　浄修院
5033021　常楽寺
5033024　善道院
5033025　善応寺
5033026　善養院
5033026（前）善養院
5033027　蔵福院
5033028　大城寺
5033029　長久寺
5033031　長福寺
5033032　福王寺
5033033　普済寺
5033035　宝珠院
5033037　本隆寺
5033039　妙善寺
5033040　妙長寺
5033041　無了寺
5033042　薬王寺
5033043　養福院
5033044　了円寺
5033045　隆厳院
5033046　隆昌寺
5033047　竜洞寺
5033049　蓮行寺
5033051　大日庵
5033052　長円庵

南アルプス市（芦安村）
5034001　光明寺
5034002　大宝寺

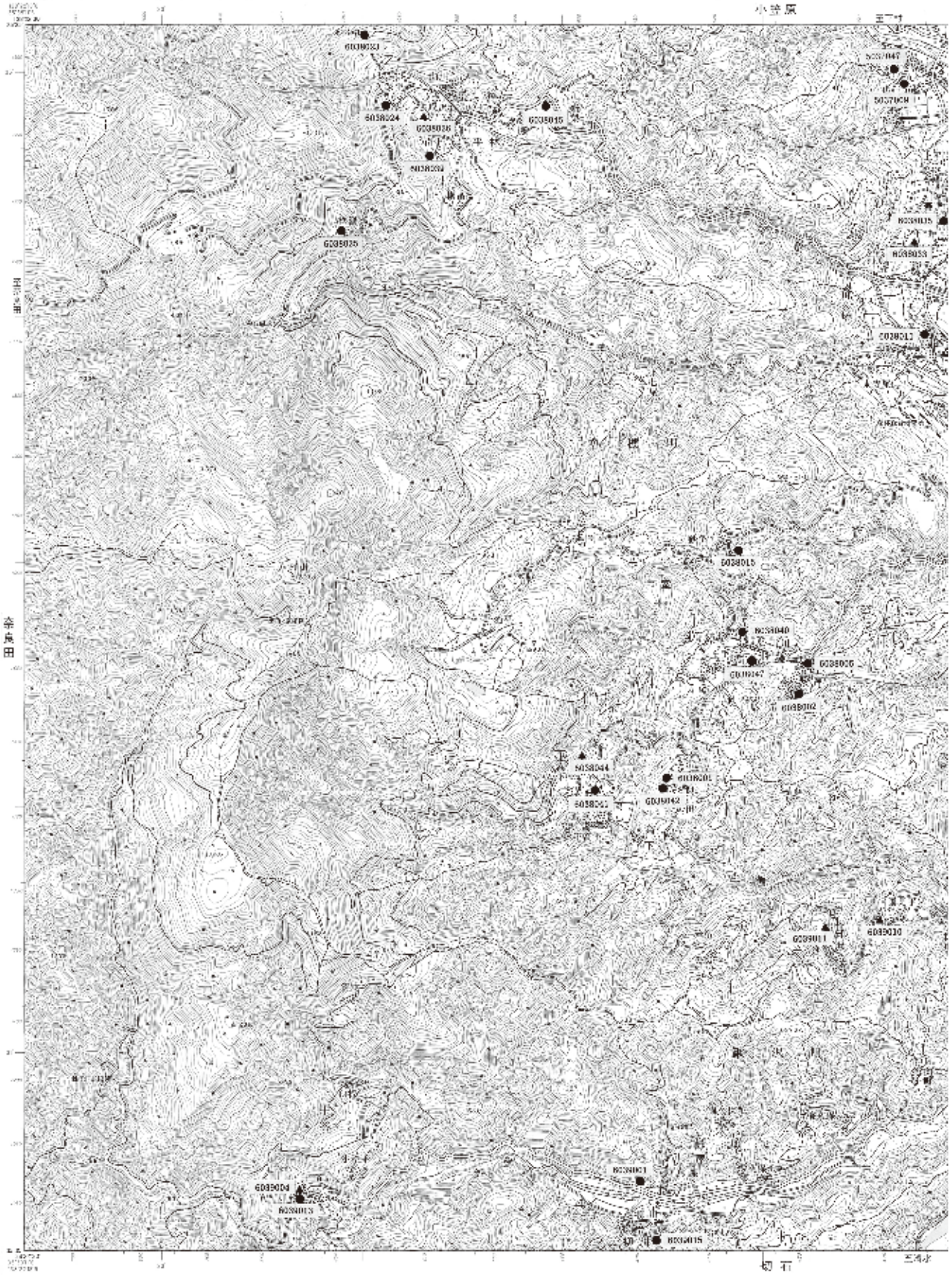
南アルプス市（若草町）
5035001　安養寺
5035002　円通院
5035004　行善寺
5035006　慶昌院
5035007　実成寺
5035008　長遠寺
5035011　泉能寺
5035013　道昌寺
5035014　藤田寺
5035015　法善寺
5035015　塔頭
5035016　法幢院
5035017　本覚寺
5035018　妙遠寺
5035019　明行寺
5035022　養春院
5035023　隆円寺
5035024　霊運坊
5035025　福寿院

南アルプス市（櫛形町）
5036003　雨法寺
5036004　雲耕院
5036006　円妙庵
5036007　円宝寺
5036009　久円寺
5036010　久成寺
5036013　顕信坊
5036014　源然寺
5036015　耕雲寺
5036016　興隆院
5036017　金剛院
5036018　西光寺
5036020　常仙寺
5036021　常泰寺
5036022　昌福院
5036024　昌隆寺
5036025　清源寺
5036026　善徳院
5036027　蔵珠院
5036028　宗林寺
5036029　大慈庵
5036031　長昌院
5036032　長明寺
5036033　伝嗣院
5036034　廃曹源寺
5036035　富向院
5036037　法久寺
5036038　法源寺
5036039　宝珠寺
5036040　本重寺
5036041　宝泉院
5036042　妙経寺
5036043　妙了寺
5036044　妙行寺
5036045　文殊寺
5036046　竜光院
5036047　竜泉院
5036048　竜沢寺
5036049　林応寺
5036050　蓮経寺
5036051　蓮法院
5036052　潮照庵
5036053　本宗院
5036054　薬師堂
5036055　阿弥陀堂



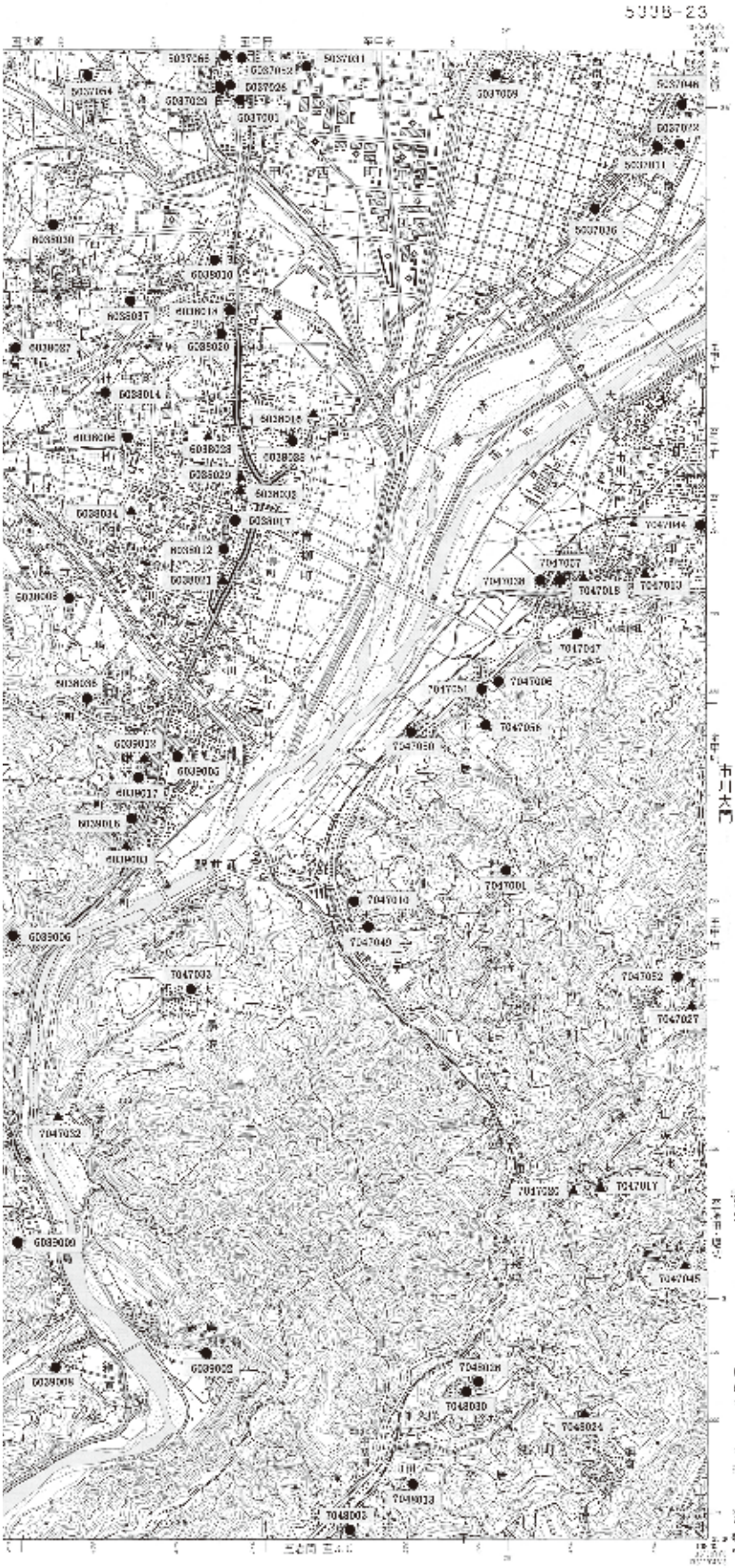
1:25,000 地形図　NI-54-31-11-2
かじかざわ　（甲府11号-2）

鰍　沢



第16図　分布図12

承認番号　平成20業複　第618号



南アルプス市（甲西町）

5037001	阿弥陀寺
5037009	光昌寺
5037011	光善寺
5037022	松岩院
5037026	常泉寺
5037029	成妙寺
5037031	深向院
5037036	長久寺
5037046	法玄寺
5037047	法光寺
5037052	法泉寺
5037054	法善寺
5037059	妙善寺
5037066	隆善寺

増穂町

6038001	延寿寺
6038002	玉全寺
6038005	懸腰寺
6038006	幸栖寺
6038008	最勝寺
6038010	上行寺
6038011	常泉寺
6038012	昌福寺
6038014	真浄寺
6038015	甚遠寺
6038016	盛善寺
6038017	青柳寺
6038018	善国寺
6038020	善住寺
6038021	善応寺
6038023	鷹尾寺
6038024	長命寺
6038025	徳楽寺
6038026	徳林寺
6038027	南明寺
6038028	法界寺
6038029	法久寺
6038030	法寿寺
6038032	法長寺
6038033	宝林寺
6038034	本浄寺
6038035	明王寺
6038036	妙性寺
6038037	妙諸寺
6038038	妙善寺
6038039	妙題寺
6038040	妙法寺
6038041	妙祐寺
6038042	妙楽寺
6038044	妙林寺
6038045	隆運寺
6038047	久成院

鰍沢町

6039001	永立寺
6039002	円応寺
6039003	感応寺
6039004	久真院
6039005	経王寺
6039006	西光寺
6039008	本能寺
6039009	妙現寺
6039010	妙成寺
6039011	妙森寺
6039012	妙台寺
6039013	妙長寺
6039015	柳川寺
6039016	蓮久寺
6039017	蓮花寺

市川三郷町（市川大門町）

7047001	永盛寺
7047006	華台寺
7047010	宮沢寺
7047013	源昌寺
7047017	西安寺
7047018	西光寺
7047020	寺明庵
7047027	清養寺
7047032	相延寺
7047033	大増寺
7047038	長生寺
7047044	宝聚寺
7047045	法受寺
7047047	宝幢寺
7047049	妙学寺
7047050	妙浄寺
7047051	妙増寺
7047052	妙伝寺
7047056	竜仙院
7047057	流通寺

市川三郷町（六郷町）

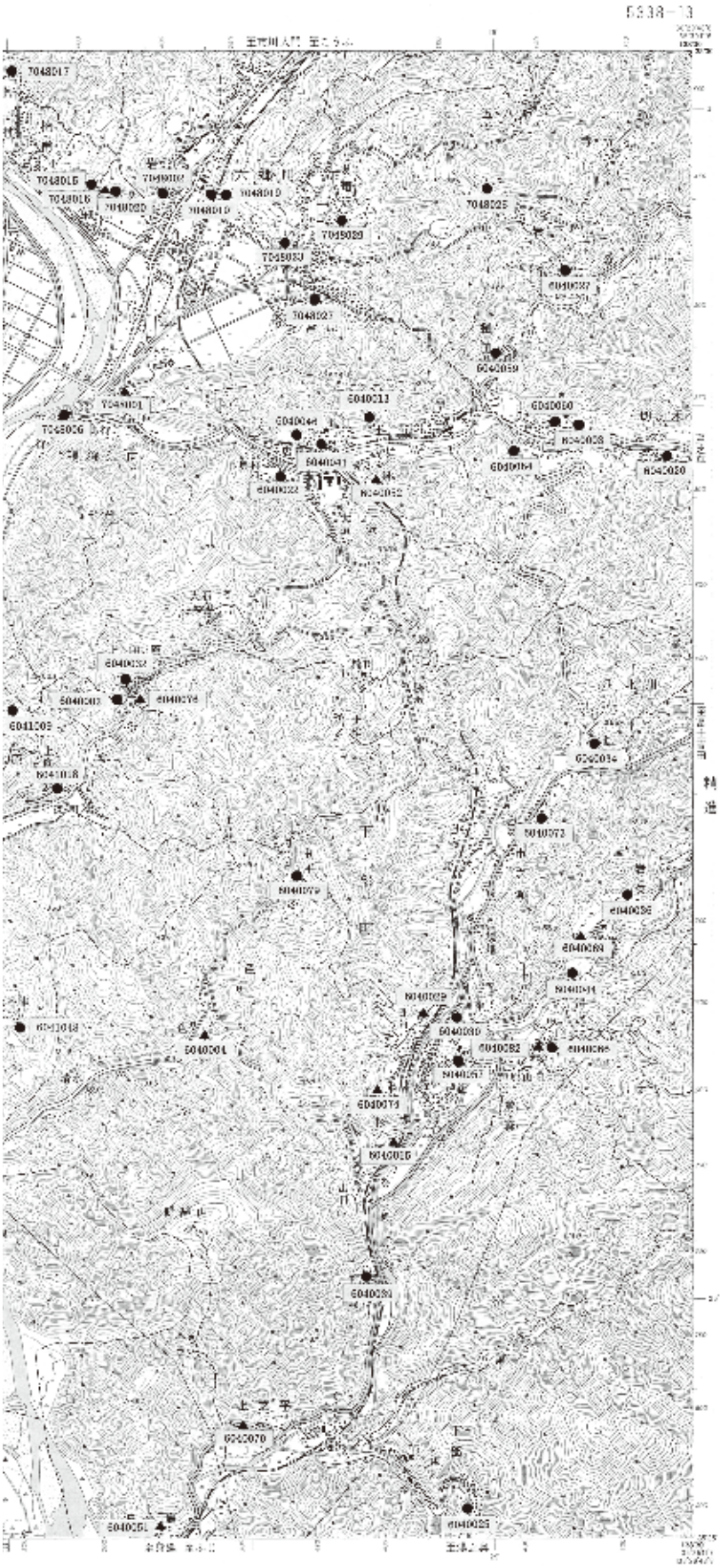
7048003	光岳寺
7048013	浄善寺
7048024	普蔵院
7048026	本照寺
7048030	妙蓮寺

1:25,000 地形図　NI-54-31-12-1
きりいし　（甲府12号-1）

切　石

第17図　分布図13

承認番号　平成20業複　第618号



身延町(下部町)

6040002	永明院
6040003	延命院
6040004	願光院
6040013	光沢寺
6040015	幸林寺
6040020	西方寺
6040022	地閑庵
6040025	慈照院
6040027	住安寺
6040029	正因寺
6040030	常幸院
6040032	成就院
6040034	正福寺
6040036	常法寺
6040039	慈量院
6040041	瑞応寺
6040044	清沢寺
6040046	祖師堂
6040051	大竜寺
6040052	長松院
6040057	東前寺
6040059	廃不遠庵
6040060	白泉院
6040064	法円寺
6040066	宝光寺
6040069	法蔵寺
6040070	法林寺
6040073	妙円寺
6040074	明珠院
6040076	無量寺
6040079	陽光院
6040082	竜沢寺

身延町(中富町)

6041001	永久寺
6041002	栄宝寺
6041003	円久寺
6041004	円光寺
6041005	円通寺
6041006	円妙寺
6041007	円明寺
6041009	向旭院
6041010	広禅院
6041011	西光寺
6041012	慈眼寺
6041013	慈照寺
6041014	長遠寺
6041015	常嶽寺
6041017	正伝寺
6041018	盛安寺
6041019	常楽寺
6041020	清原院
6041020 (前)	清原院
6041021	千光庵
6041022	仙応寺
6041023	善妙寺

身延町(中富町)

6041024	大塩寺
6041024 (前)	大塩寺
6041025	太心坊
6041026	大聖寺
6041027	長源寺
6041028	東泉寺
6041029	日輪寺
6041030	如意庵
6041031	福寿院
6041032	普明寺
6041033	法永寺
6041034	法月坊
6041035	法向寺
6041036	宝積寺
6041037	宝珠院
6041038	宝泉寺
6041039	本成寺
6041040	妙光寺
6041041	妙光寺
6041042	妙泉寺
6041043	妙善坊
6041044	妙伝寺
6041045	妙蓮寺
6041046	薬王寺
6041047	薬王寺
6041048	蓮宗寺
6041049	明沢寺
6041050	堂昌堂
6041051	春陽堂

身延町

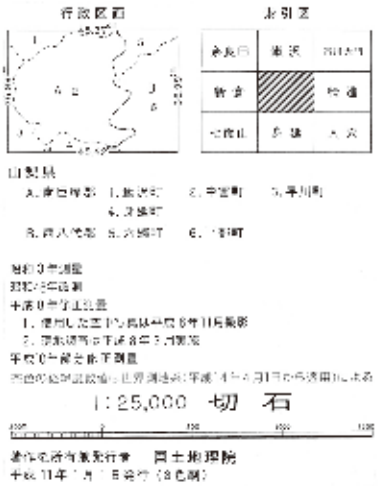
6042001	一円寺
6042013	正運坊
6042017 (前)	上沢寺
6042022	宗光寺
6042040 (前)	本国寺

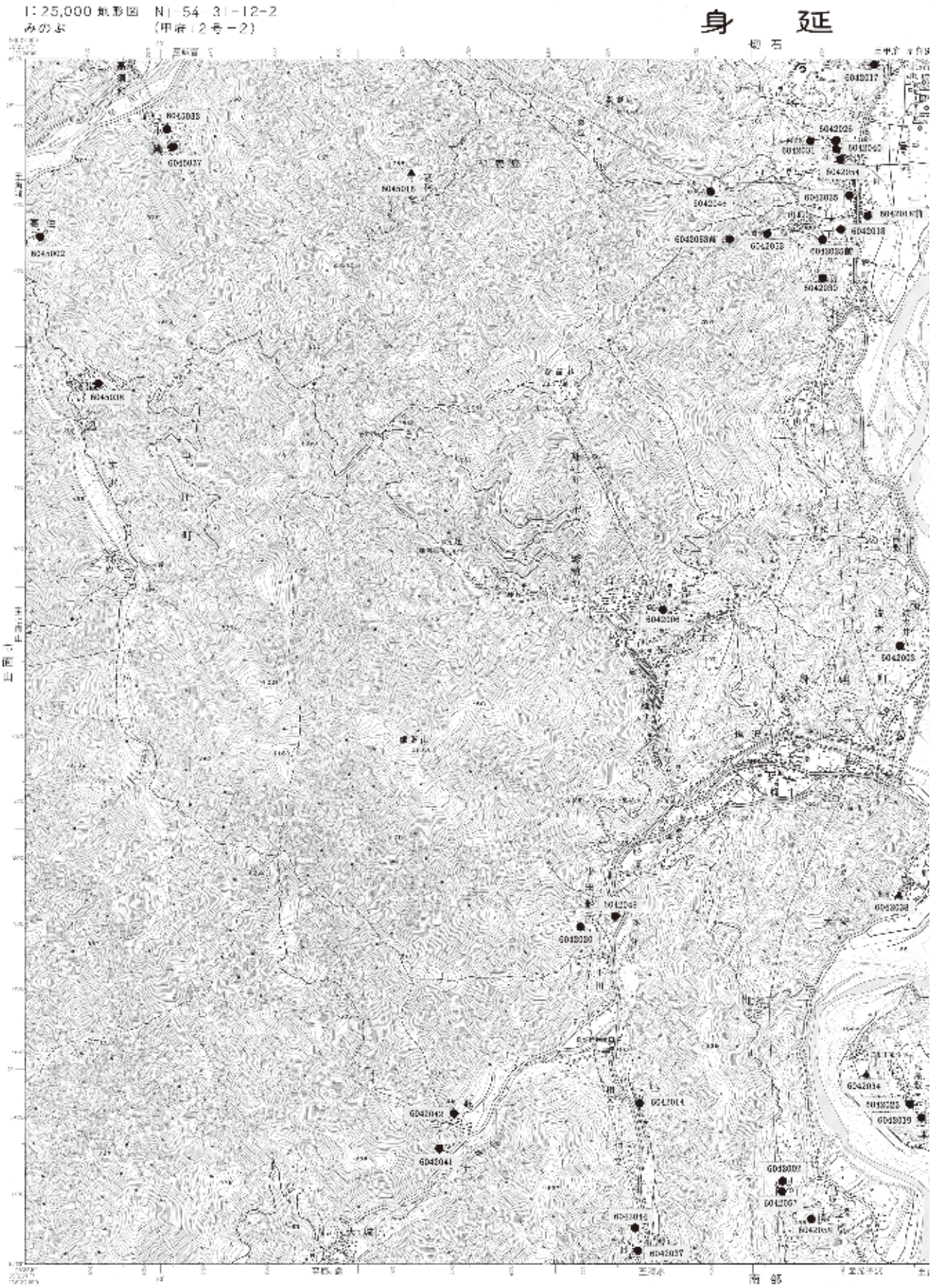
早川町

6045010	雲外寺
6045014	円立寺
6045020	上橋寺
6045027	法真寺
6045028	法泉寺
6045034	本妙寺
6045035	本証寺

市川三郷町(六郷町)

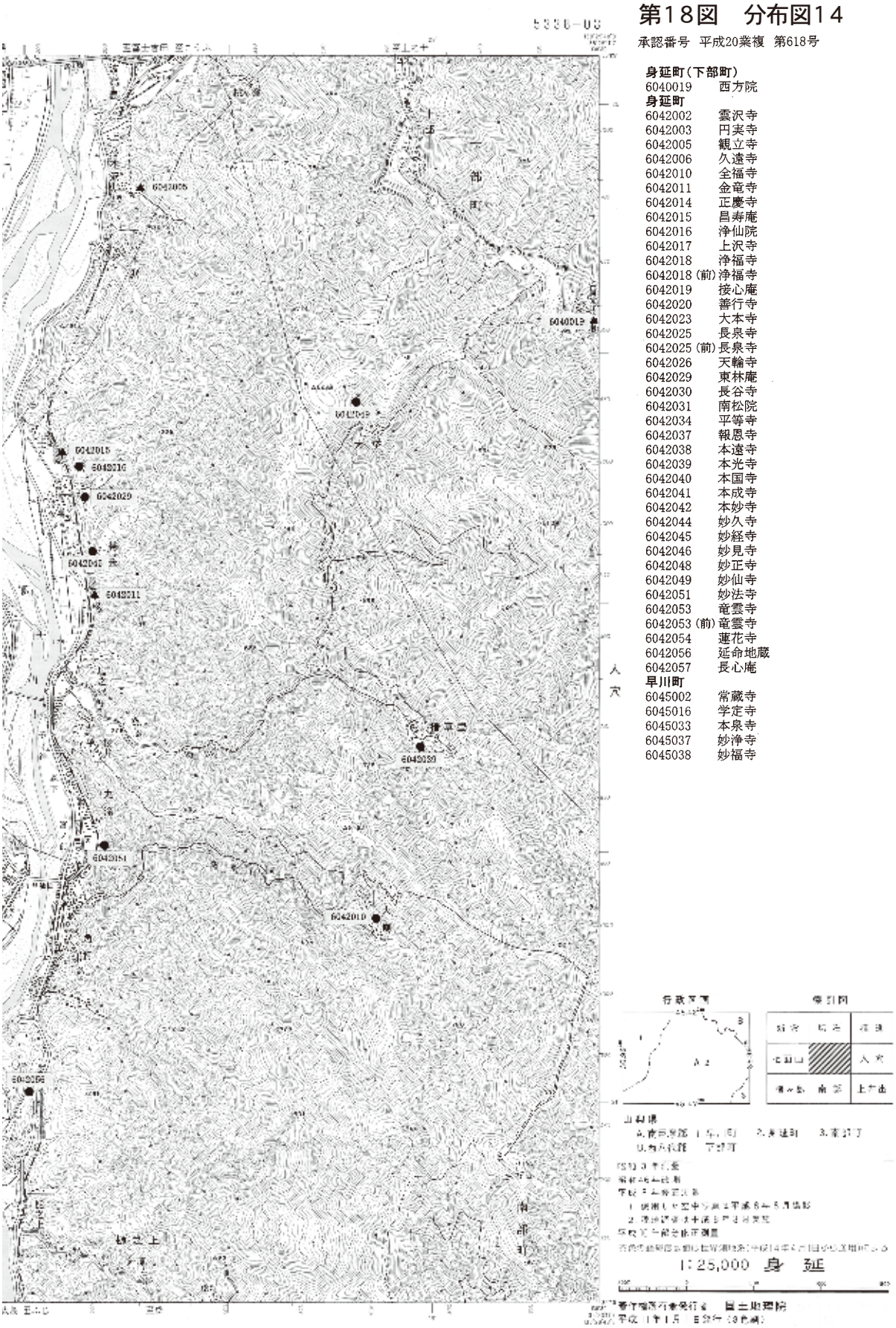
7048001	永昌寺
7048002	岳雲院
7048006	高前寺
7048010	昌寿院
7048015	定林寺
7048016	随岸寺
7048017	善応寺
7048019	大乗寺
7048020	大仙寺
7048023	東陽院
7048025	宝珠院
7048027	本定寺
7048029	妙現寺




1:25,000 地形図 N(-54-3(-12-2
みのぶ (甲府(2号-2)
身 延
切石
南部

第18図　分布図14

承認番号　平成20業複　第618号



身延町（下部町）

6040019　西方院

身延町

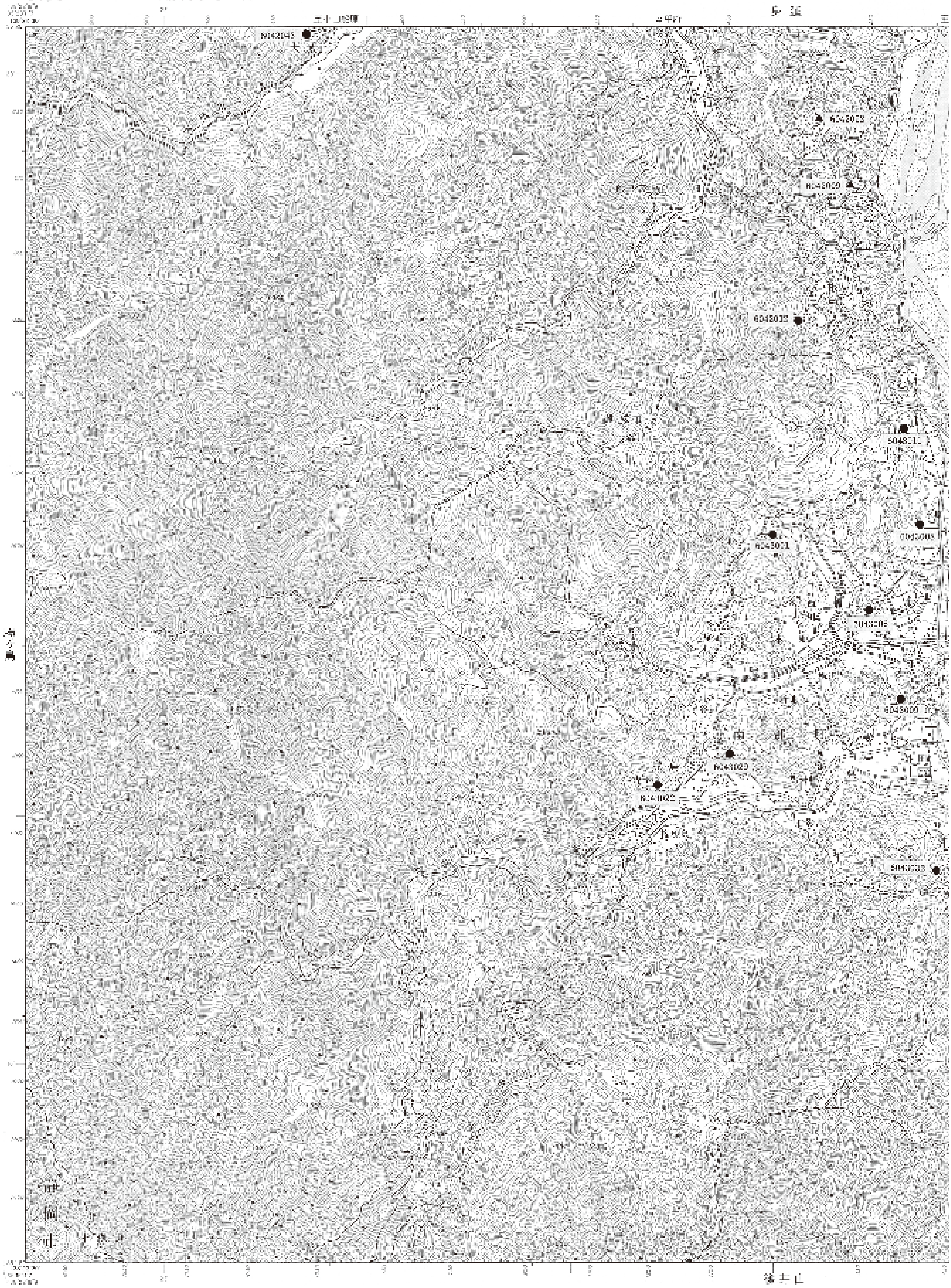
6042002　雲沢寺
6042003　円実寺
6042005　観立寺
6042006　久遠寺
6042010　全福寺
6042011　金竜寺
6042014　正慶寺
6042015　昌寿庵
6042016　浄仙院
6042017　上沢寺
6042018　浄福寺
6042018（前）浄福寺
6042019　接心庵
6042020　善行寺
6042023　大本寺
6042025　長泉寺
6042025（前）長泉寺
6042026　天輪寺
6042029　東林庵
6042030　長谷寺
6042031　南松院
6042034　平等寺
6042037　報恩寺
6042038　本遠寺
6042039　本光寺
6042040　本国寺
6042041　本成寺
6042042　本妙寺
6042044　妙久寺
6042045　妙経寺
6042046　妙見寺
6042048　妙正寺
6042049　妙仙寺
6042051　妙法寺
6042053　竜雲寺
6042053（前）竜雲寺
6042054　蓮花寺
6042056　延命地蔵
6042057　長心庵

早川町

6045002　常蔵寺
6045016　学定寺
6045033　本泉寺
6045037　妙浄寺
6045038　妙福寺

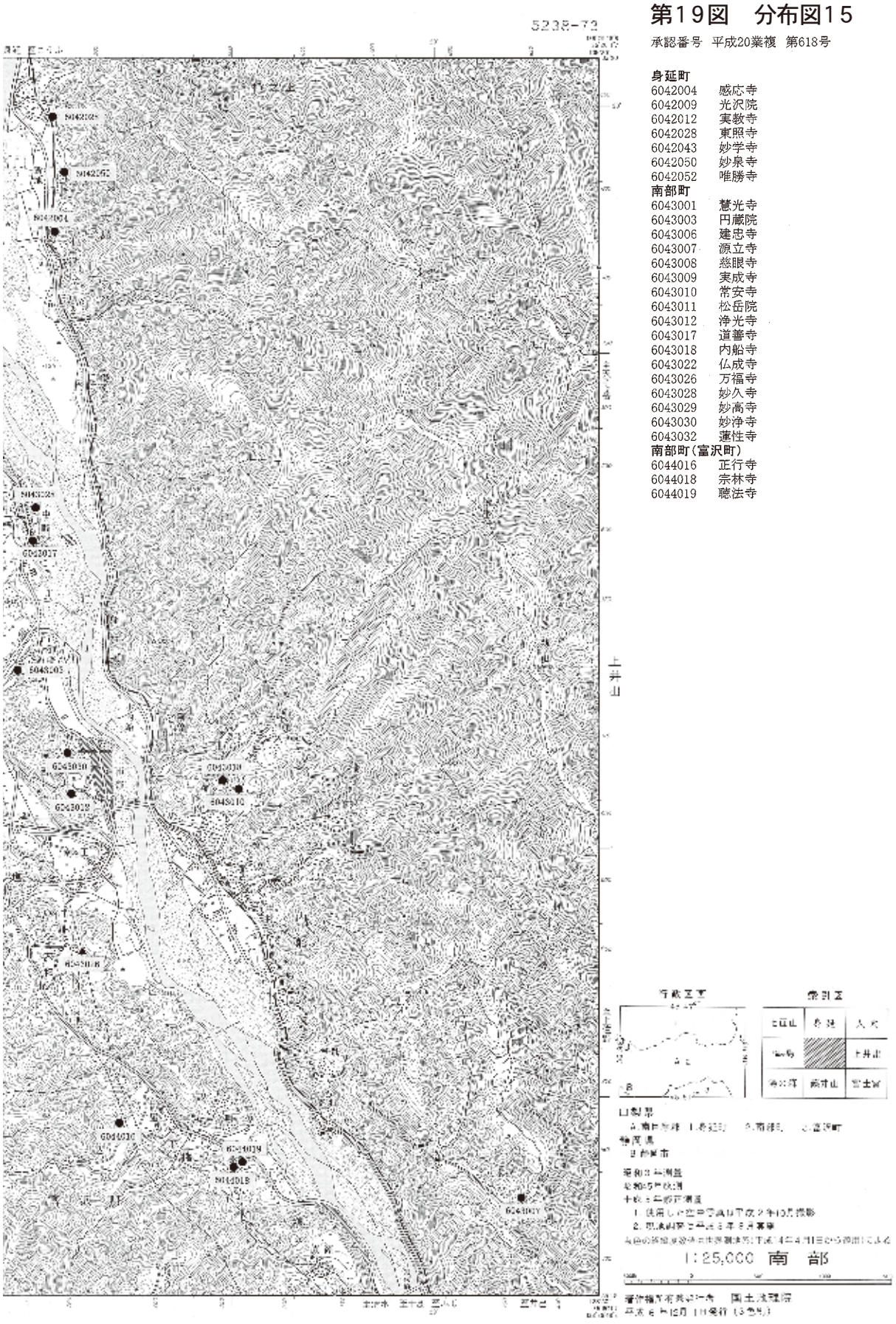
1:25,000 地形図 NI-54-32-9-1
なんぶ （静岡9号-1）

南　部



第19図　分布図15

承認番号　平成20業複　第618号



身延町

6042004　感応寺
6042009　光沢院
6042012　実教寺
6042028　東照寺
6042043　妙学寺
6042050　妙泉寺
6042052　唯勝寺

南部町

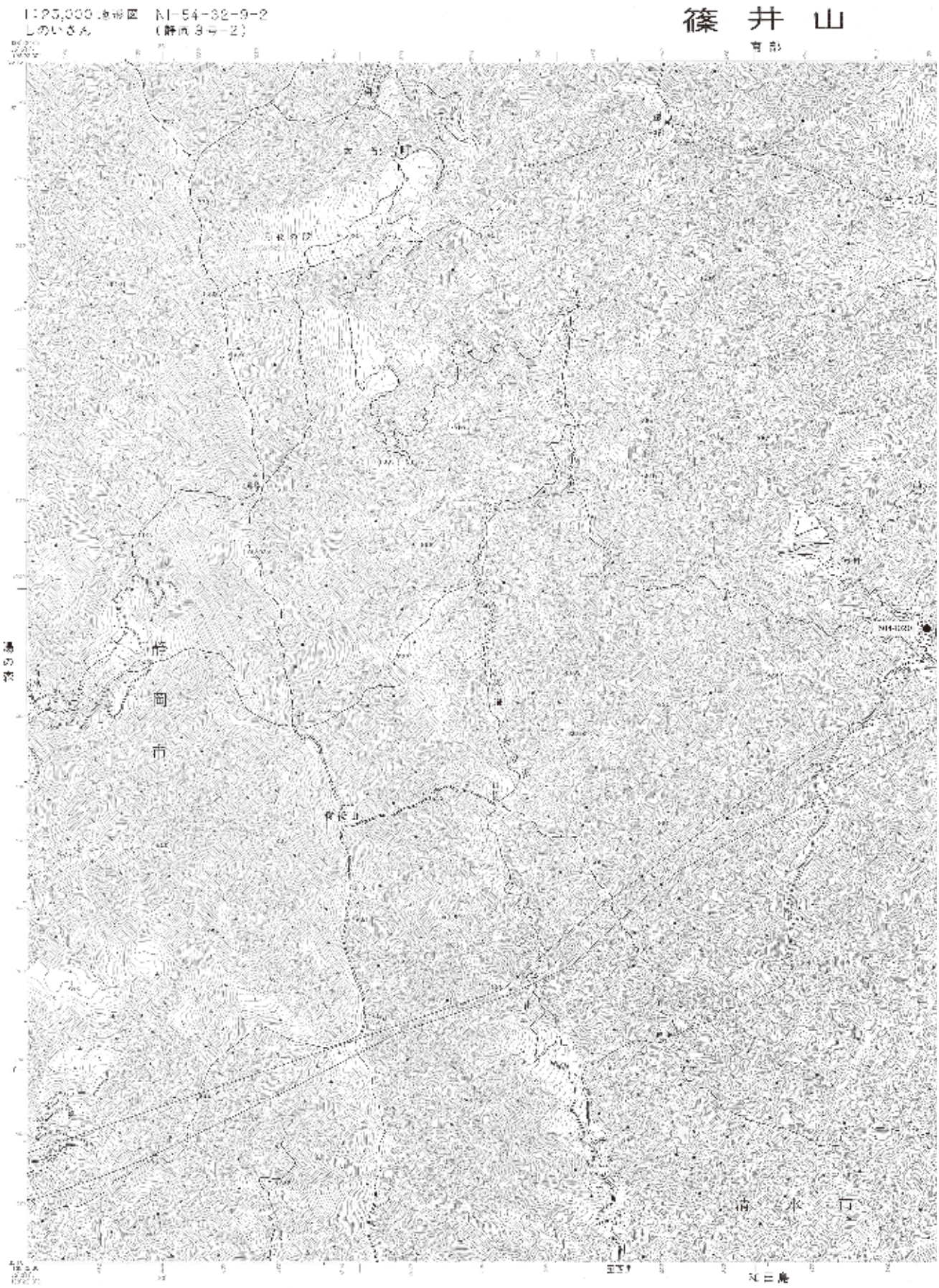
6043001　慧光寺
6043003　円蔵院
6043006　建忠寺
6043007　源立寺
6043008　慈眼寺
6043009　実成寺
6043010　常安寺
6043011　松岳院
6043012　浄光寺
6043017　道善寺
6043018　内船寺
6043022　仏成寺
6043026　万福寺
6043028　妙久寺
6043029　妙高寺
6043030　妙浄寺
6043032　蓮性寺

南部町（富沢町）

6044016　正行寺
6044018　宗林寺
6044019　聴法寺

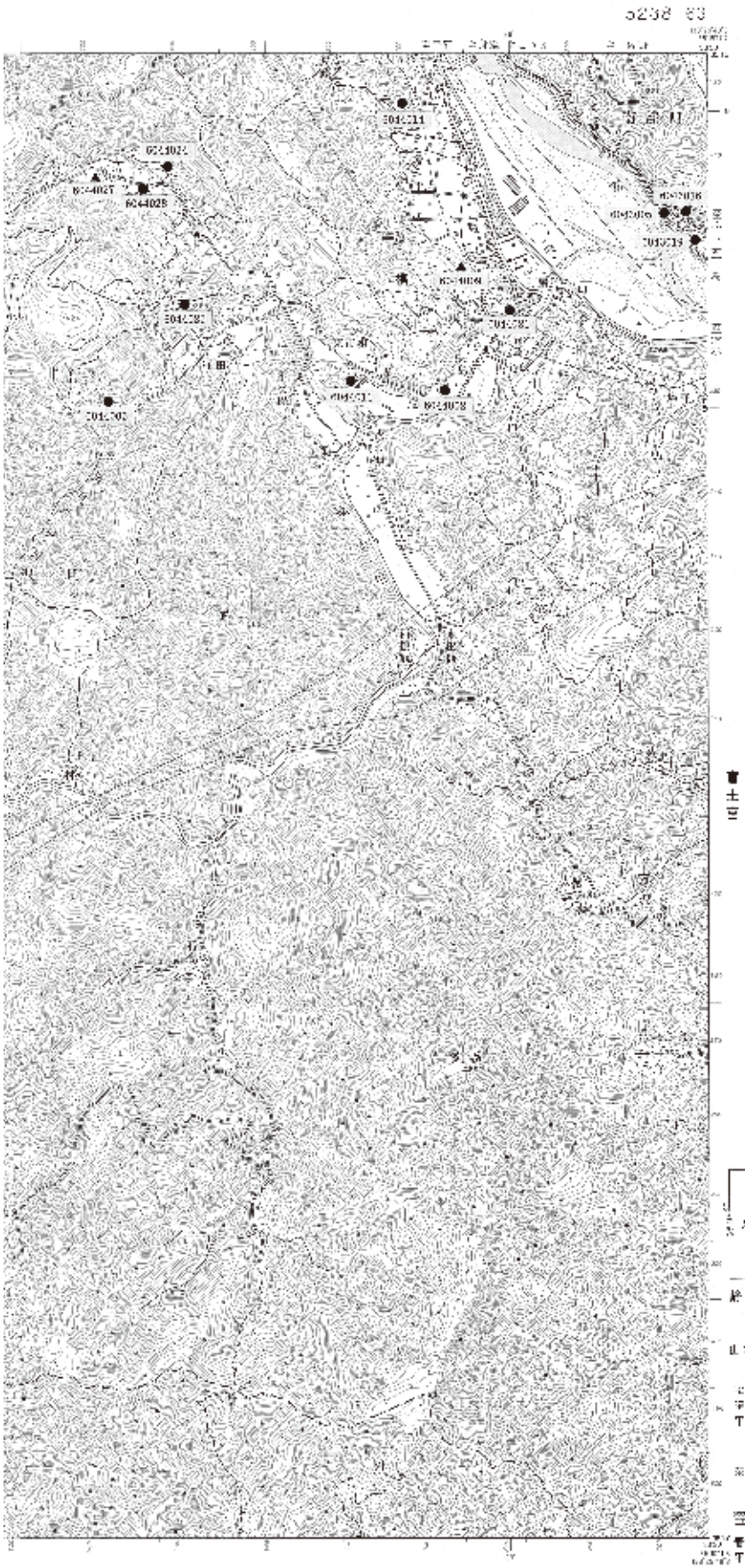
1:25,000 地形図　NI-54-32-9-2
しのいさん　（静岡３号-２）

篠井山



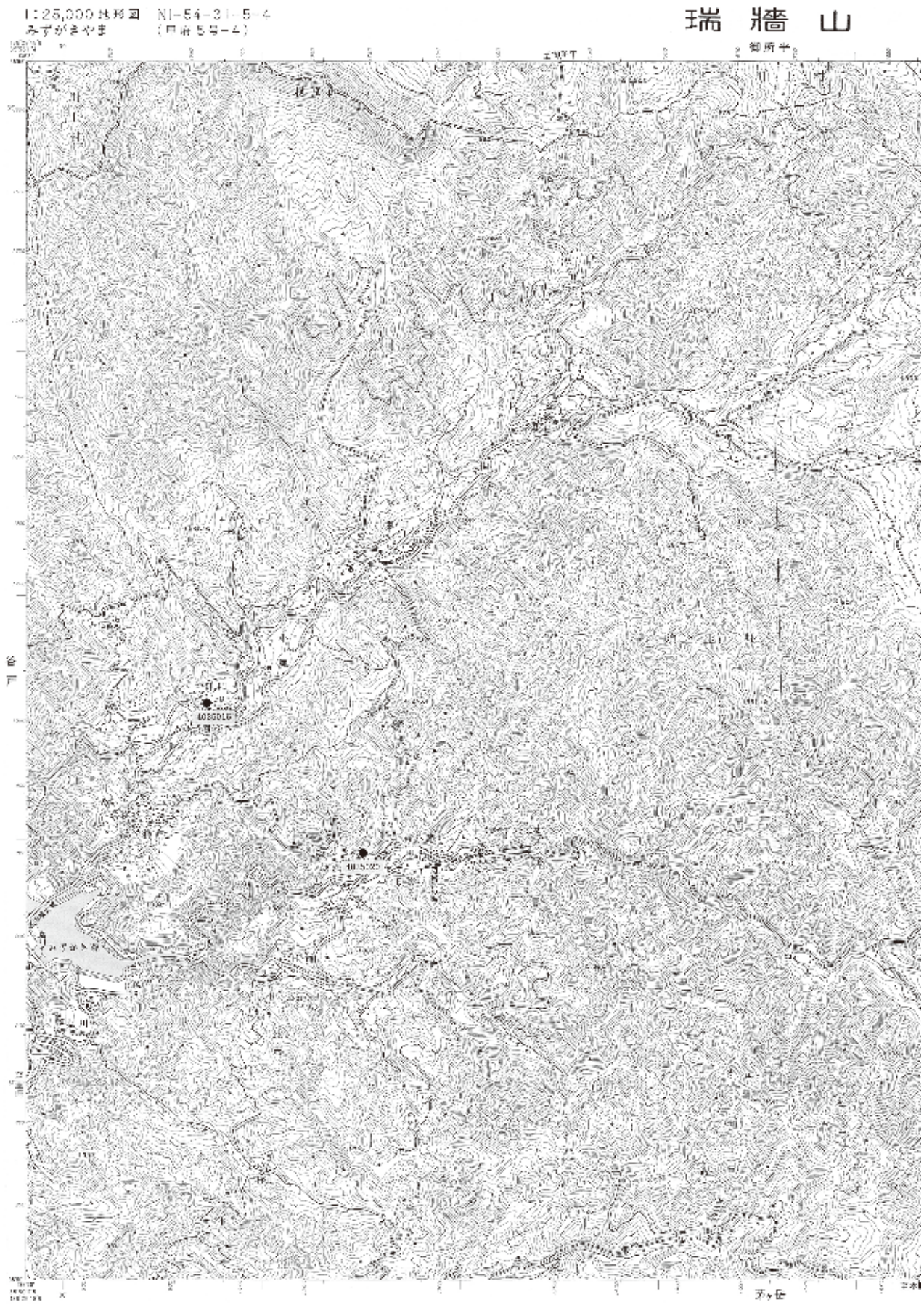
第２０図　分布図１６

承認番号　平成20業複　第618号



南部町
6043005　経王寺
6043016　長光院
6043019　梅泉庵

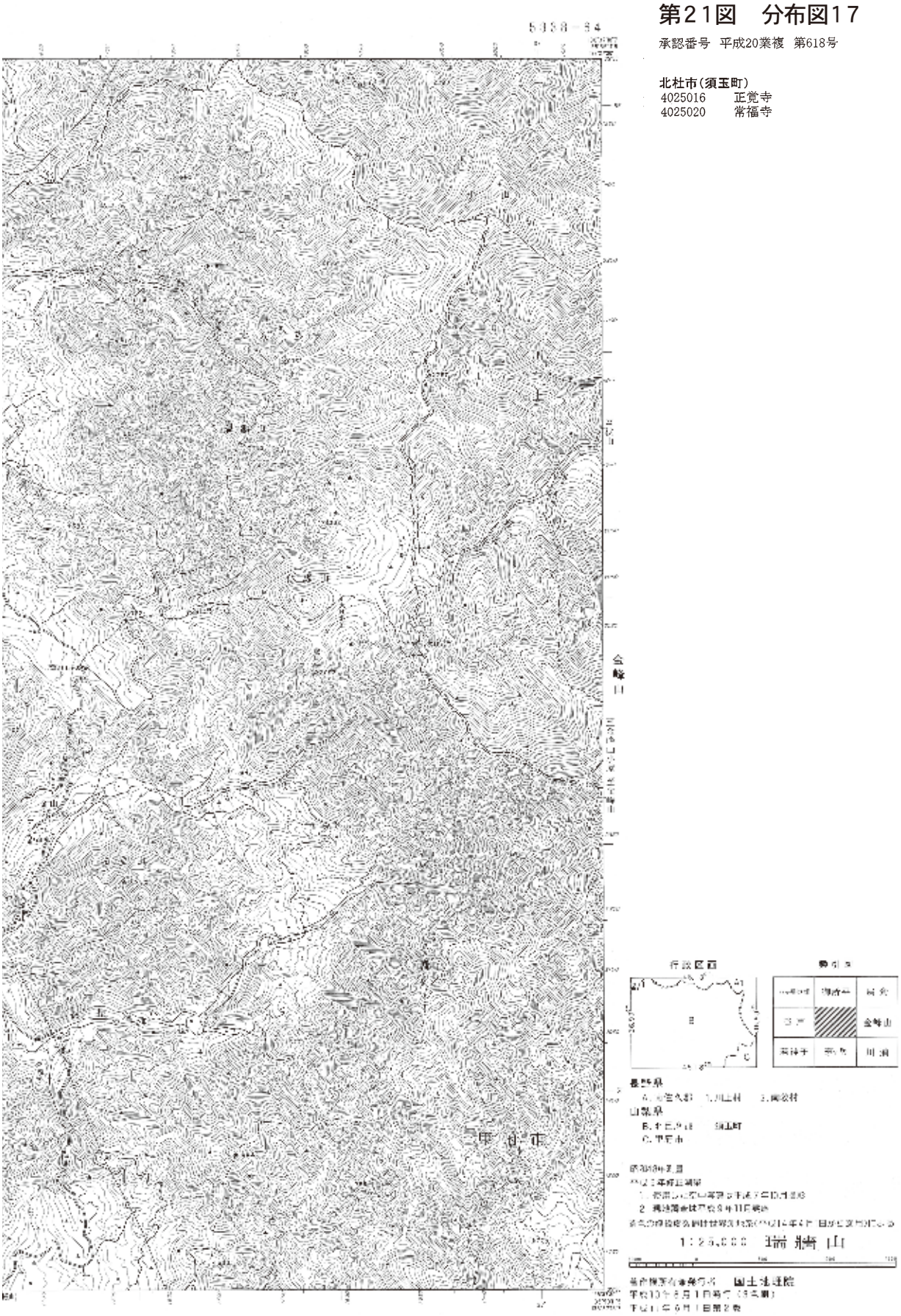
南部町（富沢町）
6044002　観智院
6044005　玉泉寺
6044009　弘円寺
6044011　最恩寺
6044014　修善寺
6044020　徳間寺
6044021　福寿院
6044024　満願寺
6044025　明岳院
6044027　妙法寺
6044028　竜徳寺

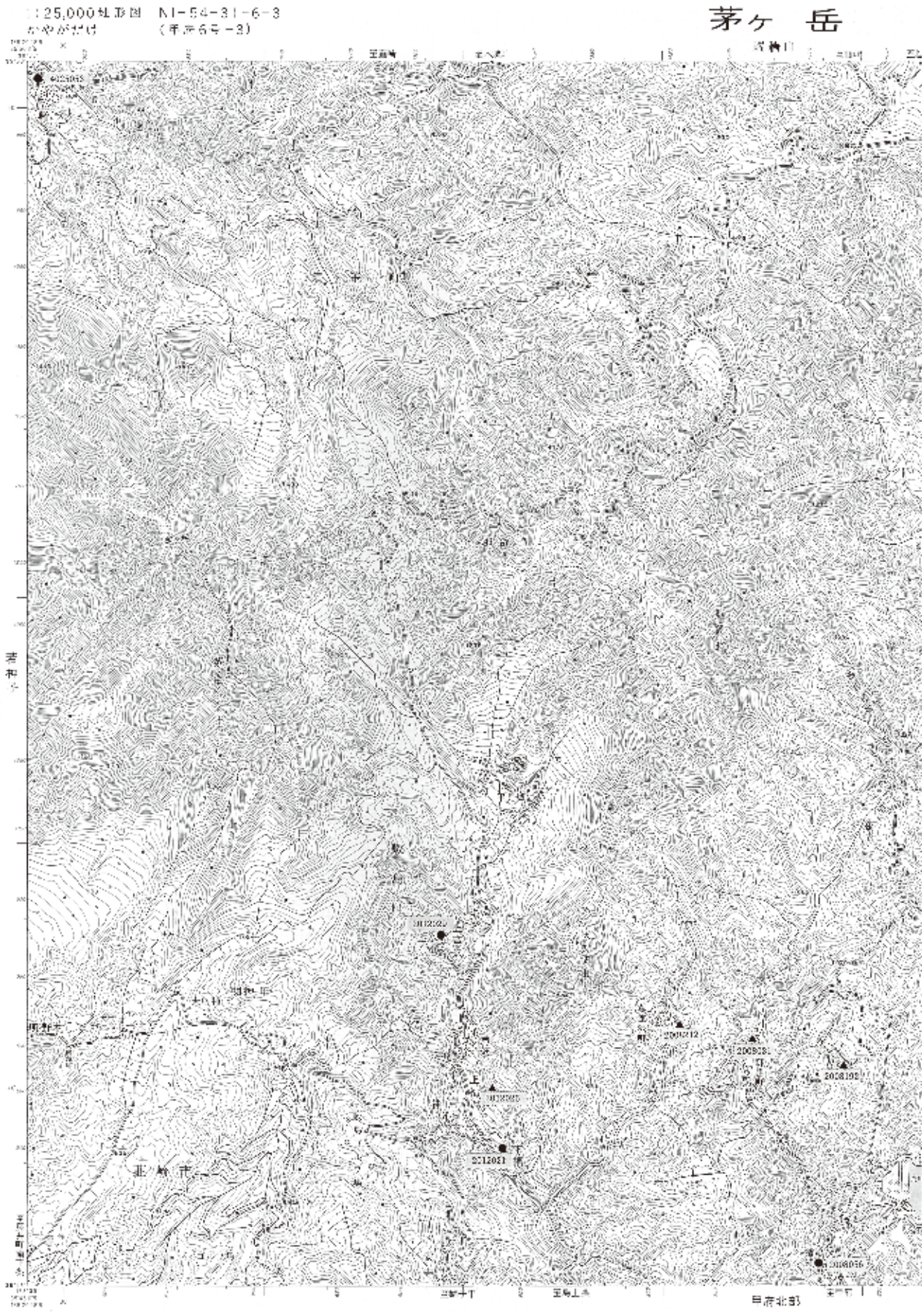

1:25,000地形図 NI-54-21-5-4
みずがきやま (日本5号-4)
瑞 牆 山

第21図　分布図17

承認番号　平成20業複　第618号

北杜市(須玉町)
4025016　　正覚寺
4025020　　常福寺

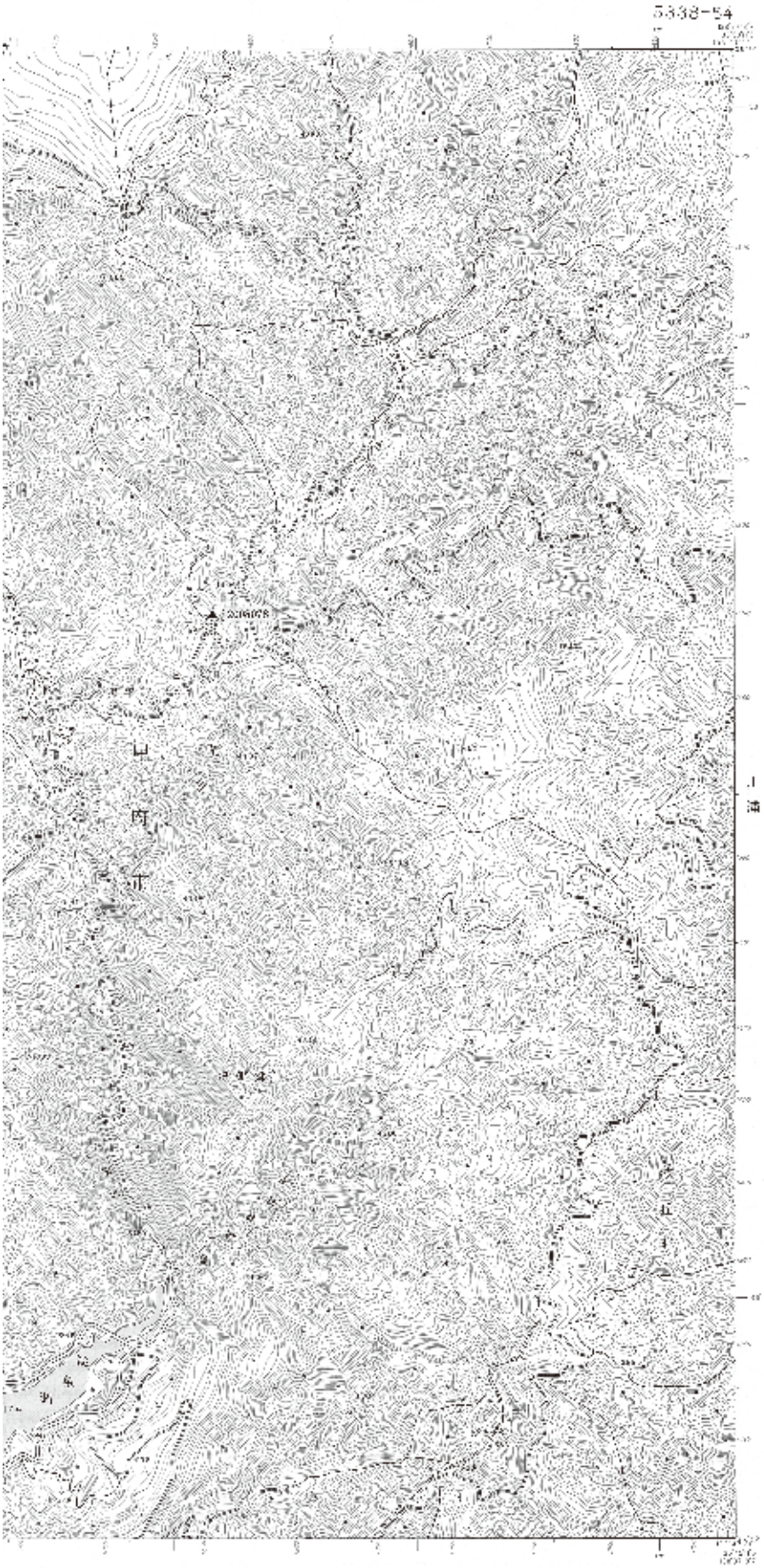



1:25,000地形図　N1-54-31-6-3
かやがだけ　（平成6年-3）
茅ヶ岳

第２２図　分布図１８

承認番号　平成20業複　第618号

甲府市
2008031　観昌院
2008056　向岩寺
2008078　西浄院(西浄寺)
2008192　東光院
2008212　能満寺
甲斐市(敷島町)
2012021　双峯院
2012026　如意寺
2012029　宝勝寺
北杜市(須玉町)
4025053　竜泉寺



1:25,000地形図 NI-54-31-6 4
こうふほく(ぶ (甲府6号-4)
甲府北部

第２３図　分布図１９

承認番号　平成20業複　第618号

甲府市

2008015	惠運院
2008017	円光院
2008022	塩沢寺
2008033	観音寺
2008043	慶音院
2008052	興因寺
2008054	幸潤院
2008059	興国寺
2008061	香積寺
2008080	三光寺
2008083	慈恩寺
2008090	自昌院
2008102	常雲寺
2008107	正覚寺
2008113	松元寺
2008127	称念寺
2008139	瑞岩寺
2008148	青松院
2008155	積翠寺
2008168	禅林院
2008174	大慈庵
2008178	長慶寺
2008183	長松寺
2008187	長宝寺
2008188	長楽寺
2008208	如意庵
2008216	攀桂寺
2008218	深草観音堂
2008223	福寿院
2008224	福泉寺
2008233	普門院
2008240	宝積寺
2008249	法泉禅寺
2008251	宝蔵寺
2008260	明王院
2008261	明王寺
2008285	竜源寺
2008290	立本寺
2008303（前）	祇園寺

甲斐市（双葉町）

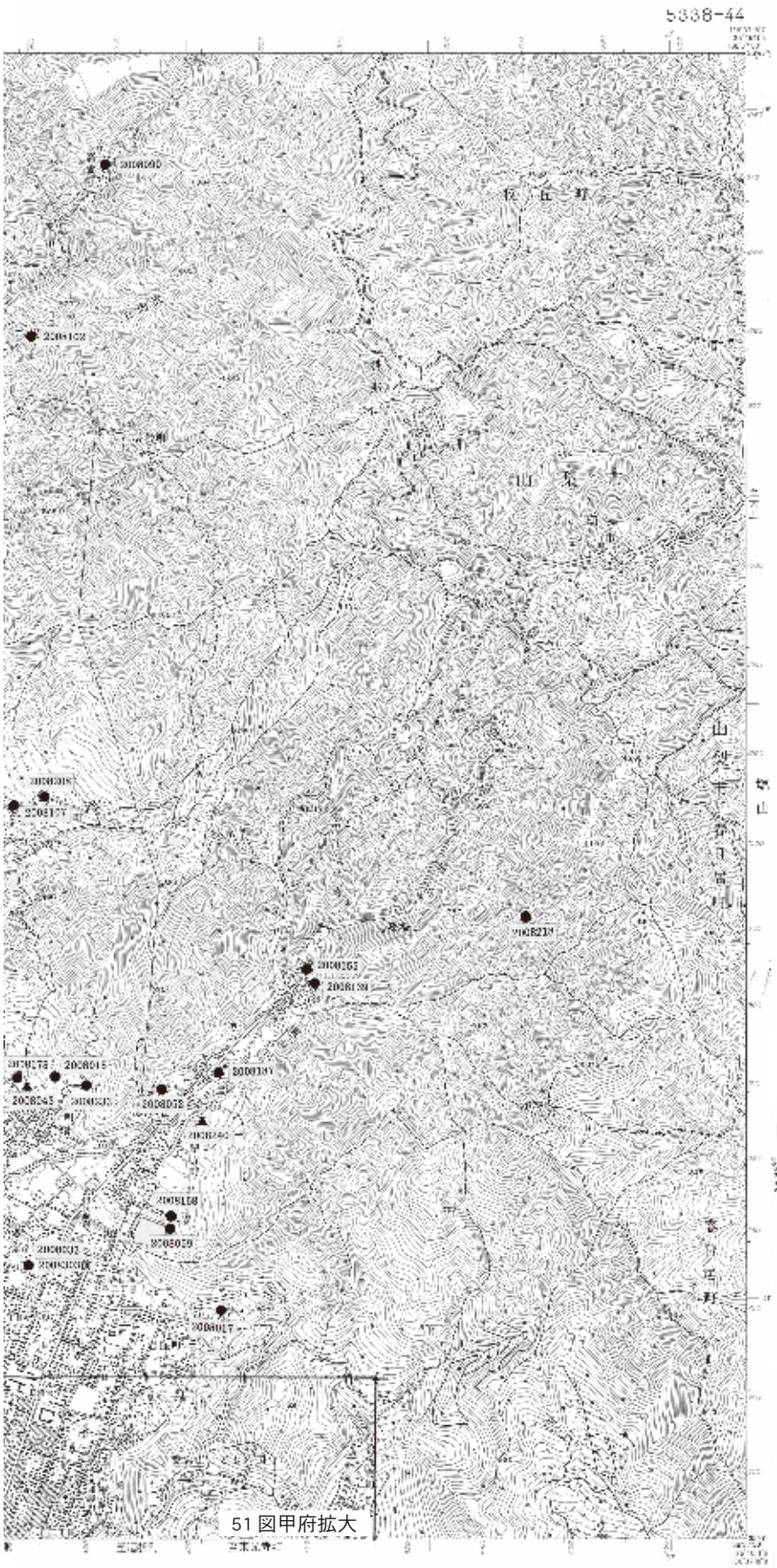
2010002	黄梅院
2010003	行禅寺
2010009	慈眼院
2010010	自性院
2010012	青竜寺
2010015	長昌院
2010016	長泉寺
2010020	妙秀寺
2010022	竜泉院
2010023	竜蔵院
2010024	林泉院

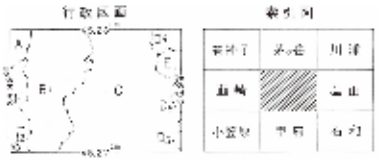
甲斐市（敷島町）

2012002	吉祥院
2012003	空性院
2012004	功徳院
2012005	広済寺
2012009	慈徳院
2012012	正授院
2012013	常説寺
2012013（前）	常説寺
2012019	大寧寺
	清心庵
2012020	清沢寺
2012022	長光寺
2012023	天沢寺
2012024	東福院
2012027	普禅院
2012028	宝珠寺
2012030	本興寺
2012031	峰観音堂
2012033	薬師寺
2012034	羅漢寺
2012034（前）	羅漢寺
2012035	隆興院
2012037	林泉寺

韮崎市

4023129	西方院
4023133	法道院





1:25,000　甲府北部

1:25,000 地形図　NI-54-31-7-3
こうふ　　　　(甲府7号-3)

甲　府

第２４図　分布図２０

承認番号　平成20業複　第618号

笛吹市（境川町）

1001001　雲善寺
1001002　吉祥寺
1001005　広岸寺
1001009　西光庵
1001010　地蔵院
1001011　実相寺
1001011（前）実相寺
1001013　常泉寺
1001014　浄念寺
1001016　常楽寺
1001018　全福寺
1001019　宗源寺
1001021　法眼寺
1001022　薬林寺
1001024　竜昌院
1001029　大石寺
1001029（前）大石寺

笛吹市（八代町）

1002010　勝林寺
1002030　利最寺
1002036　教宝院

笛吹市（石和町）

1005005　延命院
1005008　願昌寺
1005012　見性院
1005017　西光寺
1005021　十善院
1005025　常在寺
1005026　成就院
1005027　常徳寺
1005029　昌隆寺
1005030　少林寺
1005031　神竜寺
1005032　清水寺
1005035　泉竜寺
1005039　東光寺
1005043　法蔵寺
1005045　妙玄寺
1005046　妙油寺

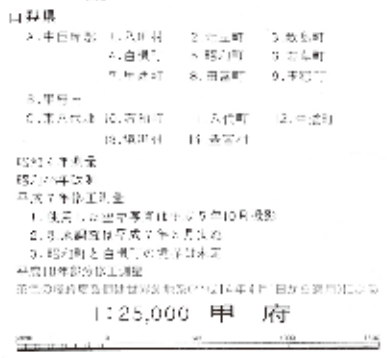
甲府市

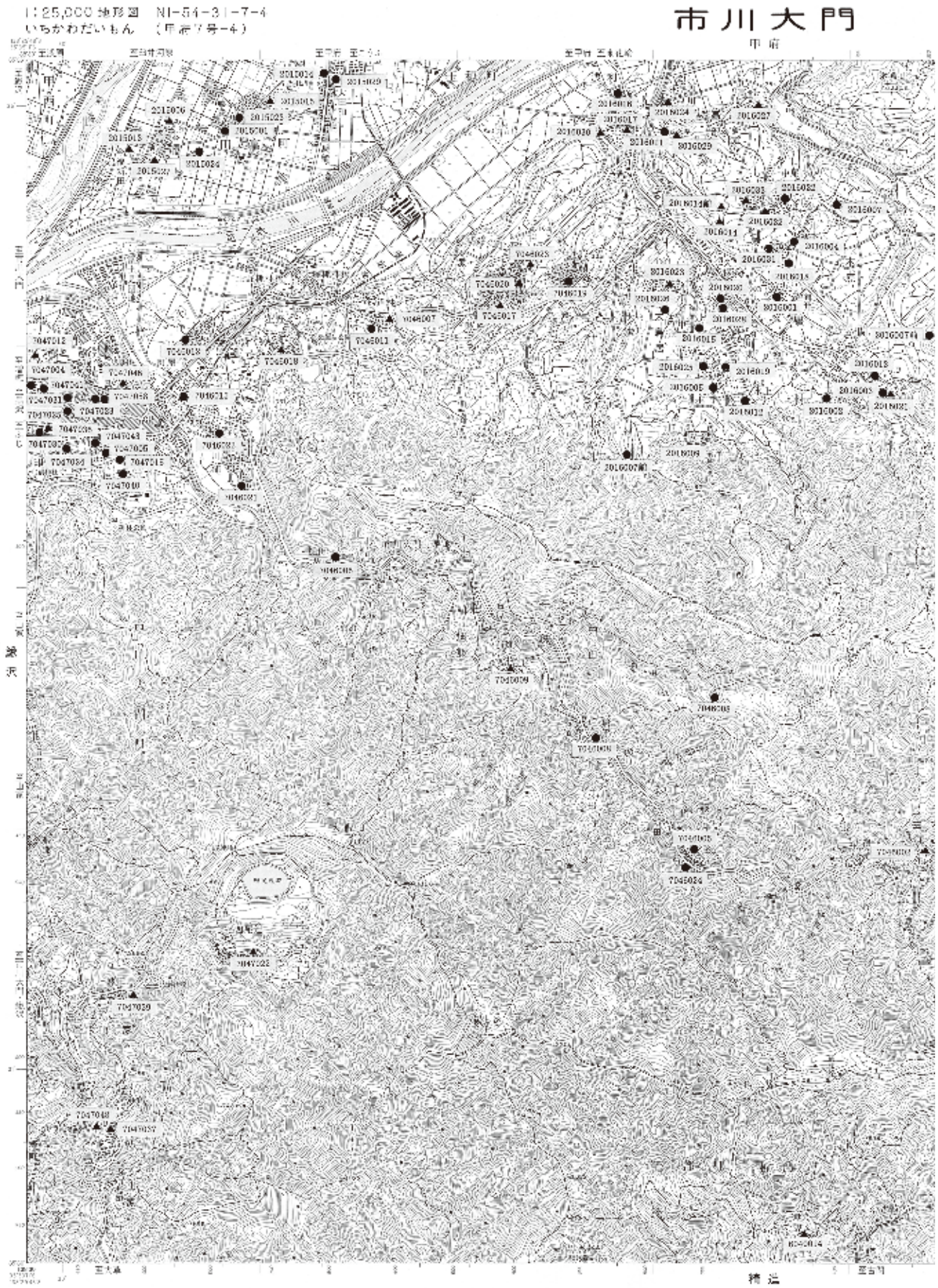
2008009　安立寺
2008011　一渓庵
2008013　永正寺
2008025　円満寺
2008026　円妙寺
2008027（前）遠光寺
2008034　義雲院
2008055　広学寺
2008057　高橋寺
2008065　興蔵寺
2008069　光福寺
2008076　西光寺
2008079　西福寺
2008082　慈恩寺
2008084　直心院
2008087　慈光院
2008096　寿松院
2008100　常安寺
2008105　浄恩寺
2008106　正覚寺
2008111　正行寺
2008115　常光寺
2008117　常光寺
2008121　常正院
2008122　浄正院
2008123　常照寺
2008125　勝善寺
2008132　逍遙院
2008134　浄運寺
2008140　瑞光寺
2008142　瑞竜院
2008145　盛岩寺
2008146　清光寺
2008153　聖徳寺
2008156　雪窓院
2008158　善光寺
2008163　善政寺
2008166　善福寺
2008171　大雲寺
2008175　大珠寺
2008177　長願寺
2008181　長谷寺
2008184　長真院
2008185　長泉寺
2008195　東光寺
2008201　東禅寺
2008207　入明寺
2008209　仁勝寺
2008211　能満寺
2008217　般舟院
2008219　福王寺
2008221　福寿院
2008222　福寿院
2008226　福泉寺
2008229　富春院
2008234　報恩寺
2008236　法元寺
2008238　法光寺
2008266　珉照寺
2008267　祐光寺
2008269　熊（能）昌寺
2008270　油川寺
2008277　要明寺
2008284　竜源寺
2008288　隆泉寺
2008289　隆勝（登）院
2008293　聯芳院
2008328　大楽院

甲府市（中道町）

2009002　安福寺
2009003　安養寺
2009004　円明寺
2009006　吉祥院
2009009　実際寺
2009011　浄照寺
2009012　正清院
2009014　瑞心院

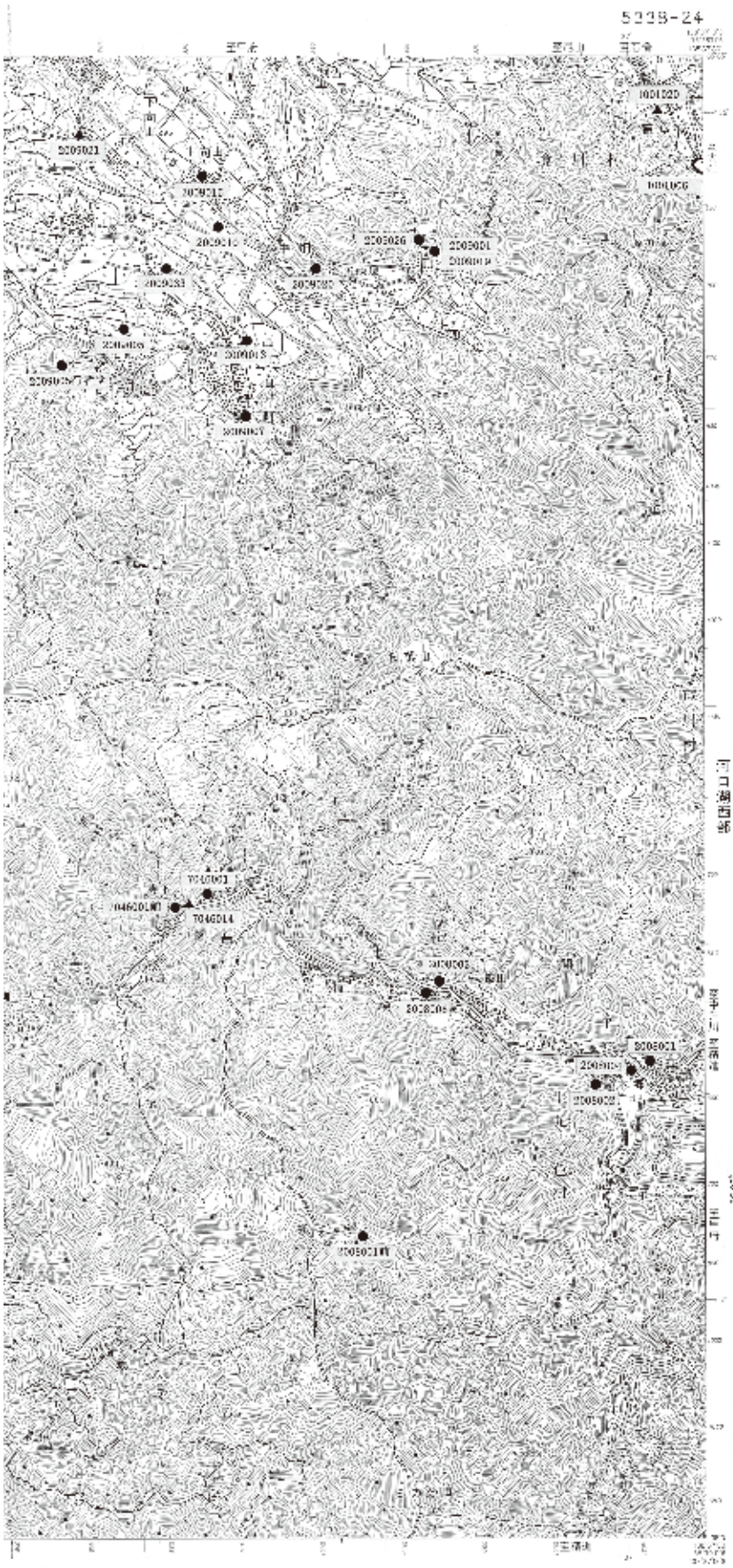
続きは１０８図へ




1:25,000 地形図　NI-54-3-7-4
いちかわだいもん　（平成7号-4）
市川大門
甲府

第25図　分布図21

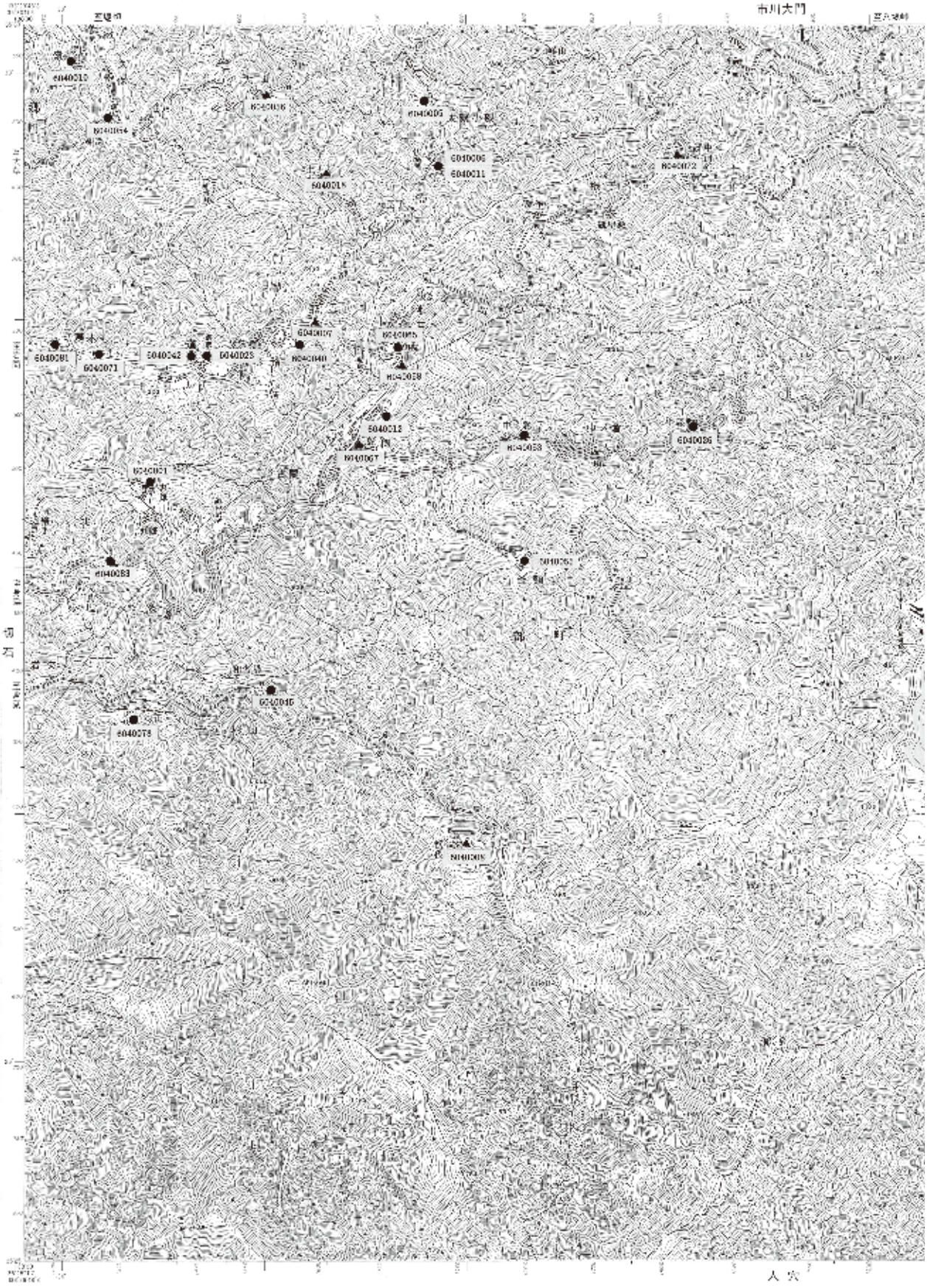
承認番号　平成20業複　第618号



笛吹市(境川町)
1001006 向昌院
1001020 智光寺
甲府市(上九一色村)
2008001 永泰寺
2008001 (前) 永泰寺
2008002 吉祥寺
2008003 耕念寺
2008004 慈雲寺
2008006 長慶寺
甲府市(中道町)
2009001 安国寺
2009005 円楽寺
2009005 円楽寺
行者堂
2009007 敬泉寺
2009010 常光寺
2009013 常福寺
2009015 清源寺
2009019 廃心経寺
2009020 福寿院
2009021 法沢寺
2009026 薬本寺
2009033 来迎寺
中央市(田富町)
2015001 永正寺
2015006 海前寺
2015013 西福院
2015014 慈雲院
2015015 慈光院
2015023 東林寺
2015024 宝珠院
2015027 妙法寺
2015029 蓮重寺
中央市(豊富村)
2016001 永泉寺
2016002 円光寺
2016003 円妙寺
2016004 延命寺
2016005 華台寺
2016007 三星院
2016007 (前) 三星院
2016007 (前) 三星院
2016009 大福寺
2016011 法久寺
2016012 法乗寺
2016013 妙法寺
2016014 法雲庵
2016014 (前) 法雲庵
2016015 龍光院
2016016 龍心院
2016017 延長寺
2016018 久沢寺
2016019 金昌院
2016020 向陽院
2016021 慈運院
2016022 地蔵院
2016023 正因寺
2016024 常念寺
2016025 正福寺
2016026 神宮寺
2016027 清伝寺
2016028 伝竜院
2016029 日光寺
2016030 福泉院
2016031 本性坊
2016032 快長院
2016033 信光院
身延町(下部町)
6040014 興福寺
市川三郷町(三珠町)
7046001 雲洞寺
7046001 (前) 雲洞寺
7046002 永泉寺
7046005 光源院
7046006 光勝寺
7046007 西福寺
7046008 西福寺
7046008 西福寺
別院
7046009 常光寺
7046011 真福寺
7046012 禅昌寺
7046014 大乗寺
7046015 大真寺
7046017 長昌院
7046018 多宝院
7046019 長泉寺
7046020 福寿院
7046021 不動院
7046022 薬王寺
7046023 林泉寺
7046024 阿弥陀堂
市川三郷町
(市川大門町)
7047004 円立寺
7047005 花園院
7047012 慶福院
7047015 金剛院
7047022 浄泉庵
7047023 成蔵院
7047024 浄蓮寺
7047025 新蔵院
7047030 善福寺
7047031 禅林寺
7047036 大竜寺
7047037 多福寺
7047039 東優寺
7047040 平塩寺
7047041 福寿院
7047043 宝寿院
7047046 法伝寺
7047048 本妙寺
7047058 蓮光院

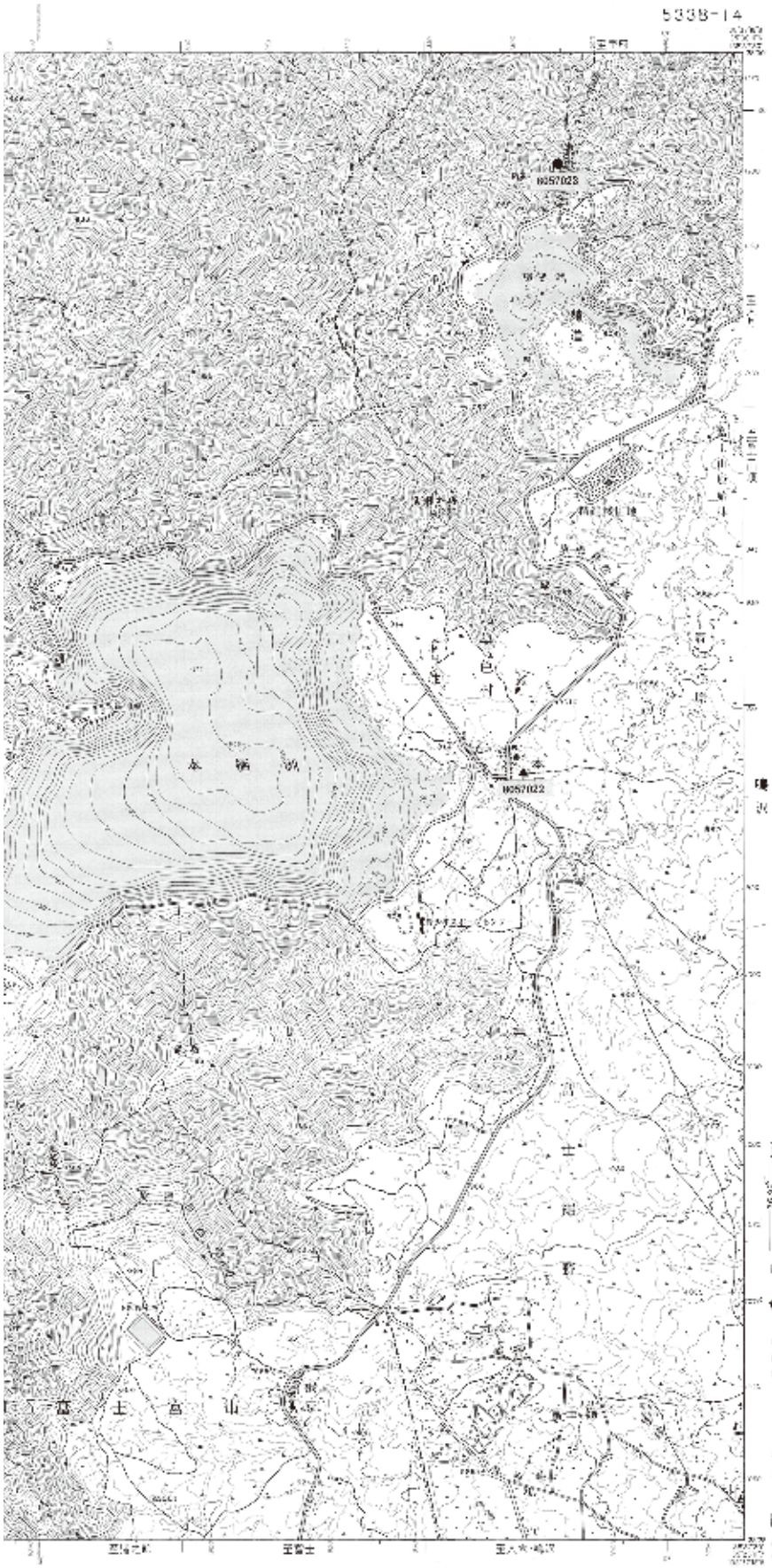
1:25,000 地形図　NI-54-31-8-3
しょうじ　　（甲府8号-3）

精　　進



第26図　分布図22

承認番号　平成20業複　第618号



身延町（下部町）

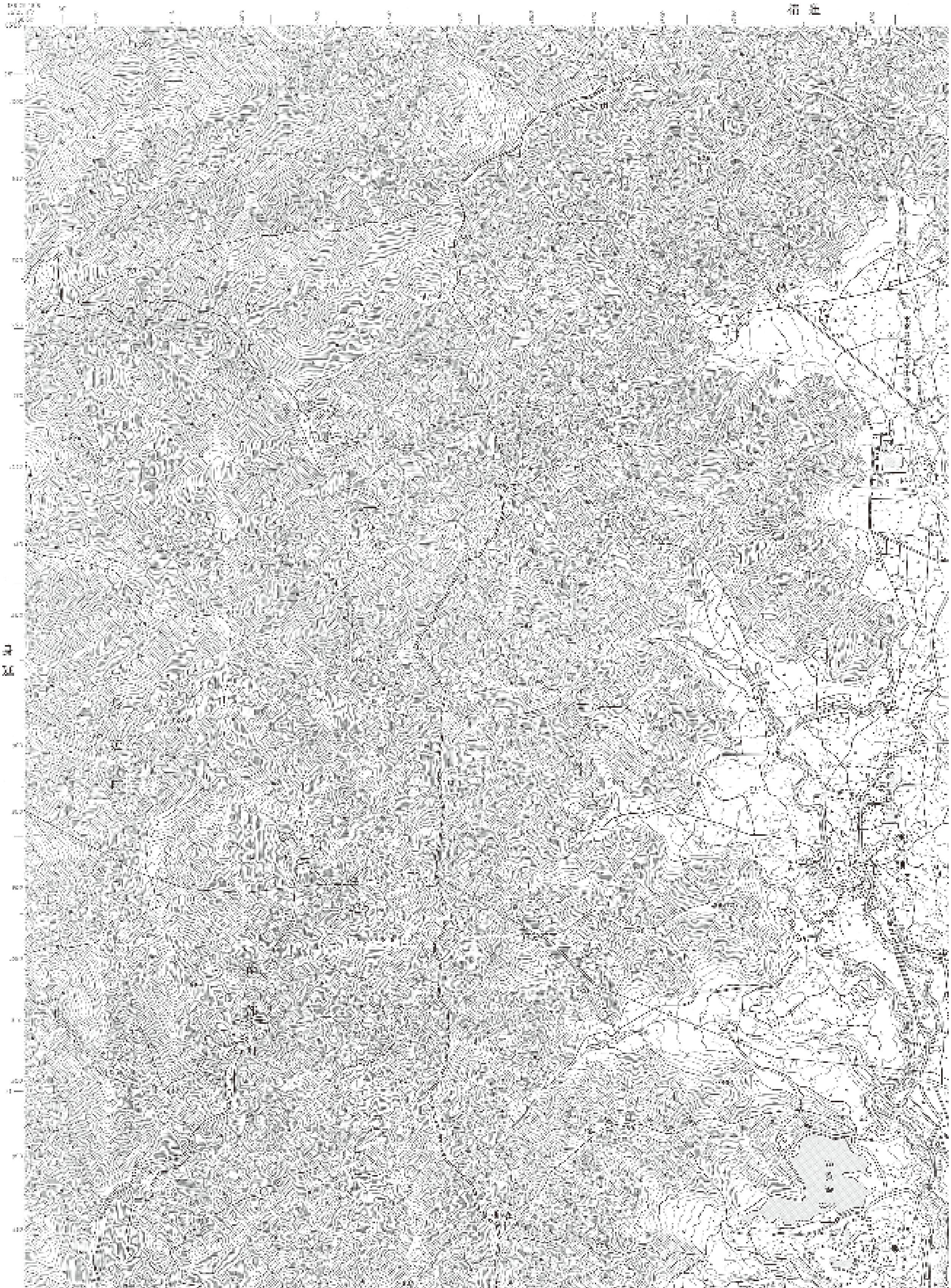
6040001　永寿庵
6040005　磯善院
6040006　貴宝院
6040007　経聖庵
6040008　玉泉寺
6040010　旭峯寺
6040011　光学院
6040012　広泉院
6040018　西福寺
6040023　慈観寺
6040026　地蔵院
6040040　水船庵
6040042　清久寺
6040045　宗仙院
6040053　長盛寺
6040054　長泉寺
6040055　長沢寺
6040056　東前院
6040058　徳岩院
6040065　方外院
6040067　宝珠庵
6040071　満蔵院
6040072　万福寺
6040078　有明寺
6040081　竜泉寺
6040083　受性坊

富士河口湖町（上九一色村）

8057022　江岸寺
8057023　竜泉寺

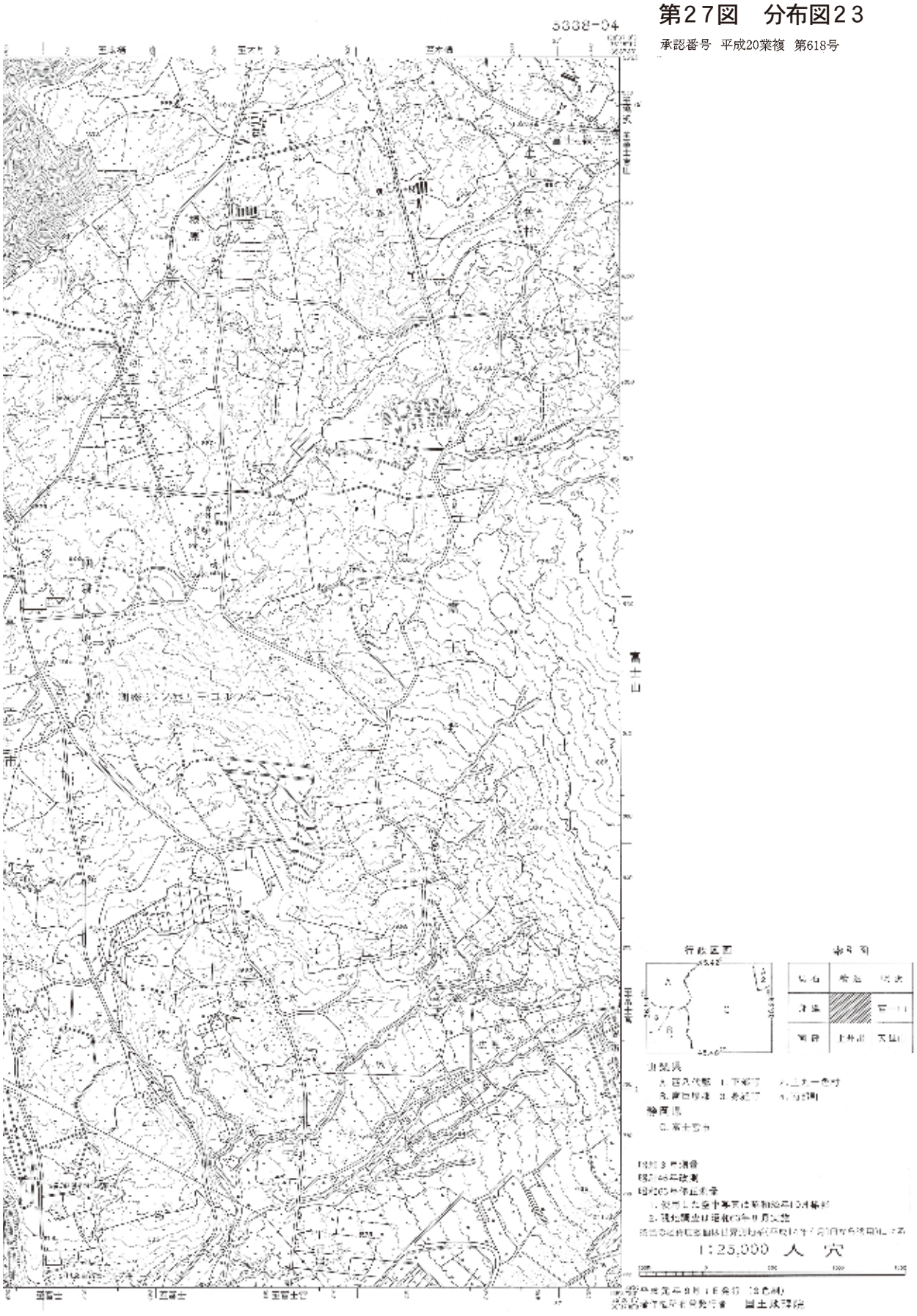
1:25,000地形図　NI-54-31-8-4
ひとあな　(甲府8号-4)

人　穴



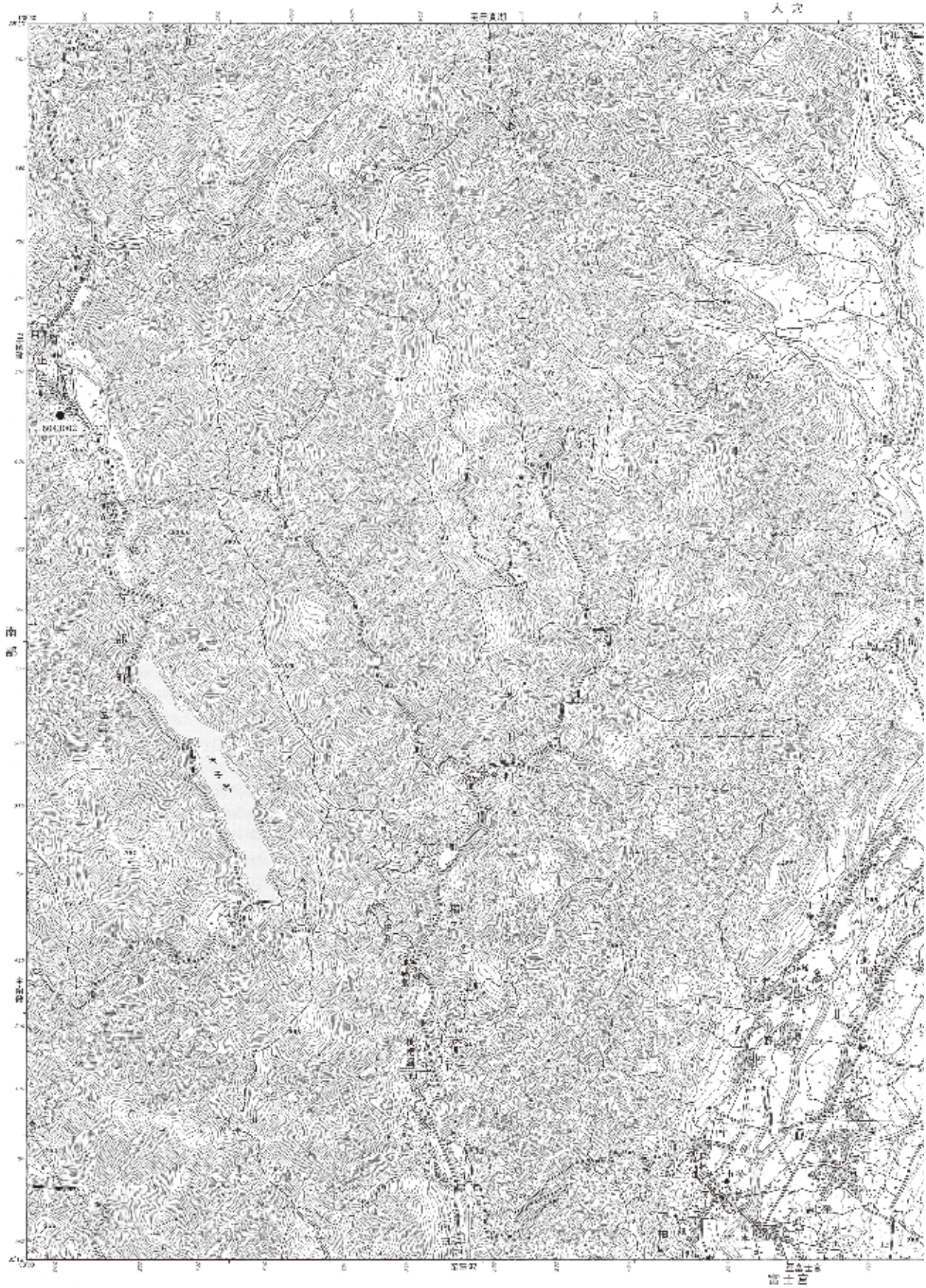
第27図　分布図23

承認番号　平成20業複　第618号



1:25,000 地形図　NI-54-32-5-3
かみいで　　（静岡５５－３）

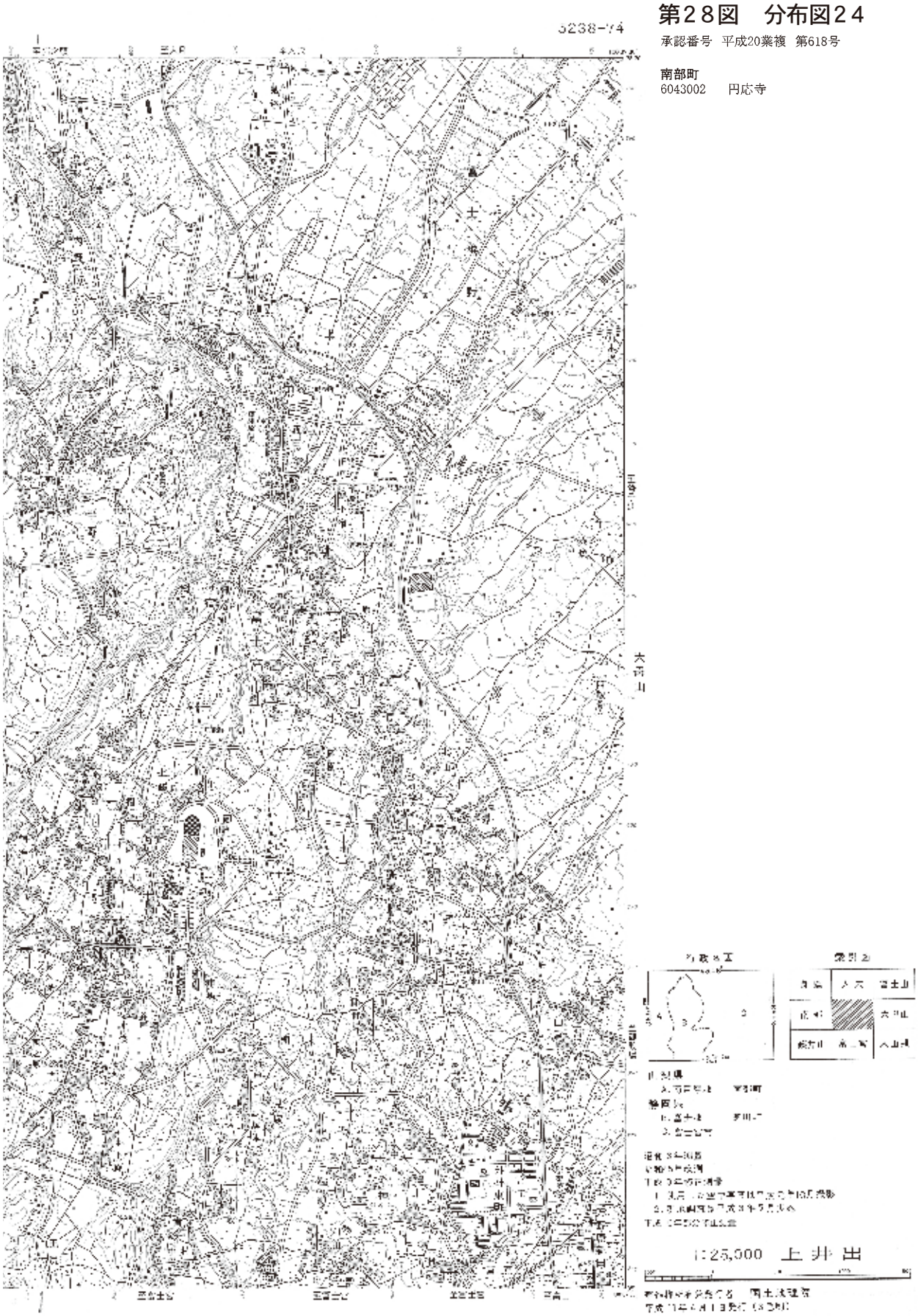
上井出



第２８図　分布図２４

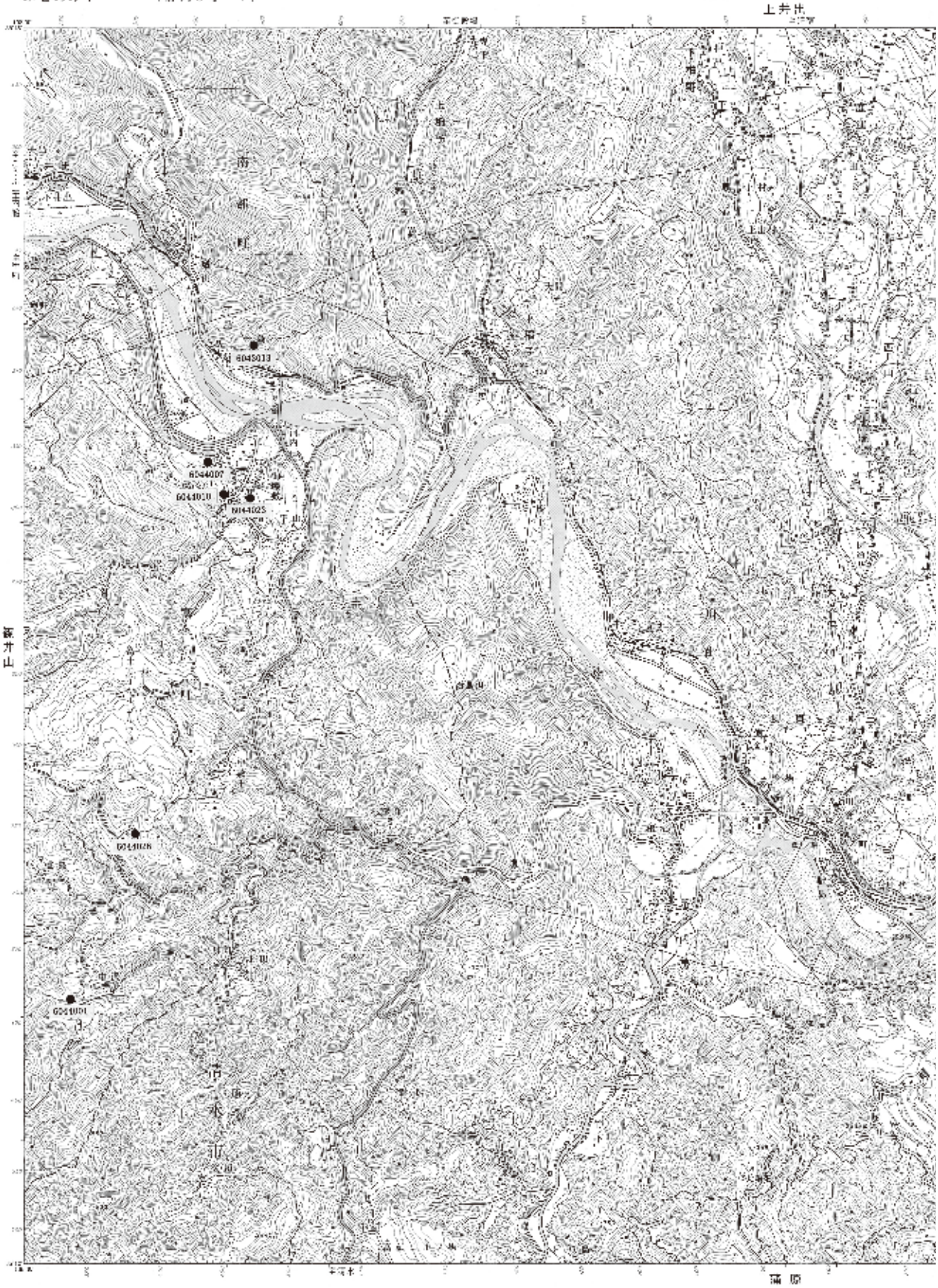
承認番号　平成20業複　第618号

南部町
6043002　　円応寺



1:25,000 地形図　NI-54-32-5-4
ふじのみや　（静岡5号－4）

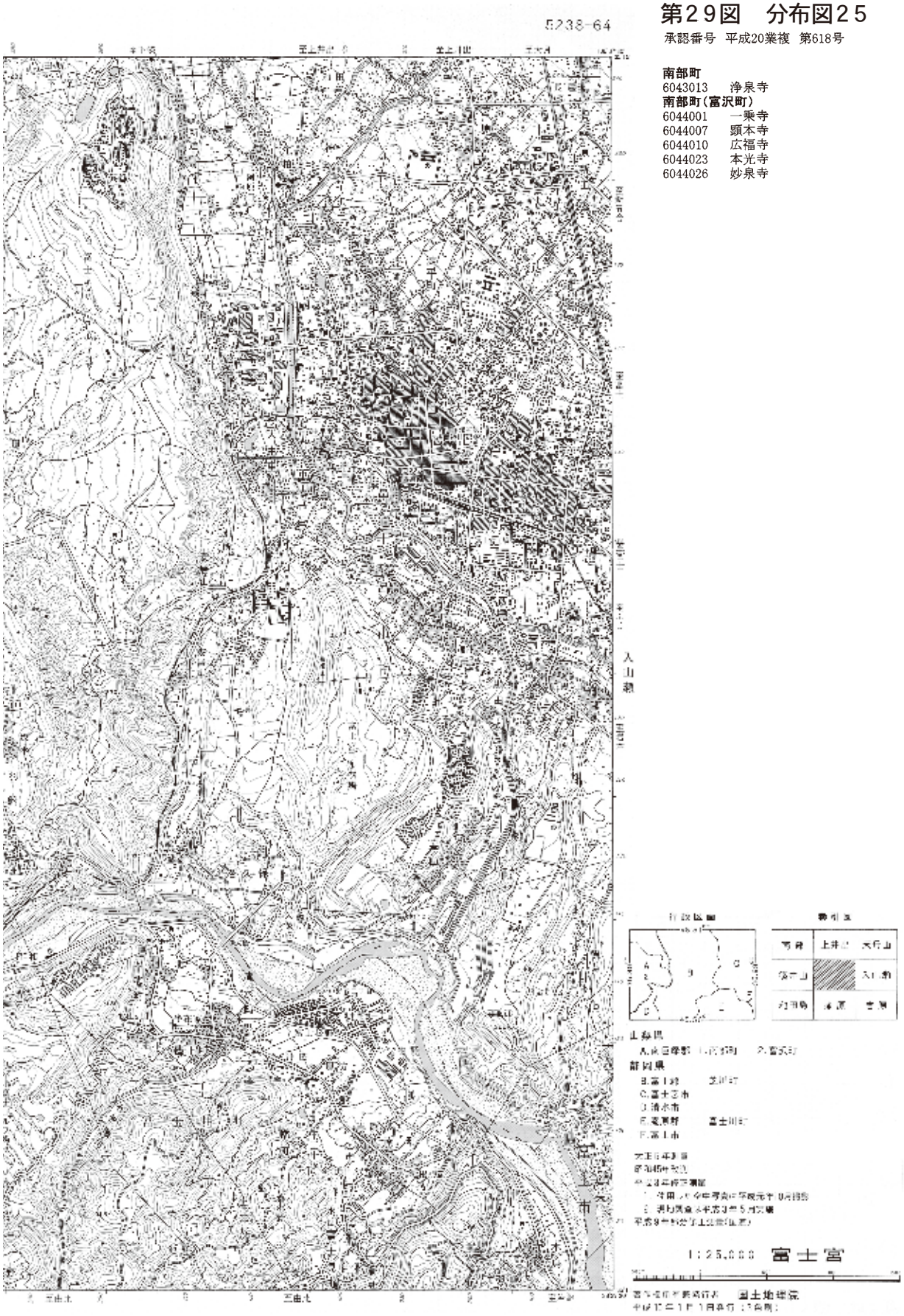
富士宮



第29図　分布図25

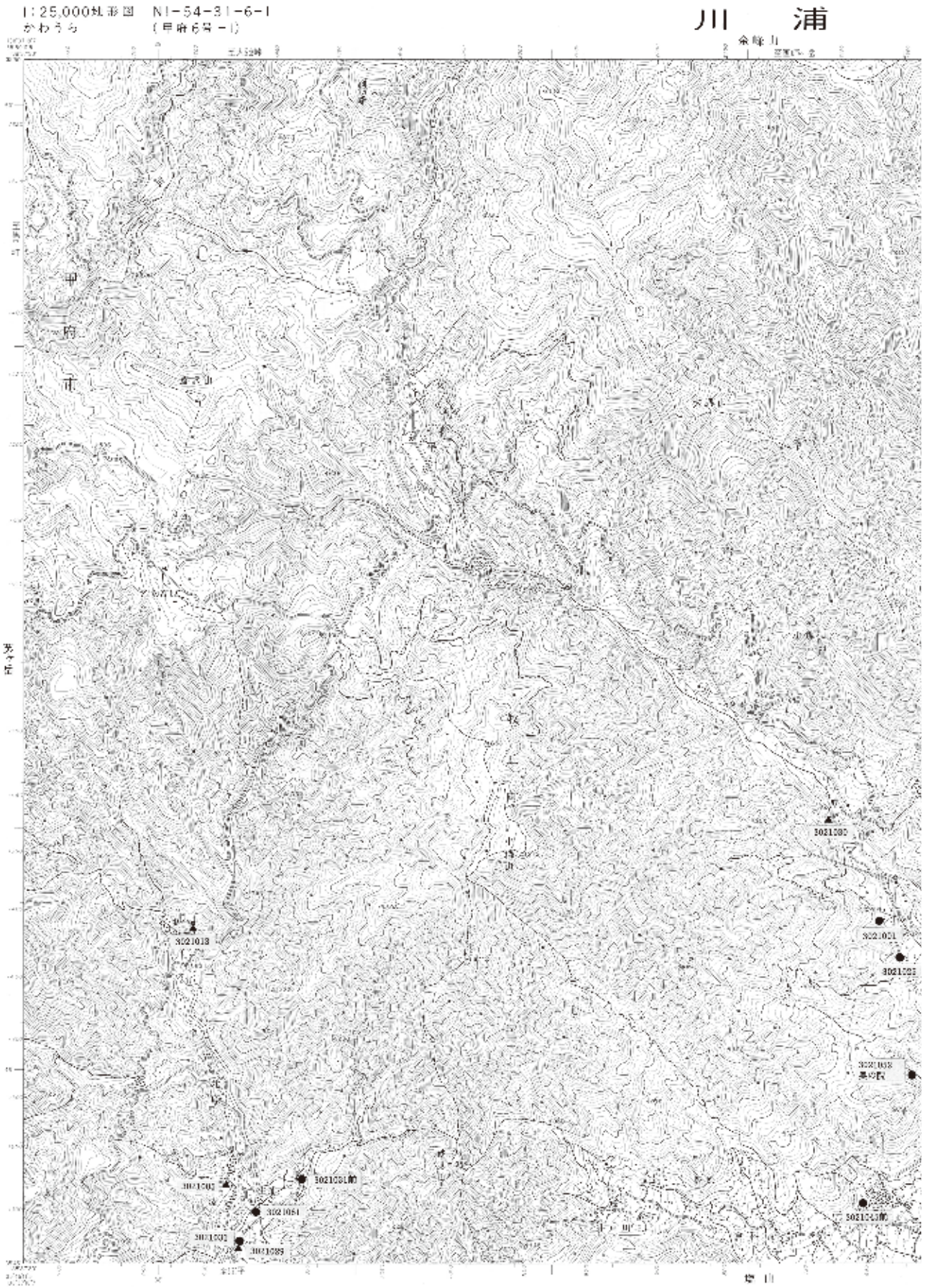
承認番号　平成20業複　第618号

南部町
6043013　浄泉寺
南部町(富沢町)
6044001　一乗寺
6044007　顕本寺
6044010　広福寺
6044023　本光寺
6044026　妙泉寺



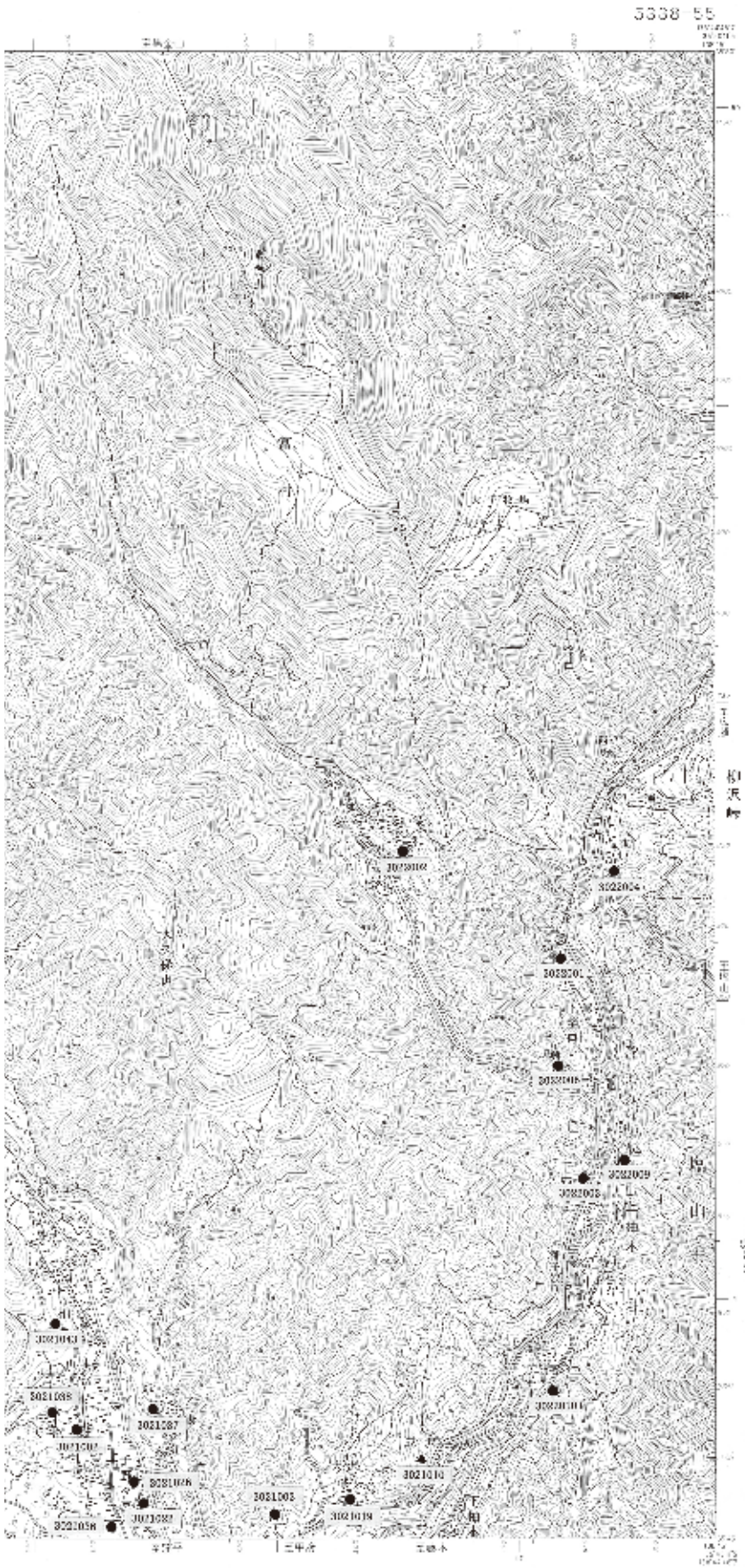
1:25,000地形図　N1-54-31-6-1
かわうら　（甲府6号-1）

川　浦



第３０図　分布図２６

承認番号　平成20業複　第618号



山梨市（牧丘町）

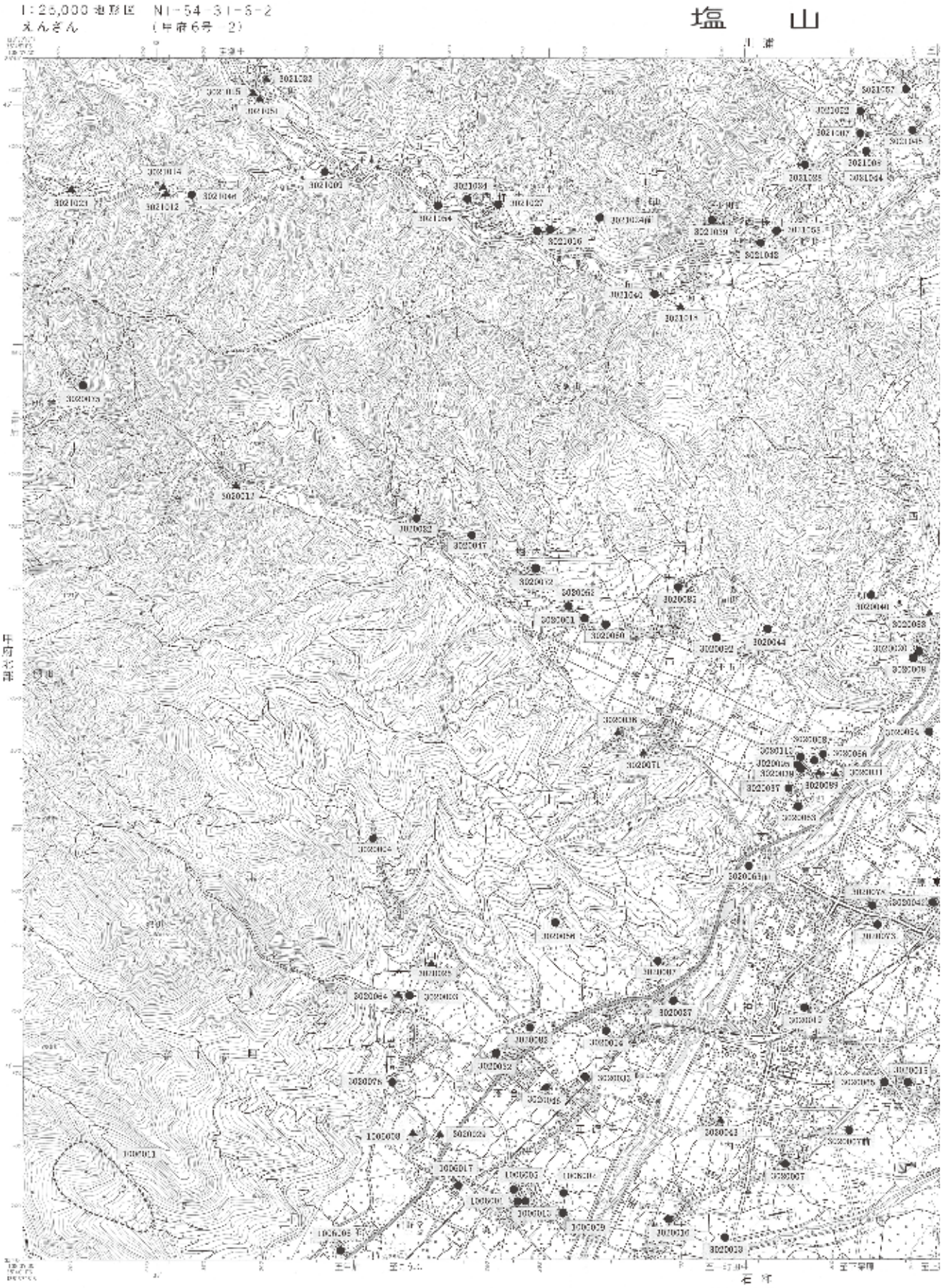
3021001	雲峯寺
3021002	円光寺
3021003	円照寺
3021005	観音寺
3021010	広蔵院
3021013	西方院
3021019	守心庵
3021022	神光寺
3021025	千手庵
3021026	蔵昌院
3021029	大覚寺
3021030	天休庵
3021031	洞雲寺
3021031（前）	洞雲寺
3021036	万勝寺
3021037	福寿院
3021038	福法寺
3021043	法林寺
3021045（前）	龍泉寺
3021052	上求寺奥の院
3021061	不動尊

山梨市（三富村）

3022001	安養寺
3022002	吉祥寺
3022003	玉蔵院
3022004	渓雲寺
3022006	清月院
3022009	東清寺
3022010	宝樹院

1:25,000地形図　NI-54-31-5-2
えんざん　（甲府6号-2）

塩　山



第31図　分布図27

承認番号　平成20業複　第618号

笛吹市（春日居町）

1006001	一行寺
1006002	桑戸不動堂
1006005	地蔵院
1006006	正覚寺
1006008	大徳院
1006009	大日如来堂
1006011	長谷寺
1006013	仏念寺
1006017	保泉寺

甲州市（塩山市）

3017005	栄昌院
3017008	恵林寺
3017009	縁瑞寺
3017010	円長寺
3017011	延命院
3017013	応量寺
3017014	大樹院
3017016	岩松院
3017017	千将寺
3017019	願正寺
3017027	向岳寺
3017029	高森院
3017032	金剛院
3017038	慈徳院
3017042	受得寺
3017043	正覚寺
3017044	松径院
3017048	昌樹院
3017052	松泉寺
3017053	常泉寺
3017056	正念寺
3017059	正林寺
3017061	栖雲寺
3017064	清水寺
3017065	青苔寺
3017068	千手院
3017069	善正寺
3017071	全応院
3017071（前）	全応院
3017074	仲泉寺
3017079	灯外庵
3017082	東陽軒
3017083	東林寺
3017085	能智院
3017093	放光寺
3017096	宝珠院
3017098	法昌寺
3017100	法盛寺
3017102	法伝寺
3017104	法蓮寺
3017105	本要寺
3017108	妙善寺
3017111	望月庵
3017114	涌泉寺
3017118	竜光院
3017124	東隠軒

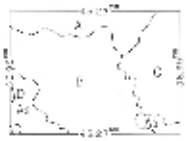
甲州市（勝沼町）

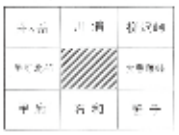
3018017	自福院
3018023	小林寺
3018026	真光寺
3018032	大正院
3018035	東春庵
3018036	東漸院
3018037	東林院
3018040	福泉寺
3018044	法寿院
3018045	本立寺
3018048	立正寺
3018049	立正寺
3018051	林照寺
3018059	中原寺
3018061	観音堂

山梨市

3020001	牛御堂
3020002	雲光寺
3020003	永安寺
3020004	永昌院
3020006	円通寺
3020007	円福寺
3020007（前）	円福寺
3020008	円福寺
3020009	応現寺
3020012	観音寺
3020013	観音堂（建長寺）
3020014	慶雲寺
3020015	慶松寺
3020016	光雲寺
3020018	光福寺
3020019	光明寺
3020020	金光寺
3020022	慈心院
3020024	実相院
3020025	宗禅寺
3020027	宿願寺
3020028	寿仏庵
3020029	寿命院
3020031	順正院
3020032	常性寺
3020033	聖徳寺
3020036	浄林寺
3020037	真休寺
3020039	神宮寺
3020040	信盛院
3020042	西願寺
3020043	西称院
3020044	清水寺
3020045	清白寺
3020046	善養寺
3020047	禅林寺
3020052	太子寺
3020054	知足院
3020056	長源寺
3020059	長福寺
3020060	通宝寺
3020061	伝宗寺
3020063	東前寺
3020063（前）	東前寺
3020064	湯前寺
3020065	福寿院
3020066	普賢寺
3020068	不動寺
3020070	宝積寺

続きは108図へ





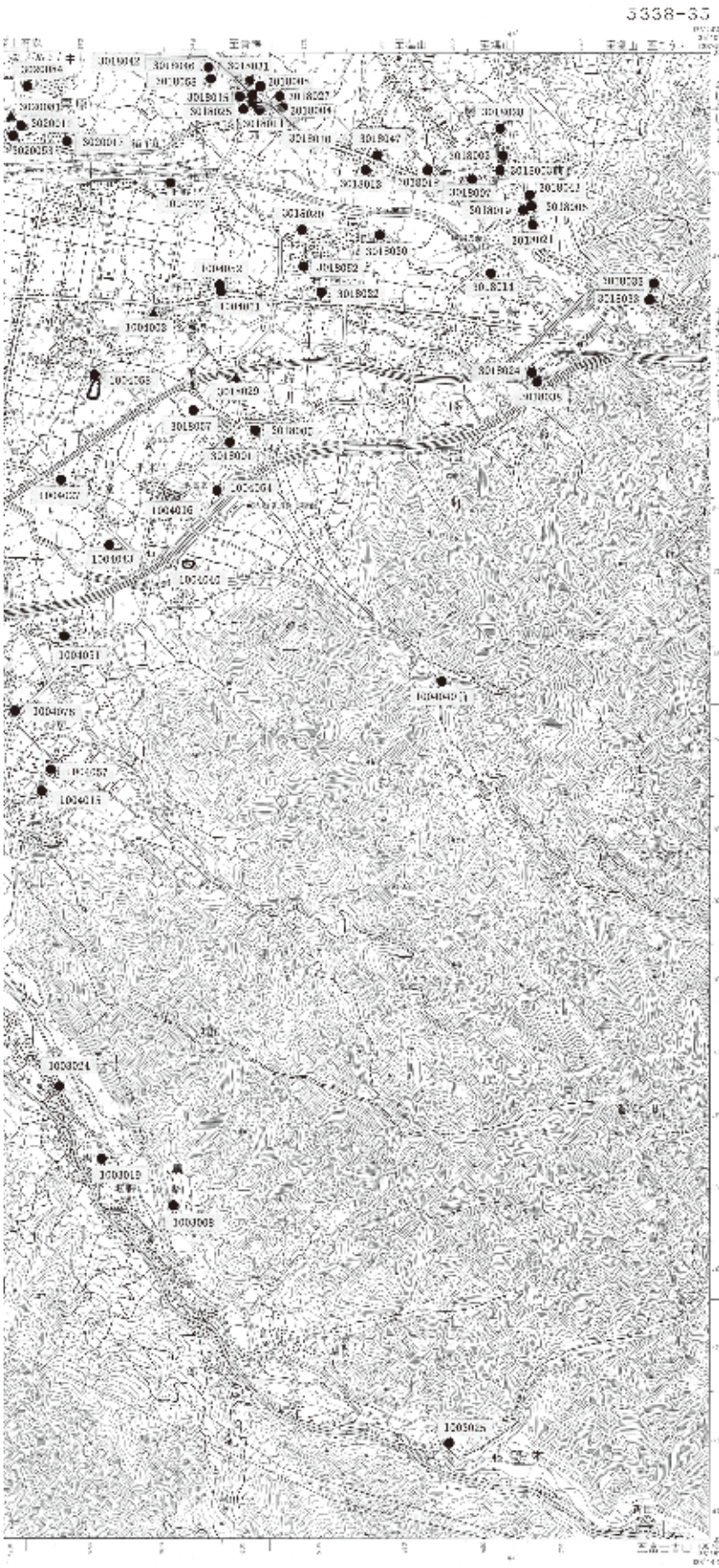
1:25,000　塩　山

国土地理院

1:25,000地形図 NI-54-31-7-1
いさわ (甲府7号-1)
石 和

第32図　分布図28

承認番号　平成20業複　第618号



笛吹市（境川町）

1001007	光照寺
1001012	聖応寺
1001012（前）	聖応寺
1001017	真乗寺
1001023	竜松寺

笛吹市（八代町）

1002001	教善寺
1002002	吉祥院
1002003	広済寺
1002004	光善寺
1002005	西光寺
1002006	自性寺
1002007	浄源寺
1002007（前）	浄源寺
1002008	城念寺
1002009	紹隆寺
1002011	定林寺
1002012	心月院
1002014	清水寺
1002015	清道院
1002016	善国寺
1002017	千手院
1002019	長全寺
1002021	普門寺
1002022	法雲寺
1002023	法城寺
1002024	宝福院
1002026	本行寺
1002027	妙昌寺
1002028	祐泉寺
1002029	瑜伽寺
1002031	竜安寺
1002032	楞厳寺
1002033	蓮昌寺
1002034	海蔵院
1002037	万福院
1002040	竜宝院
1002042	宝寿庵
1002043	門妙院

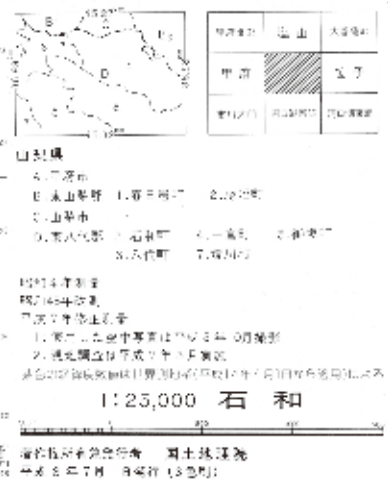
笛吹市（御坂町）

1003002	海潮院
1003004	歓竜寺
1003005	九品寺
1003006	解脱院
1003007	光国寺
1003008	広徳寺
1003012	西光寺
1003013	西念寺
1003014	正因寺
1003015	慈雲寺
1003016	慈光寺
1003019	称願寺
1003020	正寿院
1003021	慈泉院
1003022	定得寺
1003023	常楽寺
1003024	浄竜寺
1003025	正福寺
1003026	正法寺
1003028	善導寺
1003031	躰性寺
1003032	長泉寺
1003033	南照院
1003034	報光寺
1003035	宝珠院
1003036	福光園寺
1003038	福泉寺
1003039	妙円寺
1003041	妙昌院
1003042	文殊院

笛吹市（一宮町）

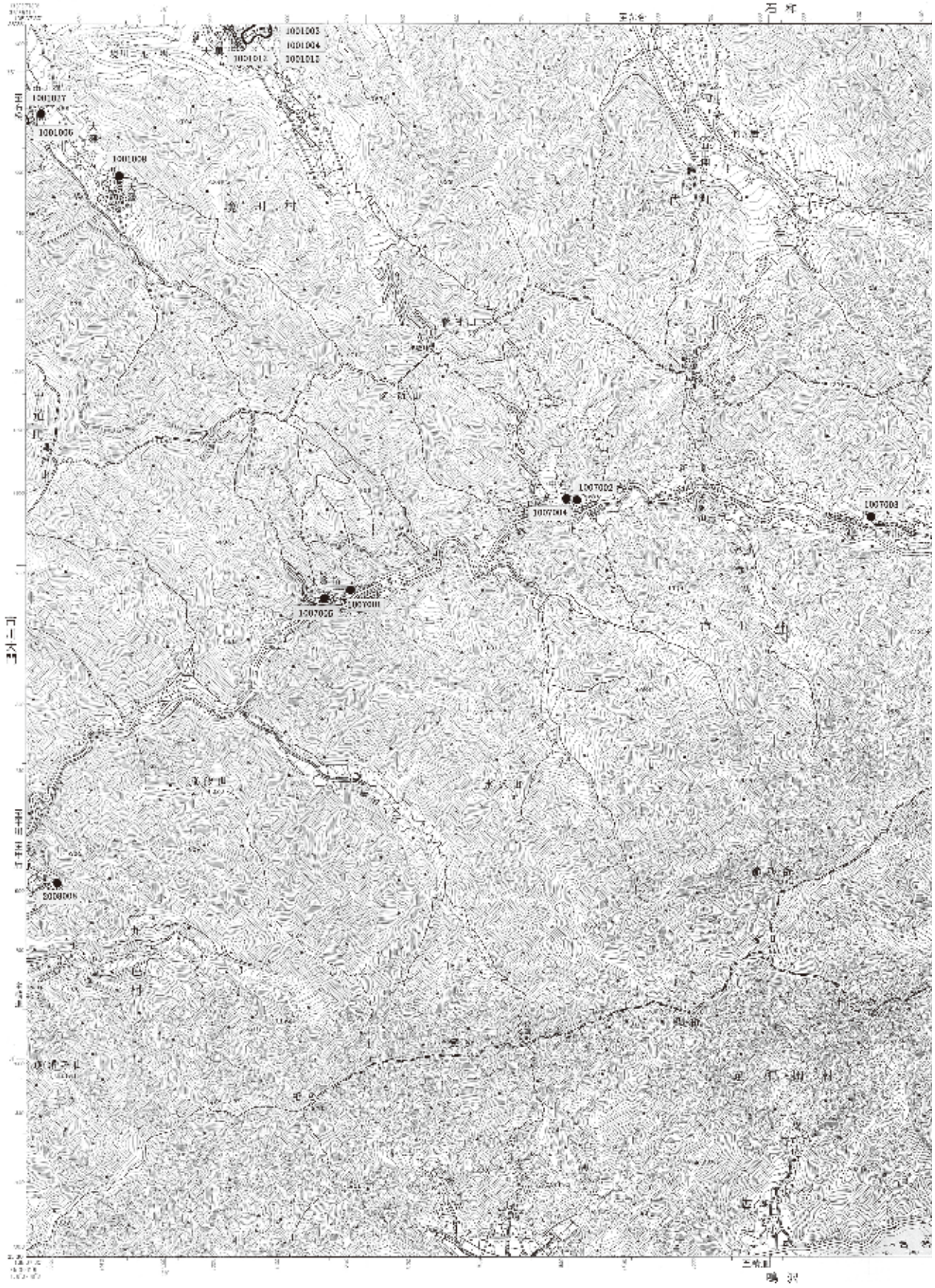
1004003	延命寺
1004004	海福院
1004005	楽音寺
1004008	観音寺
1004009	喜雲院
1004012	玉泉寺
1004014	光久寺
1004015	広厳院
1004016	光福寺
1004019	香蓮寺
1004020	国分寺
1004024	極法寺
1004025	西運寺
1004026	慈眼寺
1004027	地蔵寺
1004029	春光寺
1004030	小玉寺
1004031	浄泉寺
1004031（前）	浄泉寺
1004033	正伝院
1004034	神宮寺
1004035	真光寺
1004036	瑞蓮寺
1004037	清岩寺
1004038	清光院
1004039	清泉寺
1004040	石林寺
1004040（前）	石林寺
1004041	泉正寺
1004042	大応院
1004043	大光院
1004044	太子堂
1004046	超願寺
1004047	長寿院
1004048	長昌寺
1004049	長厳寺
1004050	長徳寺
1004051	東新寺
1004052	徳本寺
1004054	廃銭米寺
1004056	普明寺
1004057	普門院
1004058	宝樹院
1004059	宝福寺
1004059（前）	宝福寺
1004061	本城寺
1004062	品念寺

続きは108図へ



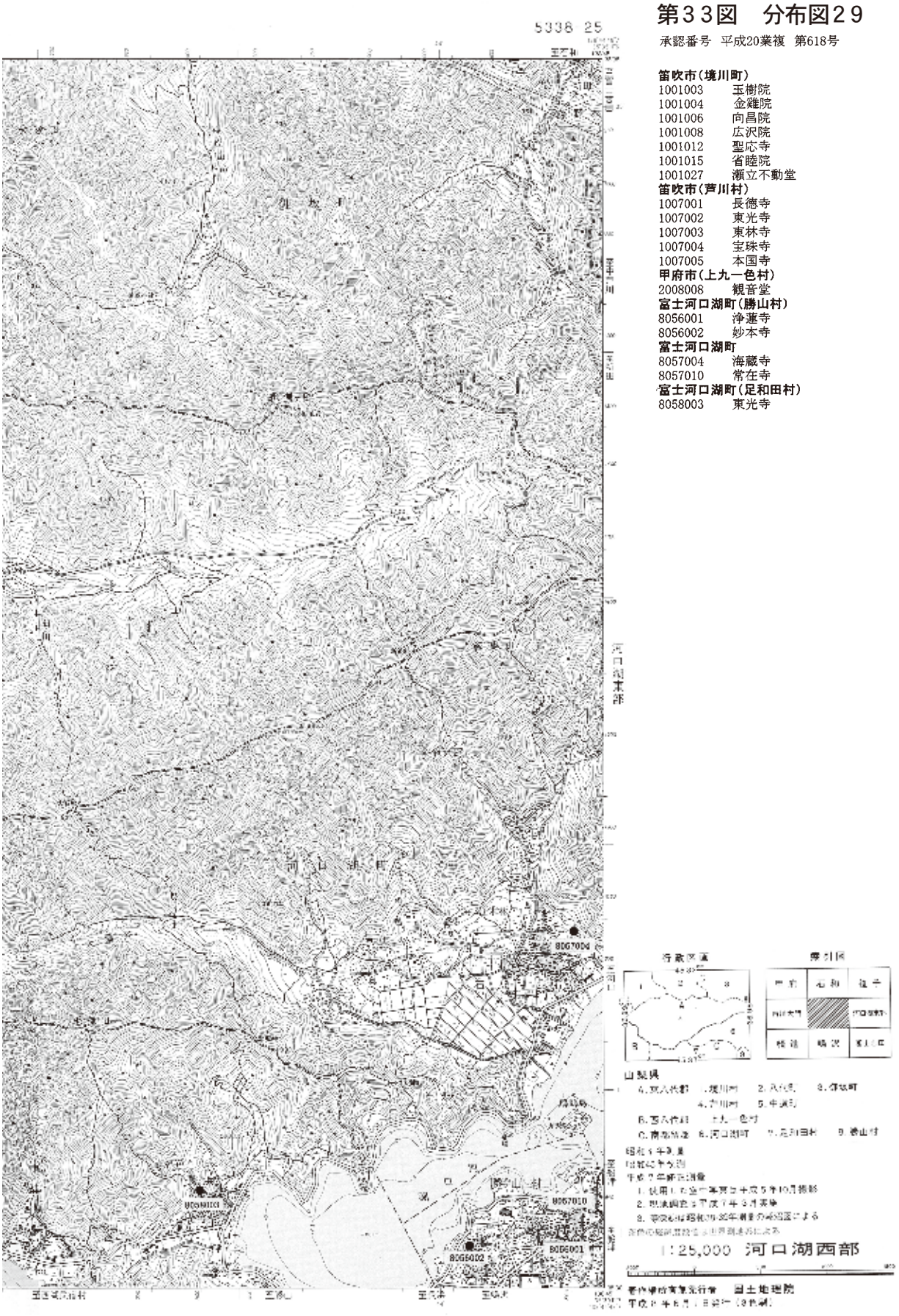
1:25,000 地形図　NI-54-31-7-2
かわぐちこせいぶ　（平成7号-2）

河口湖西部



第３３図　分布図２９

承認番号　平成20業複　第618号



笛吹市（境川町）
1001003　玉樹院
1001004　金雞院
1001006　向昌院
1001008　広沢院
1001012　聖応寺
1001015　省睦院
1001027　瀬立不動堂

笛吹市（芦川村）
1007001　長徳寺
1007002　東光寺
1007003　東林寺
1007004　宝珠寺
1007005　本国寺

甲府市（上九一色村）
2008008　観音堂

富士河口湖町（勝山村）
8056001　浄蓮寺
8056002　妙本寺

富士河口湖町
8057004　海蔵寺
8057010　常在寺

富士河口湖町（足和田村）
8058003　東光寺

1:25,000 地形図　N-54-31-8-1
なるさわ　（平成8年-1）
鳴　沢
河口湖西部

第３４図　分布図３０

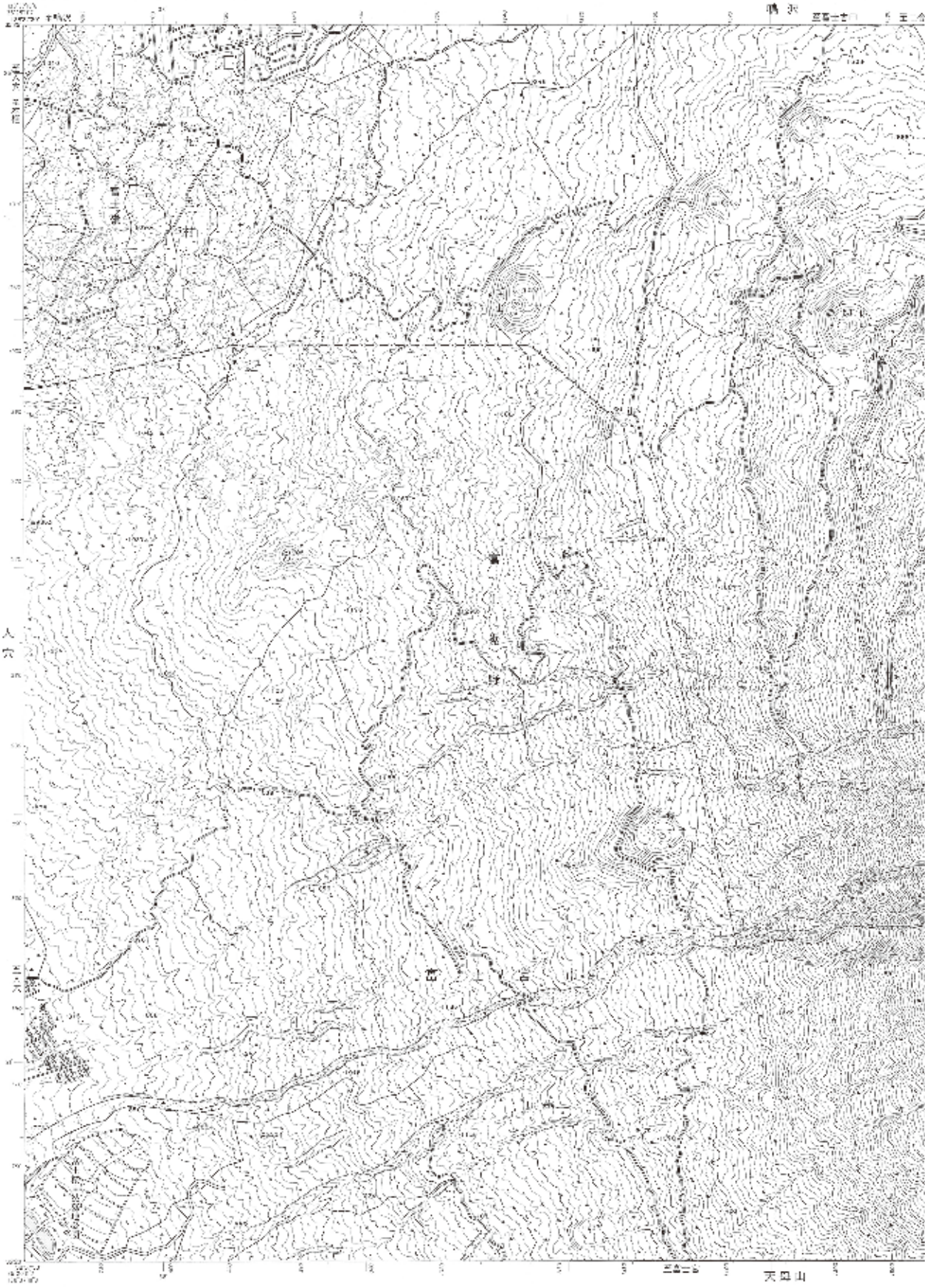
承認番号　平成20業複　第618号

鳴沢村
8055001　　通玄寺
富士河口湖町(足和田村)
8058004　　蓮華寺

1:25,000　鳴　沢

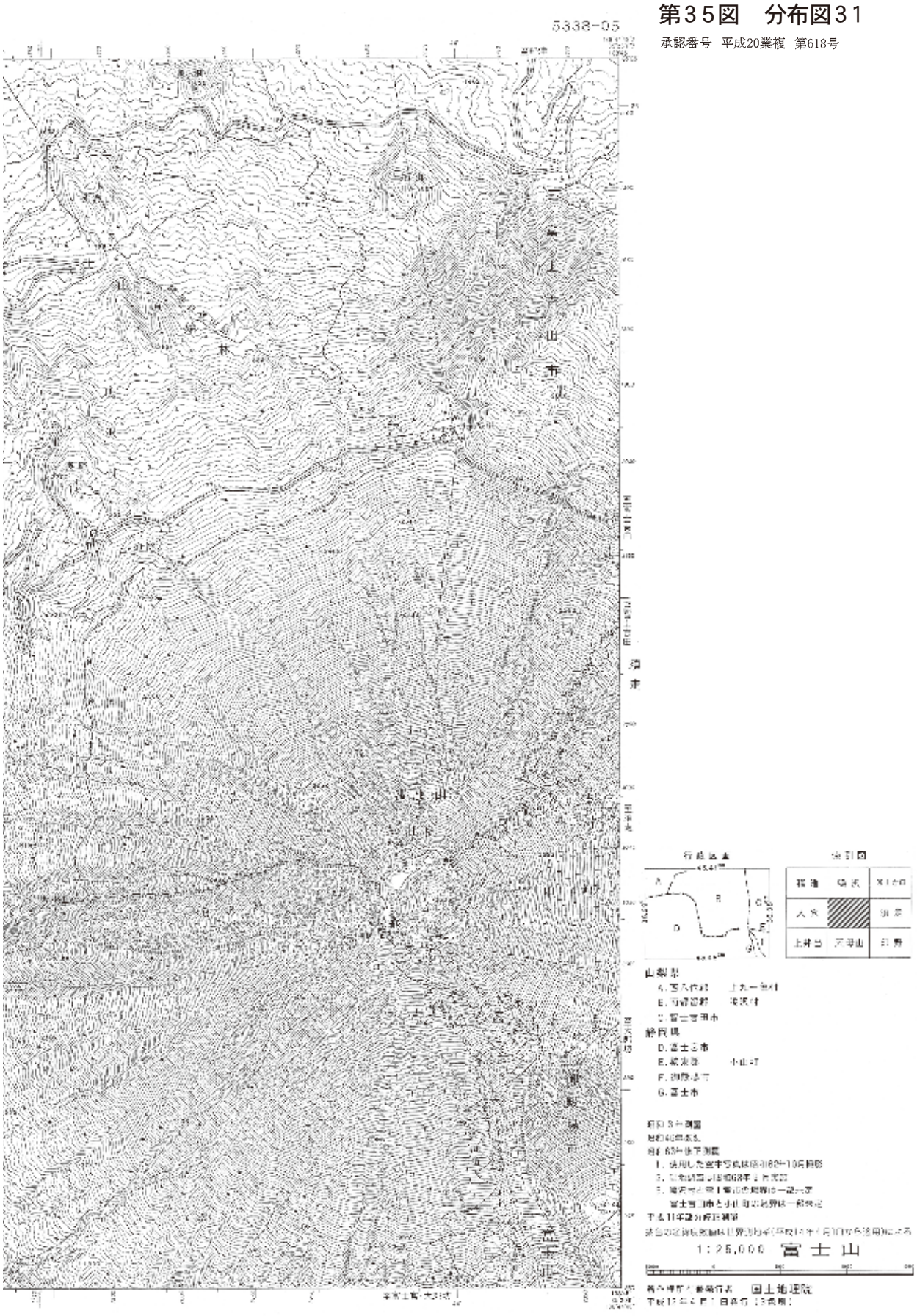
1:25,000 地形図　N-54-31-8-2
ふじさん　　（平成8年 2）

富士山



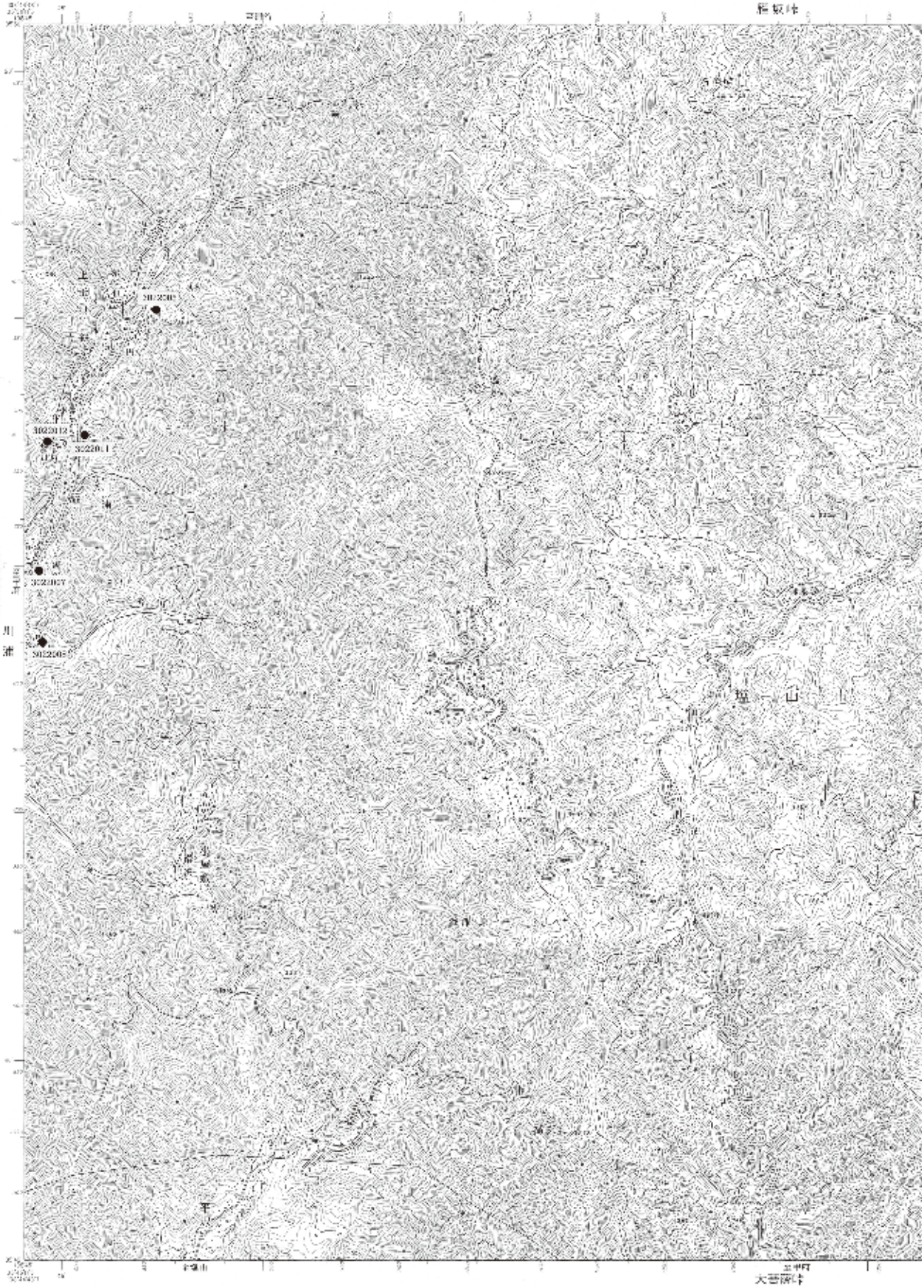
第35図　分布図31

承認番号　平成20業複　第618号



1:25,000地形図　NI-54-31-2-3
やなざさわとうげ（甲府2号-3）

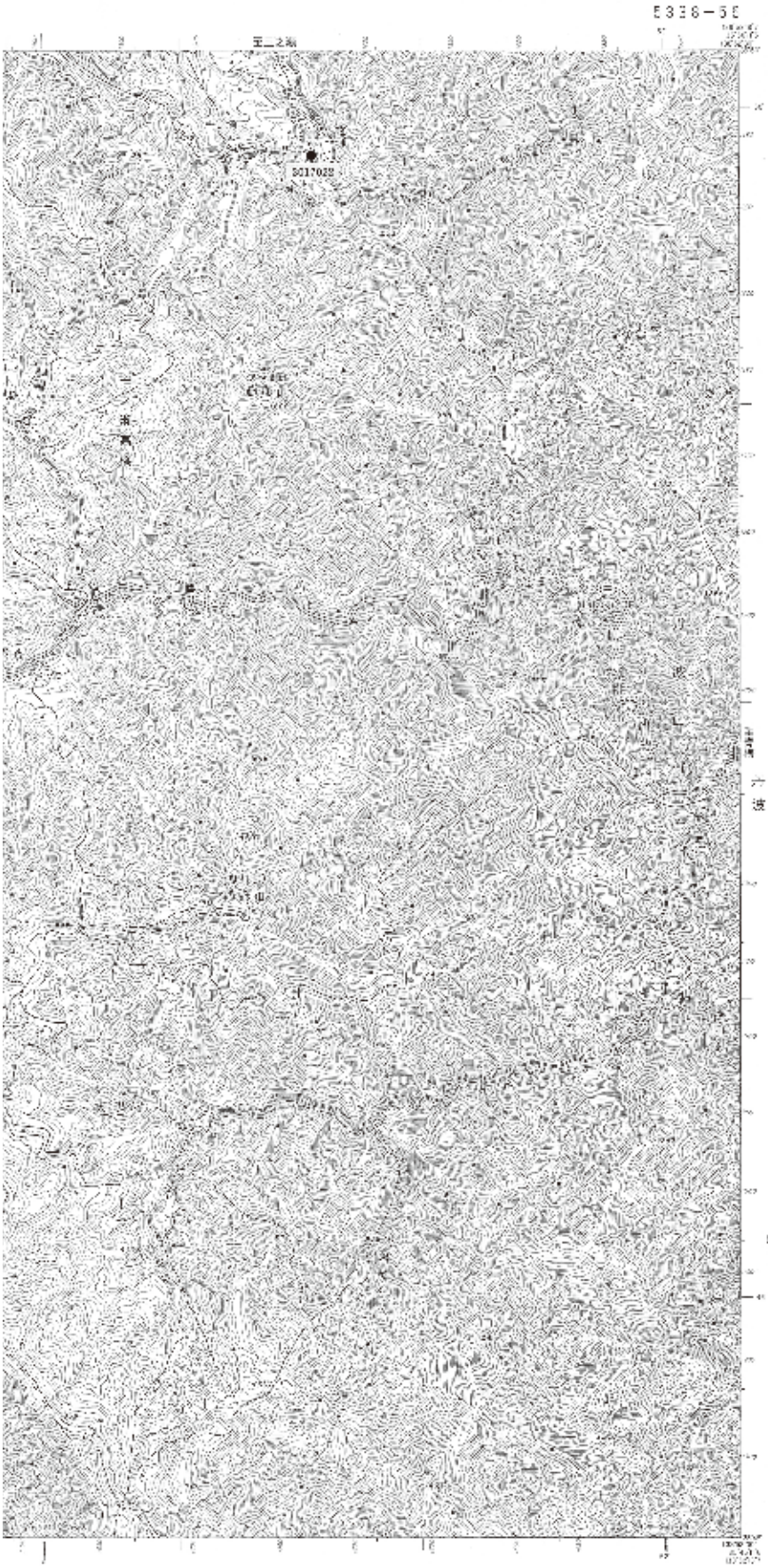
柳沢峠

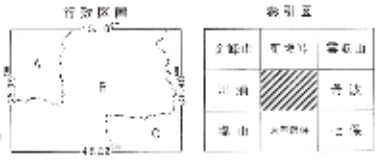


第３６図　分布図３２

承認番号　平成20業複　第618号

甲州市（塩山市）
3017022　金鶏寺
山梨市（三富村）
3022005　秋月寺
3022007　泉昌寺
3022008　善福寺
3022011　竜泉寺
3022012　常徳院

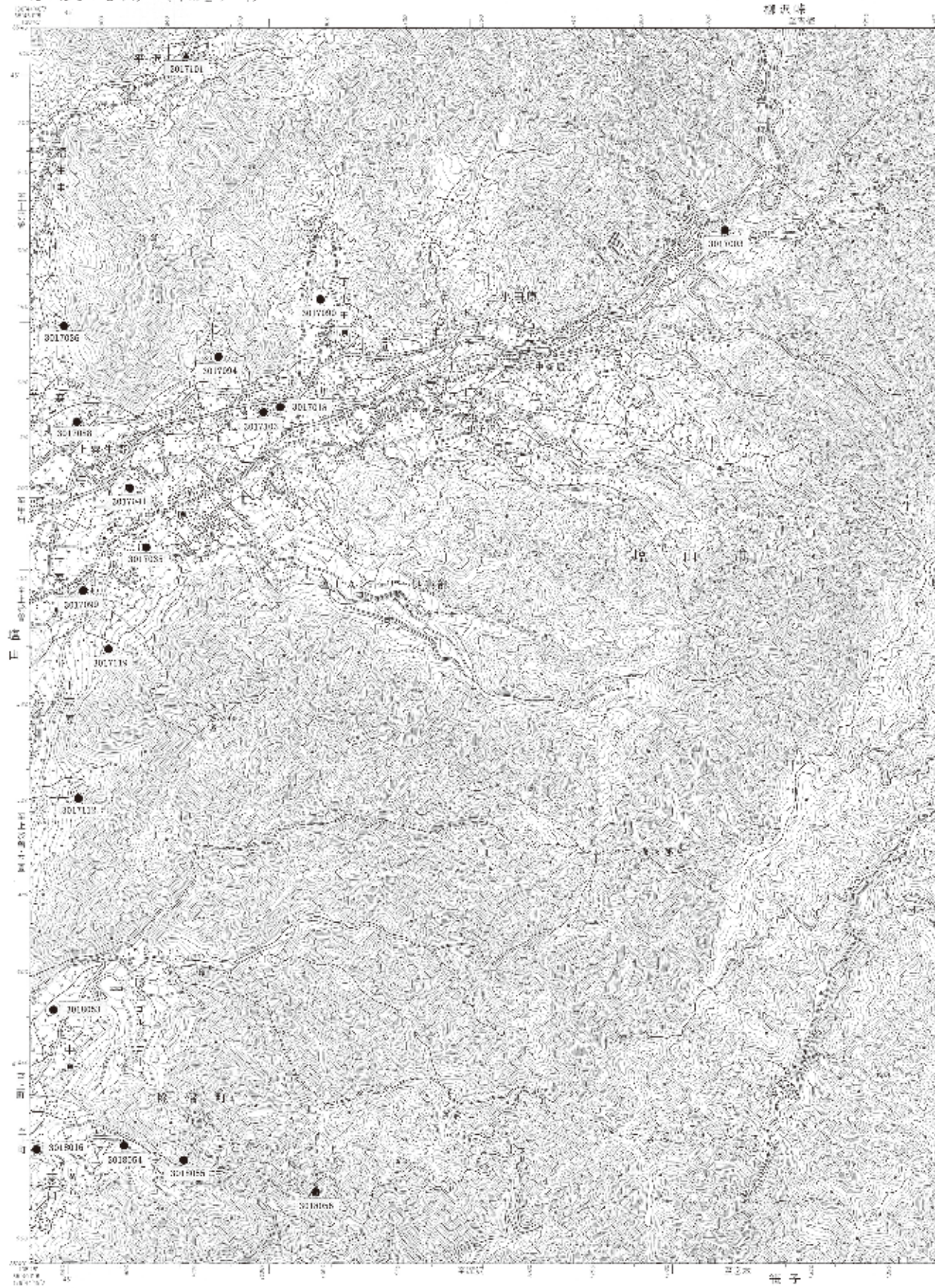




1:25,000　柳沢峠

1:25,000 地形図　NI-54-31-2-4
だいぼさつとうげ　（甲府2号-4）

大菩薩峠



第37図　分布図33

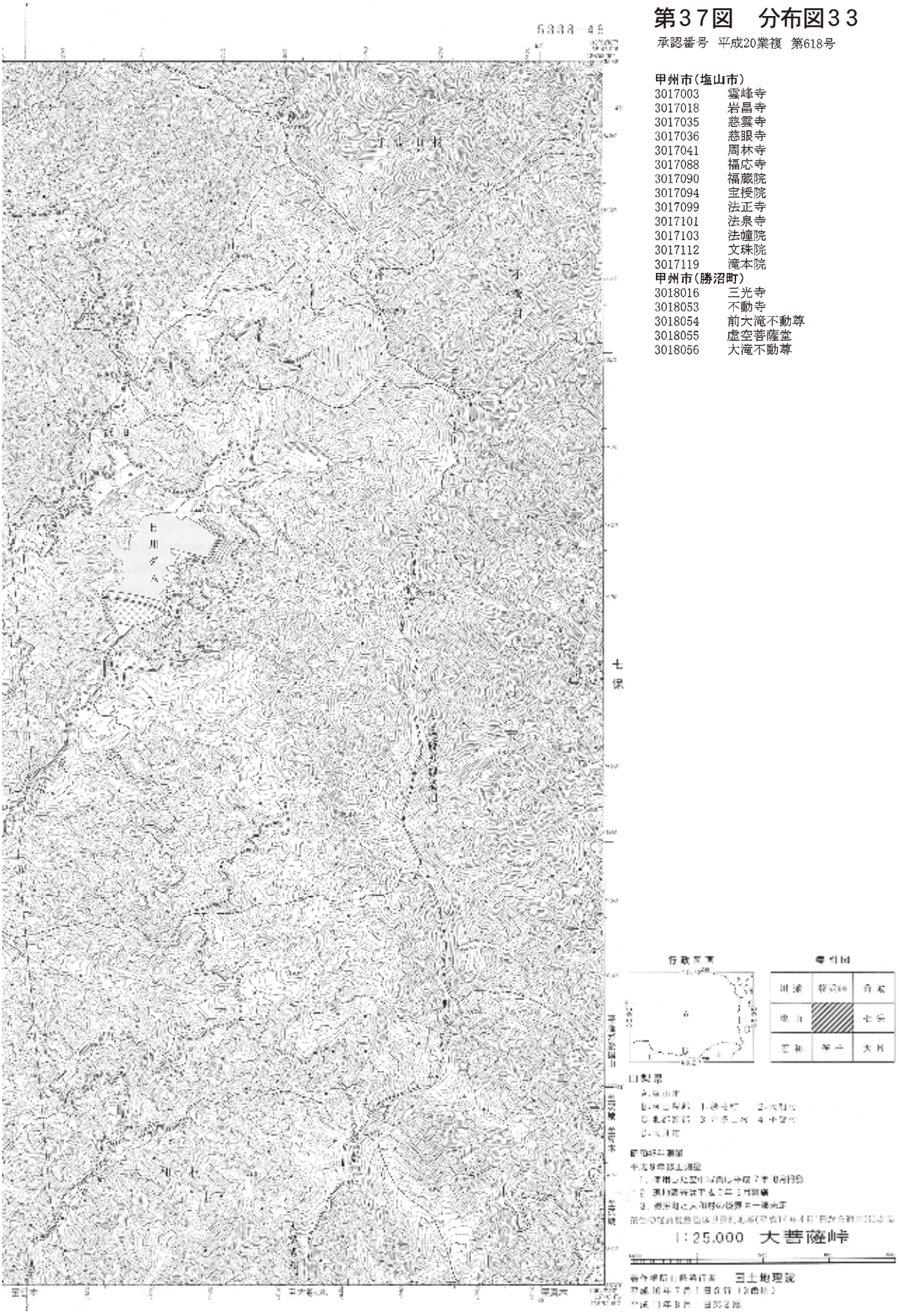
承認番号　平成20業複　第618号

甲州市（塩山市）

3017003	霊峰寺
3017018	岩昌寺
3017035	慈霊寺
3017036	慈眼寺
3017041	周林寺
3017088	福応寺
3017090	福厳院
3017094	宝授院
3017099	法正寺
3017101	法泉寺
3017103	法幢院
3017112	文珠院
3017119	滝本院

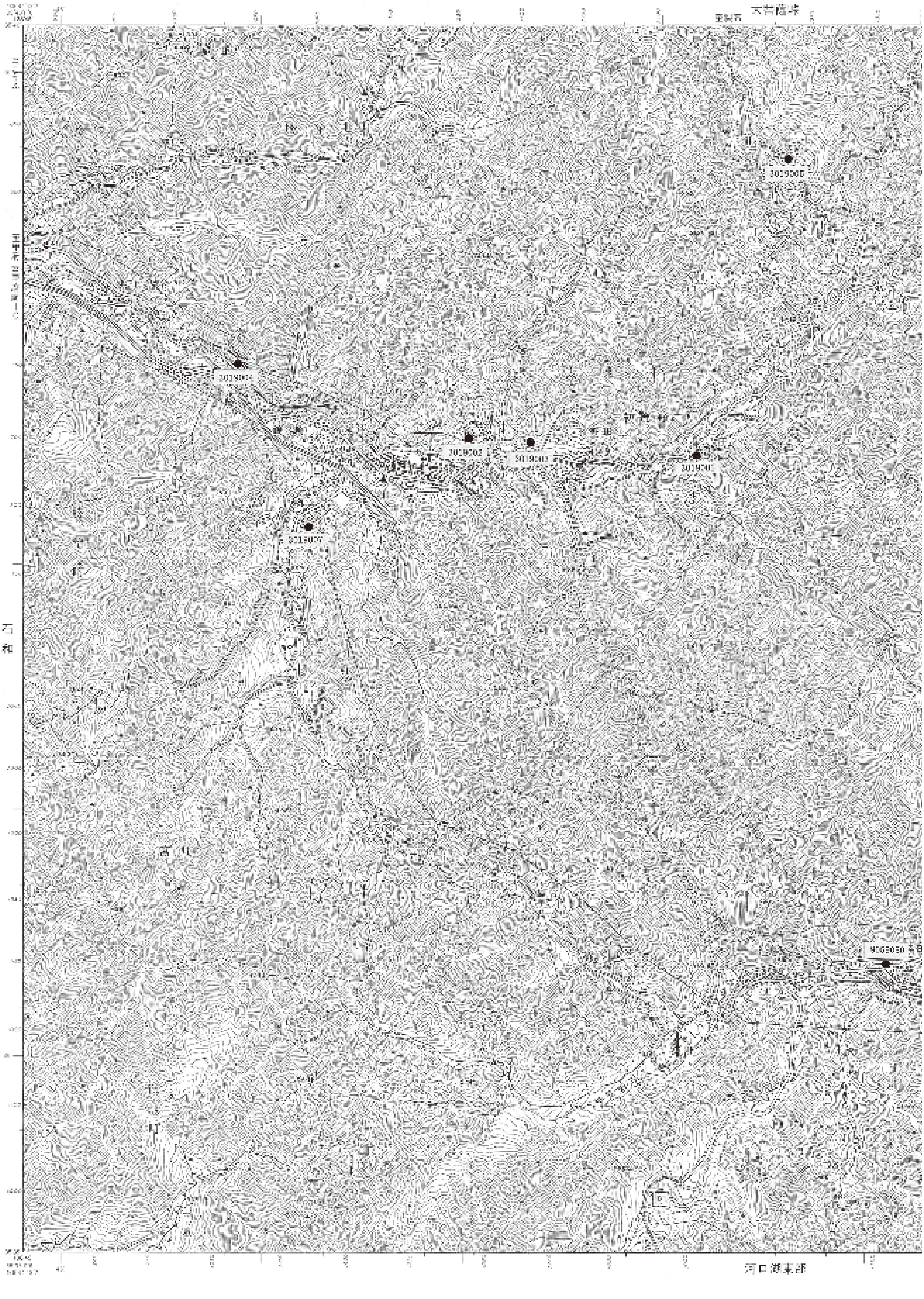
甲州市（勝沼町）

3018016	三光寺
3018053	不動寺
3018054	前大滝不動尊
3018055	虚空菩薩堂
3018056	大滝不動尊



1:25,000 地形図　M-54-31-3-3
ささご　(甲府3号-3)

笹　子



第３８図　分布図３４

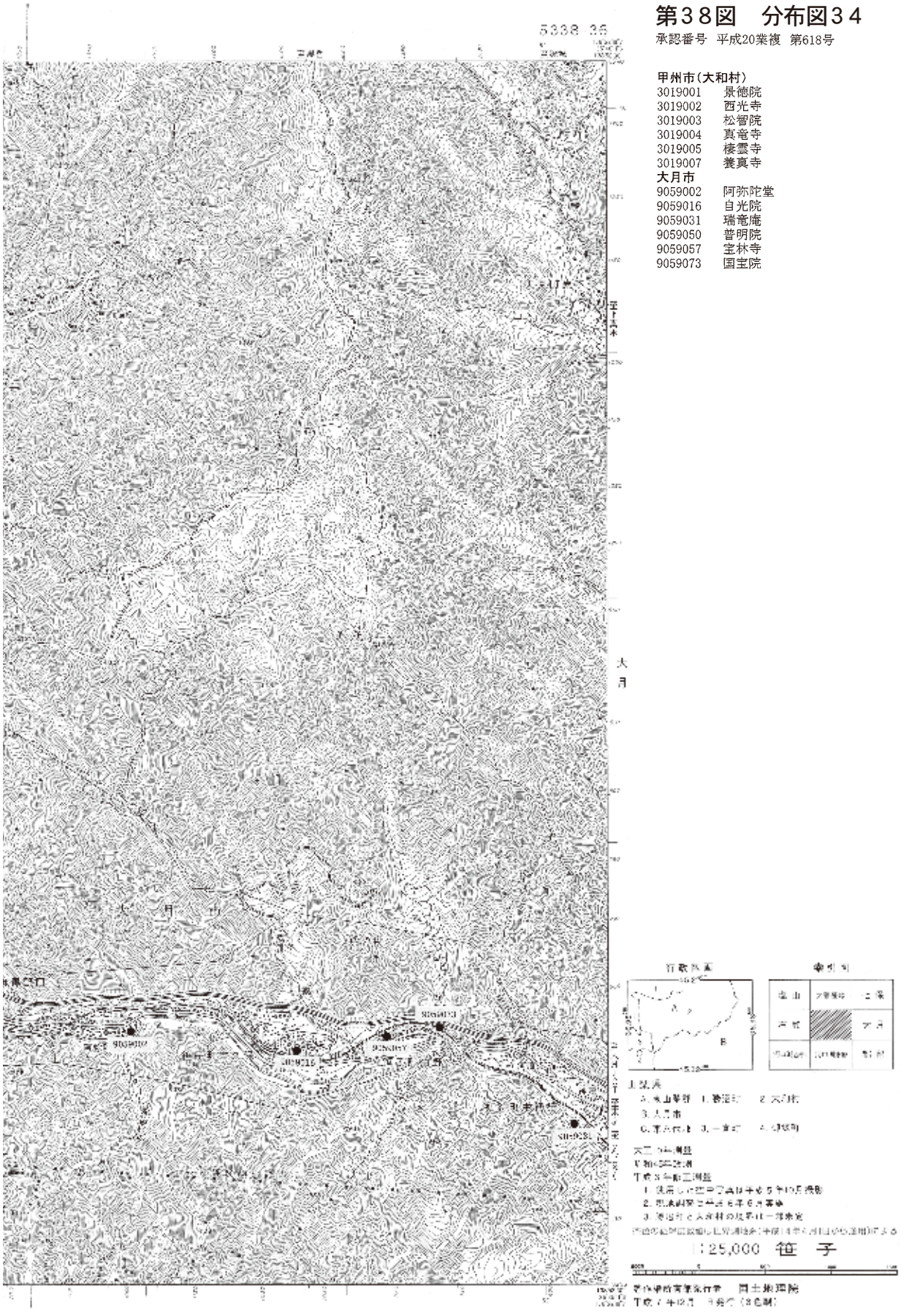
承認番号　平成20業複　第618号

甲州市（大和村）

3019001　景徳院
3019002　西光寺
3019003　松智院
3019004　真竜寺
3019005　棲雲寺
3019007　養真寺

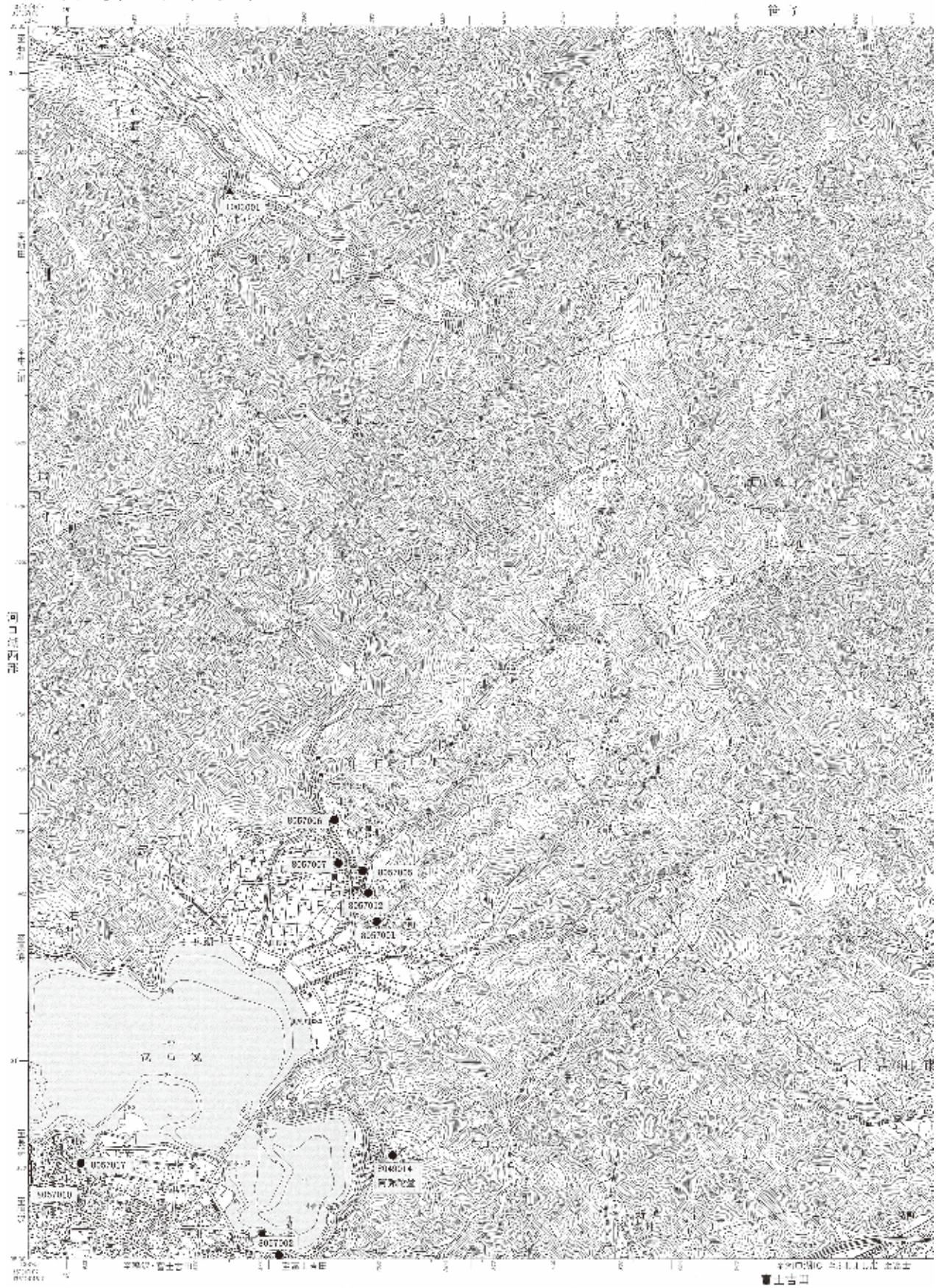
大月市

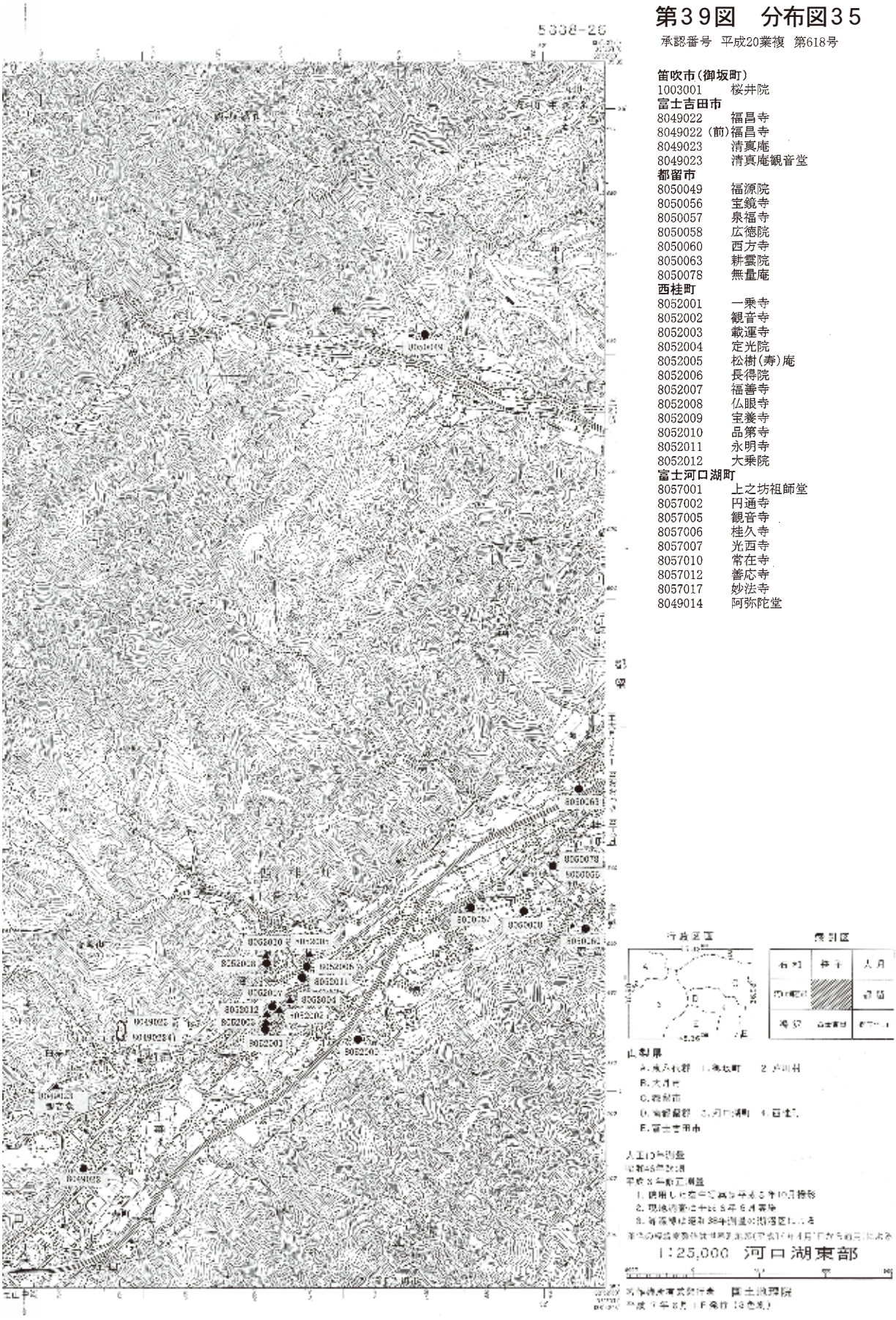
9059002　阿弥陀堂
9059016　自光院
9059031　瑞竜庵
9059050　普明院
9059057　宝林寺
9059073　国宝院



1:25,000 地形図　NI-54-31-3-4
かわぐちことうぶ　（甲府8号-4）

河口湖東部





第39図　分布図35

承認番号　平成20業複　第618号

笛吹市(御坂町)
1003001　桜井院
富士吉田市
8049022　福昌寺
8049022 (前)福昌寺
8049023　清真庵
8049023　清真庵観音堂
都留市
8050049　福源院
8050056　宝鏡寺
8050057　泉福寺
8050058　広徳院
8050060　西方寺
8050063　耕雲院
8050078　無量庵
西桂町
8052001　一乗寺
8052002　観音寺
8052003　載運寺
8052004　定光院
8052005　松樹(寿)庵
8052006　長得院
8052007　福善寺
8052008　仏眼寺
8052009　宝養寺
8052010　品第寺
8052011　永明寺
8052012　大乗院
富士河口湖町
8057001　上之坊祖師堂
8057002　円通寺
8057005　観音寺
8057006　桂久寺
8057007　光西寺
8057010　常在寺
8057012　善応寺
8057017　妙法寺
8049014　阿弥陀堂

1:25,000 地形図 NI-54-31-4-3
ふじよしだ (甲府4号-3)

富士吉田

第４０図　分布図３６

承認番号　平成20業複　第618号

富士吉田市

8049001　吉祥寺
8049002　祥泰庵
8049003　上行寺
8049004　地蔵寺
8049005　善導寺
8049006　西念寺
8049007　福源寺
8049007（前）福源寺
8049009　月江寺
8049009　月江寺愛染地蔵堂
8049010　潮音寺
8049011　霊松坊
8049012　正福寺
8049013　大正寺
8049014　如来寺
8049015　万年寺
8049016　西方寺
8049016（前）西方寺
8049016（前）西方寺
8049017　慈光院
8049017（前）慈光院
8049018　輪源寺
8049019　千手院

忍野村

8054001　東円寺
8054001（前）東円寺
8054002　承天寺
8054004　万宝院

富士河口湖町

8057002　円通寺
8057002　最乗塔
8057017　妙法寺法華院
8057021　丸屋地蔵堂

1:25,000 地形図　NI-54-31-4-4
すばしり　（甲府4号-4）

須　走

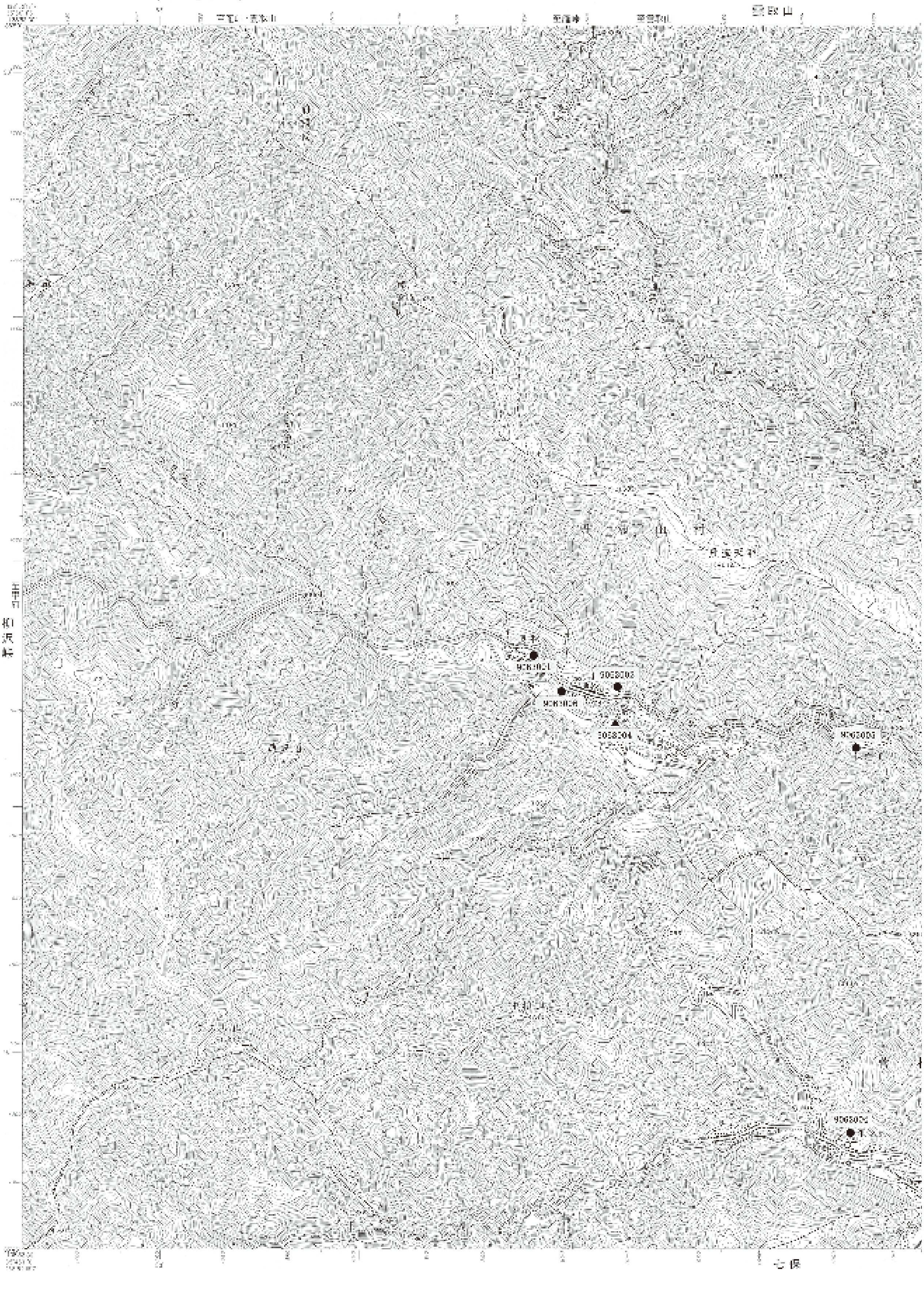
第41図　分布図37

承認番号　平成20業複　第618号

富士河口湖町（勝山村）
8056003　　役行者堂

1:25,000地形図　NI-54-31-2-1
たば　(甲府2号-1)

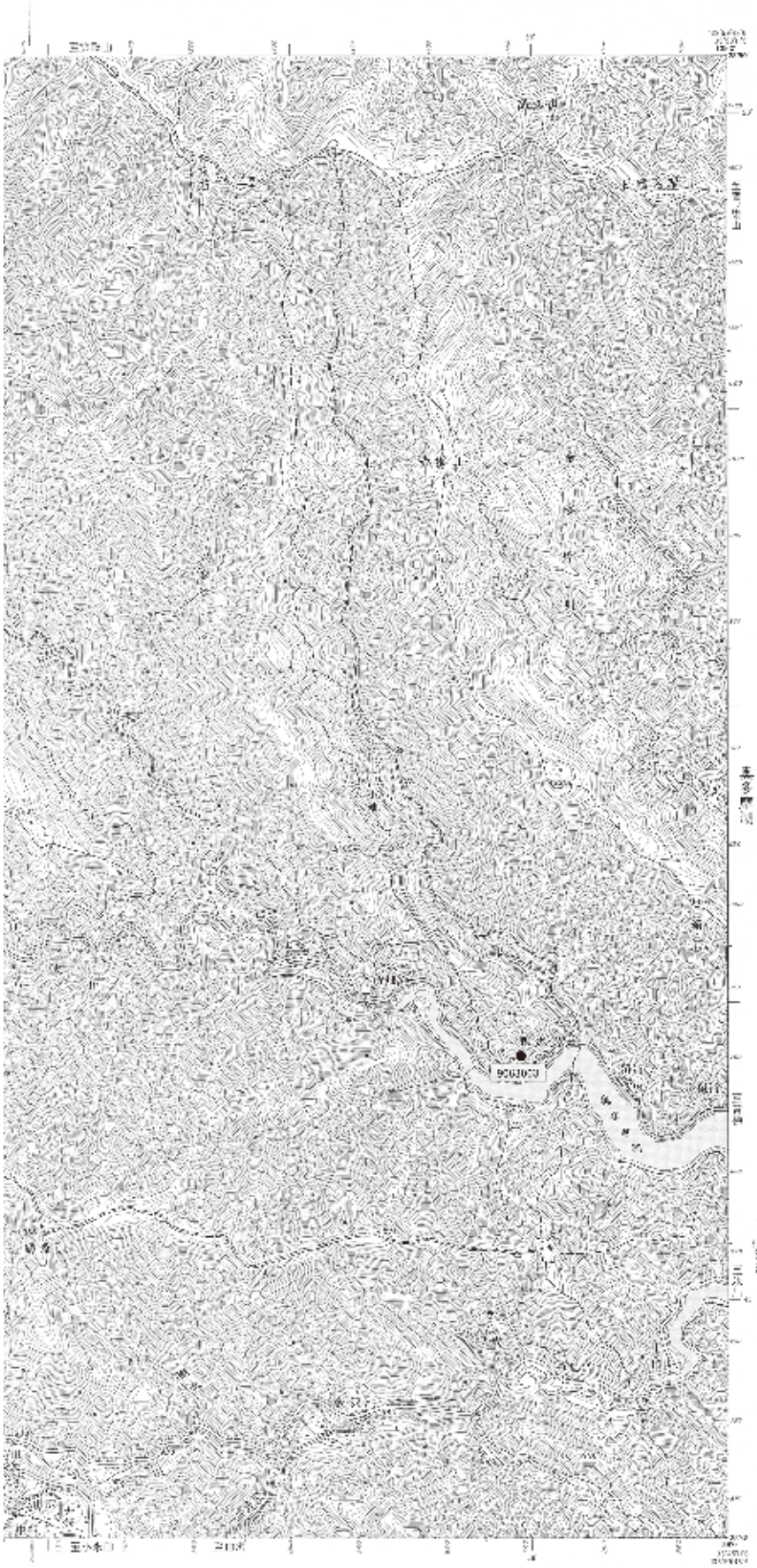
丹　　波

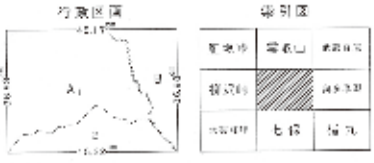


第４２図　分布図３８

承認番号　平成20業複　第618号

小菅村
9062004　宝生寺
丹波山村
9063001　金竜寺
9063002　東福寺
9063003　福寿庵
9063004　福蔵寺
9063005　法興寺
9063006　宝蔵寺





1:25,000　丹　波

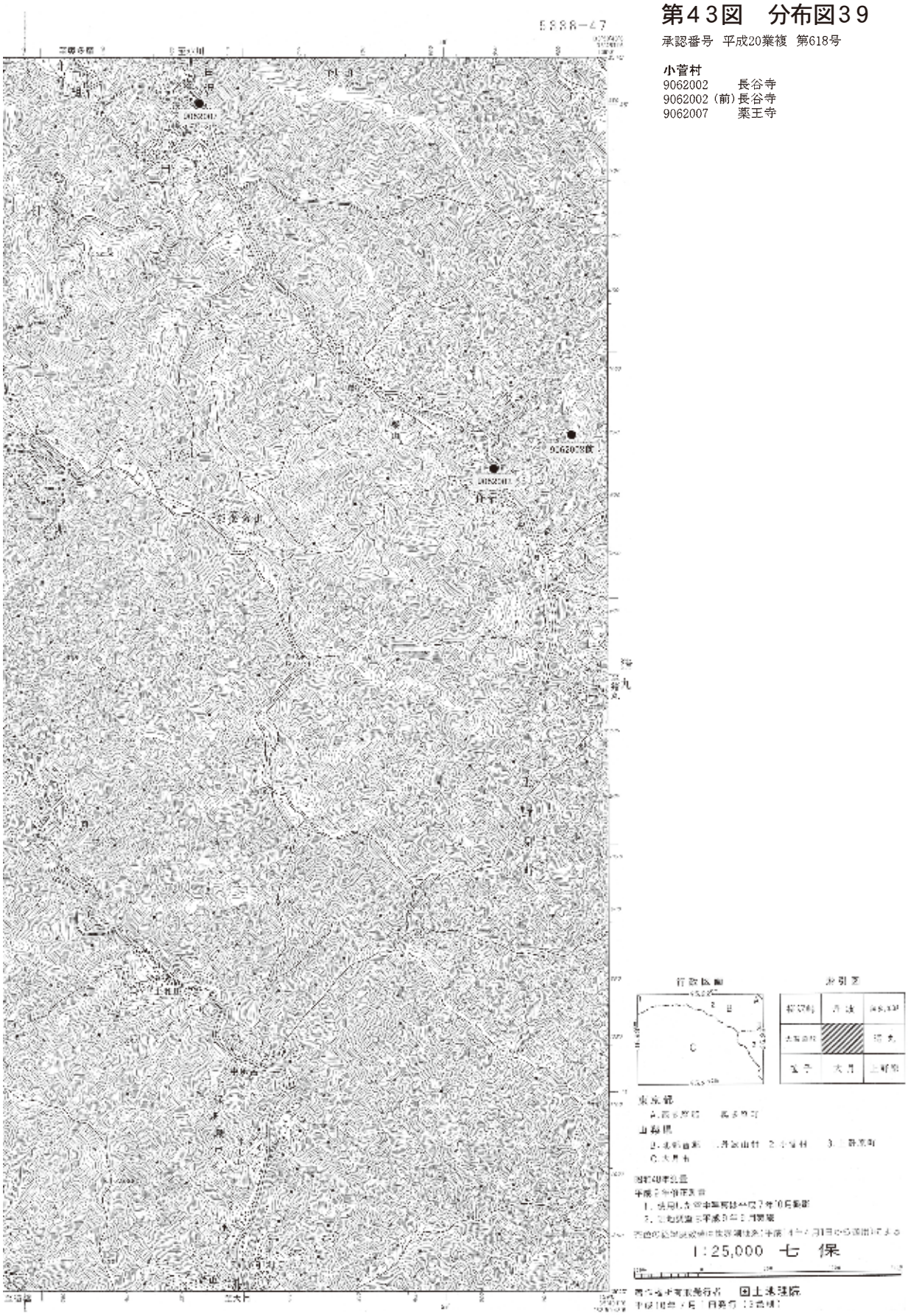
1:25,000 地形図　NI-54-31-2-2
ななほ　（甲府2号-2）

七　保

第４３図　分布図３９

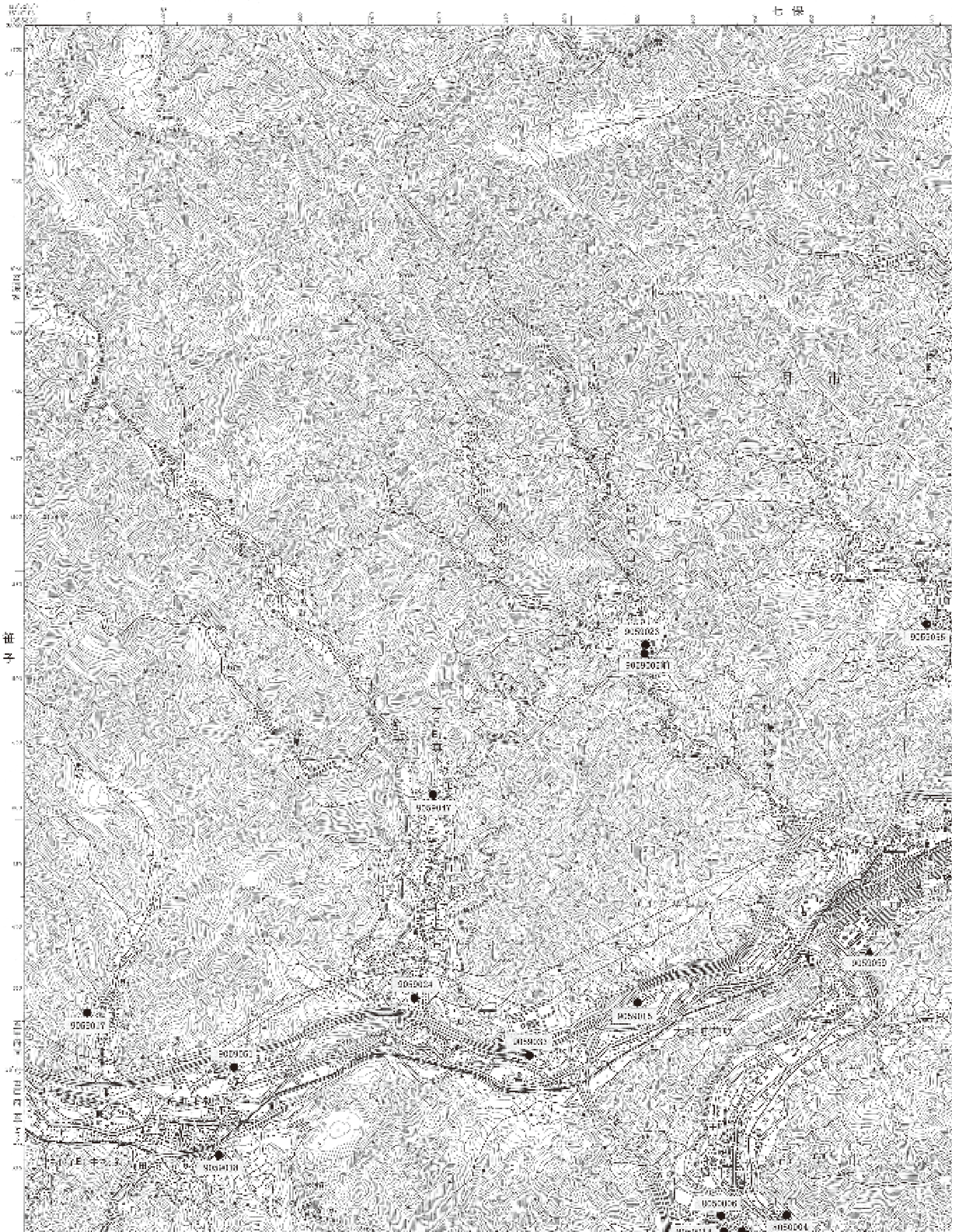
承認番号　平成20業複　第618号

小菅村
9062002　　長谷寺
9062002（前）長谷寺
9062007　　栗王寺



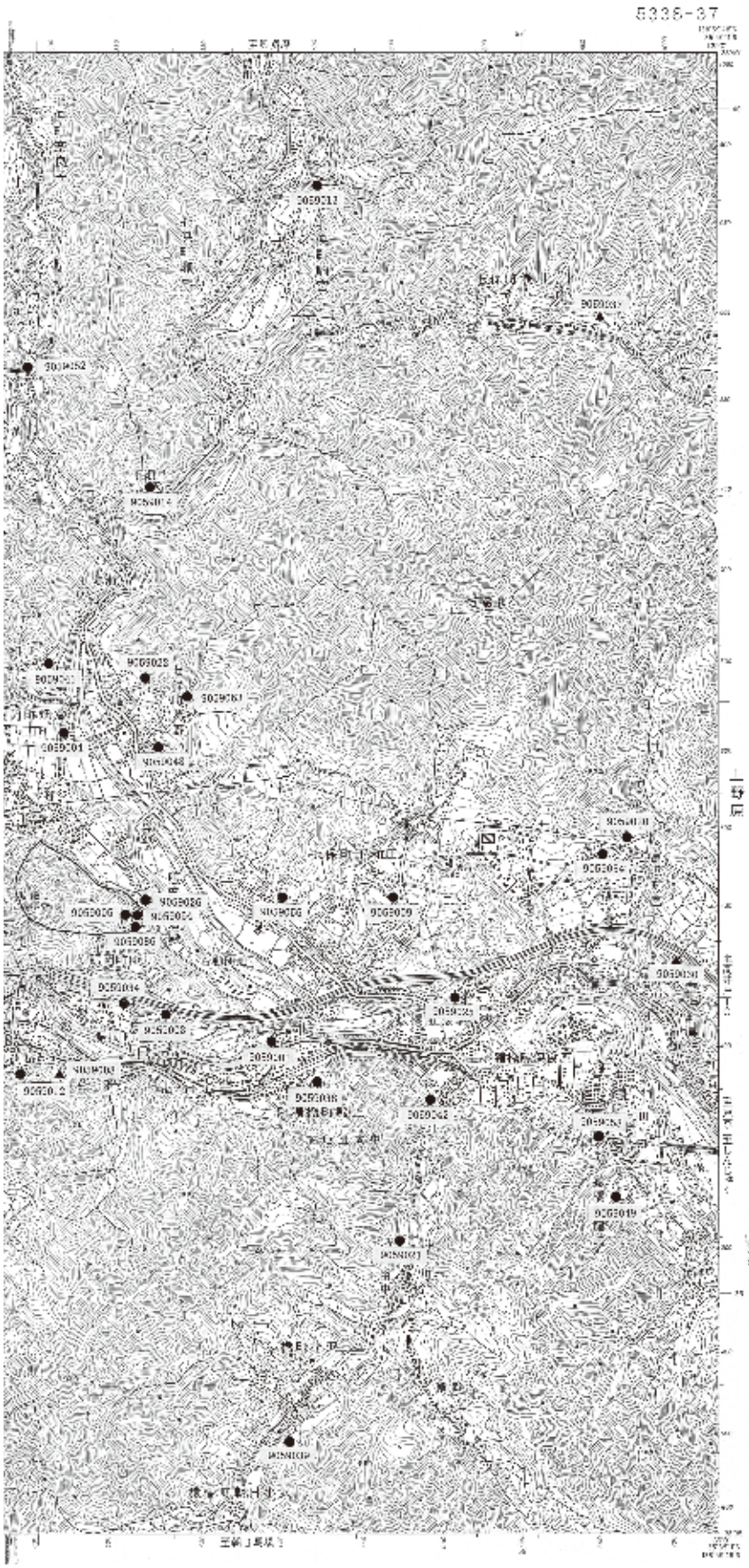
1:25,000 地形図　NI-54-31-3-1
おおつき　(甲府3号-1)

大　月



第４４図　分布図４０

承認番号　平成20業複　第618号



都留市

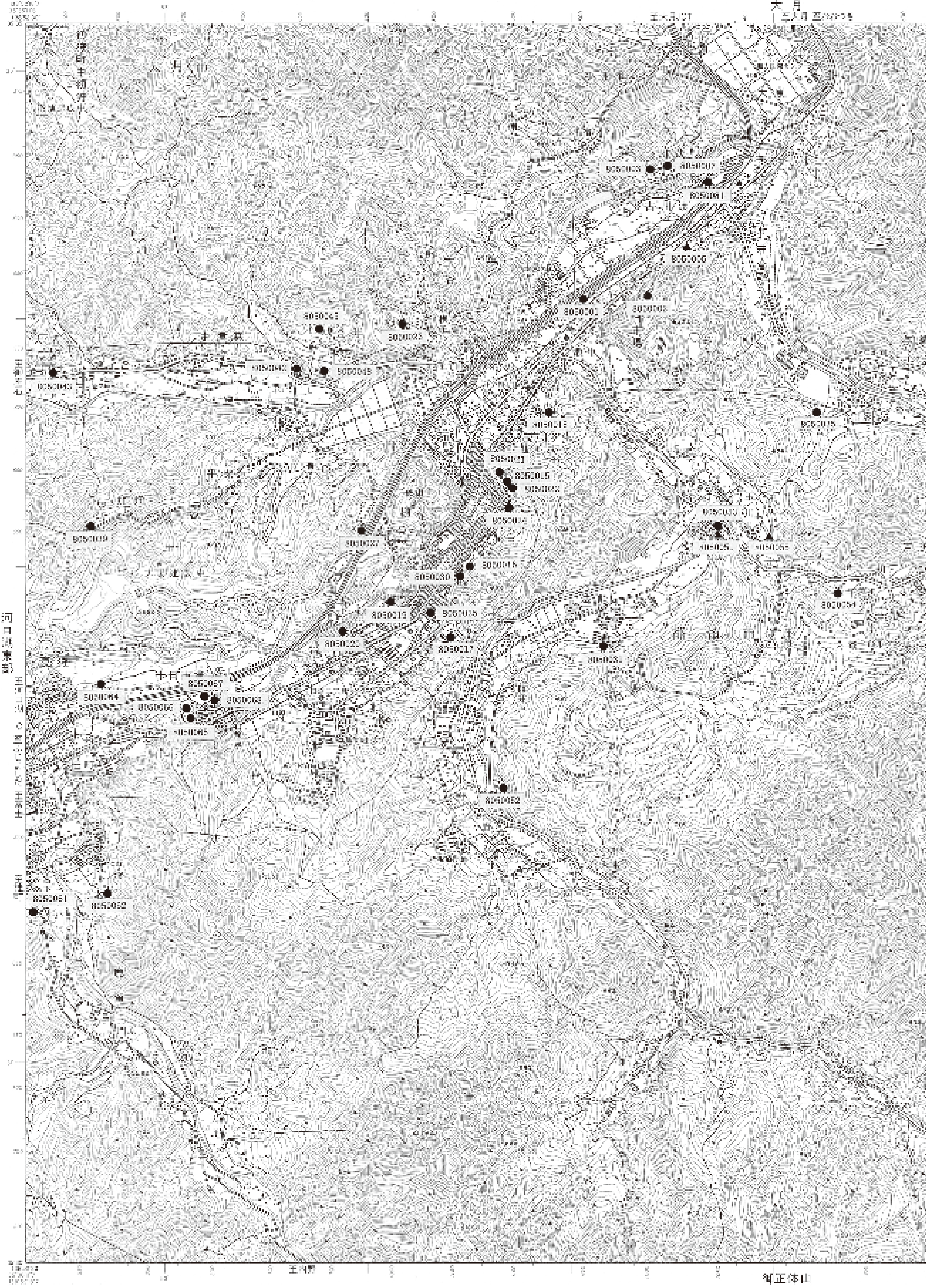
8050004	瑞雲寺
8050006	富春寺
8050008	法福寺
8050014	如意庵

大月市

9059001	阿弥陀寺
9059003	安楽寺
9059004	威徳寺
9059005	円通寺
9059005（前）	円通寺
9059008	延命寺
9059009	花井寺
9059012	光照寺
9059013	光養寺
9059014	金竜寺
9059015	西方寺
9059017	地蔵寺
9059018	自徳院
9059020	正覚寺
9059021	照光院
9059022	常光寺
9059023	浄照寺
9059024	正念寺
9059025	心月寺
9059026	真蔵院
9059030	瑞光寺
9059033	善福寺
9059034	全福寺
9059037	惣安寺
9059038	大椿寺
9059039	長応寺
9059041	東光寺
9059042	東光寺
9059047	福正寺
9059048	福泉寺
9059049	福泉寺
9059051	法雲寺
9059052	宝鏡寺
9059054	宝全寺
9059055	法幢寺
9059056	宝林寺
9059058	妙楽寺
9059059	無遍寺
9059063	涼泉寺
9059064	常楽院
9059086	大坊

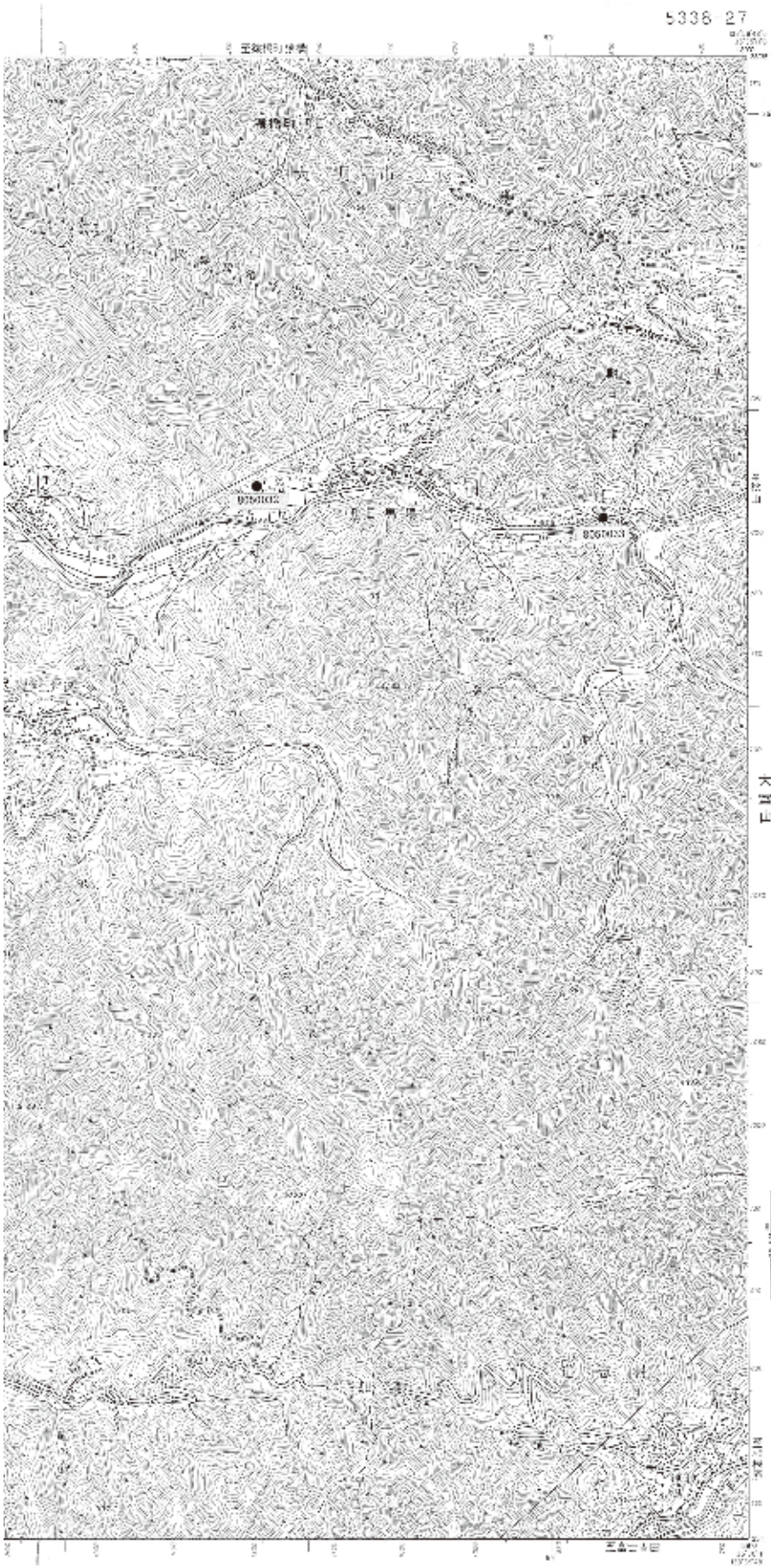
1:25,000 地形図　NI-54-31-3-2
つる　(甲府3号-2)

都　留



第４５図　分布図４１

承認番号　平成20業複　第618号



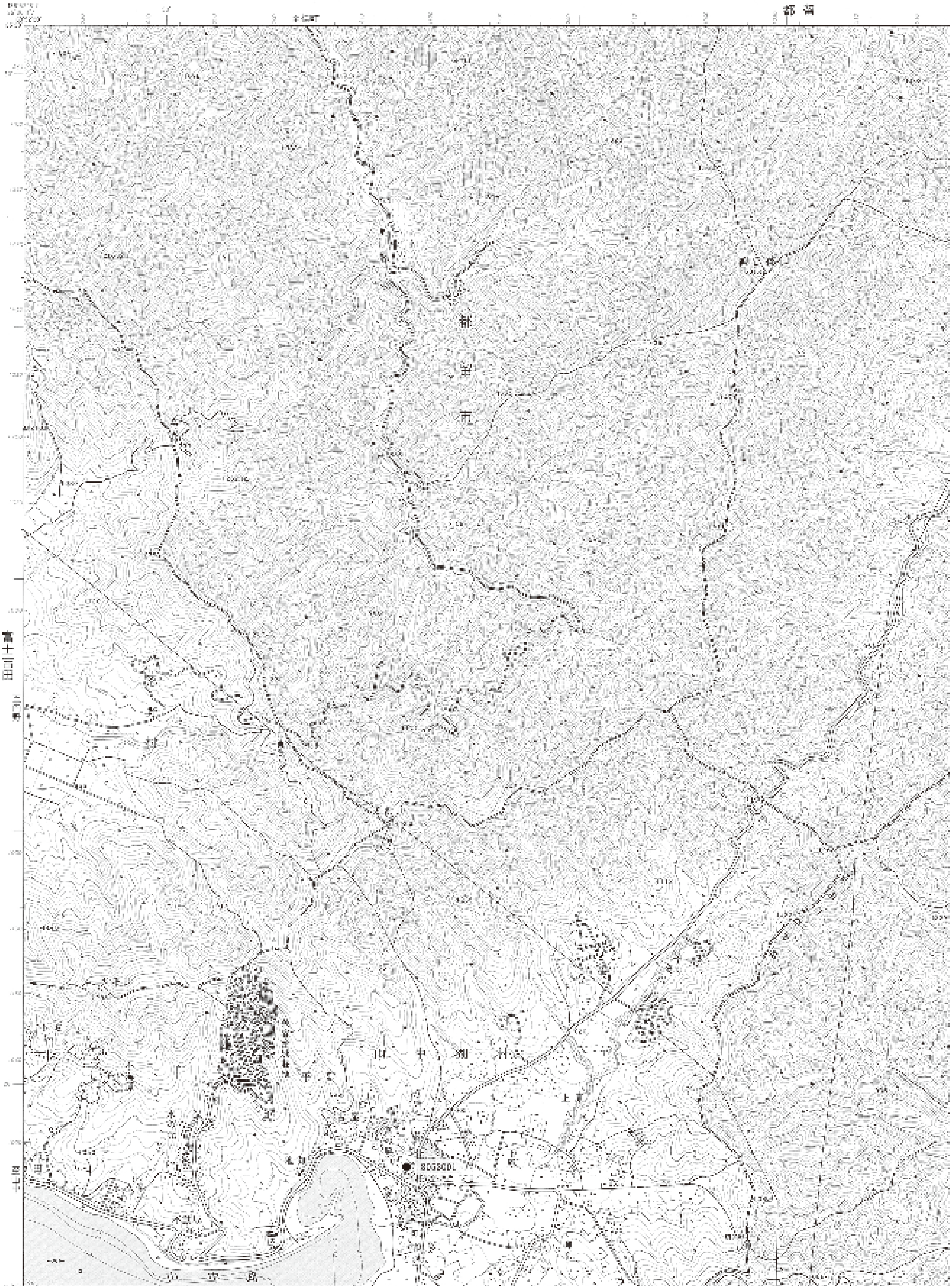
都留市

8050001　保寿院
8050002　清泉寺
8050003　浄泉寺
8050005　東陽院
8050007　西光寺
8050015　専念寺
8050016　長安寺
8050017　西願寺
8050018　真泉院
8050019　普門寺
8050020　法泉寺
8050021　西涼寺
8050022　東漸寺
8050023　長生寺
8050024　円通院
8050025　福寿院
8050027　正観寺
8050030　東正院
8050031　法竜庵
8050032　本光寺
8050033　伝昌寺
8050035　天正寺
8050039　永徳寺
8050042　江西院
8050043　広教寺
8050045　桂林寺
8050048　用津院
8050051　東光寺
8050052　真福寺
8050053　専徳寺
8050054　正蓮寺
8050055　林照院
8050061　長泉院
8050062　光照寺
8050064　長慶寺
8050065　自得院
8050066　永寿院
8050067　棲月院
8050068　光彩院
8050081　念崇寺

1:25,000　都　留

1:25,000 地形図　NI-54-31-4-1
みしょうたいやま　（甲府4号-1）

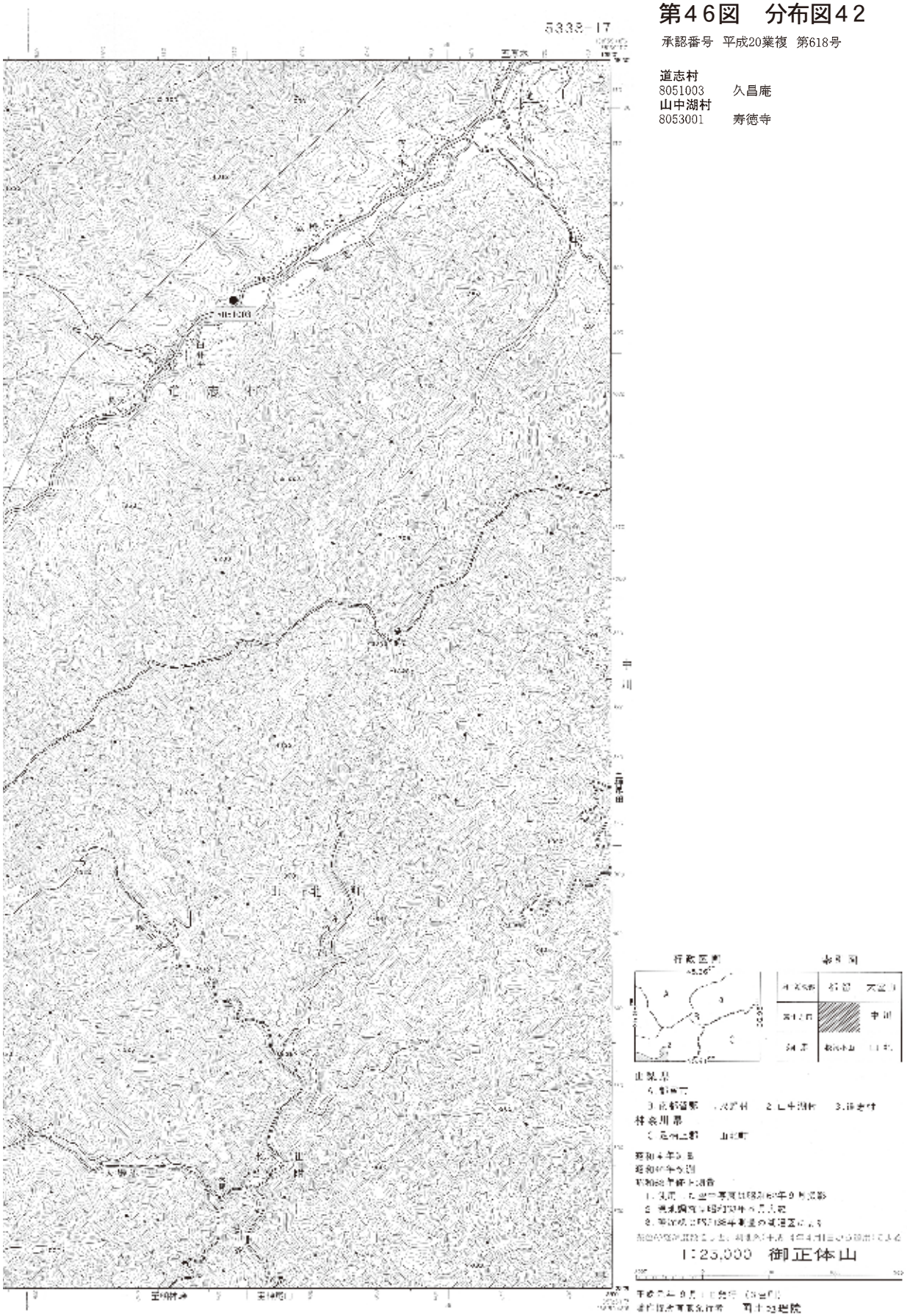
御 正 体 山



第46図　分布図42

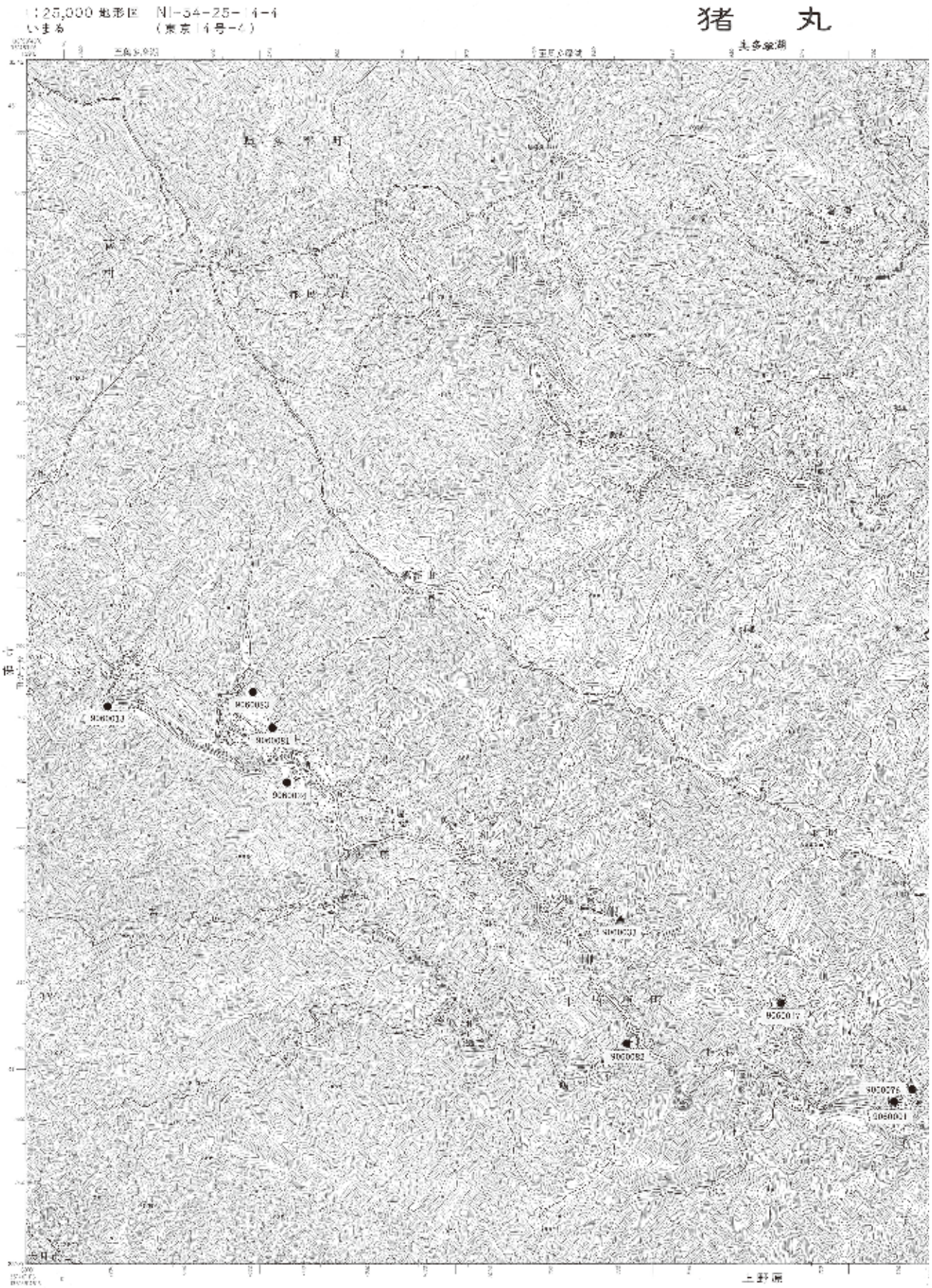
承認番号　平成20業複　第618号

道志村
8051003　　久昌庵
山中湖村
8053001　　寿徳寺



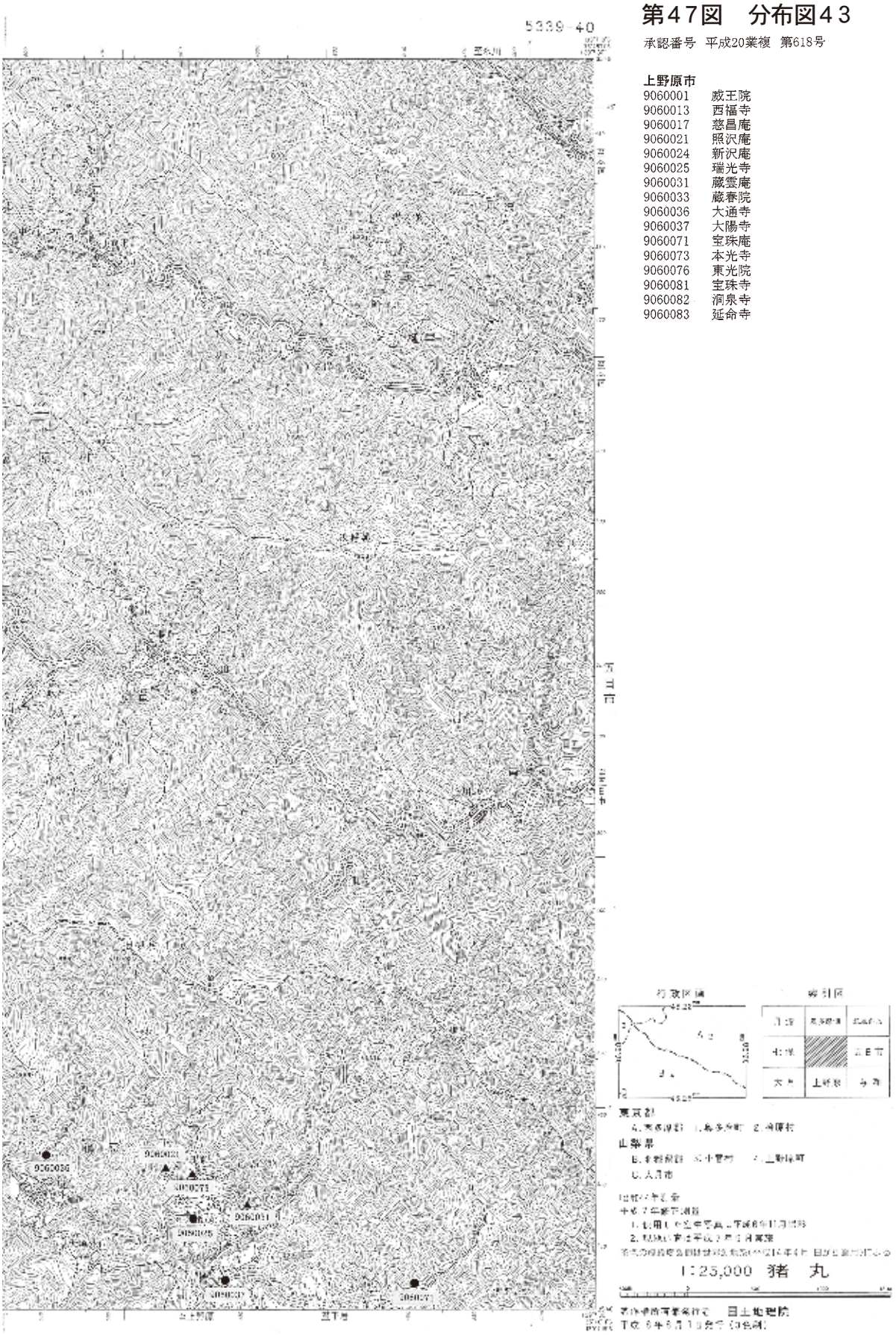
1:25,000 地形区　NI-54-25-14-4
いまる　（東京14号-4）

猪　丸



第47図　分布図43

承認番号　平成20業複　第618号

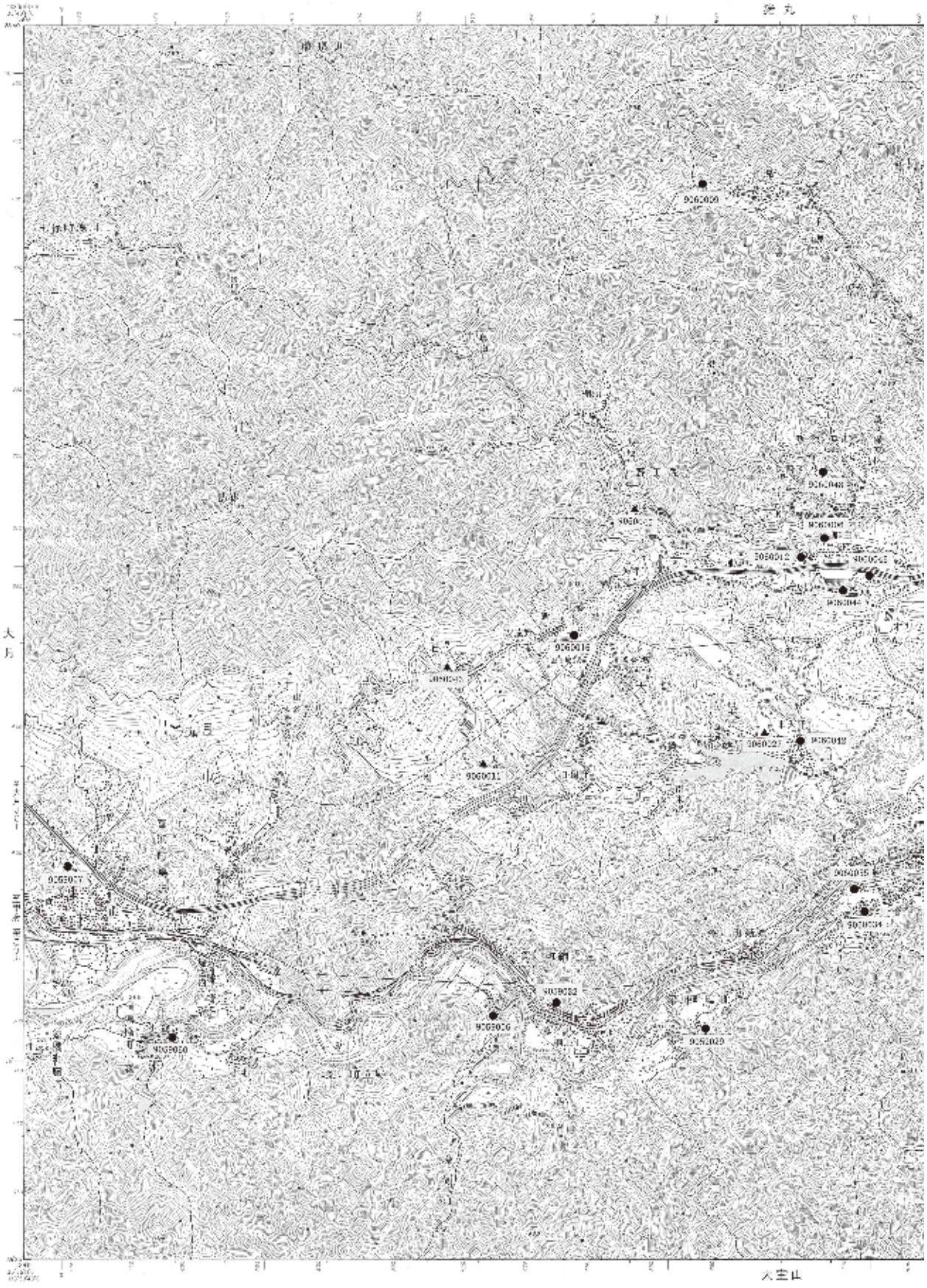


上野原市

9060001	威王院
9060013	西福寺
9060017	慈昌庵
9060021	照沢庵
9060024	新沢庵
9060025	瑞光寺
9060031	蔵雲庵
9060033	蔵春院
9060036	大通寺
9060037	大陽寺
9060071	宝珠庵
9060073	本光寺
9060076	東光院
9060081	宝珠寺
9060082	洞泉寺
9060083	延命寺

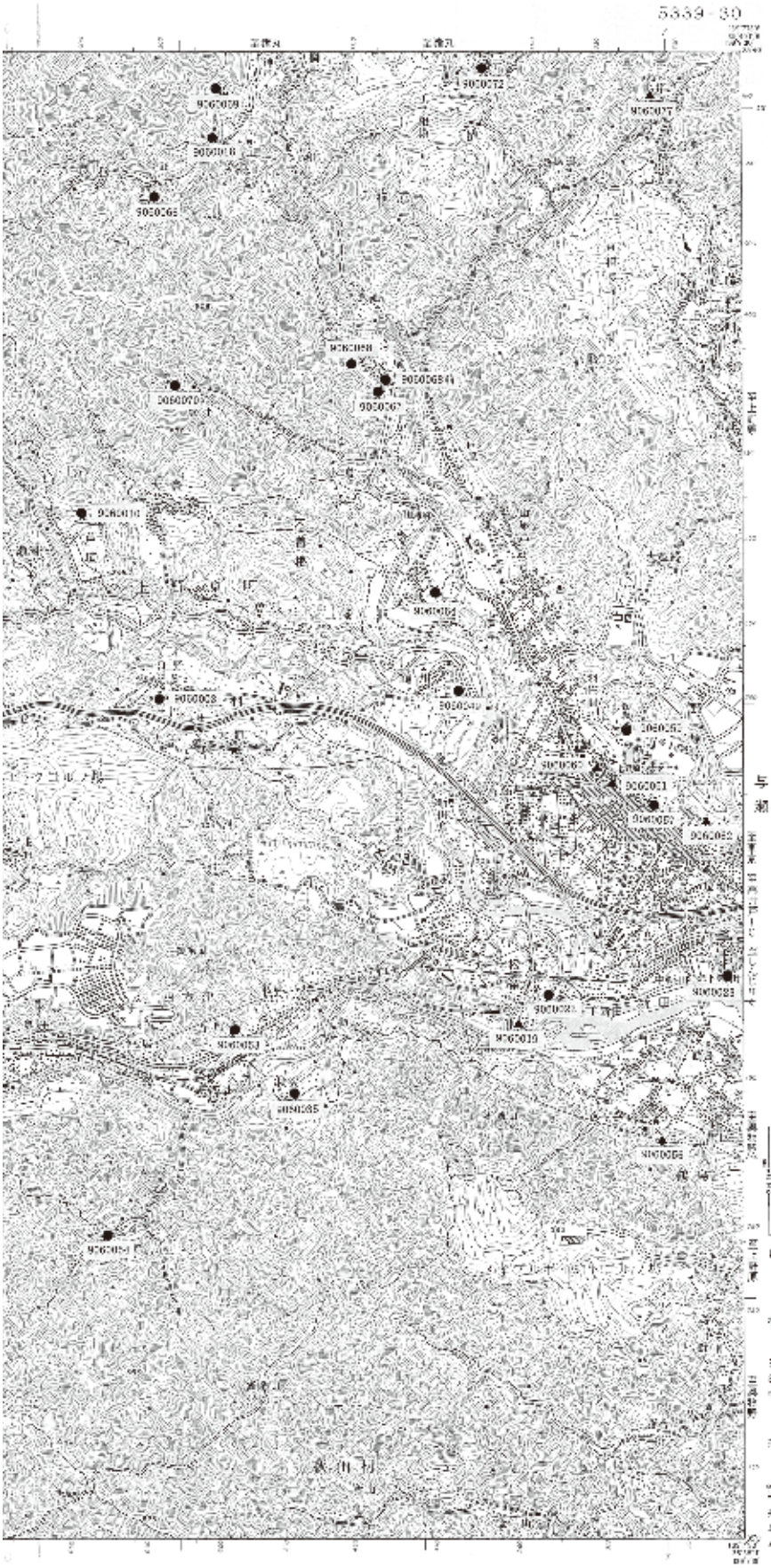
1:25,000 地形図 NI-54-25-15-3
うえのはら （東京15号-3）

上 野 原



第４８図　分布図４４

承認番号　平成20業複　第618号



大月市

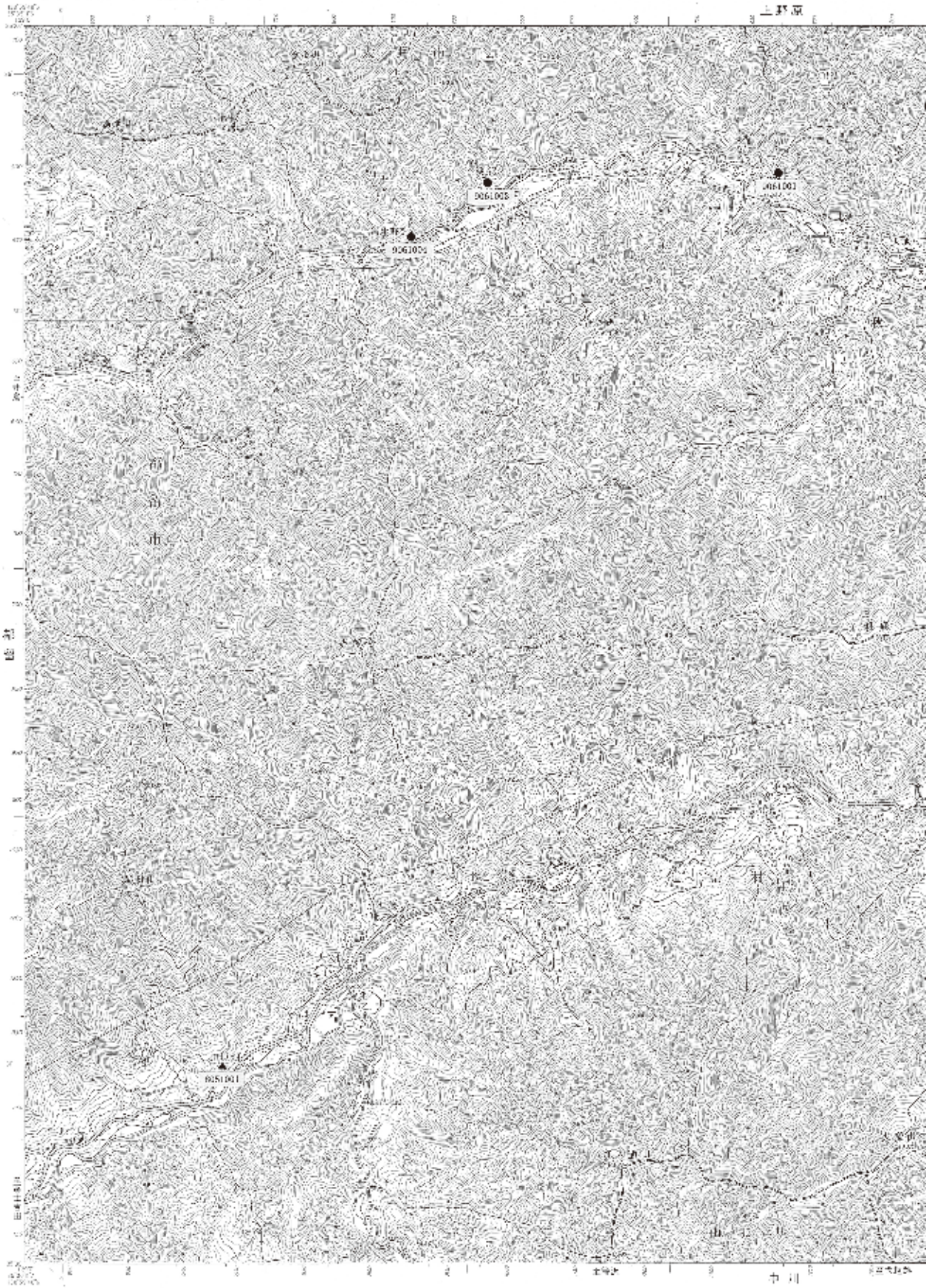
9059006	円通寺
9059007	円福寺
9059029	瑞淵寺
9059032	全昌寺
9059060	養福寺

上野原市

9060003	花岳寺
9060006	観音堂
9060009	江月寺
9060010	光禅寺
9060011	金剛寺
9060012	西光寺
9060016	自光寺
9060018	地蔵院
9060019	悉聖寺
9060022	正法寺
9060023	真珠院
9060027	清泉寺
9060034	崇福寺
9060035	袋光寺
9060042	能満寺
9060043	宝勝寺
9060044	長福寺
9060045	東林寺
9060046	来迎寺
9060048	東光寺
9060049	理法寺
9060053	福昌寺
9060054	福現寺
9060055	普賢院
9060056	法性寺
9060057	北辰寺
9060059	保福寺
9060060	東林寺
9060061	宝珠院
9060062	福泉寺
9060064	竜泉寺
9060066	福聚庵
9060067	不動院
9060068	宝珠寺
9060068（前）	宝珠寺
9060069	芳外庵
9060070	普済庵
9060072	梁巌寺
9060077	長泉寺

1:25,000 地形図　NI-54-25-15-4
おおむろさん　（東成15号－4）

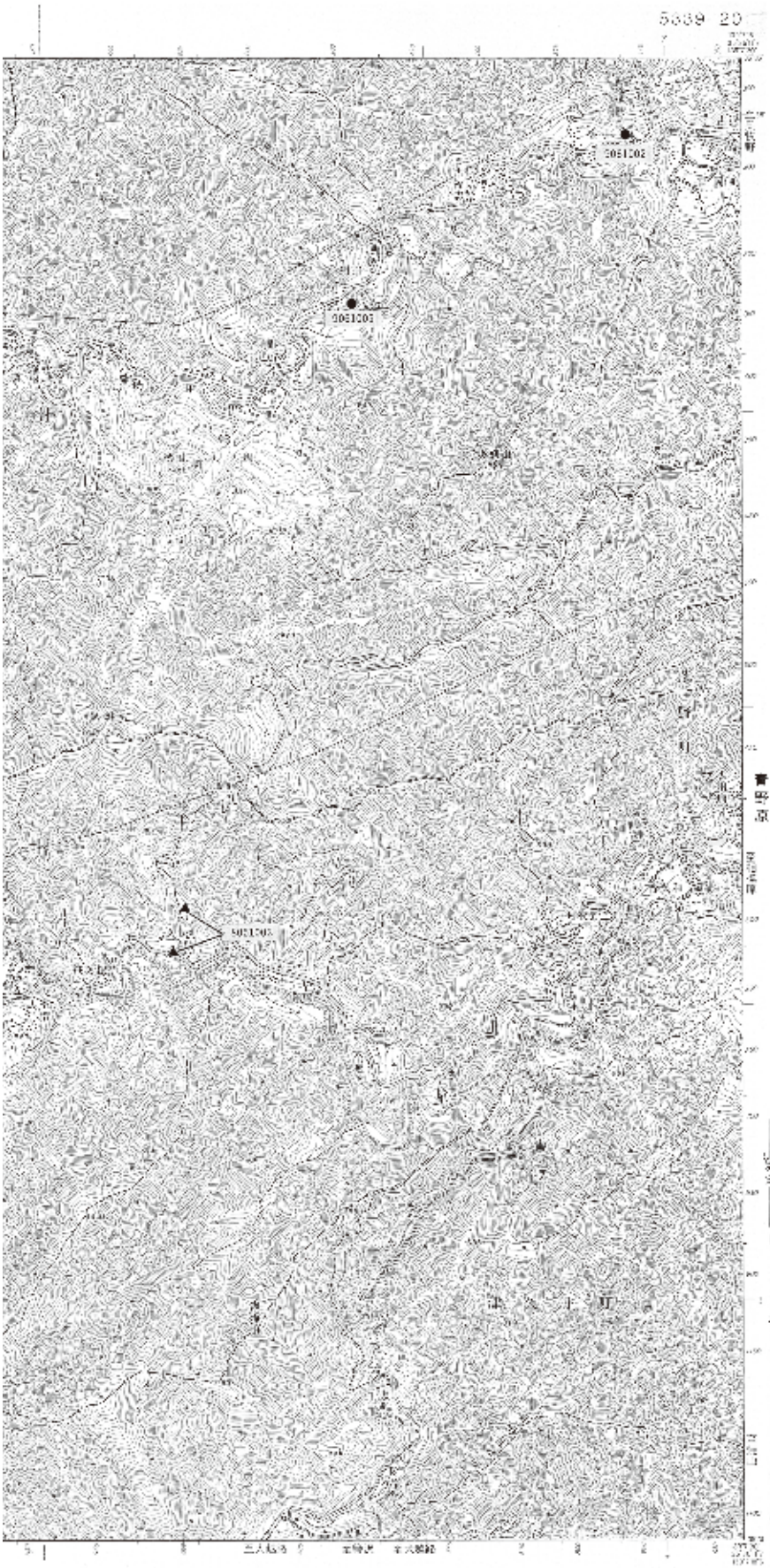
大室山



第４９図　分布図４５

承認番号　平成20業複　第618号

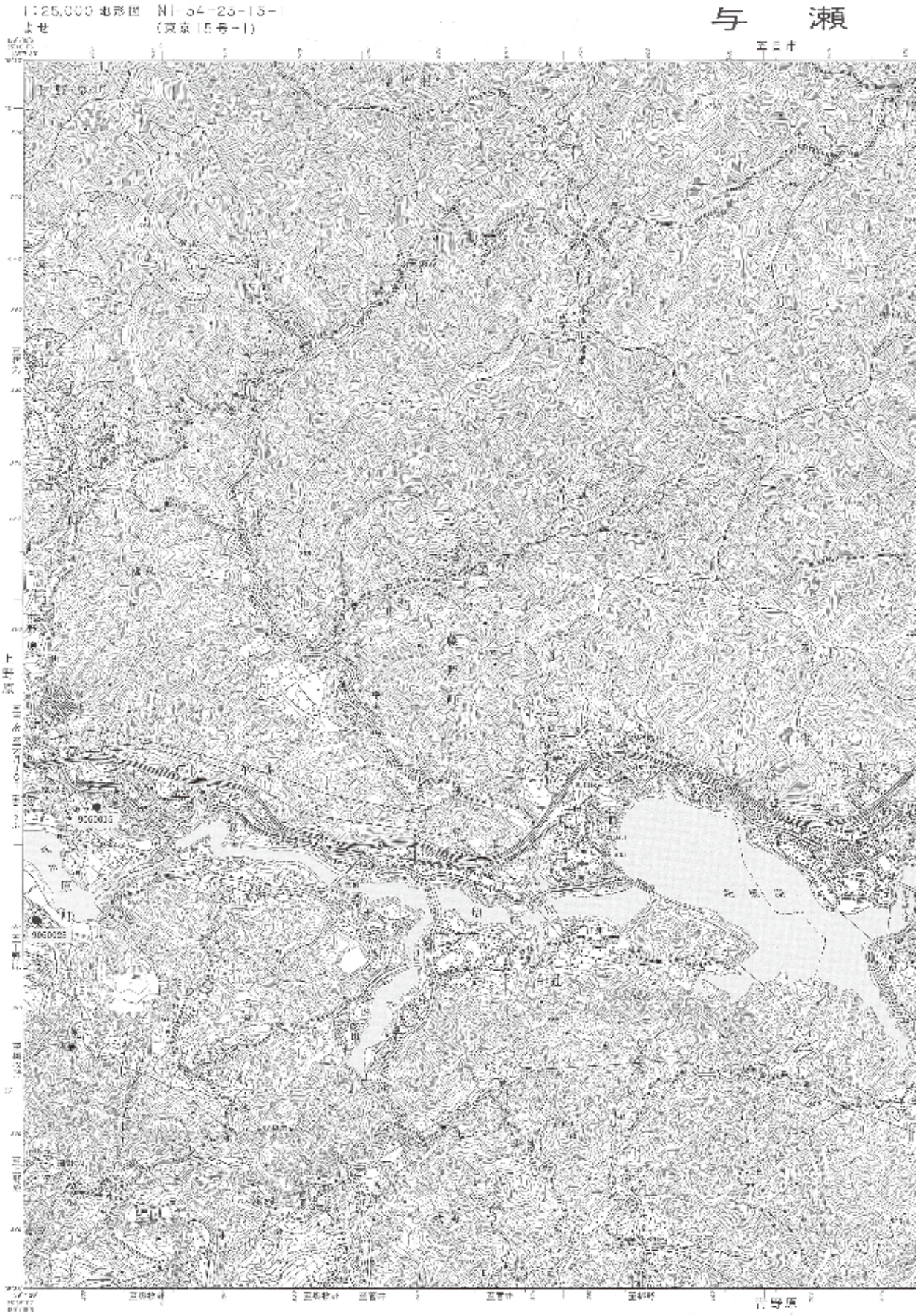
道志村
8051001　永見寺
8051002　円福寺
上野原市(秋山村)
9061001　吉祥寺
9061002　真福寺
9061003　東福庵
9061004　宝積寺
9061005　法泉寺



1:25,000　大室山

1:25,000 地形図　NI-54-25-15-1
よせ　(東京15号-1)

与　瀬

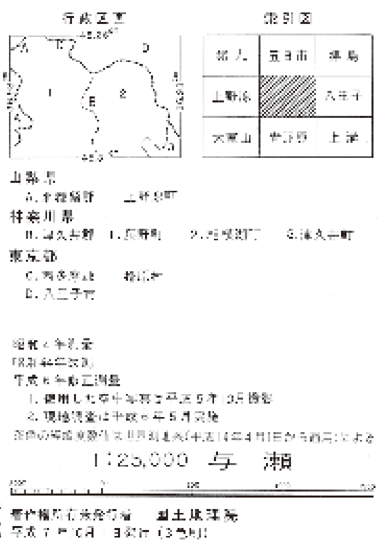


第50図　分布図46

承認番号　平成20業複　第618号

上野原市

9060015　　慈眼寺
9060028　　青苔寺



第51図　分布図47甲府（拡大）

承認番号　平成20業複　第618号

甲府市

2008010	一蓮寺	2008151	清泰（躰）寺
2008012	稲積国母地蔵	2008152	清徳院
2008014	永正寺	2008157	善光寺
2008019	延寿院	2008160	千松院
2008020	延寿寺	2008162	善照寺
2008027	遠光寺	2008164	専徳寺
2008028	歓喜院	2008169	宗信院
2008030	歓喜寺	2008170	尊躰寺
2008032	感応寺	2008172	大翁院
2008035	帰命院	2008173	大光寺
2008036	久昌院	2008176	大泉寺
2008038	教安寺	2008179	長源寺
2008039	教学院	2008180	長谷寺
2008040	旭栖院	2008186	長禅寺
2008042	慶雲寺	2008189	天然寺
2008043	慶音院	2008191	桃岳院
2008044	慶長院	2008194	東光寺
2008046	華光院（良林寺）	2008196	東昌院
2008047	献光寺	2008199	東漸院
2008048	源光寺	2008203	東明院
2008049	玄昌寺	2008210	能成寺
2008051	玄宝院	2008220	福寿院
2008053	光雲寺	2008228	普済寺
2008058	高源寺	2008230	仏国寺
2008060	広厳寺	2008232	普門院
2008062	光正寺	2008235	法鏡院
2008063	光浄寺	2008239	法光寺
2008064	行蔵院	2008243	宝珠院
2008067	光沢寺	2008245	宝樹寺
2008070	光福寺	2008246	芳春院
2008075	西教寺	2008250	宝蔵院
2008077	西昌院	2008252	法輪寺
2008086	慈光院	2008253	法華寺
2008088	慈光院	2008256	万蔵院
2008091	慈心院	2008257	味雲院
2008093	地蔵庵	2008259	明王院
2008094	自徳院	2008262	妙遠寺
2008097	寿誓院	2008263	妙松寺
2008099	春慶寺	2008264	妙詮寺
2008108	廃松岩院	2008265	妙本寺
2008109	常願寺	2008271	養行寺
2008110	上行院	2008276	要法寺
2008114	浄興寺	2008278	永明院
2008119	昌樹院	2008279	欲生寺
2008128	正念寺	2008280	来迎寺
2008133	浄林寺	2008281	来福寺
2008135	信楽寺	2008283	竜華院
2008136	心月院	2008287	立宣寺
2008137	信立寺	2008291	良円寺
2008138	瑞厳院	2008294	愛染院
2008141	瑞泉寺	2008303	祇園寺
2008143	清運寺	2008304	教勝寺
2008144	誓願寺	2008306	玉泉院
2008149	清泉寺	2008317	松雲院
		2008326	大徳院
		2008330	万性院
		2008333	福昌院

図歴

平成４年編集
平成12年修正
　現地調査は平成12年10月実施

資料

1．使用した空中写真は平成11年11月撮影
2．使用した都市計画基図等
　甲府市作成 1：2,500 都市計画図

図法等

1．投影はユニバーサル横メルカトル図法，座標帯は第54帯，中央子午線は東経 141°
2．図郭に付した短線は経緯度 10″ごとの目盛
3．図郭に表示したグリッド数値は平面直角座標Ⅷ系原点からの距離（キロメートル単位）
4．高さの基準は東京湾の平均海面
5．等高線の間隔は計曲線20 m，主曲線４m，補助曲線２m
6．磁針方位は西偏約6°10′
7．図式は昭和58年（平成９年一部改正）1万分１地形図図式

著作権所有兼発行者　国土地理院

甲府（拡大）　平成13年8月1日発行
1:10000地形図　甲府／K610　甲府6-4-2・4 7-3-1・3

第 3 章　山梨県内中世寺院の調査事例

ここではこれまでに、県内において開発行為等が主な原因となって発掘調査された中世寺院について集成を行い、それぞれの概要を示した。発掘調査報告書等が刊行されているものはそれらを参考とし、未刊行のものは、該当市町村の調査担当者の厚意により図面等資料を提供いただき掲載した。

第 1 節　東八代地域（A エリア）

第 1 項　慈眼寺

1）遺跡名：慈眼寺　2）中世寺院番号：1004026　3）分布図：第 31 図分布図 28 石和　4）所在地：笛吹市一宮町　5）調査期間：H7 年度・H8 年 8 月 21 日～ 9 月 20 日・H9 年 6 月 5 日～ 10 月 15 日　6）時代：中世　7）遺構：庭園遺構・溝・水溜状遺構　8）調査機関：一宮町教育委員会（現笛吹市教育委員会）

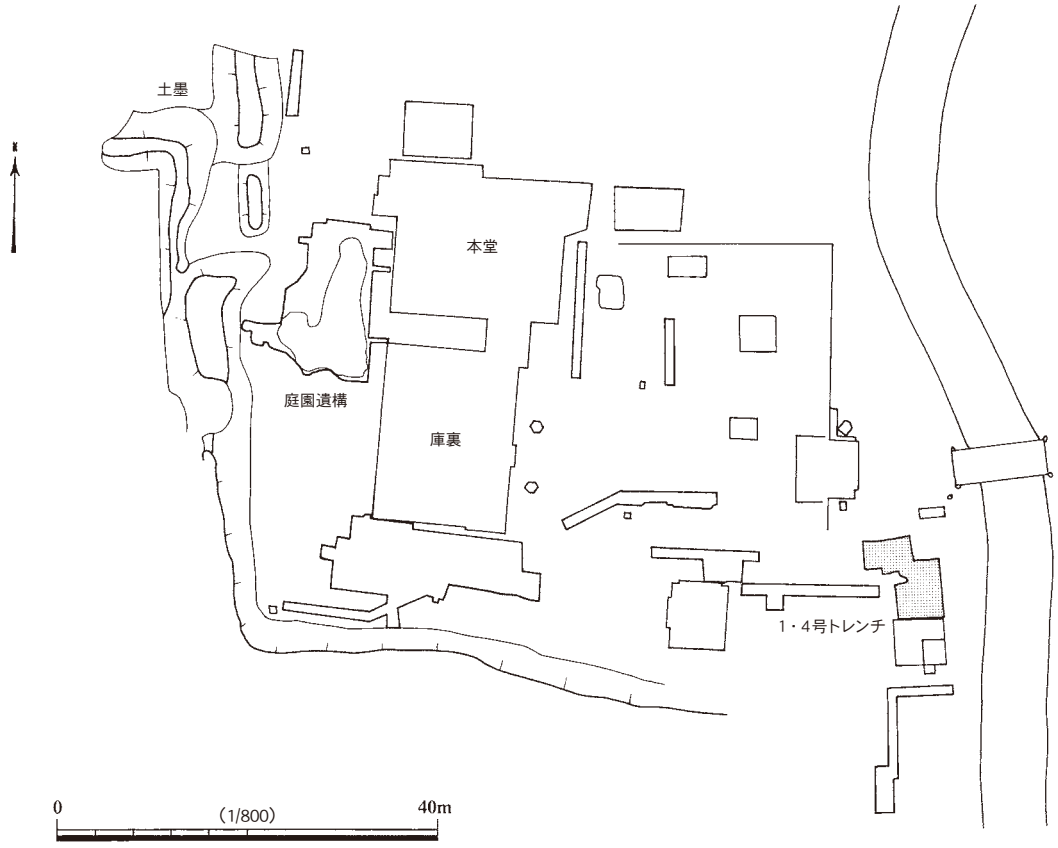
9）参考文献：一宮町教育委員会 1998「薬師堂遺跡（慈眼寺境内）」『いちのみやの遺跡－一宮町埋蔵文化財発掘調査概要報告書－平成 8 年度』一宮町文化財調査報告第 25 集・一宮町教育委員会 1999「薬師堂遺跡（慈眼寺境内）」『いちのみやの遺跡－一宮町埋蔵文化財発掘調査概要報告書－平成 9 年度』一宮町文化財調査報告第 27 集

10）概　要

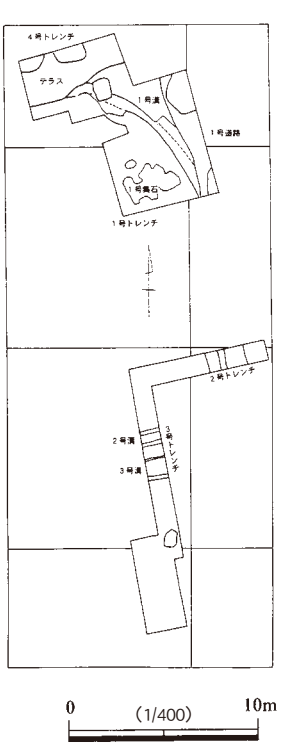
慈眼寺は、甲府盆地の東を流れる京戸川と大石川の合流地点よりやや西側に立地する。この場所は、御坂山塊から続く山々に水源をもつ幾筋もの河川が形成した複合扇状地であり、慈眼寺はこの扇状地の扇央部に位置する。

当寺は真言宗として金剛山実相院とも称し、笛吹市一宮町末木に所在する。詳細は明らかではないが、『寺記』には文治年間（1185 － 1189）に、『甲斐国志』には文明 2 年（1470）に宥日上人が中興開山したと伝えられる。また一宮町誌には、宥日上人が文治元年（1185）に堂宇を建立し、国主武田信義が金堂及び七堂伽藍を改造して、国家繁栄を祈らせたとあり、武田氏とのつながりが指摘されている。中世終末には武田信玄の崇敬が篤く、武田勝頼最期の折には、遺命により慈眼寺尊長が京都府持明院に遺品等を届ける措置を執るなどの役割を担った。その後織田信長の焼き討ちに合い、文書等の記録類に加え薬師堂を初めとする堂宇を焼失したが、徳川幕府の保護のもとで除々に再興し、甲州真言宗七檀林に列せられ、末寺として 9 ヶ寺を擁した。寺院の周囲を観察すると、境内地の周りには土塁が巡っており、寺院成立以前は中世の館であった可能性も推測されている。また現在薬師堂は所在しないが、寺院周辺に「薬師堂」の小字が残っており、かつてこの地に所在したことを窺うことができる。さらに現在の本堂・庫裏・鐘楼門は江戸時代初期の建築で、いずれも国の重要文化財に指定されている。

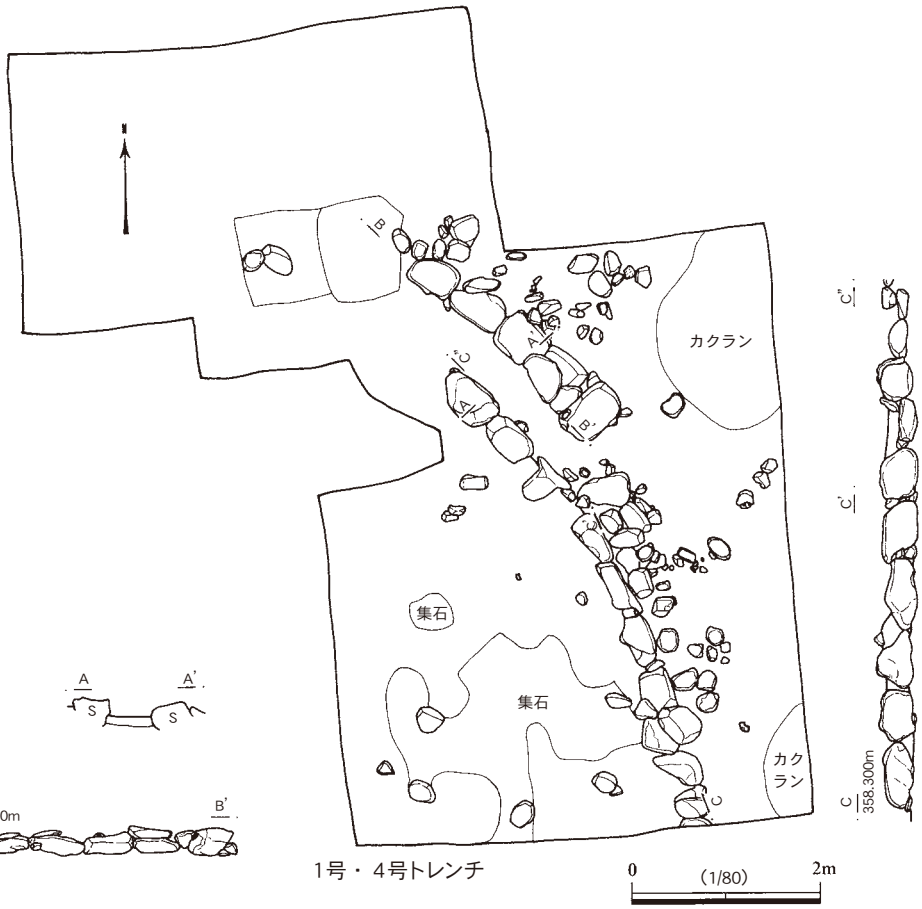
庫裏については近年老朽化に伴い損傷が著しいため、平成 6 ～ 9 年度にかけて解体修理及び貯水槽など防火設備の設置を行い、それに伴い発掘調査を実施した。発掘調査では、中世の溝及び庭園遺構を確認した。溝は 2 列の石列により区画されており、その間には砂層の堆積が見られた。寺院の東を流れる田垂川に併行して位置し、調査区内で西へ角度を変えて境内方向へ向かう。溝は田垂川から境内へと水を引き込むための水路であったと考えられる。水路跡からは 16 世紀代に位置づけられる土師質土器が出土していることから、武田氏の祈願所として機能していた年代の遺構であると判断される。また本堂・庫裏の東側には現在は水を張っていない池を中心とした庭園が所在しており、これらについても発掘調査を行った。調査では池に堆積した土砂を除去したところ、当初は上下二段構造の池であったことが判明した。さらに庭園中心部に位置する石組みの裏側には、池へ水を引き込む役割を担っていた暗渠遺構が位置していたことも確認した。この暗渠遺構の発見により、池の構造についても理解することができた。池及び庭園からは、これらに伴うと思われる遺物の出土が認められなかったため、年代については明らかではない。一方これらの調査区の最も北側では、庭園遺構の下層部分より 2 列の石列遺構を確認した。石列遺構は一部が池によって壊されているが、東側は庫裏まで続いている。このことから現在の建物が建築される以前の遺構が、庫裏と庭園の下層に所在することが想定される。なお、本稿は調査担当者の瀬田正明氏に多くのご教示・ご協力を賜った。



慈眼寺全体図



H８年度調査区全体図



1号・４号トレンチ

第５２図　慈眼寺全体図・１・４号トレンチ平面図

第２項　大蔵経寺

1）遺跡名：大蔵経寺　2）中世寺院番号：1005036　3）分布図：第 31 図分布図 28 石和　4）所在地：笛吹市石和町松本　5）調査期間：H12 年度　6）時代：中世　7）遺構：塔礎石跡　8）調査機関：石和町教育委員会（現笛吹市教育委員会）

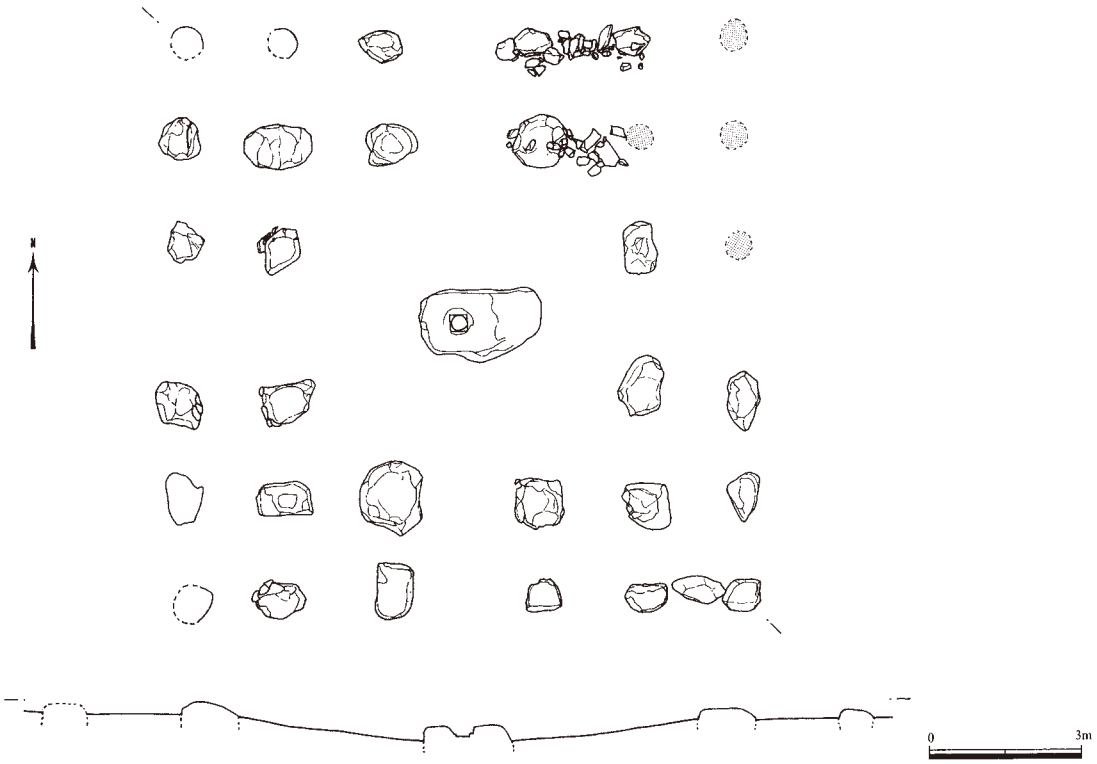
9）参考文献：『角川日本地名大辞典 19 山梨県』1984

10）概　要

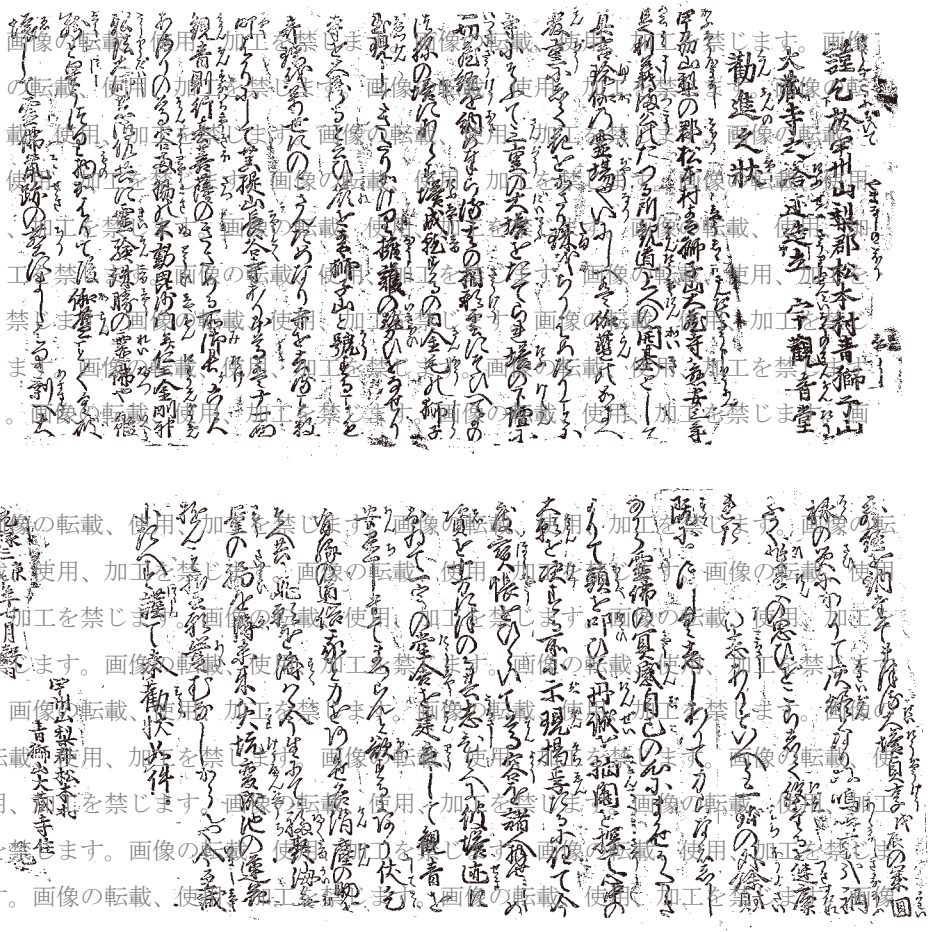
大蔵経寺は、甲府盆地の北に位置する大蔵経寺山の南麓に位置する。兜山やその周辺の尾根付近に水源を持つ平等川は大蔵経寺山の山麓沿いに北から西へ流下するが、大蔵経寺はこの平等川の右岸に立地する。背後の大蔵経寺山北東に位置する兜山中腹には、平安時代に創建されたと推測され、鎌倉時代に興隆する真言宗の長谷寺が、また西隣の八人山の南東麓には余瀬文書に見える横根寺（現在は光福寺）が立地するなど、甲府盆地の中でも有数の宗教的空間でもある。

『寺記』によれば大蔵経寺は、行基によって養老 6 年（722）に創建されたと伝えられる。当時は青獅子山松本寺と称した。その後応安 3 年（1370）足利義満の庶子とされる観道が中興し、義満の命によって甲斐守護であった武田信成が伽藍を整え、三重の塔を建立して大蔵経（一切経）を納めた。このことがきっかけとなり、松本山大蔵経寺と改められたと伝えられる（『甲斐国社記・寺記』）。『甲斐国志』によれば元禄元年（1688）の火災により三重の塔が焼失したため、経典の伝承については明らかではなかった。だが「甲州文庫」の中に難を免れた一切経の二巻が含まれることが判明し、この奥書から貞和五年（1349）陵辺庄大蔵経寺の三層塔に納められていたことが明らかとなり、『寺記』の伝承とも合致するに至った。戦国期の永禄 11 年（1568）には、武田信玄が大善寺（甲州市勝沼）・法光寺（甲州市塩山）・慈眼寺（笛吹市一宮町）とともに当寺にも先勝祈願を依頼するなど、甲斐では有力寺院の一つに位置づけられていたと推測される。江戸時代には徳川幕府に厚く保護され、甲斐真言宗七檀林の一つにも数えられるなど、興隆した。本寺が所蔵する絹本著色仏涅槃図は裏書から、室町期の画僧であり、京都東福寺の兆殿司の弟子である霊彩によって、永享七年（1435）に描かれたものと伝えられる。加えてもとは前伊豆守憲頼が駿河の宝雲山浄居禅寺に奉納したもので、十六世紀中頃までに本寺に移っていたことも記されている。なお本絵図は国の重要文化財に指定されている。

石和町教育委員会（現笛吹市教育委員会）によって行われた発掘調査では、本堂の西側で礎石を確認した。当寺には４枚の境内図が所在する。最も古いものは貞享二年（1685）に描かれた地境に関わる絵図であるが、そこには寺域とともに本堂及び庫裏の西側に三重の塔が描かれており、礎石確認地点が絵図に描かれる塔の位置と一致することから、江戸時代前半期には三重の塔が立地していたものと推測される。しかし寛政二年（1790）の「大蔵経寺領内絵図面」にはすでに塔はなく、基壇のみが描かれ「五重ノ塔アト」と記載が見られる。調査により礎石から推測される塔の規模は、南北約 12.65 m、東西約 12.80 mである。礎石は東列北側で 3 箇所の欠損が、樹木の根により規模が不明であるものが北列西側及び西列南側でそれぞれ 2 箇所ずつ見られるが、総礎石の塔で 5 間× 5 間であり、いずれも表面が扁平で幅１m前後を測る安産岩系の山崎石を用いる。芯礎は南北約 1.45m、東西約 2.60m を測り同様に山崎石を用いる。なお、大蔵経寺塔実測図の掲載については、調査担当者である小渕忠秋氏のご厚意による。また寺域絵図及び版木の写真・拓影図の掲載については、大蔵経寺住職井上秀天氏のご厚意によるものである。



塔礎石平面図（笛吹市教育委員会提供）



版木写し
（大蔵経寺所蔵）

第５３図　大蔵経寺塔礎石平面図・版木写し

第３項　長谷寺

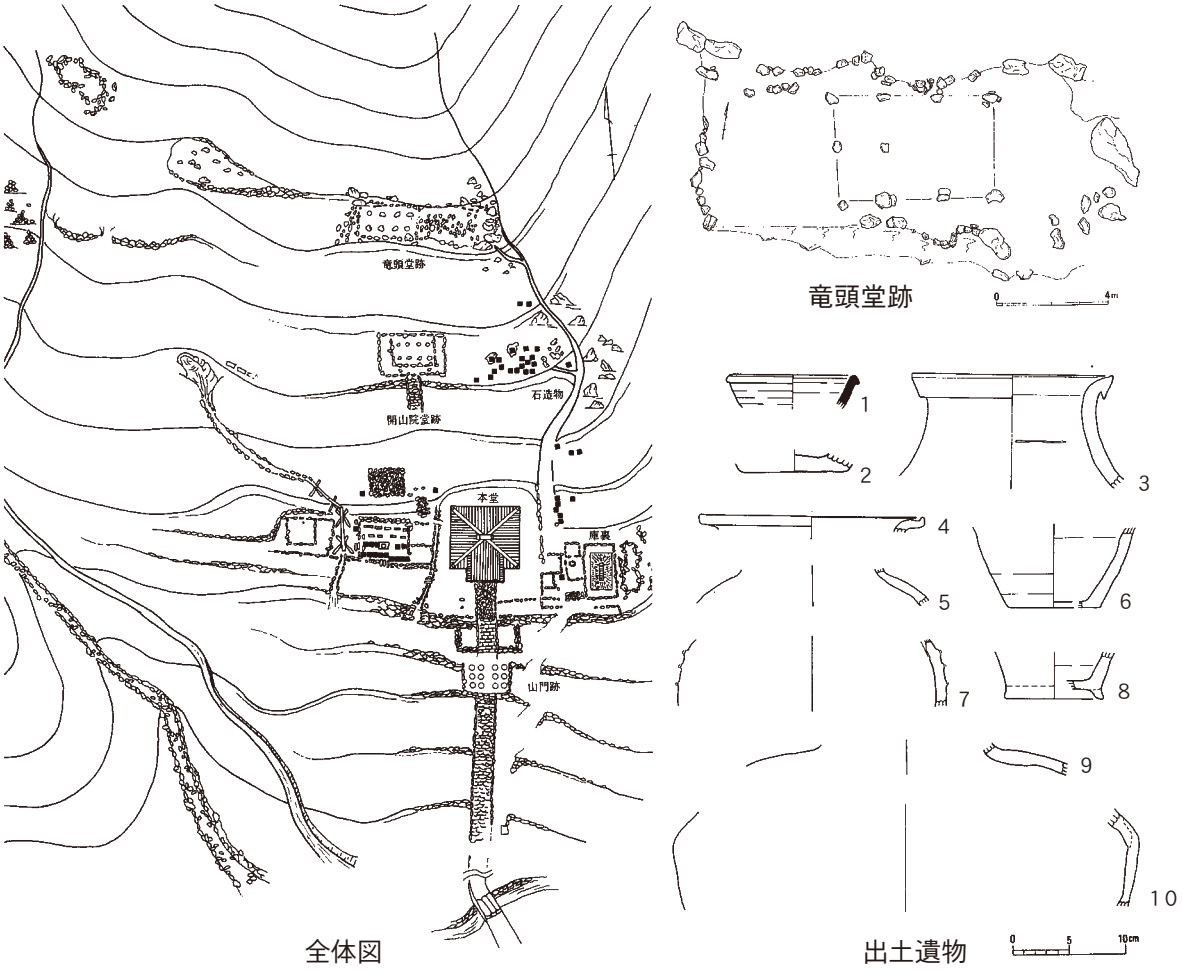
1）遺跡名：長谷寺　2）中世寺院番号：1006011　3）分布図：第 30 図分布図 27 塩山　4）所在地：笛吹市春日居町鎮目字菩提　5）調査期間：H3 年 11 月 20 日～ 29 日　6）時代：平安時代～中世　7）遺構：竜頭堂跡　8）調査機関：県埋蔵文化財センター　9）参考文献：山梨県教育委員会 1995『山梨県古代官衙・寺院跡詳細分布調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 106 集

10）概　要

長谷寺は、甲府盆地の北に位置する中尾山中腹に位置し、標高約 500 ｍを測る。

長谷寺は、『甲斐国志』『甲斐国社記・寺記』によれば養老 6（722）年に僧行基によって創建された真言宗寺院と伝えられる。その後延暦年間（782 － 805）には、空海によって不動明王・毘沙門天・金剛神などの蔵を安置したとの伝承もある。旧暦 7 月 16 日盂蘭盆の終わりの夜に甲府盆地を挟んで四方で焼く精霊送りのかがり火の一つである笈形山の笈焼きを、東の柏尾山の鳥居焼き・大積寺の大文字焼きなどとともに担当した。大善寺の古記録によれば、平安時代後期には大善寺の僧徒が口論の末武力に訴えるなどの騒動に発展するなど、奈良・平安時代には大善寺にならぶ繁栄があったと推定される。その一方で、長谷寺には文書・古記録などは残存していないため、中世の動向については不明である点が多い。

長谷寺は、平成 3（1991）年より 5 カ年計画で行われた古代官衙・寺院跡詳細分布調査の一環として、発掘調査が行われた。現在長谷寺には本堂の他、庫裡や山門跡等が名残をとどめている。踏査により本堂の背後の山中に開山院堂跡や竜頭堂跡を確認し、発掘調査をおこなったところ、竜頭堂跡では 2 間× 3 間の礎石建物跡を確認し、ここからは中世に位置づけられる遺物が出土した。



第５４図　長谷寺全体図・出土遺物

第２節　峡中地域（Ｂエリア）

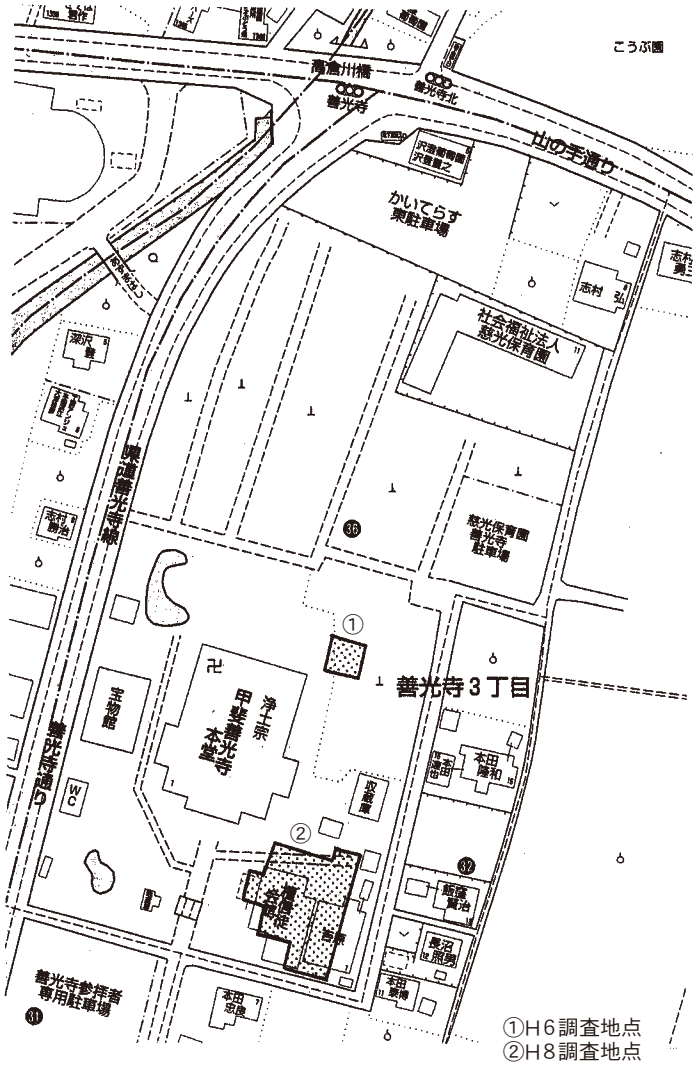
第１項　善光寺

1）遺跡名：善光寺境内遺跡　2）中世寺院番号：2008158　3）分布図：第 23 図分布図 20 甲府　4）所在地：甲府市善光寺三丁目地内　5）調査期間：Ｈ６年 11 月 21 日～ 12 月９日・Ｈ８年３月６日～ 15 日　6）時代：中世～近世　7）遺構と遺物：加藤光泰の墓石　8）調査機関：甲府市教育委員会　9）参考文献：甲府市教育委員会 2005「18 加藤光泰の墓」『甲府市内遺跡Ⅱ』甲府市文化財調査報告 29・甲府市教育委員会 2006「21 善光寺境内遺跡」『甲府市内遺跡Ⅲ』甲府市文化財調査報告 31

10）概要

善光寺は、甲府盆地北縁に位置し、背後には北西側の愛宕山と北東側の八人山が迫っている。甲府市内には多くの寺院があり、善光寺西の愛宕山東裾には、臨済宗で甲府五山として武田信玄から保護を受けた東光寺や能成寺がある（能成寺は、甲府城築城に伴い現在地に移築）。

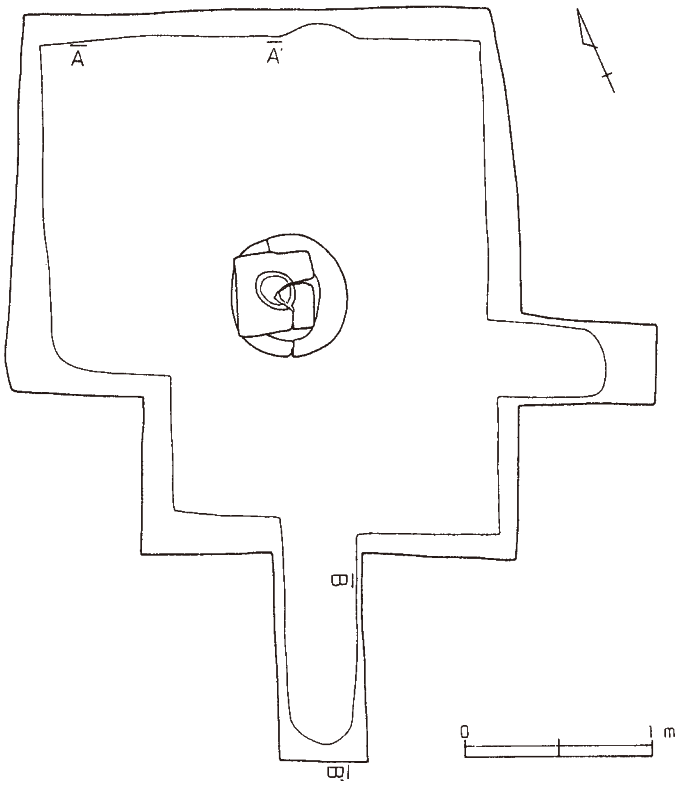
武田信玄は、川中島の戦いで上杉謙信と５度戦っている。このうち２度目の戦いでは、その戦場が信濃善光寺周辺地域に及んだことから、信玄は永禄元年に善光寺を甲府東の板垣の地（現在地）に創建し、本尊他、寺宝類を甲府に移したとされる。善光寺は、武田滅亡後も歴代領主の庇護を受け、加藤光泰が文禄２年に文禄・慶長の役で亡くなると霊廟が境内に設けられた。創建当時は真言宗であったが、近世に入ると浄土宗となった寺の檀家である徳川氏の保護を受け、寛永８年に甲府城主徳川忠長の命により諸堂の修理、金堂仮屋根の檜皮葺き工事、山門建立工事が開始された。また、享保６年に金堂が大破、宝暦４年の火事では諸堂が灰燼に帰すなどしたが、そのたびに再建されている。こうした手厚い保護を受けた善光寺の江戸時代における御朱印寺領は、30 石４斗９升余、境内１万 1877 坪、三門外坊舎地 1164 坪、供僧敷地７ヶ所 1672 坪、山林方５町と広大であった。1945（昭和 20）年の甲府大空襲を免れた山門や金堂は、1962（昭和 37）年に再度修復を受けている。現在も残る金堂は、桁行 11 間、梁間７間、二重一階撞木造り妻入、正面向拝三間、軒唐破風、両側面向拝各一間、銅板葺き、檜皮葺きである。また、山門は、５間三戸楼門、入母屋造り、銅板葺きである。



第５５図　善光寺境内の建物配置と調査地点

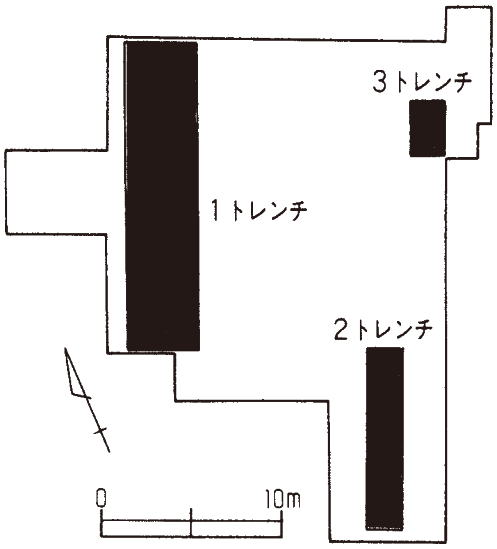
善光寺境内では、平成６年と平成８年に発掘調査が実施されている（第 55 図）。平成６年の調査は、樹根の影響で傷んだ石垣や石段を修復する墓域整備に伴うもので、本堂北東部に設けられた加藤光泰の墓石の直下を約２ｍ四方の範囲で発掘が行われた（第 56 図左上）。掘削地点では、埋葬や追葬に伴う掘込みなど遺構の検出には至っていないが、その中央部からは蓮台とその上に据えられていた五輪塔（地輪）が出土した。五輪塔は、縦×横×高さが 40㎝ほどの直方体で、「地」のほか、「加藤前遠州太守曹渓院殿月剛宗勝大禅定門於朝鮮国釜山浦逝去因茲彫刻一軀以伸供養者也文禄二年癸巳八月廿九日」

の刻印がみられる。なお、この銘文自体は、『甲斐国志』に記載のある五輪塔脇に立てられた石碑の銘文と合致する。蓮台は、直径 56㎝を測る丸底状で、外面には単弁 16 葉の蓮弁の刻印があるほか、直径 25㎝の窪みを有する。また、この窪みには、拳大の礫が充填されていた。出土したかわらけや陶磁器類は近世以降のものである。銭貨「元豊通宝」は、1078 年に中国で鋳造が開始された北宋銭であるが、渡来銭を模した私鋳銭も流通していたことが知られている（第 56 図 27)。平成８年の調査地点は、昭和初期に建築された既存建物のあった本堂南東部にあたる（第 56 図右)。調査では、近世の伽藍配置を示す遺構は検出されなかった。出土遺物のかわらけ、内耳土器、陶磁器等は近世のものが主体であるが、中世の遺物では天目茶碗が出土している（第 56 図 10)。

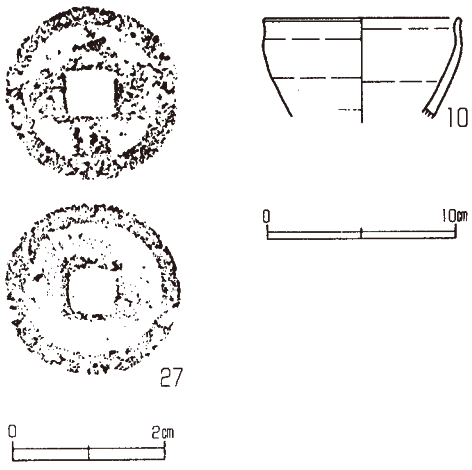


Ｈ６年　調査区

地輪出土状況（甲府市教育委員会提供）



Ｈ８年　調査区



Ｈ６年　出土遺物

第５６図　調査区と出土遺物

第２項　廃般舟院

1）遺跡名：廃般舟院遺跡　2）中世寺院番号：2008217　3）分布図：第 23 図分布図 20 甲府　4）所在地：伊勢三丁目 8･9 付近　5）発見日時：昭和 56 年 9 月　6）時代：中世　7）遺構：敷石状遺構　8）調査機関：甲府市教育委員会　9）参考文献：甲府市 1989「廃般舟院遺跡」『甲府市史』史料編第一巻　原始・古代・中世　山梨県 2004「廃般舟院遺跡」『山梨県史』資料編７中世４考古資料

10）概要

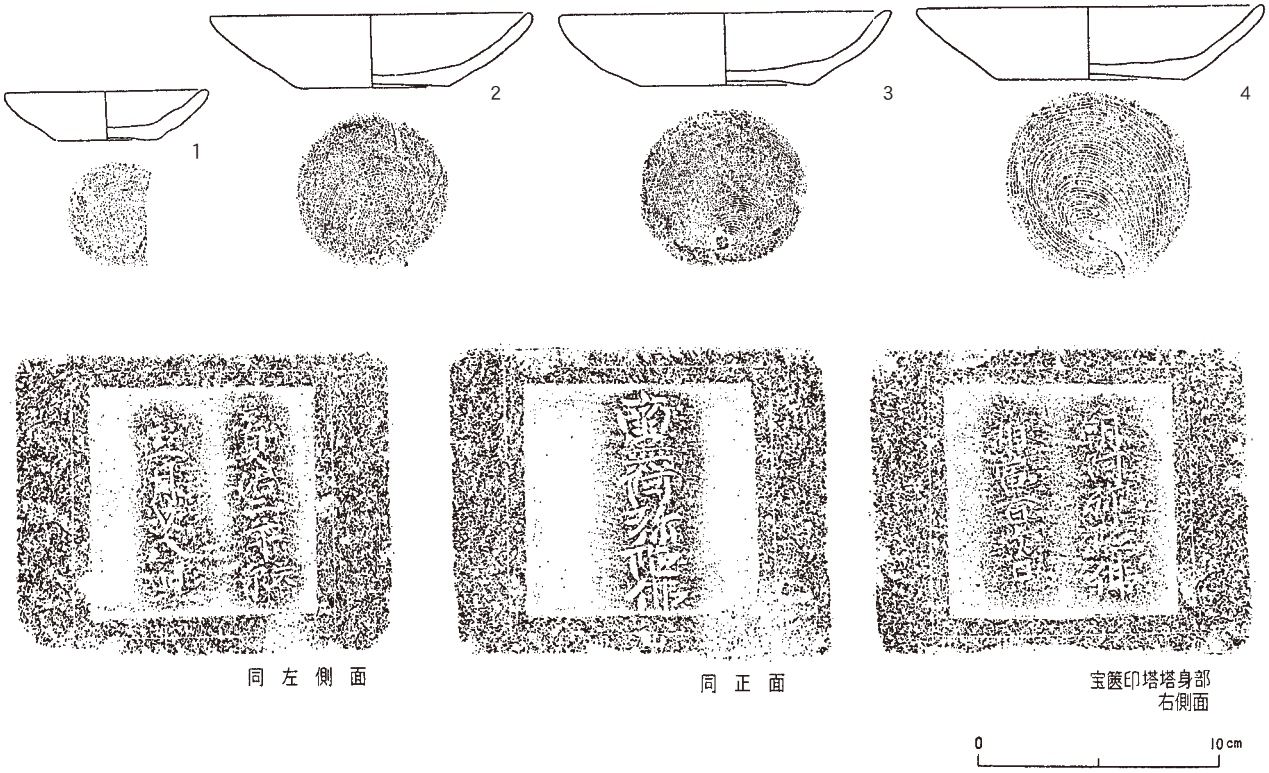
廃般舟院は、甲府盆地北部に源を発する荒川下流の左岸、標高約 258 m付近に立地する。

般舟院は、中世に一乗小山に立地した時宗寺院である一連寺の塔頭の一つであった。その後近世初頭の甲府城築城に際し、一連寺が城下町南端に移転したのに伴って、遠光寺に近接する地点に独立したと伝えられる。『甲斐国社記・寺記』によれば般舟院の開基は慶長年中であるとし、文化年間の文書に般舟院の名前が見えるので、江戸時代後半まで存続していたことを知ることができる。

般舟院跡は、昭和 56 年 9 月に付近の下水道工事中に偶然発見された。甲府市教育委員会が現地で調査を行った結果、五輪塔や宝篋印塔など多量の石造物、かわらけ、古銭、人骨などが出土した。石造物は約 50 センチ四方の範囲に集中しており、石造物を転用した敷石状遺構が確認された。以前甲府市消防本部地内からも多量の石造物が出土していることから、この周辺に般舟院が所在したことが推測される。

出土した石造物は、五輪塔約 80 基、宝篋印塔約 10 基が認められ、そのほとんどは小型のものである。またこれらのうち宝篋印塔塔身に貞治二年（1363）銘、及び五輪塔地輪に永享年間（1429 ～ 41）銘が認められるものが所在した。さらにこれらには時宗の法名である「朝阿弥陀仏」を記しており、それが般舟院の存在を裏付ける根拠となった。一方かわらけは４点が出土した。すべて回転糸切り痕である。古銭は「祥符通宝」で、六道銭の一部と考えられる。

般舟院にこれほど多量の石造物が存在する反面、現在一蓮寺境内には全く石造物が所在しないことから、中世の石造物は一蓮寺が一条小山から現在地へ移転するときに般舟院に運ばれたものと考えられている。



第５７図　廃般舟院出土遺物

第３項　旧常説寺

1）遺跡名：常説寺跡　2）中世寺院番号：2012013　3）分布図：第 22 図分布図 19 甲府北部　4）所在地：甲斐市敷島町吉沢　5）調査期間：H 18 年 11 月 13 日～ 12 月 13 日　6)時代：中世　7）遺構：建物跡・五輪塔列　8）調査機関：甲斐市教育委員会 9）参考文献：敷島町教育委員会　2001『敷島町の文化財』・小坂隆司ほか 2003 敷島町文化財調査報告第 13 集『山宮地遺跡Ⅱ』敷島町教育委員会・大嶌正之 2003 敷島町文化財調査報告第 17 集『山宮地遺跡Ⅲ』敷島町教育委員会・大嶌正之 2008 甲斐市文化財調査報告第 12 集『常説寺跡』甲斐市教育委員会

10）概　要

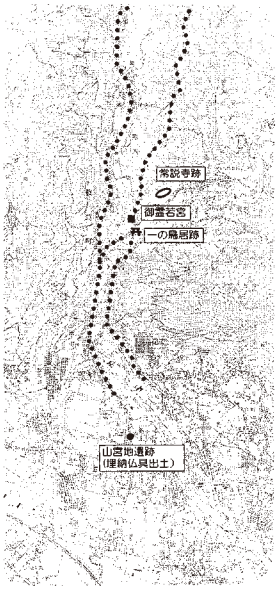
甲府盆地の北西部には、金峰山を最高峰とする奥秩父連峰からのびる山々が連なっている。現在の常説寺の前地である旧常説寺は、その金峰山に水源を持ち、甲府盆地へ南流する荒川右岸の河岸段丘上に立地する。遺跡は一段高い山腹に位置し、遺跡の東側には吉沢の集落が広がりその一角に現在の常説寺が所在する。

金峰山は甲斐では平安時代以降、富士山と並び信仰を集めており、山頂には修験道の本尊である蔵王権現が祀られるなど､修験道者の行場が数カ所で認められる。『甲斐国志』には､金峰山へ至るルートは 9 口があったとし､このうち南口である吉沢・塚原・亀沢は、常説寺の所在する甲斐市敷島町に所在する。近年この御岳道に近接する島上条地内の山宮地遺跡では、竪穴状遺構より仏具を含む銅製品類がまとまって出土した（第 58 図 1 ～ 5)。銅製品は 17 点を数え、中には錫杖頭や水瓶などがあり、錫杖頭はその形態からおおよそ 15 世紀代に位置づけられる。これらは再び鋳造するためにまとめて埋めたか、もしくは儀礼行為終了後埋納されたものと考えられている。いずれにしても金峰山の山岳信仰にかかわる遺跡と位置づけられている。さらにその御岳道のルート上、吉沢と亀沢の境にある御霊若宮の入り口には、かつて金桜神社に通じる御岳道に石鳥居が建てられていた。金桜神社の一の鳥居である。その後鳥居は倒壊し、昭和 59(1984) 年に発掘調査が行われた。鳥居は全国的に見ても数少ない鎌倉時代のものとされ、県内でも最古段階に位置づけられる。常説寺はこの御岳道沿いに位置し、石鳥居の北東部に近接するなど、山岳信仰の宗教的空間に所在するといってもよい。

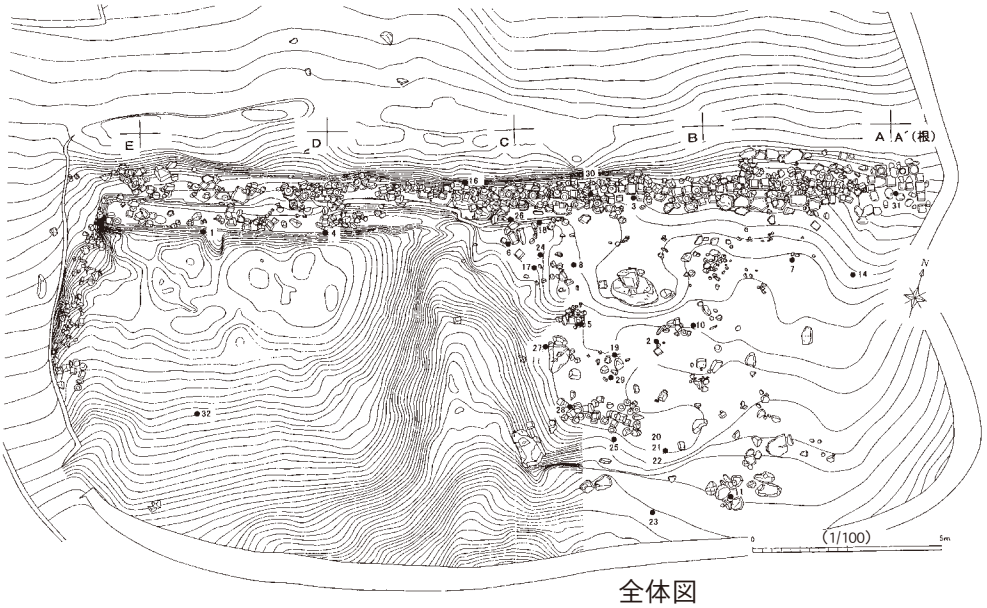
その常説寺は、弘仁 14(823) 年頃に天台宗寺院として最澄の弟子である栄澄が開創したと伝えられる。当初は台嶺山円乗寺、順徳寺と称したらしい。『甲斐国志』によれば、承久の乱で佐渡へ配流となった順徳上皇が、京都帰還を祈願するため越後の寺泊から、勅使を甲斐の御岳山に派遣した。その時に奉弊物を乗せた輿を当寺に留め置いて、参拝したという。その後地元の人々によって建立された堂に、この輿が納められた。この輿は「白輿」と呼ばれ、ツガ・ヒノキ材を用い、屋根の軒にゆるい反りがつけられほぼ正方形を呈する。鎌倉時代の風格をよくあらわすという。その後文永（1264 ～ 1275）年間に日蓮が訪れたことを機に、日蓮宗に改宗した。

旧常説寺は、荒川の河岸段丘上のテラスに展開する。テラス周辺の田畑のあぜ道などでは、以前から五輪塔等石造物の部材が点在しているのが確認されていた。テラス奥の傾斜変換点沿いでは、自然石を用いた基壇上に、東西に横一列にほぼ隙間なく並ぶ五輪塔を中心とした石造物群が確認された。石造物列は西へ行くほど年代が新しく、初段階の石造物群は、テラス東側の南から北へテラスを上がる導入路の、すぐ西側から並べられたものと判断される。五輪塔の基壇下では遺構は確認されなかった。これらの石造物群はおおよそ中世後半から近世のものであるが、最も古相を呈するものは 16 世紀初頭に位置づけられる。また石造物群に伴って北宋銭や寛永通宝などの銭が出土している。さらにテラス西側の五輪塔前面は、地盤がつき固められており、建物跡が所在した痕跡を確認した。一方テラス中央先端部では、巨石の上部に表面が平坦な自然石を用いた石造物が立てられた状態で所在していた。石造物の銘文から、本遺跡が旧常説寺であると判断できる。石造物群や出土遺物の年代から今回の発掘調査では、文献では空白期間である中世段階の常説寺の一端が明らかとなった。

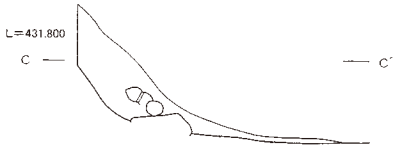
なお本稿は調査担当者の大嶌正之氏に、多くの御教示を賜った。



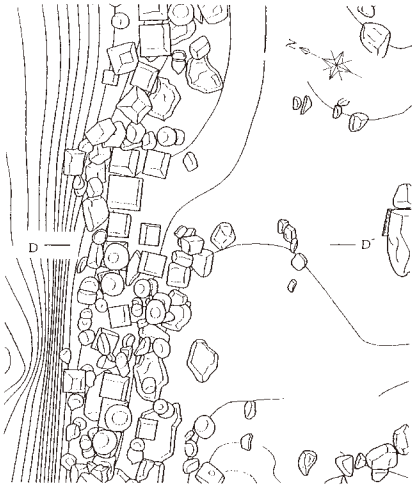
遺跡位置図と周辺図

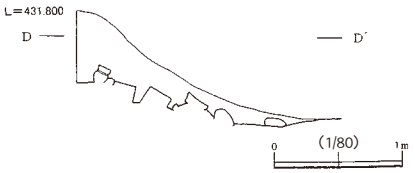


全体図



西側五輪塔・セクション図



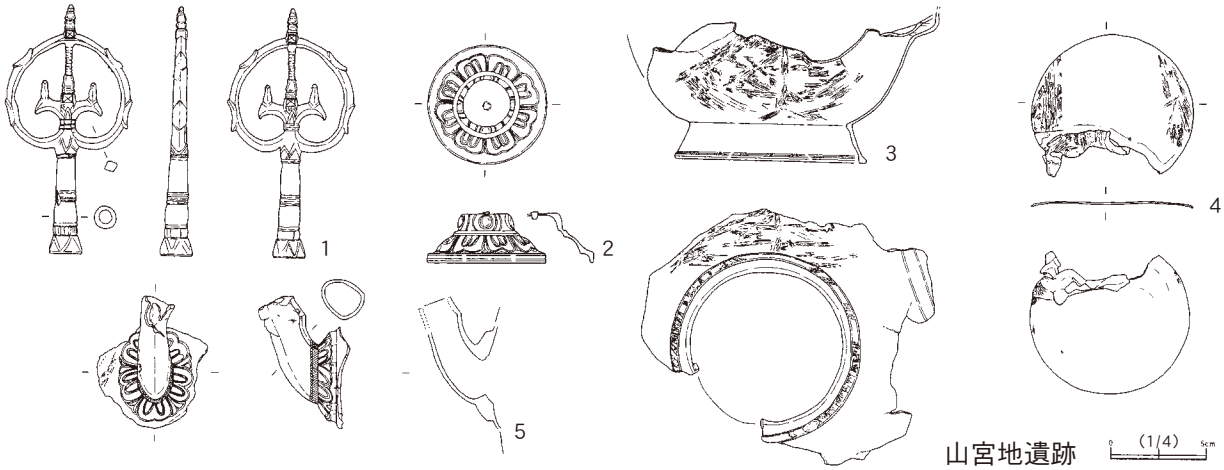


東側五輪塔・セクション図

五輪塔出土状況①

五輪塔出土状況②

旧常説寺



第５８図　旧常説寺全体図・石造物出土状況・山宮地遺跡出土遺物

第４項　旧羅漢寺

1）遺跡名：旧羅漢寺遺跡　2）中世寺院番号：2012034　3）分布図：第 22 図分布図 19 甲府北部 4）所在地：甲斐市千田　5）調査期間：昭和 60 年～ 62 年　6）時代：中世　7）遺構：本堂跡・庫裡跡・庭園　8）調査機関：敷島町教育委員会（現甲斐市教育委員会）　9）参考文献：末木健 1987「羅漢寺発掘調査報告」『甲斐路』六十一号　山梨郷土研究会・笹本正治 2000「天台山羅漢寺について」『五百羅漢像安置六百年大祭・天台山羅漢寺開基八百年祭　羅漢寺』五百羅漢像安置六百年大祭･天台山羅漢寺開基八百年祭実行委員会･笹本正治 2002「天台山羅漢寺をめぐって」『甲斐の美術・建造物・城郭』岩田書院・櫛原功一ほか 2004「羅漢寺」『山梨県史』資料編 7 中世 4 考古資料　山梨県

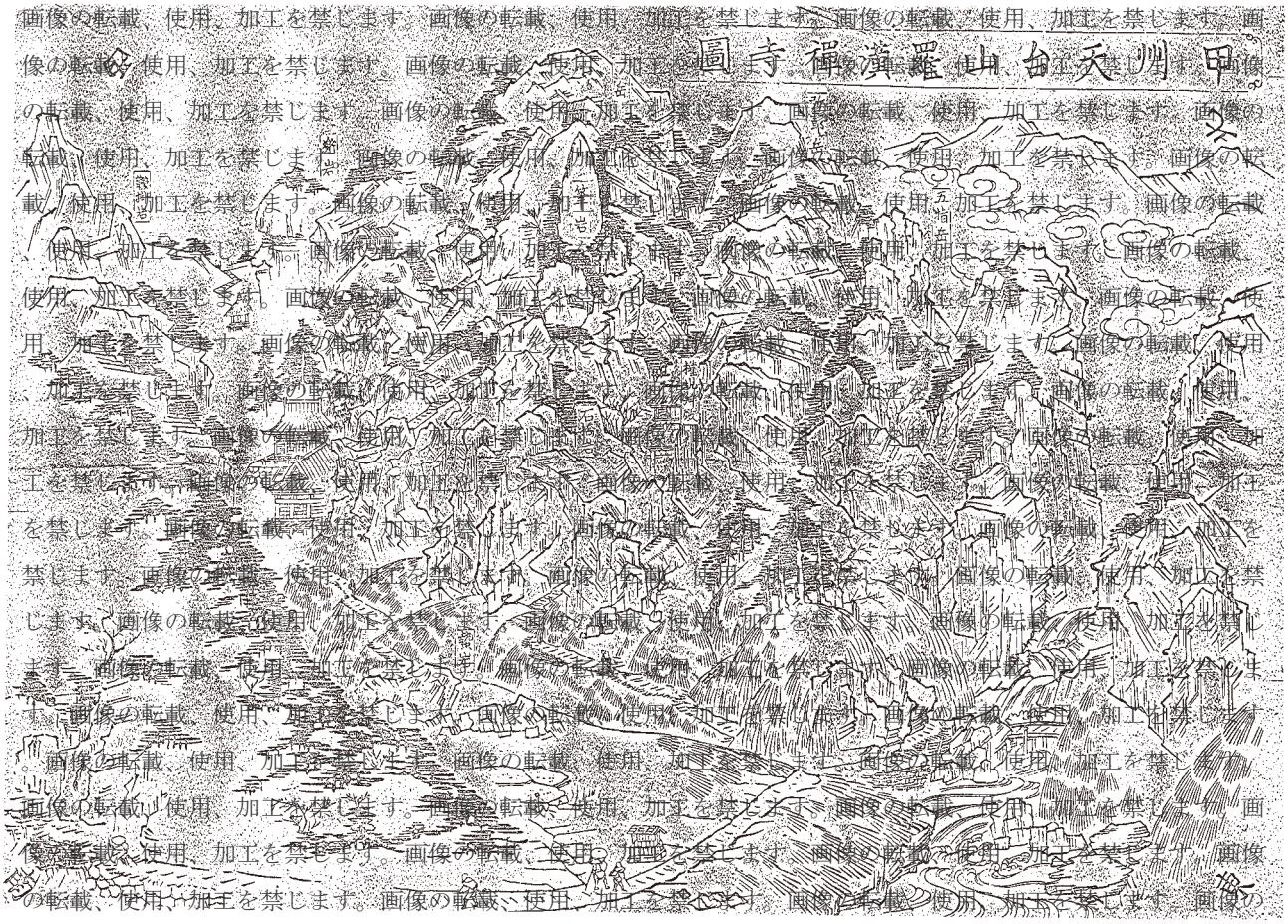
10）概　要

甲府盆地の北西部には、金峰山などを最高峰とする奥秩父連峰からのびる山々が連なっている。その山の一つであり、御岳昇仙峡を形成する荒川の右岸にある羅漢寺山は標高 1,058 ｍを測る。現在の天台山羅漢寺は、その羅漢寺山の東南山麓の荒川沿いに所在する曹洞宗の寺院である。

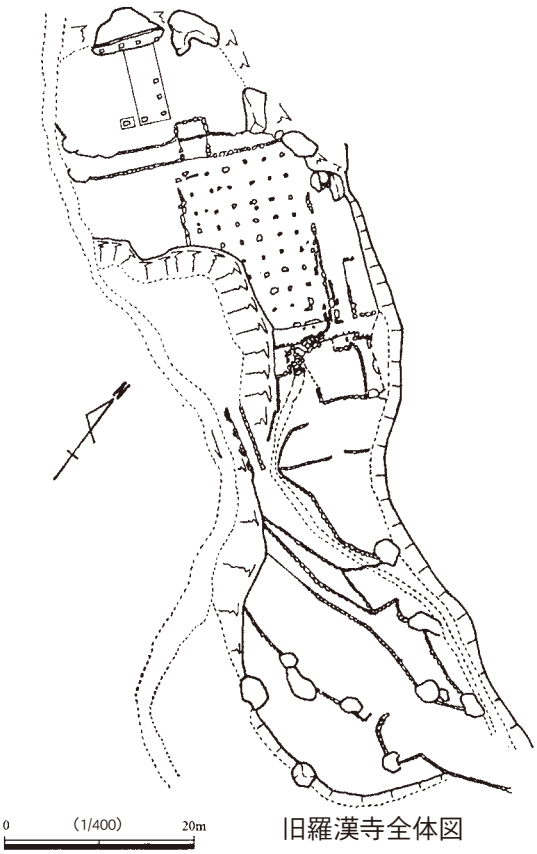
旧羅漢寺は、かつては北西 1 キロメートルの羅漢寺山中に所在した。羅漢寺山中の寺院上方には、岩屋である一の岳・二の岳・三の岳が所在し、それぞれに五輪塔・宝篋印塔などの石造物が安置されていた。五輪塔の中には水輪上部ほぞ穴中に､火葬された骨片や歯などが確認されたものもある。かつては一の岳には阿弥陀如来が、二の岳には釈迦如来が、三の岳には薬師如来が安置されていたとされ（『甲斐国志』）、さらに一の岳には現在羅漢寺が保管している五百羅漢像が所在したとされる。羅漢寺山の尾根には、金桜神社への登拝ルートである「外道」が通じるなど、金峰山へ至る通路の一つであり、旧羅漢寺はそのルート沿いに位置していたことになる。

旧羅漢寺は古くは真言宗寺院であり、「北山筋の高野山」と称された。『甲斐国社記・寺記』『敷島町誌』によれば開基は源頼朝の孫である天台座主有金僧都であると伝えられるが、天台座主が真言宗である羅漢寺の開基であることは、不自然であるとの指摘がある（2000 笹本)。寺の創建年代等は不明であるが、かつて岩屋に納められていた五百羅漢像のうち、銘文を持つものが 5 体程見られ、その銘文には 15 世紀前半台の年号やそれに関わる銘文が認められることから、15 世紀前半に一つの画期があったことが確認できる。またその成立については、岩屋に石造物が安置される状況から、中世以前に昇仙峡の覚円峰等の巨大な岩を磐座に見立てた山岳信仰の存在が推定され、それとともに金峰山信仰と結びついた山岳修験の拠点としての性格を持つとともに、三岳を中心とした三昧場であったのではないかとの見方がある（2004 櫛原)。

旧羅漢寺は、羅漢寺山中を流れる荒川支流の羅漢寺沢沿いの谷間に、急峻な谷底を削り、石垣を積んで造り出したテラス上に位置する。テラスは 10 数箇所が連続し、谷北側斜面に沿って細長く造られていた。発掘調査では、本堂跡・庫裡跡・庭園跡などが明らかとなった。本堂はテラス最上段で確認された。南北 10m、東西 20 ｍのテラス面のうち北西奥壁には巨石 2 個体が位置するが、北西側の巨石は幅 6.5 ｍを測り、前面を加工して平坦面が作り出されている。平坦面には東西方向に幅 0.2 ｍの溝が施され、それとほぼ併行に幅 1.8 ～ 2.0 ｍ間隔に柱穴を 4 箇所穿っている。この巨石の北東方向へトレンチを設定したところ、北西から南東方向に 3 箇所、北東から南西方向へ 2 箇所の逆Ｌ字状の礎石を確認した。礎石は側面を加工する丁寧な作りのものである。またテラス南東の庫裡の所在するテラスとの境には、2 段の石垣が積まれており、中央部には階段がかけられていたものと推測される。庫裡は本堂より一段下のテラスで確認された。最も広いテラスであるが、寺院廃絶後自然災害によりえぐられ、南側の一部を失っている。9 間× 5 間半の自然石を用いた礎石が確認され、これは『甲斐国社記・寺記』の記載とも一致する。北東側には幅 1.5 ｍの通路が井戸まで延び、また西側には庭園跡と推測される不規則な石組み遺構が検出された。庫裡の礎石はいずれも被熱により赤化するなど、火災にあった痕跡が看取でき、この火災が『寺記』に見える慶安 4(1651) 年の「羅漢寺火災」であった可能性も考えられている。さらに庫裡下段のテラスでは、南端にＬ字形の階段 13 段が検出されており、寺域内の導線についても明らかとなった。遺物は井戸付近で土師質土器・陶器・古銭・金属製品等が出土した。おおよそ中～近世に位置づけられる。



「甲州天台山羅漢寺禅寺図」木版図（作製期・作者不明　故村田友彦氏所蔵）



旧羅漢寺全体図

羅漢寺山三の岳の石造物

本堂階段

第５９図　旧羅漢寺木版図・全体図

第５項　小井川遺跡

1）遺跡名：小井川遺跡　2）所在地：中央市（旧田富町）布施地内　3）調査期間：H16 ～ 18 年度　4）時代：中世　5）遺構と遺物：礎石建物跡・壕・溝・墓　6）調査機関：県埋蔵文化財センター　7）参考文献：山梨県教育委員会・山梨県土木部 2008『小井川遺跡Ⅲ－新山梨環状道路建設工事に伴う発掘調査報告書－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 255 集

8）概 要

小井川遺跡の所在地は、中央市内の西側を南北に流れる釜無川と市内南側を流れる笛吹川のほぼ合流点となる釜無川扇状地の南西端にあたり、河川の堆積作用によって形成された沖積地である。標高は約 252 ｍを測り、県内ではもっとも平坦な地域の一つである。

平安時代中期以降の小井川遺跡が所在する布施荘跡は、東は上窪遺跡（旧玉穂町）を含む荒川手前まで、西は加賀美荘手前の二本柳遺跡（旧若草町）付近までがその範囲と考えられる。布施荘の周辺には、鎌田荘、小井河荘、大井荘、加賀美荘の荘園が存在していたことが知られている。その他の中世関連遺跡では、布施村北遺跡、神田遺跡、冷久保遺跡、三井右近丞屋敷跡が小井川遺跡を中心とした１㎞範囲内に所在する。また、小井川遺跡から北東に 200 ｍに位置する法星院は、甲斐守護の武田信成の子、布施満春の子である頼武が鎌倉時代に開創したという伝承がある。

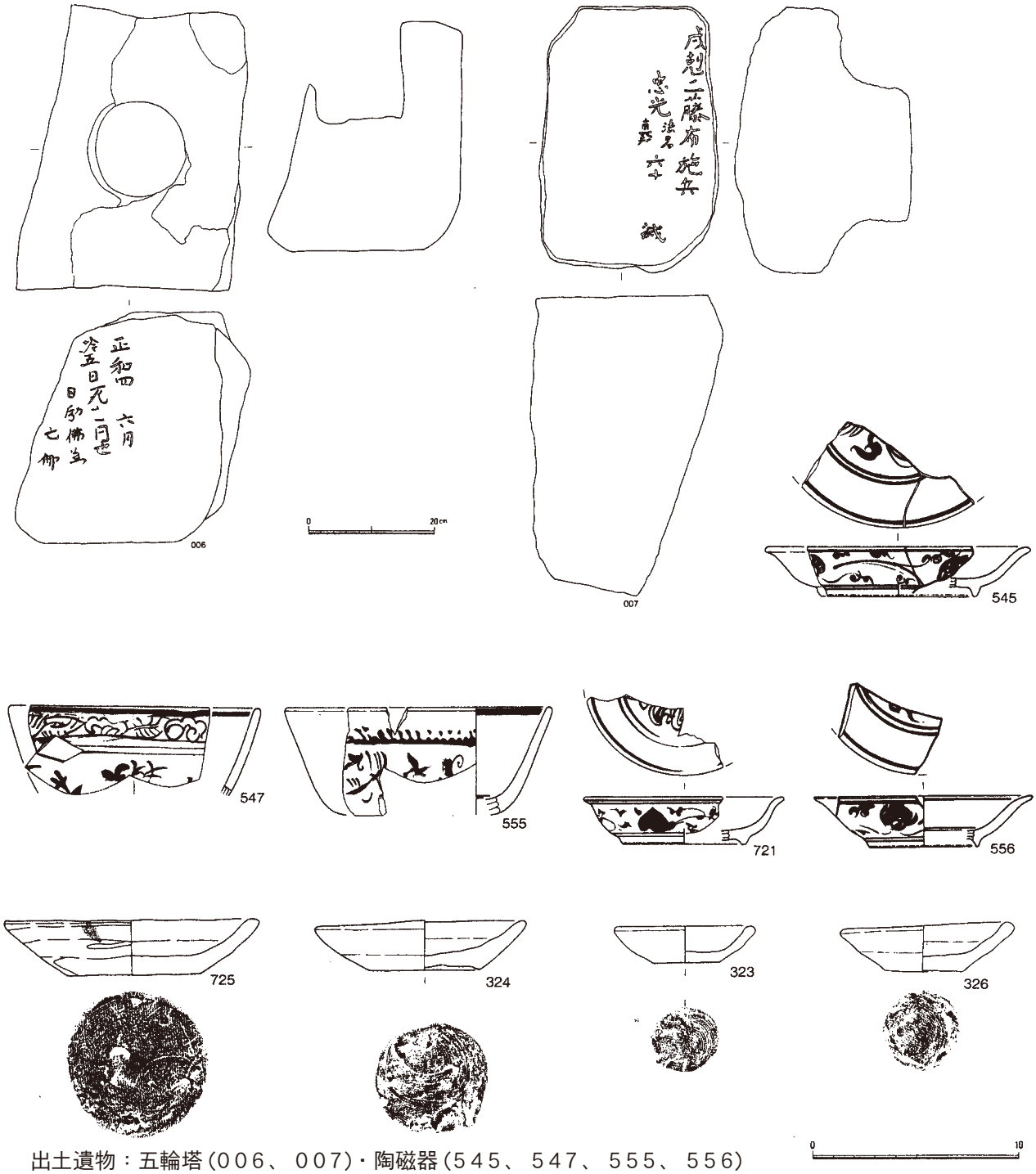
小井川遺跡の平成 17 年度調査区では、鎌倉時代から戦国時代までの遺構や遺物がみつかっている（第 60 図）。鎌倉時代に関わる遺構は検出されていないが、壕に架かる木橋の基礎や建物基礎として転用された五輪塔が出土している。五輪塔は、13 世紀後半以降になると畿内を中心として人の死に関わる刻印が出現するが、出土した五輪塔は 14 世紀前半に位置づけられるものである。これらの内、五輪塔の銘文中に「二藤布施兵衛忠光」という記載などがみつかり、出土地周辺が摂関家領所の布施荘跡であったことを示している。

戦国期の遺構として、１号礎石建物がみつかっている（第 61 図）。出土した炭化米の年代測定値、五輪塔や陶磁器類の年代から 15 世紀後半の創建と考えられ、礎石の配置からは、一棟で独立した東西７間×４間の寺院跡であることが想定される。建物跡は、火災による消失後に多数の礎石が抜き取られた痕跡があるが、発掘調査によってこれらの石材が消失後に再建されたと考えられる建物群に転用されていることがわかっている。１号建物に伴う遺構として、西側にある南北方向を軸とするＶ字状で幅 1.3 ｍの１号溝と東側に点在する５基の土坑（墓）がみつかっている。

１号礎石建物の消失後に再建された寺院では、主屋（２号礎石建物跡）を中心に西附属屋、東北附属屋、東附属屋、東南池の端遺構、南西隅遺構が検出されるなど、中世以降に一般的に認められる伽藍配置が確認された。また、周囲には幅２ｍ、深さ 0.8 ｍほどの壕が廻っている（第 62 図）。高さ 30㎝ほどに盛土された主屋の基壇は、東西約 18 ｍ×南北 13 ｍで、周囲には西面を除き幅 50 ～ 60㎝の雨落ち溝が検出された。基壇上に設けられた礎石の径は、30 ～ 70㎝と大小様々で、その配置は東西９間×南北６間である。また、縁束受けの礎石は、20 × 10㎝に統一された小型の切石が利用されている。この他、礎石上には、芯墨や床束がみつかっている。西附属屋は、主屋から鍵の手状に配列されている礎石部分で連結している状況が確認された。礎石は、河原石や五輪塔部材が利用されているが、全体的に小さく不揃いである。礎石の周囲に検出された竹列は、５間×３間であるが、中心部の３間分は半分に分割されている。東附属屋は、東西約 8.3 ｍ×南北 9.1 ｍを測り、主屋との連結部分には、東西約 1.8 ｍ×南北 2.7 ｍの張り出し部が確認された。主屋の東に隣接する東北附属屋は、東西約 6.7 ｍ×南北 5.3 ｍの範囲に柱穴が検出されている。礎石の配列から、東西は 12 ｍほどに延びる可能性がある。この建物跡内では２基の石組がみつかっているが、中心側の遺構は、人頭大の河原石を敷き詰めた上部に拳大の石材を15㎝程度集積させた方形集積（99㎝× 87㎝×深さ 34㎝）で、暖房装置の基礎部分である可能性が指摘されている。主屋の周囲に廻る溝との関係から、東附属屋よりも後に建てられた可能性がある。東南池の端遺構は、柱間２間×４間で礎石が配されている。池を跨ぐように礎石が存在することから、縁台が想定される。南西隅遺構は、検出された礎石と杭から５尺× 12 尺の規模と考えられる。この建物跡の南西部分は、礎石の代りに杭を使用し

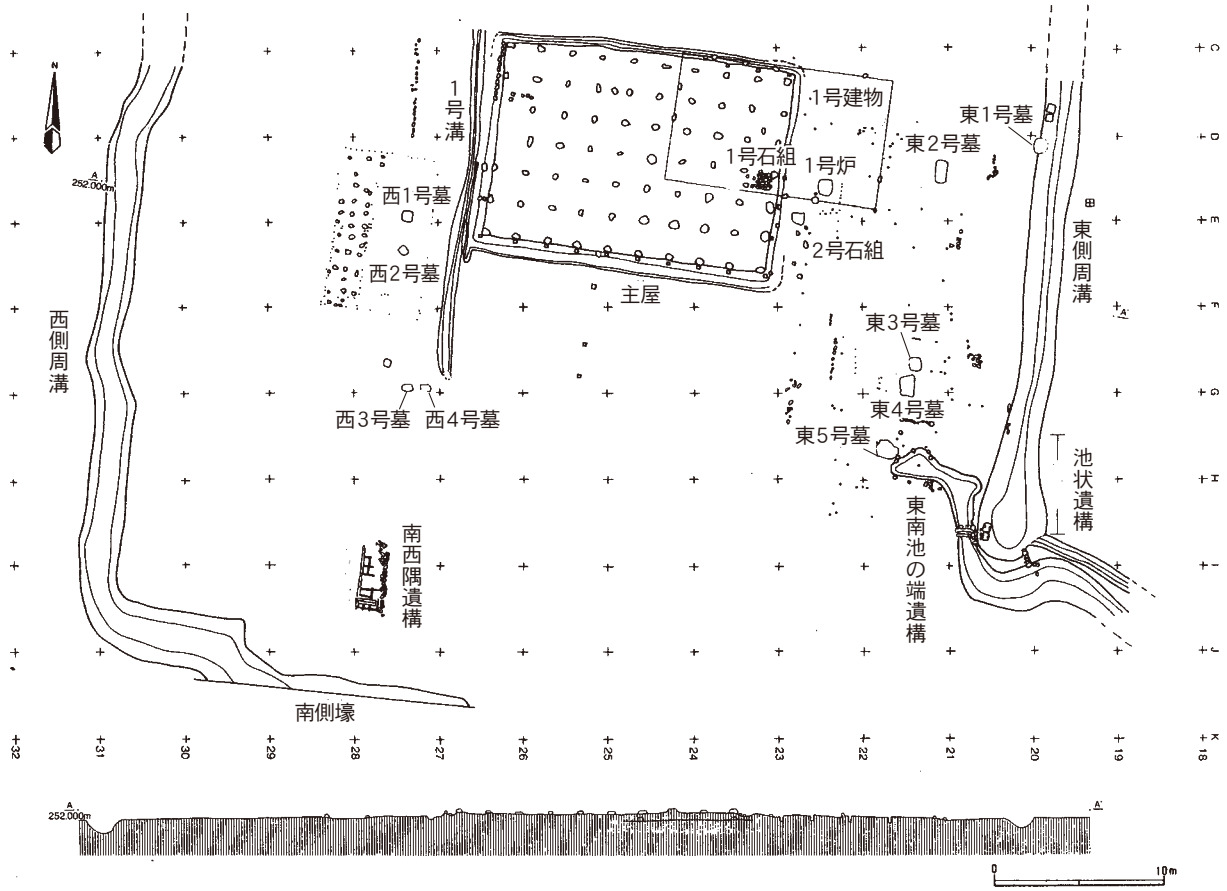
ているのが特徴的である。

これら建物群の再建時期は、武田信玄時代（1541-1573）の後半、寺院廃棄は２号礎石建物跡の廃絶後に堆積した土層より出土した土器（第 60 図）などから、武田氏滅亡直後の 1582 年頃と推定されている。その他、17 世紀の遺構として江戸後期～明治まで存在した無住職寺であった慶勝院の寺域で墓（第 61 図：西１号墓～西５号墓）が確認されている。



出土遺物：五輪塔（００６、００７）・陶磁器（５４５、５４７、５５５、５５６）
土器（３２３、３２４、３２６、７２５）

第６０図　小井川遺跡出土遺物



第61図　1号建物跡と関連遺構の位置

第62図　主屋を中心とする建物群の位置

第３節　峡東地域（C エリア）

第１項　向嶽寺

1）遺跡名：向嶽寺　2）中世寺院番号：3017027　3）分布図：第 30 図分布図 27 塩山　4）所在地：甲州市塩山上於曽　5）調査期間：H2 年 11 月 13 日～ 12 月 8 日・H4 年 8 月 18 日～ 9 月 4 日　6）時代：中世　7）遺構：庭園跡・大方丈跡　8）調査機関：現甲州市教育委員会（塩山市教育委員会）　9）参考文献：堀ノ内泉 1991『向嶽寺庭園−修理事業に伴う発掘調査報告』大本山向嶽寺・塩山市教育委員会・塩山市 1996「向嶽寺庭園」『塩山市史』史料編第一巻原始・古代・中世

10）概　要

向嶽寺は、甲府盆地の東部に位置する塩ノ山の南麓に所在する。付近には夢窓疎石が開創し、武田信玄に厚く庇護された臨済宗寺院である恵林寺や、元暦元年（1184）に甲斐源氏の祖である新羅三郎義光の曾孫である安田義定により創建された真言宗寺院の放光寺が立地するなど、甲斐の仏教を考える上では重要なエリアである。

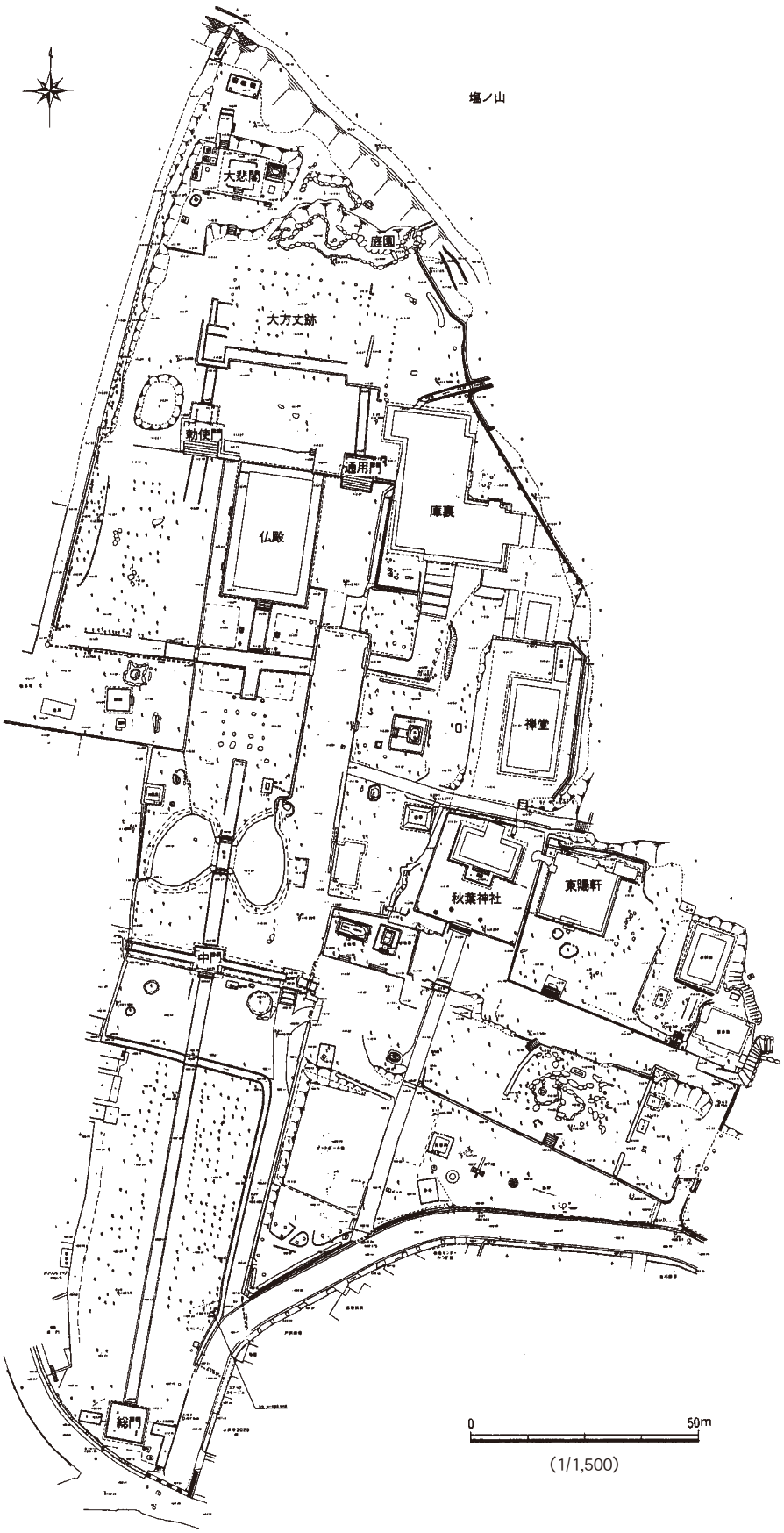
向嶽寺は当初向嶽庵と称し、康暦二年（1380）に抜隊得勝により開山、甲斐守護武田信成により開基されたと伝えられる（『塩山向嶽禅庵小年代記』）。前身寺院は甲州市塩山竹森に所在したが、三年のうちに多数の僧尼が訪れるようになったため、康暦二年に武田信成に寺地の寄進を受け現在地に移ったという。一説に向嶽庵は至徳二年（1385）に後亀山天皇から勅願寺に列せられたといわれるが（「桜雲記」）、定かではない。その後守護武田氏の庇護の元、教線を拡大し甲斐国内にも広済庵（笛吹市八代町）や聖応庵（笛吹市境川町）、月江庵（富士吉田市）など、後に向嶽寺派となる有力寺院が次々と創建された。武田信玄の時には、向嶽庵から向嶽寺へ改められた。

また本寺には多数の中世文書が保存される。この「向嶽寺文書」は、応永十七年（1410）から慶長十年（1605）までの多種多様の文書 80 通が現存し、「塩山向嶽禅菴小年代記」は永和二年（1376）に抜隊得勝が武州に庵を結ぶことから始まる、向嶽寺歴代住職がその後 400 年間の記録を書き継いだ年代記である。いずれも甲斐の中世史を研究する上で貴重な資料になっている。

さらに本寺が所蔵する絹本著色達磨図は南宋画様式の特徴を持ち、蘭渓道隆の讃があり国宝に指定されているほか、絹本著色三光国師像には抜隊得勝の讃、絹本著色大円禅師像には傑叟自玄の讃がそれぞれあり、いずれも国の重要文化財に指定されており、その他中門である四脚門は切妻造り、銅板葺（もとは檜皮葺）で室町時代末期の遺構をよく伝えており、国の重要文化財であるなど国宝１点、国の重要文化財３点、県指定文化財 10 点、市指定文化財８点など数多くの寺宝が所在する。

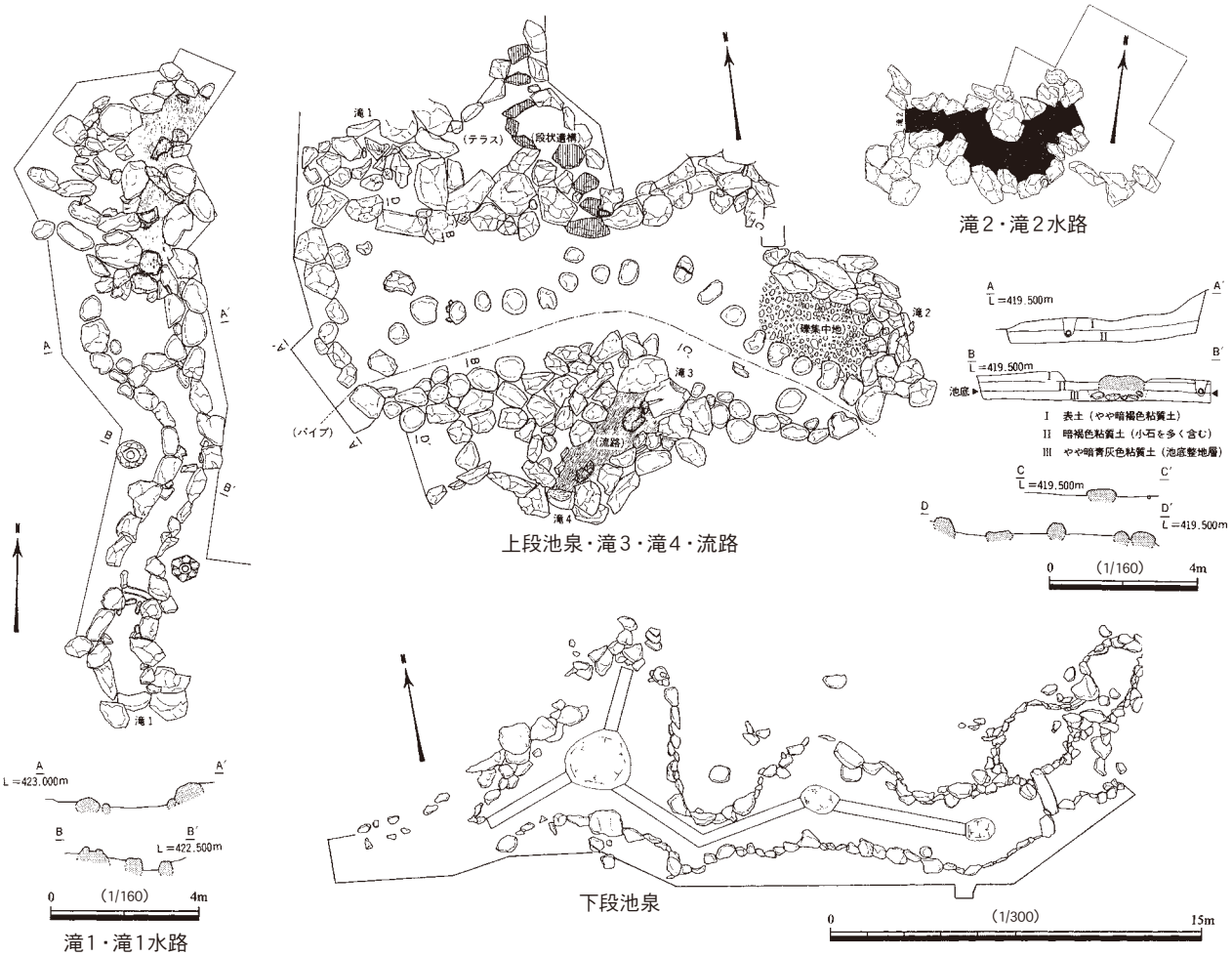
向嶽寺では大正時代に焼失した大方丈再建に先立ち、平成２・３年度に塩山市教育委員会がその北側に近接する庭園の修理に伴う発掘調査を実施した。庭園は県指定史跡であり、その状況は滝石組が４箇所、池泉が１箇所、その他庭園全体に石組が所在していた。発掘調査では、埋没して現段階に伝えられていない遺構の確認の他、滝石組に伴う水路の確認を重点的に行った。調査の結果、滝石組は合計５箇所、池泉は既存の上段にもう１箇所の合計２箇所が所在したことを確認した。また上段池泉に伴う滝石組につながる水路及び下段池泉から水を排出するための暗渠、さらに上段池泉内に飛石１９地点を検出した。さらに調査範囲を拡大したところ、庭園西側と大悲閣の間に位置する武田信成の墓所地点まで石組みがのびているのが認められた。一方下段池泉の東端では新たに池泉石組が確認され、これらの成果から現在の庭園よりさらに東西に大きかったことが理解された。また本庭園は築造時には池泉鑑賞式の庭園であったが、次第に回遊式庭園に改められていったことが、本庭園の特徴の一つとして挙げられる。こうした形式変化は、江戸時代中頃には開山である抜隊得勝の禅が廃れ、大休・天眼といった禅僧の台頭の影響であることを担当者は推測している。また今回の調査では、庭園上部に溝や人工的な土盛りが施されていることも明らかになり、庭園の造成が治山・治水の役割も担っていたことが推測される。

なお、本庭園は甲州に残る古庭園の一典型として、さらには調査に基づく学術資料として貴重であるとの理由により国の名勝に指定されている。



第６３図　向嶽寺全体図

庭園全体図



第６４図　向嶽寺庭園

第２項　放光寺

1）遺跡名：放光寺　2）中世寺院番号：3017093　3）分布図：第 30 図分布図 27 塩山　4）所在地：甲州市塩山藤木　5）調査年月日：H3 年 12 月 12・13 日・H6 年 8 月 1 日～ 8 月 5 日　6）時代：平安時代・中世　7）調査機関：塩山市教育委員会（現甲州市教育委員会）　8）参考文献：塩山市 1996「放光寺」『塩山市史』史料編第一巻原始・古代・中世・山梨県教育委員会 1995「放光寺」『山梨県古代官衙・寺院跡詳細分布調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 106 集

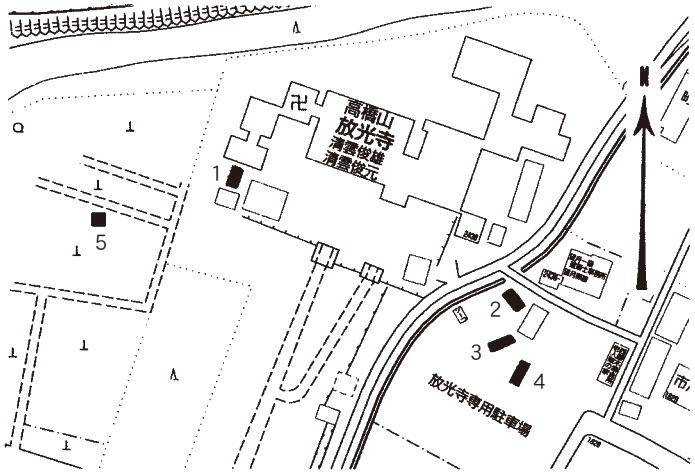
9）概　要

放光寺は、甲府盆地の最東部で笛吹川と鼓川の合流地点よりやや東側、笛吹川左岸に立地する。この地点は、東には扇山、西には天狗山から連なる尾根がそれぞれ迫る、秩父往還の旧街道沿いの交通の要衝でもある。付近には夢窓疎石が開創し、武田信玄に厚く庇護された恵林寺や甲斐では臨済宗向嶽寺派の大本山である向嶽寺が立地する重要なエリアである。

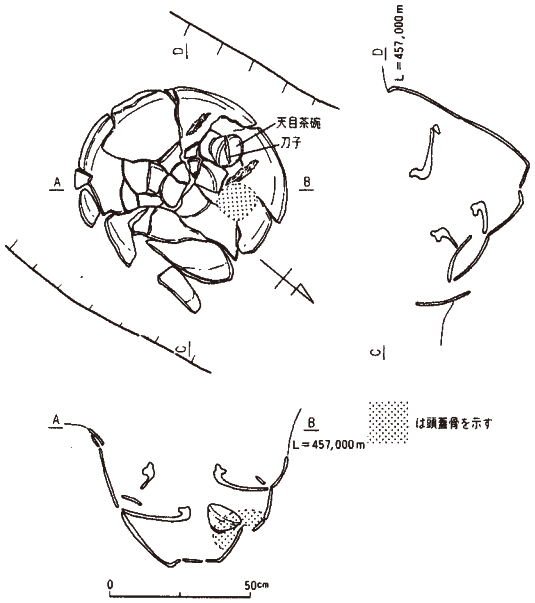
放光寺は、甲斐源氏の祖である新羅三郎義光の曾孫である安田義定により、真言宗寺院として元暦元年（1184）に創建、開山は賀賢上人と伝えられる。前身寺院は平安時代に山岳寺院として大菩薩峠山麓の一ノ瀬高橋に建立されたとされ、当寺旧蔵の寛保三年の梵鐘銘によれば、放光寺創建時は高橋山法光寺と称したとされる。創建の安田義定は治承・寿永の乱で功績が大きく、源頼朝に遠江守護に任じられたもののその後源頼朝反逆の罪で、本寺で自刃した（『吾妻鏡』）。本寺には現在も安田義定のものとされる位牌「法光大禅定門」（表面）「建久五年甲寅八月十九日」（裏面）が伝えられており、安田義定との深い関係が看取できる。放光寺と改められた記録の初現は天正十九年（1589）であるが、その後織田信長の武田攻めに伴い広大な伽藍を焼失した。本寺の本尊である大日如来座像、さらに愛染明王坐像･不動明王立像は平安時代藤原末期の作で国の重要文化財、建久二年（1191）銘を持つ安田義定奉納の梵鐘、遠州鎌田山医王寺旧蔵で武田氏により本寺へ移された南北朝（1336 ～ 92）の紙本墨書大般若経 600 巻、鎌倉時代前期の金剛力士像二体は県指定文化財に指定されている。

平成 2 年度（1990）より 5 カ年計画で行われた県埋蔵文化財センターの山梨県古代官衙・寺院調査では、本堂及び庫裏周辺に 5 箇所のトレンチを設定し、掘り下げを行った。発掘調査では遺構は確認されなかったが、出土遺物もしくは放光寺所蔵の遺物には、布目瓦や土師質土製品、平安時代の土師質土器や、須恵器などがある。

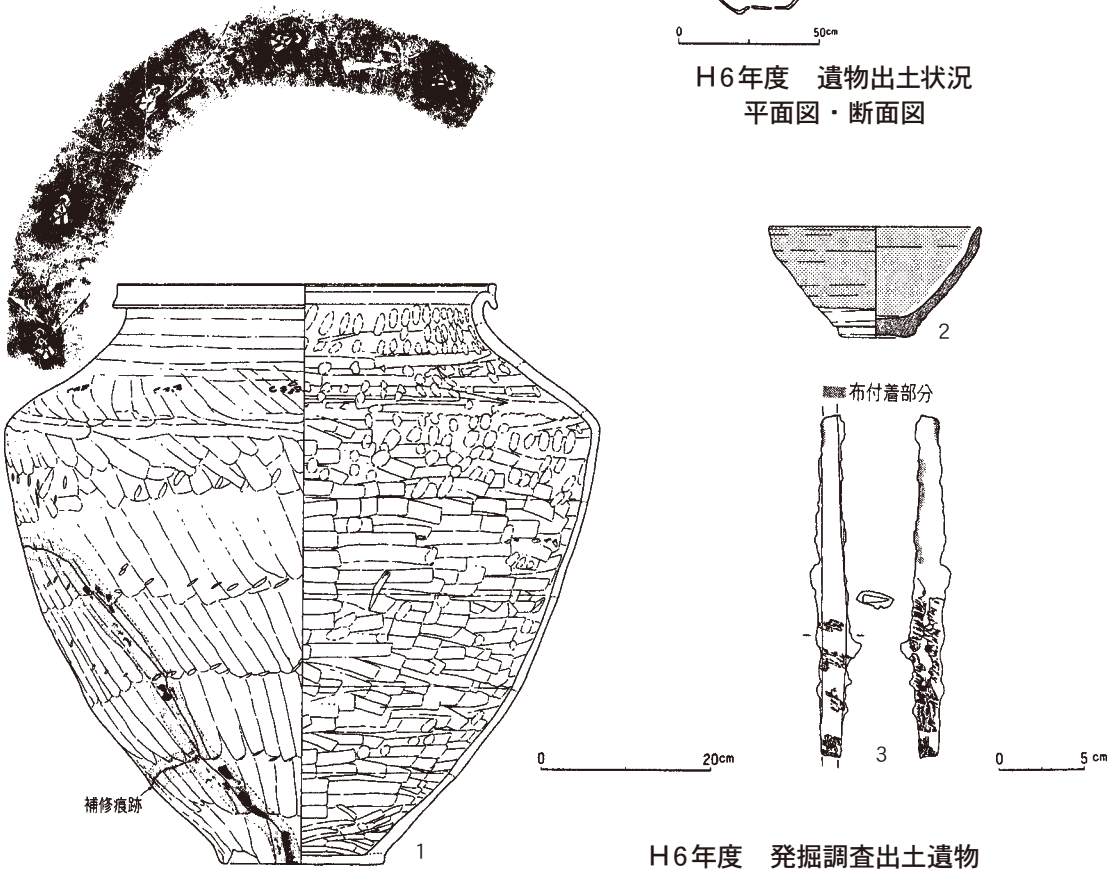
また、平成 6 年度（1994）には、寺域内の水路に土器が埋まっているのが発見された。水路の改修計画もあることから、それに先だって塩山市教育委員会（現甲州市教育委員会）により調査が行われ、常滑焼きの大甕及び人骨・副葬品等が確認された。出土状況から埋葬主体と考えられる。常滑焼き大甕は、口径 43.0㎝、器高 68.8㎝、最大経 70.5㎝を測り、内外面の調整及び焼成は良好であるが、一部に補修の痕跡が認められた。外面頸部から肩部にかけての 7 箇所に窯印と判断される「扇」を模した印が見られる。製作年代は 13 世紀後半に位置づけられる。副葬品には小刀・古銭・天目茶碗がある。小刀は長さ 17.8㎝で、さびの付着がみられる。古銭は直径 2.4㎝、劣化が著しく文字の判読は不可能であった。天目茶碗は口径 12.0㎝、器高 6.4㎝を測り、焼成は良好である。15 世紀第 2 四半期の所産であり、この年代が被葬者の葬られた時期であると判断される。さらに今回確認した墓坑周辺の精査を行ったところ、周囲に同様の遺構は所在しなかった。このため本墓坑は単独で所在したと考えられる。『塩山市史』ではこの墓の被葬者について、「大村伊賀守忠行」の可能性を指摘している。大村伊賀守忠行は、地域的武士集団の党主であり、武田信玄の家臣で牧丘町中牧城の城代を務めた。武田家滅亡の後は北条氏に属し、徳川勢に敗れたため、一説には忠行は放光寺西の丸で自刃したとの伝承が残る。ただしそれは 16 世紀後半であるため本墓坑の出土品と一致せず、なお再考を要する。



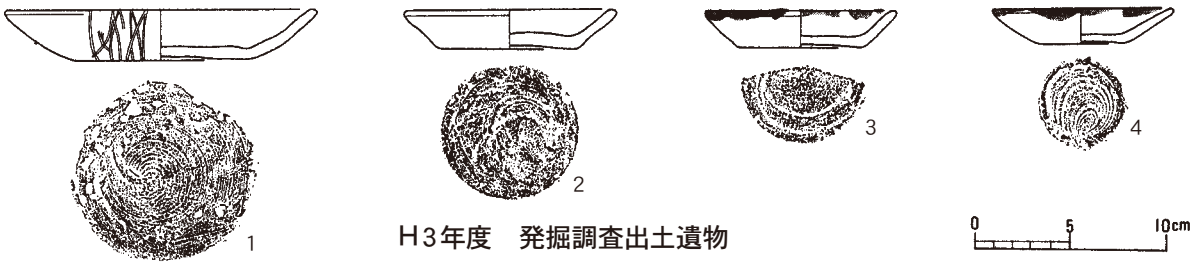
トレンチ配置図
（1～4はH３年度調査・ 5はH６年度調査）



H６年度　遺物出土状況
平面図・断面図



H６年度　発掘調査出土遺物



H３年度　発掘調査出土遺物

第６５図　放光寺トレンチ配置図・出土遺物

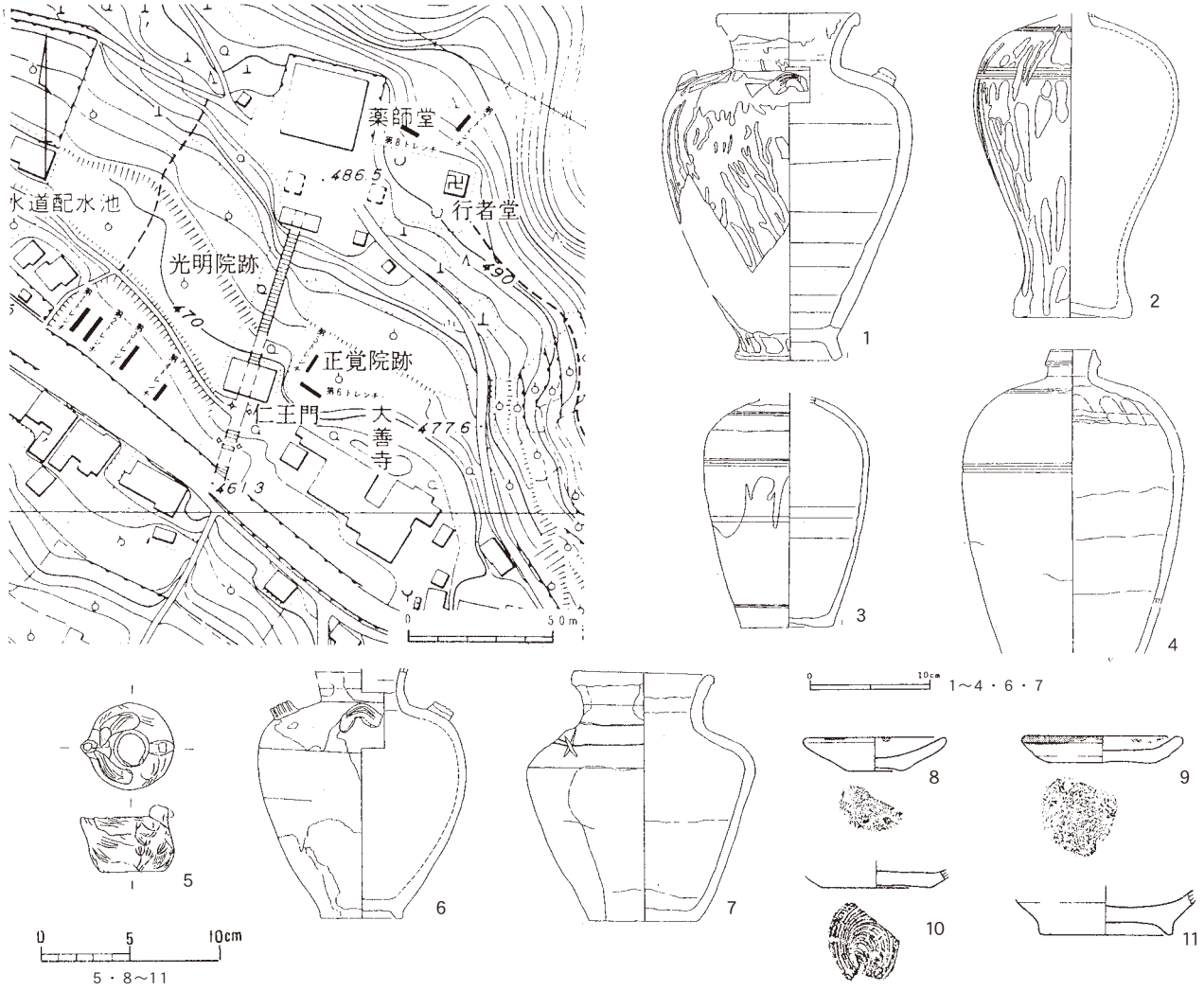
第３項　大善寺

1）遺跡名：大善寺　2）中世寺院番号：3018033　3）分布図：第 31 図分布図 28 石和　4）所在地：甲州市勝沼柏尾　5）調査期間：S54・S58・H5 年 12 月 13 日～ 21 日　6）時代：平安時代・中世　7）調査機関：県埋蔵文化財センター　8）参考文献：山梨県教育委員会 1995「大善寺」『山梨県古代官衙・寺院跡詳細分布調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 106 集・田代孝 1999「勝沼町大善寺の中世陶器」『山梨県考古学論集』Ⅳ・山梨県　2004「大善寺中世墓」『山梨県史』資料編７中世４考古資料

9）概　要

大善寺は、甲府盆地の東に位置する柏尾山から西南に延びる尾根南麓に所在し、崖下には日川が西流する。本寺は、平安時代前期に古代豪族三枝氏によって創建された真言宗寺院であると伝えられる。本堂東の白山中腹から出土した康和五年（1103）銘の経筒には「柏尾山寺往生院」と記され、当寺が真言密教の中心寺院であったことがわかる。

昭和 54 年（1979）の発掘調査では、裏参道の南斜面で中世墓群が確認された。調査地は帯状のテラスが 3 段設けられ、五輪塔群が出土した。地輪下の平石下層からは焼骨を埋葬した土坑が確認された。昭和 58 年（1984）年には、54 年調査地の南側で発掘調査が行われ、中世墓が検出された。これらの年代は、境内より発見された遺物（第 66 図 1 ～ 7）から、13 世紀初頭から 15 世紀後半と考えられている。また、平成 5 年（1993）には、光明院跡、薬師堂、正覚院跡周辺で発掘調査が行われ、五重塔跡周辺の第 8 トレンチでは、石段が確認された。遺物は 8 ～ 11 が出土しているが、いずれも遺構には伴わなかった。



第６６図　大善寺トレンチ配置図・出土遺物

第４項　棲雲寺

1）遺跡名:棲雲寺　2）中世寺院番号:3019005　3）分布図:第 37 図分布図 34 笹子　4）所在地:甲州市木賊　5）時代：中世　6）参考文献：小野正文 1984「棲雲寺出土の常滑大甕」『丘陵』10 号　甲斐丘陵考古学研究会・山梨県　2004「棲雲寺開山墓」『山梨県史』資料編７中世４考古資料

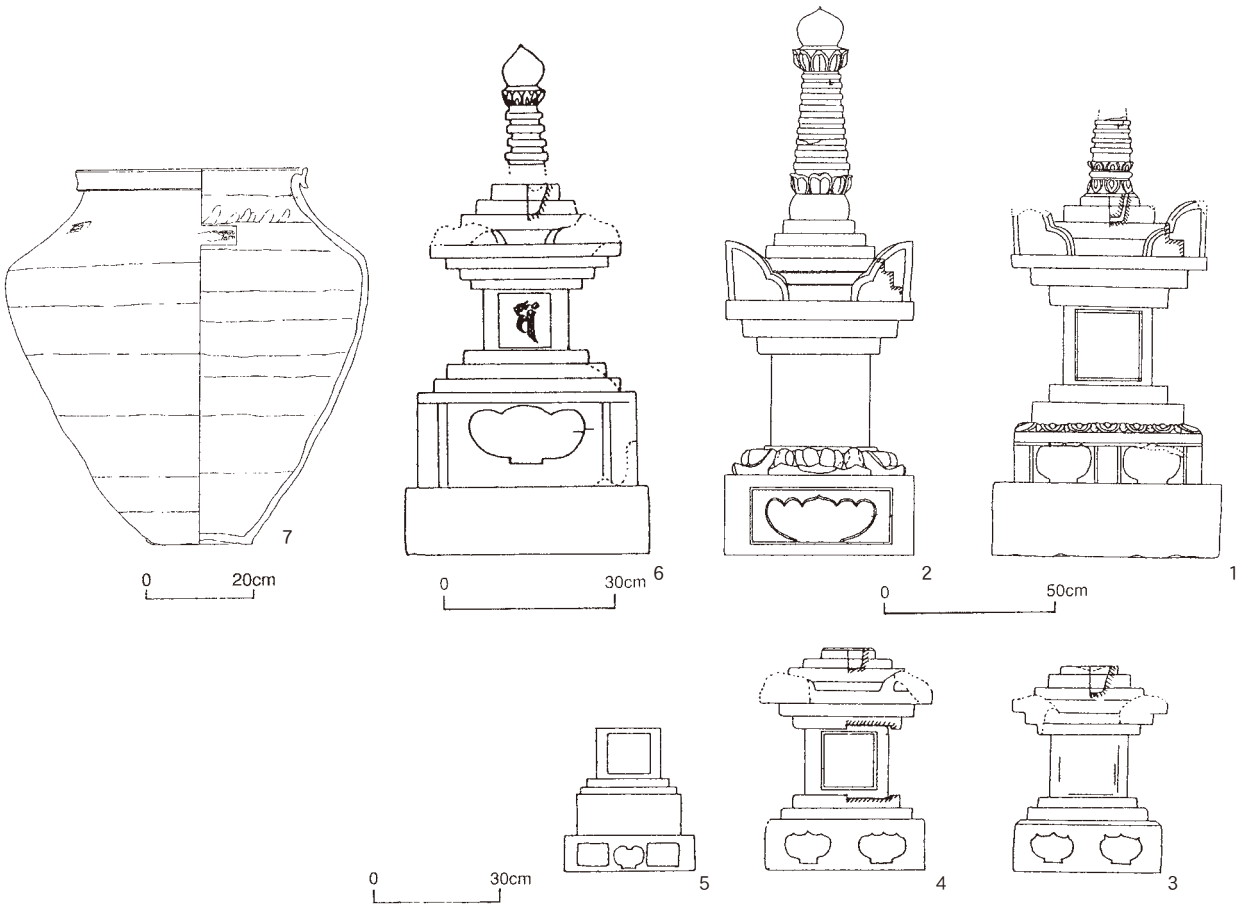
7）概　要

棲雲寺は、甲府盆地の東に位置する黒岳南西側の尾根で、日川沿いの標高 1,050 m地点に立地する。

本寺は、貞和四年(1348)に業海本浄が開山した臨済宗寺院である。業海本浄は文保年間に元へわたり、中峰明本に師事した。山号の天目山は､元で修行した幻住庵の山号にちなむという。隠遁的宗風で寺にこもり修行し、文和元年(1352)に入寂したという。

境内には、観応三年(1352)銘の「開山塔」（第 67 図 1）と文和二年（1353）銘の「普同塔」（2）が所在する。花崗岩製で、いずれも基礎部分に有段を持たず上部に反花が施される形式は、関西形式であると判断される。県内に類例は認められない。また、普同塔石塔下からは７の常滑焼大甕が出土した。蔵骨器と判断され、業海本浄らの墓であると推定される。大甕は口径 42.3㎝、高さ 68.3㎝、底径 19.0㎝を測る。肩部には４箇所に「天」のスタンプ文が施される。普同塔と同時期に製作されたと考えられることから、帰属年代は 1353 年頃であり、常滑窯の編年基準資料として貴重である。

また境内には､観応三年（1352）銘の宝篋印塔（3･4）や応安三年（1370）銘の宝篋印塔(5)､応永二年（1395）銘の宝篋印塔（6）がある。3 は 4 とセットで造立されたと考えられ、開山塔との関わりについても指摘されている。6 は開基である武田信満の墓とされているが、信満が自刃したのは応永二十四年（1417）であり、また 6 の宝篋印塔のパーツが様々であることから、信満の墓であるとは判断しがたい。



第67図　棲雲寺　石造物・遺物

第５項　柚口金桜神社奥社地遺跡

1）遺跡名：山梨市指定史跡 柚口金桜神社奥社地遺跡　2）所在地：山梨市牧丘町柚口地内
3）調査期間：H16 年 7 月 14 日～ 9 月 28 日・H18 年 1 月 11 日～ 3 月 6 日　4）時代：平安末～中・近世・明治時代　5）遺構：礎石建物跡・テラス・石積・石段・石組・通路　6）調査機関：(財）山梨文化財研究所　7）参考文献：『東山梨郡誌』「米澤山雲峯寺」1916・櫛原功一・大崎文裕 2005「金桜神社奥社地の研究」『山梨県考古学協会誌』第 15 号・山梨市教育委員会 2006『柚口金桜神社奥社地遺跡－山梨市牧丘町柚口地内の山岳寺社跡学術調査－』山梨市文化財調査報告書　第 10 集
8）概　要

山梨市指定史跡（昭和 51 年に牧丘町指定史跡登録）である柚口金桜神社奥社地跡は、高天原と呼ばれる地にある金桜神社の旧社地の遺跡で、笛吹川上流にあたる琴川の右岸、東御殿西麓に位置する。史跡の北側には、急勾配な岩場があり、その先には東御殿に続く尾根道がある。東西にも尾根があり、これらの尾根に囲まれた緩斜面で、東西約 100 m、南北約 200 mの細長い空間が遺跡となっている（第 68 図)。

金桜神社は、甲斐金峰山山頂の五丈岩（蔵王権現）の山宮に対して甲府盆地からの各入山口に里宮として奉られた神社で、金峰山信仰における各地の拠点とされた。金桜神社は、柚口の他に山梨市歌田、同万力、甲府市御岳などが知られており、金峰山へ至る御岳道のうち柚口金桜神社から奥社地跡南側を通る柚口ルートは、最も東に位置している。柚口金桜神社については、寺社記・金石文等に仁寿年間（851-853）に創建、米沢山雲峯寺が守護寺として開かれたとする記載がある。また、米沢山雲峯寺は、天台宗の寺として仁寿元年に柚口山中の高原に開創されたが、天正期の火災後に二本松へ、そして現在の所在地である小倉原へと移された（『東山梨郡誌』1916)という記録がある。この米沢山雲峯寺の北側には金桜神社が､南側に子守･勝手社が南北に建ち並んでいる。

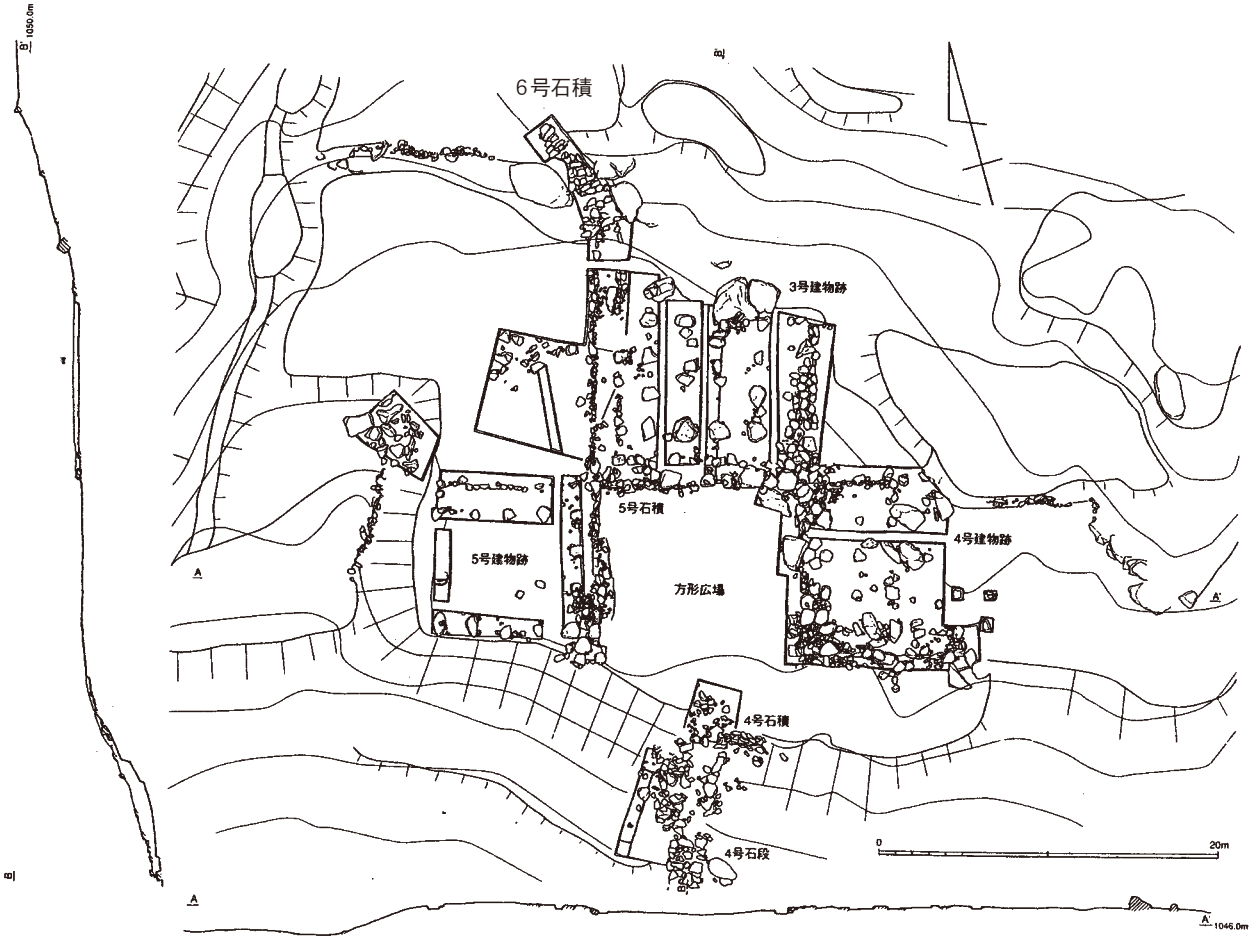
柚口金桜神社奥社地跡では、平成 17 年と 18 年に発掘調査が実施され、20 面以上の平坦面（以後、テラスという）や、テラスの土留めとなる石積、テラスを結ぶ通路遺構に石段などが確認された。これらのテラス群は、1 号・2 号・5 号テラスと石段を中心とした東側と、9 ～ 13 号テラスのある西側部分に分けられる。現在も奥社殿がある東側部分は、神社域と考えられ中世から江戸期にかけて大きな整備が二度行なわれた形跡が確認されている。

一方､東に 8 号テラス､西に 13 号テラス､北に 12 号テラスを配した西側部分の中心と考えられる 9 号テラスは、東西 62 m、南北 26 mで遺跡内では最大級である。同テラスは、方形広場を 5 号石積が東西と北側をコの字形に囲む範囲が一段低い造りになっている（第 69 図)。この広場部分は、東西 23 m、南北 14 mを測り、テラス南側には幅約 2 m、長さ 11.5 mの 4 号石段が付随する。また、方形広場を囲うように三棟の建物跡が 3 号建物跡を中心に左右対称に配置され、3 号建物跡の背後（北側）には 12 号テラスへと続く 6 号石段が確認された。16 段からなるこの石段は、建物跡と同時期だと考えられる。各建物跡の規模は、見つかった礎石から 3 号建物跡が 3 間× 3 間、4 号建物跡が 2 間× 4 間、5 号建物跡が 3 間× 4 間であることが確認された。このうち、中央の 3 号建物跡は須弥檀を備えた仏堂で、三棟の建物跡の礎石がどれも大型で統一規格であることから、同一時期に建てられた可能性が指摘されている。また、3 号建物跡の出土遺物（第 69 図）が 12 ～ 13 世紀に遡ることから、盛行期あるいは廃絶期がこの時期に該当すると考えられ、こうした調査成果等から、古代末～中世前期に寺院が盛衰し、神社のみが近世まで維持されたとの指摘がされている（櫛原 2006)。この他、南北朝期に修験道場として栄えたとする伝承や米沢山雲峯寺が天正期に焼失（織田による焼き討ち）したことを示す痕跡は確認されなかったことから、調査成果と文献資料との間に矛盾が生じることがわかっている。

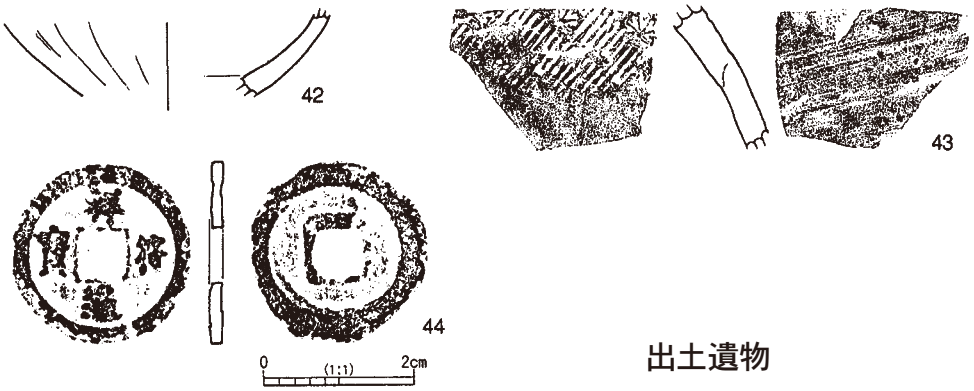
柚口金桜神社に深い関わりのある寺院として米沢寺が知られている。同寺については、康和 5 (1103) 年に勧進僧寂円が勝沼柏尾山に埋経された写経を書くために滞在した山寺として経筒銘文に記載がある。しかし、以後の史料にその名が登場することはなく、その所在は以前不明である。今日まで、柚口に現存する寺院「米沢山雲峯寺」と旧所在地が高天原であるということから、柚口金桜神社奥社地跡が米沢寺とする推定がなされている。３号建物跡の出土資料が、仏堂が康和５年には存在していたことを裏付けることから、同地に米沢寺であったと

第６８図　杣口金桜神社奥社地遺跡全体図

する説とは矛盾がなく、その可能性も考えられる。



9号テラス及び周辺の拡大図



出土遺物

第69図　9号テラス・出土遺物

第４節　峡北地域（Ｄエリア）

第１項　深山田遺跡

1）遺跡名：深山田遺跡　2）所在地：北杜市明野町小笠原　3）調査期間：H10 年 7 月 6 日～ 12 月 17 日
4）時代：中世　5）遺構：掘立柱建物跡・竪穴状遺構・火葬施設・配石墓・土坑墓・石垣　6）調査機関：明野村教育委員会（現北杜市教育委員会）　7）参考文献：佐野隆他 2000『深山田遺跡』明野村文化財調査報告 12 明野村教育委員会･山本義孝 2000「付録　深山田遺跡と修験道」『深山田遺跡』明野村教育委員会･山梨県 2004「深山田遺跡」『山梨県史』資料編７中世４考古資料
8）概　要

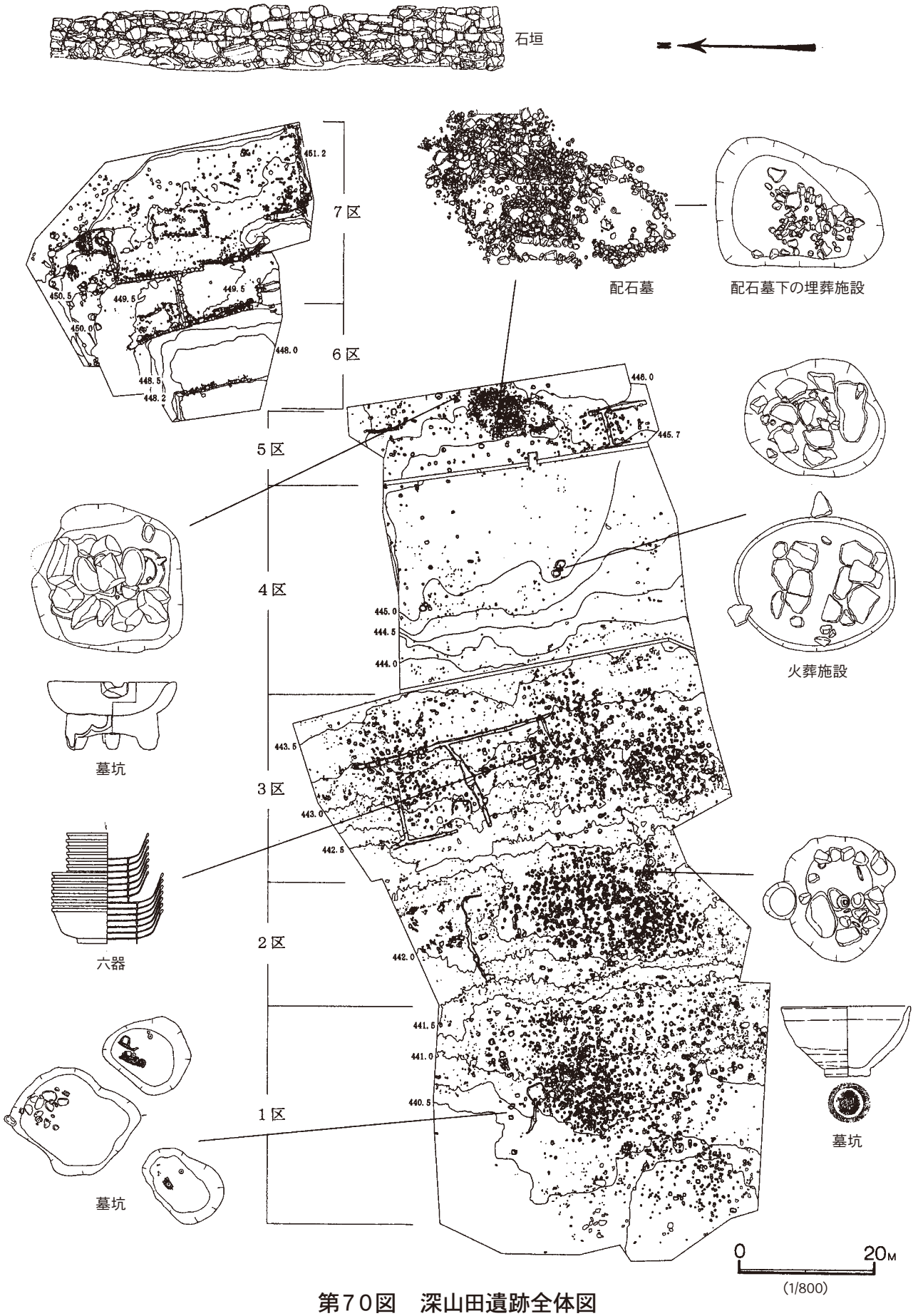
秩父山系に源を発する本谷川と、瑞牆山に源を発する釜瀬川が合流して南流する塩川は、韮崎市付近で釜無川に、さらには西八代郡市川三郷町付近で笛吹川に合流する。遺跡はこの塩川左岸の河岸段丘上で、東にそびえる茅ヶ岳の山裾を流れる小河川が形成した扇状地内の小谷部、標高 440 m付近に立地する。

遺跡の立地する小笠原地区は、茅ヶ岳山麓では平安時代にいち早く集落が開かれた場所であるが、中でも本村集落は中世には中心的な集落であり、そこには有力寺院である「笠原山福性院」が所在した。福性院は真言宗寺院で、甲府市御嶽町に所在した弥勒寺の末寺である。貞観年間（859 － 877）の創建で、当初は医王山松霊院と称し、茅ヶ岳南麓の「女沢庄字寺ヶ窪」に位置していたが、文正元年（1466）信濃守護小笠原大膳太夫実道を中興開山として、旧地の西方一里半余りの「源ノ径」に寺を移したと伝わる。福性院の本寺である弥勒寺は、金峰山信仰の拠点である金桜神社の別当を務めるなど、金峰山信仰との関わりが深い。福性院は弥勒寺唯一の末寺であり、そのため同様に金峰山信仰に関わっていたと考えられ、深山田遺跡の性格を考える上でも重要である。また遺跡が立地する小谷内には、現在甲斐市亀沢に所在する天沢寺の末寺で曹洞宗の「竹巌山浄林寺」、現在は山梨市落合の永昌院末で曹洞宗の「笠原山長清寺」も立地する。浄林寺は治承四年（1180）天台宗寺院として創建され、文亀二年（1508）に武田信縄娘により中興、曹洞宗に改宗した寺院であると伝わる。一方長清寺は慶長五年（1600）に創建されたと伝わるが、今回の調査により長清寺は天正年間に福性院より独立した寺院である可能性が示された。

さらに遺跡の東に立地する段丘崖中腹には、五社神社が所在する。五社神社は江戸時代末まで福性院が別当を務めた。祭神は熊野本宮・熊野新宮・熊野那智山・白山・箱根の各権現で、小笠原本村集落の在地豪族が奉納した天正八年銘の木製御正躰 5 枚が現存し、修験との関わりを示唆する。

遺跡の発掘調査では､おおよそ奈良時代から江戸時代の遺構･遺物が検出された｡このうち中世に関わる遺構は､掘立柱建物跡の柱穴 3,340 基・竪穴状遺構 1 基・火葬施設 3 基・配石墓 2 基・土坑墓 6 基・石垣 8 列などがある。こうした遺構は 12 ～ 18 世紀までおおよそ 4 段階の画期に区分される。また遺構に伴って、中国産青磁･青白磁･白磁･緑釉陶器、高麗青磁、瀬戸美濃産陶器、常滑渥美産陶器、中津川産陶器、在地産瓦質土器･内耳鍋、土鍋類、かわらけ、仏具と推測される銅椀、銭貨などが出土している。このうち掘立柱建物跡は前段階の 12 世紀代から 14 世紀前半に出現するが、第二段階とされる 14 世紀後半から 15 世紀中頃には、大きくても 3 間× 4 間の掘立柱建物が不規則に密集し、立て替え・廃絶を繰り返している状況が看取できる。遺物は瀬戸美濃産陶器の比重が高まる一方で、御皿・水注・花瓶・燭台・盤などが見られる。また密教法具の六器である銅椀 14 口が出土していることなどを勘案して、この時期に宗教的施設の性格が強まったと判断できる。第三段階の 15 世紀中頃から 16 世紀末には、長大な掘立柱建物跡群に加えて火葬施設や土坑墓・配石墓など形態の異なる墓が目立ち、多様な埋葬施設が混在する様相をうかがうことができる。それに後続する第四段階の 16 世紀末から 18 世紀中頃には、長清寺の前身寺院の石垣や建物跡が出現する。

このような特徴から、深山田遺跡では中世を通じて遺構の性格に変遷が見られ、やがて近世寺院へと発展する宗教施設群ととらえられる。その中で金峰山修験との結びつきもかいま見られるなど、宗教的な性格の色濃い遺跡である。



第７０図　深山田遺跡全体図

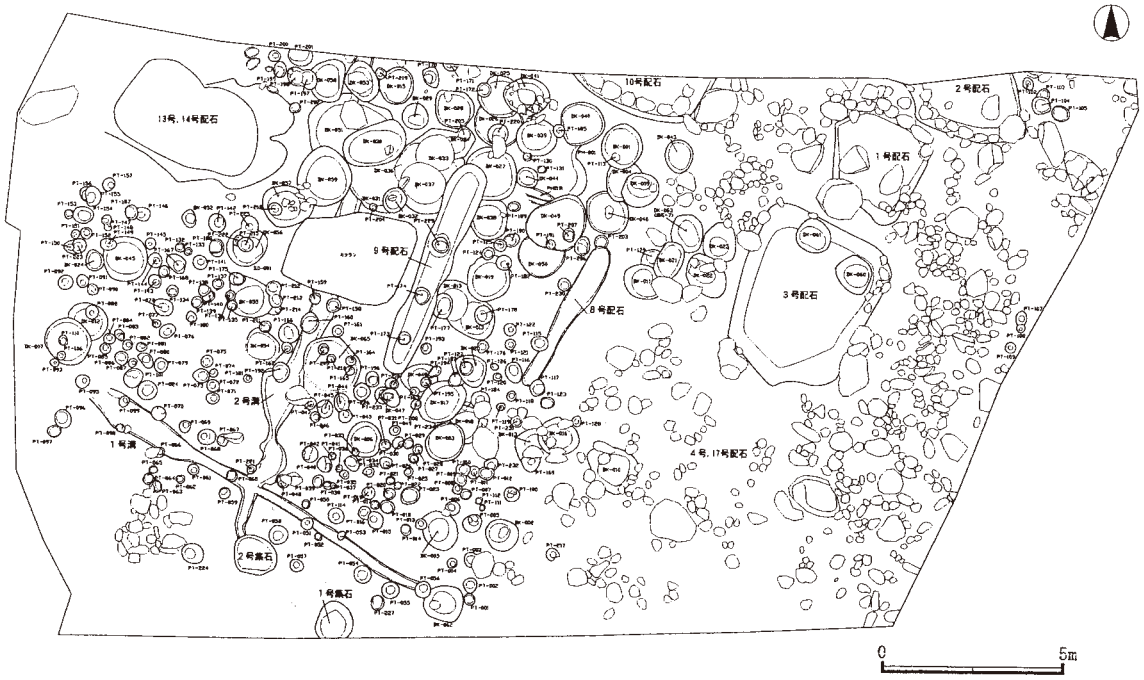
第２項　御崎前遺跡

1）遺跡名：御崎前遺跡　2）所在地：北杜市須玉町若神子 716　3）調査期間：H17 年 9 月 9 日～ 10 月 21 日
4) 時代：中世　5）遺構：配石墓　6）調査機関：北杜市教育委員会　7）参考文献：佐野隆 2006「御崎前遺跡」『北杜市文化財年報－平成 17 年度－』山梨県北杜市教育委員会
8）概　要

甲府盆地北部を南流する須玉川と西川は、須玉町大豆生田付近で合流し、塩川に注ぐ。御崎前遺跡の所在する若神子宿は、この須玉川と西川に挟まれた河岸段丘上に立地する。

若神子宿は、成立年代などの詳細について不明点が多いが、古代には周囲に位置する大蔵・小倉・蔵原などに屯倉が置かれ、北巨摩地域の拠点の一つであったことは確かである。近世には、富士川水運の拠点となった韮崎市と長野県佐久市を結ぶ幹線道路が整備されたが、甲斐と信濃の国境までには、韮崎・中条・若神子・長沢の四宿があり、さら甲州街道の宿場であった台ヶ原宿と若神子宿は逸見路によって結ばれているなど、交通の要衝でもあった。

御崎前遺跡は、若神子宿の東側に位置する。発掘調査では、縄文時代や平安時代、近世の遺構の他、中世の掘立柱建物跡・土坑・墓・配石墓が確認された。地元には、かつてこの地には真言宗寺院が所在したと伝えられている。調査地点の北側には、16 世紀代に位置づけられる小型の五輪塔が集積されており、発掘調査によって発見された墓や配石墓と関連するものである可能性がある。



第71図　御崎前遺跡全体図

第３項　若神子宿遺跡長泉寺地点

1）遺跡名：若神子宿遺跡長泉寺地点　2）中世寺院番号：4025034　3）分布図：第 12 図分布図 9 若神子

4）所在地：北杜市須玉町若神子字五反田　5）調査期間：H19 年 8 月 27 日～ 9 月 21 日　6）時代：中世

7）遺構：配石墓・溝　8）調査機関：北杜市教育委員会

9）概　要

甲府盆地北部を南流する須玉川と西川はやがて合流し、塩川に注ぐ。須玉川と西川に挟まれた河岸段丘上には、若神子宿が位置しており、その一角には長泉寺が所在する。

若神子宿は、山梨県韮崎市と長野県佐久市を結ぶ幹線道路沿いに位置する宿場町である。周囲には古代に屯倉が置かれた大蔵・小倉・蔵原など、北巨摩地域では古くからの要衝である。

若神子宿の西側に位置する長泉寺は、詳細について不明な点が多いが、14 世紀に創建した寺院との伝承がある。『甲斐国社記・寺記』によれば、かつては観世音菩薩を本尊とする真言宗寺院であり、武田冠者刑部三郎義清が病気の際に、本寺の守護神である熊野権現の社中から湧き出す温泉に入り快癒したため、義清が開基となって堂宇を整備し、湯沢山義清院長泉寺と称するようになったとされる。応長元年（1311）には、時宗二祖である他阿真教が甲斐遊行の際に改宗し、現在地に移転したと伝えられる。その後逸見道場とよばれ、歴代の遊行上人の立ち寄り地となるなど、逸見筋を中心とした時宗の拠点寺院となった。境内には文安三年（1446）銘のある板碑や応仁年間（1467 ～ 1468）と推測される板碑が所在する。前者は高さ約 3 ｍを測り、県内で最大規模のものであり、昭和 62 年 5 月 20 日に県指定文化財に指定された。

平成 19 年度には、本堂の南側に隣接する 500㎡について発掘調査を行い、配石墓及び溝 1 条を確認した。配石墓は人頭大前後の礫を用いて四角形及び円形に区画するもので、墓坑内からは骨片等が出土している。配石墓はおおよそ 15 ～ 16 世紀に位置づけられる。また 14 世紀代に帰属する陶磁器類が出土している。溝は調査区を横切るように東西に位置しており、配石墓群より古いものである。

今回の発掘調査により、寺院とその周辺に広がる墓域の様相が一部明らかとなった。中世の若神子宿という都市空間の中での寺院の位置、及び寺院と寺域、その中に占める墓域のあり方を考える上での良好な資料である。なお中世寺院分布調査では調査の一環として平成 18 年度に長泉寺寺域内の踏査を行い、寺院北西に位置する墓地内でかわらけを採集した。その成果については第 99 図に掲載した。

なお本稿は調査担当者の佐野隆氏に、多くの御教示を賜った。また北杜市教育委員会からは調査写真の提供をいただいた。

写真左上：長泉寺遠景・左下：遺跡全景・右下：発掘調査された配石墓（写真提供：北杜市教育委員会）・右上：文安三年銘板碑

第４項　向山遺跡

1）遺跡名：向山遺跡　2）所在地：北杜市須玉町小倉字向山 2,606 他　3）調査期間：H15 年 9 月 2 日～ 8 日・H15 年 11 月 1 日～ H16 年 3 月 31 日・H17 年 4 月 18 日～ 7 月 4 日　4）時代：中世　5）遺構：礎石建物跡・墓域　6）調査機関：北杜市教育委員会　7）参考文献：村松佳幸 2005「向山遺跡」『2005 年度上半期遺跡調査発表会要旨』山梨県埋蔵文化財センター・山梨県考古学協会・北杜市教育委員会 2006『向山遺跡』北杜市埋蔵文化財調査報告第 17 集

8）概　要

向山遺跡は、甲府盆地北部を流れる塩川と、須玉町大豆生田付近で塩川に合流する須玉川に挟まれた斑山の西南麓で、須玉川の左岸段丘上に所在する。遺跡は山裾の斜面に立地し、斜面下には上小倉（かみこごえ）集落が広がっており、集落の最北端には日蓮宗長栄山見本寺が位置している。

遺跡に近接する小倉地域は、古代には南の大蔵とともに屯倉が置かれたと伝えられる。また中小倉には甲斐源氏によって築かれたと伝承のある中尾城跡が所在するなど、古代･中世から要衝として重用視された地域である。しかし今回確認された向山遺跡にかかわる伝承等は地元には存在せず、これまで古記録などにも、向山遺跡やそれと関係する寺院についての記載は認められなかった。

向山遺跡は、沢筋と尾根筋に挟まれた場所のやや奥まった斜面上で、同一レベル上に横に長く位置する。斜面には 3 段の自然地形を利用したテラスが所在するが、遺跡はそのテラス上で、時期ごとに上・中・下のテラスにそれぞれ展開している。

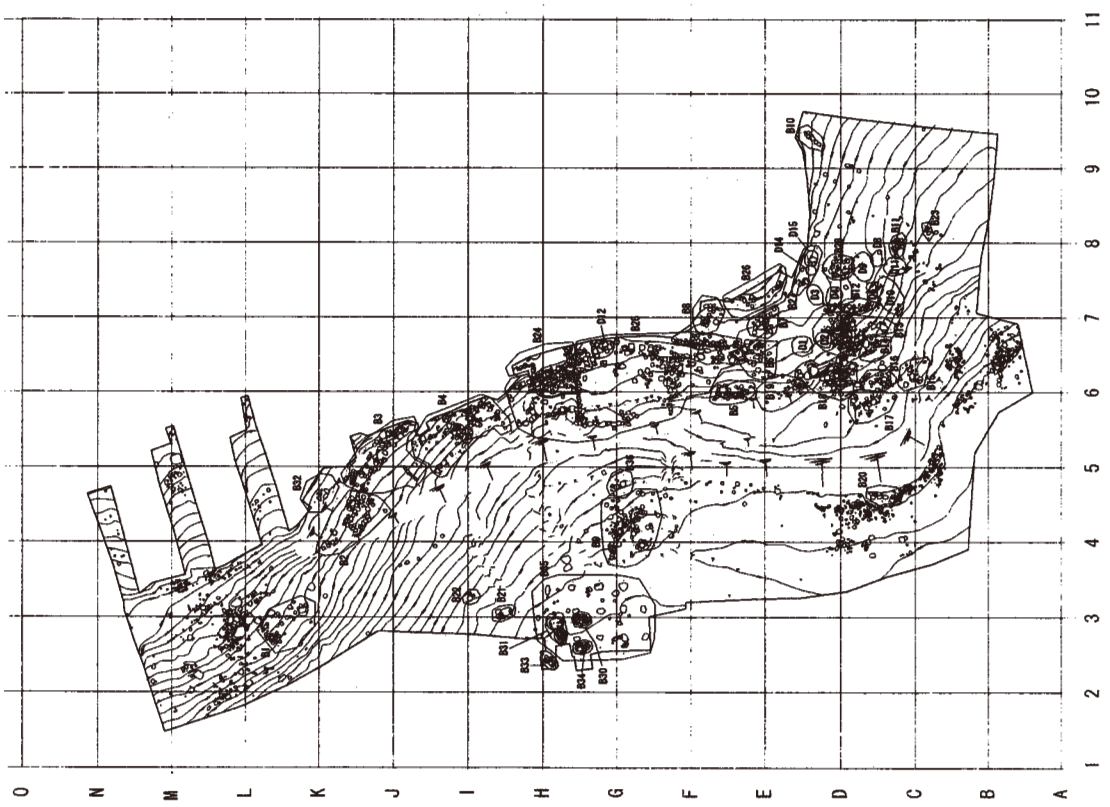
3 段のテラスのうち、上段では五輪塔を転用した石列、その石列に区画された内側に並べられた宝篋印塔列（基礎部分のみ）、石垣状遺構、石垣状遺構の前面に並んだ五輪塔列、土坑墓などが確認された。いずれも同時期に作られたのではなく、出土遺物などから若干の時間差があったことが認められる。テラス中央に位置する石列は、正方形状に配置されており、時間を経るに従って北側へ延長された状態が看取できる。

中段には、五輪塔を転用した石畳み状遺構、及び石列状の遺構、石組み遺構などが南側張り出し部分に集中する。石組遺構には少なくとも 2 個体の蔵骨器が伴っているのが確認されたが、そのうち 1 個体は四耳壺を利用した蔵骨器であり、おおむね 13 世紀後半から 14 世紀代に位置づけられるという。この中段の南西側斜面下では、月輪が施された五輪塔の水輪が出土していて、中段から崩落したものと判断できる。この五輪塔はおおよそ１３世紀の所産と推測されることから、この五輪塔を含めた中段の遺構が、この遺跡の中では初段階に構築されたと判断される。

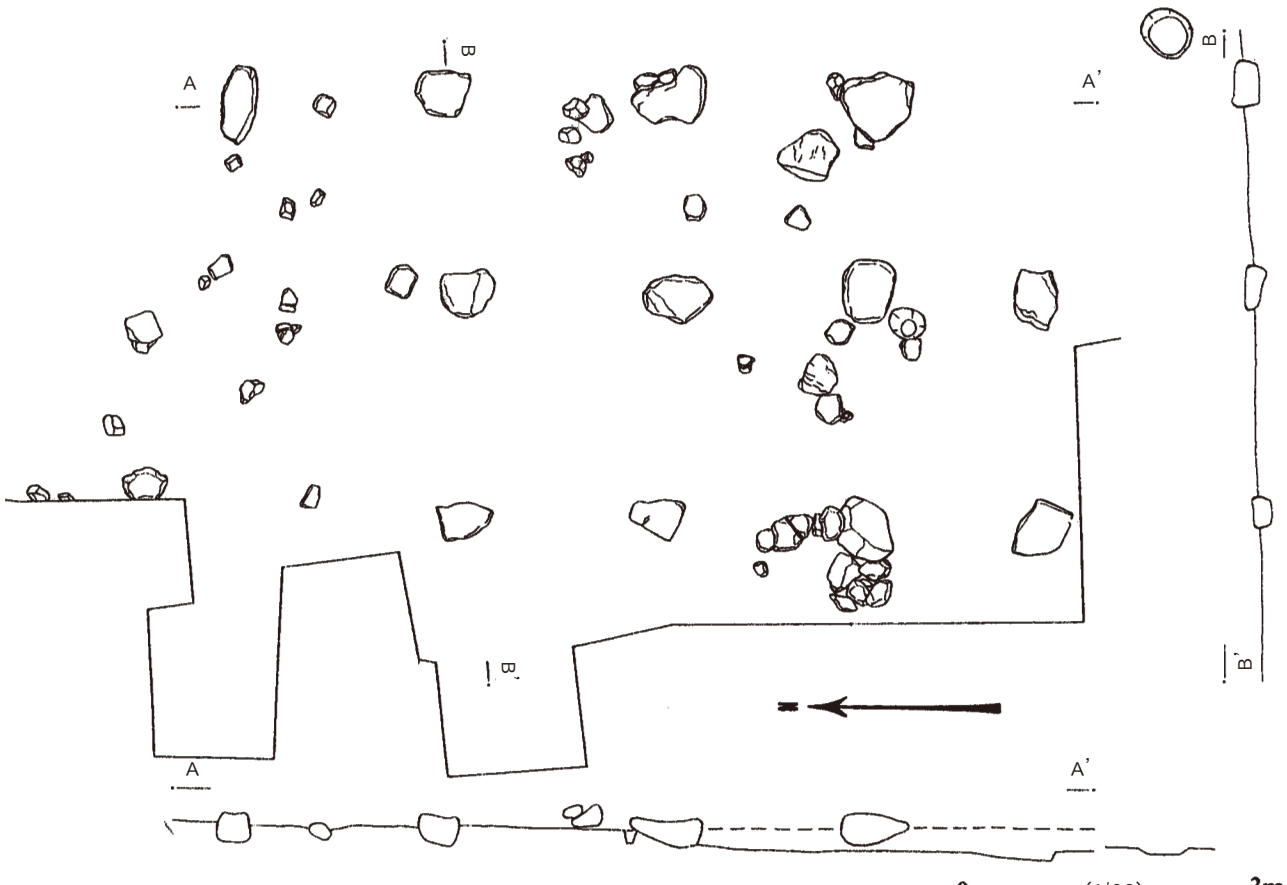
下段には、礎石建物跡 1 棟・火葬施設などが確認された。礎石建物跡は東西 2 間×南北 4 間の総礎石建物で、寺に付随するお堂のような性格の建物であると思われる。火葬施設は建物跡の後方に位置し、五輪塔の転用や礫により構築したもので、炭化物や骨片が出土した。また礎石建物跡の廃絶後、その上層に火葬施設を構築しているもの 5 基を確認した。

このように向山遺跡の発掘調査では、礎石建物跡を伴う大規模な中世の墓域が確認された。墓地は石造物から 13 世紀には造墓が開始され、15 ～ 16 世紀に造墓のピークを迎えたことが推察される。

現在のところ、向山遺跡で確認されたこれらの墓域に対する寺院がいったいどの寺院なのかは明らかになっておらず、遺跡の北側に所在する見本寺に関連するものなのか、現在は廃絶した寺院のものなのかは明らかではない。なお本稿は調査担当者の村松佳幸氏には多くの御教示を賜わった。



全体図



第７２図　向山遺跡全体図・礎石建物跡

第５節　峡西地域（E エリア）

第１項　福寿院跡

1）遺跡名：二本柳遺跡（甲西道路）・二本柳遺跡（農道）　2）中世寺院番号：5035015　3）分布図：第 14 図分布図 11 小笠原　4）所在地：南アルプス市加賀美字山宮地ほか (農道)・南アルプス市十日市場字二本柳ほか（甲西道路）　5）調査期間：平成３年 10 月１日～ 12 月 11 日（農道）・H ３年８月 28 ～１月４日・H4 年４月 14 日～ 12 月 24 日 (甲西道路)　6）時代：中世　7）遺構：溝跡３条・井戸跡１基・方形区画遺構（農道）・溝状遺構３条・井戸跡８基・木棺墓２基・掘立柱建物跡１基（甲西道路）　8）調査機関：県埋蔵文化財センター
9）参考文献：山梨県教育委員会 1992『二本柳遺跡－農道建設に伴う中世寺院跡の発掘調査報告書－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 72 集・山梨県教育委員会 2000『二本柳遺跡－一般国道 52 号（甲西道路）改築工事・中部横断自動車道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 183 集
10）概　要

二本柳遺跡は甲府盆地の西部、釜無川の右岸に位置し、標高約 260 ｍを測る。遺跡は山地に源を発し、やがて釜無川に合流する御勅使川によって形成された扇状地上に位置するが、この御勅使川に加え、西を流れる滝沢川の氾濫の影響を受ける地域である。

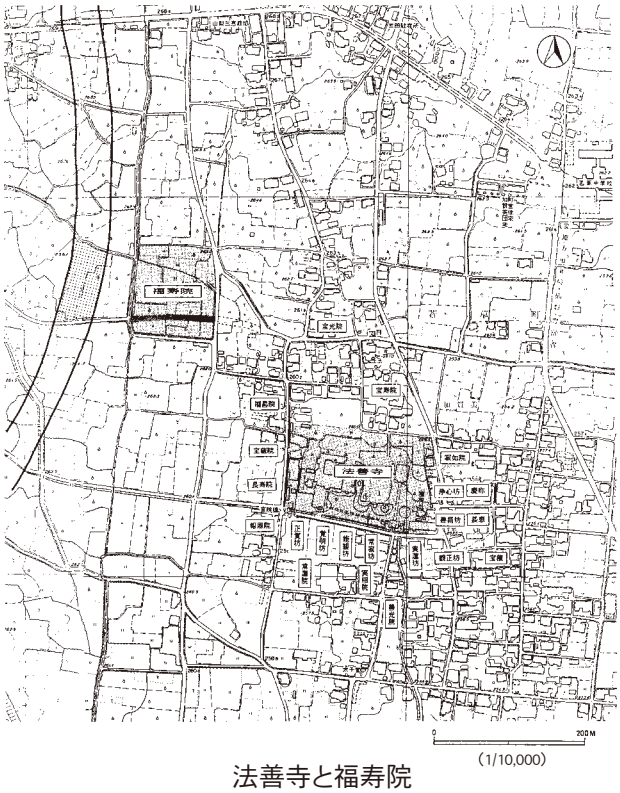
二本柳遺跡は、遺跡から南東約 150 ｍの地点に位置する法善寺の塔頭の一つ「福寿院」の跡地と推定される。法善寺は真言宗寺院として弘安２（1279）年に空海が開いたと伝えられる寺院で、鎌倉時代にこの地を治めた甲斐源氏の流れをくむ加賀美遠光の孫、遠経に整備された。法善寺は武田氏との関係も深く、武田八幡宮（韮崎市）の別当を務めるなど、中・近世を通じて繁栄した。また周囲には福寿院を初めとする塔頭が二十数カ寺程立地したことが伝えられる。

法善寺の北西に位置する福寿院は、塔頭群の中でも規模が大きく、格式も高く、法善寺に迫る勢いがあったとされる。法善寺に伝わる武田信玄から福寿院に宛てた２通の文書から、福寿院と武田氏が密接に関わっていたことを知ることができるなど、戦国期が最盛期であったようである。しかしその一方で創建年代など詳細については明らかになっていないことも多い。また戦国期以後除々に衰退し、江戸時代末から明治時代初頭には消滅し、田畑になってしまったことが絵図などから理解される。

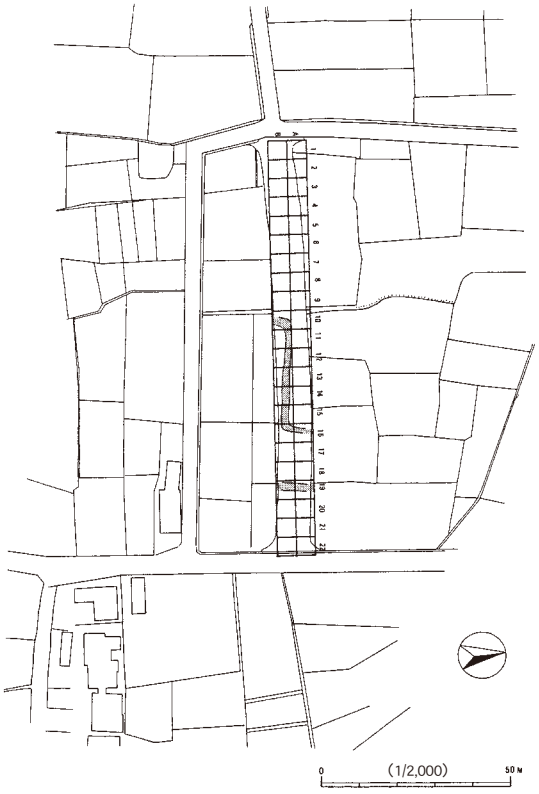
福寿院関連の発掘調査は、これまでに農道地点と甲西道路地点の２地点で実施されている。農道地点は福寿院想定範囲のうち境内付近であると推定され、東西にのびる長さ 110 ｍ、幅６ｍの 660㎡について発掘調査が行われた。その結果、溝３条・井戸１基・方形区画遺構を確認した。このうち寺院境内を区画する溝であったと推定される１号溝からは、かわらけや石製品、木製品などの生活用具、寺に関わる遺物などが多数出土した。これらの遺物から、１号溝が 16 世紀後半に機能していたと判断される。

一方福寿院想定地区に隣接する甲西道路地点では、溝・木棺２基などが確認された。特に２号木棺の残存状況は良好で、蓋には「南無大日如来」の意を表す梵字が、側板には梵字・偈文が記されている。これらの梵字・偈文は真言密教で用いられ、元興寺極楽坊所蔵の『入館作法』にも見られる。さらに稲穂をのせたかわらけ、古銭６枚、数珠が副葬されており、灰が付着していた。また１号木棺から出土した４点の呪符木簡には、２号木棺の側板に記されていたのと同様の偈文が認められた。木棺に葬られた人物は、寺院に関わる人物と推測され、火葬されたと考えられる。

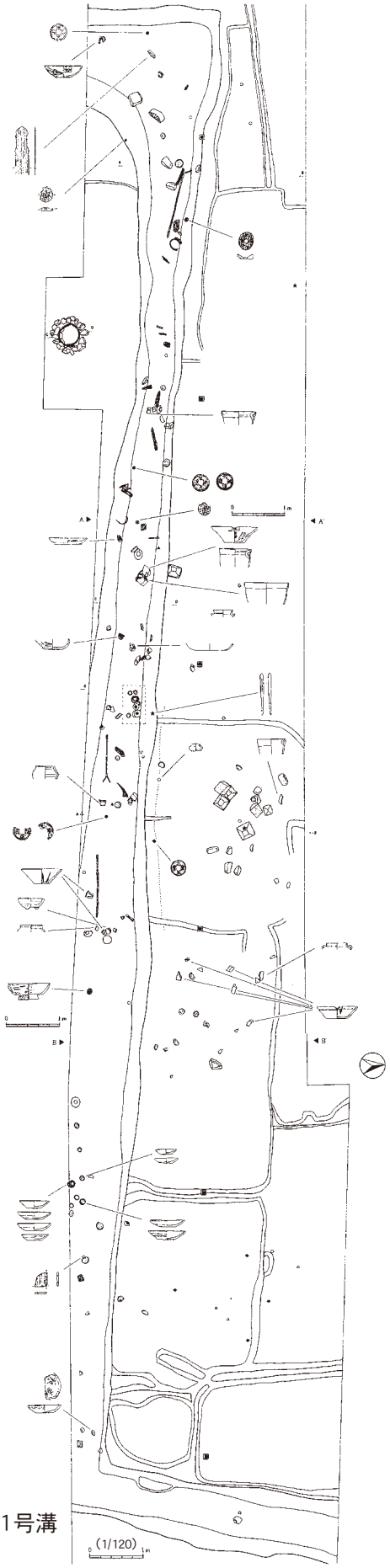
甲西道路地点の遺構の帰属年代は、木棺や井戸から出土した遺物の年代から、農道部分とほぼ同時期の 16 世紀後半に位置づけることができ、この一帯に福寿院の墓域が広がっていた可能性が高い。また遺跡の西側を南北方向に所在する溝は、福寿院の寺域境を示すものである可能性が高く、福寿院が広大な寺域を有していたことが理解できる。



法善寺と福寿院

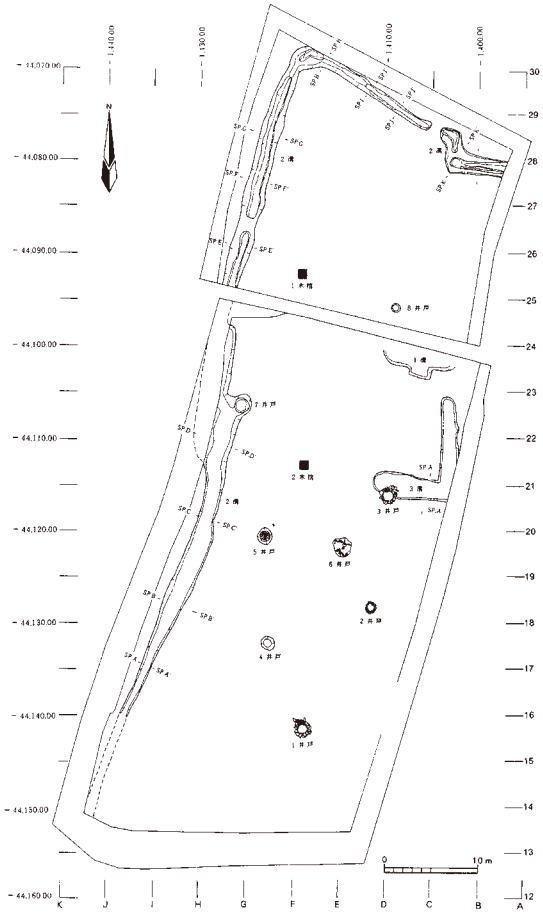


調査区域図

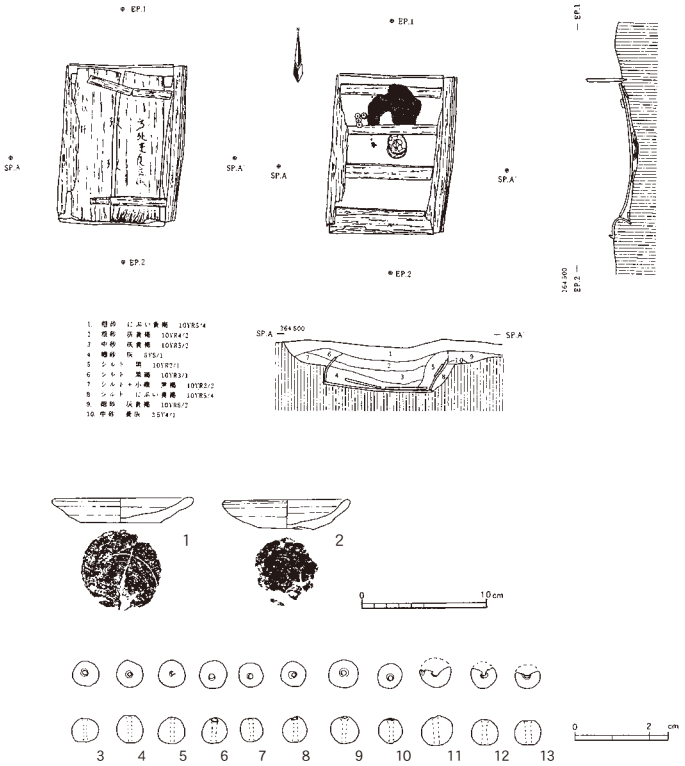


第1号溝

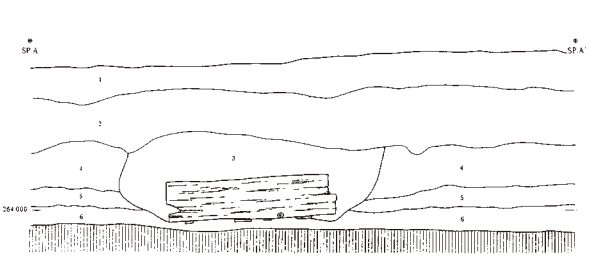
第７３図　農道二本柳遺跡（福寿院跡）全体図

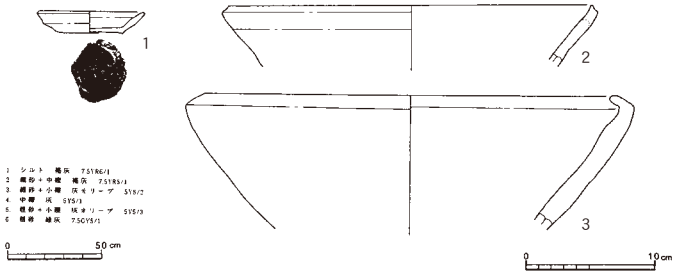


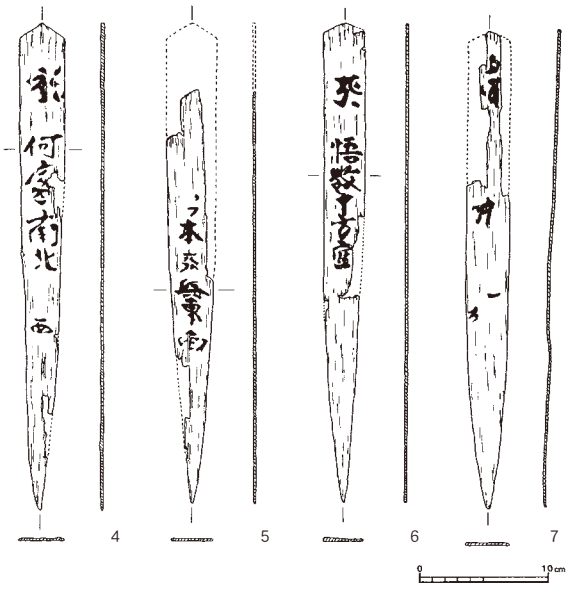
全体図

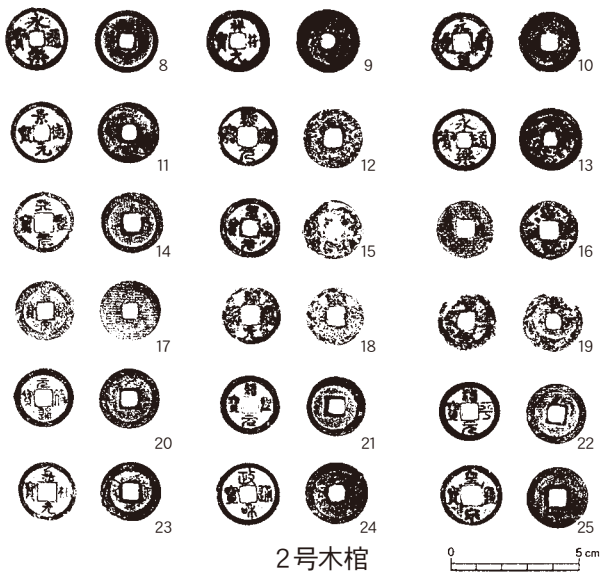


1号木棺









2号木棺

第74図　二本柳遺跡（福寿院跡）全体図・木棺出土遺物

第６節　北都留地域（Ｉエリア）

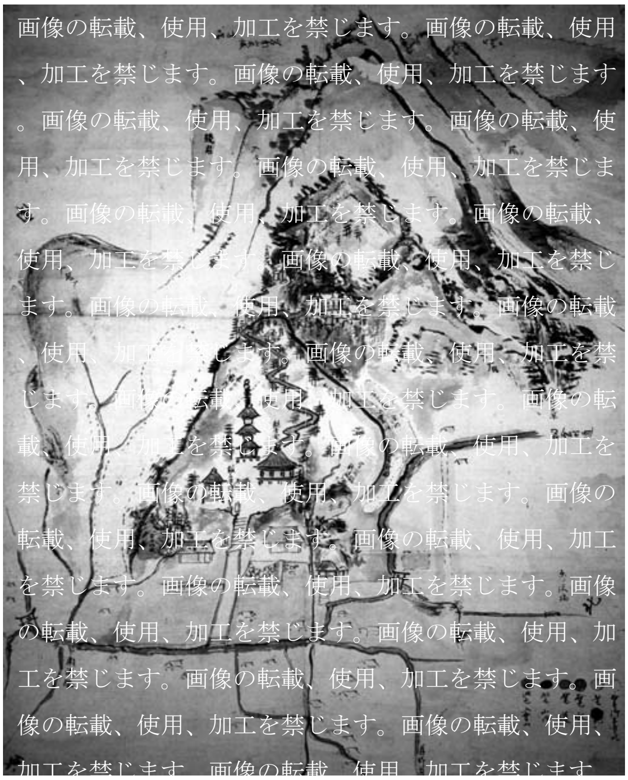
第１項　円通寺

1) 遺跡名：円通寺　2）中世寺院番号：9059005　3）分布図：第 43 図分布図 40 大月　4）所在地：大月市賑岡町岩殿　5) 調査期間：H9 年 10 月 20 日 (新宮付近)・11 月４日～ 14 日（三重塔跡）　6）時代：中世～近世　7）遺構：境内南側の沢の落ち込み　8）調査機関：大月市教育委員会　9）参考文献：大月市教育委員会・岩殿山総合学術調査会 1998「第３編　旧円通寺の研究」『岩殿山の総合研究 – 県史跡岩殿城跡、旧円通寺跡及び岩殿山の自然』岩殿山総合学術調査報告書・山梨県 2004「190 円通寺・七社権現堂」『山梨県史』資料編７ 中世４ 考古資料編

10）概 要

円通寺が位置する岩殿山は、標高 634 ｍの起伏に富んだ岩山である。山の北側には葛野川、南に桂川が流れ、東の相模・武蔵、南の駿河、北の秩父、西の甲府盆地へと通じる交通の要所である。また岩殿山は、寺院成立後の中世には岩殿城が築かれるなど、周辺における重要な土地であった。

天台宗系修験の寺院である円通寺は、『甲斐国志』によると、永正 17（1520）年に大破した寺院を修理したとする七社権現の棟札の記録から、大同元（806）年の創建とされている。その後、天正年間までに廃絶された円通寺は、常楽坊を継承した常楽院と大坊によって明治時代まで寺院が守られてきた。岩殿山南東麓に配置された創建当時の伽藍は、七社権現を中心に観音堂、三重塔、新宮があった。また、その別当寺として常楽坊、大坊があり、大坊には真蔵院が存在した。中世には、七社権現、観音堂、三重塔、新宮、不動堂、鐘楼があり、常楽坊が別当寺として存在した。近世に入ると、大坊、真蔵院などを配した伽藍が想定されている（第 76 図）。修験道山岳寺院の伽藍配置は、上社・中社・下社から成るとの研究があり、この説に従えば、麓の観音堂や三重塔が下社、山腹の新宮が中社で、七社権現が上社か、または岩殿城築城以前には山頂に上社が存在していた可能性がある。

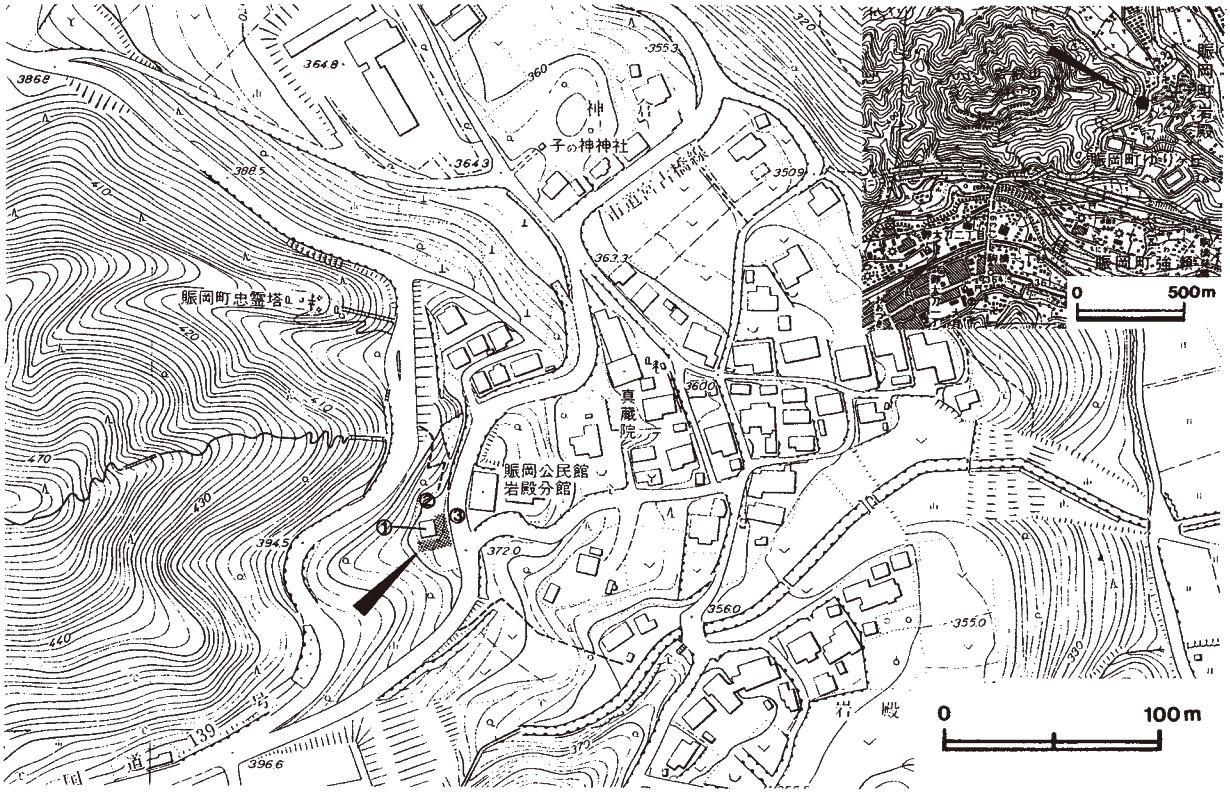


第７５図　岩殿山境内絵図（北条美和子氏所蔵）

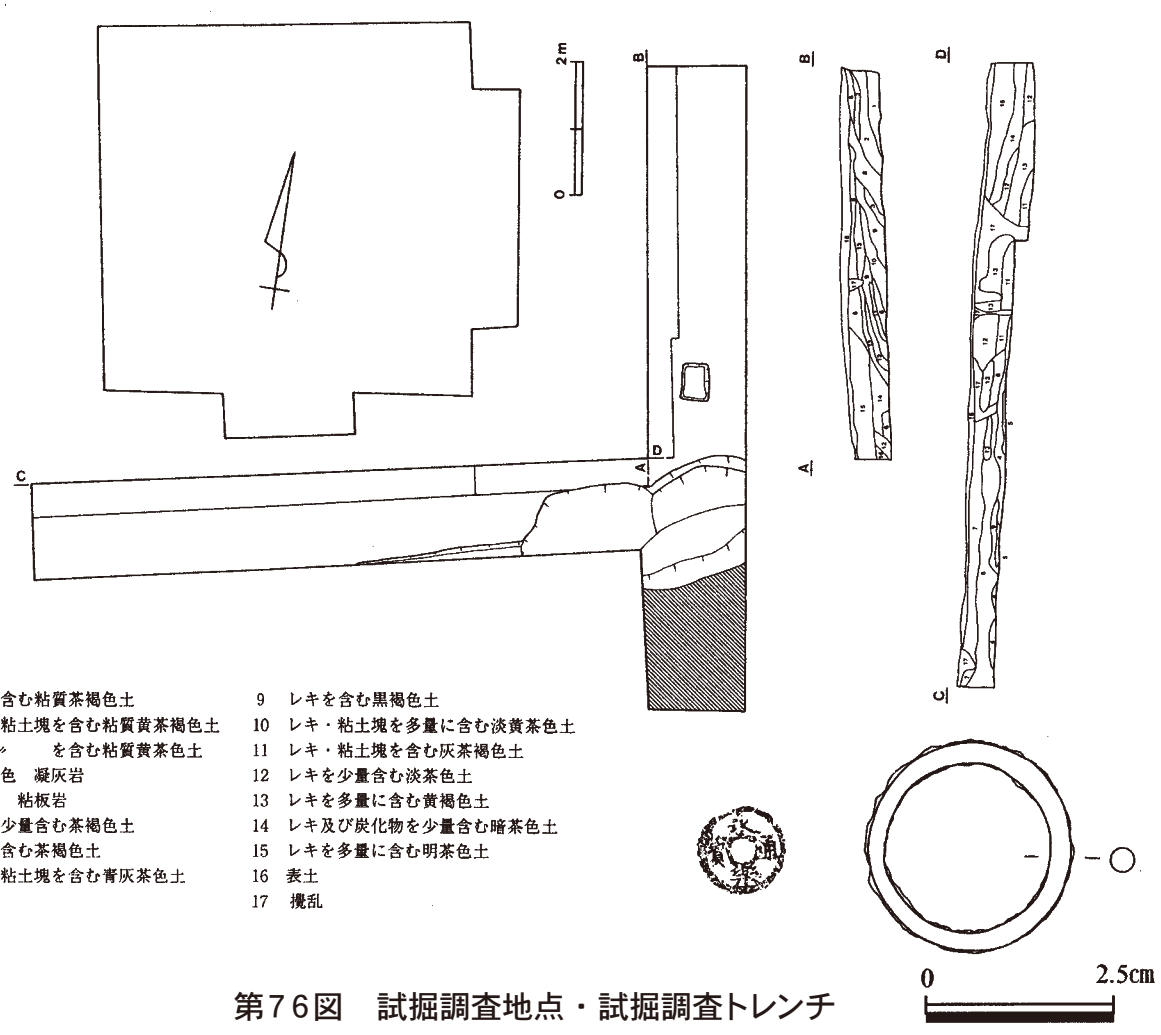
『甲斐国社記・寺記』には、寺院の建物規模に関わる記録がある。観音堂や七社権現は、観音堂は敷地 750 坪に４間×４間（３間×３間）の茅葺建物、鐘楼は２間×２間、七社権現は東西７間×南北 11 間（東西５間×南北９間）、新宮は東西３間×南北７間となる。また、常楽院跡の柳原家に伝わる三重塔の柱の分析から、塔の高さは５丈８尺であったことが予想される。

円通寺には、七社権現と本尊である２躯の十一面観音菩薩像が知られている。前者は県指定文化財調査によって 15 世紀初頭と位置づけられる。真蔵院保管の十一面観音菩薩像は、10 世紀～ 11 世紀の造仏、像高 146㎝の一木造りで、新宮に安置されていたと考えられる。観音堂に安置されていたと考えられるもう一躯は、像高 99㎝で、12 世紀末～ 13 世紀前半に位置づけられる。

調査の対象となった観音堂や三重塔のある地点は、尾根の先端部で、現在では国道 139 号や市道によって分断されている（第 76 図）。また、境内と考えられる平地部分の大半はコンクリートで覆われているため、市道西側の平地部に 1.5 ｍ× 10 ｍのトレンチを十字状に設定して調査が実施された（第 76 図）。調査では、三重塔跡や整地面の確認には至らなかったが、落ち込み（76 図の斜線部）が検出された。これは、絵図に示された境内南側の沢部分に該当すると考えられるものである。トレンチから出土した 11 点の古銭のうち、南側トレンチ出土の永楽通宝（初鋳年 1408 年）の１点が中世後期に位置づけられる。鉄製の輪は錫杖の可能性がある（第76図）。



三重塔跡推定地周辺の試掘調査地点



第76図　試掘調査地点・試掘調査トレンチ

第４章　中世寺院の発掘調査

本事業では、平成 17 年度から 19 年度の 3 年間で、合計 10 地点の発掘調査を行った。このうち平成 17 年度はＡ～Ｃエリア、平成 18 年度はＤ～Ｆエリア、平成 19 年度はＧ～Ｉエリアを対象とした。各エリアについては、第 1 章第 2 節に詳細を記してある。

第１節　平成 17 年度の調査

第 1 項　聖応寺（笛吹市境川町大黒坂地内・中世寺院番号 1001012）

（1）概要と調査に至る経緯

聖応寺は、甲府盆地の南に位置する春日山の山麓に所在する。本寺は南北朝期の康歴元年（1379）に、当初は小黒坂寺平に無住道雲が開山したと伝えられる。その後応永年間（1394 ～ 1427）に当地の領主である黒坂信光が現在地に移した。無住道雲は甲州市塩山の向嶽寺と結びつきが強いこともあり、当寺は臨済宗向嶽寺派の中でも次第に重要な位置を占め、笛吹市八代町（奈良原）の広済寺とともに向嶽寺派の中本山といわれた（『甲斐国社記・寺記』・『向嶽寺史』）。かつては本堂南側に玉樹院・金鶏院・省睦院などの 3 役院が、参道両脇に約 20 の塔頭が所在した。台風による被害のため、本堂を玉樹院に移した。現在金鶏院と省睦院が立地したテラスは果樹畑となっているが、庭園の痕跡がわずかに残る。『甲斐国志』では、開基の黒坂信光は武田信春の嫡子信満と同一人物とする説を伝えている。

発掘調査の前段階の踏査では、聖応寺本堂が玉樹院に移る前に立地した地点の状況や、本堂背後に複数のテラスが所在すること、中でも開山堂が所在したと伝えられるテラスの状況は良好であること、境内に礎石建物跡などが確認できることなどから、発掘調査を行った。発掘調査は平成 17 年 11 月 21 日～ 12 月 9 日で、調査面積 820㎡を対象に実施した。

（2）発掘調査（第 77 ～ 79・98・107 図）

発掘調査は、本堂跡・開山堂跡・礎石建物跡の 3 地点について実施した。本堂跡は、現在の本堂背後の一段高いテラス上に所在する。寺伝によれば、本堂は 7 間× 13 間の建物であったが、江戸時代初頭に台風により被害を受けたため移転した。現在はテラス東側の山際及び南側に自然石を用いた雨落ち溝が所在し、19 世紀の陶磁器や角状の釘などが散布する。発掘調査では、テラス中央部に東西方向、南北方向に 2 本のトレンチを設定し、人力により掘り下げを行った。いずれのトレンチにおいても、約 0.05 ～ 0.10m 掘り下げた地点で黄褐色土の確認面に到達した。第 1 号トレンチでは、確認面上 2 地点で不正形の拳大の礫を用いた集石を確認した。一方第 2 号トレンチでは、東西方向に 6 地点で不正の円形を呈する集石を確認した。いずれも礎石の根石と考えられる。根石の中心から中心までの間隔はそれぞれ約 1.80m を測り、西側に根石が継続することを想定すると、東西は 7 間の規模であった。遺物はかわらけ、陶器が出土した。また雨落ちの溝で採取したものも掲載した。このうち第 98 図 1 は第 1 号トレンチから出土した天目茶碗である。口縁部が外反し、内面に稜線を持つ。内面及び外面底部付近まで施釉されるが、底部付近は無釉である。形状からおおよそ 16 世紀後半から 17 世紀中頃に位置づけられる。2 は陶器の鉢である。おおよそ 17 世紀代のものであると考えられる。3 は雨落ち溝で採取した陶器瓶子頸部である。遺物は少なく、旧本堂の存続年代を決定するには推測の域を出ないが、16 世紀後半から 17 世紀前半に所在したものと判断される。

開山堂跡は、本堂背後の山中にテラスを創出しており、切り通し部分は石垣により土留めを施しているが、南側は小規模な土砂崩れに伴って石垣が崩れ、底面に散在した状況であった。テラス面は東西 10.60 m、南北 10.00 mを測り、西側中央部にはかつては石段が所在したと考えられる。テラスには北と東側に雨落ちの石列が巡る。規模は北側東西 8.2 m、東側南北 8.6m で、ほぼ正方形の建物であったと考えられる。南側には石列は所在しなかった。この石列内側中央部にトレンチを設定し、精査を行った上で一部掘り下げを行ったところ、南側で柱穴状の掘り込み 2 基を確認した。いずれも直径 0.25 m前後、深さ約 0.10 ～ 0.20m を測る。さらに柱穴列

の東西にそれぞれトレンチを設定し、確認面まで掘り下げたところ同様の掘り込みを確認した。柱穴の間隔は約0.80 mを測る。遺物の出土は認められなかったため、開山堂の年代は不明である。

本堂跡の北側には礎石建物跡が所在する。この礎石建物跡は、寺伝や本寺が所蔵する絵図などにも一切記録が見られない。礎石建物跡は本堂より一段高いテラス上に位置する。すでに礎石が露出しているため、周囲の精査を中心とした清掃発掘を行い、礎石範囲の中心にトレンチを設定し、掘り下げを行った。建物跡は周囲に礎石が巡る形状で、南北４間×東西２間の規模である。さらに礎石周囲の掘り下げを行ったところ、礎石間に幅0.10 m前後の漆喰状の帯状板が施されているのを確認した。また建物跡中央部のトレンチ内では、小礫が多量に混在した黒褐色土が敷き詰められ、その下層にも漆喰状の帯状板が敷かれていた。湿気等を除去するためのものであろうか。さらに建物跡北及び西側は傾斜しているためか、拳大から人頭大の礫を地山面に貼り付け、地山の強度を高めているような状態が看取でき、テラス傾斜地の北西コーナー部分では、一部石垣状に人頭大の礫を積み上げている地点が見られた。遺物の出土は認められなかったため、帰属年代や性格は不明であるが、湿気除去の意図が窺われることから、経蔵等の役割を持つものではないかと推測される。

第２項　楽音寺（笛吹市一宮町塩田地内・中世寺院番号 1004005）

（1）概要と調査に至る経緯

甲府盆地の南東に位置する御坂山塊は、盆地に注ぐ幾筋もの河川の水源ともなっているが、この河川の一つである金川が形成した扇状地上には、医王山楽音寺が所在する。

寺伝によれば楽音寺は、天平 10 年（738）に行基が地蔵菩薩と薬師如来を安置して開山したと伝えられ、妙亀山楽音寺と称したという。聖武天皇が病気の際には、本寺からの施薬及び薬師如来の霊験により平癒され、天皇は本寺を勅願寺とした。さらに嵯峨天皇の病気平癒の折には、医王山楽音寺の勅額を受けたことから山号を医王山と改め、寺門がおおいに興隆したが次第に衰退し、文永八年（1271）に蘭渓道隆により再興された。以後天正年間に火災により古記録・諸堂宇などを焼失し、慶長年間に再建され明暦年間に恵林寺末となった。しかし明治 40 年に再度火災に遭い、山門・庫裏・通用門などを残して全焼した。現在は徐々に再興されている。この山門に納められた金剛力士像は、笛吹市一宮町では唯一のものとされる。このように県内でも最古級に位置づけられる楽音寺の創建年代について明らかにする目的で、平成 17 年 11 月 18 日に発掘調査を行った。調査面積は160㎡である。

（２）発掘調査（第 80 図）

現在の本堂は昭和 60 年に創建されたものである。本堂前面には、慶長年間に建設された前本堂の礎石が残り、現在はその礎石間に参道が位置する。発掘調査地では礎石間に２本のトレンチを設定し、人力により掘り下げを行った。第１号トレンチでは、表土を除去したところで黒茶褐色土に多量に焼土・炭化物が混入する層位を確認した。明治 40 年の火災の際のものと判断される。さらにその下層は地山面であり、トレンチ中央より若干西側で 5㎝大の上面が平坦な礫を確認した。慶長年間以前の建物跡に伴う礎石であることを想定し、礫より 3.6 m北側に第２トレンチを設定して掘り下げを行った。しかし礎石状の礫は確認できなかった。遺物の出土は皆無であり、今回の調査では遺構を確認することはできなかった。

第３項　円楽寺（甲府市右左口町岩窪地内・中世寺院番号 2009005）

（１）概要と調査に至る経緯

甲府盆地の南部には、御坂山塊から続く山々が連なっており、この山々はまた富士北麓と甲府盆地を分断している。行者堂跡・六角堂跡は、この山々の一つであって笛吹市境川町から甲府市右左口町にかかる日陰山から、盆地へのびる尾根上先端部平坦面に所在する。一方尾根下の七覚地区には、行者堂・六角堂が属した円楽寺が立地する。

本寺は真言宗寺院として大宝元年（701）に役行者によって開かれ、かつては広大な寺域を有した。最盛期に

は塔頭三刹・三十二坊が壮大な規模を誇っていたと伝えられる。『甲斐国志』『中道町史』によれば役行者は修行のため、円楽寺行者堂から上九一色郷を含む 12 の行場を越えて富士山二合目の行者堂まで、初めて富士登山道を開いたとされる。山開きには本寺が別当を務める五社神社下社の王子神社で祭事「藤切り」が執り行われた後に、役行者像が円楽寺行者堂から富士山二合目の行者堂へ運ばれた。円楽寺では現在も延慶二年（1309）改修銘を持つ役行者像（平 7.6.22 県指定文化財）を祀っており、この行者像は国内最古のものであるという（1994 西川新次「中道町円楽寺の役行者像」『甲斐中世史と仏教美術』）。『中道町史』には本寺の「藤切り」の祭事を七覚御幸と呼び、明治時代まで行われていたことが伝えられている。さらに 14 世紀後半に本山派修験聖護院権大僧都道興が記した『廻国雑記』には、道興が本寺に滞在したのちに郡内へ至った記載が見える。このように本寺は甲斐国の真言宗拠点寺院の一つであった。

一方本寺は中世後半から江戸時代に興隆した六十六部廻国の甲斐の納経所でもあり、六角堂はその納経所として昭和 36 年まで建物が存在した。『余瀬文書』「六三　六十六部奉納札所覚書」には全国六十六ヵ国の納経所の記録が見られ、甲斐国は円楽寺と横根寺（現甲府市）の 2 寺が認められる。

このように甲府盆地への入り口ともいえる行者堂跡及び六角堂は、これまでそれぞれ礎石の存在は知られていたものの、深い藪に覆われその全容は明らかではなかった。また本寺は最盛期には広大な寺域を有しており、多くの僧坊が所在したと伝えられる。行者堂・六角堂の東南部山裾には「坊寺」という地名があり、地元ではこの地点が僧坊跡ではないかと推測されていた。このような課題から、本寺行者堂及び六角堂・僧坊についてのデータを収集する目的で、平成 17 年 12 月 12 日から 26 日・平成 18 年 2 月 13 日～ 26 日まで合計 950㎡を対象に発掘調査を行った。

（2） 坊寺の調査（第 82 図）

坊寺は、七覚地区西側で行者堂・六角堂が位置する尾根下の山裾に所在する。このうち良好なテラスが所在する 530㎡について 8 本のトレンチを設定し、重機で耕作土を除去した後、人力で地山面の精査を行った。調査の結果、遺構は認められず、この地点で寺院関連の施設を確認することはできなかった。

（3）六角堂跡の調査（第 81・83・99・105 ～ 107 図）

六角堂跡は円楽寺前面に位置する日陰山の一尾根先端部に位置する。下段テラスには熊野・白山・金峰・伊豆・箱根を祀る五社神社が、東側に正面を向けて立地するが、六角堂跡はその南側に位置する階段を上がったテラス北側に所在する。南側には行者堂跡が位置するが、六角堂跡は行者堂跡より一段高いテラス上に立地する。六角堂跡中央部には宝篋印塔が安置され（第 106 図）、基礎部分の南側面部には直径 5㎝程度の穿孔が施される。当初六角堂跡は深い藪で覆われていたが、精査を行った上で礎石を確認した。六角堂跡は東側を正面とし、宝篋印塔（9 号石塔）を中心に礎石が配される。最も外側の石列は、六角堂を区画するものである。一辺が 1.9 m～2.1 mを測り、拳大からそれより一回り大きな礫を用いる。礎石は六角部分にそれぞれ人頭大の礫を配置する。礎石間には拳大の礫を配置する箇所も見られるが、一定ではない。最も内側の石列は北西側で良好に残存したが、それ以外は欠損していた。また今回精査をする中で、正面である東側及び南側の一部、北東側に六角堂に伴う基壇を確認した。基壇東側は人頭大からそれ以上の礫を用いて階段状に 5 段から 6 段が構築される。北側や北東側と比較して一段の幅が広く、正面であることを意識していると思われる。南側は拳大から人頭大の礫により 6 段が構築されるが、テラス斜面の途中でとぎれている。北東側の基壇は南側及び東側のものと比較して規格性に乏しい。拳大前後の礫を中心として構築され、自然地形に合わせて石列を配する。さらに基壇外側には近世の六十六部廻国塔が位置する。東側基壇付近では第 7 号石塔が倒れた状態で確認された。願主は「武州大里郡川原明戸邑 願主 松本勝右衛門福秀」と見える。一方北東側の基壇付近には第 8 号石塔（第 107 図）が確認された。願主は「下総国□□郡野牛邑　願主善明」と見える。六角堂跡東側では明治期の廻国塔を確認した。出土遺物は六角堂跡正面の礎石付近で寛永通宝 2 点（第 105 図 3・4）が出土した。また六角堂跡周囲の基壇上では、六角堂跡のものと判断される瓦が出土した。第 99 図 17 から第 100 図 28 に示したものであり、28 以外はいずれも平瓦である。幕末前後のものであると判断される。

（4）行者堂跡の調査（第 81・84・99・100 図）

行者堂跡は六角堂跡の南側に位置する。下段テラスの五社神社南側の階段を上ると行者堂跡正面に到達する。発掘調査では覆い茂る藪を草刈り機等で伐採し、人力により礎石確認面まで表土を除去した。その結果、東西 4.5 間×南北 4 間の総礎石建物跡を確認した。周囲は人頭大の平坦な礫により区画される（第 84 図）。さらに建物跡中央部に東西方向のトレンチを設定して掘り下げを行ったところ、下層で赤茶褐色の粘土層を確認し、この層位の上面から渥美焼きの壺口縁部が出土した。13 世紀初頭に位置づけられる。また礎石を欠損する 2 地点について、トレンチを設定して掘り下げを行ったところ、確認面を掘り込む柱穴を確認した。礎石建物跡の前段階は掘立柱建物であったと考えられる。さらに建物跡中央部よりやや南東側に人頭大の礫が集中する地点が所在する。『日本社寺明鑑』「七覚山円楽寺之景」の銅版画には、明治時代の行者堂・六角堂の様子があり、それによるとこの地点に役行者像が安置されていたと推測され、湿気除去の目的があると考えられる。このような発掘調査結果から、行者堂は 13 世紀初頭には所在していたと判断される。

（5）石塔の調査（第 84・99・106 図）

調査区西側の六角堂跡背後には、中世に位置づけられる石塔が所在する。石塔は 5 基が所在し、周囲を平坦な礫で区画する。このうち最も南側の 1 号石塔は宝篋印塔の基礎部分で、南側面には「右意趣」で始まる銘文が認められる。劣化が著しく文意は明らかではないが、10 行程度が刻まれていたと推測される。文末 2 行には「天文十六年（1547）丁未十一月　権大□□」とある。さらに石塔下には石塔の平衡を保つ目的で平坦な礫が位置していたが、その下層から第 99 図 4 の長頸壺頸部が出土した。1 号石塔の北側に並列する 2・3 号石塔は五輪塔地輪である。いずれも小型である。4 号石塔は宝篋印塔である。最も下層の基礎部分北側面には文字が確認できるが、風化のため文意は不明である。5 号石塔は六角柱を呈する。基礎部分背面には「永禄四年」（1561）の年号が確認でき、16 世紀後半に活発に石塔が造立されたことを窺うことができる。また石塔群周辺では 13 世紀に位置づけられる遺物の出土が見られた。第 94 図 9 は第 2 号と第 3 号石塔の背後から出土した常滑焼き鉢底部である。さらに石塔群の北側では三筋壺破片や青磁碗破片が出土した。三筋壺は 13 世紀代に、青磁碗は 12 世紀後半に位置づけられる。

第 2 節　平成 18 年度の調査

第 1 項　苗敷山山頂遺跡南西地点（韮崎市旭町上条南割地内・中世寺院番号 4023035）

（1）概要と調査に至る経緯

苗敷山は甲府盆地の北西に所在し、標高 1,032 ｍを測る。鳳凰三山の前面に位置し、雨期には山頂に湿原が出現することから五穀豊穣に関わる伝説が生み出され、信仰の対象とされてきた。このような背景から山頂には穂見神社が建立されたと考えられる。穂見神社には鎌倉時代初期の木像である三宝荒神像が納められ、武田八幡神社には苗敷山住の阿闍梨栄真が小檀那であったことを示す棟札が伝えられていることなどから、中世の活動の様子が垣間見られる。また江戸時代には山麓の山寺地区に所在する里宮から山頂の奥宮まで、多くの参拝者で賑わったとされ、参道には寛文四年（1664）銘のある石鳥居や、一丁毎に丁石が奉納されるなど、多くの遺物が現在に伝えられる。

かつて神社の下段には、別当寺として宝生寺が立地した。宝生寺は真言宗寺院であったが、明治 7 年の廃仏毀釈により本寺である南アルプス市の加賀美法善寺に移され、現在は礎石が残る。

平成 13 年（2001）には、穂見神社北西側の林道建設に伴い、韮崎市教育委員会により平安時代の住居跡 6 軒が検出され、苗敷山の信仰がおおよそ 10 ～ 11 世紀には開始されていたことが確認された。さらに平成 13・15 ～ 17 年度（2001・03 ～ 05）には同教委により測量・発掘調査などの学術調査が実施された。

このように多方面からの調査により、近年苗敷山を取り巻く背景が明らかにされつつある。一方で中世段階の様相はほとんど明らかにされていないのが現状であり、発掘調査ではこのような問題点を課題として、平成 18 年 11 月 1 日～ 16 日まで合計 81㎡の調査を実施した。

（2）発掘調査（第 85・86・100・104 図）

穂見神社の南西側は、北から南へ緩やかに傾斜しており、北側の上段と南側の下段の 2 段のテラスが所在する。このテラスの東側は若干窪地で雨期には湿地となり、上記の伝説の起源となった地点でもある。発掘調査ではこのテラスに合計 10 本のトレンチを設定し、人力により掘り下げを行った。このうち第 1 号トレンチでは、拳大を中心とした礫で構成される集石を確認した。円形を呈し、規模は東西 1.50 m×南北 1.50 mを測る。周囲には焼土粒子・炭化粒子が散在していた。また第 4 号トレンチでは、拳大から人頭大の礫を用いた集石を確認した。このうち東側では礫が南西から北東方向へ石列状に並ぶ地点が認められた。礫に混在して平安時代の坏破片や須恵器破片が出土した。またトレンチ全体で焼土粒子・炭化物などが見られた。集石はそれぞれ南と北側に続いていると判断される。これ以外のトレンチでは遺構は見られなかったが、第 3・10 号トレンチ以外のトレンチでは平安時代の遺物が出土した。第 100 図 4 は第 2 号トレンチから出土した坏底部である。黒色の付着物が多量に認められる。また 8・10 は灯明皿に用いられた坏の口縁部である。9 は灰釉陶器片である。小片により器種は不明であるが、外側壁面に朱が付着する。13 は 7 号トレンチから出土した坏の胴下半部である。墨書が認められるが文字は不明である。確認された 2 基の集石遺構や遺物から、本テラスでは 10 ～ 11 世紀の祭祀の場であったものと推測される。今回確認した遺構は韮崎市教育委員会により調査された住居群と同時期のものである。しかしこれらに後続する中世の遺構は認められず、苗敷山の信仰拠点がどのように推移するのかを今後明らかにする必要がある。

第 2 項　善応寺（南アルプス市大嵐字赤羽根地内・中世寺院番号 5033025）

（1）概要と調査に至る経緯

善応寺は甲府盆地の西に位置する甘利山の南側で、盆地西部の山岳地から流れ出る御勅使川左岸の扇状地扇頂部付近の山腹、大嵐地区に所在する。大嵐地区には、貞和五年の観応の擾乱において、高師冬が上杉憲顕と対立した末に立て籠もったとされる須沢城が所在する。

本寺は須沢城の後方の山中に立地し、現在は臨済宗であるがかつては真言宗寺院であったとされる（『白根町誌』）。『甲斐国社記・寺記』では、本寺の由緒について鎌倉円覚寺末であり、円覚寺 2 世の大休正念を開山、当地領主笹見浦政綱を開基とし、笹見浦氏の居城が須沢城であったことから山号を城守山と称するとしている。従って善応寺の成立が須沢城の成立後であるという見解もあるが、詳細な寺歴は明らかではない。本寺に安置されている千手観音像は、損傷部分があるが藤原期の一木造りである。大正 2 年には寺院背後の山中に所在するテラスの上段で、平安時代の土製経筒及び鉄製磬・鉄鏃が出土した。現在は東京国立博物館に所蔵されている。

このように本寺の由緒は未詳である部分が多いが、寺院背後には人工的に作り出されたと考えられるテラスが連続して所在すること、このテラスから経筒が出土していること、テラス内に所在する湧水地点周辺では土器が採取できることなどから、善応寺に関わる施設について明らかにする目的で、平成 18 年 12 月 1 日～ 12 月 18 日まで 3 地点合計 111㎡を対象に発掘調査を実施した。

（2）発掘調査（第 87 ～ 89・100 図）

発掘調査は、経筒が出土したと伝えられる地点（調査区 1）及び本堂北西側に所在する井戸脇のテラス（調査区 2）、その下段の湧水池地点の 3 地点を調査対象とした。大正 2 年に発見された経筒は、テラス東側の山道工事中に出土したと伝えられる。出土地点は、本堂背後に所在する 10 段前後のテラスのうち、上から 2 段目山道沿い付近であったとされる。そのため該当するテラス全面の精査を行った上で、山道に接近する地点にトレンチを設定して掘り下げを行ったが、経筒を納めた痕跡は認められなかった。また当テラス側面の山道壁面について、断面観察を行ったが、結果は同様であった。

調査区 2 では、井戸脇のテラスに南北 8.4 m×東西 4.8 mのトレンチを設定し、人力により掘り下げを行った。しかし根による攪乱とも考えられるピット 2 基を検出したのみで、遺物の出土は見られなかった。一方下段の湧水地点付近を精査したところ、湧水の南側に拳大の礫を用いた集石が認められ、礫に混在して平安時代の土器片

が出土した。第 100 図 1 は平安時代の坏底部である。磨耗が著しく調整が不明瞭であるため、詳細は不明である。

今回の調査では、本寺に関わる遺構の存在等を明らかにすることはできなかった。しかし湧水地点付近で平安時代の集石遺構を確認したことは、経塚とともに本寺の成立年代を考える上でのヒントに成り得ると考える。

第 6 項　古長禅寺（南アルプス市鮎沢地内・中世寺院番号 5037013）

（1）概要と調査に至る経緯

県指定史跡古長禅寺は、釜無川（富士川）右岸で巨摩山地の前面に位置する一瀬台地上、標高 262m 付近に立地する。この地域には神亀二年（725）に、西郡最大の寺院といわれた真言宗寺院である西光寺が、行基により創建されたと伝えられる。西光寺は、西郡で唯一七堂伽藍を有し、広大な地域を持っていたとされるが、次第に衰退して大正 11 年には唯一残っていた地蔵堂を火災により焼失した。現在は国道 52 号沿いにわずかに墓域をとどめるのみである。

一方本寺は臨済宗寺院として正和五年（1316）に夢窓疎石によって、西光寺の寺域の一角に創建された。戦国期には武田氏が深く帰依し、境内には大井夫人の宝篋印塔が所在する他、現在も中世段階に位置づけられる石造物が寺域の各所に所在しており、中には古相を呈する五輪塔火輪部分等も含まれる。こうしたことから古長禅寺の創建及び西光寺の一端を明らかにする目的で、平成 18 年 11 月 17 日～ 30 日まで発掘調査を実施した。調査面積は 72㎡である。

（2）発掘調査（第 90・100・101 図）

発掘調査では、本堂北側の空閑地に東西 2 本、南北 3 本のトレンチを設定し、第 1 号トレンチ東側は重機により、その他のトレンチは人力で掘り下げを行った。トレンチでは全体的に約 0.05 ～ 0.1m 程度掘り下げたところで硬化面を検出した。このうち第 1 号トレンチ東側の重機で深く掘り下げた箇所では、地表下 0.60 m付近で礫を多量に含む層位に到達した。この上層では古墳時代中期の遺物を含む層位が確認できることから、古長禅寺周辺に広がる村内遺跡の一部であると考えられる。一方表土層をのぞいた 2 層から 5 層までの 4 層は、いずれも固くよくしまっており、細かな平安時代の土器片を含む。土層及びトレンチ掘り下げ時の観察から、建物跡に関わる版築が施されていると判断される。今回調査を行った空閑地は、約 41.25 m× 14.80 mの範囲で周囲より 0.1 ～ 0.15m 程度レベルが高いことなどを考え合わせると、この範囲が建物跡の基壇であったと推測される。版築が施された土層中には、古墳から平安時代の遺物が含まれることから、中世から近世に建築された建物跡である可能性がある。また 2 号トレンチから 5 号トレンチでは、礎石等建物跡の遺構を確認するため、平面的に掘り下げを行ったが、いずれの遺構も確認することはできなかった。

遺物は古墳時代から近世のものが認められた。第 100 図 1 ～ 3 は古墳時代中期の遺物である。第 1 号トレンチ東側の最下層から出土した。1 は甕破片、2 は高杯の杯部、3 は高杯脚部である。4・5 は平安時代の遺物である。平安時代の遺物はほとんどが小片のため、図化は困難であった。9・10 は瓶子の胴部破片であると考えられる。11 ～ 14 は表土中から出土したものである。15 は黒色の碁石である。

また、今回調査を行った建物跡の西側には、本堂南側の池につながる水路が所在する。この水路のさらに西側は現在竹藪であるが、寺域内の踏査によりこの竹藪中にも今回確認した建物跡と同様の基壇があることを確認した。精査等を行っていないため詳細な規模について確認することはできなかったが、南北規模は今回調査した建物跡とほぼ同じであり、東西規模は小さいため、東側の建物跡より小さな建物跡であったようである。さらに寺域内の踏査により、古長禅寺東及び北側の一部に土塁が所在することを確認した。特に北側の土塁は入り組んでいる。古長禅寺の前身については不明だが、古長禅寺が防御施設を持っていたか、もしくは館であった可能性がある。

第 4 項　浄光寺（南巨摩郡南部町南部地内・中世寺院番号 6043012）

（1）概要と調査に至る経緯

本寺は甲府盆地の南に所在し、盆地を南流する釜無川（富士川）に注ぐ舟山川と栗川に挟まれた丘陵上に位置する。『甲斐国社記・寺記』によれば本寺は、臨済宗寺院として大覚禅師（蘭渓道隆）により開かれたと伝えられる。開山の時期については明らかではないが、『南部町誌』では蘭渓道隆が甲斐を訪れたのは文永九年（1272）及び建治三年（1277）であることから、開山もおおよそこの時期ではないかと推測している。本寺は、14 世紀に南部地域を拠点とした甲斐源氏の子孫である南部氏の菩提寺と考えられており、かつて本堂背後の山中には南部氏のものと考えられる五輪塔や宝篋印塔などの石造物おおよそ 20 基が所在していた。しかし昭和 41 年の台風による崖崩れで埋没したため、昭和 57 年にこれらを掘り出し、現在は南部氏供養塔を建立して安置している。畑大介氏は『南部町誌』「第一章　種別概説」の中で、浄光寺の石造物も含めた南部町域の石造物について、静岡県側の影響を大きく享受しており、とくに浄光寺の石造物は 14 ～ 16 世紀に造立年代が求められることを指摘している。

今回の発掘調査では、中世段階に遡る遺構を確認する目的で、平成 18 年 10 月 23 日～ 29 日まで発掘調査を実施した。調査面積は 12㎡である。

（2）発掘調査（第 91 図）

発掘調査ではまず、本堂とその南側に所在する太子堂の間に 3 本のトレンチを、また太子堂の前面である東側に 1 本のトレンチを設定し、人力により掘り下げを行った。しかしいずれも表土より拳大の礫を多量に含む土砂が厚く堆積し、かつてこの地が土砂崩れにより埋没したことが理解された。そのため今回の調査では、中世段階の痕跡を確認することはできなかった。

第 3 節　平成 19 年度の調査

第 1 項　東円寺前地（中尾根遺跡）（南都留郡忍野村忍草地内・中世寺院番号 8054001）

（1）概要と調査に至る経緯

東円寺は、山梨県東部のうち南側に連なる山々の一つ、高座山の西に位置する鳥居地峠南麓の扇状地上に位置する。本寺が所在する南都留郡忍野村は、かつては村の中央部に湿地が広がり、周囲の山麓に平安時代以降の遺跡がいくつか立地しており、東円寺の前地といわれる中尾根遺跡もその一つに数えられる。

本寺は、創建年代等詳細は明らかではないが、寺伝によると鎌倉時代初頭まで南泉寺と称し、その後正治元年(1199)に天台宗東円寺となった。忍草浅間神社の別当寺であり、神社所蔵の木花開耶姫命・鷹飼・犬飼の三神体の膝下には「正和四太才乙卯十月廿三日辰時、丹後国住石見坊静観、別当東園寺」と記されており、また本寺でも文保四年（1320）銘を持つ正観音像を所蔵するなど、内野地区の承天寺と並び、富士山麓の核となる寺院の一つである。本寺はかつて現在地より 300 m程東に所在したが、近世に台風の被害を受けたため現在地に移転したと伝えられ、今回は中世の東円寺の所在を確認するために、平成 19 年 11 月 1 日から 22 日まで発掘調査を実施した。調査面積は 74㎡である。

（2）発掘調査（第 92・93・101 図）

本寺の前地は、すでに平安時代の遺跡である中尾根遺跡として、周知されている。遺跡は鳥居地峠の南西麓に所在し、この地点に奥行き 5 ～ 10 mを測るテラスが複数段位置するため、トレンチを設定し人力により掘り下げを行った（第 92 図）。このうち第 5 トレンチ第 7 層が、遺跡の東で鳥居地トンネル建設時に発掘調査された笹見原遺跡の平安時代の層位と同様のものであると考えられ、この層位を基準にして調査を行った。しかし第 1 ～ 7 及び 10 号トレンチでは遺構･遺物の確認には至らなかった。また鳥居地峠につながる山道脇のテラスに第 8･9 トレンチを設定し、掘り下げを行ったところ、遺構の確認には至らなかったが平安時代の遺物が出土した。第 101 図 1 ～ 9 は土師器坏である。このうち 1 ～ 8 は口縁部でいずれも玉縁状を呈する。10 は灰釉陶器底部である。11 ～ 13 は甕胴部破片である。14 は羽釜の羽部分である。これらは 10 世紀後半に位置づけられるものと考えられる。しかし東円寺に関わるものかは不明である。

周辺には今回調査したテラス以外にも数多くのテラスが所在しており、またこれらのテラス群から続く山中に

は、東円寺に関わる石祠が点在し、「前阿弥陀」「阿弥陀」などの地名が所在するなど、東円寺を取り巻く空間は未だ未解明な部分が多い。今回はこうしたエリアのほんの一端を調査したにすぎず、今後も調査を継続する必要がある。

第２項　富士山二合目小室浅間神社境内地行者堂跡・定善院跡（南都留郡富士河口湖町勝山地内・中世寺院番号8056003）

（１）概要と調査に至る経緯

遺跡は、富士山登山道のうち富士吉田市に起点を発する吉田口登山道二合目の、冨士小室浅間神社境内地西側の登山道沿いに位置する。冨士小室浅間神社の境内地には、今回調査の対象となった行者堂跡のほか、富士吉田市上吉田に所在する時宗寺院西念寺の塔頭である定善院が、神社の下段テラスに立地したと伝えられるなど、複数の施設の所在が伝えられる。しかしいずれも創建年代や由緒などについての資料は乏しく、またそれを取り巻く環境についても不明な点が多い。

二合目に位置する小室浅間神社は、富士山中で最初に勧進された神社と伝えられ、文治五年（1189）と建久三年（1192）銘を持つ神像２体が走湯山の覚実らにより納められたとされる。現在はいずれの神像も不明であるが、この時期に走湯修験との関わりを窺うことができる。

今回の調査対象である行者堂跡は、甲府盆地の真言宗の古刹で修験の一拠点である円楽寺（第３項に記載）を開いた役行者が、円楽寺前面の日陰山の一尾根上に所在する円楽寺行者堂を起点として、富士山までの登山道を開いたとの伝承の中で、富士山側の拠点施設であると考えられてきた。行者堂の創建については『勝山記』「天文廿四年四月乙卯」の項に、「此ノ年富士山北室ノ行者堂立申候、去程ニコマ（護摩）堂モウハフキ（上葺）、」と見え、1555 年に行者堂が開かれたことを知ると同時に、当時この場所が北室と呼ばれていたこともわかる。江戸時代末期に描かれた絵図である『富士山明細図』「二合目小室浅間神社」や『二合目北室浅間堂冨士ノ本社』には行者堂が描かれており、図中の行者堂は、建物幅２間×奥行き１間程度の簡易的な建物である。

このように富士山信仰の拠点の一つとして、また甲府盆地とも関わりの深い行者堂が、伝承地に所在したのか、また創建年代や建物構造等についてのデータを収集する目的で、平成 19 年 10 月 11 日～ 31 日まで、発掘調査を実施した。調査面積は 82㎡である。

（２）発掘調査（第 94 ～ 96・101 ～ 105 図）

発掘調査は小室浅間神社山宮拝殿の西側で、登山道北側の一段高くなったテラス上を対象に行った。調査ではまずこの地点に長さ約 21m、最大幅約４ｍの調査区を設定し、人力により精査を行った。しかし当初行者堂が所在したと想定したテラス中央部はすでに土がえぐられ、原地形を止めておらず、遺物が若干点在するのみであった。そこでさらに西側に調査区を拡張したところ（第２号トレンチ）、登山道に沿うように北東から南西へ延びる石列を確認した。石列は人頭大より一回り大きな礫を用い、全長は 7.4m を測る。谷側である北西方向に石面を向けている。前出の絵図には記載が見られないが、行者堂を区画する石列の一部ではないかと考えている。石列の区画内である南側に行者堂の痕跡を確認するために、登山道と調査区の間に第４号トレンチを設定して掘り下げを行った。表土及びその下層は石列を包含する層と同じ堆積であり、４層目は火山灰層である。３層上部に石列の基底部が含まれることから、３層が遺構確認面と判断されるが、第４号トレンチでは２層が登山道建設工事の際に削り取られており、遺構は失われているものと判断される。また第２号トレンチの最も南西端では石列の下層に平坦な礫が並んで出土した。礫の間隔は 0.90 ｍであり、建物跡の礎石である可能性を考慮して第５号トレンチを設定し掘り下げを行ったが、高いレベルで上部が平坦な礫が出土したため建物跡については結論を出すことができなかった。一方石列の最も北西側付近では、18 世紀代の磁器の茶碗が複数まとまって出土した。また石列に沿った北側包含層からは、かわらけ・陶磁器・北宋銭や寛永通宝などの古銭、釘を初めとする鉄製品など約 400 点が出土した。このうち第 101 図 1･2 は、東遠系の山茶碗である。13 世紀初頭に位置づけられる。3 から 10 はかわらけである。いずれも小破片のため、帰属年代がわかりにくい。3 は坏口縁部であるが、わず

かに暗文が観察できる。また 8 は坏底部であるが底部付近を調整し、底部は糸切り痕が見られ、やや古相の印象を受ける。4 から 7 は坏口縁部であるが、いずれも厚手である。9・10 も含め小片であるため 16 世紀後半から 17 世紀代に位置づけておく。11 ～ 15 は、陶器の皿である。いずれも灰色の釉が施され、鼠志野に分類される。11 ～ 13 は胴部中央が有段を呈する皿である。形状から 17 世紀中頃と考えられる。第 102 図 1 から 25 の磁器はいずれも 18 世紀代に位置づけられる。26・27 は陶器である。28 から 35 及び第 103 図 36 から 50 は陶器である。いずれも瀬戸・美濃産であると判断される。湯呑みや片口鉢・香炉・土瓶・灯明皿など様々な器種が出土した。第 105 図 7 から 59 は古銭である。古銭は全体の 4 割を占める。全体像を知ることができるものは少なく、ほとんどは破片である。ここでは銭種の類推できるものを中心に掲載した。古銭は永楽通宝や開元通宝などの北宋銭や寛永通宝が見られる。寛永通宝には古寛永と新寛永が認められるが、共伴した土器や陶磁器から 16 世紀後半から 18 世紀代に用いられたものと思われる。

調査区北西では、テラス壁面を土留めする石垣を確認した（第 89 図）。石垣は幅約 2.10 m、高さ最大約 1.30m を測る。前出の絵図『二合目北室浅間堂冨士ノ本社』では、神社正面の鳥居の左右が柵列により区画されており、神社正面の鳥居を必ず通って富士の頂上へ至らなければならなかったのではないかと考えられる。確認した石垣は、それに伴うものではないかと思われる。

第３項　古観音遺跡（北都留郡小菅村長作字古観音地内・中世寺院番号 9062002）

（１）概要と調査に至る経緯

山梨県北東部の大菩薩嶺から続く山々は、隣県の東京都・埼玉県にも及んでいる。本遺跡は、本県の最北東端に位置する北都留郡小菅村と東京都奥多摩町の県境に位置する三頭山の南西、鶴川支流の神楽入沢左岸に所在する。

本遺跡が所在する小菅村長作地区は、鎌倉時代後期の建造物で国の重要文化財に指定されている長作観音堂が所在する。本遺跡は、かつて長作観音堂が所在していたと伝承が残る地点である。遺跡付近は「ソダチ石」として祀られる巨石や「神楽入沢」など、信仰に関連する地名や伝承が数多く残る。しかし長作観音堂を取り巻く背景は、ほとんど明らかになっていないのが現状であり、中世の長作観音堂を含む長谷寺の詳細を知るために、平成 19 年 9 月 18 日から 9 月 25 日までの 5 日間で発掘調査を実施した。調査面積は 55㎡である。

調査地は北東から南西方向へ傾斜する三頭山中腹の尾根前面に所在するテラス上にあり、下段にも小規模なテラスが連続する。神楽入沢と鶴川の合流地点から沢沿いに、遺跡の北側を通って三頭山山頂を経由するルートは、かつては奥多摩方面へ至る幹線道路であったと地元では伝えられるなど、この付近がかつては交通の要衝であったと推測される。

（２）発掘調査（第 97・98・103・105 図）

発掘調査は、テラス上に約 7 × 5 ｍのトレンチを設定し、人力により掘り下げを行った。表土を除去し、下層の黒褐色土の掘り下げを行ったところ、寛永通宝が出土した。さらに黒褐色土を除去したところ地表下 0.15m 付近で集石及び建物跡の礎石が出土した。

集石は調査区北側で、東西 2 地点で確認した。いずれも拳大の礫を用いる。西側の集石は残存状況が良好で、規模は 2.2 × 2.2 ｍを測り、ほぼ正方形を呈する。一方東側の集石は不整形であるが、周囲にこれらを構成したと推測される礫が出土することから、もとは西側の集石と同様の形状を呈し、東西一対のものであったと考えられる。

集石の前面である南側では、4 地点で礎石と考えられる平坦な礫を確認した。礎石は東西間でそれぞれ約 2.0 ｍを測るが、南北間では約 3.0 ｍを測る。礎石はこの地域で「青御影」と呼称され、遺跡の東側を流れる神楽入沢支流では産出されない礫であり、他地域から搬入された可能性がある。また北側礎石列の東側ではピットを確認した。ピットは東側集石前面に位置し、深さ 0.15 ｍを測る。さらに礎石列・集石の確認面を掘り下げたところ地山面に到達し、ピット南西側で焼土跡及び平安時代の甕底部を確認した。

一方調査中に下段テラスに石垣が所在するのを確認したため、下段テラスに 3.3 × 2.0m のトレンチを設定し、掘り下げを行った。遺物・遺構は確認されなかったが、黒色土層中より多量の炭化物及び焼土粒子がほぼ全面で確認した。また上段テラスから下段テラスの間にトレンチを設定して掘り下げたところ、下段テラスの直上で、礫を確認した。礫は崩落が著しく原況を止めていないが、斜面に差し込むようにして平坦面を上面に向けている様子が観察できる。こうしたことから階段状の遺構であった可能性も考えられる。

遺物は平安時代の底部を含む土器片 2 点、古銭 2 点が出土した。第 103 図 1 は甕の破片である。2 は甕底部である。内面はヨコハケ、外面は縦方向のハケにより調整される。第 105 図 5・6 は古銭で寛永通宝である。いずれも背面に文の文字が施され、表面の文字の特徴から新寛永に分類できる。

以上から、遺跡は平安時代にはすでに人為的痕跡があり、中世及び近世において建物跡が所在したと判断できる。先にも記述したように、遺跡は長作観音堂の前地であったとの伝承があった場所である。しかし現在の観音堂は奥行き 3 間×幅 4 間を測り、今回出土した遺構とは異なっている。またテラス奥面に位置する集石の性格は定かではないが、検討委員の時枝務氏からは神社遺構とその前面に附属するの建物跡ではないかとの指摘もあり、その性格については今後検討を要する。

第４節　踏査による表面採集遺物

第１項　観音寺（笛吹市石和町地内・中世寺院番号 1005010）

観音寺は、笛吹市石和町に所在する臨済宗寺院である。創建年代は未詳であるが、古くは七堂伽藍を有する天台宗寺院であったと伝えられる（『甲斐国志』）。文明十六年（1484）頃に石和御厨中の鵜飼川の管理権が与えられた。本寺域内を踏査したところ、第 104 図 1 ～ 5 を採集した。いずれも小片であるため、詳細は不明である。1 は坏口縁部、2 ～ 4 は底部である。5 は灰釉陶器の破片である。

第２項　勝善寺（甲府市後屋町地内・中世寺院番号 2008125）

勝善寺は、甲府市後屋町に所在する臨済宗寺院である。夢窓疎石の創建であり、本寺が所蔵する釈迦如来像の胎内銘には絶海中津が造仏に関わっている他、武田信成の法名なども認められる。境内には暦応二（1339）年銘を持つ宝篋印塔を初め、多数の石造物が所在する。踏査では、本堂南東側で第 104 図 1 ～ 6 を採集した。1 ～ 5 はかわらけの坏口縁部である。6 は鍋など煮沸具の口縁部であるかと思われる。

第３項　長泉寺（北杜市須玉町地内・中世寺院番号 4025034）

長泉寺は若神子宿に所在する。平成 19 年には寺域内で発掘調査が行われた（P130）。第 104 図 1 ～ 5 は、寺院北西に所在する墓地で採集したかわらけである。いずれも小片であるが、1・2 は坏口縁部、3 ～ 5 は底部である。

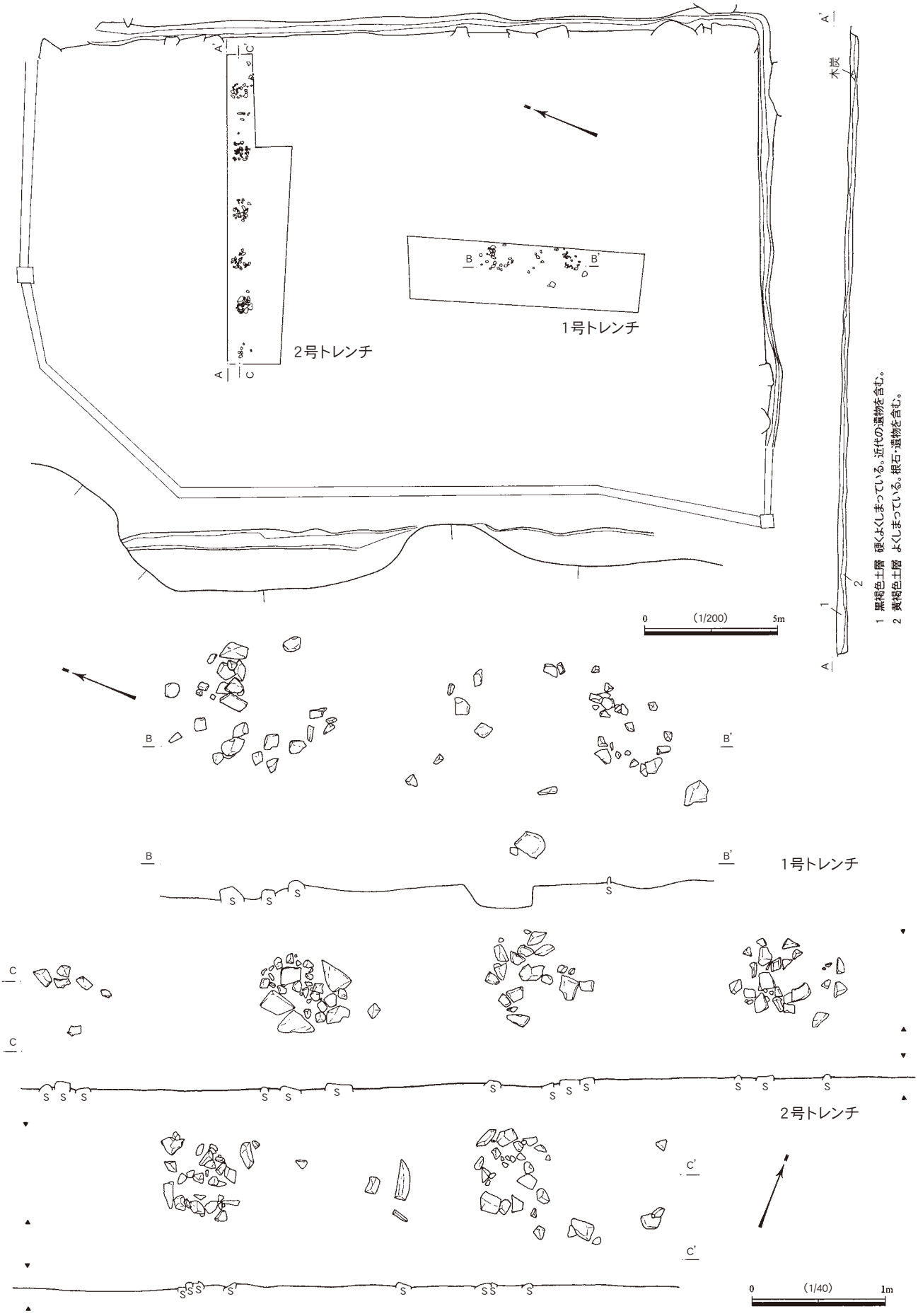
第４項　寺平遺跡（甲州市塩山玉宮字寺平地内）

寺平遺跡は、甲州市塩山寺平に所在する。塩山玉宮に所在する高森院の前地であると伝えられる。平成 17 年度の踏査では、土器の小片を数点採集したが、図化できたものは第 104 図 1 の甕口縁部のみである。

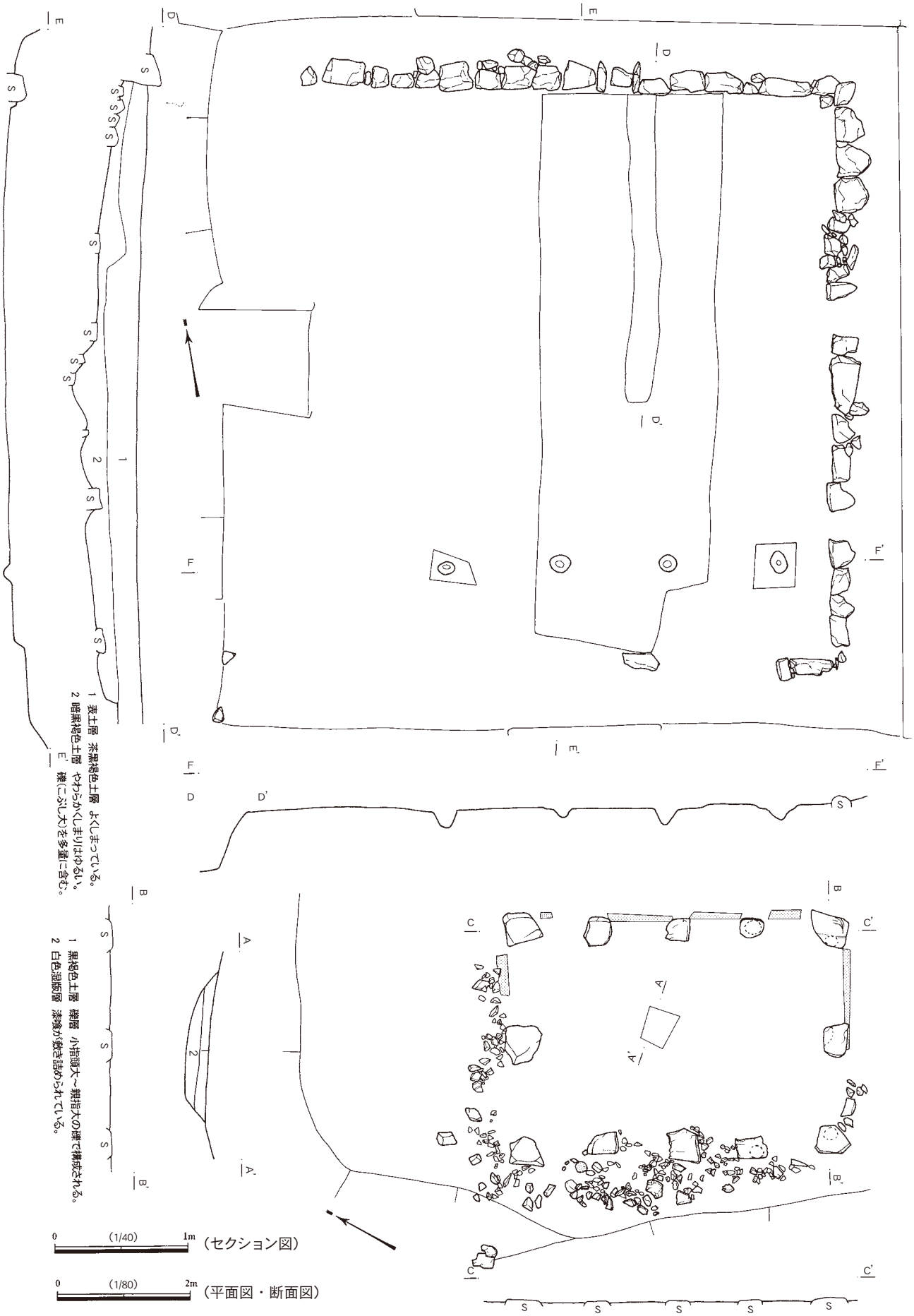
第５項　権現堂遺跡（南巨摩郡増穂町春米地内）

権現堂遺跡は、南巨摩郡増穂町春米字南山に所在する。昭和 60 ～ 63 年には発掘調査が行われ、平安時代末の泥塔とそれに伴う焼成遺構が確認された。平成 18 年度に行った踏査では、遺物を表面採集した。第 104 図 1 は、青磁破片である。蓮弁が施される。採集地点は、発掘調査時に遺構確認調査が行われた C 地点の 3 号トレンチ付近であると思われる。

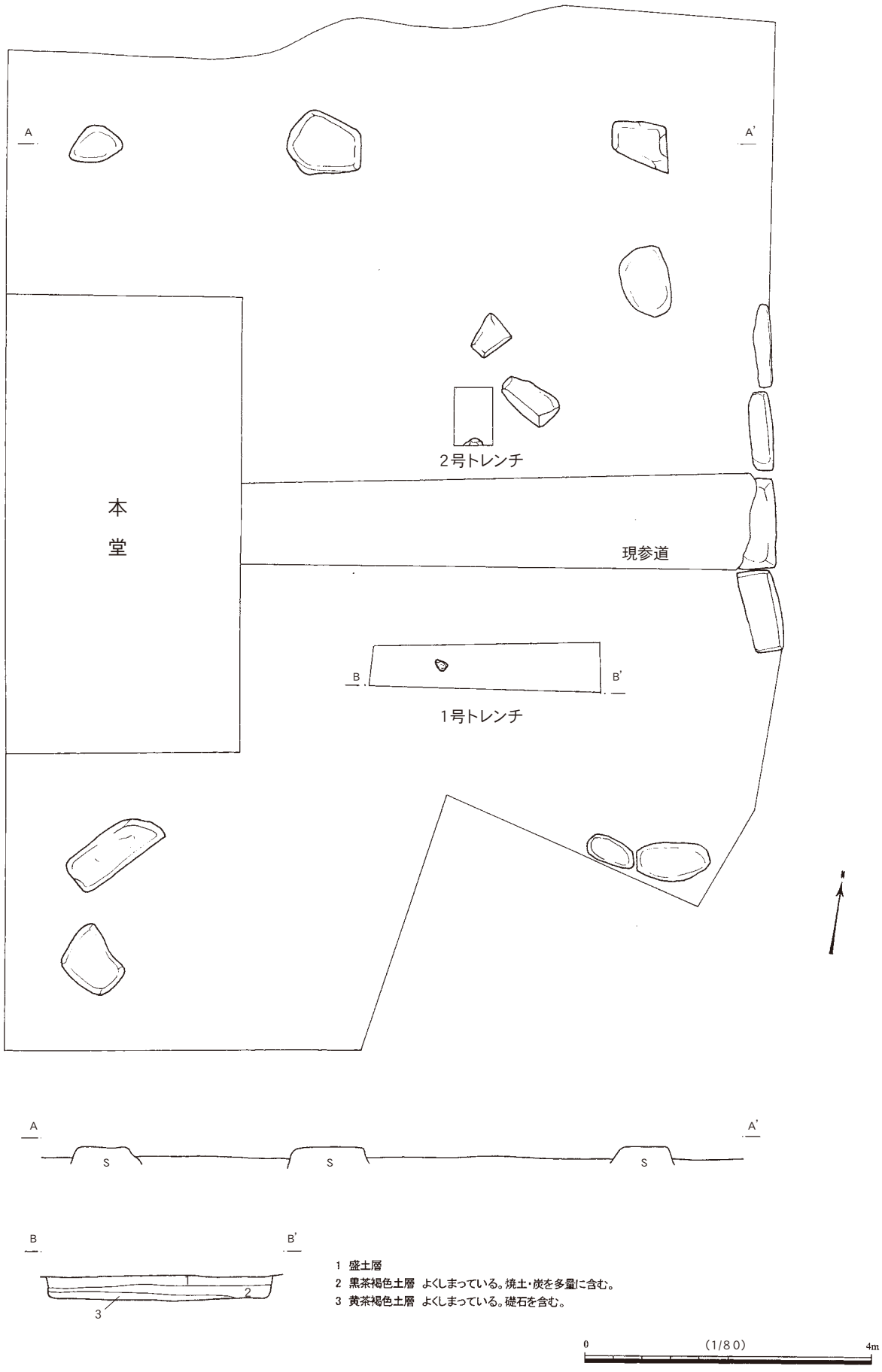
第７７図　聖応寺調査区配置図



第78図　聖応寺本堂跡平面図・根石出土状況



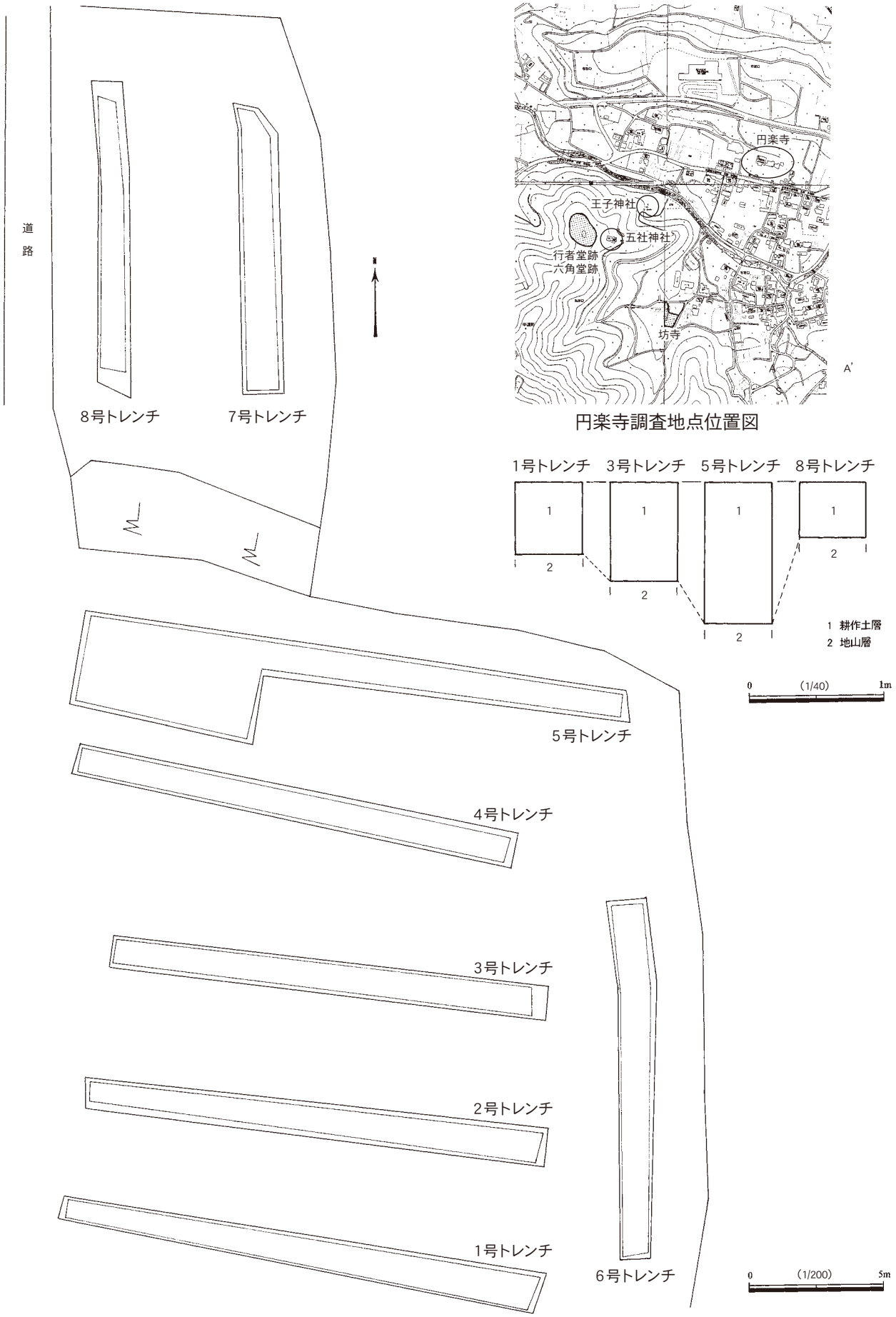
第79図　聖応寺開山堂（上）・礎石建物跡（下）平面図・断面図



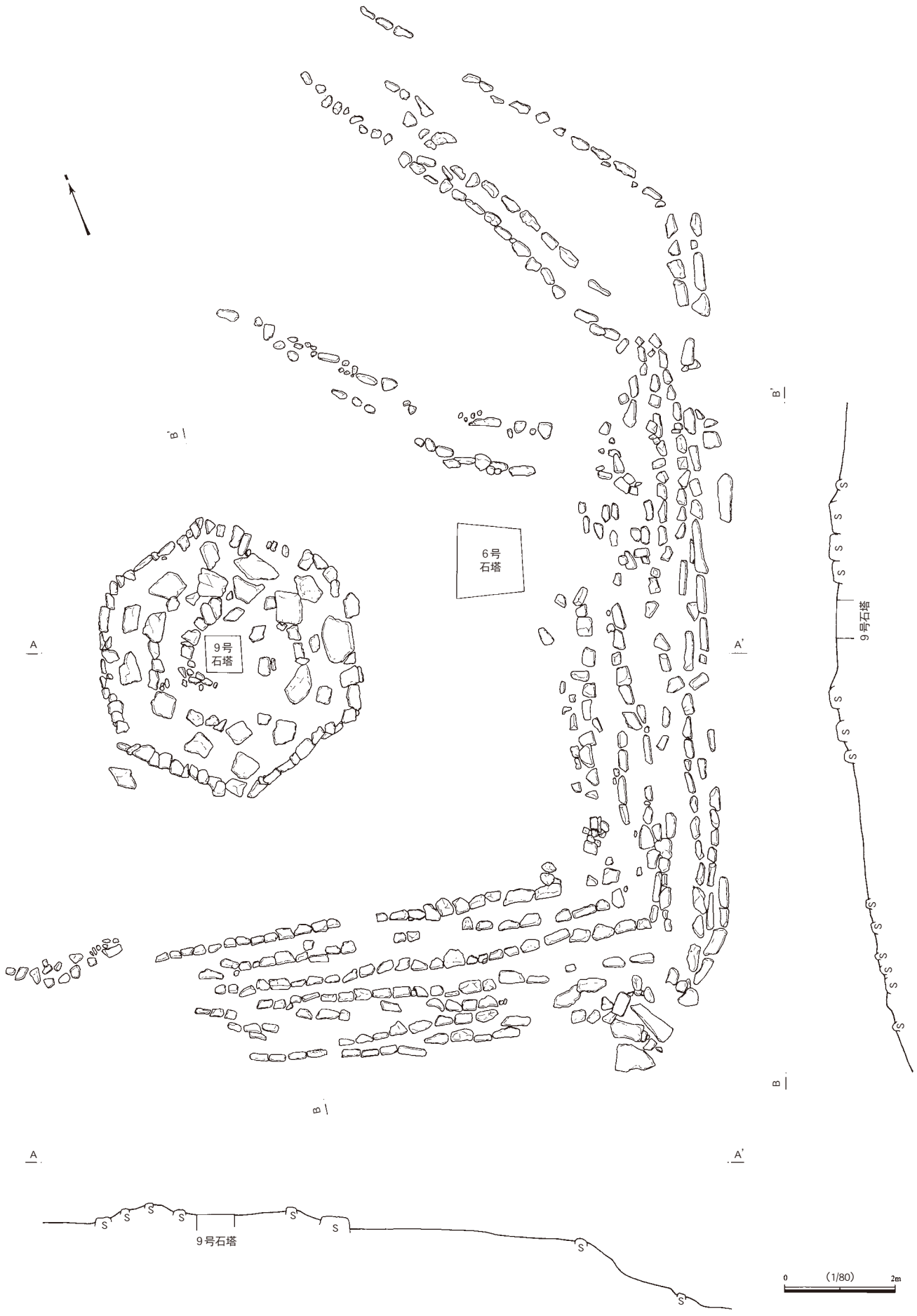
第８０図　楽音寺本堂跡平面図

中世石塔群
（1～5号石塔）
9号
石塔
六角堂跡
石祠
6号石塔
8号石塔
井戸跡
灯籠基礎
行者堂跡
石段
手水鉢
7号石塔
（1/160）
0
8m

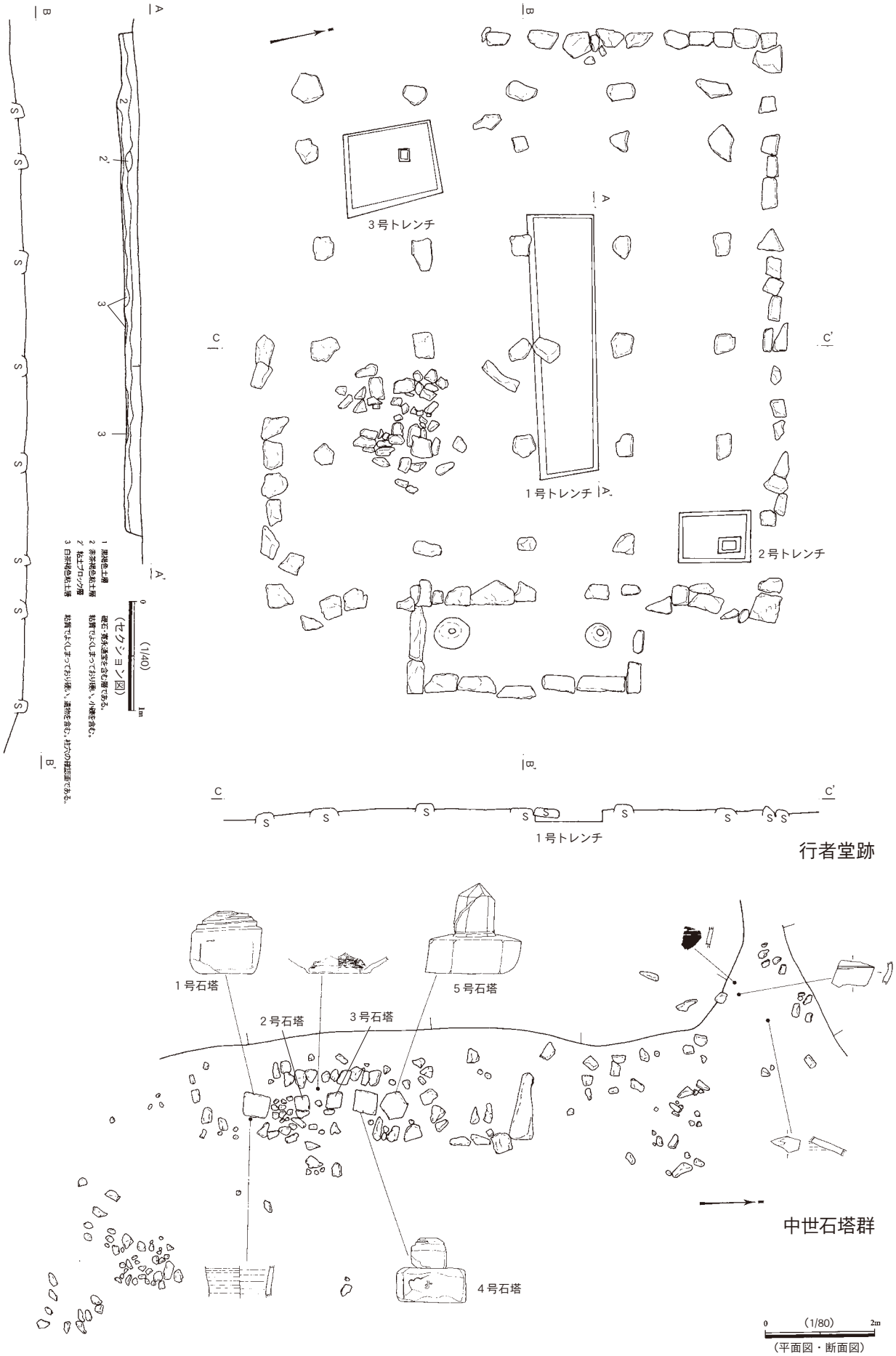
第81図　円楽寺全体図



第８２図　円楽寺坊寺トレンチ平面図

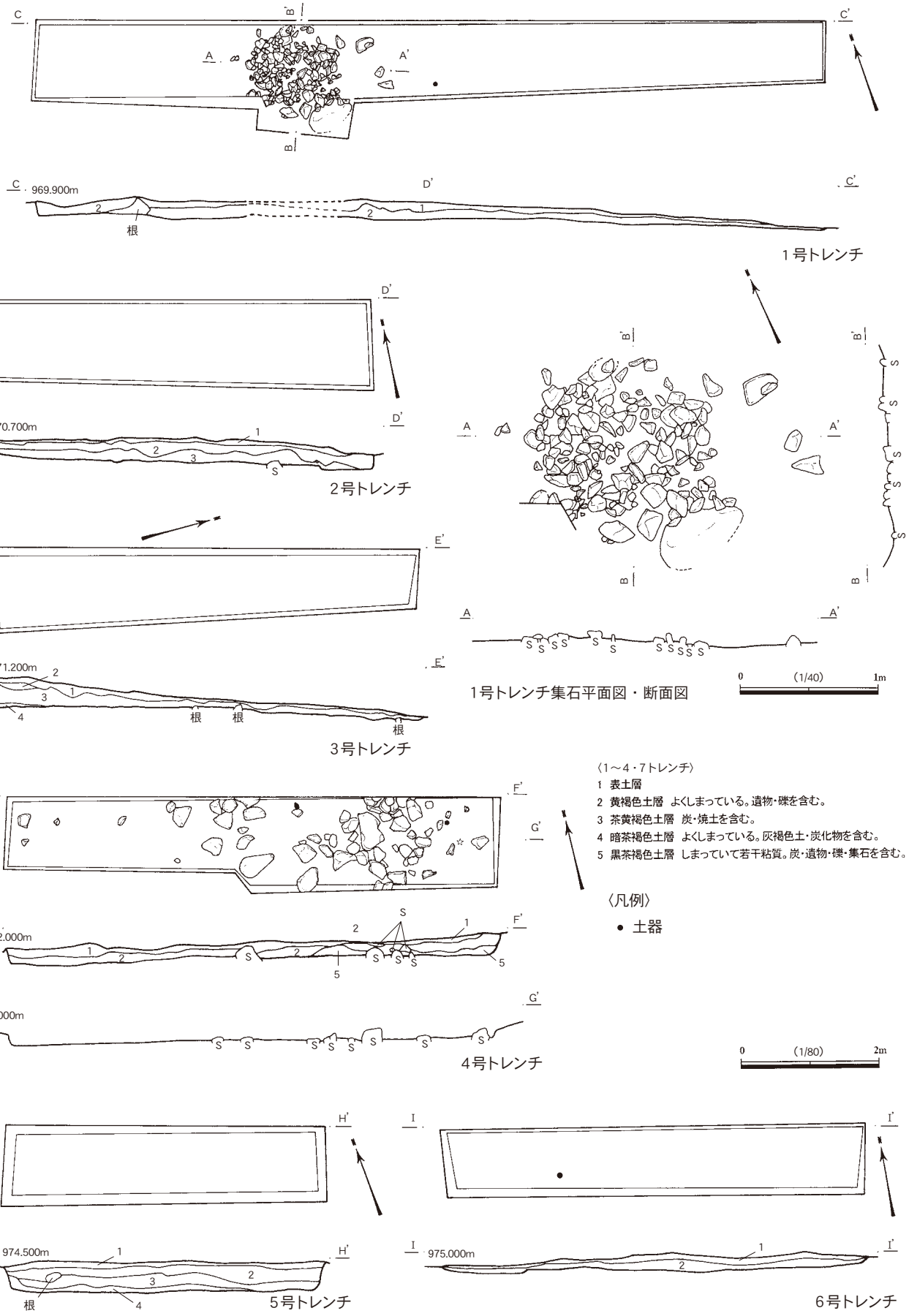


第８３図　六角堂跡平面図・断面図

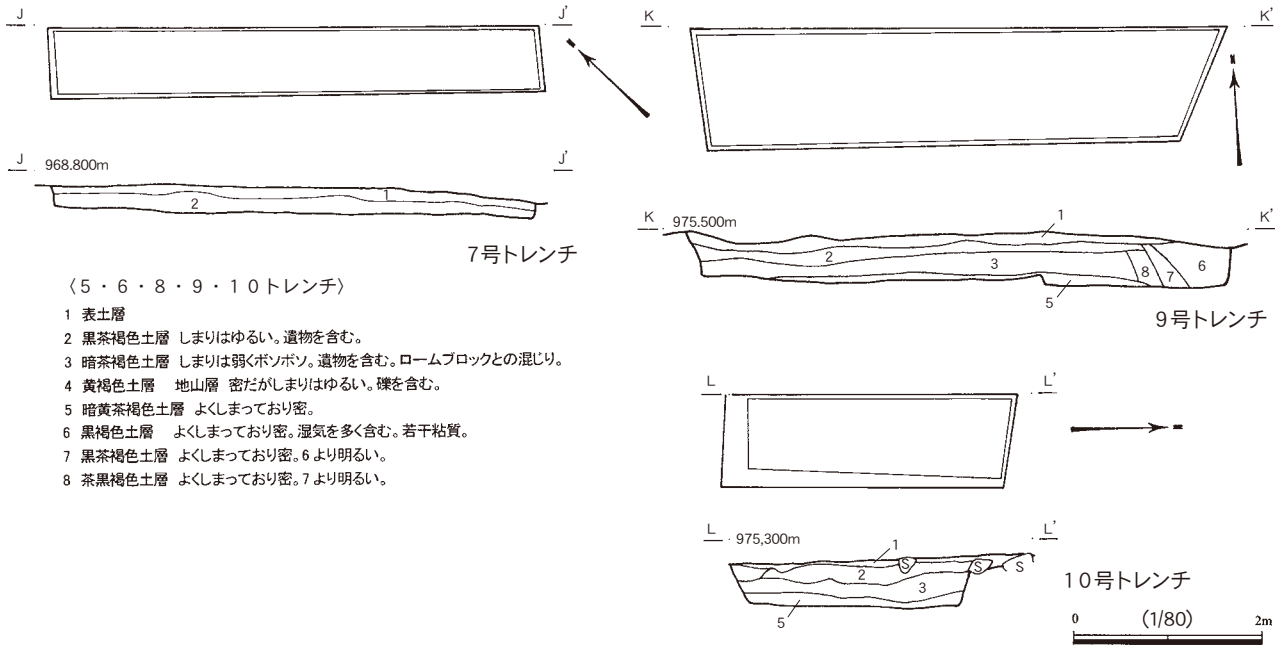


第８４図　行者堂跡平面図・断面図・中世石塔群平面図

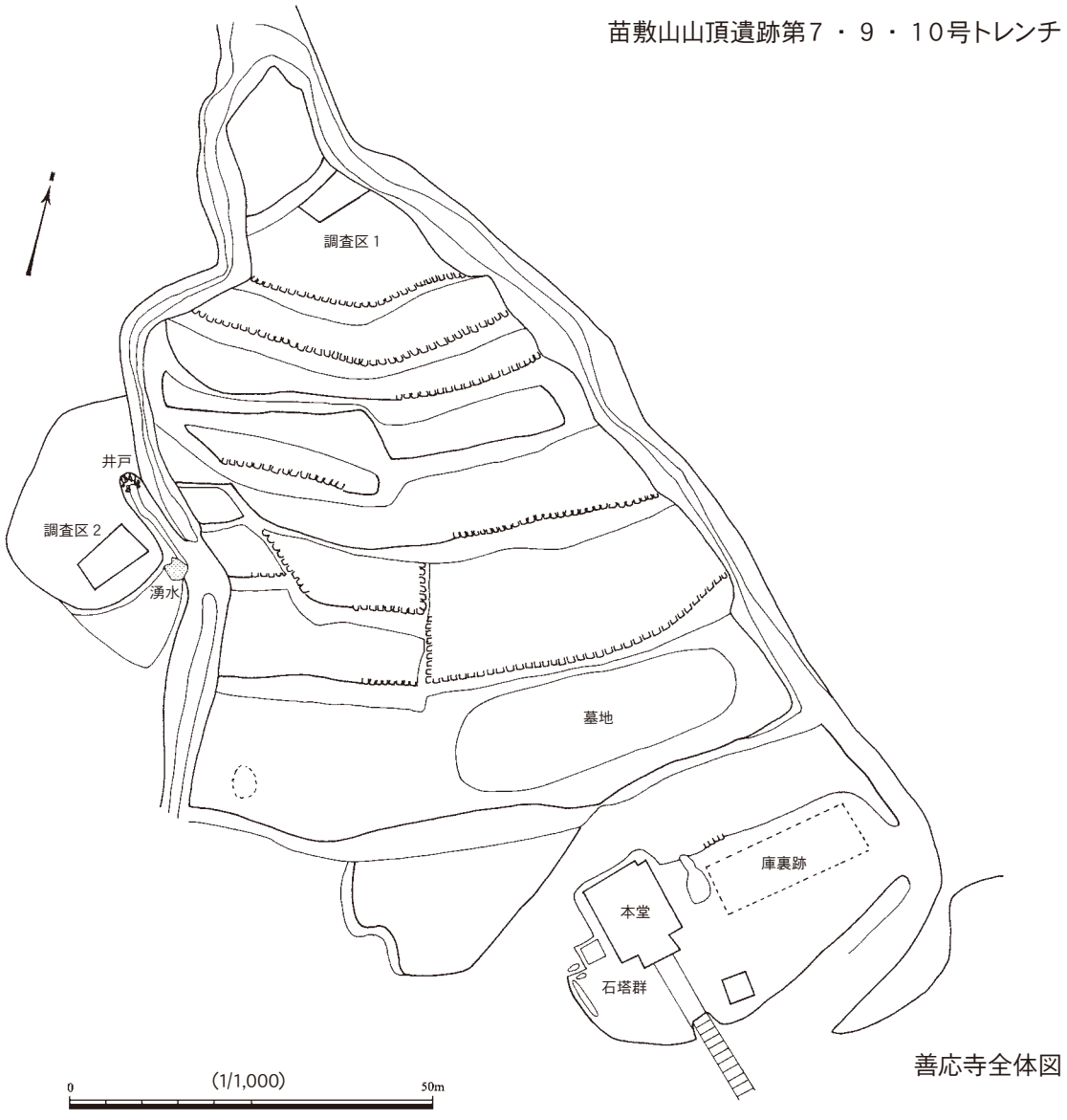
第85図　苗敷山山頂遺跡南西地点　全体図・断面図



第８６図　苗敷山山頂遺跡　トレンチ平面図・断面図（1）

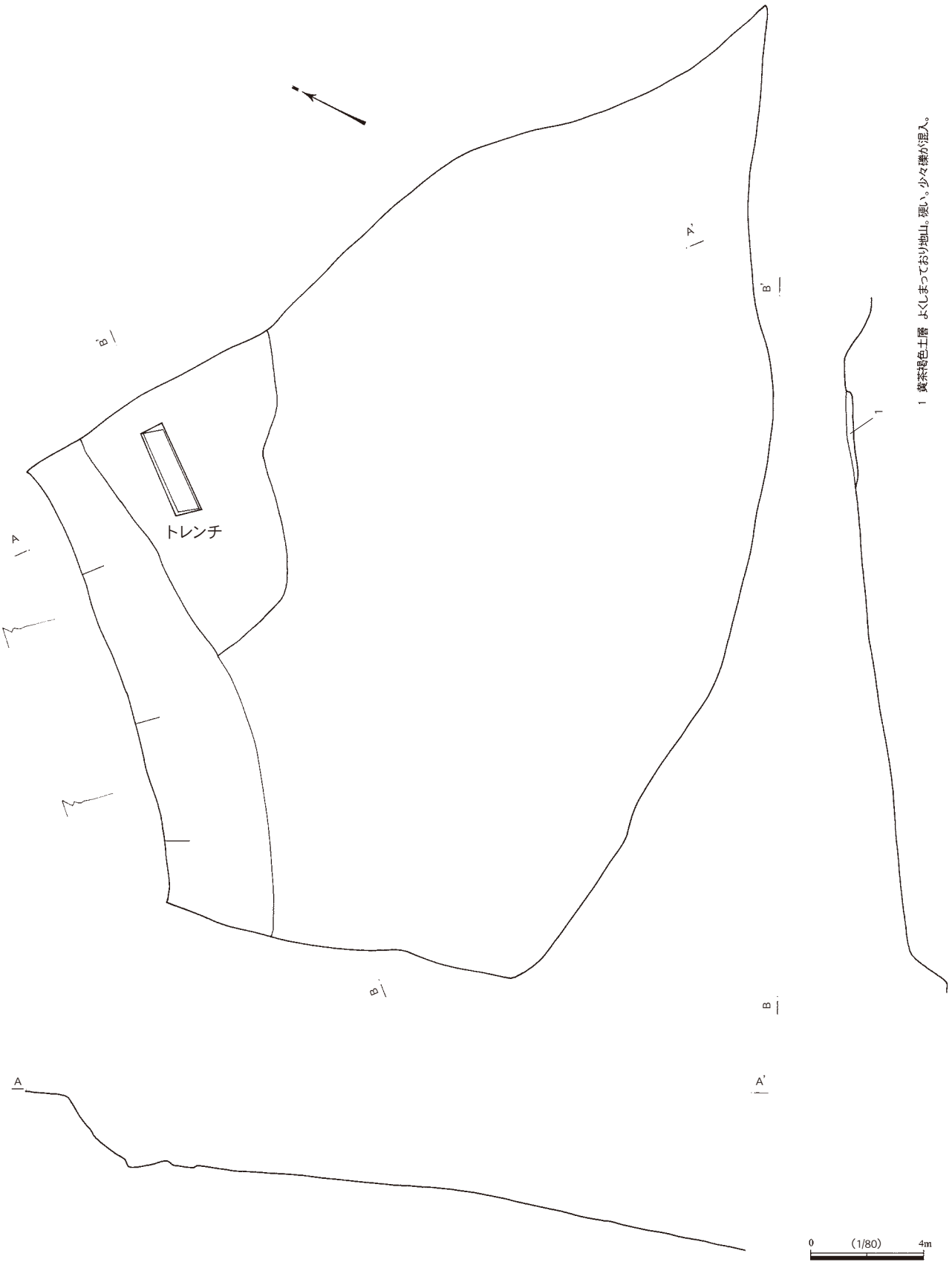


苗敷山山頂遺跡第7・9・10号トレンチ

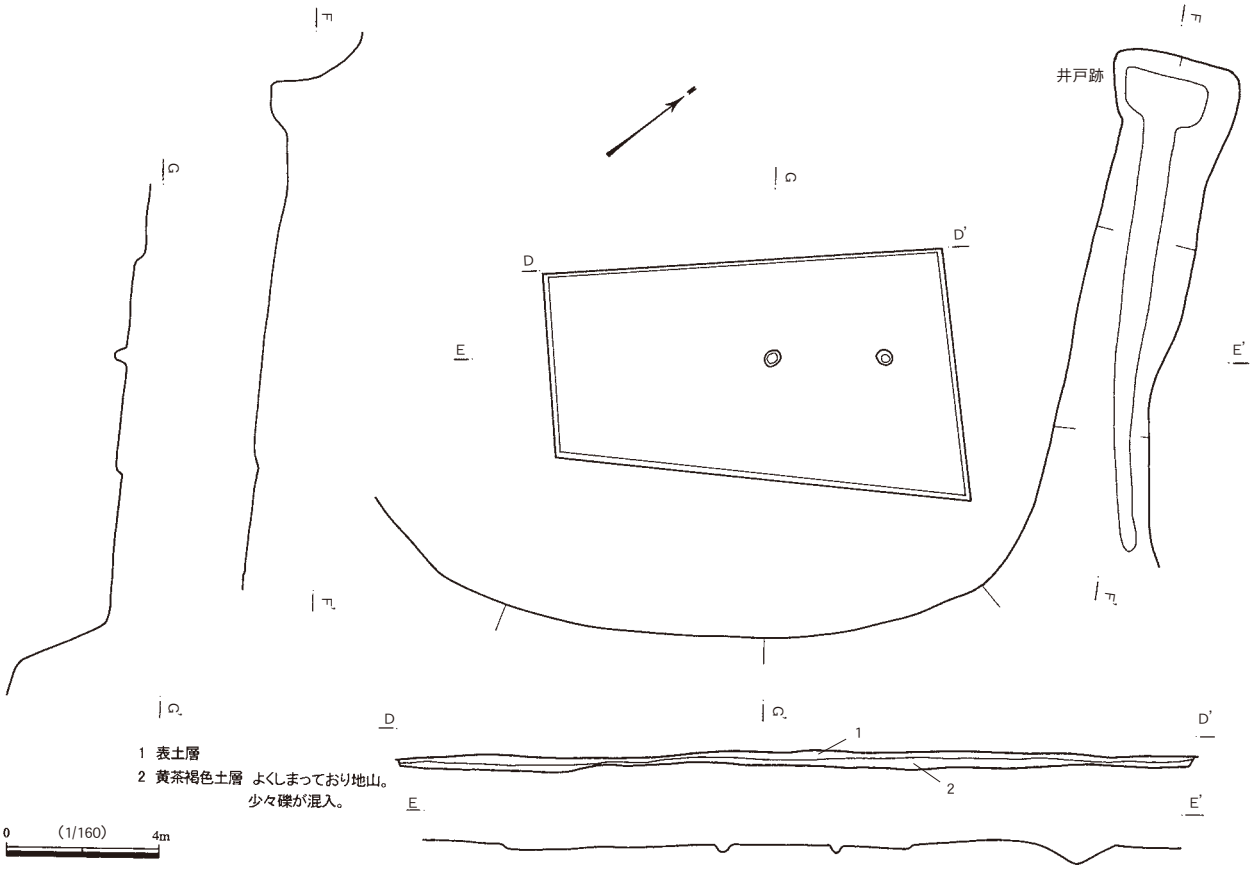


善応寺全体図

第87図　苗敷山山頂遺跡トレンチ平面図・断面図（2）・善応寺



第８８図　善応寺調査区1平面図・断面図



調査区２　実測図

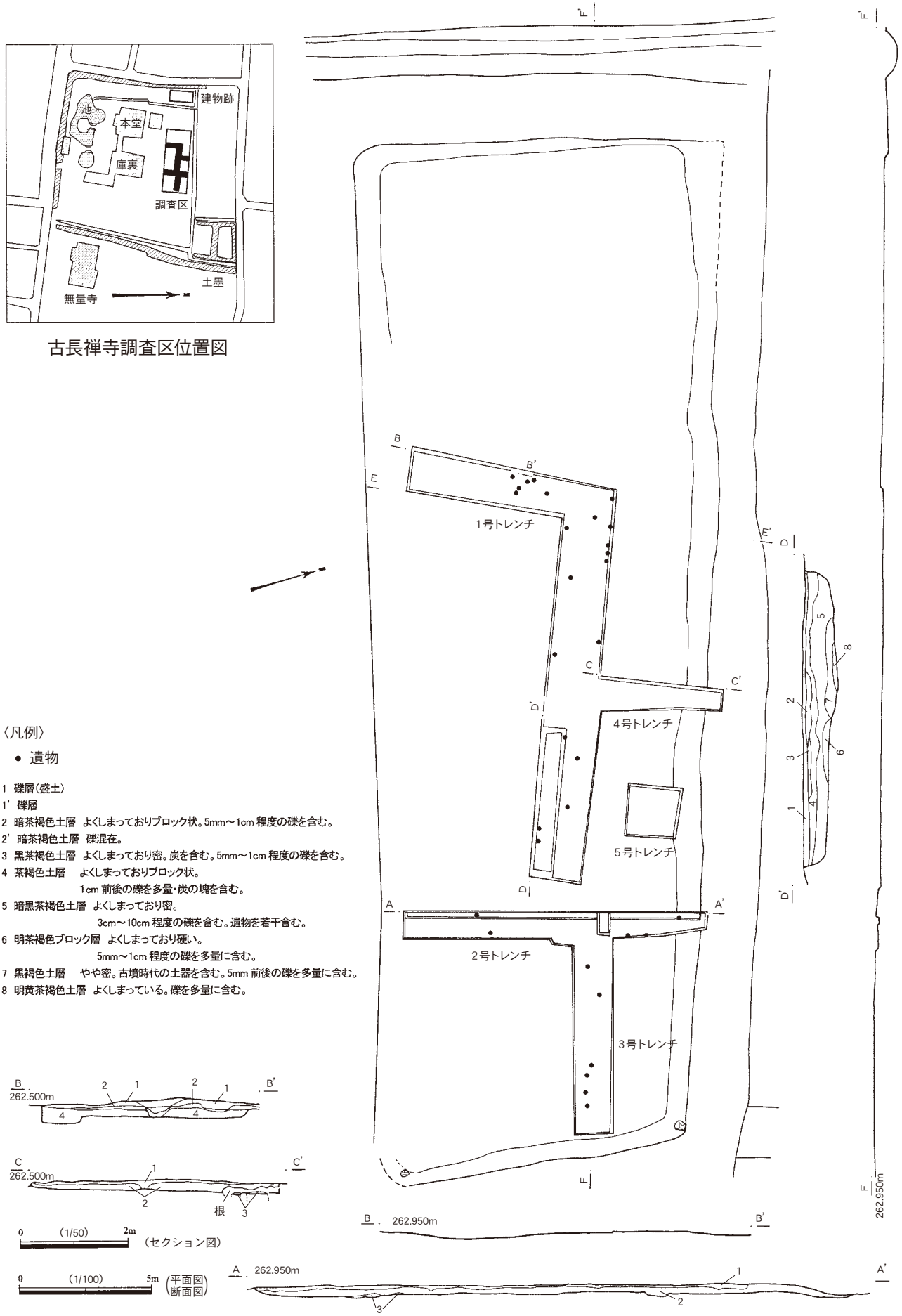
第８９図　善応寺調査区２・湧水地点平面図・断面図

古長禅寺調査区位置図

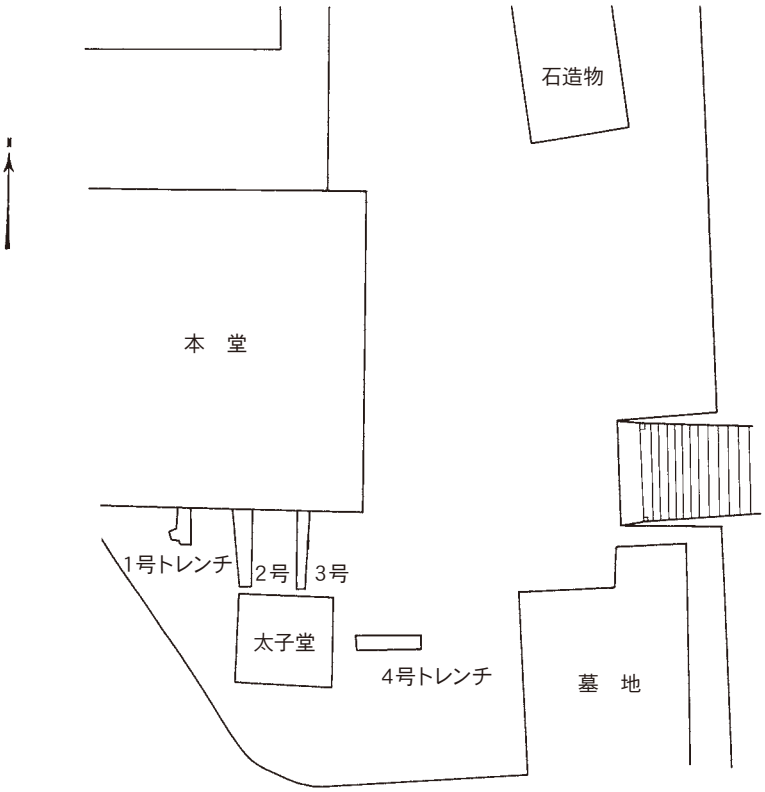
〈凡例〉

- 遺物

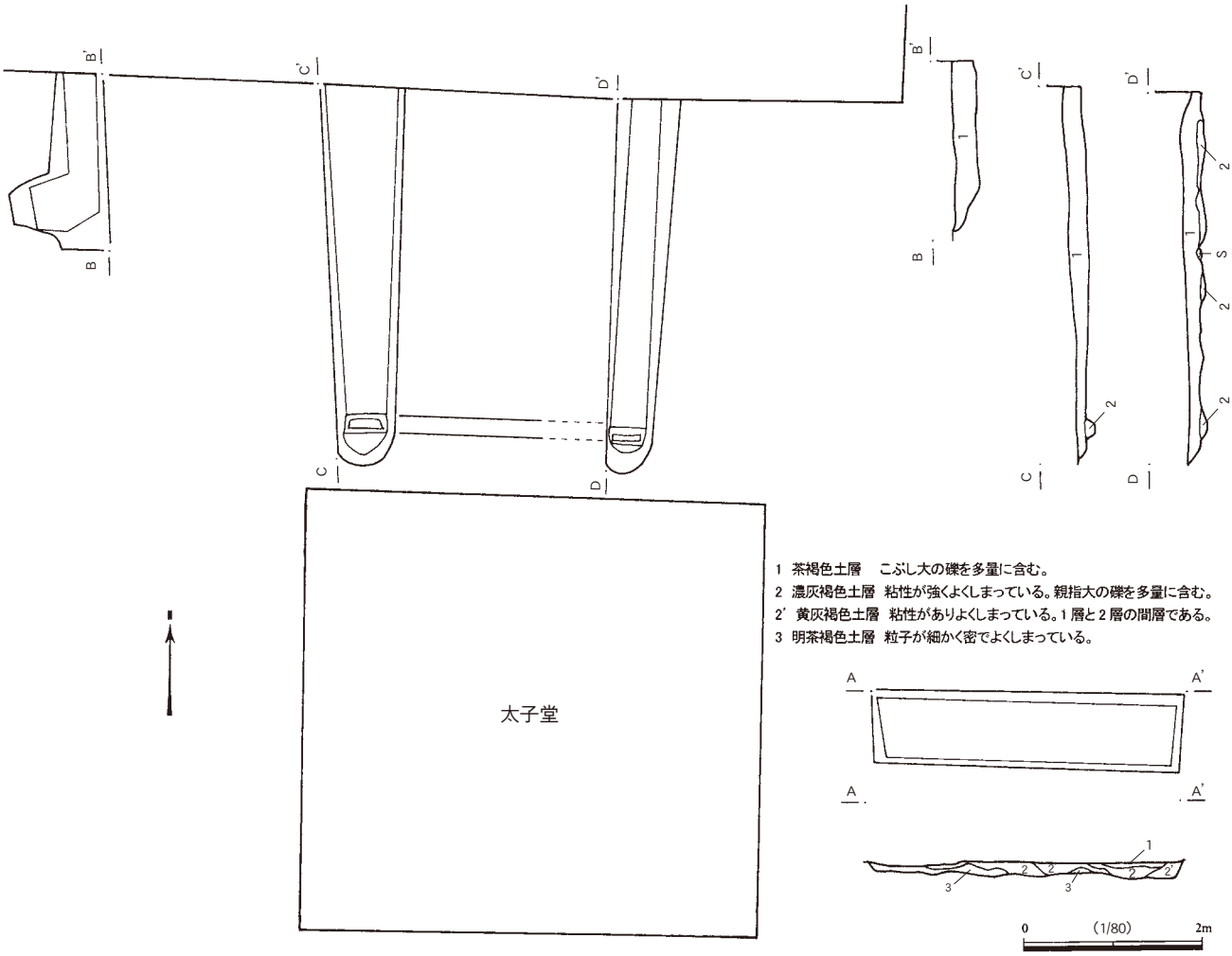
1 礫層(盛土)
1' 礫層
2 暗茶褐色土層 よくしまっておりブロック状。5mm～1cm 程度の礫を含む。
2' 暗茶褐色土層 礫混在。
3 黒茶褐色土層 よくしまっており密。炭を含む。5mm～1cm 程度の礫を含む。
4 茶褐色土層 よくしまっておりブロック状。
1cm 前後の礫を多量・炭の塊を含む。
5 暗黒茶褐色土層 よくしまっており密。
3cm～10cm 程度の礫を含む。遺物を若干含む。
6 明茶褐色ブロック層 よくしまっており硬い。
5mm～1cm 程度の礫を多量に含む。
7 黒褐色土層 やや密。古墳時代の土器を含む。5mm 前後の礫を多量に含む。
8 明黄茶褐色土層 よくしまっている。礫を多量に含む。



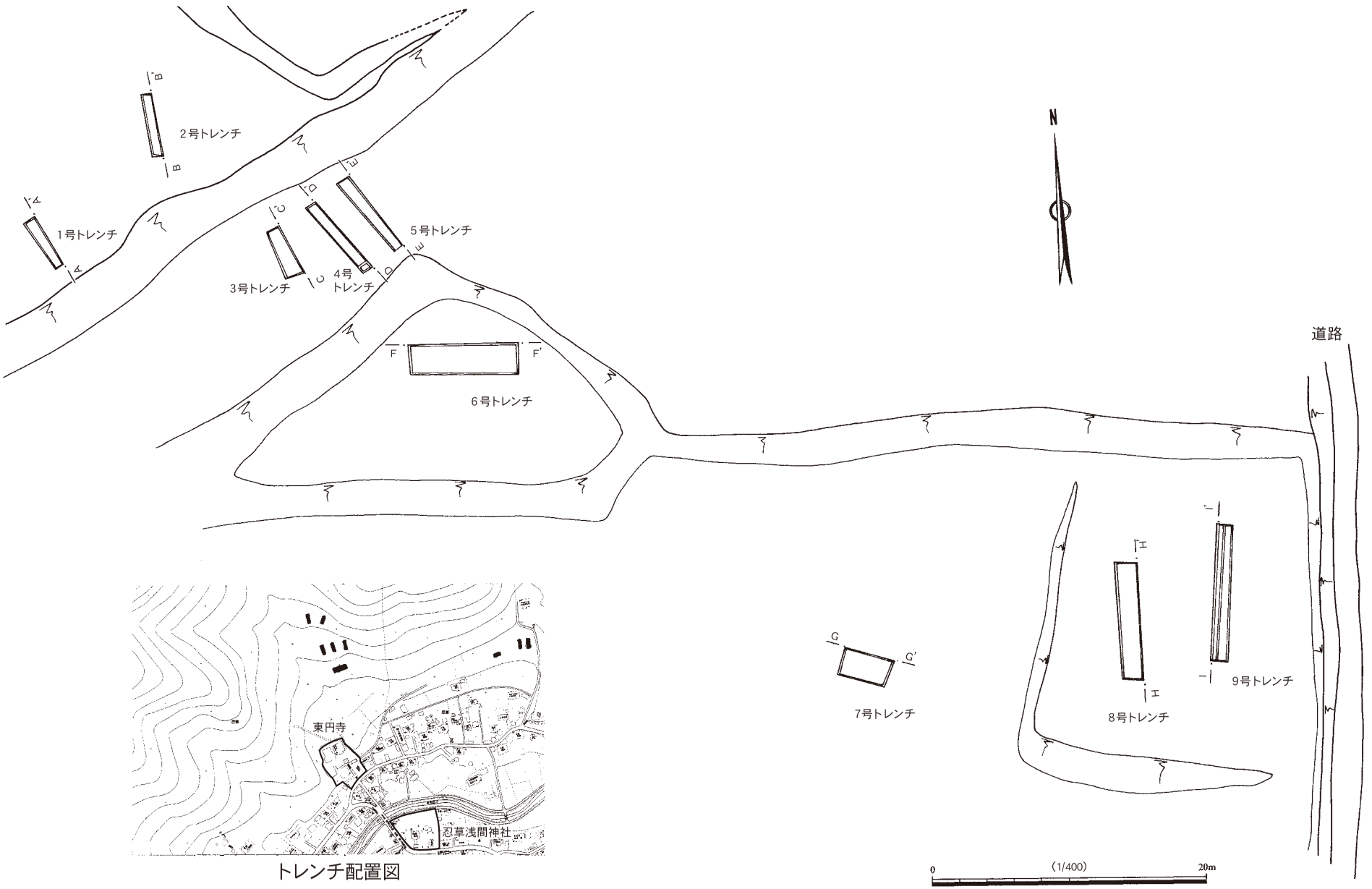
第９０図　古長禅寺建物跡平面図・断面図



浄光寺全体図

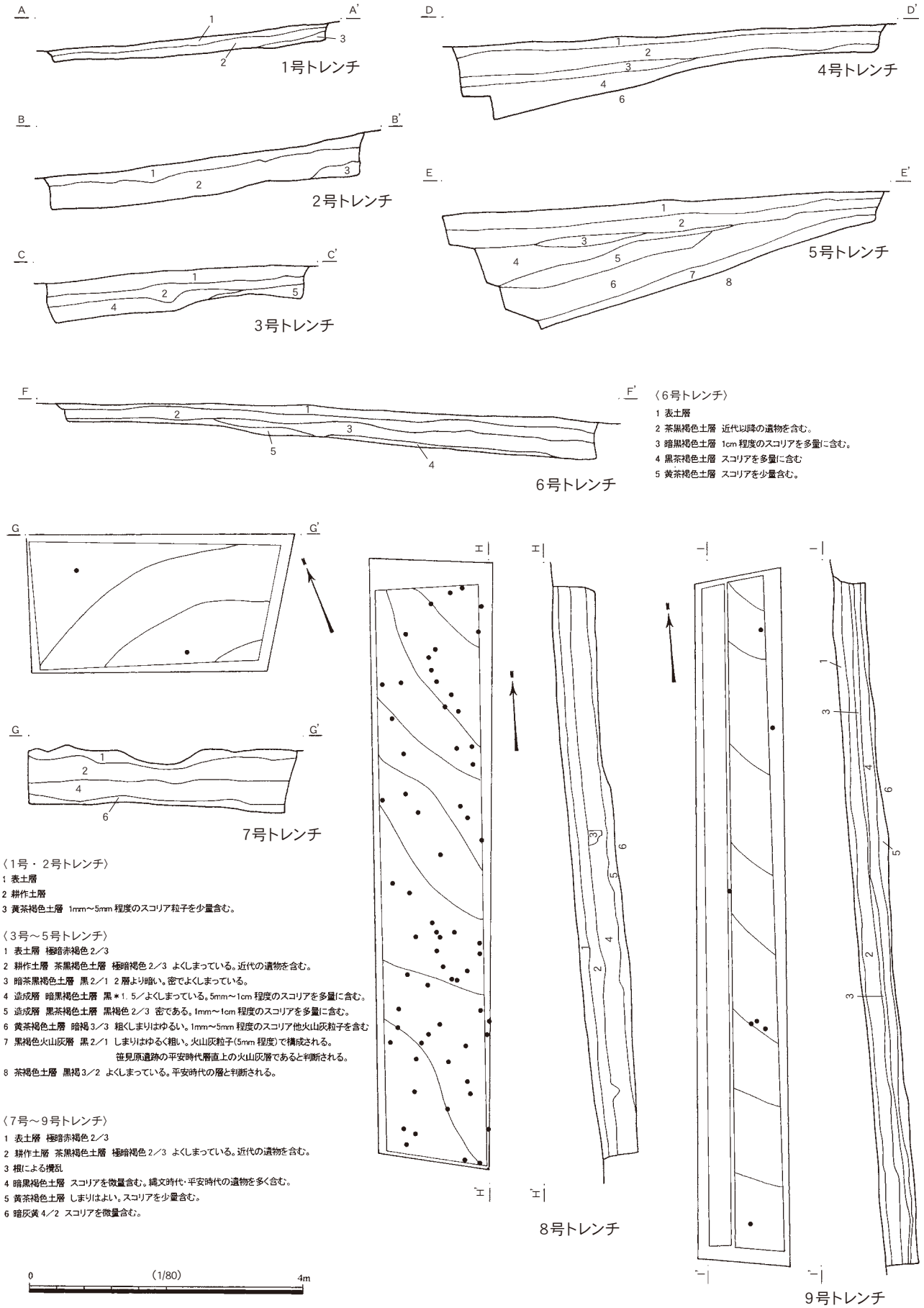


第91図　浄光寺全体図・トレンチ配置図



トレンチ配置図

第９２図　東円寺前地（中尾根遺跡）全体図



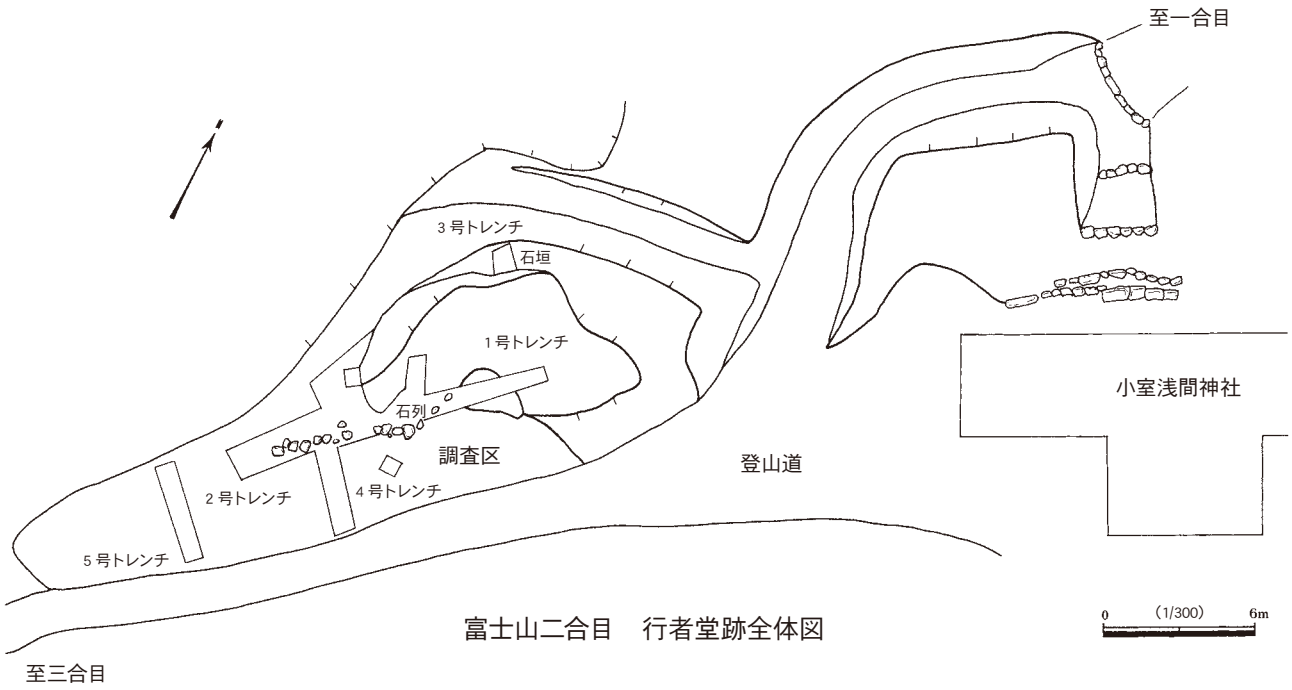
〈6号トレンチ〉
1 表土層
2 茶黒褐色土層 近代以降の遺物を含む。
3 暗黒褐色土層 1cm 程度のスコリアを多量に含む。
4 黒茶褐色土層 スコリアを多量に含む
5 黄茶褐色土層 スコリアを少量含む。

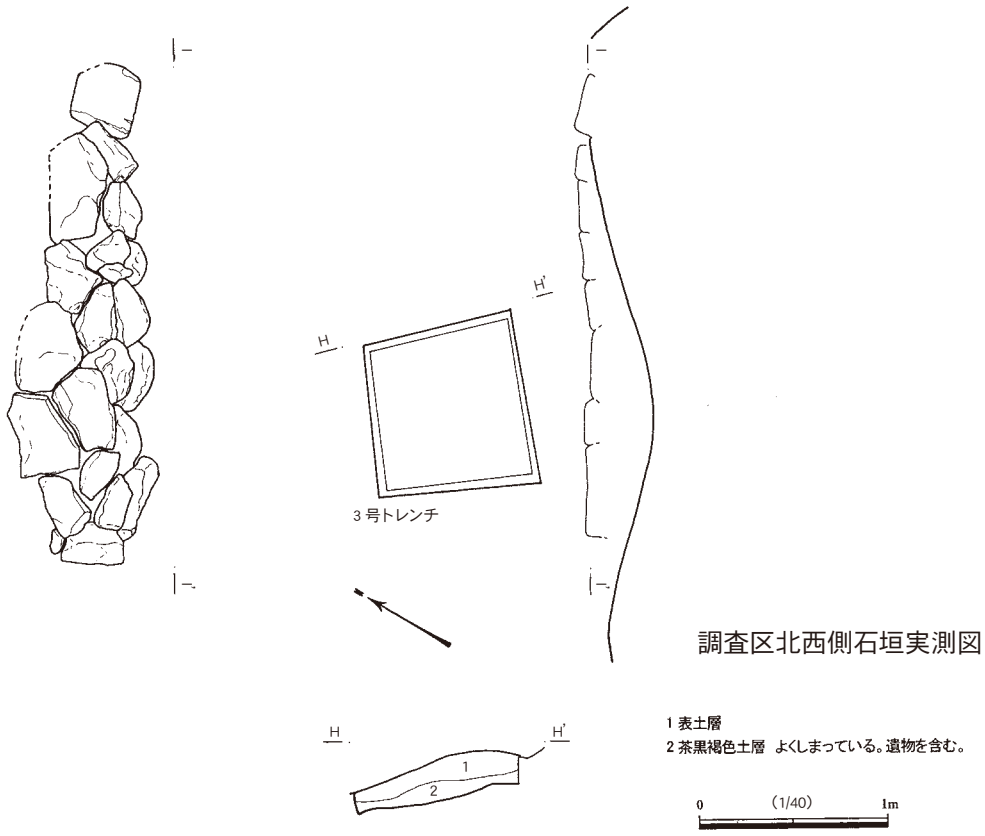
〈1号・2号トレンチ〉
1 表土層
2 耕作土層
3 黄茶褐色土層 1mm～5mm 程度のスコリア粒子を少量含む。

〈3号～5号トレンチ〉
1 表土層 極暗赤褐色 2／3
2 耕作土層 茶黒褐色土層 極暗褐色 2／3 よくしまっている。近代の遺物を含む。
3 暗茶黒褐色土層 黒 2／1 2 層より暗い。密でよくしまっている。
4 造成層 暗黒褐色土層 黒＊1．5／よくしまっている。5mm～1cm 程度のスコリアを多量に含む。
5 造成層 黒茶褐色土層 黒褐色 2／3 密である。1mm～1cm 程度のスコリアを多量に含む。
6 黄茶褐色土層 暗褐 3／3 粗くしまりはゆるい。1mm～5mm 程度のスコリア他火山灰粒子を含む
7 黒褐色火山灰層 黒 2／1 しまりはゆるく粗い。火山灰粒子(5mm 程度)で構成される。
笹見原遺跡の平安時代層直上の火山灰層であると判断される。
8 茶褐色土層 黒褐 3／2 よくしまっている。平安時代の層と判断される。

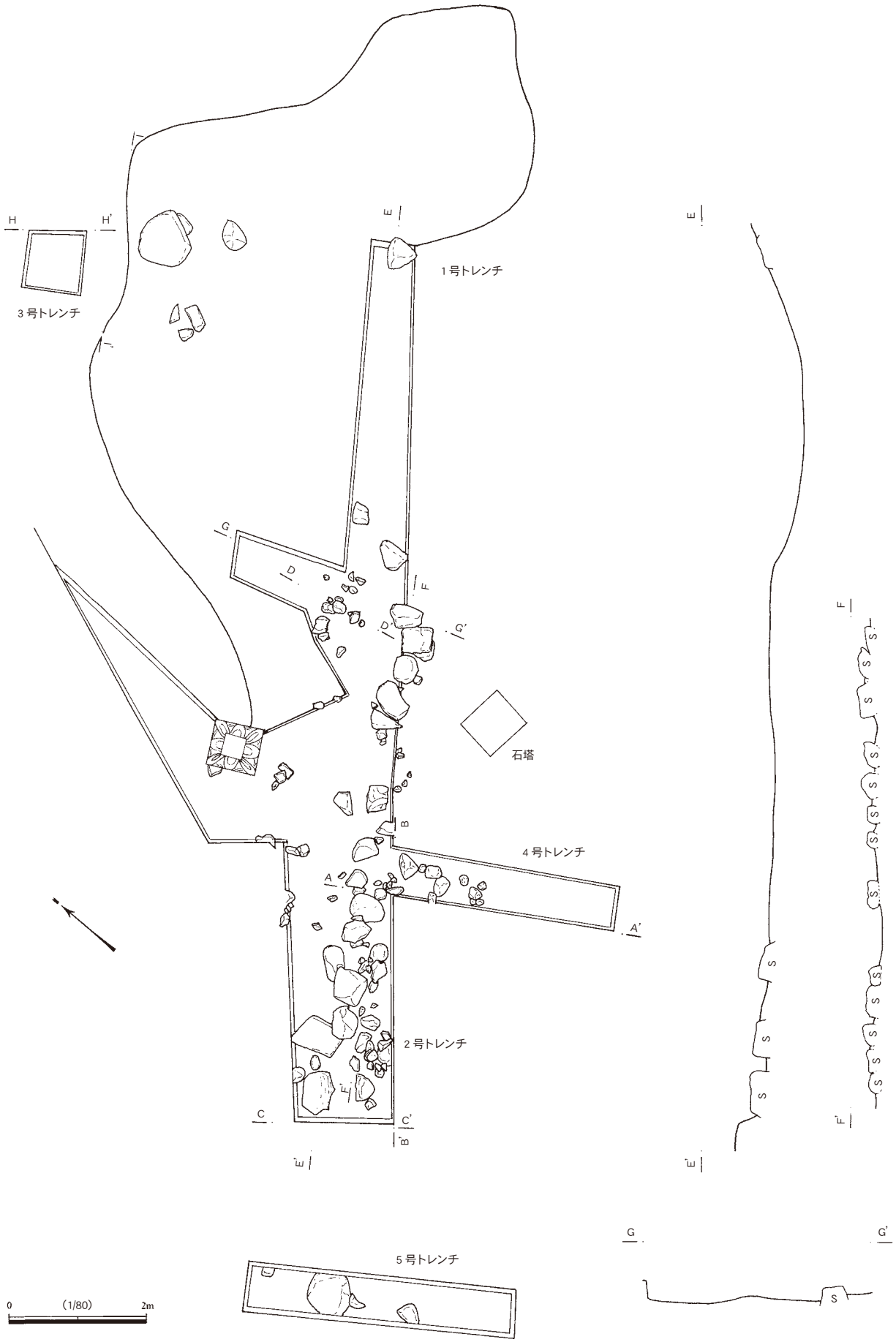
〈7号～9号トレンチ〉
1 表土層 極暗赤褐色 2／3
2 耕作土層 茶黒褐色土層 極暗褐色 2／3 よくしまっている。近代の遺物を含む。
3 根による撹乱
4 暗黒褐色土層 スコリアを微量含む。縄文時代・平安時代の遺物を多く含む。
5 黄茶褐色土層 しまりはよい。スコリアを少量含む。
6 暗灰黄 4／2 スコリアを微量含む。

第９３図　東円寺前地（中尾根遺跡）トレンチ平面図・断面図

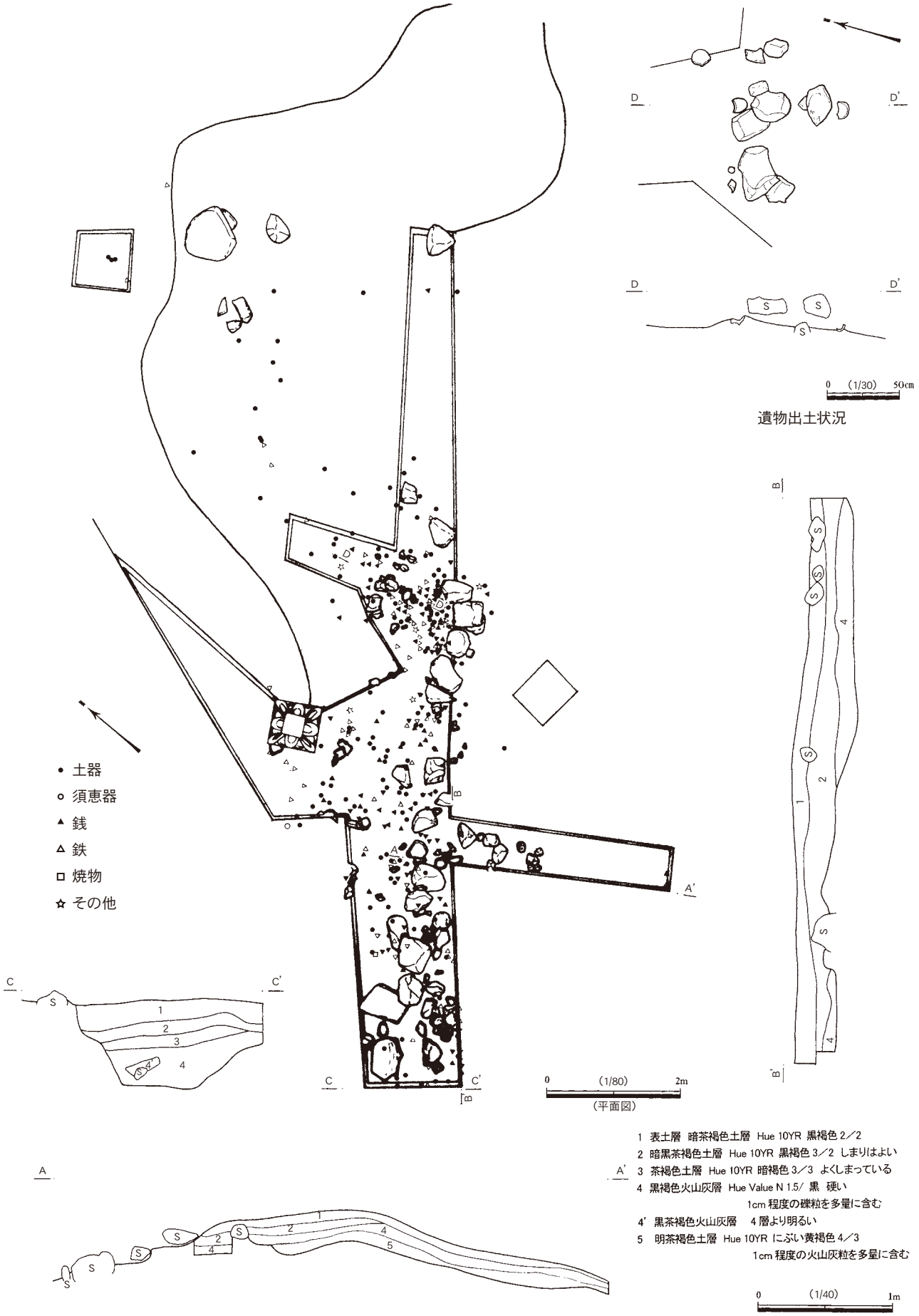




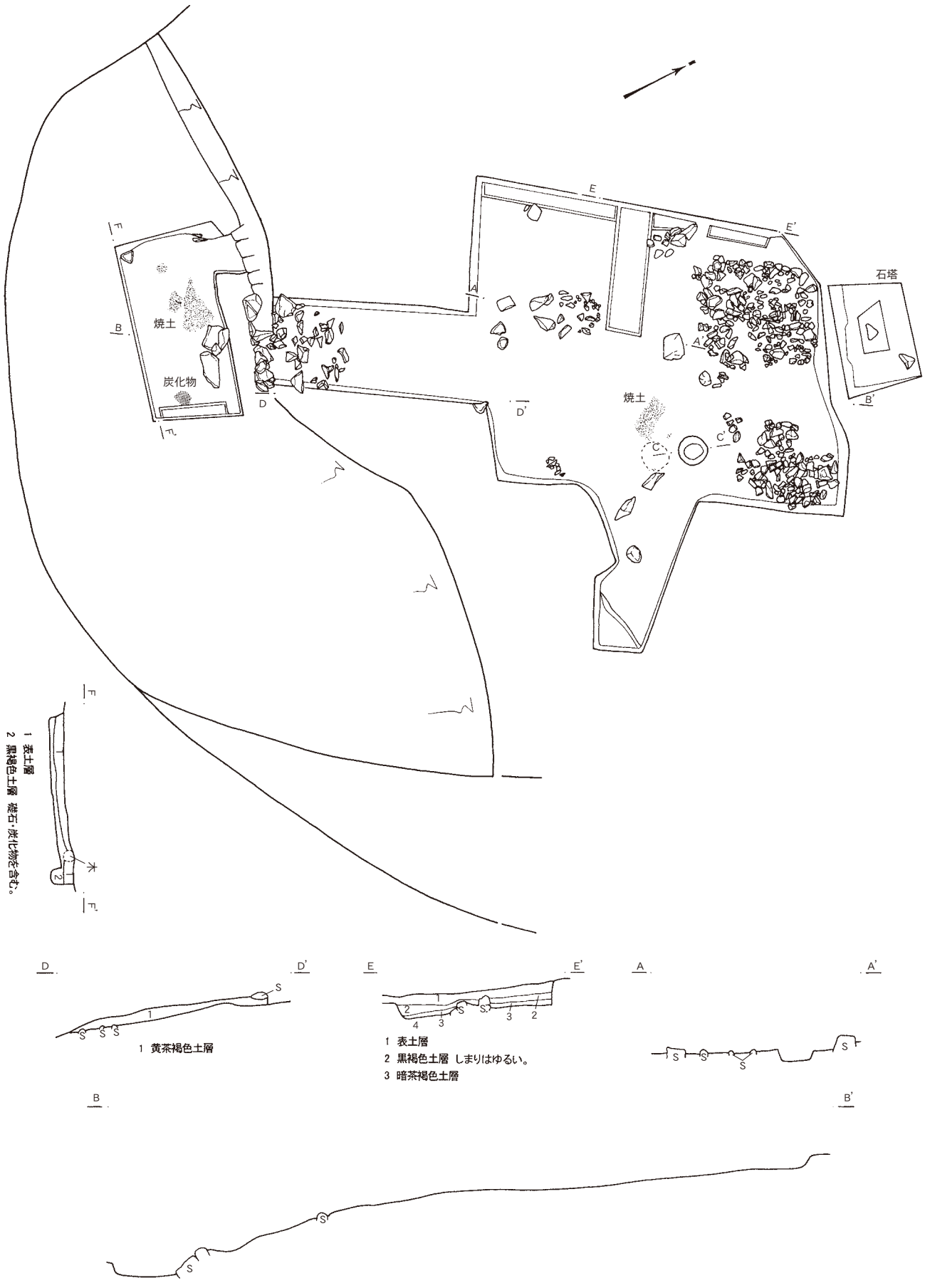
第９４図　富士山二合目　行者堂跡全体図・調査区北西側石垣平面図・断面図



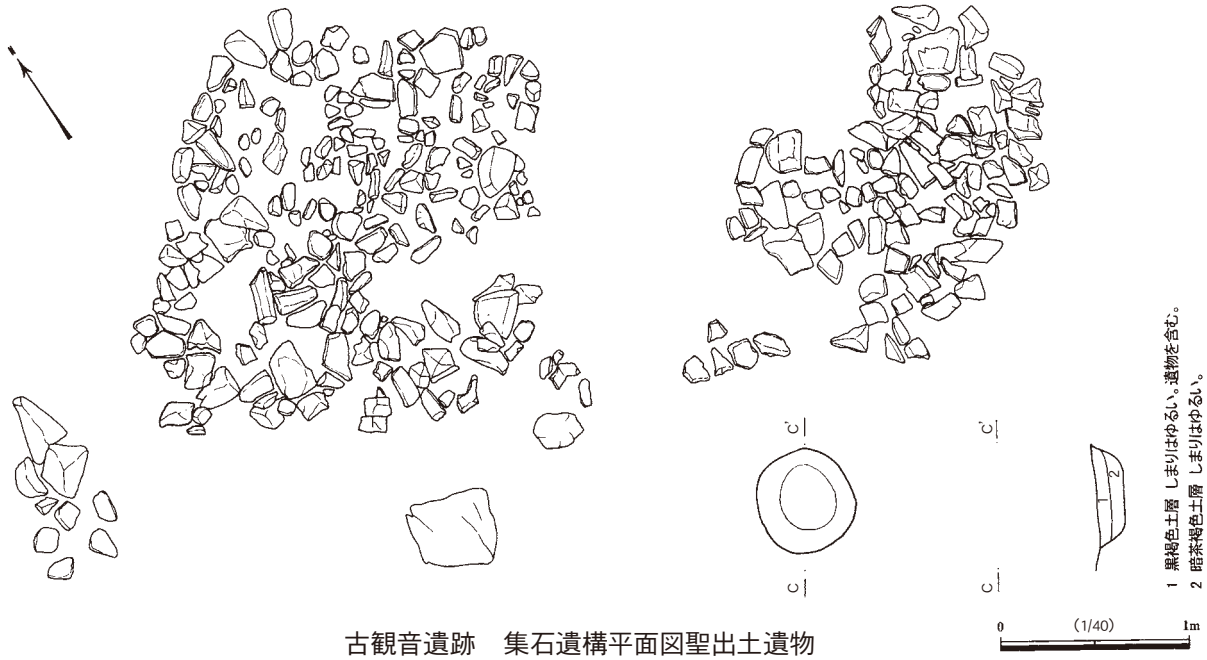
第95図　富士山二合目行者堂石列平面図・断面図



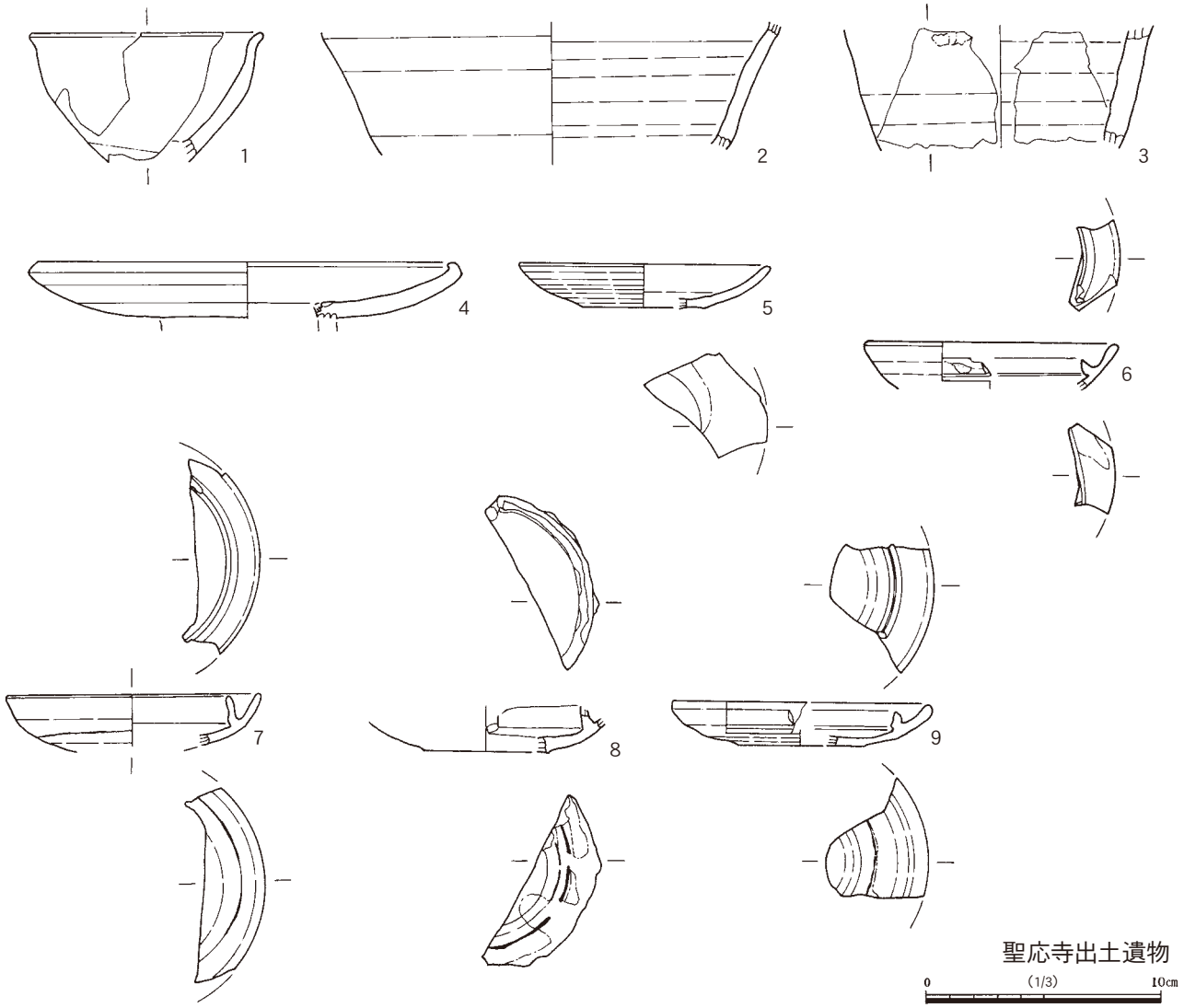
第９６図　富士山二合目行者堂遺跡遺物分布図・セクション図



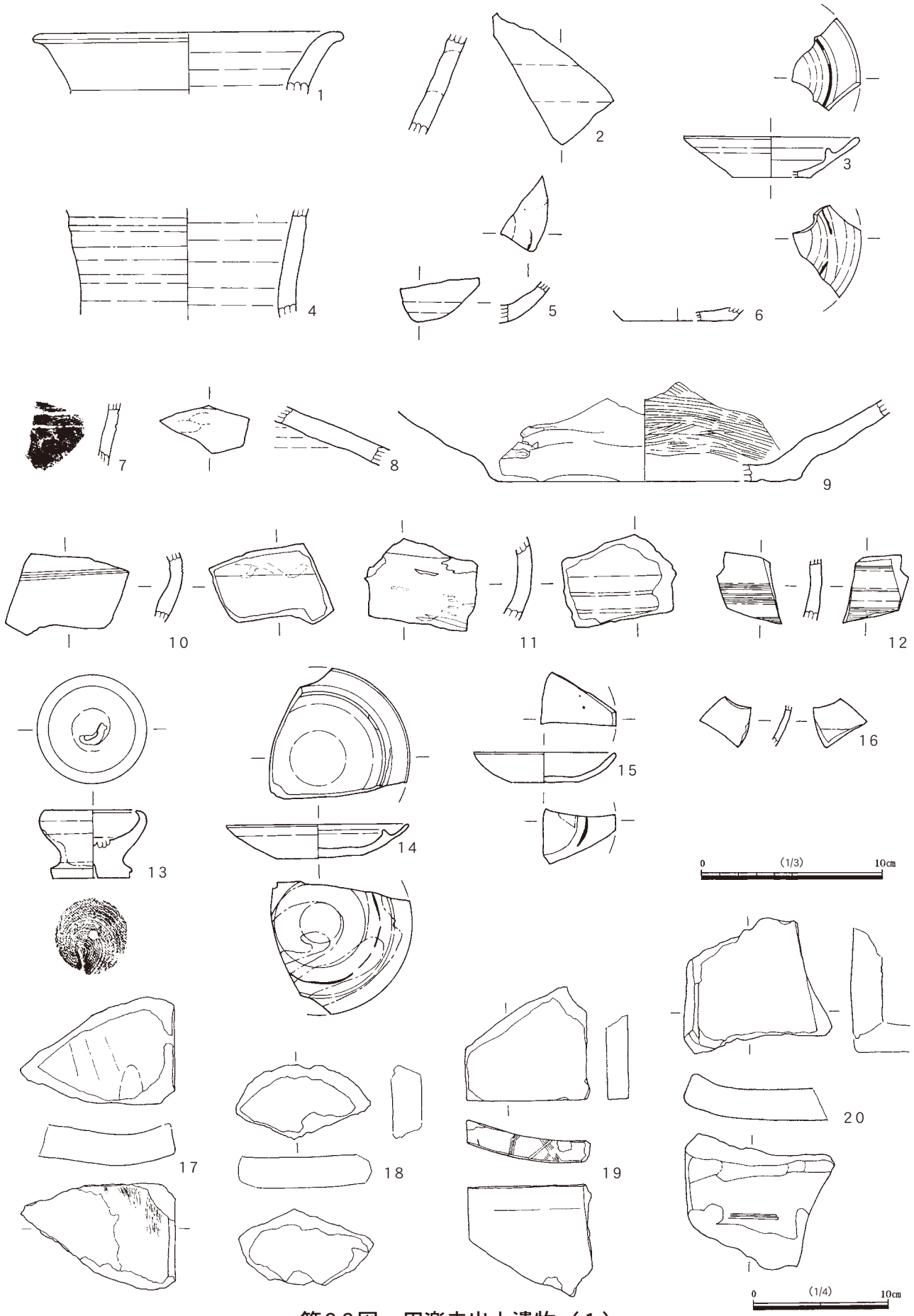
第97図　古観音遺跡全体図



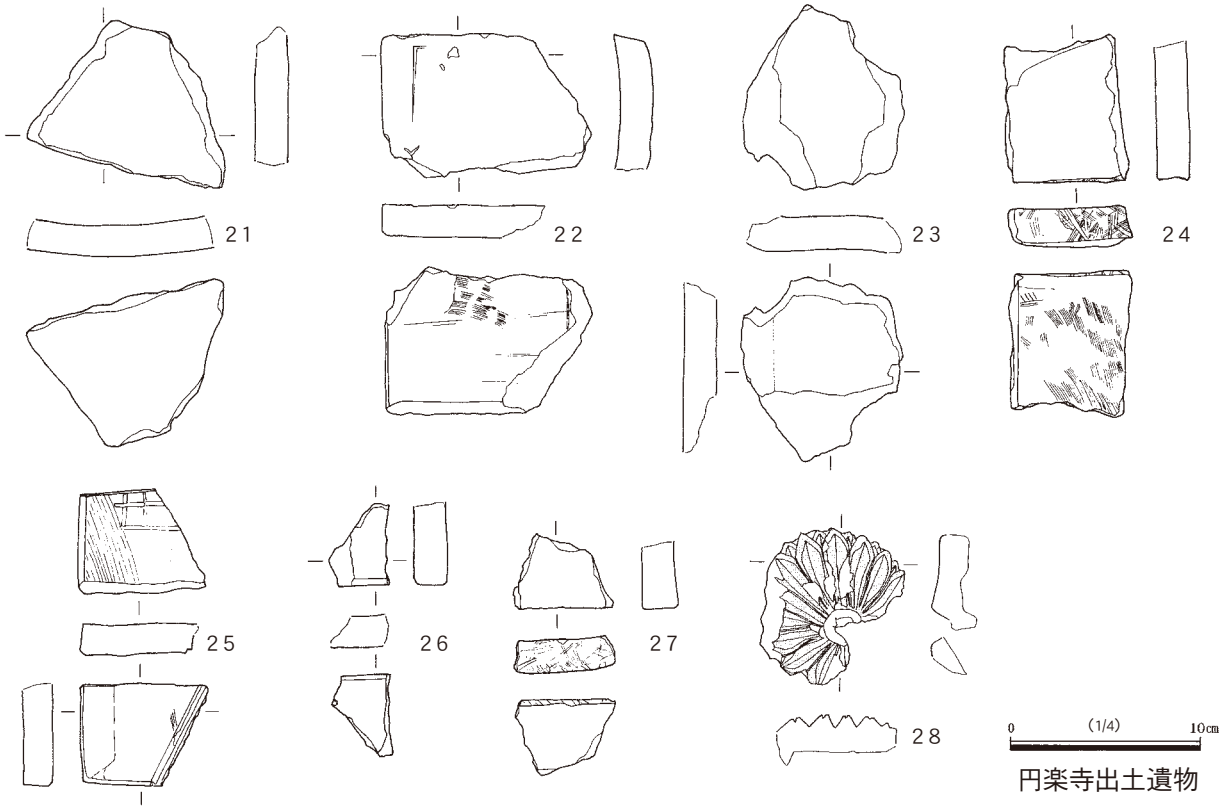
古観音遺跡　集石遺構平面図聖出土遺物



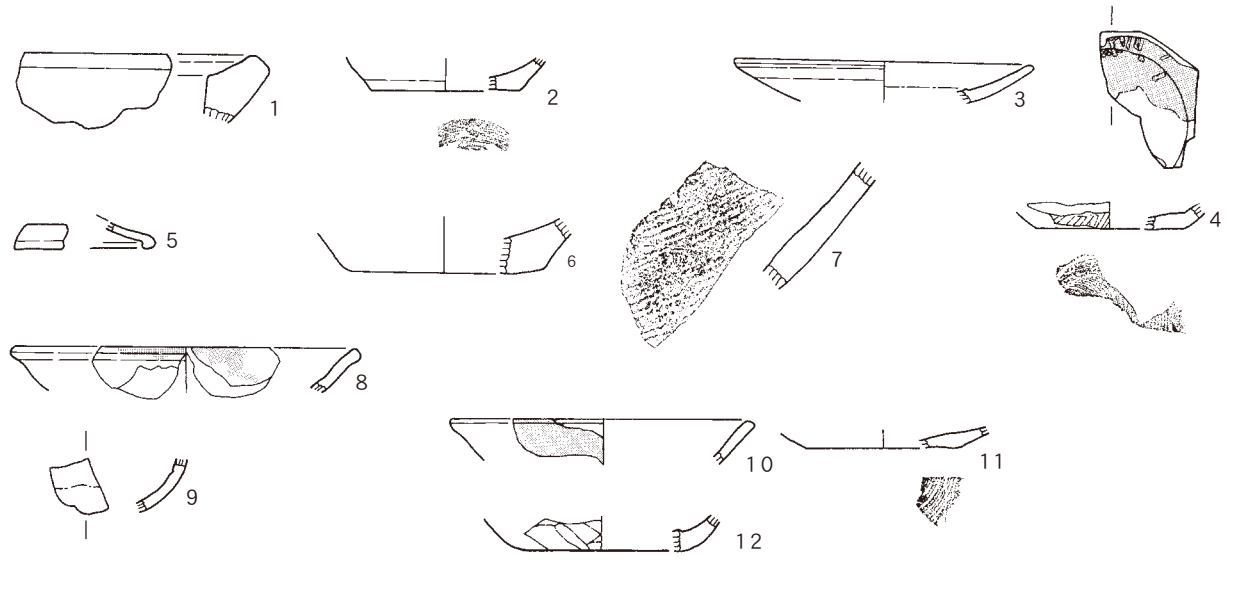
第98図　古観音遺跡集石遺構・聖応寺出土遺物



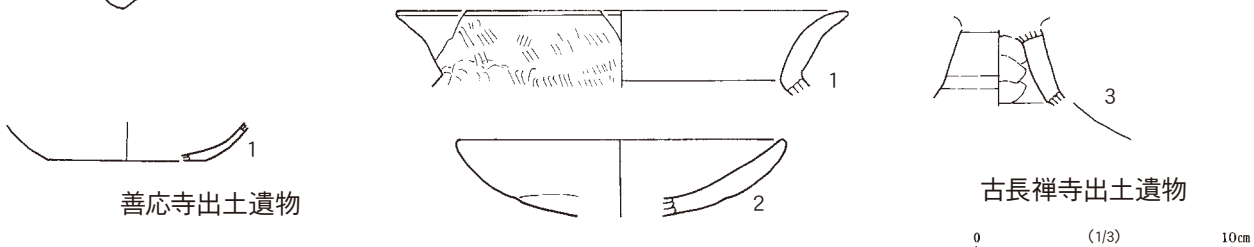
第９９図　円楽寺出土遺物（１）



円楽寺出土遺物



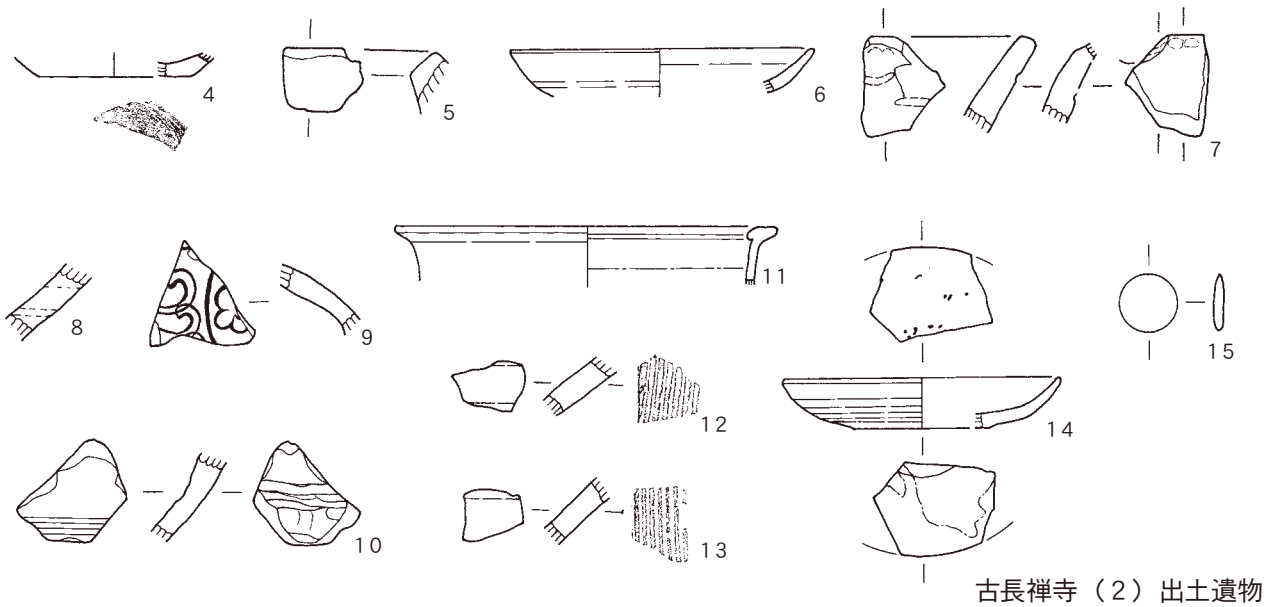
苗敷山山頂遺跡出土遺物



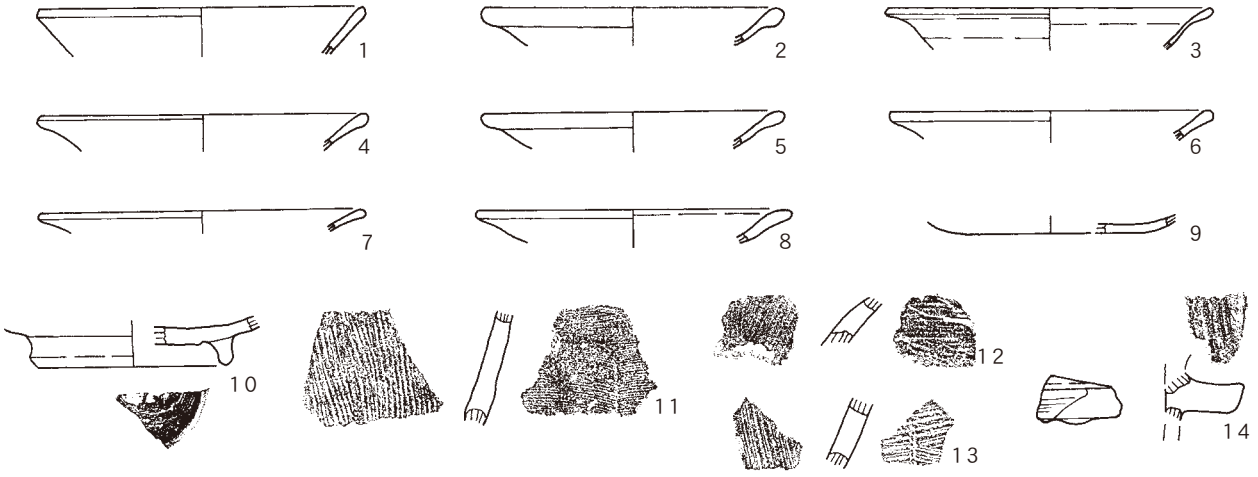
善応寺出土遺物

古長禅寺出土遺物

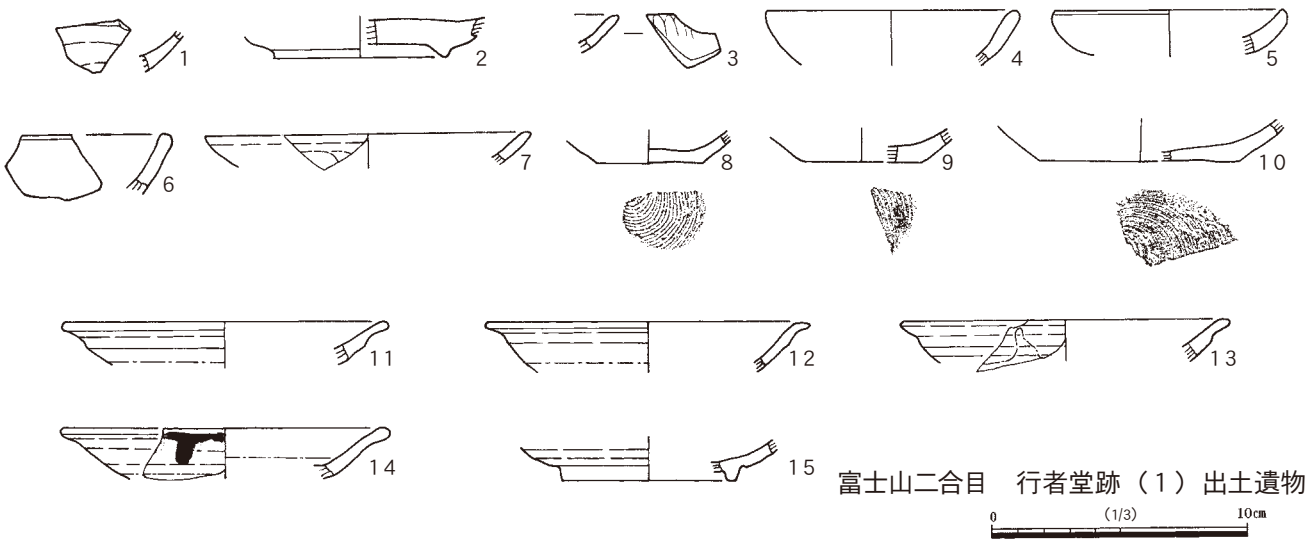
第100図　円楽寺（2）・苗敷山山頂遺跡・善応寺・古長禅寺（1）出土遺跡



古長禅寺（２）出土遺物



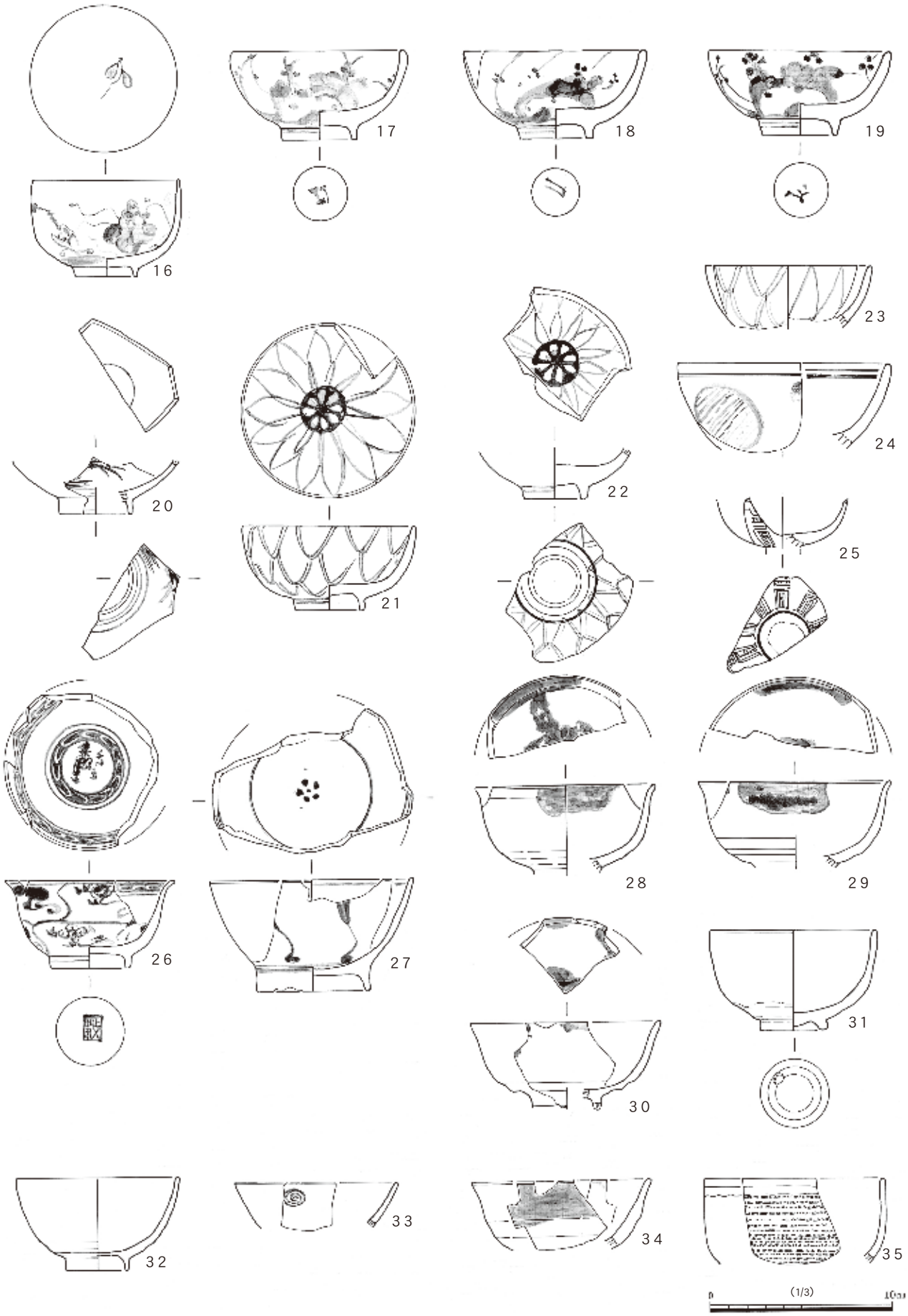
東円寺前地（中尾根遺跡）出土遺物



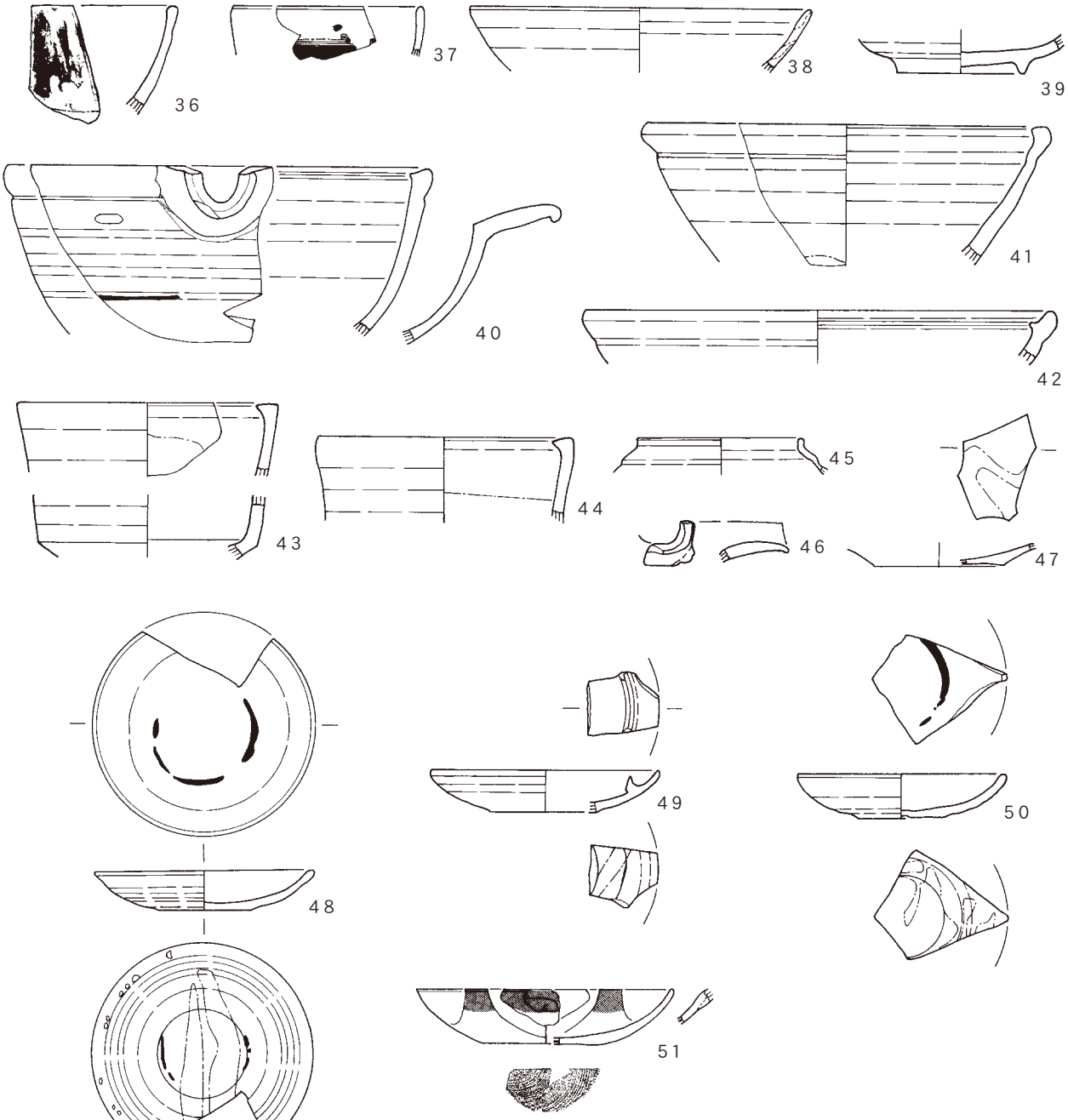
富士山二合目　行者堂跡（１）出土遺物

0 (1/3) 10cm

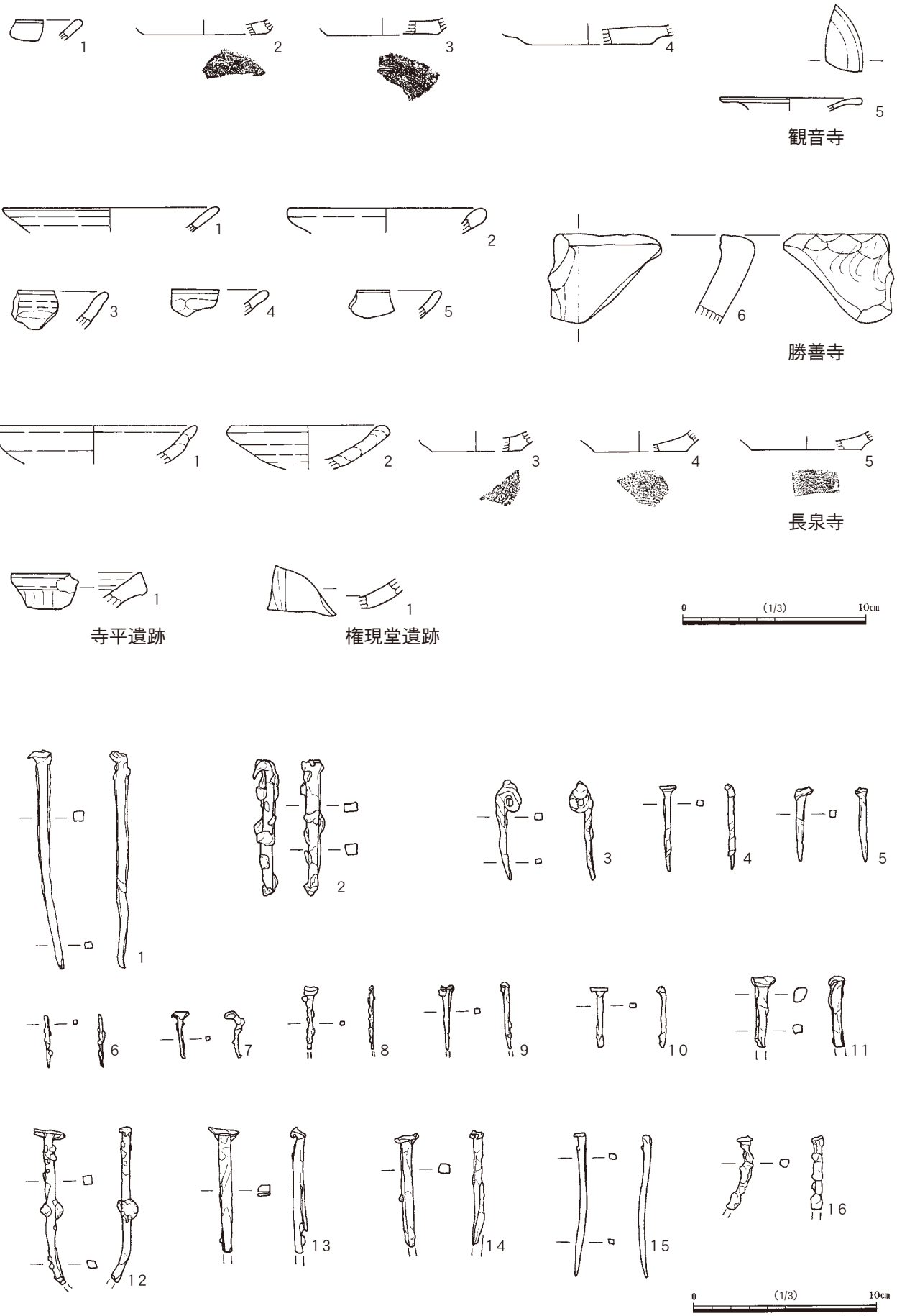
第101図　古長禅寺（２）・東円寺前地（中尾根遺跡）・富士山二合目行者堂跡（１）出土遺物



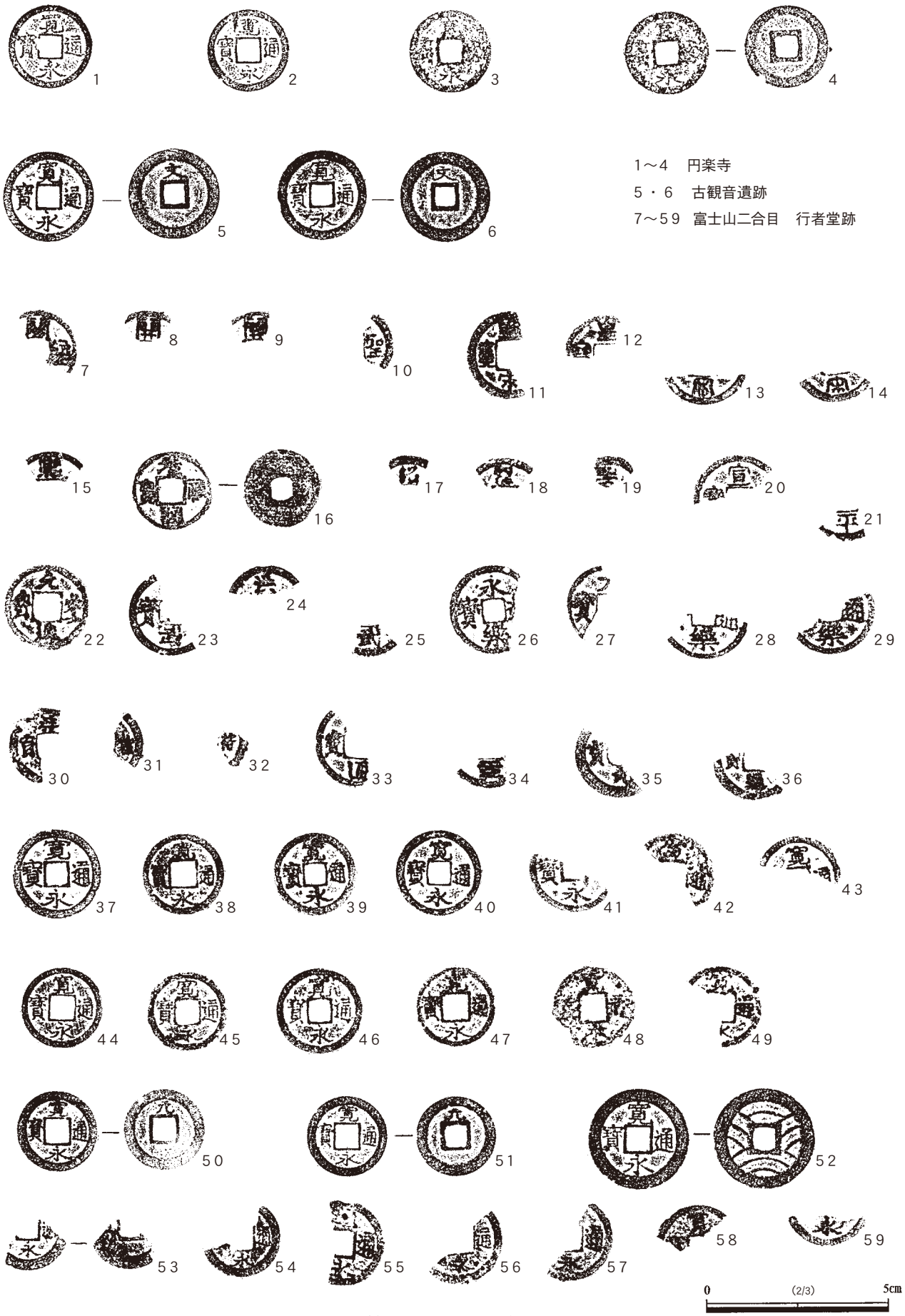
第102図　富士山二合目行者堂跡（２）　出土遺物



第103図　富士山二合目行者堂跡（３）・古観音遺跡出土遺物

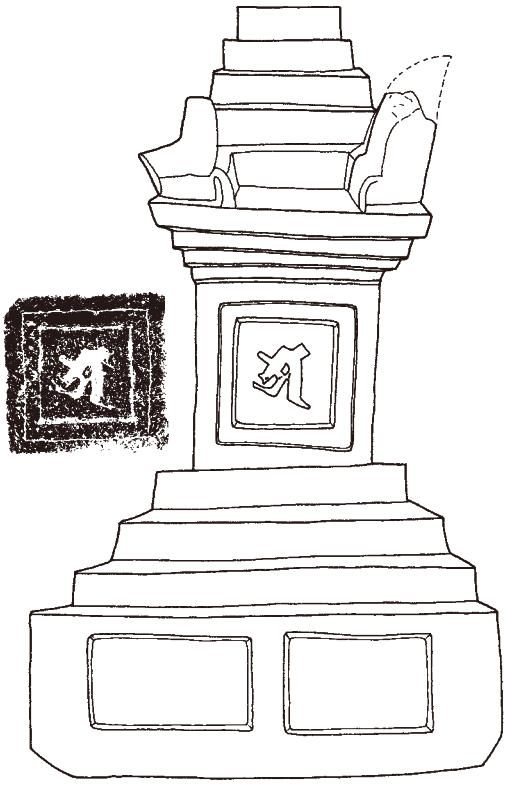


第104図　踏査表面採集遺物・鉄製品

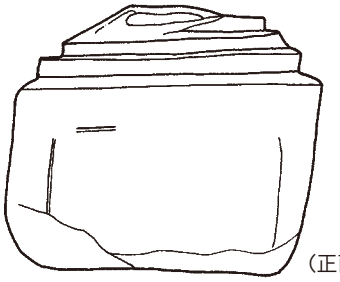


1～4　円楽寺
5・6　古観音遺跡
7～59　富士山二合目　行者堂跡

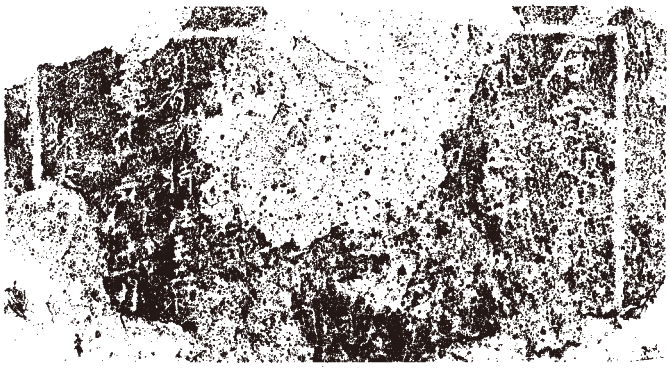
第105図　古銭

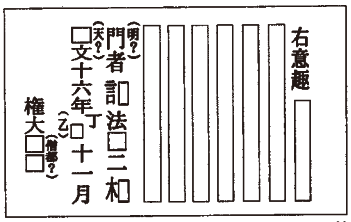


9号石塔（六角堂中央）

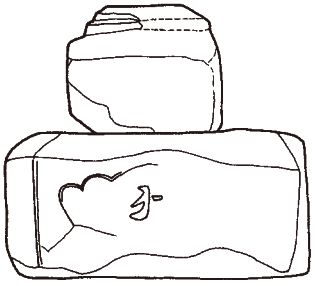


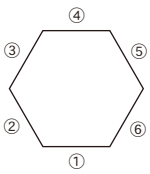
（正面）



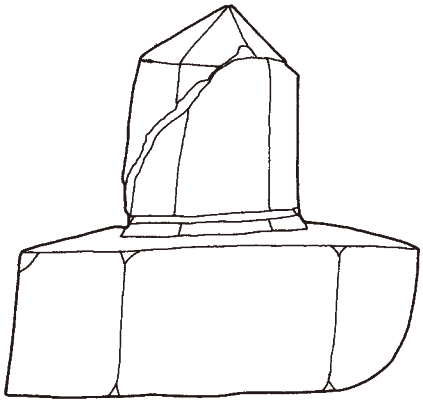


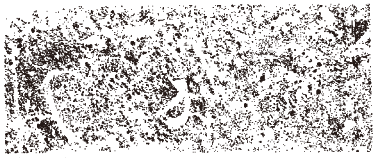
（左側面）　1号石塔



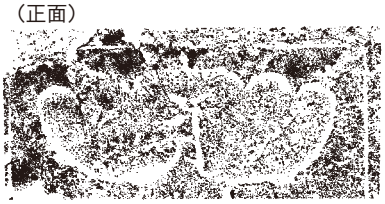


（正面）

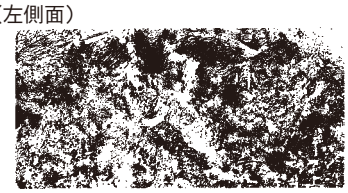




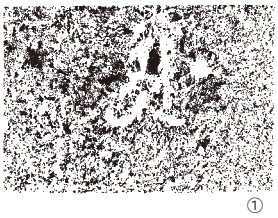
（正面）



（左側面）

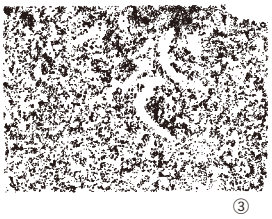


（右側面）　4号石塔

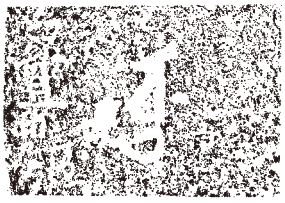


①

②

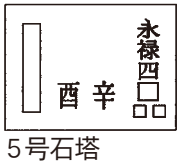


③



④

⑤



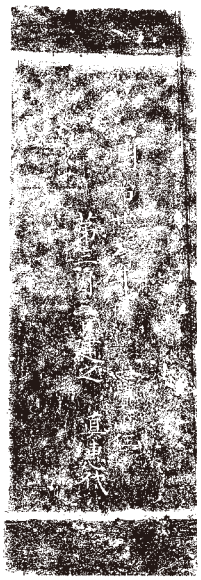
5号石塔

0　(1/10)　30cm

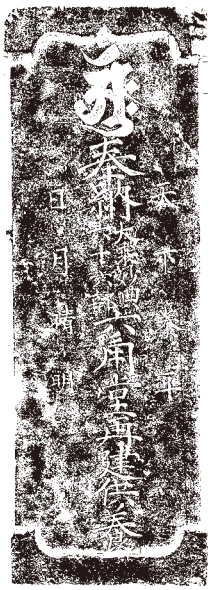
第106図　円楽寺石造物実測図・拓影図

並時応永二十三年
丙申 霜月念日

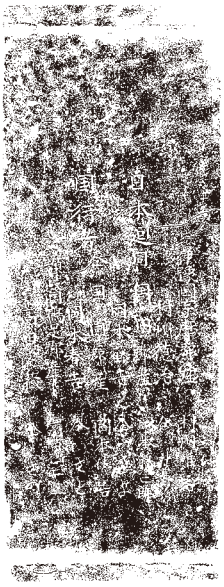
聖応寺開山堂石塔



明治廿六年 七覚山住
第三月三日建之 真恵代



天下泰平
奉納 大乗妙典六十六部 六角堂再建供養
日月清明



日本廻国行者
伊豫國宗摩郡産 村川唯治
村川徳治 全 けの
同国同郡産 岡本勝三郎
岡本藤吉 全 せよ
全国同郡産 岡本佐吉
岡本春吉 全 さと
讃岐国鵜足郡産 高田一二三
高田愛蔵 全 きの

円楽寺6号石塔

享和三癸亥年
霜月十五日

奉納大乗妙典六十六部供養

武州大里郡川原明戸邑
願主 松本勝右衛門福秀

円楽寺7号石塔

下総國 郡野午村
願主 善明

天下和順 寛政七年 卯年
奉納大乗妙典六十六部四國供養
日月清明 二月和七日

永勝院 國譽栄順

円楽寺8号石塔

第107図 石造物拓影図

第３１図分布図２８続き

笛吹市(一宮町)

1004063 満願寺
1004066 養福寺
1004067 竜雲院
1004069 竜沢院
1004070 蓮昌寺
1004076 念仏寺

笛吹市(石和町)

1005001 安禅寺
1005002 安楽寺
1005003 恵法寺
1005004 円福寺
1005007 遠妙寺
1005009 願念寺
1005010 観音寺
1005013 元正院
1005018 慶運寺
1005033 世音寺
1005034 善行寺
1005036 大蔵経寺
1005037 長正院
1005040 等倫寺
1005041 仏陀寺
1005042 法泉寺
1005047 竜宝寺
1005050 蓮朝寺

笛吹市(春日居町)

1006003 高雲寺
1006007 石雲寺
1006010 長慶寺
1006012 鎮目寺
1006014 不動堂
1006015 保雲寺
1006016 法厳院
1006018 妙厳院
1006019 隆昌寺
1006021 大中院

甲府市

2008081 三星院
2008098 寿徳院
2008198 東勝寺
2008210 （前）能成寺

甲州市(勝沼町)

3018001 阿弥陀寺
3018003 威徳院
3018003 （前）威徳院
3018004 円成寺
3018005 円常坊
3018006 海蔵院
3018007 海宝院
3018008 慶専寺
3018010 賢正寺
3018011 光源寺
3018013 護念寺
3018014 金剛寺
3018015 西教寺
3018018 正覚寺
3018019 上行寺
3018020 正宗寺
3018021 浄泉寺
3018022 生福寺
3018024 少林寺
3018025 浄蓮寺
3018027 仙光寺
3018028 泉勝院
3018029 善昌寺
3018030 専福寺
3018031 専立寺
3018033 大善寺
3018038 徳岸院
3018042 報恩寺
3018043 法眼院
3018046 万福寺
3018047 万宝院
3018052 蓮華寺
3018057 薬自而
3018058 玄正寺

山梨市

3020011 海島寺
3020017 光善寺
3020035 称名院
3020049 大翁寺
3020053 大法寺
3020062 東地院
3020067 富何寺
3020077 万福寺
3020081 妙善寺
3020084 養安寺

第１４図分布図１１続き

南アルプス市(櫛形町)

5036056 薬師堂

南アルプス市(甲西町)

5037002 安養院
5037003 円妙寺
5037008 経石庵
5037010 広誓院
5037013 古長禅寺
5037014 金剛寺
5037015 西光寺
5037017 実成寺
5037018 実成寺
5037025 生善寺
5037028 正福院
5037032 真豊院
5037038 八幡寺
5037039 普春院
5037040 普倦院
5037041 不動寺
5037043 報恩寺
5037044 法音寺
5037045 法教寺
5037050 法浄寺
5037055 本乗寺
5037056 本清寺
5037058 妙源寺
5037060 妙大寺
5037061 妙長寺
5037062 無量寺
5037063 来光寺
5037064 隆昌寺
5037067 了泉寺
5037068 七面堂
5037069 観音堂
5037070 観音堂
5037071 安全堂

第２３図分布図２０続き

甲府市(中道町)

2009016 青木院
2009017 長昌院
2009018 長泉寺
2009022 法地院
2009023 満願寺
2009024 妙石庵
2009027 竜華院
2009028 林泉寺
2009032 東養院

甲斐市(竜王町)

2011001 安楽寺
2011003 円立寺
2011004 久光寺
2011005 玄広寺
2011006 向玉院
2011007 光善寺
2011008 金剛寺
2011009 慈照寺
2011011 常照院
2011012 成道院
2011013 称念寺
2011017 真福寺
2011018 瑞良寺
2011019 善応寺
2011020 大広寺
2011021 大慈院
2011022 忠安寺
2011023 法久寺
2011024 本妙寺
2011026 妙蓮寺
2011028 隆法寺
2011029 蓮生寺

中央市(玉穂町)

2013001 安楽寺
2013002 永源寺
2013004 海蔵寺
2013005 歓盛院
2013007 貴雲院
2013008 広雲寺
2013010 広泰院
2013011 光福院
2013012 西雲寺
2013015 正行寺
2013016 常光寺
2013019 善乗寺
2013021 長栄寺
2013022 長慶寺
2013023 長林寺
2013024 東林院
2013025 東沢寺
2013026 富西寺
2013029 宝性庵
2013030 明暗寺
2013031 妙遠寺
2013032 妙性寺
2013033 無量院
2013035 陽春院
2013036 滝泉寺
2013037 竜徳寺
2013038 林照院
2013039 瑠璃光寺
2013040 蓮華寺

昭和町

2014002 源光寺
2014004 香積寺
2014005 興禅寺
2014007 寿楽寺
2014008 浄安寺
2014009 正覚寺
2014010 浄慶寺
2014011 正法寺
2014012 清心寺
2014013 浅間寺
2014014 泉応寺
2014016 増泉寺
2014017 大円寺
2014018 長泉院
2014019 長禅寺
2014022 仏乗寺
2014023 法界寺
2014024 本誓寺
2014025 本妙寺
2014026 妙源寺
2014027 妙全寺
2014028 妙福寺
2014029 蓮華寺

中央市(田富町)

2015003 円立寺
2015004 遠妙寺
2015005 海雲院
2015008 貴盛院
2015009 貴蔵院
2015010 慶昌院
2015011 光徳院
2015017 上行寺
2015018 昌福院
2015019 大安寺
2015022 長徳院
2015025 法星院
2015026 妙泉寺
2015028 竜光院
2015030 地蔵院
2015031 蓮性寺
2015032 大聖院

北杜市(高根町)

4026017 （前）昌照寺

南アルプス市(白根町)

5033009 久本寺
5033022 真蔵院

南アルプス市(若草町)

5035009 常教寺
5035010 神宮寺
5035023 隆円寺
5035023 （前）隆円寺

第３０図分布図２７続き

山梨市

3020071 法昌寺
3020072 法蔵寺
3020073 法蔵寺
3020075 法輪寺
3020076 牧洞寺
3020078 妙音寺
3020080 妙正寺
3020082 無量寺
3020083 融松庵
3020085 竜泉寺
3020087 霊岩寺
3020089 常楽院
3020092 光明院
3020095 三国院
3020096 三条院
3020113 弥勒院
3020117 慈達院

山梨市(牧丘町)

3021004 観音寺
3021006 桂昌院
3021007 慶徳寺
3021008 玄超寺
3021009 耕雲寺
3021011 西念寺
3021012 西光寺
3021014 慈眼寺
3021015 地蔵院
3021016 地蔵寺
3021017 地蔵寺
3021018 実相寺
3021020 浄居寺
3021023 信光寺
3021024 西源寺
3021024 （前）西源寺
3021027 蔵沢寺
3021028 大円寺
3021032 東泉寺
3021034 廃極楽寺
3021035 繁桂庵
3021039 普門寺
3021040 法眼寺
3021041 宝珠寺
3021042 法喩庵
3021044 無量院
3021045 龍泉寺
3021046 竜泉寺
3021047 林栄寺
3021051 国宝院
3021052 上求寺
3021054 大徳院
3021056 内膳院
3021057 遍照院
3021058 万光院

第１０８図　分布図内寺院名

遺物観察表

図版No.	遺物No.	出土地点	種別	器種	法量(cm)			調整・施文	色調	胎土	残存率	注記No.	備考
					口径	器高	底径						
聖応寺													
98	1	聖応寺1トレンチ	陶器	天目茶碗	10.0	(5.6)	-	内外面施釉・底部無釉	にぶい褐		破片	05.聖応寺本堂1トレ05.12.1	
98	2	聖応寺本堂	陶器	鉢	-	(5.4)	-	内・外面に施釉	オリーブ黄		破片	05.聖応寺1トレ05.12.5	
98	3	聖応寺本堂雨落	陶器	瓶子	-	-	-	内・外面に施釉	暗褐		破片	05.11.29聖応寺本堂雨落	
98	4	聖応寺本堂雨落	陶器	瓶子	-	(2.5)	-	内・外面に施釉	黒褐		破片	05.11.29聖応寺本堂雨落	
98	5	聖応寺1トレンチ	陶器	灯明皿	10.8	1.9	5.0	底部無釉・鉄釉	暗褐		破片	05.聖応寺本堂1トレ05.12.5	
98	6	聖応寺本堂雨落	陶器	灯明皿	11.0	(2.0)	-	底部無釉・内堤貼付・鉄釉	褐		破片	05.11.29聖応寺本堂雨落	
98	7	聖応寺1トレンチ	陶器	灯明皿	11.0	(2.2)	-	全面施釉・内堤貼付・鉄釉	褐		破片	05.12.05聖応寺本堂1トレNo.1	
98	8	聖応寺1トレンチ	陶器	灯明皿	-	(2.0)	5.4	底部無釉・内堤貼付・鉄釉	暗褐		破片	聖応寺本堂1トレ05.12.1	
98	9	聖応寺本堂	陶器	灯明皿	11.2	1.9	5.4	底部無釉	橙		破片	05.11.29聖応寺本堂雨落	
円楽寺													
99	1	行者堂1トレンチ	陶器	壺	17.4	(3.4)	-	内外面ヨコナデ・外面に自然釉	黄灰		破片	05.円楽寺	渥美産
99	2	行者堂1トレンチ	陶器	甕	-	-	-	外面タタキ・内面タタキ・指による調整	にぶい赤褐	白色粒子・砂粒	破片	05.円楽寺行者堂1トレ	常滑産
99	3	行者堂1トレンチ	陶器	灯明皿	9.8	2.3	4.4	外面無釉・内堤貼付・鉄釉	明褐		20	05.円楽寺行者堂1トレ	
99	4	行者堂石塔前	陶器	甕	-	(6.1)	-	内外面ヘラ状工具によるナデ	灰黄		破片	05.円楽寺石塔前	
99	5	六角堂	磁器	碗	-	-	-		灰オリーブ		破片	06.円楽寺六角堂	青磁
99	6	六角堂	土器	坏	-	(0.8)	6.0	磨耗	にぶい黄橙	赤・黒粒子	破片	06.円楽寺六角堂	
99	7	六角堂	陶器	三筋壺	-	-	-	外面ヘラ調整・内面ヘラナデ	黄灰	白・黒粒子	破片	06.円楽寺六角堂No.8	
99	8	六角堂	陶器	甕	-	-	-	外面タタキ・指頭痕あり・内面タタキ・ユビオサエ	にぶい赤褐	白・黒	破片	06.円楽寺六角堂No.10	常滑産
99	9	六角堂	陶器	甕	-	(5.5)	17.0	外面タタキ・内面ヘラ調整	にぶい赤褐	白色・黒粒子	破片	06.円楽寺六角堂No.5	常滑産・底部ゆがみ
99	10	六角堂	陶器	三筋壺	-	-	-	内面ヘラ状工具による調整の後ユビオサエ	灰	黒・白粒子	破片	06.円楽寺六角堂No.9	
99	11	六角堂	陶器	三筋壺	-	-	-	内面ヘラ状工具によるヨコナデ	黄灰		破片	06.円楽寺六角堂No.1	
99	12	六角堂	陶器	甕	-	-	-	内外面ヘラナデ	黄灰		破片	06.円楽寺六角堂223一括	
99	13	六角堂祠	陶器	灯火具	6	3.9	4.2	ロクロ・底部に回転糸切	褐～黒褐		100	06.円楽寺六角堂石祠	
99	14	六角堂井戸	陶器	灯明皿	10.2	4.8	1.9	外面腰下無釉・内堤貼付・鉄釉	にぶい褐		60	06.円楽寺六角堂井戸No.3	
99	15	六角堂井戸	陶器	灯明皿	8	1.7	3.8	外面底部無釉・鉄釉	にぶい褐		30	06.円楽寺六角堂井戸No.2	
99	16	六角堂	陶器	不明	-	-	-	外面施釉・内面胴下半部無釉	灰オリーブ	白色粒子	破片	06.円楽寺六角堂一括	
99	17	行者堂		平瓦	-	-	-	表裏面ヘラ状工具によるナデ	灰黄	砂粒・白粒子・金雲母	破片	06.円楽寺行者堂北	
99	18	行者堂1トレンチ		平瓦	-	-	-	表裏面ヘラ状工具によるナデ	黄灰	砂粒・白・黒粒子	破片	05.円楽寺行者堂1トレ	
99	19	六角堂		平瓦	-	-	-	表裏面ヘラ状工具によるナデ	にぶい黄橙	白色粒子	破片	06.円楽寺六角堂No.6	
99	20	六角堂		平瓦	-	-	-	表裏面ヘラ状工具によるナデ	にぶい黄橙	白色粒子	破片	06.円楽寺六角堂No.7	
100	21	六角堂		平瓦	-	-	-	表裏面ヘラ状工具によるナデ	にぶい黄橙	白色粒子	破片	06.円楽寺六角堂一括	
100	22	六角堂		平瓦	-	-	-	表裏面ヘラ状工具によるナデ	にぶい黄橙	白色粒子	破片	06.円楽寺六角堂一括	
100	23	六角堂		平瓦	-	-	-	表裏面ヘラ状工具によるナデ	にぶい黄橙	白色粒子少	破片	06.円楽寺六角堂一括	
100	24	六角堂		平瓦	-	-	-	表裏面ヘラ状工具によるナデ	にぶい黄橙	白色粒子少	破片	06.円楽寺六角堂一括	
100	25	六角堂		平瓦	-	-	-	表裏面ヘラ状工具によるナデ	にぶい黄橙	白色粒子少	破片	06.円楽寺六角堂一括	
100	26	六角堂		平瓦	-	-	-	表裏面ヘラ状工具によるナデ	にぶい黄橙	白色粒子	破片	06.円楽寺六角堂一括	
100	27	六角堂		平瓦	-	-	-	表裏面ヘラ状工具によるナデ	にぶい黄橙	白色粒子	破片	06.円楽寺六角堂一括	
100	28	六角堂井戸		瓦	-	-	-	朱塗り・キラ粉	黄灰	黒色粒子	50	06.円楽寺六角堂井戸No.4	
苗敷山山頂遺跡南西地点													
100	1	1トレンチ	土器	甕	-	-	-	内外面ヘラナデ	にぶい褐	白色粒子	破片	06.苗敷山1トレ	
100	2	2トレンチ	土器	坏	-	(1.3)	(6.0)	ロクロナデ・底部回転糸切	橙	密	破片	06.苗敷山1トレ	
100	3	2トレンチ	陶器	皿	(12.0)	(1.6)	-	灰釉・ロクロナデ	灰白	緻密	破片	06.苗敷山2トレ	
100	4	3トレンチ	土器	坏	-	(1.1)	(6.0)	ロクロ成形・底部回転糸切	にぶい橙	密	破片	06.苗敷山2トレ	内外面付着物あり
100	5	4トレンチ	土器	蓋	-	-	-	ロクロナデ・端部折り返し	橙	密	破片	06.苗敷山4トレ	
100	6	4トレンチ	土器	甕	-	(2.2)	8.2	外面ハケ・内面ナデ調整	にぶい褐	白色粒子・雲母	破片	06.苗敷山4トレ3	
100	7	4トレンチ	須恵器	甕	-	-	-	外面タタキ・内面ヘラ調整	灰	密	破片	06.苗敷山4トレ1	
100	8	5トレンチ	土器	坏(灯明)	(13.8)	(1.7)	-	ロクロナデ	橙	密	破片	06.苗敷山5トレ	墨付着
100	9	5トレンチ	陶器	碗	-	-	-	ロクロ成形	灰白	緻密	破片	06.苗敷山5トレ	外面赤色顔料付着

図版No.	遺物No.	出土地点	種別	器種	法量(cm)			調整・施文	色調	胎土	残存率	注記No.	備考
					口径	器高	底径						
100	10	6トレンチ	土器	坏	(12.0)	(1.8)	-	ロクロ成形	にぶい黄橙	赤色粒子	破片	06.苗敷山6トレ	口縁部スス付着
100	11	6トレンチ	土器	坏	-	(1.4)	(6.0)	ロクロナデ・外面下半部斜ヘラ調整・底部回転糸切	橙	やや粗い	破片	06.苗敷山6トレ	
100	12	6トレンチ	土器	坏	-	(0.8)	(6.0)	ロクロナデ・底部回転糸切	にぶい黄橙～橙	やや密	破片	06.苗敷山6トレ	
100	13	7トレンチ	土器	坏	-	-	-	ロクロナデ	橙	白・赤粒子	破片	06.苗敷山8トレ	
100	14	8トレンチ	須恵器	甕	-	-	-	ロクロ成形	外黄灰内 灰黄	密	破片	06.苗敷山8トレ	
100	15	9トレンチ	土器	坏	(13.0)	(1.4)	-	ロクロナデ	にぶい橙～灰褐	赤色粒子	破片	06.苗敷山9トレ	
100	16	9トレンチ	土器	坏	-	(1.8)	(5.0)	ロクロ成形・外面胴下半部ヘラ調整	橙	密・赤粒子	破片	06.苗敷山9トレ	墨書
善応寺													
100	1	善応寺湧水地点	土器	坏	-	(1.5)	(6.0)	ロクロ成形・磨耗が著しい	橙	赤粒子	破片	06.善応寺水場	
古長禅寺													
100	1	表土	土器	壺	(18.0)	(3.4)	-	外面ハケ調整　内面ナデ調整	褐	白色粒子・砂粒	破片	06.古長禅寺№.7 №.8	
100	2	1トレンチ	土器	高坏	(13.0)	(3.0)	-	ナデ調整	橙	白色粒子	破片	06.古長禅寺1トレ深	
100	3	表土	土器	高坏脚部	-	(3.0)	-	外面ナデ　内面ケズリ	にぶい橙	赤色粒子	破片	06.古長禅寺	
101	4	表土	土器	坏	-	(0.9)	(6.0)	ナデ調整・胴下半部斜ヘラケズリ・底部回転糸切	にぶい橙	白色粒子	破片	06.古長禅寺	内面黒
101	5	表土	土器	甕	-	-	-	内面ヨコナデ・外面剥離	にぶい橙	金雲母・赤色粒子	破片	06.古長禅寺	
101	6	表土	土器	坏	(12.0)	(1.7)	-	内外面ロクロナデ	にぶい褐～灰褐		破片	06.古長禅寺№.6	
101	7	1トレンチ	土器	片口鉢	-	-	-		にぶい黄橙	赤色粒子	破片	06.古長禅寺1トレ深	
101	8	表土	陶器	甕	-	-	-	内外面タタキ	にぶい褐		破片	06.古長禅寺№.4	常滑産
101	9	表土	陶器	瓶子	-	-	-	外面　陰刻・施釉・内面ナデ調整・無釉	灰オリーブ		破片	06.古長禅寺	瀬戸産
101	10	表土	陶器	瓶子	-	-	-	外面施釉　内面ヘラ調整・無釉	灰白		破片	06.古長禅寺№.11	瀬戸産
101	11	2トレンチ	陶器	香炉	-	-	-	無施釉部と施釉部あり	施釉部 暗赤褐・黒・灰オリーブ無施釉部オリーブ褐		破片	06.古長禅寺2トレ深	
101	12	表土	陶器	擂鉢	-	-	-	外面ヘラ調整・内面櫛目	灰褐		破片	06.古長禅寺№.12	
101	13	表土	陶器	擂鉢	-	-	-	外面ヘラ調整・内面櫛目	褐灰		破片	06.古長禅寺№.9	
101	14	表土	陶器	灯明皿	(11.0)	(2.0)	(5.4)	底部無釉・鉄釉	暗褐～灰黄		20	06.古長禅寺№.33	
101	15	表土	礫	碁石	2.1～2.2	-	-	研磨	黒		100	06.古長禅寺	
東円寺前地													
101	1	8トレンチ	土器	坏	(13.0)	(1.9)	-	内外面ロクロ成形	明赤褐		破片	07.東円寺前地8T №.55	
101	2	8トレンチ	土器	坏	(12.0)	(1.5)	-	内外面ロクロ成形	明赤褐		破片	07.東円寺前地8T №.34	
101	3	8トレンチ	土器	坏	(13.0)	(1.7)	-	内外面ロクロ成形	明赤褐	黒色粒子	破片	07.東円寺前地9T №.26	
101	4	8トレンチ	土器	坏	(13.0)	(1.5)	-	内外面ロクロ成形	明赤褐		破片	07.東円寺前地8T №.65	
101	5	8トレンチ	土器	坏	(12.0)	(1.5)	-	内外面ロクロ成形	明赤褐	赤・黒色粒子	破片	07.東円寺前地8T №.57	
101	6	8トレンチ	土器	坏	(13.0)	(1.2)	-	内外面ロクロ成形	明赤褐		破片	07.東円寺前地8T №.41	
101	7	8トレンチ	土器	坏	(13.0)	(0.8)	-	内外面ロクロ成形	明赤褐		破片	07.東円寺前地8T №.14	
101	8	8トレンチ	土器	坏	(12.6)	(1.3)	-	内外面ロクロ成形	明赤褐		破片	07.東円寺前地8T №.63	
101	9	8トレンチ	土器	坏	-	(0.7)	-	ロクロ成形・底部ヘラケズリ	橙～にぶい黄橙・浅黄橙		破片	07.東円寺前地8T №.58	
101	10	8トレンチ	陶器	坏	-	(1.9)	(7.2)	ロクロ成形・高台貼付	黄灰		破片	07.東円寺前地8T №.59	灰釉
101	11	8トレンチ	土器	甕	-	-	-	外面タテハケ・内面ヨコハケ	褐色	白・黒色粒子・金雲母	破片	07.東円寺前地8T №.48	
101	12	8トレンチ	土器	甕	-	-	-	外面タテハケ・内面ヨコハケ	褐色	白・赤色粒子	破片	07.東円寺前地8T №.49	
101	13	8トレンチ	土器	甕	-	-	-	外面タテハケ・内面ヨコハケ	褐色	白・黒色粒子	破片	07.東円寺前地8T №.46	
101	14	8トレンチ	土器	羽釜	-	-	-	ナデ調整	褐色	白・赤色粒子	破片	07.東円寺前地8T №.71	羽部分
富士山二合目行者堂													
101	1	石列北西側	陶器	山茶碗	-	(1.7)	-	内外面ロクロ調整	灰		破片	行者堂№.59	
101	2	石列北西側	陶器	山茶碗	-	(1.9)	(6.8)	内外面ロクロ調整	灰		破片	行者堂№.105	
101	3	石列北西側	土器	坏	-	(1.5)	-	ロクロ成形・内面暗わずかにあり	にぶい橙		破片	行者堂№.104	
101	4	石列北西側	土器	坏	(10.0)	(2.2)	-	内外面ロクロ整形	にぶい橙		破片	行者堂№.238	
101	5	石列北西側	土器	坏	(9.2)	(1.7)	-	内外面ロクロ整形			破片	行者堂№.378	
101	6	石列北西側	土器	坏	-	(2.4)	-	内外面ロクロ整形	にぶい黄褐	やや粗い	破片	行者堂№.38	
101	7	石列北西側	土器	坏	(13.0)	(1.3)	-	内外面ロクロ整形	にぶい黄褐		破片	行者堂№.27	
101	8	石列北西側	土器	坏	-	(1.3)	(4.2)	ロクロ成形・胴下半部ケズリ・底部回転糸切	にぶい橙	赤色粒子	破片	行者堂№.50	
101	9	石列北西側	土器	坏	-	(1.4)	(4.8)	ロクロ成形・底部回転糸切	にぶい黄橙	赤色粒子・黒雲母	破片	行者堂№.388	
101	10	石列北西側	土器	坏	-	(1.7)	(7.8)	ロクロ成形・底部回転糸切	にぶい黄橙	密・赤色粒子	破片	行者堂№.41	
101	11	石列北西側	陶器	皿	(13.0)	(1.7)	-	内外面ロクロ整形・底部無釉	灰オリーブ		破片	行者堂№.358	鼠志野
101	12	石列北西側	陶器	皿	(13.0)	(2.0)	-	内外面ロクロ整形・底部無釉	灰黄		破片	行者堂№.245	鼠志野

図版No.	遺物No.	出土地点	種別	器種	法量(cm)			調整・施文	色調	胎土	残存率	注記No.	備考
					口径	器高	底径						
101	13	石列北西側	陶器	皿	(13.0)	(1.7)	-	内外面ロクロ整形・口縁部付近のみ施釉	灰		破片	行者堂一括	鼠志野
101	14	石列北西側	陶器	皿	(13.0)	(2.0)	-	内外面ロクロ整形・底部無釉	灰黄		破片	行者堂No. 335	鼠志野
101	15	石列北西側	陶器	碗	-	(1.7)	(7.0)	内外面ロクロ整形・高台貼付	黄灰		破片	行者堂No. 285・No. 294	鼠志野
102	16	石列北西側	磁器	碗	8.1	5.3	3.6	手描・染付・透明釉	白		90	行者堂No. 89・No. 91・No. 97・No. 98・No. 99・No. 101・No. 109	
102	17	石列北西側	磁器	碗	10.0	5.0	4.2	手描・染付・透明釉・雪輪梅文	白		100	行者堂No. 14・No. 30・No. 272	肥前系
102	18	石列北西側	磁器	碗	10.2	4.9	4.0	手描・染付・透明釉・雪輪梅文	白		95	行者堂No. 120・一括	肥前系
102	19	石列北西側	磁器	碗	10.2	4.7	4.2	手描・染付・透明釉・雪輪梅文	白		100	行者堂No. 89・No. 273	肥前系
102	20	石列北西側	磁器	碗	-	(3.0)	4.0	手描・染付・透明釉	白		15	行者堂No. 13	
102	21	石列北西側	磁器	碗	9.7	4.6	3.8	手描・染付・透明釉・網目文	白		90	行者堂No. 113・No. 141・No. 281	肥前系
102	22	石列北西側	磁器	碗	-	(2.8)	3.6	手描・染付・透明釉・網目文	白		20	行者堂No. 295	
102	23	石列北西側	磁器	碗	(9.2)	(3.5)	-	手描・染付・透明釉・網目文	白		20	行者堂No. 37	
102	24	石列北西側	磁器	碗	(11.8)	(4.8)	-	手描・染付・透明釉・丸文	白		20	行者堂No. 34	肥前系
102	25	石列北西側	磁器	碗	-	(2.7)	(2.0)	手描・染付・透明釉	白		20	行者堂No. 53	
102	26	石列北西側	陶器	碗(端反型)	9.5	4.9	4.4	手描・染付・透明釉・霊芝花文	白		75	行者堂No. 6・No. 8・No. 9・No. 13・No. 21・一括	瀬戸美濃系
102	27	石列北西側	陶器	碗(広東碗)	11.2	6.2	6.2	手描・染付・透明釉・念文	灰白		50	07. 行者堂No. 47・No. 82・No. 193・No. 195	
102	28	石列北西側	陶器	碗	(10.0)	(5.0)	(3.7)	口縁部付近に鉄釉	灰白褐		30	07. 行者堂No. 265	瀬戸美濃系
102	29	石列北西側	陶器	碗	(10.6)	(4.7)	(3.8)		灰白・褐・青灰		25	07. 行者堂No. 148・No. 170・No. 174	瀬戸美濃系
102	30	石列北西側	陶器	碗	(10.6)	(4.7)	(3.8)		灰白・褐・青灰		20	07. 行者堂No. 261	
102	31	石列北西側	陶器	碗	9.4	5.6	3.8	外面底部付近無釉	灰白		35	07. 行者堂No. 376	
102	32	石列北西側	陶器	碗	(9.0)	(5.1)	3.5		灰白		30	07. 行者堂No. 197・No. 279	
102	33	石列北西側	陶器	碗	(9.0)	(2.5)	-		灰白・明青灰・暗オリーブ		破片	07. 行者堂No. 280	
102	34	石列北西側	陶器	碗(端反型)	(10.0)	(3.8)	-	灰釉・透明釉	灰白		破片	07. 行者堂No. 175	瀬戸美濃系
102	35	石列北西側	陶器	碗	(9.8)	(4.8)	-	外面飛びガンナ	浅黄・淡黄・暗オリーブ・オリーブ黄		破片	07. 行者堂No. 208	
103	36	石列北西側	陶器	碗	-	(5.2)	-	鉄釉	黒褐		破片	07. 行者堂No. 374	瀬戸美濃
103	37	石列北西側	陶器	碗	(9.0)	(2.4)	-		灰黄・暗褐		破片	07. 行者堂No. 180	瀬戸美濃
103	38	石列北西側	陶器	碗	(16.0)	(3.0)	-		浅黄		破片	07. 行者堂No. 357	
103	39	石列北西側	陶器	碗	-	(2.0)	(6.0)	灰釉	灰白		破片	07. 行者堂No. 44	
103	40	石列北西側	陶器	片口鉢	(20.0)	(7.8)	-		明黄褐・オリーブ黄		20	07. 行者堂No. 259・No. 262・No. 266・No. 278	瀬戸美濃
103	41	石列北西側	陶器	鉢	(19.0)	(6.5)	-	外面下半部無釉	オリーブ黄・胎土灰黄		破片	07. 行者堂No. 7・No. 42	
103	42	石列北西側	陶器	鉢	(21.6)	(2.5)	-	外面施釉・内面上半部施釉・下半部無釉	灰黄		破片	07. 行者堂No. 147	
103	43	石列北西側	陶器	香炉	(12.0)	(3.4)	-	外面施釉・内面上部のみ施釉	灰黄		破片	07. 行者堂No. 249・No. 192	
103	44	石列北西側	陶器	香炉	(12.0)	(3.9)	-		灰黄		破片	07. 行者堂No. 4・一括	
103	45	石列北西側	陶器	無頸壺	(7.8)	(1.6)	-		暗灰黄		破片	07. 行者堂No. 219	
103	46	石列北西側	陶器	片口	-	(2.1)	-	鉄釉	黒褐		破片	07. 行者堂No. 48	瀬戸美濃
103	47	石列北西側	陶器	土瓶	-	(1.0)	(6.0)	内外面ロクロナデ・底部回転糸切	にぶい黄		破片	07. 行者堂No. 149	
103	48	石列北西側	陶器	灯明皿	10.3	1.9	4.2	底部無釉・鉄釉	褐		80	07. 行者堂No. 54・No. 118・No. 119	
103	49	石列北西側	陶器	灯明皿	(10.8)	1.9	(5.0)	底部無釉・内堤貼付・鉄釉	暗褐		破片	07. 行者堂No. 103	
103	50	石列北西側	陶器	灯明皿	(9.8)	2.1	4.0	底部無釉・鉄釉	暗褐		20	07. 行者堂No. 65・No. 107	
103	51	石列北西側	陶器	灯明皿	(12.0)	2.5	(5.6)	内外面ロクロナデ・外面ヘラケズリ・底部回転糸切	にぶい赤褐		30	07. 行者堂No. 180・No. 189・No. 369・No. 375・No. 257・4トレ一括	
古観音遺跡													
103	1	調査区	土器	甕	-	-	-	ハケ調整	外にぶい赤褐色・内黒褐色	白色粒子	破片	07. 古観音	
103	2	調査区	土器	甕	-	(3.5)	(8.0)	外面タテハケ・内面ヨコハケ・底部葉脈痕	橙		破片	07. 古観音	

鉄製品観察表

図版No.	遺物No.	遺跡名	出土地点	器種	笠(有無・横幅mm)	法量(mm)		注記No.	備考
						長さ	太さ		
104	1	聖応寺	トレンチNo. 2	釘	有・13	120	5×5.5	聖応寺トレンチNo. 2	
104	2	苗敷山	6トレンチ	釘	有・12	75	7×7	06. 苗敷山6トレ	
104	3	富士山行者堂	石列	釘	無	90	5×5	行者堂 No. 102	頭部屈曲
104	4	富士山行者堂	石列	釘	有・10	47	3.5×3	行者堂 No. 131	
104	5	富士山行者堂	石列	釘	有・15	40	3.5×4	行者堂 No. 76	
104	6	富士山行者堂	石列	釘	無(破損?)	30	2×2	行者堂 No. 156	錆あり
104	7	富士山行者堂	石列	釘	有・10	25	3×2.5	行者堂 No. 78	

図版№	遺物№	遺跡名	出土地点	器種	笠（有無・横幅 mm）	法量（mm）		注記№	備　　考
						長さ	太さ		
104	8	富士山行者堂	石列	釘	有・8	35	3×2.5	行者堂№354	先端部欠損
104	9	富士山行者堂	石列	釘	有・7	37	3.5×3	行者堂№139	先端部欠損
104	10	富士山行者堂	石列	釘	有・10	33	4×3	行者堂№133	先端部欠損
104	11	富士山行者堂	石列	釘	有・13	39	5.5×6	行者堂№348	下半部欠損
104	12	富士山行者堂	石列	釘	有・18	88	5×5	行者堂№61	先端部欠損
104	13	富士山行者堂	石列	釘	有・17	69	7×5	行者堂№316	下半部欠損
104	14	富士山行者堂	石列	釘	有・15	60	6×5	行者堂№263	先端欠損・表面剥離
104	15	富士山行者堂	石列	釘	無・5	79	4×4	行者堂№58	
104	16	富士山行者堂	石列	釘	有・（丸）9×7	40	4×4	行者堂№16	先端欠損・錆あり

古銭観察表

図版№	№.	遺跡名	出土地点	銭　種	時　代	初　鋳	字体	残存率（%）	注記№	備　　考
105	1	円楽寺	行者堂	寛永通宝	江戸	1636～59	真	100		新寛永
105	2	円楽寺	行者堂	寛永通宝	江戸	1636～59	真	100		新寛永
105	3	円楽寺	六角堂	寛永通宝	江戸	1636～59	真	100		新寛永
105	4	円楽寺	六角堂	寛永通宝	江戸	1636～59	真	100		新寛永
105	5	古観音	－	寛永通宝	江戸	1668～1683	真	100		新寛永・背面に「文」
105	6	古観音	－	寛永通宝	江戸	1668～1683	真	100		新寛永・背面に「文」
105	7	富士山行者堂	石列跡	開元通寶	唐・南唐	621	真	40	188	
105	8	富士山行者堂	石列跡	開元通寶	唐・南唐	621	真	16	55	
105	9	富士山行者堂	石列跡	開元通寶	唐・南唐	621	真	16	43	
105	10	富士山行者堂	石列跡	天聖元寶 紹聖元寶？		1023 1094	真	25	362	聖のみ残存
105	11	富士山行者堂	石列跡	皇宋通寶	北宋	1038	真	60	379	
105	12	富士山行者堂	石列跡	皇宋通寶	北宋	1038	真	25	313	皇・寶のみ残存
105	13	富士山行者堂	石列跡	皇宋通寶	北宋	1038	篆	40	171	宋のみ残存
105	14	富士山行者堂	石列跡	皇宋通寶	北宋	1038	篆	33	140	宋のみ残存
105	15	富士山行者堂	石列跡	熙寧元寶？	北宋	1071	真	25	66	熙のみ残存
105	16	富士山行者堂	石列跡	元祐通寶	北宋	1086	篆	100	323	
105	17	富士山行者堂	石列跡	紹聖元寶 紹平通寶？	北宋	1094 1434	行	16	371	紹のみ残存
105	18	富士山行者堂	石列跡	紹聖元寶？	北宋	1094	行	20	152	紹のみ残存
105	19	富士山行者堂	石列跡	聖宋元寶？	北宋	1101	真	16	203	聖のみ残存
105	20	富士山行者堂	石列跡	宣和元寶 宣和通寶？	北宋	1119 1119	真	40	333	宣・寶残存
105	21	富士山行者堂	石列跡	紹平通寶？	北宋	1434	篆？	25	310	平のみ残存
105	22	富士山行者堂	石列跡	元豊通寶	北宋	1078	真	100	33	
105	23	富士山行者堂	石列跡	洪武通寶	明	1368	真	50	340	武・寶残存
105	24	富士山行者堂	石列跡	洪武通寶	明	1368	真	33	46	洪のみ残存
105	25	富士山行者堂	石列跡	洪武通寶	明	1368	真	16	337	武のみ残存
105	26	富士山行者堂	石列跡	永楽通寶	明	1408	真	80	236	永・通・寶残存
105	27	富士山行者堂	石列跡	永楽通寶	明	1408	真	33	364	永・寶残存
105	28	富士山行者堂	石列跡	永楽通寶	明	1408	真	40	202	楽・通残存
105	29	富士山行者堂	石列跡	永楽通寶	明	1408	真	50	360	楽・通残存
105	30	富士山行者堂	石列跡	祥符通寶	中世末～近世初		真	40	380	模鋳銭
105	31	富士山行者堂	石列跡	元符通寶？ 祥符通寶？	北宋 中世末～近世初	1098	真	20	332	符のみ残存
105	32	富士山行者堂	石列跡	祥符通寶？	中世末～近世初		真	16	88	符か？
105	33	富士山行者堂	石列跡	不明	不明	不明	行	50	355	通・寶残存
105	34	富士山行者堂	石列跡	不明	不明	不明	篆	25	308	元か？
105	35	富士山行者堂	石列跡	不明	不明	不明	真	50	157	元・寶か？
105	36	富士山行者堂	石列跡	不明	不明	不明	真	33	267	通か？
105	37	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1636～59	真	100	161	古寛永
105	38	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1636～59	真	100	216	古寛永？
105	39	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1636～59	真	100	321	古寛永
105	40	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1636～59	真	100	320	古寛永
105	41	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1636～59	真	50	314	古寛永
105	42	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1636～59	真	50	122	古寛永・錆び
105	43	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1636～59	真	40	75	古寛永
105	44	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1668～1781	真	100	220	新寛永
105	45	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1668～1781	真	100	229	新寛永
105	46	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1668～1781	真	100	248	新寛永
105	47	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1668～1781	真	100	247	新寛永・錆び
105	48	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1668～1781	真	98	124	錆びのため不鮮明
105	49	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1668～1781	真	60	296	錆び
105	50	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1697～1781	真	100	163	背面に「元」
105	51	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1697～1781	真	100	130	背面に「元」
105	52	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	1768～	真	100	260	四文銭。背面に 11 波
105	53	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	不明	真	33	172	
105	54	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	不明	真	60	377	変形
105	55	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	不明	真	60	183	錆び
105	56	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	不明	真	50	60	
105	57	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	不明	真	50	150	
105	58	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	不明	真	33	126	不鮮明
105	59	富士山行者堂	石列跡	寛永通寶	江戸	不明	真	33	99	

第５章　中世寺院分布調査の成果と課題

第１節　はじめに

2004 年度（平成 16）に 5 カ年計画で調査を開始した山梨県内中世寺院分布調査（以下本調査）では、県内でそれまで判然としなかった中世寺院の分布や総数を明瞭にし、これらを保護・活用するための基礎資料を蓄積することを目的として、調査を行ってきた。調査の初年度である 2004 年度には、『甲斐国志』・『甲斐国社記・寺記』を用いて調査寺院の基礎リストを作成し、これを基に文献資料調査、併行して現地踏査・発掘調査を実施し、最終的には 2,819 ヵ寺の分布を示し、10 ヵ寺の発掘調査結果を報告した。一方で県内では、これまでに開発行為や学術調査により調査された中世寺院遺跡が、未報告も含め 20 ヵ寺程度あり、今回の調査とあわせるとこれまでに約 30 ヵ寺の寺院が調査されたことになる。この一連の調査を通して、寺院の分布、中でも時間の経過に伴う寺院分布の変遷や宗派による教線の拡大や衰退による分布の変化、寺院を構成する遺構、古代寺院から中世寺院への変遷など、調査結果に加え文献資料の助けも借りて断片的に知ることができた。ここでは県内中世寺院の分布を概観し、それに関わる遺構について触れることで調査のまとめとしたい。

第２節　山梨県内中世寺院の分布について

今回の調査で『甲斐国志』・『甲斐国社記・寺記』を基にカード化した県内の中世寺院は 2,819 ヵ寺を数えるが、さらにカード化された情報や地域の伝承、記録などから最終的な所在地を分布図に示すことができた寺院は、1,854 ヵ寺である。この数値は『甲斐国志』が成立した江戸時代後葉段階のものなので、中世段階の様相とは異なるものと推測されることを念頭におきながら、今回示した分布から中世段階の寺院の状況を見ていきたい。

県内において中世寺院は、分布に濃淡の差はあるものの甲府盆地全域、及び郡内地域では甲州街道沿い、または現在の市街地周辺を中心として分布する。中でも峡中地域から峡東地域、東山梨地域にかけては断続的に寺院の集中箇所が認められ、その中にも特定宗派による小集中区域がある。一方峡西地域のうち南アルプス市旧若草町から旧甲西町にかけて寺院が集中する傾向が顕著である。また全体として中世末から近世にかけて教線を拡大した曹洞宗寺院が全体の３割を、日蓮宗寺院が 1.5 割を占めるが、この時に他宗派から曹洞宗または日蓮宗へ改宗した寺院が相当数あると考えられる。

峡西地域では、旧若草町から旧甲西町を中心地域として、山岳地帯を除いて寺院が放射状に分布する。その核となるのは、真言宗の加賀美法善寺や西光寺、臨済宗の古長禅寺など古い由緒をもつ寺院である。加賀美遠光により創建され、武田信玄に厚く庇護された法善寺は、かつては 20 前後の塔頭が門前に立地した上、周辺には現在も、安養寺や不動寺・八幡寺など 7 ヵ寺程度の真言宗寺院が立地する。さらに西光寺は、峡西地域唯一の七堂伽藍を備えた真言宗寺院で、その一角に夢窓疎石が古長禅寺を創建したと伝えられる。西光寺の実態は明らかではないが、付近には西光寺のものとされる中世後半の石造物が所在する。また古長禅寺寺域内には、寺が創建された年代を遡る五輪塔がある。本調査で行った発掘調査では、古長禅寺北側に基壇を持つ大型建物跡を検出した。このような大型の建物跡は、県内では他に類例が認められない。これに加えて旧甲西町の大師東丹保遺跡では、13 世紀後半を主体とする支配者階層の屋敷跡が確認されている。これより北西約 500 m地点に立地する不動寺（第 15 図分布図 11 寺院番号 5037041）には、中世前期に位置づけられる石造物が所在し、大師東丹保遺跡との関連性を想定させ、支配者層と宗教の密接な結びつきを表す一例ともいえる。

峡中地域には、真言宗寺院に加え臨済宗寺院、中世後葉から近世に増加した曹洞宗・日蓮宗寺院の他、浄土宗・浄土真宗寺院が分布する。甲府盆地では親鸞の影響が及び、鎌倉時代終末に甲州市勝沼町等々力の万福寺・菱山の三光寺が浄土真宗に改宗されたのが始まりであるが、その後武田信虎・信玄により保護されたことで寺院数が増加した。上記の二寺が核となったことで、峡中東部から東山梨地域にかけては浄土宗・浄土真宗寺院が現在も数多く分布する。この地域に限っては、浄土宗・浄土真宗の寺院が曹洞宗・日蓮宗寺院の数をしのぐ。こうした状況から、峡中地域では府中北部に真言宗寺院がわずかに集中し、臨済宗寺院が点在する中、甲府市南部で小集

中区域が見られる。この一角を成す甲府市後屋町勝善寺（第 24 図分布図 20 寺院番号 2008125）は、夢窓疎石が開山した寺院で夢窓疎石の坐像・県内最古の宝篋印塔が所在する。

また甲府盆地の南西部である旧三珠町には、中世段階には甲府盆地でも屈指の大寺院であった平塩寺が所在したとされ、現在も真言宗寺院 15 ヵ寺程度が立地する。このうち薬王寺（第 25 図分布図 21 寺院番号 7046022）は、初期の檀林七ヵ寺の一寺である。こうして南西部から甲府盆地南東部に立地する山塊沿いに円楽寺（甲府市右左口町・寺院番号 2009005）・福光園寺（笛吹市御坂町・第 32 図分布図 28 寺院番号 1003036）・大善寺（甲州市勝沼・寺院番号 3018033）と真言宗の拠点寺院が立地する。

東山梨地域は、向嶽寺（第 31 図分布図 27 寺院番号 3017027）・恵林寺（寺院番号 3017008）などを核として臨済宗寺院の集中が目立つ。恵林寺の西側に所在する秩父往還は、武州・上野方面からの甲府盆地への入口ともいえ、防御的な役割も担っていたと推測される。また向嶽寺は臨済宗向嶽寺派を創設し、笛吹市八代町奈良原の広済寺（第 32 図分布図 28 寺院番号 1002003）・境川町大黒坂の聖応寺（寺院番号 1001012）を中本山とし、甲府盆地東部に多くの派閥寺院が分布した。

以上中世寺院の分布は、武田氏及びその一族、地元有力集団等との結びつきによる結果であり、その基盤は鎌倉時代に築かれている。しかし時間と共に各宗派の増減が生じており、またその現象は地域性も多分に含んでいることから、今後宗派ごとの寺院の増減については、時代ごとにさらに詳細に分析する必要がある。

第３節　中世寺院に見られる建物跡について

上記のように、県内で調査された中世寺院は 30 ヵ寺前後を数えるが、調査の多くは部分的で本事業の委員の一人である時枝務氏が指摘するように、中世寺院遺跡がどのようなものであるのか未だ明らかではなく、本調査でもその課題を明確にできなかったことは、担当者としておおいに反省すべき点の一つである。しかし発掘調査等や既存の調査で、様々な形態の遺構が検出されている。ここでは現時点で確認されている遺構を整理したい。

まず大型建物跡を有する形態の寺院について。本調査では聖応寺の本堂跡や古長禅寺北側でこれに類する遺構を検出した。また小井川遺跡や金桜神社奥社地遺跡においても、大型の建物跡を検出している。これらには聖応寺や小井川遺跡・金桜神社奥社地遺跡・旧羅漢寺遺跡等に見られるような礎石立のものや古長禅寺の版築を施した基壇を有するものなどに分類できる。

一方小型礎石建物跡を有する形態の寺院も散見される。聖応寺では周囲のみ礎石を用いた小型建物跡が検出されたが、長谷寺竜頭堂も同様の形態を持つ。また向山遺跡では石造物群の中に立地する礎石建物跡が所在する。いずれも小堂的性格が想定されており、大寺院とは異なる性格のものの存在を示唆する。

また深山田遺跡では、多数の掘立柱建物跡が検出された。現時点で他に類例が見られないが、中世寺院から近世寺院へ発展する宗教施設群として捉えられている。

第４節　おわりに

以上、本調査では分布調査と同時に踏査・発掘調査という方法でも個別に寺院のデータを収集してきた。発掘調査では、それぞれの遺跡に深い沿革や経緯があり、また踏査では背景や地域性など考慮すべき特徴が多く、すべてを紙面に反映することは難しかった。しかしこの調査により中世寺院の存在を再確認し、今後さらにデータを積み上げ、活用されるきっかけとなれば幸いである。

〈参考文献〉

山梨県立図書館　1969 『甲斐国社記・寺記』第二～四巻
佐藤八郎編　1971『甲斐国志』第日本地誌体系第三・四巻　雄山閣
甲府市　1991『甲府市史』通史編第一巻　原始・古代・中世
山梨県　2004 『山梨県史』資料編 7 中世 4　考古資料
山梨県　2007 『山梨県史』通史編 2 中世
山梨県立博物館　2006『祈りのかたち－甲斐の信仰－』山梨県立博物館開館一周年記念特別展図録

特　論

第１節　中世寺院遺跡の基礎概念

時枝　務

はじめに

今回、山梨県内の中世寺院遺跡の分布調査を進めるうえで、われわれがもっとも困ったのは、「中世寺院遺跡とはどのような遺跡なのか」という問いに十分に答えられないままに調査を開始しなければならなかったことである。この問題は、調査を終えた現在でも解決されていないのであるが、調査を進める過程で徐々に認識が深化したことも確かである。そこで、ここでは、考古学の視点から中世寺院遺跡を把握する際の基礎概念について若干の整理をおこない、今後の調査・研究の際の参考に供したいと思う。

１　寺院と仏堂

中世寺院を考えるうえで、最初に、明確にしておかねばならないのは、そもそも寺院とはどのようなものなのかということである。

寺院を『広辞苑』で引くと「寺」とあり、寺をみると「仏像を安置し、僧・尼が居住し、道を修し教法を説く殿舎。中国で『寺』はもと外国の使臣を遇する所の意。伽藍。蘭若。梵刹」と説明されていることから、仏･法･僧の３要素が揃った宗教施設であることがわかる。寺院は単に仏像が安置されているだけの場所ではなく、僧尼が居住し、仏法を説く施設であることが確認できる。『岩波仏教辞典』では、「寺院の建造物は、礼拝の対象を祀る〈堂塔〉と、僧衆が居住する〈僧房〉とに区分される」とし、それぞれが起源を異にするものであることがつぶさに解説されている。寺院は仏像などを祀る空間と僧侶が居住する空間が合体して成立したものであるというわけである。

ついで、考古学では寺院をどのように捉えているのかを知るために『図解考古学辞典』をみると、「寺院址」の項目でインド･中国･朝鮮･日本の寺院遺跡について概観した後に、日本における発掘調査の成果を踏まえて「これらの伽藍には塔、金堂、中門、回廊、講堂、食堂とその付属建物、僧房、鐘楼、経蔵、南大門等の諸門、その他の雑舎がみられる。通常地下に礎石、地覆石、基壇、建物の周溝、参道などがのこるのみであるが、礎石は往々とりさられ、わずかにその根石や掘立柱の跡が建物の旧規をしめすことがある」と記されている。これは古代寺院を念頭に置いたもので、そのまま中世寺院に適用することは避けねばならないが、寺院遺跡は堂塔と僧房をはじめとする多数の建物からなると考えられていることがわかる。

このような寺院の概念を敷衍すれば、中世寺院は、中世に機能した堂塔と僧房を併せもつ施設であり、その遺跡は基本的に複数の建物群によって構成されるということになろう。

ところが、今回調査された遺跡のなかには、単独の仏堂のみで構成され、それ以外に建物をもたないとみられる例が散見される。中世寺院が堂塔と僧房の複数の建物によって構成されるものであるとすれば、そのような遺跡をどのように取り扱ったらよいのかが問題となろう。

古代の場合、集落内から発見される単独の仏堂を「村落内寺院」と呼んでいるが、寺院と呼ぶことは正確な表現とはいえない。仏堂はあくまで礼拝施設であって、神を祀る小祠と同様な存在である。仏堂に僧房が伴って初めて寺院と呼ぶことができるのであり、仏堂のみの場合は、寺院と呼ぶべきではない。仏堂は寺院を構成する重要な要素ではあるが、単独で存在する場合には、寺院と明確に区別しなければならない。

最近、中世寺院遺跡についての包括的な論文を著した笹生衛は、「中世の仏教や寺院・堂の歴史を、考古資料を使って考える場合、大規模な伽藍・僧坊を持つ寺院のみでなく、一堂形式の小規模な仏堂も分析対象に含めなければ、中世仏教の実態解明にはつながらない」と的確に指摘している[1)]。中世寺院と単独の仏堂は、形態差や僧尼の存否に留まらず、宗教的な性格や担い手を異にしていた可能性が高い。両者ともに仏教的な施設であるからといって混同することは、遺跡の正確な理解を妨げるのみでなく、歪んだ歴史叙述を生み出す根源となる危険

を孕んでいる。

たとえば、今回調査した甲府市右左口円楽寺旧境内と富士河口湖町富士山二合目富士御室浅間神社境内の２箇所の行者堂は、いずれも役行者を祀った仏堂であるが、その性格はかならずしも同一であるとはいえない。円楽寺の行者堂は、奥の院とよばれる一画に六角堂・「馬の権現」堂・五社神社と隣接して営まれており、やや離れた地区には「坊寺」32 箇寺が営まれていた。「坊寺」は院坊であり、寺院の運営に携わる修験者が居住する僧坊としての性格をもっており、それらが一体となって円楽寺という寺院を構成していた。行者堂は、円楽寺一山の象徴的存在として、いわば本堂的な機能を果たす仏堂として位置づけられていた。それに対して、富士山二合目の行者堂は、聖地に設けられた独立した仏堂であった可能性が高いと考えられる。行者堂は小室浅間神社に隣接して営まれているが、すぐ下の平場にあった定善院によって管理されていた仏堂であるようにみえるが、定善院は時宗であったというから役行者を祀ったとは考えにくい。むしろ、富士山の聖地である小室浅間神社の周囲に、修験者が祀る行者堂や時衆の本拠地である時宗寺院が営まれたとみたほうがよかろう。

しかし、興味深いことに、円楽寺の行者堂の本尊である役行者像は夏季には富士山二合目の行者堂に移祀されたと伝えられ、実際像には移動の際に縄で固定されたような傷が残る。山岳登拝行の期間には富士山二合目で祀り、シーズンが終ると再び円楽寺に帰座するということが、毎年繰り返されていた可能性が高いのである。この風習は山の神と田の神の交替を連想させるものであるが、祭祀場所のあり方に注目すれば、円楽寺の行者堂が恒常的な祭場であるのに対し、富士山二合目の行者堂は臨時の祭場としての性格をもっていたといえるのではないか。そのことは、円楽寺行者堂が寺院の中核施設として機能していたのに対して、富士山二合目の行者堂が修行に際して祀る拝所の礼拝施設として位置づけられていたことを意味しよう。とすれば、円楽寺行者堂は中世寺院の一部、富士山二合目の行者堂は仏堂として理解できるのではなかろうか。

２　寺院と神社

第二に、検討する必要があるのは、寺院と神社の識別である。

神社を『広辞苑』で引くと「皇室の祖先や神代の神または国家に功労のあった人を神として祀ったところ」とあり、一般の民俗神を祀るような施設は神社ではないように記されているが、『日本民俗大辞典』では「神道の信仰にもとづいて神々をまつるために建てられた建物、もしくはその施設の総称」とし、『日本民俗事典』には「特定の集団が神を祀るための場所で、そこにヤシロやホコラなどの建物が設けられていることが多い」とある。『日本民俗大辞典』が建物を重視するのに対して、『日本民俗事典』は建物の有無にかかわらず場所を重視する視点に立っており、神社に対する考え方の相違が指摘できるが、いずれも『広辞苑』のような祭神の国家的性格を基準とすることはない。

神社とはなにかを明確にすることは、寺院の概念を整理する以上に困難で、神社建築の特色を正確に把握することもまた難しい。そもそも神社建築自体が仏教寺院の影響のもとに形成されたという経緯があり、しかも古い現存遺構が少ない状況で、礎石などしか残らない遺跡からどこまで判断できるのかという疑問がある。その解決は建築史家に委ねるよりほかないが、中世には神仏習合が進み、宮寺や神宮寺が各地で営まれたなかで、中世寺院遺跡が神社遺跡と無関係にはありえなかったことも確かである。

実際、今回の調査対象でもある山梨市牧丘町杣口金桜神社奥社地遺跡は、金峰山の里宮である金桜神社の奥社鎮座地周辺に所在する遺跡で、発掘調査の結果、東側に神社関連の遺構群、西側に寺院関連の遺構群が分布することが確認されている[2)]。東側の遺構群は、下から５号テラスの２号建物跡・２－２号テラス・２－１号テラス・１号テラスの１号建物跡などからなり、それらが石段で繋がっている。１号建物跡は拝殿、２号建物跡は割拝殿とみられることから、これらの遺構群が一体となって神社としての機能を発揮していたと推測できる。西側の遺構群は、３号建物跡・４号建物跡・５号建物跡が方形広場を囲むようにコ字形に配されており、３号建物跡を本堂とする寺院が想定されている。３号建物跡は３面に庇をもつ３間四面の礎石建物、４号建物跡は３間四面の礎石建物、５号建物跡は桁行４間梁行３間の礎石建物で、３号建物跡と４号建物跡は仏堂と考えられるが、５号建物跡の性格は明確にできない。あるいは庫裏的な性格をもっていたのであろうか。これら西側の建物群は、９－

２号テラスを中心にまとまっており、神宮寺としての性格をもつ可能性が高い。東側の遺構群と西側の遺構群は、全体として計画的にレイアウトされており、神社と寺院が空間的に分離されながらも、より高次元での統合が図られていたと考えられる。

今回の調査によって小菅村長作の古観音で検出された建物遺構は、付近に磐座とみられる育ち石などが存在することを勘案すると、神社に関連する施設である可能性があろう。もしそう考えてよいとすれば、13 世紀後半に建築された仏堂である長作観音堂と一体となって、中世寺院を構成していたと推測することができる。いまだ詳細は不明であるが、神祇信仰と観音信仰が習合した宗教形態を、中世寺院のあり方から読み取れる可能性がある。

ところで、こうした寺院と神社のあり方を考えるうえで重要な事例が、古代の山林寺院である香川県まんのう町中寺廃寺で知られている。中寺廃寺の伽藍を検討した上原真人は、寺院が３地区から構成されることに注目し、それぞれの地区の性格を、A 地区が仏堂と塔からなる中枢施設、B 地区が大川山信仰に関わる神社と修行僧の僧房、C 地区が民間信仰にもとづく「石塔」行事の根拠地であると推測した[3)]。中寺廃寺は、機能的に分化した３つの地区から構成されており、それぞれの地区が担っていた仏教・神祇信仰・民間信仰を統合するかたちで１つの寺院が成立したと考えたのである。中寺廃寺は 10 世紀を中心に栄えた古代寺院であるが、中世寺院の伽藍構成のあり方を先取りしている面があり、中世寺院における寺院と神社の関係を考察するうえでも参考となる。

寺院と神社は性格を異にする宗教施設であるが、両者は排除しあう性質のものではなく、中世寺院においてはしばしば両者が共存しつつ１つの宗教施設として維持されていた。神仏習合のもとでは、寺院と神社の異質性が認識されながらも、それ以上に両者を統合したより大きな宗教のあり方が模索されたのである。中世寺院では、神社や小祠が寺院を構成する要素として取り込まれ、全体として神仏を網羅した曼荼羅的な宗教観念に支えられながら、寺院の空間構成が生み出されたと考えられる。

３　寺院と城館

第三に、考えてみなければならないのは、城館との関係である。

城館は、城郭と居館を合せたことばで、『広辞苑』によれば、城郭は「①城とくるわと。また、城のくるわ。②特定の地域を外敵の侵攻から守るために施した防御施設」、館は「貴人や豪族の宿所または邸宅。たち。との」で、前者が軍事施設であるのに対して後者は居住施設であることが知られる。『歴史考古学大辞典』では、城郭の説明のなかで「元来、城と館は原理的に異なり、恒常的な城の成立以前である古代末から鎌倉時代においては、平時の政治・生活空間は、館（屋形）・家・宅などと呼ばれ、それに対して非常時の防御をもつ施設を城郭と呼んだ」とし、本来的には城が軍事施設、館が政治・居住施設であったとしている。軍事・政治・居住のための施設と宗教施設の識別がつかないことはありえないと思われるが、城館の特徴とされる土塁や堀を伴う中世寺院や敷地内に仏堂を伴う城館が存在するために、遺跡の性格を判断することが難しい場合が出てくる。

今回調査を実施した南アルプス市鮎沢の古長禅寺は、正和５年（1316）に夢窓疎石によって開山された寺院であるが、境内周辺に顕著な堀と土塁がみられる。堀と土塁が構築された時期は不明であるが、14 世紀に遡る可能性は低く、軍事的な緊張度が高まった 15 ～ 16 世紀の遺構である可能性が高い。境内からは発掘調査で桁行方向 41.25 m・梁行方向 14.80 mを測る長大な建物基壇が検出されており、講堂など寺院の建物であると考えられるが、構築時期が定かでない。この大型基壇の北側に接するように堀が東西方向に走るが、大型基壇との間隔が狭く、同時に存在した遺構とは考えにくい。基壇建物が 14 世紀の創建時に遡るものとすれば、それが何らかの事情で廃絶した後に堀が掘削され、土塁を伴う寺域の整備がおこなわれたことになろう。その場合、鎌倉時代に創建された寺院が、戦国期に防禦機能をもつように整備されたと考えてよかろう。

中央市布施小井川遺跡では、周囲に溝をもつ屋敷地内に、桁行９間・梁行６間の大型礎石建物、その東西に付属屋とされる小規模な礎石建物が配された状態が発掘されており、調査担当者は在地領主層の居館と考えた。大型礎石建物などは 16 世紀に築造されたものであるが、遺跡からは 14 世紀に遡る五輪塔や宝篋印塔などが検出されており、長期間にわたって供養の場として利用されていたことが確認された。大型礎石建物を主屋とみる

ことも可能であるが、居館の主屋としてはきわめて規模が大きく、寺院の本堂である可能性も否定できない。その場合、大型礎石建物が本堂、東側付属屋が庫裏に比定できよう。小井川遺跡のあり方は、寺院と城館の区別の困難さを示しており、考古資料に即した識別法の樹立の必要性を実感させる好例といえよう。

それらはいずれも寺院と居館の関連を示すものであるが、寺院と城郭が深い関係に置かれている事例として、大月市岩殿山を取り上げておこう[4)]。岩殿山は標高 637 mの低山であるが、山頂から山腹にかけて露出する鏡岩が存在することで、古くから近在の人々の信仰を集めてきた。東麓には大同元年（806）創建と伝えられる円通寺があり、応永 6 年（1399）から同 8 年にかけて奉納された大般若経によって 14 世紀末までには地域の信仰の拠点となっていたことが確認され、文明 19 年（1487）には聖護院の道興准后が訪れたことが「廻国雑記」にみえる。中世寺院としての円通寺の実態は不明な点が多いが、山麓の観音堂・三重塔・鐘楼を中心に、その前面の平坦地に大坊・常楽院などの院坊を配し、背後の岩殿山の山腹に七社権現・新宮を祀るものであった。岩殿山は円通寺境内の聖地として管理されていたとみられるが、16 世紀までには、山頂部に岩殿城が築城された。城郭はしばしば聖地に築かれることがあるが、敵が侵入しにくい神仏の領域に城郭を構えることで、防禦性を高めようとしたものとみられる。武田氏の「境目の城」として相模の後北条氏への睨みを効かせた城郭であった。武田氏が中世寺院を軍事的な目的で利用した例とみてよい。

このように、中世寺院と城館、とりわけ居館は、古代寺院と官衙の識別ほど困難ではない場合が多いが、一見類似した相貌を呈することがある。ある遺跡が、堀や土塁に囲まれ、大型建物を中心とした建物配置を採用することが確認できたとしても、それだけでは寺院か居館か判断できないのである。おそらくそうした外観の共通性は、寺院と居館がともに公的な性格をもち、地域の政治や軍事と深く関係していたことに由来するものと思われる。また、城郭は 15 ～ 16 世紀に中世寺院の一画にしばしば築かれるが、築城主体が戦国大名や国人なのか、それとも寺社が独自に設けたものなのか、十分な吟味が求められてこよう。

4　寺院と廟・墓地

第四に、考慮する必要があるのは、寺院と廟・墓地の関係である。

『広辞苑』によれば、廟とは「死者の霊を祭る所。霊屋。おたまや」のことで、死霊を祀る施設であるとされているから、かならずしも死体が埋葬されていなくてもよいらしい。宗派の開祖を祀る祖師堂や寺院の開山を祀る開山堂も一種の廟とみてよさそうである。廟が霊を祀る所であるのに対して、墓地は死体を埋葬する所で、『広辞苑』には「死者を葬って墓を建てる場所」とある。建てるというのは墓標を意識して言ったことばであろうが、墓標がなくても、死体が埋葬されていれば墓地と断定してよかろう。もっとも、埋葬とはいえない風葬や鳥葬などのいわば遺棄葬の場合は、葬地ではあっても墓地ではないとする意見もあろう。『日本民俗大辞典』では、墓を「死者の遺体が納められている場所およびその装置のこと」と規定しており、遺棄葬であっても死体が葬られた場所であれば墓地と把握してよい。しかし、「納められている」という表現には葬送儀礼の結果としてその場所に安置されているという含意があり、殺害されて遺棄された場合などが含まれないことはいうまでもない。どのような葬法であるかは問われないが、社会的に認知された葬送であったことが、墓地の条件であると理解できる。

そこで問題になるのは、高野山奥の院などの納骨は、はたして葬送なのだろうかということである。『広辞苑』には「遺骸を荼毘に付した上、その遺骨を容器に納めること。また、遺骨を廟所や納骨堂に納めること」とあり、前半は火葬骨の取り扱い方法を指し、後半は納骨習俗を説明するが、問題なのは後半の部分である。納骨習俗では、全部の遺骨が納骨されるわけではなく、分骨された一部の遺骨のみが納められるのが一般的である。そこで、分骨の項をみると、「遺骨の一部を分けて、他に移すこと」とあり、単に遺骨を分割するだけではなく、他の場所に移動することが記されている。つまり、基本的に、遺骨の大部分が埋葬された場所とは別の場所に、遺骨の一部を移すことが分骨なのである。一般に納骨習俗といわれているものは、より厳密にいえば、分骨習俗というべきものなのである。分骨の結果として、寺院などに納骨されるわけで、両者は一連の流れとして捉えなければならない。『日本民俗大辞典』では、納骨を「火葬後に拾骨して、遺骨を墓あるいは霊場に納めること」としており、おそらく大部分の遺骨が納められた場所が墓、分骨された一部の遺骨が納骨された場所が霊場というふうに、納

骨場所を区別しているのであろう。とすれば、分骨された遺骨の一部を納骨した場所は、墓地ではないのである。そこは霊場もしくは納骨場所ということになる。

中世寺院と墓地の関係を考える際には、墓地と納骨場所を厳密に区分し、それぞれについて別個に検討する必要がある。墓地の場合は葬送儀礼に寺院が関与したこと、納骨場所の場合は寺院が死霊の行き先として信仰されたことを示す。両者を正確に峻別しないと寺院に対する評価を誤ることになる。

ところで、寺院と墓地は、本来直接の関係を持たなかった。むしろ、清浄な寺域に死穢が及ぶことは、寺院の機能を全うするうえで障害となるものであったから、寺院では葬式をおこなわないのが本来のあり方であった。古代には、開山や開基などその寺院と特別な関係にある人物を除いては寺域に墳墓を営むことはなかったが、鎌倉時代になると高僧の墳墓の周辺に弟子などが墓域を営むことがみられるようになる。室町時代には、そうした風潮が俗人の間にも広まり、墳墓を営む階層の拡大とともに、寺墓が形成されるようになる。また、こうして寺院と墳墓が密接なものと認識されるようになると、逆に墳墓の脇に供養のための施設として寺院を創建する場合が出現する。そうして創建された寺院を、寺墓と区別して、墓寺と呼んでいる。畿内に典型的にみられる大規模な墓域である惣墓では、葬祭に関わる葬式寺とあくまでも供養のみに携わる菩提寺が機能的に分化し、葬式寺と菩提寺がセットとなって墓地をめぐる祭祀が執り行われることになる。

今回調査した笛吹市境川町大黒坂の聖応寺は康暦元年（1379）に無住道雲禅師によって創建され、その後応永年間（1394 ～ 1427）に黒坂五郎信光によって現在地に移されたといわれ、本堂跡の背後に開山堂跡と開山墓が残る。ここでは、廟としての性格をもつ開山堂と死体を埋葬した墓が一体となり、寺院のもっとも奥まった位置に配されたことが知られる。また、大和村棲雲寺は貞和４年（1348）に業海本浄によって創建された禅寺であるが、境内に観応３年（1352）７月銘の開山塔と文和２年（1353）７月 15 日銘の普同塔の２基の宝篋印塔があり、普同塔の地下から業海の骨蔵器と推定される常滑大甕が出土した[5)]。禅宗寺院で開山墓を営む風習は、塔頭が形成されると同時に始まったもので、地方寺院では寺院そのものが塔頭としての性格をもった可能性がある。ちなみに、塔頭は『広辞苑』に「禅宗で大寺の高僧が死んだ後、その弟子が師徳を慕って塔の頭（ほとり）に構えた房舎」とあるように、師僧の墓塔の傍らに建てた寺院を指して呼ぶことばである。

北杜市小笠原深山田遺跡は、複数の段状に連続するテラスから掘立柱建物・火葬施設・墓坑などが検出され、仏具である銅鋺などが出土したことから寺院遺跡と考えられている。そこからは、五輪塔・宝篋印塔・板碑など多数の石塔が発見され、葬祭に深く関わった寺院のあり方を窺うことができる。また、今回調査した南部町浄光寺では、裏山から五輪塔や宝篋印塔など多量の石塔が出土し、現在境内入口に立て並べられている。ほかにも境内から多数の石塔が発見された中世寺院遺跡は多いが、その大部分は、開山など特定の人物を供養したものではなく、檀家や信徒の墓地を境内に設けたものとみられる。深山田遺跡のように火葬施設をもつ寺院は、葬式寺としての機能を果し、周辺の地域社会において重要な役割を担っていた可能性が高い。葬式寺がいつ成立したかは重要な課題であるが、深山田遺跡では火葬施設が 15 世紀に出現しており、その頃が大きな転換期であったことが考えられる。中世前期と後期では寺院の果した役割に大きな違いがあった可能性が指摘できるのである。

おわりに

以上、中世寺院遺跡と仏堂・神社・城館・廟・墓地の関係について検討し、中世寺院遺跡の枠組みを明確にしようと試みた。その結果、さまざまな課題が次々と浮上してきたが、いずれも結論を出すことはできなかった。

また、納骨遺構や霊場などとの関係を論じ残したが、後日の課題としたい。

註

(1) 笹生衛 2007「考古学から見た中世の寺院と堂―東国の事例と変遷を中心に―」『中世寺院 暴力と景観』高志書院
(2) 山梨市教育委員会 2006『杣口金桜神社奥社地遺跡―山梨市牧丘町杣口地内の山岳寺社跡学術調査報告書―』
(3) 上原真人 2008「讃岐中寺廃寺の空間構造」『忘れられた霊場をさぐる3－近江における山寺の分布－』栗東市教育委員会
(4) 岩殿山総合学術調査会 1998『岩殿山の総合研究―県史跡岩殿城跡、旧円通寺跡及び岩殿山の自然―』大月市教育委員会
(5) 小野正文 1984「棲雲寺出土の常滑大甕」『丘陵』10 号

第 2 節　文献からみた寺院廃絶の実態

秋　山　　敬

1　『甲斐国志』に記載される寺院数

甲斐一国の寺院すべてを対象として記録した史料は、文化 11 年 (1814) の『甲斐国志』(以下、『国志』という) が最も古い。仏寺部を核とし、古跡部・神社部で若干補って重複を整理した上、Ⅰ (寺院)、Ⅱ (塔頭)、Ⅲ (仏堂) に区分して点数を拾うと別表のとおりである[1)]。

Ⅰの記載総数は 2,560 寺となるが、『国志』当時の現存寺院数を宗派別にみると、曹洞宗が 823 寺 (約 34.6％) と最も多く、臨済宗 431 寺 (18.1％) がこれに続く[2)]。したがって、禅宗だけで半数を超えることになる。次いで、日蓮宗 392 寺 (16.5％)、修験 351 寺 (14.7％)、浄土宗 142 寺 (6.0％)、真言宗 122 寺 (5.1％)、浄土真宗 75 寺 (3.1％)、時宗 21 寺 (0.9％)、天台宗 9 寺 (0.4％) の順になる。これに廃寺数を加えれば総数になるわけだが、現存数に対する廃寺の割合 (廃寺率) を求めると 7.5％となるが、表中の移転寺院 (内数) の旧地は遺跡的には廃寺と同じことになるから、(178 ＋ 81) ÷ 2,382 ＝ 10.9％となる。概していえば、『国志』は現存数に対して約 1 割の廃寺を拾っていることになる。一方、再興寺院 (内数) は廃壊した寺の跡地に時を経て新寺院を創建した数である。遺跡的には 1 ヶ所だが、寺としては 2 ヶ寺になる (表では 1 寺と計算した)。68 寺 (2.7％) が多いか少ないか判断できないが、伝承が記録されないケースも考えれば、意外と多かったようにも思われる。

Ⅱは、594 寺が記載される。塔頭を持つ寺院は 100 寺で、93 寺を付属する身延山久遠寺が最も多く、以下 43 の向岳寺 (臨済宗)、23 の善光寺 (浄土宗)、22 の法善寺 (真言宗)、20 の棲雲寺 (臨済宗)・聖応寺 (同)・一蓮寺 (時宗) と続き、1 塔頭のみの寺も 40 寺ある。宗派的には、日蓮宗 174・臨済宗 159・真言宗 88・浄土宗 73・浄土真宗 46・時宗 30・曹洞宗 20・宗派不明 4 となり、寺数の最も多い曹洞宗が塔頭数は極めて少ないのが目を引く。小規模な寺が多いことを意味するのであろうか。現存数に対する廃寺率は、132 ÷ 462 ＝ 28.6％となって、Ⅰに比べて 3 倍近く高い。Ⅰ・Ⅱを合わせると、おおむね 13.7％前後となる。

Ⅲは、85 堂が検出できた。これが境外仏堂のすべてとは思われないが、この中には、山寺村 (南アルプス市) の曹源寺を「相伝フ、小笠原長清、又左馬頭信家ノ開基ナリ、今林簿トナリ阿弥陀堂ヲ存ス」、心経寺村 (笛吹市) の心経寺を「寺ノ草創来歴審ナラズ、今廃跡ニ不動堂一宇存ス」、千米寺村 (同) の廃銭米寺について「釈迦堂ヲ存ス、(略)、故事伝ハラズ、楼門ノ礎存セリ」、下神内川村 (山梨市) の薬師堂を「昔宗光寺ト云古刹ナリシガ、天正壬午ノ兵乱ニ焼亡ス、(略)、跡ニ堂ヲ立ツ」と、廃寺跡に立つ仏堂であることが注記されるものが少なくない[3)]。『国志』の編者は、主として由緒は伝承を持つ仏堂を選択して記載したものと思われる。

以上、Ⅰ～Ⅲの計 3,239 ヶ寺が『国志』記載の総数である。

『国志』記載の寺院数一覧

	寺院の区分		宗派	府中	山梨郡	八代郡	巨摩郡	都留郡	合計
Ⅰ	本寺・末寺などと表記され、一寺として独立していたとみられる寺院	現存寺院数	天台宗		3		2	4	9
			真言宗	11	26	39	36	10	122
			浄土宗	13	48	38	28	15	142
			浄土真宗	1	39	12	5	18	75
			時宗	1	2	13	4	1	21
			臨済宗	14	119	74	108	116	431
			曹洞宗	13	129	204	407	70	823
			日蓮宗	12	19	82	271	8	392
			修験	36	82	65	165	3	351
			不明他	6	4	4	2	16	
			小計	101	473	531	1,030	247	2,382
		廃寺数	天台宗		5	3		4	12
			真言宗	7	4	9	1	1	22
			浄土宗	6	2	3	1	2	14

	寺院の区分		宗派	府中	山梨郡	八代郡	巨摩郡	都留郡	合計
			浄土真宗		2			1	3
			時宗			3		1	4
			臨済宗	3	6	1	2	6	18
			曹洞宗	1	2	1	9	13	
			日蓮宗	5		1			6
			修験	1	2	6	15		24
			不明他	14	19	13	16	62	
			小計	23	37	46	41	31	178
		合計	天台宗		8	3	2	8	21
			真言宗	18	30	48	37	11	144
			浄土宗	19	50	41	29	17	156
			浄土真宗	1	41	12	5	19	78
			時宗	1	2	16	4	2	25
			臨済宗	17	125	75	110	122	449
			曹洞宗	14	131	205	416	70	836
			日蓮宗	17	19	83	271	8	398
			修験	37	84	71	180	3	375
			不明他		20	23	17	18	78
			計	124	510	577	1,071	278	2,560
		（再興寺院）	小計	2	14	21	19	12	68
		（移転寺院）	小計	18	16	15	19	13	81
Ⅱ	塔頭（塔中）・寮舎・坊・房院・子院など境内に所在して寺院機能を補完する施設	現存寺院数		76	150	52	150	34	462
		廃寺数		17	51	25	35	4	132
		計		93	201	77	185	38	594
		（再興寺院）					3		3
		（移転寺院）			3				3
Ⅲ	堂のみが残ると判断できる境外仏堂	現存寺院数		1	12	16	13	25	67
		廃寺数		2	5	4	4	3	18
		計		3	17	20	17	28	85
		（再興寺院）			1			1	2
		（移転寺院）							0
	合計	現存寺院数		178	635	599	1,193	306	2,911
		廃寺数		42	93	75	80	38	328
		計		220	728	674	1,273	344	3,239
		（再興寺院）		2	15	21	22	13	73
		（移転寺院）		18	19	15	19	13	84

2　明治初年における寺院数との比較

一度創建された寺院が、すべて恒久的に存続するわけではないことはいうまでもない。『国志』が編纂された文化 11 年から 54 年後に明治維新を迎えるが、維新は社寺に対しても多くの試練を与えた。神仏分離が行われ、社寺の整理が強行されたからである。

旧修験帰入帰俗之義ニ付伺[4)]

修験宗之義自今被廃止候旨兼而御布告ニ付、当県管下甲斐全国旧修験之内本宗[江]帰入之寺院并帰俗之分其別紙写之通リ有之、取調候処不都合之筋[茂]無之、就而者願届共夫々聞届可然哉、右御差図有之度、此段相伺候也

明治六年七月　　山梨県権参事 富岡敬明 印（朱「富岡敬明」）

山梨県権令 藤村紫朗 印（朱「藤村紫朗」）

教部大輔 宍戸璣殿

これは、山梨県が廃止の決まっている修験について、帰入及び帰俗を申請どおり認めていいかどうかを伺ったもので、教部省はこれを許可している。こうして修験は天台宗と真言宗に振り分けられるが、財政基盤が弱かっ

たため、そのほとんどは廃寺の憂き目に遭う。一方、無檀・無住の寺院に対しても、

諸寺院中総本寺・本山ヲ除之外、無檀ニシテ無住之向ハ、自今渾テ被廃止候条、各地方官ニ於テ夫々廃止処分之上、宗名・寺号共詳悉取調教部省江可届出候事

但、仏像・什器等ハ本寺・法類之内最寄寺院江合附為致、堂宇・建物之儀ハ最初営造之次第ヲ追ヒ、官営ハ収公シ、私造ハ其人民所分ニ可相任、官私之別不分明之向ハ適宜ニ取計、跡地処置之儀ハ、総テ大蔵省江可伺出候事[5)]

と、廃止する方向で整理が進められている。

こうした寺院整理の結果は、明治 8 年の教部省達によって毎年国に報告されることになるが、本県では明治 9 年分からのものが残される[6)]。これを、『国志』の現存寺院数と比較してみよう。

	天台宗	真言宗	浄土宗	浄土真	時宗	臨済宗	曹洞宗	日蓮宗	黄檗宗	修験	合　計	仏堂
国志(Ⅰ)	9	122	142	75	21	431	823	392	4	351	2,386	85
国志(Ⅱ)		40	68	46	16	120	16	156			462	
国 志 計	(117)9	(234)162	210	121	37	551	839	548	4	351	2,848	85
明治9報告	41	157	107	98	14	341	578	443	3	0	1,780	101
減 少 数	85	239	103	23	23	210	261	105	1	351	1,068	▽16
廃 寺 率	207.3	152.2	49.0	19.0	62.2	38.1	45.2	23.7	33.3	-	60.0	
減 少 率	32.5	39.6	51.0	81.0	37.8	61.9	68.9	80.8	75.0		62.5	118.8

天台宗と真言宗は明治 9 年報告のほうが数が増えているが、それは天台宗に本山・羽黒派修験、真言宗に当山派修験が記入したためで、その数を(　)で示したが、これを加えて計算すると、廃寺率では天台宗が現存数の 2 倍、真言宗が 1.5 倍以上となり、数は天台宗が『国志』時代の 32.5％、真言宗が 39.6％と大きな影響を受けたことがわかる(実質的には、修験廃止に伴う結果だが)。一方、日蓮宗は『国志』Ⅰの数字だけみると、明治の報告のほうが 51 寺、浄土真宗も 23 寺増えている。先に示した方針の中では増加する要素はないから、檀家を持つ有力塔頭等が独立寺院として認定された結果であろう。その結果、寺院数に関していえば、修験を含めた天台宗・真言宗及び時宗がその数を大きく減らし、浄土真宗・日蓮宗が比較的軽微で済んだといえよう。なお、仏堂は明治 13 年後期から「境外仏堂」として登場するが、翌年、県は「一寺院ニ非ザル堂庵類」の原則廃止を打ち出している[7)]。

これらの点を加味して作成したのが上表であるが、はじき出された廃寺率は 60.0％となり、『国志』段階での廃寺率 13.7％よりも 4 倍以上も高いことがわかる。約 90 年後の昭和 42 年 1 月刊行の『山梨県宗教法人名簿』(県文書学事課)に載る仏教系法人数は 1,456 だから、明治 9 年以降の減少率は 81.8％となり、廃寺の割合は 2 割にも達していないから、いかに明治維新が寺院の存廃に大きな影響を与えたかがわかろう。

3　中世寺院の廃絶状況

このようにみてくると、『国志』に載る廃寺数 391 寺(現存寺数の 13.7％)が、それ以前の実態を必ずしも反映しているといえないことは容易に想定できる。しかし、中世寺院数を集計した史料があるわけではなく、その全容は推測することさえ至難の業である。そこで、本稿では時宗の一蓮寺(甲府市太田町)に残される『一蓮寺過去帳』を使い、同寺塔頭の変遷を追うことによって類推してみよう。

過去帳は 3 冊からなる。記載の体裁は、まず法名が記され、必要に応じて年月日・俗名・地名・役職・職業・入帳の事情等が付記されるが、中に塔頭とおぼしき〇〇庵・〇〇院・〇〇軒などと記録されるものが少なからずある。最も記載回数の多いのは願生庵(願勝庵・願称庵)で 15 回、2 回以上記載されるのが願生庵も含めて 43 寺である。初見と終見のあるものはその間は存続し、1 回のみのものは記された年代が属する 10 年間だけ存続したと仮定し、10 年単位での塔頭数の変遷を整理すると次表のとおりとなる。

西暦	1360〜1369	1370〜1379	1380〜1389	1390〜1399	1400〜1409	1410〜1419	1420〜1429	1430〜1439	1440〜1449	1450〜1459	1460〜1469	1470〜1479	1480〜1489	1490〜1499	1500〜1519	1510〜1519	1520〜1529	1530〜1539	1540〜1549
塔頭	4	4	4	4	4	4	4	6	8	8	11	16	16	17	20	23	22	24	27
西暦	1550〜1559	1560〜1569	1570〜1579	1580〜1589	1590〜1599	1600〜1609	1610〜1619	1620〜1629	1630〜1639	1640〜1649	1650〜1659	1660〜1669	1670〜1679	1680〜1689	1690〜1699	1700〜1710	国志	寺記	明治11
塔頭	38	58	64	56	58	52	58	37	32	25	19	13	11	10	8	6	7	4	0

一蓮寺の創建は正和元年(1312)だが、過去帳記載の塔頭の初見は永享10年(1438)4月17日と翌年4月15日の法王院で、創建とともに塔頭が創建されたかどうかはわからない。ただ、明治初年まで残った梅柳庵・東光院・玉樹院・福生院の4寺は正和2〜4年創建の由緒を持つから[8]、一応それに従って4塔頭で始まったと考えることにしたい。一蓮寺の歴史をたどると、永享年間(1429〜41)に焼失したことが想定されている。永享6年(1434)12月25日没の6世上人の跡を継いだ7世が過去帳を再製しており、また、文安3年(1446)には守護武田信重が客殿造営を督励しているからである[9]。表をみると、再建中の1440年代に塔頭数が増え、60年代には10を超えている。当寺は明応5年(1496)にも焼失したことが知られるが(『王代記』)、再建成ったとみられる1500年代から塔頭数が20台へと上がる。1560(永禄3)年以降は塔頭50寺以上に跳ね上がり、1610年代まで続く。1560年代は武田信玄の時代で、領国拡張期に入っており、武田氏の本拠甲府城下が最も発展した時期である。甲府城下に接して門前町を構えた一蓮寺にもその影響は及んだに違いなく、1570年代に最多の64寺を記録するのも理由なしとしない。この塔頭の多い期間に、一蓮寺は武田氏の滅亡と一条小山から現在地への移転を経験する。移転時期は加藤光泰が国主だった時というから(『一蓮寺過去帳』)、天正19〜文禄2年(1591〜3)頃となる。これは甲府城の築城開始時期からいっても納得できるが、移転時期が塔頭数の動きとは連動せず、減少は1620年代に始まり、以後急速に数を減らしていく。理由ははっきりしないが、後住を認めないという形で塔頭数を調整したとすれば、住職が死を迎えるまでの期間を措いて、減少が20〜30年遅れて始まるのは説明できよう。過去帳の記載は宝永2年(1705)を最後とするから、その後の変遷は同じような形で追うことはできないが、約100年後の『国志』は寮舎(塔頭)20を掲げるものの現存は7寺とする。このうち、現存の幸福院と廃寺となっていた慶生庵・浄慶庵を除いた17寺は過去帳にも記載されており、過去帳記載の院・庵・軒が同寺塔頭とする理解を助ける形になっている。不記載の3寺はその後造立され、幸福院のみが『国志』段階まで存続したと解し得よう(別の解釈も可能だが、ここでは一応このように解しておく)。7寺のうち4寺が明治維新を迎えたが、玉樹院・福生院が一蓮寺への合寺を許可された明治11年(1878)4月2日をもってすべての塔頭が姿を消した[10]。

以上のように考えられるとすると、塔頭の増減は一蓮寺の歴史とも整合しており、その数は絶対数ではないものの、大方の傾向は反映しているといえよう。『寺記』の由緒では、塔頭について「往昔旧地ニ御座候砌者、三拾六ヶ院御座候」と述べているように、一条小山時代には塔頭が36寺あったという寺伝を記録する。表中の64寺はそれよりも多いが、不自然という数字ではない。『国志』段階で7寺となっていた一蓮寺塔頭は中世では64寺の時期があったとすれば、9倍もあった計算になる。塔頭のほうが一般寺院よりも廃寺率が高い(約3倍)ことは、1でみたとおりだから、これを当てはめれば(9倍÷3倍)、中世寺院数は3,239×3＝9,717寺となる。

では、別の角度でみてみよう。『山梨県史』資料編(中世)に収載される史料を中心に[11]、天正20年(1592)以前に作製された史料に記載される寺院を拾うと、652寺を数える。これを『国志』記載寺院と比較すると、現存寺院に相当すると考えられるものが203寺、廃寺として記載されるものが65寺、載っていないと判断できたものが376寺、判断に迷うものが8寺となる。不明の8寺を除けば、記載が確認できる寺院数が268寺(41.6％)であるのに対し、記載されないものが376寺(58.4％)となり、『国志』に記載されない寺院が、記載確認寺院

の 1.4 倍も中世には存在した計算になる。もちろん、あくまでも計算上の数字でしかないが、3,239 ＋ (3,239 × 1.4) ＝ 7,773 寺がはじき出され、一蓮寺塔頭から割り出された数字と近似している。実数はともかく、現在に伝えられていない相当数の中世寺院の存在したことは認められるであろう。

まとめ

中世には、現存寺院数の数倍、『国志』記載寺院数の 2 ～ 3 倍の寺院が存在した可能性を指摘した。もちろん、旧寺跡に新寺が再興されたり、寺名の改称のみで寺としての実態に変化のない場合も少なからずあろうから、寺院数 (寺名数) がそのまま遺跡数というわけではなく、また、修験などは日常生活の住居をそのまま宗教活動の場としているケースが多いとみられるから、遺構から宗教施設と判断できないこともあろうかとは思うが、我々の想像以上に廃絶寺院が多いことが予想される。寺院の存在がまったく想定されていなかった小井川遺跡で、戦国期の寺院遺構が確認されたことは記憶に新しい [12]。廃寺数の想定からすれば、こうした事例は今後も十分、且つしばしば起こり得ると考えられる。

県内の中世寺院分布調査は、本報告書の刊行をもって一応の決着をみるが、より充実したものにしていくためには、今後も旧地や廃寺の所伝聞き取りなど、日常的な継続調査が望まれよう。

註

(1) 『甲斐国志』は雄山閣出版から出版された (5 巻、昭和 43 ～ 57 年)、いわゆる「雄山閣本」を用いた。
(2) %は小数点第2位を四捨五入。以下同じ。
(3) 曹源寺は 2 巻 324 頁、心経寺は同 244 頁、銭米寺は 3 巻 253 頁、薬師堂は同 238 頁。
(4) 山梨県立図書館架蔵県行政文書「明治六年院省寮伺」(行1 1-7 M 6-7) 所収。本山派・羽黒派は天台宗、当山派は真言宗への帰入が決まっていた。帰俗は僧籍を離れて俗人になること。
(5) 県行政文書「社寺御用留」(9-2 M 3-2) 所収。年紀を欠くが、明治 5 年頃と推定される。
(6) 明治 10 年 2 月 15 日明治九年分寺院廃立并住職進退届 (「明治十年内務省届 乾」〈行1 1-1 M 10-2(1)〉)。同様の届は明治 20 年分まであるが、総数は 1,759 ヶ寺で動きは微少であるので、9 年分で比較することとする。
(7) 明治 14 年 6 月 2 日山梨県布達甲第 77 号 (「峡中新報」明治 14 年 6 月 7 日)。
(8) 県行政文書「浄土宗・時宗・天台宗寺院明細帳」(行 1 9-2 M 5-5〈3〉)。福生院が正和 2 年 2 月 13 日、玉樹院が同 4 年 3 月 15 日、梅柳庵が同年 4 月 13 日、東光院も同年 8 月 5 日と記録される。
(9) 文安三年三月武田信重奉書 (一蓮寺文書、『山梨県史』資料編４・18 号文書)。
(10) 明治 11 年 3 月 12 日合寺之儀ニ付伺 (「明治 11 年従1月至4月内務省指令書 壱」〈行 1 1-1 M 11-1(1)〉)。梅柳庵・東光院は明治 6 年 9 月頃廃寺になったものと推定される (「浄土宗・時宗・天台宗寺院明細帳」)。
(11) 『山梨県史』資料編 4 ～ 7 の他、県史不記載の『戦国遺文』及び『徳川家康文書の研究』上巻の収載文書、『武田氏研究』34 及び 38 号収載の高野山過去帳から、甲斐国所在と考えられる寺院を収集した。なお、『一蓮寺過去帳』所載の寺院は、多くが塔頭の分析と重複するため除外している。
(12) 『小井川遺跡Ⅲ』(山梨県教育委員会・山梨県土木部、2008 年)。

第３節　文献史学からみた中世前期甲斐の寺院研究の課題

高橋一樹

はじめに

2008 年度までの 5 カ年におよんだ山梨県内中世寺院分布調査（以下、本調査と呼ぶ）は、『山梨県史』の編纂が最終段階をむかえつつある段階で開始された。発掘調査の成果により年々、新しい資料と情報が蓄積され、研究の成果が更新されていく考古学に比べ、中世の文献史学では古文書を中心とした新出資料が頻繁に望める状況ではない。このため､広く県内外に散在する中世甲斐国関連の文字史料を現段階で網羅的に集成した『山梨県史』資料編 4 ～ 7 の刊行は、本調査に文献史学の立場からかかわる者にとっては最大の導きの糸となった。

『山梨県史』資料編中世の編纂にあたって、網野善彦は「甲斐の中世文書」[1] と題した総説でつぎのように述べている。山梨県内に現存する中世文書、またはある時期まで伝来していたことの確実な中世文書は、他県の状況と比較しても、鎌倉・南北朝期の文書、応仁・文明以前の室町期の文書がわずかな寺院・神社に例外的にしか残されていない。同時期の武家文書にいたってはほとんどみられない。一方、戦国期・織豊期（おもに 16 世紀）の文書は、写本や刊本の収録例も含めて膨大な数が残されている。こうした伝来文書の偏在性じたいに、甲斐中世史の特質を解明する重要な手かがりがあるのではないか、と。

網野の鋭くて重い、この指摘を本調査に即して考えるならば、中世寺院を対象とする本調査の大きな課題のひとつは、そうした文献資料の制約を乗り越えて、考古学と文献史学などとの協業にもとづき、中世前期の甲斐における寺院の様相をできるかぎり把握することにあったといえよう。網野の死後、『山梨県史』資料編中世の編纂が県外文書と県内外の記録に進み、近年の歴史学界で最も注目を浴びて研究成果をあげている寺院特有の史料群、いわゆる聖教・経典への目配りも現状で可能な範囲でなされたこと、とりわけ県内の寺院のみならず、後述する名古屋の大須真福寺所蔵聖教の奥書など、中世前期にさかのぼる甲斐国内の寺院をめぐる興味深い情報がまとまって紹介されたことは、上記の課題意識のもとに新たな研究を進めるうえで欠かせないポイントとなるものである。

本稿は、そうした『山梨県史』資料編の成果に多くを依拠しつつ、本調査が基礎データとした、19 世紀に成立した近世甲斐の地誌である『甲斐国志』の記載内容をもふまえて、本調査の過程で考古学的手法による調査が行われた円楽寺の前身と考えられる七覚寺（五所権現）や富士山二合目の行者堂推定地と、逆に発掘調査が今後の課題とされた横根寺の 2 例をおもに取り上げ、文献史学の立場からコメントを加えたい。というのも、この 2 つの寺院は、中世前期の甲斐国を特色づける、中央権力との関係を含めた交通体系を解明していくうえで、現段階ではもっとも重要かつ典型的な事例と考えるからである。

1　七覚寺にみる南北交通と寺院

尾張大須真福寺所蔵の聖教奥書は、一部はすでに『大日本史料』等で翻刻され、『真福寺善本目録』でも元徳 3 年（1331）の「甲州八代郡向山郷七覚住侶僧寂厳」書写奥書などが紹介されていたが、近年の同寺所蔵史料の全面的な調査成果をうけて、『山梨県史』資料編 6 中世 3 下県外記録に「横根寺」「法善寺」など甲斐国関係分がほぼ網羅的に収録された。これらは、従来ほとんど知られることのなかった中世前期の甲斐における顕密寺院（とくに密教系）とその法流、さらに当時の政治秩序や地域編成のあり方との関係を考えるうえで、きわめて注目されるものである。

そのなかで最初に取り上げたいのは、八代郡向山郷の七覚山（七覚寺）である。単に「七覚」とも表記される同寺は、中世の富士信仰と深く結びついた五所権現（現在の五所神社）と一体であり、数多くの院坊から構成されていた。右左口に現存する円楽寺（五所神社の別当寺）は本来、この七覚山（七覚寺）を構成する一寺院であったと考えられ、中世寺院としては五所権現を含む七覚山で把握されるべきである。それは、山梨市万力の金桜神社（大宮権現、金峯権現とも）に所蔵される宝殿永正三年修理棟札に、「彼棟札、七覚山五所権現□□修理」

とあることからも裏付けられよう。

本調査においては、七覚寺の後継寺院である円楽寺の六角堂および富士山北口の御室（二合目）の行者堂推定地について発掘調査を行い、また行者堂に安置されていた鎌倉末期の修復銘をもつ役行者像ともかかわる重要な寺院である。上記の大須真福寺聖教奥書（元徳 3 年）によって、この七覚寺が金沢北条氏の有力被官向山氏の本拠地に立地しており、そして同寺の住僧が尾張国の真福寺などと交流していた姿が浮かび上がってきた。

そもそも七覚の地は、信濃・甲斐・駿河を南北に結ぶ中道往還沿いに位置し、中世を通じて、政治・経済上の要地としての性格を一貫して持ち続けたことが各種史料から明らかである（『角川地名大辞典山梨県』など参照）。とりわけ、中世後期になるが、六十六部廻国聖の納札所として甲斐であげられているのが、この七覚寺と後述する横根寺であった。七覚寺がもつ宗教的な拠点としての性格と、そこに立地する、富士信仰と結びついた五所権現の列島規模での位置づけが注目されるところである。

七覚寺と一体の五社権現は、熊野・金峯・白山・伊豆・箱根の各権現から構成されている。周知のように甲斐には、9 世紀前半の開山の伝承をもち 10 世紀の信仰遺物が確認される金峰山（山頂の蔵王権現）がある。そして、中世の金峰山への登拝路のうち、富士山を含めた甲斐国内の主要な霊山の尾根筋を縦走する入峰修行で使われた主要な 4 ルートの登拝口（杣口・万力・吉沢口・小笠原）には、大宮七社権現（金峯・白山・熊野・新宮・那智・走湯・箱根）や五社権現（熊野・新宮・那智・白山・箱根）、大宮七社明神などが立地している[2)]。とくに杣口には、著名な柏尾経塚から出土した康和 5 年（1102）銘経筒内の経典が書写された「米沢寺」（米沢山雲峰寺）が、9 世紀中葉の創建時に大和金峰山から勧請したという蔵王権現を鎮守として 16 世紀まで存在した[3)]。また、同経塚のある柏尾には中世の役行者像を伝える大善寺があり、その鎮守五所権現（熊野・新宮・那智・伊豆・箱根）が中世前期には確認できる[4)]。一方、七覚山の五所権現（熊野・金峯・白山・伊豆・箱根）は、熊野系の修験拠点ではあるが[5)]、甲斐金峰山の蔵王権現（金峯権現）を中心に富士山などを結ぶ回峰ルート＝甲斐の国峰とはやや異なる回路によって成立したように思われる。それは、どのようなもので、いつころの動きと考えられるであろうか。

熊野信仰と伊豆・箱根権現との強い結びつきは、近年の研究によれば鎌倉時代末期には確認できるとされており、さらに 16 世紀後半までには、伊豆・箱根権現に三島大明神を加えた二所三島参詣と熊野信仰との融合が確認されている[6)]。ただし、白山社の牛玉宝印を使った、建武 2 年（1335）以下の東大寺領美濃国茜部庄百姓等連署起請文（3 通）[7)]をみると、神文の部分に「熊野・白山・伊豆・箱根・三嶋権現」とあり、少なくとも鎌倉時代末期の美濃国では、北部からの白山信仰にともなわれるかたちで熊野・白山・伊豆・箱根・三嶋からなる五所権現が百姓レヴェルの信仰対象として確立していたことが知られる。

この事実に加えて、前述した山梨市万力の金桜神社（大宮権現）所蔵の棟札によると、熊野・金峯・白山・伊豆・箱根からなる五所権現の社殿成立は 12 世紀末とされ、また七覚寺・五所権現の差配する行者堂がおかれた富士山二合目の御室浅間神社にあったとされる、日本武尊像および女神像の文治 5 年（1189）・建久 3 年（1192）の銘から伊豆権現（走湯山）覚台坊覚実との関係も指摘されている[8)]。七覚の五所権現の成立は、平安末期以前にさかのぼる可能性がきわめて高いといえよう。すなわち、12 世紀初頭には確実な史料上で確認できる熊野先達の太平洋海運ルート上での活発な活動[9)]などを通じて、畿内で成立していた熊野・金峯・白山の三権現に対する信仰が伊豆・箱根権現と融合し、さらに伊豆（走湯）権現（鎌倉時代の同権現における白山講の信仰対象とされた不動明王が現存する）の真言僧の直接的な影響下[10)]のもとに、中世成立期における富士信仰の甲斐国内における拠点として、駿河・甲斐・信濃を結ぶ南北交通の動脈ともいうべき中道往還の要地＝七覚で五所権現が設立された、というように推測したいのである[11)]。

本調査による発掘調査で、七覚寺・五所権現の管轄下にある富士山二合目の行者堂の推定地から 12 世紀の土器が出土している事実もふまえ、同じく甲斐国内に所在する他の五所権現を含めて、中世における伊豆・駿河・甲斐・信濃の南北交通（さらには越後を経て日本海沿岸を通じた加賀白山とのつながりも視野に入れた列島縦断ルートとして）とのかかわりから、この七覚寺と五所権現の問題を今後さらに考えていく必要がある。

2　横根寺の成立と東西交通

真福寺所蔵聖教史料がもたらした、もうひとつの衝撃は、横根寺の発見である。すでに『山梨県史』解題でふれられているとおり、横根寺は山梨郡横根の浄土宗光福寺（近世には伝行基作十一面観音、伝弘法大師作正観音が伝存していたという）の前身寺院にあたると考えられる。『甲斐国志』によれば、この寺院は新羅三郎（源）義光が嘉保２年(1095)に空源を開山として真言宗の寂静院を創立したことにはじまり、天文 16 年(1547)に再建され寺号も改め浄土宗に転じたという。創立についての厳密な時期や新羅三郎義光との関係は不明とせざるを得ないものの、この真言系寺院としての寂静院の名が近世の地誌に伝承されていることはきわめて興味深い。

というのも、中世の真言系の「寂静院」といえば、高野山金剛峰寺の院家である寂静院（一心院）の名がすぐに思い浮かぶからである。そして注目されるのは、大須真福寺の横根寺関係聖教史料の書写系統の多くが、高野山金剛三昧院→高野山一心院（寂静院）を経て、鎌倉後期の横根寺における能信（大須真福寺の開山、武蔵国日野の高幡金剛寺を中興した儀海の弟子）の書写に至っている事実である[12)]。

これらのことから、『甲斐国志』にある山梨郡横根の寂静院の伝承は一定の史実を伝えるもので、おそらく同院は中世の横根寺を構成する一寺であり、鎌倉後期に高野山の金剛三昧院や寂静院（一心院）と能信らの法流を介して密接に交流していただけでなく、その建立自体が高野山寂静院（一心院）の強い影響下に行われた可能性も示唆される。

高野山寂静院は源頼朝の子息である高野法印貞暁が創立したもので、貞暁自身は仁和寺勝宝院の院主をつとめた。金剛三昧院が高野山における鎌倉幕府の宗教センターともいうべき役割を担っていたこと[13)]も周知のとおりである。こうしてみると、古代以来の交通の要衝に立地する横根寺（寂静院を含む）は、仁和寺御室に統括される真言密教の法流がとりもつ僧侶や文物のネットワークのもとに、京都・紀伊（高野山）・尾張・甲斐・武蔵・鎌倉をつなぐ東西交通の結節点としても位置づけることができよう。

中世甲斐の荘園には、京都深草の法勝院領である市河荘（当初は免田荘園）や御室領である稲積荘をはじめ、仁和寺領荘園が比較的多くみられる[14)]。都鄙間交通を前提とした中世荘園の経営は、とりわけ現地経営の拠点として寺院を組み込む場合が多い。仁和寺領荘園の例でいえば、越中国石黒荘の柿谷寺が著名である[15)]。甲斐国の場合、寺院であるか否かは不明だが、鎌倉期の稲積荘（本荘・加納）には、仁和寺御室の本所年貢を集積する地頭政所の存在が知られ、朝廷と幕府の協調のもとで鎌倉幕府が実質的に統制しながら荘園年貢の収取・納入が行われていた[16)]。このような仁和寺荘園の経営と、横根寺（寂静院）のような幕府権力とも結びついた真言系寺院の創立・存続との関係を意識的に追究することが必要である[17)]。

なお、中世成立期における甲斐と仁和寺との関係の深さに加えて、鎌倉時代以降の幕府権力と甲斐の寺院は密接な関係にあるようで、その具体相については、別の機会に考察を深めることとしたい。前述のように、源頼朝や鎌倉幕府とのつながりが棟札や聖教などを通じて垣間見える七覚寺（七覚山）と横根寺（寂静院）は、やはり頼朝と強く結びついた由緒で語られる六十六部廻国聖の甲斐国内における納札所２ヶ所であるし[18)]、関東御祈祷所大善寺や東光寺の同時代史料、さらには牧荘などに色濃く残る二階堂道蘊（鎌倉幕府末期の有力史僚の足跡などが手がかりとなろう。

ただ、京都－鎌倉の公武政権によって維持された荘園制的な国家的秩序と、その前提となる都鄙間交通を背景に創立・維持された横根寺（寂静院）のような寺院は、『甲斐国志』に載せる伝承（天文 16 年に浄土宗寺院として再興）が語るように、おおむね 15 世紀後半から勢力が衰え、その多くが 16 世紀に廃絶していったと考えられる。これは前述した網野善彦の指摘のように、寺院に限らず甲斐国内に残る中世文書の特徴的な伝来状況と通底しているはずで、この大きな課題への取り組みを具体化させるためにも、本調査では実施できなかった横根寺の発掘調査等、考古学の研究成果との比較検討が急務となるであろう。

おわりに

以上、論題とは大きくかけ離れた、しかも中世前期の仁和寺・高野山ら真言密教系の寺院や幕府権力との接点

ばかりに集中してしまったが、それは本調査に関わらせていただいたことを機縁に、これまでも甲斐の歴史のなかで史料的制約ゆえに課題として掲げられてきた中世前期の問題、とくに交通体系の実態を含めた中央権力との関係について、寺院を通じて考えてみたい、という関心にもとづくからにほかならない。断片的な事例の羅列に終始した本稿の行間から、わずかでも一般化に寄与しうる方法論的内容を読み取っていただけると幸いである。

なお、中世寺院に関して文献史学と考古学の接点になりうる論点のひとつとして、最後にあげておきたいのは、湯屋の問題である。近年、文献史学・建築史学の分野のみならず考古学でも貴重な遺構発掘がつづき、中世寺院の宗教（潔斎や勤修の場）・政治（集会や蜂起の場）・経済（金融）すべてにかかわるセンター的機能や、寺院をとりまく周辺地域・民衆との接点として注目される湯屋であるが、14 世紀前半の回禄記録にみられるとおり中世の大善寺にも「五間」の「温室」と湯釜の存在が確認でき[19]、甲斐国内の他寺院でも同様な施設が立地していたと考えられる。今後、本調査をふまえて各地の中世寺院遺構の確認が具体的に進められていくなかで、この湯屋への着目はもとより、それにかかわる伝承や関連地名（たとえば旦過など）の収集[20]なども、意図的に行っていくことが必要である。

また、仁和寺のような首都京都および畿内近国に所在する権門寺社から未知の史料が新出する可能性も十分に期待できる。最近の例では、丸島和洋氏によって紹介された、高野山成慶院『甲斐国供養帳』中の最も古い時期（16 世紀前半から 17 世紀半ばまで）の記事を有する『過去帳（甲州月牌帳）』[21]に、中世末期～近世初期の甲斐国内に実在した寺院の一部が登場する。丸島氏作成の釈文からその寺院名と所在地名を抽出すると、

サイカシ（小松）、地蔵院（東郡・山梨郡桑戸）、円通寺（嶋　甲府か）、来迎院（市川野中）、宝積院（桑戸）、七覚山、観音堂（平井）、宝聚寺（市河野中）、神宮寺（別保）、三輪寺（西郡）、常楽庵（東郡カウチ井ト）、神宮寺（市川）、金蔵寺（松本）、福寿院（市河）、石水寺（塩部郡、府中）、積翠寺（府中小松庄）、長徳院（市川カワウラ）、長宝寺（府中小松庄）、大蔵寺（府中御ミタイノ）、長法寺（府中）、トウヨウ坊（曾根芋沢）、鎮目宮（河東）、薬王寺（府中）、観音堂（モトス）、金光寺（市河）、善光寺（板垣）、善福寺（市川野中）、多門院（千塚）、広徳院（八代郡アイサワ郷）、持宝坊（府中）、長福寺（巨麻郡千塚郷塚本）、瑞泉寺（府中柳小路）、覚照院（嶋上条　中巨摩郡か）、

となる。文献史料からみた甲斐中世寺院研究の課題は、本稿でもその一端を試みたように、おもに県外所在の史料にある断片的な情報と、『甲斐国志』等の近世における伝承も多分に含んだ豊富すぎる情報との間隙を、どのようにして埋めていくかにある。上記の中世末～近世初頭における高野聖の活動を通して史料の世界に浮かび上がった寺院の姿は、ごく一部であるとはいえ、そうした中近世間の間隙（とくに武田氏領国としての秩序の解体から近世の幕藩体制の成立過程における寺院の存在）を埋めていく具体的な手がかりとなる。『山梨県史』の達成と課題をふまえて、さらに考古学や宗教史、美術史などの隣接分野と協力しながら、新たな史料の開拓と既知の史料を再検証する作業の繰り返しが求められる。

注

(1) 網野善彦「総説」（『山梨県史』資料編 4 中世 1 県内文書、1999 年）。
(2) 山本義孝「甲斐における山岳信仰の研究の展望」（『帝京大学山梨文化財研究所報』第 46 号、2003 年）
(3) 『山梨県史』通史編 2 中世第十一章第三節「金峰山信仰の展開」の「信仰の歴史」（櫛原功一執筆担当分、山梨県、2007 年）。
(4) 柏尾山大善寺の鎮守五所権現（熊野・新宮・那智・伊豆・箱根）の成立は『甲斐国志』等によれば 11 世紀末というが、現存する確実な文書では 13 世紀後半になる。大善寺文書、正中 3 年 3 月 25 日関東下知状、暦応 2 年 5 月日大善寺炎上堂宇什物注進状案（『山梨県史』資料編 4 中世 1、604・611 号）。
(5) 『廻国雑記』の伝えるように、熊野修験本山派の聖護院道興准后が同系列の拠点をめぐり、文明 19 年（1488）に七覚山円楽寺に逗留している事実を重視したい。宮家準『熊野修験』（吉川弘文館、1992 年）。なお、本調査で円楽寺六角堂跡から発見された石造物の銘文にある「天文十七年　権大□□（僧都カ）」もその延長線上で理解したい。
(6) 阿部美香「熊野信仰と二所三島参詣」（『聖地への憧れ　中世東国の熊野信仰』神奈川県立歴史博物館、2005 年）。
(7) 東大寺文書・国立歴史民俗博物館所蔵文書（『岐阜県史』史料編古代中世三、茜部荘古文書）。なお、茜部荘故地の北東約 4 キロメートルほどの地点には権現山があり（岐阜城が築かれる金華山に連なる）、山頂に古代以来の由緒

をもつ白山権現が祀られている。加賀白山に連なる美濃では中世以来の白山信仰が色濃い。

(8) 『山梨県史』通史編 2 中世第十一章第二節「富士信仰の盛行」（堀内亨執筆担当分、山梨県、2007 年）。

(9) 著名な『長寛勘文』によって、12 世紀後半の八代荘の成立にあたり現地で多数の　熊野神人たちが活動していたことを知りうるが、その前提には、12 世紀初頭以前から駿河を介して甲斐に進出していた熊野先達の活動があった。荒木敏夫「東の海つ道と伊良湖」（『静岡県史研究』第 3 号、1987 年）を参照。

(10) 源頼朝以降、鎌倉幕府と密接な関係を有した伊豆権現、すなわち走湯山の密厳院は、鎌倉時代を通じて、いずれも東寺僧の覚淵→覚誉→覚意→覚玄→覚海→覚兼→覚遍と院務が相承された（永村眞「醍醐寺報恩院と走湯山密厳院」『静岡県史研究』第 6 号、1990 年）。御室浅間明神の神像銘にある走湯山覚台坊の覚実も、この法流につらなる僧侶である可能性が高い。なお、富士信仰をめぐる七覚山五所権現や御室浅間神社と伊豆権現とのかかわりについては、本調査の過程を通じて、清雲俊元・秋山敬両氏より種々ご教示をいただいた。

(11) なお、たびたび取り上げた、甲斐金峰山登拝口の万力口にある大宮七社権現（金桜神社）の永正七年棟札から、中世後期には同権現と七覚山五所権現が何らかの関係を有していたことが窺われる。この問題については、きわめて制約の大きい文献史料よりも、近年新たな発見のあいつぐ信仰遺物をはじめとする考古学的成果の蓄積と緻密な分析が重要な知見を提供することとなろう。また、竹谷靭負『富士山の祭神論』（岩田書院、2006 年）で論じられるような、富士信仰をめぐる多様な祭神の性格と位置づけも重要である。

(12) 福島金治「鎌倉松谷正法蔵寺小考」（『年報中世史研究』30、2005 年）。

(13) 原田正俊「高野山金剛三昧院と鎌倉幕府」（大隅和雄編『仏法の文化史』吉川弘文館、2003 年）。

(14) 甲斐の中世荘園については、網野善彦「甲斐国」（永原慶二他編『講座日本荘園史 5』東北・関東・東海地方の荘園、吉川弘文館、1990 年）、秋山敬『甲斐の荘園』（岩田書院、2003 年）を参照した。

(15) 大山喬平「荘園制」（『岩波講座日本通史』中世 1、岩波書店、1993 年）。

(16) 法金剛院文書、弘安 8 年 4 月 28 日仁和寺御室令旨案（『鎌倉遺文』15574 号）、正応 4 年 8 月 21 日導御書状（『鎌倉遺文』17665 号）、（正応 4 年）8 月 25 日仁和寺御室令旨（『鎌倉遺文』17668 号）。

(17) 仁和寺領ではないが、鎌倉後期の石和御厨・石和荘では、大石和観音寺（大石和筋）の曼荼羅堂の院主職に「御得分巨多」が伴っているというように、同寺がこの地域における流通・富の集散地であり、金沢北条氏による同荘支配の政治的・経済的・宗教的な拠点となっていたことが『金沢文庫文書』から指摘されている。福島金治『金沢北条氏と称名寺』（吉川弘文館、1997 年）を参照。

(18) 湯之上隆『日本中世の政治権力と仏教』（思文閣出版、2001 年）。

(19) 注（4）所引暦応 2 年 5 月日大善寺炎上堂宇什物注進状案。

(20) 服部英雄『地名の歴史学』（角川書店、2000 年）、榎原雅治「中世地方都市の空間構成―阿弥陀・薬師・旦過・風呂―」（服部英雄編『中世景観の復原と民衆像―史料としての地名論―』花書院、2004 年）を参照。

(21) 丸島和洋「高野山成慶院『甲斐国供養帳』―『過去帳（甲州月牌帳）』―」（『武田氏研究』第 34 号、2006 年）。

甲州中世における神仏習合の一考察

清雲　俊元

1　はじめに

仏教が日本に伝来して全国に浸透していくために仏教と神道との間はそんなに簡単に妥協調和がはかられたものではなく、むしろ困難を期した。奈良時代になって国家政策として仏教の地位を重く、神仏を同一次元にせず神が仏法をよろこびたっとぶと理解させたという「護法善神」の考え方がおこり、神社近くに神宮寺を建てた。平安時代初頭には仏を尊信する神が菩薩号を貰い進んで権現と呼ばれた。すなわち菩薩や仏が衆生を救うため仮りに神の姿になりかわって現れたことを垂迹といった。更に進んで神仏が一体化したのである。こうした仏を本地として神をその垂迹と仰ぐことが藤原時代に普及し、阿弥陀如来の垂迹が八幡神、浅間神の本地は大日如来だといわれた。

そしてあらゆる神社に本地の仏、菩薩が確立されるようになった。鎌倉時代には本地垂迹思想も発達した。その中で両部神道が成立した。これは真言宗の金剛界、胎蔵界の教理で神々の世界を説明しようとする神道説である。また伊勢神宮では祭主の禰宜が出家したり造寺をした。その反面、元寇以来日本人の神道信仰が盛んになり神国思想が発達し、むしろ神が本地であり、仏、菩薩がその垂迹であるとの思想がおきた。とくに吉田兼倶などは仏法を花実、儒教を枝葉、神道を根本とみる教えを述べた。江戸時代に入ると寺院勢力は仏教統制によって強化されたが、思想的・宗教的には力を失い、神道家は仏教を排斥的となり、明治維新とともに神仏分離の政策が強調され、ついに廃仏毀釈となったのである。

こうした中世から盛んになった神仏習合思想が甲州においてどのような特色があったのか考察した。甲州に四百年間君臨してきた甲斐源氏とくに武田氏とのかかわりのあった八幡信仰、紀州熊野三山と関係のあった岩殿山円通寺、富士山を遥拝した浅間信仰と神仏習合を取りあげてみた。

2　武田氏の氏神窪八幡

山梨市北 654 番地に在る「大井俣窪八幡神社」は大宮司の社記によると「貞観元年（859）二月二十三日木工頭従五位上和気朝臣彝範ニ勅シテ豊前ノ国宇佐ノ宮ヨリ勧請アリ最初笛吹川ノ中島大井俣ノ地ニ頓宮ヲ造リテ安置ス故ニ大井俣ノ神社ト称ス後今ノ窪ノ地ニ遷座ス故ニ窪八幡宮トモ称ス」（『甲斐国志』巻之五十六神社）とあるのが一般に知られている由緒である。この大井俣神社は貞観五年（863）十二月九日甲斐国従五位下大井俣神社を官社に列し（『三代実録』）七年正五位下（同前）、天慶三年（940）九月四日四位下（『日本紀略』）に昇位したとの記事があり（『山梨市史』文化財・社寺編）『延喜式』神名帳甲斐国二十座の中の山梨郡九座の中の「大井俣神社」と考えられる。現在の山梨市小原西の大井俣神社（水宮）も笛吹の川中島より北方に遷座した宮と考えられる。

一般的には小原西の大井俣神社（水宮）の地を旧社地としている当社は、承応 2 年（1653）の『大井俣神社本紀』によれば、貞観元年清和天皇勅願により宇佐八幡宮を勧請した由緒があるが、これは前記の『三代実録』の貞観五年を意識して、さらに甲斐源氏との存在と結びつけたものである。しかし宝永 2 年（1705）の由緒書では、八幡太郎義家の八幡宮勧請が誤りであることの付箋が付いている。このことは『延喜式』神名帳に八幡神の記載がないことから、甲斐源氏のこの地への進出を意識しての記述と考えられる。『古社史考』に窪八幡神社は安田義定が源氏の氏神八幡神を勧請したことに始まり、後に水難により当社に合祀されたために大井俣を併称するようになったと推測する説もある。

山梨市のこの時代は、旧豪族日下部氏以降もっとも栄えた地域である。律令制の時代の条里制の地割跡（『山梨市史』史料編考古八節「条里」）もみられ、また加納田であった安多荘の存在から八幡荘が出現していく過程をみるときに、八幡神社の勧請は甲斐源氏の一人安田義定をおいて考えられない。窪八幡神社の社領は八幡荘（『山梨市史』史料編古代・中世 114）でその荘園の範囲は近世「八幡入」と称して八幡南・同北・江曽原・市川・大

工・堀之内・水口・切差（以上山梨市）の八か村の他小原・下井尻（同前）・塩後（甲州市）を含む地域を荘域としていたと考えられる。その八幡荘内に安田郷が位置づけられていたことが甲州市塩山竹森の玉諸神社旧所蔵（野尻検之助所蔵）応安２年（1369）の大般若経の奥書に「八幡荘安田郷下井尻村」とあることからも明らかとなり窪八幡神社と安田義定の関連を知ることができる。

大井俣神社がこの窪の地に遷座され、八幡神と合併した時期については詳らかでないが、窪八幡神社の社僧としての神宮寺と普賢寺について考えねばならない。

神宮寺は真言宗で『社記・寺記』によれば仁和３年（887）国守橘喜樹によって開かれたと伝える。この寺は八幡山惣坊神宮寺と称せられており、当寺蔵の寛政４年（1792）『当寺之旧記録』によれば、中尊阿弥陀如来坐像（県指定文化財）の台座に「応永十九辰秋八幡本地仏再興之、沙門隆源記之」と記されていたと記載がある。このように本像が窪八幡神社の本地仏として祀られていたことが知られる。このことについては『甲斐国志』巻之五十六神社部の「八幡宮」の頃にも「応神天皇ハ本地阿弥陀如来ナリ仲哀天皇ハ本地釈迦如来ナリ神功皇后ハ本地地蔵菩薩ナリ」とあり、神宮寺にはその応神天皇の本地仏阿弥陀如来ならびに両脇像と仲哀天皇の本地仏地蔵菩薩像が伝わっている。鈴木麻里子氏（「山梨市史」文化財編）によると両像共に鎌倉時代の制作といわれ、窪八幡神社の惣坊の尊像として祀られてきた。

また仲哀天皇の本地仏釈迦如来坐像（県指定文化財）は市内市川にある清水寺に祀られている。清水寺は後述するが寺の創建は古く、本尊は平安時代前期の千手観音像（「山梨市史」文化財編）で現存されている。仲哀天皇の本地仏釈迦如来坐像についても明治維新の神仏分離に際し窪八幡神社より市川清水寺に移座したと伝えてきたが天文 22 年（1553）の「窪八幡社境内古絵図」に本像を安置したとみられる堂宇がみられないことから本地仏阿弥陀如来坐像、地蔵菩薩立像は神宮寺に明治以前から安置されていたと考えられる。また鈴木氏の調査では釈迦如来坐像も制作年代は十二世紀後半とみられることから従来言われてきたように大井俣神社をこの窪の地に移し、八幡神を合祀して窪八幡神社とし、神宮寺、清水寺に本地仏の尊像を祀ったと考えられる。このときが甲斐源氏安田義定がこの地方を治めていた鎌倉初期と符合する。

しかし安田義定の時代に「窪八幡神社」という呼称があったか、いささか不安が残る。それには前述した市川の清水寺の存在を整理してから窪八幡神社の歴史を考えてみる必要がある。

清水寺の由緒をみると、窪八幡神社の別当普賢寺の末寺岩泉山清水寺である。寺伝では往古は三町余り奥にあり岩泉山真福寺と称した。本尊は現在の木造千手観世音菩薩で、平安時代前期の様式を備えており（山梨市史文化財寺社編）寺の創立は古いと考えられているが詳細は不明である。『甲斐国志』によると、普賢寺の普賢堂本尊台座の銘文に「堂社並岸泉寺・自大永二年至天文廿二年再興」とある。堂社は普賢寺と窪八幡社のことであり岸泉寺は岩泉寺の誤りで現在の岩泉山清水寺のことであり岩泉寺が窪八幡社、普賢寺と同等にあつかわれている。また『国志』の巻之五十六神社部「岩清水八幡宮」の項をみると「黒印神領九斗慶長ノ黒印帳ニ載セタリ今ノ所在ヲ詳カニセズ岩泉山清水寺ノ記ニ曰ク黒印九斗境内六百七十二坪云々」とある。

また『国志』巻之七十四仏寺部の「岩泉山清水寺」の項をみると「黒印九斗境内六百七十二坪本尊ハ観音本州第十九番ノ札所ナリ」とあり、岩泉寺と石清水観音は同一境内の中に存在したことが明らかであり、神仏習合寺院であると共にこの地に最初に八幡神を勧請された聖地で岩清水八幡と称したのではないだろうか、検討を要する。窪八幡神の八幡神について地元の伝承でも一度別の場所に勧請した八幡神を現在地に移座したという伝えも聞いているので岩泉山説も加えて更なる研究が必要である。

窪八幡神の現在の境内の整備についても不明の点が多いが、史料上確認できる記録としては、社僧上之坊住僧が書き継いだ『王代記』によれば応承 17 年（1410）の記事からである。本殿について見ると永正 13 年（1516）に大井信達が組する駿河勢が攻め入り、万力で戦いがあり窪八幡境内の建物が焼失した。本殿もその直後に現在地に再建されたと考えられるが『甲斐国志』には「享禄四辛卯年武田信虎造営」とありまた『王代記』には享禄４年４月６日に「三社出来」の記述がみられることから、この頃に現在地を中心に大規模な造営があったことが推測される。これから天文 22 年までに武田信虎、晴信によって堂社の造営がおこなわれ、天文 22 年（1553）『窪

八幡神社境内古絵図』にみられるように境内整備が完成したのである。

そうした境内整備の中で天文 18 年（1549）の『王代記』をみると武田晴信の修理参詣の記事がある。「居垣石清水上葺、晴信四月十二日参宮、神馬一、本願也」とある。

この記事は、晴信が天文 17 年に信州上田原の戦いで村上義清に敗れ板垣信方、甘利虎泰らが戦死したため悲痛な思いで岩清水八幡ならびに岩泉寺に参詣し、岩清水八幡神の建物の修復をしたり、神馬を納めて祈願している。この宮は窪八幡社の社領内ではあるが、窪八幡社の享禄 4 年に建立した本殿とは別のもので前述した市川の岩清水八幡社ならびに清水寺ということになるがその実態は不明である。現在の窪八幡社が段階的に整備され、別当寺も神宮寺から普賢寺に移行され権力を持つようになるが詳らかではない。今後の研究を待ちたい。

3　岩殿山円通寺と熊野信仰

これまで岩殿山、岩殿城といえば、戦国期に郡内を領した小山田氏の本城としての見方が通説とされてきた。

この城の実体は山城であり平成七年に発掘調査も行なわれたが遺構は狭小な山上のことで城の築城の時期や築城者についても詳らかではなかった。伴出遺物は茶の湯にかかわるものなど非日常性の強いものであった。（『岩殿山の総合研究』大月市教育委員会・岩殿山総合学術調査会　以降「岩殿山の総合研究」）城としては武田氏滅亡の時なのか、なお検討を要する。この岩殿城の特質を探るうえで重要な点は山岳修験の行場として有名な旧円通寺の聖域内に存在することである。中世の域郭がこのように宗教色の強い聖地が選ばれて築城され、宗教性を巧みにとり入れながら領国支配を貫徹している実例が各地にみられる（「岩殿山の総合研究」）本城の場合も鎌倉時代以降に存在していることが三重塔の遺材の分析結果から 13 ～ 15 世紀ごろの数値が示されているので、少なくとも本城が軍事的に最も重要な役割を果たしていた 16 世紀頃には円通寺も確実に存立していた。従って岩殿城は円通寺の聖域を抱えこみながら域郭経営がなされた。

円通寺は「甲斐国志」をはじめ関係史料、とくに永正 17 年（1520）の七社権現の棟札『山梨県棟札調査報告書』（郡内 1）によれば大同元年（806）に開創されたと伝えるが、大同元年から永正 17 年までの岩殿山の歴史について詳細は伝えていない。

「甲斐名勝志」「甲斐叢記」等を見ると「岩殿権現」「七社権現」「七社明神」と呼ばれた七社権現が中心で円通寺はその別当寺である典型的な神仏習合寺院で、境内には観音堂、三重塔、鐘楼、新宮そして中世までは別当常楽坊の存在が明らかである。のちに大坊、真蔵院が加えられ伽藍の林立をみると共に、岩殿山全体が霊山としての尊厳を保った。

現在真蔵院の収蔵庫に保存されている七社権現像（県指定文化財）は伊豆、箱根、日光、白山、熊野、蔵王、山王七座の神像を配しており、これは十五世紀初頭の像である。それ以前のものもあったかもしれないが伝承はない。山梨県内で七社権現を伝えているのは甲斐市上大鳥居の七所権現である。由緒では熊野三所、金峰、白山、伊豆、箱根の七社を祀り明らかに熊野信仰を中心にしたものである。この七所権現像は破損した像が五躯ほど大福寺に保存されているが、平安期の神像である。岩殿山七社権現像は蔵王権現の総高が 196㎝、熊野権現が 175㎝あり他は 151㎝の神像であるがこの神像を最初に調査した『山梨県の文化財（第一集)』には「個々の尊名が判然としない」とあることから中心にお祀りするのは蔵王なのか熊野なのか現在正しい伝承がないことから上大鳥居の七所権現と同様熊野権現を中心として見ることが妥当なのかもしれない。それは円通寺を中心とする岩殿山の宗教活動からみても郡内地方の熊野信仰の拠点としての聖地であったと考えられる。従って神像も熊野の神像を中心に祀ったものだと考えられる。

円通寺の信仰のもう一つは観音堂および新宮に安置されていた十一面観音菩薩である。鈴木麻里子氏によれば両尊像は 10 世紀の作と 12 世紀の作であるといわれ平安時代末期から鎌倉時代にかけて円通寺が存在したことが明らかである。中でも新宮は院政期から鎌倉時代にかけて全国的に盛んになった熊野信仰からきたもので熊野三山の本宮・新宮・那須への信仰の中の新宮を勧請したもので、その形体は古く、十一面観音菩薩は熊野三山の本地仏と考えられる。

円通寺には、14 世紀後半住持の順翁・明賢の代の『大般若経』六百巻（現在五三三巻北条熱実氏所蔵）が伝わる。最後に経典を納めたのが応永 8 年（1401）で、転読に、用いる十六善神像図もその三日後の同年 12 月 16 日に円通寺に納めている。この時期に併せたように 15 世紀の初頭に前述した七社権現像が造顕されている。それからしばらくの間円通寺は熊野信仰の拠点として栄えたことが熊野文書に散見することができる。（『大月市史』資料編）その後文明 19 年（1487）に聖護院道興が入峡する。道興は京都聖護院門跡を相続し、同時に熊野三山の新熊野検校職を兼帯し、園域寺長吏も兼ねるなど天台系修験の最高の権力者であった。

『廻国雑記』（『山梨県史』資料紀六中世三下）を見ると道興が諸国を巡錫している。甲州にあっても岩殿山七社権現をはじめ、柏尾山大善寺を経て石和の市部の花蔵坊に至り十日ほど滞在している。更に七覚山円楽寺、富士山北口の吉田におもむいている。この中で大善寺、円楽寺は現在は真言宗であるが当時は天台宗であったと考えられ、石和の花蔵坊はのちに天文 18 年（1549）に都留郡の檀那を熊野に導いた先達であり、道興が甲州に滞在した寺院も熊野先達と関係が深く、熊野信仰の拠点を勤めていた寺院でもあった。花蔵坊滞在中、甲斐国守武田信昌が花蔵坊を訪ねて歓待しているのも武田氏が紀州熊野三社との関係を物語るものである。

七社権現の別当寺である円通寺が無住時代が多くみられ、詳らかでないが、『甲斐国志』（巻之九十仏寺部）によると永正 17 年（1520）の棟札に上総国の住僧賢覚阿闍梨が願主となり円通寺の修理をおこなっており、小山田信有ら郡内衆が円通寺再建に奉加をしている。その中で常楽坊が岩殿山修験を統率するようになるのは天正 18 年（1590）に郡内領主であった鳥居彦右衛門元次が常楽院を岩殿山七社権現その他の社領の別当職に任命したときからである。

近世に入り、常楽坊は岩殿山の別当だけでなく、郡内地方の山伏の先達として確固たる位置を築いていった。慶長 12 年（1607）郡内領主鳥居成次が京都六角にある聖護院の院家勝仙院の依頼を受け領内の者が熊野参詣を行うときにこれまでと同様に先達である常楽坊に届けを命じている。常楽坊の明運が元和 8 年から寛永 2 年（1622～25）頃に没し、その跡職を明運の弟の小俣惣太夫の二人の悴に継がせたのが常楽院明賢と大坊明尊である。（「大月市史」資料編）

永正 17 年（1520）に円通寺は修復しているが、承応 3 年（1654）に再び破損し、当郡主秋山富朝が修理をしているが、その棟札（『山梨県棟札調査報告書』）（郡内 1 ）に明賢、明尊が並列して記されている。近世になって本末制度が確立すると常楽坊・大坊が七社権現の別当となるが、従来からの熊野詣は全国的に衰退していった。甲州修験がとくにかかわった京都の勝仙院も熊野御師との関係を離れ聖護院を本山とする本末関係を確立した。

また勝仙院は甲斐国内八代・山梨・巨摩三郡の山伏支配頭を元和 8 年（1622）に一宮村の大覚院を任じ、一方の都留郡の山伏支配に常楽院・大坊を任じ各郡の修験者を統轄した。

江戸時代末期から明治維新にかけ、廃仏毀釈運動、神仏分離令が出され、更には明治五年の修験の廃止の布告によって岩殿山円通寺の姿は消滅したのである。

常楽院、大坊についても明治 6 年天台宗園城寺末へ帰入することを勧めたが、両寺とも固辞して明治 8 年 1 月廃寺となり、帰俗した。その時に常楽院の内庵であった笛吹市一宮町の慈眼寺末であった真言宗智山派の真蔵院が岩殿に残り、現在まで岩殿山の法燈と文化財を継承してきた。

4　浅間神社と神仏習合

富士山は古来より霊峰富士として聞こえ、日本一の高さを誇る山である。古代から現代にいたるまで、山そのものが信仰の対象であり、遙拝の山であると共に登拝の山であり世界でも希な霊山である。

奈良時代末期から平安時代にかけて火山活動があり史料にも残されてくる。そのうち延暦 19 年（800）、貞観 6 年（864）それから宝永 4 年（1707）の活動を三大大噴火といわれている。こうした噴火する富士山の周辺に暮らす人々は富士山を崇めるだけでなく山神の怒りを鎮めたい願いから信仰が生まれた。

8 世紀の後半になると富士山の噴火の様子が記事としてみられるようになった『続日本紀』の天応元年（781）

7 月 6 日条が最も古いが、その記述は「駿河国言す、富士山の下に灰を雨らす、灰の及ぶところは木葉萎すと」と簡単な記事がみえる。

古く「福慈神」と称された神は（『常陸国風土記』）いつしか「浅間神」（浅間明神）と呼称されるようになる。延暦 21 年（802）までは、その噴火を都へ注進するに際し「富士山」と称し用いていた駿河国が（『日本紀略』前篇一二）・貞観 6 年（864）の報告では「富士郡の正三位浅間大神の大山」と記している（『日本三代実録』巻八）噴火活動が活発になり九世紀の前半、律令国家の手により富士山を神体とする浅間神が祭祀されることが許されるようになる。これが現在の静岡県富士宮市の富士山本宮浅間大神である。これは大同元年（806）に坂上田村麻呂が社殿を造営したといわれる「富士本宮浅間社記」（『浅間書纂』所収）の記載にもある。

仁寿 3 年（853）7 月浅間神は名神に列した。また同月中に従三位、さらに貞観元年には正三位の位階を与えられた。これらは荒ぶる神を鎮めるため繰り返し叙位を与えたことになる。

こうした中、貞観 6 年（864）富士山は大規模な噴火を起こした。そのときの噴火した溶岩流は、甲斐国八代郡に甚大な被害を及ぼした。本栖、剗の両湖を埋め、さらに河口湖にまで迫った。（『日本三代実録』巻九）この噴火の原因を亀卜に探った朝廷は禰宜・祝による明神祭祀の怠慢を問題にして、甲斐の国司に対しても「奉幣解謝」を命じると、翌貞観 7 年 12 月には甲斐国八代郡に浅間明神の社殿を建てて官社に列した。このとき創建された神社については諸説あるが、富士河口湖町河口の浅間神社ではないかともいう。ほどなく山梨郡にも浅間明神が祀られたが、これがのちの甲斐国一宮となる笛吹市一宮町の浅間神社ではないかという。

駿河と甲斐の両国において浅間明神を手厚く祭祀することで、火山活動の終息を祈願したのである。それから宝永 4 年（1707）南東斜面の噴火まで大きな噴火はなかった。

修験者

永保 3 年（1083）を最後に（『扶桑略記』）富士山噴火活動は休止期に入る。富士山を舞台にした修験の活動が記録されるのも、このころからである。ここに修験の開祖と仰がれる役行者などの登拝伝承が生まれてきた。とくに縁起や記録に名をとどめる修験として『本朝世紀』に富士へ登ること数百度・山頂に大日堂を構え富士上人と呼ばれた村山修験の末代の名がもっとも著名である。一般に末代をもって最初の富士登山者としているが、それ以前にも金時上人、覧薩上人、日代上人らの登拝者がいたことが金沢称名寺伝来の『浅間大菩薩縁起』に見える。

末代は、本名を有鑑といい、駿河国の人であった。幼少の頃、伊豆国走湯山（現在の熱海市の伊豆山神社）で修行を重ね天承 2 年（1132）28 歳で初登頂に成功した。久安 5 年（1149）一切経の書写と富士山への埋納を企画し、関東から東海・東山の衆庶を勧化し、さらには鳥羽法皇の結縁を得たとも伝えている。それ以来山頂に大日寺が築かれ修験者の登山道として大宮・村山登山道が開かれた。また富士修験の根拠地である「村山」が走湯山領としているが末代とのかかわりであろう。平安期に成立した『伊豆国神階帳』に伊豆山（走湯山）の祭神を「正一位千眼大菩薩」と記されているは、富士の「浅間大菩薩」の神号のことであろう。『浅間大菩薩縁起』によると末代は長承元年（1132）から 2 年かけて山頂に仏具を納めている。面八寸の鏡に地主不動明王三尊像を鋳造したことが記されている。その銘文に「走湯山住僧末代上人生年二十九　蒙浅間大菩薩之現擧当峰四ヶ度」と刻まれていた。

末代のあと、その流れを汲み富士山で修行者が多く、村山の地が富士修験の拠点となった。文保年間（1317 ～ 19）には頼尊が山中の一宇を村山に移し浅間神社の前身である興法寺を開いた。文明 14 年（1482）に聖護院本山派に属した。室町時代にはいると一般の登山の修験者も増加し、村山三坊（辻之坊・池西坊・大鏡坊）など道者坊が発達した。この村山を中心に行なわれた富士山内の回峰行を「富士峰修行」と呼び、役行者以来の行法と伝えた。江戸時代には村山三坊が年番により配下の修験たちを率いて回峰行が行なわれたと伝える。

駿河側の村山修験に対し、甲州側の修験の拠点となったのが二合目の御室である。同所にある浅間明神（現在は勝山村富士御室浅間神社に移座されている）は甲斐側の山中にあり、最初に勧請された社と伝えられてきた（『甲

斐国志』)。平成十九年度の山梨県内中世寺院分布調査による発掘調査では、現境内の隣接地から 13 世紀中ごろの所産と考えられる土師質土器をはじめ中世・近世の陶磁器類や土器などが出土している。少なくとも同所になんらかの施設が存在していたことが確認された。「山室」「北室」と称されたこの神社には文治 5 年（1189）と建久 3 年（1192）の紀年銘をともなう日本武尊と女神の二像が伝わっていたと伝える。両像ともに走湯山の覚実覚台により造立されており（『甲斐国志』巻七十一）甲州側の拠点にも伊豆山修験の関与が確認される。近年の村山における発掘調査でも竪穴住居跡が検出され、これにともない 9 世紀後半から 10 世紀前半の甲斐型土器や灰釉陶器が出土して南北両面にまたがる回峰行の存在も明らかになりつつある。

甲斐側については、古代の官道である御坂峠越え（鎌倉街道・国道 137 号）や甲斐源氏軍が進撃した大石峠越え（若彦路）を結んでいた御城峠には役行者像を祀る堂宇があった。(『甲斐国志』巻二十四）この堂宇については細らかでないが、祭祀を司ったのは甲州市の大善寺で、同寺に現存する役行者像（山梨県指定文化財）はその本尊であった。(『甲斐国志』)。富士河口湖町大嵐の日蓮宗の蓮華寺は大同山御堂寺と称する真言宗寺院で寺伝によれば､役行者修法の地といわれ､周辺一帯が修験の行場であったと伝えている。背後に聳える「だんの山」(檀山・足和田山）の頂上は奥院と称した。檀山の山頂に「法印塚」がある。門前を横断して東方の富士山へと延びる道に「富士山とうしゃ（道者）道」とある。この道こそが『甲斐国志』が「七覚山」の項で（相伝テ伝、昔役小角富士登山ノ時、此処ヨリ発シ、迦葉・阿難ノ二嶺ヲ踰テ、精進・西湖・長浜・大嵐・大和田・成沢数村ヲ経テ直ニ御室ニ達ス）と述べる甲府盆地南東辺と富士山二合目を結ぶ通路であったと考えられる。

その二合目御室の行者堂を所持していたのが七覚山円楽寺（甲府市右左口町）である。同寺に伝わる 12 世紀末期の作と推定される役行者像（山梨県指定文化財）は御室の行者堂に安置されていたものと伝う。

大善寺や円楽寺はともに甲府盆地を代表する修験の拠点的な寺院であり盆地から御坂山地、さらには富士山へと連なる回峰行の存在が想定される。

村山修験にあっては、末代のときから神仏習合を称え富士浅間大菩薩の本地は大日如来と称し、富士山には多くの大日如来像が祀られたが一番古い像は、村山修験の拠点であった静岡県富士宮市の村山浅間神社に祀られた正嘉 3 年（1259）造立の胎蔵界の大日如来像である。村山浅間神社には他に文明 10 年（1478）造立の金剛界の大日如来も安置されその後江戸時代の中期頃まで多くの大日如来像が山中に造立される。その外にも大日如来の教令輪身と言われる不動明王をはじめさまざまな仏像が当時の修験らによって勧請された。鎌倉時代の文永年間（1264 ～ 75）に天台宗の学僧仙覚の著わした『万葉集詮釈』に「いただきに八葉の嶺あり」とある。また禅僧虎関師錬の詠んだ漢詩にも「岳は八葉を分ちて芙蓉を削る」とあるなど火口を大日如来とし高所を八仏に現わしている。頂上三島ヶ岳と北口八合目の両所から「八体内」の刻銘をともなう懸仏が見つかっている。

これなどをみると山頂の高所の八つ峰を胎蔵界曼荼羅の中台八葉院にみたて、中心を胎蔵界大日如来として崇め富士山そのものが曼荼羅世界を具現化したものと考えられた。それが 17 世紀頃になると八葉九尊図の版木が刻まれ、富士講の人たちに配られた。

富士の女神像

富士山は女神像であることは往古からいい伝えられてきたが､資料としては 14 世紀頃に書写された『富士縁記』(称名寺伝本　金沢文庫蔵）に「富士浅間大明神は天女」とある。また時代は降るが北口二合目の御室浅間神に一躯の尊像が伝わる。総高 12.8㎝の小像であるが、瑞雲のなかに鎮座する女神の上部に蓮華座に坐す智拳印を結ぶ金剛界の大日如来像である。厨子には元文 5 年（1740）の作であるが「仙元大菩薩」の尊名が刻まれており浅間大菩薩とその本地仏大日如来を表わし浅間明神と意識されている。すでに鎌倉時代の縁起に、宝珠を携えて表れた青衣の天女が浅間大明神と称したという記述もある。また都良香の『富士山記』も白衣をまとった二人の美女が山頂で舞い踊る情景を描写しているが、浅間明神を女神とする認識は、平安時代までさかのぼるかもしれない。

『甲斐国志』をみると二合目御室浅間明神に建久 3 年（1192）造立の日本武尊・女神像を走湯山の修験によっ

て勧請した記事があるのが最も古い。また忍野村忍草浅間神社には正和４年（1315）丹波の仏師静存の造立した女神像・鷹飼・犬飼の三像（重要文化財）が現存している。また村山修験の拠点となっていた伊豆山神社（熱海市）に明徳５年（1394）に走湯山大仏師周慶が造立した男神像・女神像の二体が伝わっているがこれも富士山女神像と考えられる。（『観光文化』一九二）

また富士吉田市の北口本宮冨士浅間神社明治初年の『冨士浅間神社社誌』（冨士浅間神社所蔵）をみると社宝の中に木花開耶姫命・彦火瓊々杵命弐躰のほかに貞応２年（1223）作の神像一体と、貞応２年作の木製女神像一躰更に昔富士山八合目ノ岩上に安置してあった大日如来像が所蔵されている記録（内容は未確認）がある。その中に女神像と大日如来像の記載もあった。

これらの女神像は富士浅間明神の祭神として走湯山の村山修験、ならびに甲州修験によって広められてものであろう。更に平安時代の『竹取物語』の中でかぐや姫と富士の神が結びついた説話が種々の『富士山縁起』の中に散見される。また 14 世紀成立の『神道集』にも富士浅間大菩薩はかぐや姫とその恋人の国司であると女神像のことが記載されている。（『富士の神仏』富士吉田市歴史民俗博物館記念展）

現在の多くの浅間神社の祭神は「木花咲耶姫命」（木花之開耶姫）と呼称されている。この神は『古事記』『日本書紀』に登場するが富士山の祭神としての記事は古くはみられない。木花咲耶姫が浅間神社の祭神としての初見は、元和２年（1616）林羅山が『丙辰紀行』の中で「富士の大神をば木花開耶姫と定申さば日本紀のこころにもかなひ申すべきなり」とあり、また慶長 19 年（1614）の『集雲和尚遺稿』の中に「この神は木花開耶姫・天津彦瓊々杵尊の妻なり浅間神開耶姫の御子三人あり云々」とあるが、近世に入ってから浅間明神の祭神として木花咲耶姫が登場して今日に至っている。（『富士山の精神史』竹谷靭負）このように神名が変わったのは旧来の本地垂迹説を排して廃仏毀釈運動が盛んになった江戸中期以降、幕末になって本格的に改められていった。

明治初年の神仏分離令により山中の仏像、仏具は下山または廃棄された。仏教施設は全て取除かれ、神道の施設に再編された。明治七年には山中の仏教的な地名も改称された。

富士山は古代から現代に至るまで信仰の形態は変わってきたが、いつもその時代の人々の信仰の対象であり多くの人々が山頂を目指して登拝をしている。

中世寺院一覧表

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
1	A	1001001	雲善寺	臨済宗	笛吹市	20	甲府
2	A	1001002	吉祥寺	臨済宗	笛吹市	20	甲府
3	A	1001003	玉樹院	臨済宗	笛吹市	29	河口西
4	A	1001004	金雞院	臨済宗	笛吹市	29	河口西
5	A	1001005	広岸寺	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
6	A	1001006	向昌院	曹洞宗	笛吹市	21	市川大門
7	A	1001007	光照寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
8	A	1001008	広沢院	曹洞宗	笛吹市	29	河口西
9	A	1001009	西光庵	臨済宗	笛吹市	20	甲府
10	A	1001010	地蔵院	臨済宗	笛吹市	20	甲府
11	A	1001011	実相寺	臨済宗	笛吹市	20	甲府
12	A	1001012	聖応寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
13	A	1001013	常泉寺	曹洞宗	笛吹市	20	石和
14	A	1001014	浄念寺	浄土宗	笛吹市	20	石和
15	A	1001015	省睦院	臨済宗	笛吹市	29	河口西
16	A	1001016	常楽寺	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
17	A	1001017	真乗寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
18	A	1001018	全福寺	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
19	A	1001019	宗源寺	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
20	A	1001020	智光寺	曹洞宗	笛吹市	21	市川大門
21	A	1001021	法眼寺	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
22	A	1001022	薬林寺	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
23	A	1001023	竜松（正）寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
24	A	1001024	竜昌院	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
25	A	1001025	観良	修験	笛吹市		
26	A	1001026	源徳院	修験	笛吹市		
27	A	1001027	瀬立不動堂	修験	笛吹市	29	河口西
28	A	1001028	大円	修験	笛吹市		
29	A	1001029	大石寺	真言宗	笛吹市	20	甲府
30	A	1001030	玉宝院	修験	笛吹市		
31	A	1001031	密蔵院	修験	笛吹市		
32	A	1002001	教善寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
33	A	1002002	吉祥院	臨済宗	笛吹市	28	石和
34	A	1002003	広済寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
35	A	1002004	光善寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
36	A	1002005	西光寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
37	A	1002006	自性寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
38	A	1002007	浄源寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
39	A	1002008	城念寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
40	A	1002009	紹隆寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
41	A	1002010	勝林寺	浄土真宗	笛吹市	20	甲府
42	A	1002011	定林寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
43	A	1002012	心月院	臨済宗	笛吹市	28	石和
44	A	1002013	真福寺	真言宗	笛吹市		
45	A	1002014	清水寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
46	A	1002015	清道院	臨済宗	笛吹市	28	石和
47	A	1002016	善国寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
48	A	1002017	千手院	真言宗	笛吹市	28	石和
49	A	1002018	泰雲軒		笛吹市		
50	A	1002019	長全時	曹洞宗	笛吹市	28	石和
51	A	1002020	道雲院	臨済宗	笛吹市		
53	A	1002021	普門寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
54	A	1002022	法雲寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
55	A	1002023	法城寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
56	A	1002024	宝福院	臨済宗	笛吹市	28	石和
57	A	1002025	本行寺	日蓮宗	笛吹市		
58	A	1002026	本光（行）寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
59	A	1002027	妙昌寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
60	A	1002028	祐泉寺	浄土真宗	笛吹市	28	石和
61	A	1002029	瑜伽寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
62	A	1002030	利最寺	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
63	A	1002031	竜安寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
64	A	1002032	楞厳寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
65	A	1002033	蓮昌寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
66	A	1002034	海蔵院	修験	笛吹市	28	石和
67	A	1002035	観隆	修験	笛吹市		
68	A	1002036	教宝院	修験	笛吹市	20	甲府
69	A	1002037	万福院	修験	笛吹市	28	石和
70	A	1002038	不動寺	修験	笛吹市		
71	A	1002039	不動寺	修験	笛吹市		
72	A	1002040	竜宝院	修験	笛吹市	28	石和
73	A	1002041	東光庵		笛吹市		
74	A	1002042	宝寿庵		笛吹市	28	石和
75	A	1002043	門妙院		笛吹市	28	石和
76	A	1002044	天照庵		笛吹市		
77	A	1002045	了円庵		笛吹市		
78	A	1002046	執行院		笛吹市		
79	A	1002047	住善坊		笛吹市		
80	A	1002048	教善坊		笛吹市		
81	A	1002049	円面坊		笛吹市		
82	A	1002050	光明寺		笛吹市		
83	A	1002051	大樹寺		笛吹市		
84	A	1002052	建久寺		笛吹市		
1708	A	1003001	桜井院	浄土宗	笛吹市	35	河口東
1709	A	1003002	海潮院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1710	A	1003003	覚宝院	修験	笛吹市		
1711	A	1003004	歓竜寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1712	A	1003005	九品寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1713	A	1003006	解脱院	修験	笛吹市	28	石和
1714	A	1003007	光国寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1715	A	1003008	広徳寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1716	A	1003009	光明院	修験	笛吹市		
1717	A	1003010	金剛院	修験	笛吹市		
1718	A	1003011	金剛寺	修験	笛吹市		
1719	A	1003012	西光寺	禅宗	笛吹市	28	石和
1720	A	1003013	西念寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1721	A	1003014	正因寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1722	A	1003015	慈雲寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1723	A	1003016	慈光寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1724	A	1003017	正学院	修験	笛吹市		
1725	A	1003018	正覚院	修験	笛吹市		
1726	A	1003019	称願寺	時宗	笛吹市	28	石和
1727	A	1003020	正寿院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1728	A	1003021	慈泉院	臨済宗	笛吹市	28	石和
1729	A	1003022	定得寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1730	A	1003023	常楽寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1731	A	1003024	浄竜寺	真言宗	笛吹市	28	石和
1732	A	1003025	正福寺	真言宗	笛吹市	28	石和
1733	A	1003026	正法寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1734	A	1003027	神応院	時宗	笛吹市		
1735	A	1003028	善導寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1736	A	1003029	大順	修験	笛吹市		
1737	A	1003030	大乗院	修験	笛吹市		
1738	A	1003031	躰性寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1739	A	1003032	長泉寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1740	A	1003033	南照院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1741	A	1003034	報光寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1742	A	1003035	宝珠院	臨済宗	笛吹市	28	石和
1743	A	1003036	福光園寺	真言宗	笛吹市	28	石和
1744	A	1003037	福聚院	臨済宗	笛吹市		
1745	A	1003038	福泉寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1746	A	1003039	妙円寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
1747	A	1003040	妙音院	臨済宗	笛吹市		
1748	A	1003041	妙昌院	真言宗	笛吹市	28	石和
1749	A	1003042	文珠院	真言宗	笛吹市	28	石和
2580	A	1003043	吉祥寺	臨済宗	笛吹市		
2581	A	1003044	大応寺	臨済宗	笛吹市		
2582	A	1003045	大慈院	臨済宗	笛吹市		
2583	A	1003046	慈覚院	修験	笛吹市		
1630	A	1004001	安養院	臨済宗	笛吹市		
1631	A	1004002	円寿院	修験	笛吹市		
1632	A	1004003	延命寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1633	A	1004004	海福院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1634	A	1004005	楽音寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1635	A	1004006	願生院	浄土宗	笛吹市		
1636	A	1004007	観善	修験	笛吹市		
1637	A	1004008	観音寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1638	A	1004009	喜雲院	臨済宗	笛吹市	28	石和
1639	A	1004010	吉祥寺	修験	笛吹市		
1640	A	1004011	教安院	修験	笛吹市		
1641	A	1004012	玉泉寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1642	A	1004013	玄浄院	日蓮宗	笛吹市		
1643	A	1004014	光久寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1644	A	1004015	広厳院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1645	A	1004016	光福寺	浄土真宗	笛吹市	28	石和
1646	A	1004017	興法寺	修験	笛吹市		
1647	A	1004018	光明寺	浄土宗	笛吹市		
1648	A	1004019	香蓮寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1649	A	1004020	国分寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1650	A	1004021	国分二寺		笛吹市		
1651	A	1004022	国法院	修験	笛吹市		
1652	A	1004023	国宝院	修験	笛吹市		
1653	A	1004024	極法寺	浄土真宗	笛吹市	28	石和
1654	A	1004025	西運寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1655	A	1004026	慈眼寺	真言宗	笛吹市	28	石和
1656	A	1004027	地蔵寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1657	A	1004028	秀学	修験	笛吹市		
1658	A	1004029	春光寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1659	A	1004030	小玉寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1660	A	1004031	浄泉寺	浄土真宗	笛吹市	28	石和
1661	A	1004032	正蔵院	修験	笛吹市		
1662	A	1004033	正伝院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1663	A	1004034	神宮寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1664	A	1004035	真光寺	真言宗	笛吹市	28	石和
1665	A	1004036	瑞蓮寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1666	A	1004037	清岩寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1667	A	1004038	清光院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1668	A	1004039	清泉寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1669	A	1004040	石林寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1670	A	1004041	泉正寺	浄土宗	笛吹市	28	石和

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
1671	A	1004042	大応院	臨済宗	笛吹市	28	石和
1672	A	1004043	大光院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1673	A	1004044	太子堂		笛吹市	28	石和
1674	A	1004045	大善院	修験	笛吹市		
1675	A	1004046	超願寺	浄土真宗	笛吹市	28	石和
1676	A	1004047	長寿院	浄土宗	笛吹市	28	石和
1677	A	1004048	長昌寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1678	A	1004049	長蔵寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1679	A	1004050	長徳寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
1680	A	1004051	東新寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1681	A	1004052	徳本寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
1682	A	1004053	廃円応寺	浄土宗	笛吹市		
1683	A	1004054	廃銭米寺	浄土真宗	笛吹市	28	石和
1684	A	1004055	福寿庵	浄土宗	笛吹市		
1685	A	1004056	普明寺	真言宗	笛吹市	28	石和
1686	A	1004057	普門院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1687	A	1004058	宝樹院	臨済宗	笛吹市	28	石和
1688	A	1004059	宝福寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1689	A	1004060	保福寺	臨済宗	笛吹市		
1690	A	1004061	本城寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
1691	A	1004062	品念寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1692	A	1004063	満願寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1693	A	1004064	明王院	修験	笛吹市		
1694	A	1004065	養徳院	真言宗	笛吹市		
1695	A	1004066	養福寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1696	A	1004067	竜雲院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1697	A	1004068	竜珠院	修験	笛吹市		
1698	A	1004069	竜沢院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
1699	A	1004070	蓮昌寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
1700	A	1004071	京極院	修験	笛吹市		
1701	A	1004072	三宮寺	修験	笛吹市		
1702	A	1004073	清光院	修験	笛吹市		
1703	A	1004074	泰翁院	禅宗	笛吹市		
1704	A	1004075	立静院	法華宗	笛吹市		
1705	A	1004076	念仏寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
1706	A	1004077	本覚院	修験	笛吹市		
1707	A	1004078	薬師堂	禅宗	笛吹市		
111	A	1005001	安禅寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
112	A	1005002	安楽寺	真言宗	笛吹市	28	石和
113	A	1005003	恵法寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
114	A	1005004	円福寺	時宗	笛吹市	28	石和
115	A	1005005	延命院	臨済宗	笛吹市	20	甲府
116	A	1005006	延命院	時宗	笛吹市		
117	A	1005007	遠妙寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
118	A	1005008	願昌寺	真言宗	笛吹市	20	甲府
119	A	1005009	願念寺	浄土真宗	笛吹市	28	石和
120	A	1005010	観音寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
121	A	1005011	窮（究）算寺	曹洞宗	笛吹市		
122	A	1005012	見性院	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
123	A	1005013	元正院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
124	A	1005014	源法院	曹洞宗	笛吹市		
125	A	1005015	元陽寺	臨済宗	笛吹市		
126	A	1005016	広躰寺	臨済宗	笛吹市		
127	A	1005017	西光寺	浄土宗	笛吹市	20	甲府
128	A	1005018	慶運寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
129	A	1005019	慈恩寺	曹洞宗	笛吹市		
130	A	1005020	慈観寺	臨済宗	笛吹市		
131	A	1005021	十善院	臨済宗	笛吹市	20	甲府
132	A	1005022	寿覚院	浄土宗	笛吹市		
133	A	1005023	寿経寺	浄土宗	笛吹市		
134	A	1005024	接慶院	臨済宗	笛吹市		
135	A	1005025	常在寺	日蓮宗	笛吹市	20	甲府
136	A	1005026	成就院	浄土宗	笛吹市	20	甲府
137	A	1005027	常徳寺	日蓮宗	笛吹市	20	甲府
138	A	1005028	定明院	臨済宗	笛吹市		
139	A	1005029	昌隆寺	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
140	A	1005030	少林寺	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
141	A	1005031	神竜寺	時宗	笛吹市	20	甲府
142	A	1005032	清水寺	時宗	笛吹市	20	甲府
143	A	1005033	世音寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
144	A	1005034	善行寺	法華宗	笛吹市	28	石和
145	A	1005035	泉竜寺	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
146	A	1005036	大蔵経寺	真言宗	笛吹市	28	石和
147	A	1005037	長正院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
148	A	1005038	洞光院	臨済宗	笛吹市		
149	A	1005039	東光寺	曹洞宗	笛吹市	20	甲府
150	A	1005040	等倫寺	浄土真宗	笛吹市	28	石和
151	A	1005041	仏陀寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
152	A	1005042	法泉寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
153	A	1005043	法蔵時	浄土宗	笛吹市	20	甲府
154	A	1005044	法性院	曹洞宗	笛吹市		
155	A	1005045	妙玄寺	日蓮宗	笛吹市	20	甲府
156	A	1005046	妙油寺	日蓮宗	笛吹市	20	甲府
157	A	1005047	竜宝寺	臨済宗	笛吹市	28	石和
158	A	1005048	量寿庵	臨済宗	笛吹市		

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
159	A	1005049	涼泉寺	曹洞宗	笛吹市		
160	A	1005050	蓮朝寺	日蓮宗	笛吹市	28	石和
161	A	1005051	円寿院	修験	笛吹市		
162	A	1005052	華（花）蔵院	修験	笛吹市		
163	A	1005053	大聖寺	修験	笛吹市		
164	A	1005054	大宝院	修験	笛吹市		
165	A	1005055	般若院	修験	笛吹市		
85	A	1006001	一行寺	浄土宗	笛吹市	27	塩山
86	A	1006002	桑戸不動堂		笛吹市	27	塩山
87	A	1006003	高（耕）雲寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
88	A	1006004	光度院	浄土宗	笛吹市		
89	A	1006005	地蔵院	曹洞宗	笛吹市	27	塩山
90	A	1006006	正覚寺	曹洞宗	笛吹市	27	塩山
91	A	1006007	石雲寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
92	A	1006008	大徳院	曹洞宗	笛吹市	27	塩山
93	A	1006009	大日如来堂	真言宗	笛吹市	27	塩山
94	A	1006010	長慶寺	浄土宗	笛吹市	28	石和
95	A	1006011	長谷寺	真言宗	笛吹市	27	塩山
96	A	1006012	鎮目寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
97	A	1006013	仏念寺	浄土真宗	笛吹市	27	塩山
98	A	1006014	不動堂		笛吹市	28	石和
99	A	1006015	保雲寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
100	A	1006016	法厳院	臨済宗	笛吹市	28	石和
101	A	1006017	保泉寺	曹洞宗	笛吹市	27	塩山
102	A	1006018	妙厳院	真言宗	笛吹市	28	石和
103	A	1006019	隆昌寺	曹洞宗	笛吹市	28	石和
104	A	1006020	了見寺	浄土真宗	笛吹市		
105	A	1006021	大中院	曹洞宗	笛吹市	28	石和
106	A	1006022	西光寺	浄土宗	笛吹市		
107	A	1006023	不動院	修験	笛吹市		
108	A	1006024	光覚（学）院	修験	笛吹市		
109	A	1006025	持宝院	修験	笛吹市		
110	A	1006026	養宝院	修験	笛吹市		
167	A	1007001	長徳寺	臨済宗	笛吹市	29	河口西
168	A	1007002	東光寺	臨済宗	笛吹市	29	河口西
169	A	1007003	東林寺	日蓮宗	笛吹市	29	河口西
170	A	1007004	宝珠寺	臨済宗	笛吹市	29	河口西
171	A	1007005	本国寺	日蓮宗	笛吹市	29	河口西
2585	B	2008001	永泰寺	臨済宗	甲府市	21	市川大門
2586	B	2008002	吉祥寺	真言宗	甲府市	21	市川大門
2587	B	2008003	耕念寺	臨済宗	甲府市	21	市川大門
2588	B	2008004	慈雲寺	臨済宗	甲府市	21	市川大門
2589	B	2008005	地蔵堂	臨済宗	甲府市		
2590	B	2008006	長慶寺	臨済宗	甲府市	21	市川大門
2591	B	2008007	大宝院	修験	甲府市		
2592	B	2008008	観音堂		甲府市	29	河口西
378	B	2008009	安立寺	日蓮宗	甲府市	20	甲府
379	B	2008010	一蓮寺	時宗	甲府市	47	甲府（大）
380	B	2008011	一渓庵	臨済宗	甲府市	20	甲府
381	B	2008012	稲積国母地蔵堂	臨済宗	甲府市	47	甲府（大）
383	B	2008013	永正寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
384	B	2008014	永正寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府（大）
385	B	2008015	恵運院	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
386	B	2008016	円覚寺	天台宗	甲府市		
387	B	2008017	円光院	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
388	B	2008018	縁受院	浄土宗	甲府市		
389	B	2008019	延寿院	真言宗	甲府市	47	甲府（大）
390	B	2008020	延寿寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府（大）
391	B	2008021	円成寺	臨済宗	甲府市		
392	B	2008022	塩沢寺	真言宗	甲府市	19	甲府北部
393	B	2008023	円通寺	曹洞宗	甲府市		
394	B	2008024	円満寺	浄土宗	甲府市		
395	B	2008025	円満寺	臨済宗	甲府市	20	甲府
396	B	2008026	円妙寺	日蓮宗	甲府市	20	甲府
397	B	2008027	遠光寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府（大）
398	B	2008028	歓喜院	浄土宗	甲府市	47	甲府（大）
399	B	2008029	歓喜院	真言宗	甲府市		
400	B	2008030	歓喜寺	浄土宗	甲府市	47	甲府（大）
401	B	2008031	観昌院	曹洞宗	甲府市	18	茅ヶ岳
402	B	2008032	感応寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府（大）
403	B	2008033	観音寺	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
404	B	2008034	義雲院	臨済宗	甲府市	20	甲府
405	B	2008035	帰命院	浄土宗	甲府市	47	甲府（大）
406	B	2008036	久昌院	臨済宗	甲府市	47	甲府（大）
407	B	2008037	求法寺	浄土真宗	甲府市		
408	B	2008038	教安寺	浄土宗	甲府市	47	甲府（大）
409	B	2008039	教学院	浄土宗	甲府市	47	甲府（大）
410	B	2008040	旭栖院	曹洞宗	甲府市	47	甲府（大）
411	B	2008041	玉伝寺	時宗	甲府市		
412	B	2008042	慶雲寺	曹洞宗	甲府市	47	甲府（大）
413	B	2008043	慶音院	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
414	B	2008044	慶長院	曹洞宗	甲府市	47	甲府（大）
415	B	2008045	景福寺	曹洞宗	甲府市		
416	B	2008046	華光院	真義真言宗	甲府市	47	甲府（大）

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
417	B	2008047	献光寺	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
418	B	2008048	源光寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
419	B	2008049	玄昌寺	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
420	B	2008050	見徳寺	臨済宗	甲府市		
421	B	2008051	玄宝院	真言宗	甲府市	47	甲府(大)
422	B	2008052	興因寺	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
423	B	2008053	光雲寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
424	B	2008054	幸澗院	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
425	B	2008055	広学寺	浄土真宗	甲府市	20	甲府
426	B	2008056	向岩寺	曹洞宗	甲府市	18	茅ヶ岳
427	B	2008057	高橋寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
428	B	2008058	高源寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
429	B	2008059	興国寺	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
430	B	2008060	広厳寺	真言宗	甲府市	47	甲府(大)
431	B	2008061	香積寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
432	B	2008062	光正寺	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
433	B	2008063	光浄寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
434	B	2008064	行蔵院	真言宗	甲府市	47	甲府(大)
435	B	2008065	興蔵寺	真言宗	甲府市	20	甲府
436	B	2008066	光蔵寺	臨済宗	甲府市		
437	B	2008067	光沢寺	浄土真宗	甲府市	47	甲府(大)
438	B	2008068	光道寺	曹洞宗	甲府市		
439	B	2008069	光福寺	浄土宗	甲府市	20	甲府
440	B	2008070	光福寺	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
441	B	2008071	光明院	浄土宗	甲府市		
442	B	2008072	向養寺	臨済宗	甲府市		
443	B	2008073	極楽寺	浄土宗	甲府市		
444	B	2008074	金剛院	曹洞宗	甲府市		
445	B	2008075	西教寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
446	B	2008076	西光寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
447	B	2008077	西昌院	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
448	B	2008078	西浄院	浄土宗	甲府市	18	茅ヶ岳
449	B	2008079	西福寺	臨済宗	甲府市	20	甲府
450	B	2008080	三光寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
451	B	2008081	三星院	曹洞宗	甲府市	28	石和
453	B	2008082	慈恩寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
454	B	2008083	慈恩寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
455	B	2008084	直心院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
456	B	2008085	慈眼寺	曹洞宗	甲府市		
457	B	2008086	慈光院	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
458	B	2008087	慈光院	臨済宗	甲府市	20	甲府
459	B	2008088	慈光院	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
460	B	2008089	慈照庵	曹洞宗	甲府市		
461	B	2008090	自昌院	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
462	B	2008091	慈心院	真言宗	甲府市	47	甲府(大)
463	B	2008092	地蔵菴	浄土宗	甲府市		
464	B	2008093	地蔵庵	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
465	B	2008094	自徳院	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
466	B	2008095	地福院	曹洞宗	甲府市		
467	B	2008096	寿松院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
468	B	2008097	寿誉院	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
469	B	2008098	寿徳院	曹洞宗	甲府市	28	石和
470	B	2008099	春慶寺	浄土真宗	甲府市	47	甲府(大)
471	B	2008100	常安寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
472	B	2008101	松雲寺	臨済宗	甲府市		
473	B	2008102	常雲寺	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
474	B	2008103	常円寺	日蓮宗	甲府市		
475	B	2008104	松翁院	浄土宗	甲府市		
476	B	2008105	浄恩寺	浄土真宗	甲府市	20	甲府
477	B	2008106	正覚寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
478	B	2008107	正覚寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
479	B	2008108	廃松岩院	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
480	B	2008109	常願寺	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
481	B	2008110	上行院	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
482	B	2008111	正行寺	日蓮宗	甲府市	20	甲府
483	B	2008112	浄行寺	日蓮宗	甲府市		
484	B	2008113	松元寺	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
485	B	2008114	浄興寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
486	B	2008115	常光寺	真言宗	甲府市	20	甲府
487	B	2008116	常光寺	曹洞宗	甲府市		
488	B	2008117	常光寺	日蓮宗	甲府市	20	甲府
489	B	2008118	浄光寺	臨済宗	甲府市		
490	B	2008119	昌樹院	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
491	B	2008120	浄性院	真言宗	甲府市		
492	B	2008121	常正院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
493	B	2008122	浄正院	臨済宗	甲府市	20	甲府
495	B	2008123	常照寺	浄土宗	甲府市	20	甲府
496	B	2008124	松雪寺	臨済宗	甲府市		
497	B	2008125	勝善寺	臨済宗	甲府市	20	甲府
498	B	2008126	聖徳寺	曹洞宗	甲府市		
499	B	2008127	称念寺	浄土宗	甲府市	19	甲府北部
500	B	2008128	正念寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
501	B	2008129	浄福寺	浄土宗	甲府市		
502	B	2008130	常福寺	天台宗	甲府市		
503	B	2008131	称名院	浄土宗	甲府市		
504	B	2008132	逍遙院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
505	B	2008133	浄林寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
506	B	2008134	浄蓮寺	日蓮宗	甲府市	20	甲府
507	B	2008135	信楽寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
508	B	2008136	心月院	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
509	B	2008137	信立寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
510	B	2008138	瑞巌院	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
511	B	2008139	瑞岩寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
512	B	2008140	瑞光寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
513	B	2008141	瑞泉寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
514	B	2008142	瑞竜院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
515	B	2008143	清運寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
516	B	2008144	誓願寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
517	B	2008145	盛岩寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
518	B	2008146	清光寺	真言宗	甲府市	20	甲府
519	B	2008147	正寿院	曹洞宗	甲府市		
520	B	2008148	青松院	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
521	B	2008149	清泉寺	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
522	B	2008150	清泉寺	曹洞宗	甲府市		
523	B	2008151	清泰寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
524	B	2008152	清徳院	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
525	B	2008153	聖徳寺	臨済宗	甲府市	20	甲府
526	B	2008154	成立寺	浄土真宗	甲府市		
527	B	2008155	積翠寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
528	B	2008156	雪窓院	臨済宗	甲府市	20	甲府
529	B	2008157	善光寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
530	B	2008158	善光寺	臨済宗	甲府市	20	甲府
531	B	2008159	千手院	曹洞宗	甲府市		
532	B	2008160	千松院	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
533	B	2008161	専称寺	浄土宗	甲府市		
534	B	2008162	善照寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
535	B	2008163	善政寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
536	B	2008164	専徳寺	浄土真宗	甲府市	47	甲府(大)
537	B	2008165	善福院	真言宗	甲府市		
538	B	2008166	善福寺	浄土真宗	甲府市	20	甲府
539	B	2008167	善福寺	臨済宗	甲府市		
540	B	2008168	禅林院	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
541	B	2008169	宗信院	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
542	B	2008170	尊躰寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
543	B	2008171	大雲寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
544	B	2008172	大翁院	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
545	B	2008173	大光寺	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
546	B	2008174	大慈庵	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
547	B	2008175	大珠寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
548	B	2008176	大泉寺	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
549	B	2008177	長願寺	浄土真宗	甲府市	20	甲府
550	B	2008178	長慶寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
551	B	2008179	長源寺	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
552	B	2008180	長谷寺	真言宗	甲府市	47	甲府(大)
553	B	2008181	長谷寺	真言宗	甲府市	20	甲府
554	B	2008182	長昌院	浄土宗	甲府市		
555	B	2008183	長松寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
556	B	2008184	長真院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
557	B	2008185	長泉寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
558	B	2008186	長禅寺	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
559	B	2008187	長宝寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
560	B	2008188	長楽寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
561	B	2008189	天然寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
562	B	2008190	洞雲寺	浄土宗	甲府市		
563	B	2008191	桃岳院	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
564	B	2008192	東光院	曹洞宗	甲府市	18	茅ヶ岳
565	B	2008193	東光院	臨済宗	甲府市		
566	B	2008194	東光寺	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
567	B	2008195	東光寺	臨済宗	甲府市	20	甲府
568	B	2008196	東昌院	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
569	B	2008197	東勝院	臨済宗	甲府市		
570	B	2008198	東勝寺	曹洞宗	甲府市	28	石和
571	B	2008199	東漸院	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
572	B	2008200	洞泉寺	臨済宗	甲府市		
573	B	2008201	東禅寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
574	B	2008202	東福庵	臨済宗	甲府市		
575	B	2008203	東明院	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
576	B	2008204	灯明寺	曹洞宗	甲府市		
577	B	2008205	東明寺	曹洞宗	甲府市		
578	B	2008206	徳願寺	浄土真宗	甲府市		
579	B	2008207	入明寺	浄土真宗	甲府市	20	甲府
580	B	2008208	如意庵	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
581	B	2008209	仁勝寺	臨済宗	甲府市	20	甲府
582	B	2008210	能成寺	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
583	B	2008211	能満寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
584	B	2008212	能満寺	曹洞宗	甲府市	18	茅ヶ岳
586	B	2008213	廃円鏡院	浄土宗	甲府市		
587	B	2008214	廃喜見寺	天台宗	甲府市		
588	B	2008215	廃西方院	浄土宗	甲府市		
589	B	2008216	攀桂寺	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
590	B	2008217	般舟院	時宗	甲府市	20	甲府
591	B	2008218	深草観音堂		甲府市	19	甲府北部
592	B	2008219	福王寺	臨済宗	甲府市	20	甲府
594	B	2008220	福寿院	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
595	B	2008221	福寿院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
596	B	2008222	福寿院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
597	B	2008223	福寿院	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
598	B	2008224	福泉寺	浄土宗	甲府市	19	甲府北部
599	B	2008225	福泉寺	浄土真宗	甲府市		
600	B	2008226	福泉寺	臨済宗	甲府市	20	甲府
601	B	2008227	福泉寺	曹洞宗	甲府市		
602	B	2008228	普済寺	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
603	B	2008229	富春院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
604	B	2008230	仏国寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
605	B	2008231	普門院	真言宗	甲府市		
606	B	2008232	普門院	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
607	B	2008233	普門院	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
608	B	2008234	報恩寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
609	B	2008235	法鏡院	真言宗	甲府市	47	甲府(大)
610	B	2008236	法元寺	日蓮宗	甲府市	20	甲府
611	B	2008237	放光院	曹洞宗	甲府市		
612	B	2008238	法光寺	日蓮宗	甲府市	20	甲府
613	B	2008239	法光寺	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
614	B	2008240	宝積寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
615	B	2008241	宝珠庵	臨済宗	甲府市		
616	B	2008242	報受院	浄土宗	甲府市		
617	B	2008243	宝珠院	真言宗	甲府市	47	甲府(大)
618	B	2008244	法秀寺	日蓮宗	甲府市		
619	B	2008245	宝樹寺	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
620	B	2008246	芳春院	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
622	B	2008247	法身院	浄土宗	甲府市		
623	B	2008248	報身院	浄土宗	甲府市		
624	B	2008249	法泉禅寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
625	B	2008250	宝蔵院	真言宗	甲府市	47	甲府(大)
626	B	2008251	宝蔵寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
627	B	2008252	法輪寺	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
628	B	2008253	法華寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
630	B	2008254	梵行寺	浄土真宗	甲府市		
631	B	2008255	本光寺	浄土宗	甲府市		
632	B	2008256	万蔵院	真言宗	甲府市	47	甲府(大)
633	B	2008257	味雲院	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
634	B	2008258	密蔵院	曹洞宗	甲府市		
635	B	2008259	明王院	真言宗	甲府市	47	甲府(大)
636	B	2008260	明王院	真言宗	甲府市	19	甲府北部
637	B	2008261	明王寺	臨済宗	甲府市	19	甲府北部
638	B	2008262	妙遠寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
639	B	2008263	妙松寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
640	B	2008264	妙詮寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
641	B	2008265	妙本寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
642	B	2008266	珉照寺	浄土真宗	甲府市	20	甲府
643	B	2008267	祐光寺	浄土真宗	甲府市	20	甲府
644	B	2008268	幽松庵	臨済宗	甲府市		
645	B	2008269	熊昌寺	臨済宗	甲府市	20	甲府
646	B	2008270	油川寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
647	B	2008271	養行寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
648	B	2008272	養節院	曹洞宗	甲府市		
649	B	2008273	養泉庵	日蓮宗	甲府市		
650	B	2008274	養徳寺	臨済宗	甲府市		
651	B	2008275	養福寺	曹洞宗	甲府市		
652	B	2008276	要法寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
653	B	2008277	要明寺	日蓮宗	甲府市	20	甲府
654	B	2008278	永明院	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
655	B	2008279	欲生寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
656	B	2008280	来迎寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
657	B	2008281	来福寺	曹洞宗	甲府市	47	甲府(大)
658	B	2008282	利済寺	曹洞宗	甲府市		
659	B	2008283	竜華院	臨済宗	甲府市	47	甲府(大)
660	B	2008284	竜源寺	浄土宗	甲府市	20	甲府
661	B	2008285	竜源寺	曹洞宗	甲府市	19	甲府北部
662	B	2008286	竜光院	臨済宗	甲府市		
663	B	2008287	立宣寺	日蓮宗	甲府市	47	甲府(大)
664	B	2008288	隆泉寺	日蓮宗	甲府市	20	甲府
665	B	2008289	竜騰院	臨済宗	甲府市	20	甲府
666	B	2008290	立本寺	日蓮宗	甲府市	19	甲府北部
667	B	2008291	良円寺	浄土宗	甲府市	47	甲府(大)
668	B	2008292	了願寺	浄土真宗	甲府市		
669	B	2008293	聯芳院	臨済宗	甲府市	20	甲府
670	B	2008294	愛染院	修験	甲府市	47	甲府(大)
671	B	2008295	覚王院	修験	甲府市		
672	B	2008296	学宝院	修験	甲府市		
673	B	2008297	葛行	修験	甲府市		
674	B	2008298	曷行	修験	甲府市		
675	B	2008299	寛行	修験	甲府市		
676	B	2008300	貫道	修験	甲府市		
677	B	2008301	観音院	修験	甲府市		

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
678	B	2008302	安養寺		甲府市		
679	B	2008303	祇園寺	修験	甲府市	47	甲府(大)
680	B	2008304	教勝寺	修験	甲府市	47	甲府(大)
681	B	2008305	教宝院	修験	甲府市		
682	B	2008306	玉泉院	修験	甲府市	47	甲府(大)
683	B	2008307	慶学院	修験	甲府市		
684	B	2008308	玄輝院	修験	甲府市		
685	B	2008309	玄昌院	修験	甲府市		
686	B	2008310	護国院	修験	甲府市		
687	B	2008311	国宝院	修験	甲府市		
688	B	2008312	三光院	修験	甲府市		
689	B	2008313	慈覚院	修験	甲府市		
690	B	2008314	実相院	修験	甲府市		
691	B	2008315	秀禅院	修験	甲府市		
692	B	2008316	寿福院	修験	甲府市		
693	B	2008317	松雲院	修験	甲府市	47	甲府(大)
694	B	2008318	正学院	修験	甲府市		
695	B	2008319	正徳院	修験	甲府市		
696	B	2008320	正宝院	修験	甲府市		
697	B	2008321	正国院	修験	甲府市		
698	B	2008322	神光寺	修験	甲府市		
699	B	2008323	清沢院	修験	甲府市		
700	B	2008324	高野院	修験	甲府市		
701	B	2008325	大乗院	修験	甲府市		
702	B	2008326	大徳院	修験	甲府市	47	甲府(大)
703	B	2008327	大法院	修験	甲府市		
704	B	2008328	大楽院	修験	甲府市	20	甲府
705	B	2008329	大楽院	修験	甲府市		
706	B	2008330	万性院	修験	甲府市	47	甲府(大)
707	B	2008331	福寿院	修験	甲府市		
708	B	2008332	福昌院	修験	甲府市		
709	B	2008333	福昌院	修験	甲府市	47	甲府(大)
710	B	2008334	不動院	修験	甲府市		
711	B	2008335	不動院	修験	甲府市		
712	B	2008336	鳳凰院	修験	甲府市		
713	B	2008337	宝鏡院	修験	甲府市		
714	B	2008338	宝蔵院	修験	甲府市		
715	B	2008339	万能院	修験	甲府市		
716	B	2008340	法輪院	修験	甲府市		
717	B	2008341	満宝院	修験	甲府市		
718	B	2008342	妙見院	修験	甲府市		
719	B	2008343	明宝院	修験	甲府市		
720	B	2008344	祐泉院	修験	甲府市		
721	B	2008345	林長院	修験	甲府市		
722	B	2008346	林宝院	修験	甲府市		
2817	B	2008347	行宝院	修験	甲府市		
2818	B	2008348	城福寺	真言宗	甲府市		
2819	B	2008349	多門院	修験	甲府市		
172	B	2009001	安国寺	曹洞宗	甲府市	21	市川大門
173	B	2009002	安福寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
174	B	2009003	安養寺	浄土真宗	甲府市	20	甲府
175	B	2009004	円明寺	日蓮宗	甲府市	20	甲府
176	B	2009005	円楽寺	真言宗	甲府市	21	市川大門
177	B	2009006	吉祥院	真言宗	甲府市	20	甲府
178	B	2009007	敬泉寺	浄土宗	甲府市	21	市川大門
179	B	2009008	西光庵	曹洞宗	甲府市		
180	B	2009009	実際寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
181	B	2009010	常光寺	日蓮宗	甲府市	21	市川大門
182	B	2009011	浄照寺	浄土真宗	甲府市	20	甲府
183	B	2009012	正清院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
184	B	2009013	常福寺	真言宗	甲府市	21	市川大門
185	B	2009014	瑞心院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
186	B	2009015	清源院	曹洞宗	甲府市	21	市川大門
187	B	2009016	青木院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
188	B	2009017	長昌院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
189	B	2009018	長泉寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
190	B	2009019	廃心経寺	臨済宗?	甲府市	21	市川大門
191	B	2009020	福寿院	曹洞宗	甲府市	21	市川大門
192	B	2009021	法沢寺	曹洞宗	甲府市	21	市川大門
193	B	2009022	法地院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
194	B	2009023	満願寺	曹洞宗	甲府市	20	甲府
195	B	2009024	妙石庵	日蓮宗	甲府市	20	甲府
196	B	2009025	茂林寺	禅曹洞宗	甲府市		
197	B	2009026	薬本寺		甲府市	21	市川大門
198	B	2009027	竜華院	曹洞宗	甲府市	20	甲府
199	B	2009028	林泉寺	臨済宗	甲府市	20	甲府
200	B	2009029	観寿院	天台宗	甲府市		
201	B	2009030	行宝院	修験	甲府市		
202	B	2009031	常学院	修験	甲府市		
203	B	2009032	東養院	修験	甲府市	20	甲府
204	B	2009033	来迎寺	真言宗	甲府市	21	市川大門
342	B	2010001	往生院	浄土宗	甲斐市	10	韮崎
343	B	2010002	黄梅院	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
344	B	2010003	行禅寺	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
345	B	2010004	教福寺	真言宗	甲斐市		

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
346	B	2010005	久岸寺	曹洞宗	甲斐市		
347	B	2010006	光照寺	曹洞宗	甲斐市	10	韮崎
348	B	2010007	興禅寺	臨済宗	甲斐市	10	韮崎
349	B	2010008	金剛寺	曹洞宗	甲斐市	10	韮崎
350	B	2010009	慈眼院	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部
351	B	2010010	自性院	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
352	B	2010011	地蔵院	曹洞宗	甲斐市	10	韮崎
353	B	2010012	青竜寺	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部
354	B	2010013	善養院	臨済宗	甲斐市		
355	B	2010014	総聞院	曹洞宗	甲斐市		
356	B	2010015	長昌院	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部
357	B	2010016	長泉寺	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部
358	B	2010017	福蔵院	曹洞宗	甲斐市		
359	B	2010018	法喜院	曹洞宗	甲斐市	10	韮崎
360	B	2010019	法泉寺	日蓮宗	甲斐市	10	韮崎
361	B	2010020	妙秀時	日蓮宗	甲斐市	19	甲府北部
362	B	2010021	妙善寺	臨済宗	甲斐市	10	韮崎
363	B	2010022	竜泉院	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部
364	B	2010023	竜蔵院	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部
365	B	2010024	林泉院	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
366	B	2010025	円教院(坊迹)	修験	甲斐市		
367	B	2010026	教国院	修験	甲斐市		
368	B	2010027	三光院	修験	甲斐市	10	韮崎
369	B	2010028	自身院	修験	甲斐市		
370	B	2010029	大勝院	修験	甲斐市		
371	B	2010030	泰蔵院	修験	甲斐市		
372	B	2010031	長正院	修験	甲斐市		
373	B	2010032	普賢院(坊跡)	修験	甲斐市		
374	B	2010033	万熊院	修験	甲斐市		
375	B	2010034	竜源院	修験	甲斐市		
376	B	2010035	持宝院(坊跡)	修験	甲斐市		
377	B	2010036	正宝院	修験	甲斐市		
308	B	2011001	安楽寺	曹洞宗	甲斐市	20	甲府
309	B	2011002	円通菴	曹洞宗	甲斐市		
310	B	2011003	円立寺	日蓮宗	甲斐市	20	甲府
311	B	2011004	久光寺	曹洞宗	甲斐市	20	甲府
312	B	2011005	玄広寺	臨済宗	甲斐市	20	甲府
313	B	2011006	向玉院	曹洞宗	甲斐市	20	甲府
314	B	2011007	光善寺	真言宗	甲斐市	20	甲府
315	B	2011008	金剛寺	曹洞宗	甲斐市	20	甲府
316	B	2011009	慈照寺	曹洞宗	甲斐市	20	甲府
317	B	2011010	浄円寺	臨済宗	甲斐市		
318	B	2011011	常照院	曹洞宗	甲斐市	20	甲府
319	B	2011012	成道院	曹洞宗	甲斐市	20	甲府
320	B	2011013	称念寺	浄土宗	甲斐市	20	甲府
321	B	2011014	浄隆寺	浄土宗	甲斐市		
322	B	2011015	乗蓮寺	浄土宗	甲斐市		
323	B	2011016	信慶寺	曹洞宗	甲斐市		
324	B	2011017	真福寺	曹洞宗	甲斐市	20	甲府
325	B	2011018	瑞良寺	曹洞宗	甲斐市	20	甲府
326	B	2011019	善応寺	臨済宗	甲斐市	20	甲府
327	B	2011020	大広寺	日蓮宗	甲斐市	20	甲府
328	B	2011021	大慈院	曹洞宗	甲斐市	20	甲府
329	B	2011022	忠安寺	日蓮宗	甲斐市	20	甲府
331	B	2011023	法久寺	日蓮宗	甲斐市	20	甲府
332	B	2011024	本妙寺	日蓮宗	甲斐市	20	甲府
333	B	2011025	弥陀寺	曹洞宗	甲斐市		
334	B	2011026	妙蓮寺	日蓮宗	甲斐市	20	甲府
335	B	2011027	薬王寺	臨済宗	甲斐市		
336	B	2011028	隆法寺	臨済宗	甲斐市	20	甲府
337	B	2011029	蓮生寺	日蓮宗	甲斐市	20	甲府
338	B	2011030	光明院	修験	甲斐市		
339	B	2011031	大乗院	修験	甲斐市		
340	B	2011032	天王院	修験	甲斐市		
341	B	2011033	竜宝院	修験	甲斐市		
268	B	2012001	安正院	曹洞宗	甲斐市		
269	B	2012002	吉祥院	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
270	B	2012003	空性院	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部
271	B	2012004	功徳院	浄土宗	甲斐市	19	甲府北部
272	B	2012005	広済寺	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
273	B	2012006	幸福院	真言宗	甲斐市		
274	B	2012007	慈眼寺	曹洞宗	甲斐市		
275	B	2012008	慈光院	曹洞宗	甲斐市		
276	B	2012009	慈徳院	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部
277	B	2012010	正覚院	真言宗	甲斐市		
278	B	2012011	常楽寺	曹洞宗	甲斐市		
279	B	2012012	正授院	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
280	B	2012013	常説寺	日蓮宗	甲斐市	19	甲府北部
281	B	2012014	浄泉寺	曹洞宗	甲斐市		
282	B	2012015	少林寺	曹洞宗	甲斐市		
283	B	2012016	生蓮寺	浄土宗	甲斐市		
284	B	2012017	随岸寺	臨済宗	甲斐市		
285	B	2012018	青松庵	曹洞宗	甲斐市		
286	B	2012019	清心庵	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部
289	B	2012019	大寧寺	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
287	B	2012020	清沢寺	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
288	B	2012021	双峯院	臨済宗	甲斐市	18	茅ヶ岳
290	B	2012022	長光寺	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部
291	B	2012023	天沢寺	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
292	B	2012024	東福院	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
293	B	2012025	徳林寺	曹洞宗	甲斐市		
294	B	2012026	如意寺	曹洞宗	甲斐市	18	茅ヶ岳
295	B	2012027	普禅院	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部
296	B	2012028	宝珠寺	臨済宗	甲斐市	19	甲府北部
297	B	2012029	宝勝寺	曹洞宗	甲斐市	18	茅ヶ岳
298	B	2012030	本興寺	日蓮宗	甲斐市	19	甲府北部
299	B	2012031	峰観音堂	真言宗	甲斐市	19	甲府北部
300	B	2012032	明安寺	曹洞宗	甲斐市		
301	B	2012033	薬師寺	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
302	B	2012034	羅漢寺	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
303	B	2012035	隆興院	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
304	B	2012036	竜泉寺	曹洞宗	甲斐市		
305	B	2012037	林泉寺	曹洞宗	甲斐市	19	甲府北部
306	B	2012038	観了	修験	甲斐市		
307	B	2012039	重蔵院	修験	甲斐市		
205	B	2013001	安楽寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
206	B	2013002	永源寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
207	B	2013003	延命寺	曹洞宗	中央市		
208	B	2013004	海蔵寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
209	B	2013005	歓盛院	曹洞宗	中央市	20	甲府
210	B	2013006	観音寺	曹洞宗	中央市		
211	B	2013007	貴雲院	曹洞宗	中央市	20	甲府
212	B	2013008	広雲寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
213	B	2013009	光西寺	曹洞宗	中央市		
214	B	2013010	広泰院	曹洞宗	中央市	20	甲府
215	B	2013011	光福院	曹洞宗	中央市	20	甲府
216	B	2013012	西雲寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
217	B	2013013	自照庵	曹洞宗	中央市		
218	B	2013014	周徳院	曹洞宗	中央市		
219	B	2013015	正行寺	日蓮宗	中央市	20	甲府
220	B	2013016	常光寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
222	B	2013017	心月院	曹洞宗	中央市		
223	B	2013018	清伝寺	曹洞宗	中央市		
224	B	2013019	善乗寺	日蓮宗	中央市	20	甲府
226	B	2013020	長印寺	浄土宗	中央市		
227	B	2013021	長栄寺	日蓮宗	中央市	20	甲府
228	B	2013022	長慶寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
229	B	2013023	長林寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
230	B	2013024	東光院	曹洞宗	中央市	20	甲府
231	B	2013025	東沢寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
232	B	2013026	富西寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
233	B	2013027	普明寺	曹洞宗	中央市		
234	B	2013028	法覚院	真言宗	中央市		
235	B	2013029	宝性庵	真言宗	中央市	20	甲府
236	B	2013030	明暗寺	普化宗	中央市	20	甲府
237	B	2013031	妙遠寺	日蓮宗	中央市	20	甲府
238	B	2013032	妙性寺	日蓮宗	中央市	20	甲府
239	B	2013033	無量院	曹洞宗	中央市	20	甲府
240	B	2013034	無量寺	曹洞宗	中央市		
241	B	2013035	陽春院	曹洞宗	中央市	20	甲府
242	B	2013036	滝泉寺	日蓮宗	中央市	20	甲府
243	B	2013037	竜徳寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
244	B	2013038	林照院	曹洞宗	中央市	20	甲府
245	B	2013039	瑠璃光寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
246	B	2013040	蓮華寺	日蓮宗	中央市	20	甲府
248	B	2013041	玉照院	修験	中央市		
249	B	2013042	峯学院	修験	中央市		
1241	B	2014001	安養寺	浄土真宗	昭和町		
1242	B	2014002	源光寺	浄土宗	昭和町	20	甲府
1243	B	2014003	光西寺	臨済宗	昭和町		
1244	B	2014004	香積寺	臨済宗	昭和町	20	甲府
1245	B	2014005	興善寺	曹洞宗	昭和町	20	甲府
1246	B	2014006	西方寺	曹洞宗	昭和町		
1247	B	2014007	寿楽寺	曹洞宗	昭和町	20	甲府
1248	B	2014008	浄安寺	曹洞宗	昭和町	20	甲府
1249	B	2014009	正覚寺	日蓮宗	昭和町	20	甲府
1250	B	2014010	浄慶寺	浄土宗	昭和町	20	甲府
1251	B	2014011	正法寺	日蓮宗	昭和町	20	甲府
1252	B	2014012	清心寺	浄土宗	昭和町	20	甲府
1253	B	2014013	浅間寺	曹洞宗	昭和町	20	甲府
1254	B	2014014	泉応寺	日蓮宗	昭和町	20	甲府
1255	B	2014015	善立寺	臨済宗	昭和町		
1256	B	2014016	増泉寺	曹洞宗	昭和町	20	甲府
1257	B	2014017	大円寺	日蓮宗	昭和町	20	甲府
1258	B	2014018	長泉院	曹洞宗	昭和町	20	甲府
1259	B	2014019	長禅寺	曹洞宗	昭和町	20	甲府
1260	B	2014020	東光寺	曹洞宗	昭和町		
1261	B	2014021	日光寺	曹洞宗	昭和町		
1262	B	2014022	仏乗寺	日蓮宗	昭和町	20	甲府
1263	B	2014023	法界寺	日蓮宗	昭和町	20	甲府

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
1264	B	2014024	本誓寺	浄土真宗	昭和町	20	甲府
1265	B	2014025	本妙寺	日蓮宗	昭和町	20	甲府
1266	B	2014026	妙源寺	日蓮宗	昭和町	20	甲府
1267	B	2014027	妙全寺	日蓮宗	昭和町	20	甲府
1268	B	2014028	妙福寺	日蓮宗	昭和町	20	甲府
1271	B	2014029	蓮華寺	日蓮宗	昭和町	20	甲府
1877	B	2015001	永正寺	日蓮宗	中央市	21	市川大門
1878	B	2015002	円定	修験	中央市		
1879	B	2015003	円立寺	日蓮宗	中央市	20	甲府
1880	B	2015004	遠妙寺	日蓮宗	中央市	20	甲府
1881	B	2015005	海雲院	曹洞宗	中央市	20	甲府
1882	B	2015006	海前寺	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1883	B	2015007	観請院	曹洞宗	中央市		
1884	B	2015008	貴盛院	曹洞宗	中央市	20	甲府
1885	B	2015009	貴蔵院	曹洞宗	中央市	20	甲府
1886	B	2015010	慶昌院	曹洞宗	中央市	20	甲府
1887	B	2015011	光徳院	曹洞宗	中央市	20	甲府
1888	B	2015012	西光寺	曹洞宗	中央市		
1889	B	2015013	西福院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1890	B	2015014	慈雲院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1891	B	2015015	慈光院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1892	B	2015016	宗林院	曹洞宗	中央市		
1893	B	2015017	上行寺	日蓮宗	中央市	20	甲府
1894	B	2015018	昌福院	曹洞宗	中央市	20	甲府
1895	B	2015019	大安寺	曹洞宗	中央市	20	甲府
1896	B	2015020	大慈院	曹洞宗	中央市		
1897	B	2015021	長慶寺	曹洞宗	中央市		
1898	B	2015022	長徳院	曹洞宗	中央市	20	甲府
1899	B	2015023	東林寺	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1900	B	2015024	宝珠院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1901	B	2015025	法星院	曹洞宗	中央市	20	甲府
1902	B	2015026	妙泉寺	日蓮宗	中央市	20	甲府
1903	B	2015027	妙法寺	日蓮宗	中央市	21	市川大門
1904	B	2015028	竜光院	曹洞宗	中央市	20	甲府
1905	B	2015029	蓮重寺	日蓮宗	中央市	21	市川大門
1906	B	2015030	地蔵院	曹洞宗	中央市	20	甲府
1907	B	2015031	蓮性寺	日蓮宗	中央市	20	甲府
225	B	2015032	大聖院	曹洞宗	中央市	20	甲府
247	B	2015033	義宝院	修験	中央市		
250	B	2016001	永泉寺	真言宗	中央市	21	市川大門
251	B	2016002	円光寺	日蓮宗	中央市	21	市川大門
252	B	2016003	円妙寺	日蓮宗	中央市	21	市川大門
253	B	2016004	延命寺	真言宗	中央市	21	市川大門
254	B	2016005	花（華）台寺	時宗	中央市	21	市川大門
256	B	2016006	三光寺	時宗	中央市		
257	B	2016007	三星院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
259	B	2016008	太子堂	時宗	中央市		
260	B	2016009	大福寺	真言宗	中央市	21	市川大門
261	B	2016010	東林寺		中央市		
262	B	2016011	法久寺	曹洞宗	中央市	21	市川大門
263	B	2016012	法乗（常）寺	日蓮宗	中央市	21	市川大門
264	B	2016013	妙法寺	日蓮宗	中央市	21	市川大門
265	B	2016014	法雲庵	曹洞宗	中央市	21	市川大門
266	B	2016015	龍光院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
267	B	2016016	龍心院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1860	B	2016017	延長寺	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1861	B	2016018	久沢寺	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1862	B	2016019	金昌院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1863	B	2016020	向陽院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1864	B	2016021	慈運院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1865	B	2016022	地蔵院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1866	B	2016023	正因寺	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1867	B	2016024	常念寺	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1868	B	2016025	正福寺	真言宗	中央市	21	市川大門
1869	B	2016026	神宮寺	真言宗	中央市	21	市川大門
1870	B	2016027	清伝寺	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1871	B	2016028	伝竜院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1872	B	2016029	日光寺	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1873	B	2016030	福泉院	曹洞宗	中央市	21	市川大門
1874	B	2016031	本性坊	日蓮宗	中央市	21	市川大門
1875	B	2016032	快長院	修験	中央市	21	市川大門
1876	B	2016033	信光院	修験	中央市	21	市川大門
2593	C	3017001	阿弥陀堂	臨済宗	甲州市		
2594	C	3017002	安養院	臨済宗	甲州市		
2595	C	3017003	雲峰寺	臨済宗	甲州市	33	大菩薩
2596	C	3017004	栄学院	修験	甲州市		
2597	C	3017005	栄昌院	修験	甲州市	27	塩山
2598	C	3017006	永照院	修験	甲州市		
2599	C	3017007	永念寺	臨済宗	甲州市		
2600	C	3017008	恵林寺	臨済宗	甲州市	27	塩山
2601	C	3017009	緑瑞寺	浄土真宗	甲州市	27	塩山
2602	C	3017010	円長寺	臨済宗	甲州市	27	塩山
2603	C	3017011	延命院	臨済宗	甲州市	27	塩山
2604	C	3017012	円明堂	臨済宗	甲州市		
2605	C	3017013	応量寺	臨済宗	甲州市	27	塩山

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
2606	C	3017014	大樹院	臨済宗	甲州市	27	塩山
2607	C	3017015	観	修験	甲州市		
2608	C	3017016	岩松院	臨済宗	甲州市	27	塩山
2609	C	3017017	干将寺	曹洞宗	甲州市	27	塩山
2610	C	3017018	岩昌寺	曹洞宗	甲州市	33	大菩薩
2611	C	3017019	願正寺	浄土真宗	甲州市	27	塩山
2612	C	3017020	観楽院	修験	甲州市		
2613	C	3017021	玉蔵院	臨済宗	甲州市		
2614	C	3017022	金鶏寺	臨済宗	甲州市	32	柳沢峠
2615	C	3017023	慶安寺	曹洞宗	甲州市		
2616	C	3017024	渓雲寺	臨済宗	甲州市		
2617	C	3017025	継統院	臨済宗	甲州市		
2618	C	3017026	見妙	修験	甲州市		
2619	C	3017027	向岳寺	臨済宗	甲州市	27	塩山
2620	C	3017028	化楽院	修験	甲州市		
2621	C	3017029	高森院	臨済宗	甲州市	27	塩山
2622	C	3017030	庚申寺	臨済宗	甲州市		
2623	C	3017031	光明庵	臨済宗	甲州市		
2624	C	3017032	金剛院	修験	甲州市	27	塩山
2625	C	3017033	西光寺	臨済宗	甲州市		
2626	C	3017034	菜養庵	臨済宗	甲州市		
2627	C	3017035	慈雲寺	臨済宗	甲州市	33	大菩薩
2628	C	3017036	慈眼寺	臨済宗	甲州市	33	大菩薩
2629	C	3017037	地蔵院	浄土宗	甲州市		
2630	C	3017038	慈徳院	臨済宗	甲州市	27	塩山
2631	C	3017039	高橋寺	臨済宗	甲州市		
2632	C	3017040	秋覚	修験	甲州市		
2633	C	3017041	周林寺	臨済宗	甲州市	33	大菩薩
2634	C	3017042	受得寺	浄土真宗	甲州市	27	塩山
2635	C	3017043	正覚寺	臨済宗	甲州市	27	塩山
2636	C	3017044	松径院	臨済宗	甲州市	27	塩山
2637	C	3017045	正継寺	曹洞宗	甲州市		
2638	C	3017046	常光院	曹洞宗	甲州市		
2639	C	3017047	松山	修験	甲州市		
2640	C	3017048	昌樹院	臨済宗	甲州市	27	塩山
2641	C	3017049	昌寿院	臨済宗	甲州市		
2642	C	3017050	省松庵	黄檗宗	甲州市		
2643	C	3017051	常正寺	真言宗	甲州市		
2644	C	3017052	松泉寺	臨済宗	甲州市	27	塩山
2645	C	3017053	常泉寺	浄土真宗	甲州市	27	塩山
2646	C	3017054	浄蔵院	修験	甲州市		
2647	C	3017055	浄土庵	臨済宗	甲州市		
2648	C	3017056	正念寺	浄土宗	甲州市	27	塩山
2649	C	3017057	正念寺	浄土宗	甲州市		
2650	C	3017058	常楽院	修験	甲州市		
2651	C	3017059	正林寺	浄土真宗	甲州市	27	塩山
2652	C	3017060	神宮寺	真言宗	甲州市		
2653	C	3017061	栖雲寺	臨済宗	甲州市	27	塩山
2654	C	3017062	聖現寺	臨済宗	甲州市		
2655	C	3017063	精神院	臨済宗	甲州市		
2656	C	3017064	清水寺	臨済宗	甲州市	27	塩山
2657	C	3017065	青苔寺	曹洞宗	甲州市	27	塩山
2658	C	3017066	宗竜寺	曹洞宗	甲州市		
2659	C	3017067	善教	修験	甲州市		
2660	C	3017068	千手院	臨済宗	甲州市	27	塩山
2661	C	3017069	善正寺	浄土真宗	甲州市	27	塩山
2662	C	3017070	全相寺	曹洞宗	甲州市		
2663	C	3017071	全応院	曹洞宗	甲州市	27	塩山
2664	C	3017072	大乗院	修験	甲州市		
2665	C	3017073	旦過庵	臨済宗	甲州市		
2666	C	3017074	仲泉寺	曹洞宗	甲州市	27	塩山
2667	C	3017075	長谷寺	曹洞宗	甲州市		
2668	C	3017076	長昌院	臨済宗	甲州市		
2669	C	3017077	長松院	臨済宗	甲州市		
2670	C	3017078	長松寺	臨済宗	甲州市		
2671	C	3017079	灯外庵	臨済宗	甲州市	27	塩山
2672	C	3017080	東覚院	修験	甲州市		
2673	C	3017081	東光院	曹洞宗	甲州市		
2674	C	3017082	東陽軒	臨済宗	甲州市	27	塩山
2675	C	3017083	東林寺	臨済宗	甲州市	27	塩山
2676	C	3017084	徳成寺	浄土真宗	甲州市		
2677	C	3017085	能智院	浄土宗	甲州市	27	塩山
2678	C	3017086	廃桂林寺		甲州市		
2679	C	3017087	廃千学院	修験	甲州市		
2680	C	3017088	福応寺	浄土真宗	甲州市	33	大菩薩
2681	C	3017089	福寿庵	臨済宗	甲州市		
2682	C	3017090	福蔵院	真言宗	甲州市	33	大菩薩
2684	C	3017092	徧照寺	浄土宗	甲州市		
2685	C	3017093	放光寺	真言宗	甲州市	27	塩山
2686	C	3017094	宝授院	曹洞宗	甲州市	33	大菩薩
2687	C	3017095	宝珠院	真言宗	甲州市		
2688	C	3017096	宝珠院	臨済宗	甲州市	27	塩山
2689	C	3017097	法性院	臨済宗	甲州市		
2690	C	3017098	法昌寺	日蓮宗	甲州市	27	塩山
2691	C	3017099	法正寺	浄土真宗	甲州市	33	大菩薩

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
2692	C	3017100	法盛寺	日蓮宗	甲州市	27	塩山
2693	C	3017101	法泉寺	臨済宗	甲州市	33	大菩薩
2694	C	3017102	法伝寺	日蓮宗	甲州市	27	塩山
2695	C	3017103	法幢院	曹洞宗	甲州市	33	大菩薩
2696	C	3017104	法蓮寺	日蓮宗	甲州市	27	塩山
2697	C	3017105	本要寺	日蓮宗	甲州市	27	塩山
2698	C	3017106	松本院	修験	甲州市		
2699	C	3017107	明	修験	甲州市		
2700	C	3017108	妙善寺	日蓮宗	甲州市	27	塩山
2701	C	3017109	妙堂庵	曹洞宗	甲州市		
2702	C	3017110	明光院	修験	甲州市		
2703	C	3017111	望月庵	臨済宗	甲州市	27	塩山
2704	C	3017112	文珠院	曹洞宗	甲州市	33	大菩薩
2705	C	3017113	薬師庵	浄土宗	甲州市		
2706	C	3017114	涌泉寺	曹洞宗	甲州市	27	塩山
2707	C	3017115	祐泉寺	真言宗	甲州市		
2708	C	3017116	養心庵	臨済宗	甲州市		
2709	C	3017117	竜海寺	真言宗	甲州市		
2710	C	3017118	竜光院	真言宗	甲州市	27	塩山
2711	C	3017119	滝本院	真言宗	甲州市	33	大菩薩
2712	C	3017120	了宝院	修験	甲州市		
2713	C	3017121	西原寺	曹洞宗	甲州市		
2715	C	3017123	畠桜寺	浄土宗	甲州市		
2716	C	3017124	東隠軒	臨済宗	甲州市	27	塩山
2717	C	3017125	栖松軒	臨済宗	甲州市		
2718	C	3017126	長慶院	臨済宗	甲州市		
2517	C	3018001	阿弥陀寺	浄土宗	甲州市	28	石和
2519	C	3018003	威徳院	修験	甲州市	28	石和
2520	C	3018004	円成寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2521	C	3018005	円常坊	日蓮宗	甲州市	28	石和
2522	C	3018006	海蔵院	真言宗	甲州市	28	石和
2523	C	3018007	海宝院	修験	甲州市	28	石和
2524	C	3018008	慶専寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2525	C	3018009	見性院	曹洞宗	甲州市		
2526	C	3018010	賢正寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2527	C	3018011	光源寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2528	C	3018012	光明院	真言宗	甲州市		
2529	C	3018013	護念寺	浄土宗	甲州市	28	石和
2530	C	3018014	金剛寺	真言宗	甲州市	28	石和
2531	C	3018015	西教寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2532	C	3018016	三光寺	浄土真宗	甲州市	33	大菩薩
2533	C	3018017	自福院	修験	甲州市	27	塩山
2534	C	3018018	正覚寺	浄土宗	甲州市	28	石和
2535	C	3018019	上行寺	日蓮宗	甲州市	28	石和
2536	C	3018020	正宗寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2537	C	3018021	浄泉寺	浄土宗	甲州市	28	石和
2538	C	3018022	生福寺	浄土宗	甲州市	28	石和
2539	C	3018023	少林寺	天台宗	甲州市	27	塩山
2540	C	3018024	少林寺	曹洞宗	甲州市	28	石和
2541	C	3018025	浄蓮寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2542	C	3018026	真光寺	浄土真宗	甲州市	27	塩山
2543	C	3018027	仙光寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2544	C	3018028	泉勝院	曹洞宗	甲州市	28	石和
2545	C	3018029	善昌寺	浄土宗	甲州市	28	石和
2546	C	3018030	専福寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2547	C	3018031	専立寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2548	C	3018032	大正院	修験	甲州市	27	塩山
2549	C	3018033	大善寺	真言宗	甲州市	28	石和
2550	C	3018034	大徳院	修験	甲州市		
2551	C	3018035	東春庵	曹洞宗	甲州市	27	塩山
2552	C	3018036	東漸院	曹洞宗	甲州市	27	塩山
2553	C	3018037	東林院	曹洞宗	甲州市	27	塩山
2554	C	3018038	徳岸院	曹洞宗	甲州市	28	石和
2555	C	3018039	野呂寺		甲州市		
2556	C	3018040	福泉寺	浄土真宗	甲州市	27	塩山
2557	C	3018041	仏国寺	曹洞宗	甲州市		
2558	C	3018042	報恩寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2559	C	3018043	法眼院	真言宗	甲州市	28	石和
2560	C	3018044	法寿院	曹洞宗	甲州市	27	塩山
2561	C	3018045	本立寺	日蓮宗	甲州市	27	塩山
2562	C	3018046	万福寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2563	C	3018047	万宝院	修験	甲州市	28	石和
2564	C	3018048	立正寺	日蓮宗	甲州市	27	塩山
2565	C	3018049	立正寺	日蓮宗	甲州市	27	塩山
2566	C	3018050	竜蔵院	修験	甲州市		
2567	C	3018051	林照寺	浄土真宗	甲州市	27	塩山
2568	C	3018052	蓮華寺	日蓮宗	甲州市	28	石和
2569	C	3018053	不動寺	天台宗	甲州市	33	大菩薩
2570	C	3018054	前大滝不動尊		甲州市	33	大菩薩
2571	C	3018055	虚空菩薩堂		甲州市	33	大菩薩
2572	C	3018056	大滝不動尊	修験	甲州市	33	大菩薩
2573	C	3018057	薬師		甲州市	28	石和
2574	C	3018058	玄正寺	浄土真宗	甲州市	28	石和
2575	C	3018059	中原寺	浄土真宗	甲州市	27	塩山
2577	C	3018061	観音堂		甲州市	27	塩山

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
2719	C	3019001	景徳院	曹洞宗	甲州市	34	笹子
2720	C	3019002	西光寺	浄土宗	甲州市	34	笹子
2721	C	3019003	松智院	浄土宗	甲州市	34	笹子
2722	C	3019004	真竜寺	曹洞宗	甲州市	34	笹子
2723	C	3019005	棲雲寺	臨済宗	甲州市	34	笹子
2724	C	3019006	南光寺	曹洞宗	甲州市		
2725	C	3019007	養真寺	浄土宗	甲州市	34	笹子
2726	C	3019008	大正院	修験	甲州市		
819	C	3020001	牛御堂	浄土真宗	山梨市	27	塩山
820	C	3020002	雲光寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
821	C	3020003	永安寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
822	C	3020004	永昌院	曹洞宗	山梨市	27	塩山
823	C	3020005	円応寺	真言宗	山梨市		
824	C	3020006	円通寺	浄土宗	山梨市	27	塩山
825	C	3020007	円福寺	浄土宗	山梨市	27	塩山
826	C	3020008	円福寺	浄土真宗	山梨市	27	塩山
827	C	3020009	応現寺	浄土真宗	山梨市	27	塩山
828	C	3020010	鬼搦堂	臨済宗	山梨市		
829	C	3020011	海島寺	曹洞宗	山梨市	28	石和
830	C	3020012	観音寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
832	C	3020013	観音堂	真言宗	山梨市	27	塩山
833	C	3020014	慶雲寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
834	C	3020015	慶松寺	浄土宗	山梨市	27	塩山
835	C	3020016	光雲寺	浄土宗	山梨市	27	塩山
836	C	3020017	光善寺	曹洞宗	山梨市	28	石和
837	C	3020018	光福寺	天台宗	山梨市	27	塩山
838	C	3020019	光明寺	浄土宗	山梨市	27	塩山
839	C	3020020	金光寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
840	C	3020021	金竜寺	臨済宗	山梨市		
841	C	3020022	慈心院	曹洞宗	山梨市	27	塩山
842	C	3020023	地蔵院	浄土宗	山梨市		
843	C	3020024	実相院	臨済宗	山梨市	27	塩山
844	C	3020025	宗禅寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
845	C	3020026	十輪院	真言宗	山梨市		
846	C	3020027	宿願寺	浄土真宗	山梨市	27	塩山
847	C	3020028	寿仏庵	臨済宗	山梨市	27	塩山
848	C	3020029	寿命院	浄土宗	山梨市	27	塩山
849	C	3020030	寿量寺	日蓮宗	山梨市		
850	C	3020031	順正院	修験	山梨市	27	塩山
851	C	3020032	常性寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
735	C	3020033	聖徳寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
736	C	3020034	常福寺	浄土真宗	山梨市		
737	C	3020035	称名院	浄土宗	山梨市	28	石和
739	C	3020036	浄林寺	浄土宗	山梨市	27	塩山
740	C	3020037	真休寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
741	C	3020038	信行寺	黄檗宗	山梨市		
742	C	3020039	神宮寺	真言宗（新義）	山梨市	27	塩山
743	C	3020040	信盛院	曹洞宗	山梨市	27	塩山
744	C	3020041	瑞翁院	真言宗	山梨市		
745	C	3020042	西願寺	浄土真宗	山梨市	27	塩山
746	C	3020043	西称院	浄土宗	山梨市	27	塩山
747	C	3020044	清水寺	真言宗（新義）	山梨市	27	塩山
748	C	3020045	清白寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
749	C	3020046	善養寺	浄土宗	山梨市	27	塩山
750	C	3020047	禅林寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
751	C	3020048	宗円庵	臨済宗	山梨市		
752	C	3020049	大翁寺	曹洞宗	山梨市	28	石和
753	C	3020050	醍醐院	浄土宗	山梨市		
754	C	3020051	大広寺	浄土宗	山梨市		
755	C	3020052	太子寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
756	C	3020053	大法寺	日蓮宗	山梨市	28	石和
757	C	3020054	知足院	臨済宗	山梨市	27	塩山
758	C	3020055	長雲寺	浄土宗	山梨市		
759	C	3020056	長源寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
760	C	3020057	長松院	曹洞宗	山梨市		
761	C	3020058	長善寺	浄土宗	山梨市		
762	C	3020059	長福寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
763	C	3020060	通宝寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
764	C	3020061	伝宗寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
765	C	3020062	東地院	曹洞宗	山梨市	28	石和
767	C	3020063	東前寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
768	C	3020064	湯前寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
769	C	3020065	福寿院	曹洞宗	山梨市	27	塩山
770	C	3020066	普賢寺	真言宗	山梨市	27	塩山
771	C	3020067	富向寺	曹洞宗	山梨市	28	石和
772	C	3020068	不動寺	真言宗	山梨市	27	塩山
773	C	3020069	望月庵	臨済宗	山梨市		
774	C	3020070	宝積寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
776	C	3020071	法昌寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
777	C	3020072	法蔵寺	浄土真宗	山梨市	27	塩山
778	C	3020073	法蔵寺	浄土宗	山梨市	27	塩山
779	C	3020074	法道院	浄土宗	山梨市		
780	C	3020075	法輪寺	臨済宗	山梨市	27	塩山

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
781	C	3020076	牧洞寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
782	C	3020077	万福寺	浄土真宗	山梨市	28	石和
783	C	3020078	妙音寺	浄土宗	山梨市	27	塩山
784	C	3020079	妙教寺	浄土宗	山梨市		
785	C	3020080	妙正寺	浄土真宗	山梨市	27	塩山
786	C	3020081	妙善寺	曹洞宗	山梨市	28	石和
787	C	3020082	無量寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
788	C	3020083	融松庵		山梨市	27	塩山
789	C	3020084	養安寺	浄土宗	山梨市	28	石和
790	C	3020085	竜泉寺	浄土宗	山梨市	27	塩山
791	C	3020086	了願寺	浄土真宗	山梨市		
792	C	3020087	霊岩寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
793	C	3020088	蓮清院	浄土宗	山梨市		
738	C	3020089	常楽院	修験	山梨市	27	塩山
766	C	3020090	東照院	修験	山梨市		
794	C	3020091	玄恕院	修験	山梨市		
795	C	3020092	光明院	修験	山梨市	27	塩山
796	C	3020093	幸福院	修験	山梨市		
797	C	3020094	五大寺	修験	山梨市		
798	C	3020095	三国院	修験	山梨市	27	塩山
799	C	3020096	三条院	修験	山梨市	27	塩山
800	C	3020097	地蔵寺	修験	山梨市		
801	C	3020098	慈達院	修験	山梨市		
802	C	3020099	秀山	修験	山梨市		
803	C	3020100	主計	修験	山梨市		
804	C	3020101	正国院	修験	山梨市		
805	C	3020102	真光寺	修験	山梨市		
806	C	3020103	真成院	修験	山梨市		
807	C	3020104	聖宝院	修験	山梨市		
808	C	3020105	大宝院	修験	山梨市		
809	C	3020106	大竜院	修験	山梨市		
810	C	3020107	東明院	修験	山梨市		
811	C	3020108	廃万宝院	修験	山梨市		
812	C	3020109	般若院	修験	山梨市		
813	C	3020110	福泉院	修験	山梨市		
814	C	3020111	菩薩院	修験	山梨市		
815	C	3020112	万宝院	修験	山梨市		
816	C	3020113	弥勒院	修験	山梨市	27	塩山
817	C	3020114	養宝院	修験	山梨市		
818	C	3020115	和光院	修験	山梨市		
831	C	3020116	観音寺	修験	山梨市		
2487	C	3020117	慈達院	修験	山梨市	27	塩山
884	C	3021001	雲峯寺	臨済宗	山梨市	26	川浦
885	C	3021002	円光寺	臨済宗	山梨市	26	川浦
886	C	3021003	円照寺	真言宗	山梨市	26	川浦
887	C	3021004	観音寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
888	C	3021005	観音寺	曹洞宗	山梨市	26	川浦
889	C	3021006	桂昌院	曹洞宗	山梨市	27	塩山
890	C	3021007	慶徳寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
891	C	3021008	玄超寺	浄土真宗	山梨市	27	塩山
892	C	3021009	耕雲寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
893	C	3021010	広蔵院	曹洞宗	山梨市	26	川浦
894	C	3021011	西念寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
895	C	3021012	西光寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
896	C	3021013	西方院	曹洞宗	山梨市	26	川浦
897	C	3021014	慈眼寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
899	C	3021015	地蔵院	曹洞宗	山梨市	27	塩山
900	C	3021016	地蔵寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
901	C	3021017	地蔵寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
902	C	3021018	実相寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
903	C	3021019	守心庵	曹洞宗	山梨市	26	川浦
904	C	3021020	浄居寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
905	C	3021021	正福寺	浄土真宗	山梨市		
906	C	3021022	神光寺	臨済宗	山梨市	26	川浦
907	C	3021023	信光寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
908	C	3021024	西源寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
909	C	3021025	千手庵	臨済宗	山梨市	26	川浦
910	C	3021026	蔵昌院	臨済宗	山梨市	26	川浦
911	C	3021027	蔵沢寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
912	C	3021028	大円寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
852	C	3021029	大覚寺	曹洞宗	山梨市	26	川浦
853	C	3021030	天休庵	臨済宗	山梨市	26	川浦
854	C	3021031	洞雲寺	曹洞宗	山梨市	26	川浦
855	C	3021032	東泉寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
856	C	3021033	東明院	曹洞宗	山梨市		
857	C	3021034	廃極楽寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
858	C	3021035	繁桂庵	曹洞宗	山梨市	27	塩山
859	C	3021036	万勝寺	浄土真宗	山梨市	26	川浦
860	C	3021037	福寿院	臨済宗	山梨市	26	川浦
861	C	3021038	福法寺	浄土真宗	山梨市	26	川浦
862	C	3021039	普門寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
863	C	3021040	法眼寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
864	C	3021041	宝珠寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
865	C	3021042	法喩庵	臨済宗	山梨市	27	塩山
866	C	3021043	法林寺	曹洞宗	山梨市	26	川浦
867	C	3021044	無量院	浄土宗	山梨市	27	塩山
868	C	3021045	龍泉寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
869	C	3021046	竜泉寺	曹洞宗	山梨市	27	塩山
870	C	3021047	林栄寺	臨済宗	山梨市	27	塩山
871	C	3021048	教正院	修験	山梨市		
872	C	3021049	慶学院	修験	山梨市		
873	C	3021050	慶徳院	修験	山梨市		
874	C	3021051	国宝院	修験	山梨市	27	塩山
875	C	3021052	上求寺	真言宗	山梨市	27	塩山
876	C	3021053	正国院	修験	山梨市		
877	C	3021054	大徳院	修験	山梨市	27	塩山
878	C	3021055	東昇院	修験	山梨市		
879	C	3021056	内膳院	修験	山梨市	27	塩山
880	C	3021057	遍照院	修験	山梨市	27	塩山
881	C	3021058	万光院	修験	山梨市	27	塩山
882	C	3021059	竜法院	修験	山梨市		
883	C	3021060	林光院	修験	山梨市		
2816	C	3021061	不動尊		山梨市	26	川浦
723	C	3022001	安養寺	曹洞宗	山梨市	26	川浦
724	C	3022002	吉祥寺	真言宗	山梨市	26	川浦
725	C	3022003	玉蔵院	臨済宗	山梨市	26	川浦
726	C	3022004	渓雲寺	臨済宗	山梨市	26	川浦
727	C	3022005	秋月寺	臨済宗	山梨市	32	柳沢峠
728	C	3022006	清月院	臨済宗	山梨市	26	川浦
729	C	3022007	泉昌寺	臨済宗	山梨市	32	柳沢峠
730	C	3022008	善福寺	臨済宗	山梨市	32	柳沢峠
731	C	3022009	東清寺	曹洞宗	山梨市	26	川浦
732	C	3022010	宝樹院	天台宗	山梨市	26	川浦
733	C	3022011	竜泉寺	臨済宗	山梨市	32	柳沢峠
734	C	3022012	常徳院	修験	山梨市	32	柳沢峠
913	D	4023001	宗源寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
914	D	4023002	大聖寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
915	D	4023003	宝寿院	曹洞宗	韮崎市		
916	D	4023004	宝珠院	曹洞宗	韮崎市		
917	D	4023005	法伝寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
918	D	4023006	本照寺	日蓮宗	韮崎市	10	韮崎
919	D	4023007	蓮照寺	日蓮宗	韮崎市	10	韮崎
920	D	4023008	正学院	修験	韮崎市		
921	D	4023009	文珠院	修験	韮崎市		
922	D	4023010	永福寺	曹洞宗	韮崎市		
923	D	4023011	清立寺	曹洞宗	韮崎市		
924	D	4023012	東光寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
925	D	4023013	福昌寺	曹洞宗	韮崎市		
926	D	4023014	永岳寺	臨済宗	韮崎市	10	韮崎
927	D	4023015	正福寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
928	D	4023016	弥陀寺	曹洞宗	韮崎市		
929	D	4023017	加納院	修験	韮崎市		
930	D	4023018	観音寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
931	D	4023019	慶昌院	曹洞宗	韮崎市		
932	D	4023020	地蔵院	曹洞宗	韮崎市		
933	D	4023021	大公寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
934	D	4023022	廃　長安寺	曹洞宗	韮崎市		
935	D	4023023	福寿院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
936	D	4023024	永明院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
937	D	4023025	無量寺	曹洞宗	韮崎市		
938	D	4023026	教林寺	日蓮宗	韮崎市	10	韮崎
939	D	4023027	昌善寺	日蓮宗	韮崎市	11	小笠原
940	D	4023028	浄蓮寺	日蓮宗	韮崎市	11	小笠原
941	D	4023029	大輪寺	日蓮宗	韮崎市	10	韮崎
942	D	4023030	法泉院	臨済宗	韮崎市		
943	D	4023031	法幢院	臨済宗	韮崎市		
944	D	4023032	海蔵院	真言宗	韮崎市		
945	D	4023033	西方院	真言宗	韮崎市		
946	D	4023034	真光寺	真言宗	韮崎市		
947	D	4023035	宝生寺	真言宗	韮崎市	10	韮崎
948	D	4023036	一条院	修験	韮崎市		
949	D	4023037	観正院	修験	韮崎市		
950	D	4023038	自宝院	修験	韮崎市		
951	D	4023039	慈明院	修験	韮崎市		
952	D	4023040	清光院	修験	韮崎市		
953	D	4023041	明学院	修験	韮崎市		
954	D	4023042	養蔵院	修験	韮崎市		
955	D	4023043	安養軒	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
956	D	4023044	願成寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
957	D	4023045	玉宝寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
958	D	4023046	城角寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
959	D	4023047	泉勝院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
960	D	4023048	大慈寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
961	D	4023049	廃　竜厳寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
962	D	4023050	大法庵	日蓮宗	韮崎市		
963	D	4023051	神宮寺	真言宗	韮崎市	10	韮崎
964	D	4023052	鬼御堂		韮崎市		
965	D	4023053	雨宮寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
966	D	4023054	広福院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
967	D	4023055	常光寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
968	D	4023056	普門寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
969	D	4023057	玉泉院	修験	韮崎市		
970	D	4023058	持法院	修験	韮崎市		
971	D	4023059	成就院	修験	韮崎市		
972	D	4023060	東性院	修験	韮崎市		
973	D	4023061	福正院	修験	韮崎市		
974	D	4023062	宝応院	修験	韮崎市		
975	D	4023063	万蔵院	修験	韮崎市		
976	D	4023064	林宝院	修験	韮崎市		
977	D	4023065	永福寺	曹洞宗	韮崎市		
978	D	4023066	玄珠庵	曹洞宗	韮崎市		
979	D	4023067	宗泉院	曹洞宗	韮崎市	9	若神子
980	D	4023068	大林寺	曹洞宗	韮崎市		
981	D	4023069	法雲寺	曹洞宗	韮崎市	9	若神子
982	D	4023070	宝蔵寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
983	D	4023071	竜珠院	曹洞宗	韮崎市	9	若神子
984	D	4023072	妙浄寺	日蓮宗	韮崎市	9	若神子
985	D	4023073	雲岸寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
986	D	4023074	穴観音		韮崎市	10	韮崎
987	D	4023075	蔵前院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
988	D	4023076	長慶寺	曹洞宗	韮崎市		
989	D	4023077	林泉寺	曹洞宗	韮崎市		
990	D	4023078	善明院	修験	韮崎市		
991	D	4023079	長学院	修験	韮崎市		
992	D	4023080	宝積院	修験	韮崎市		
1421	E	4023081	大蓮寺	日蓮宗	韮崎市	10	韮崎
993	D	4023082	城前寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
994	D	4023083	慈雲院	曹洞宗	韮崎市		
995	D	4023084	慈眼寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
996	D	4023085	福昌院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
997	D	4023086	本領院	日蓮宗	韮崎市	10	韮崎
998	D	4023087	安昌寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
999	D	4023088	延命寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1000	D	4023089	源勝寺	曹洞宗	韮崎市		
1001	D	4023090	見徳寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1002	D	4023091	光善寺	曹洞宗	韮崎市		
1003	D	4023092	光明寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1004	D	4023093	極楽寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1005	D	4023094	西方寺	曹洞宗	韮崎市		
1006	D	4023095	三光寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1007	D	4023096	慈照院	曹洞宗	韮崎市		
1008	D	4023097	慈法院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1009	D	4023098	昌安寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1010	D	4023099	盛徳院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1011	D	4023100	養泉寺	曹洞宗	韮崎市		
1012	D	4023101	竜泉寺	曹洞宗	韮崎市		
1013	D	4023102	覚法院	修験	韮崎市		
1014	D	4023103	行宝院	修験	韮崎市		
1015	D	4023104	常宝院	修験	韮崎市		
1016	D	4023105	北条院	修験	韮崎市		
1017	D	4023106	和国院	修験	韮崎市		
1018	D	4023107	恩昌寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1019	D	4023108	松雲寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1020	D	4023109	昌福寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1021	D	4023110	万松寺	曹洞宗	韮崎市	9	若神子
1022	D	4023111	光台寺	真言宗	韮崎市	10	韮崎
1023	D	4023112	観順	修験	韮崎市		
1024	D	4023113	盛寿院	修験	韮崎市		
1025	D	4023114	西宮寺	曹洞宗	韮崎市		
1026	D	4023115	慈眼寺	曹洞宗	韮崎市	9	若神子
1027	D	4023116	城源院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1028	D	4023117	善光寺	曹洞宗	韮崎市		
1029	D	4023118	泉竜寺	曹洞宗	韮崎市	9	若神子
1030	D	4023119	長安寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1031	D	4023120	長養寺	曹洞宗	韮崎市		
1032	D	4023121	福泉寺	曹洞宗	韮崎市	9	若神子
1033	D	4023122	満福寺	曹洞宗	韮崎市	9	若神子
1034	D	4023123	観行院	修験	韮崎市		
1035	D	4023124	正学坊	修験	韮崎市		
1037	D	4023125	今善光寺		韮崎市		
1039	D	4023126	東福院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1295	D	4023126	東福院	曹洞宗	北杜市	10	韮崎
1040	D	4023127	宝積寺	臨済宗	韮崎市	10	韮崎
1296	D	4023127	宝積寺	臨済宗	北杜市	10	韮崎
1041	D	4023128	幸福寺	曹洞宗	韮崎市		
1042	D	4023129	西方院	曹洞宗	韮崎市	19	甲府北部
1043	D	4023130	慈眼院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1044	D	4023131	沢蔵院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1045	D	4023132	東光寺	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1046	D	4023133	法道院	曹洞宗	韮崎市	19	甲府北部
1047	D	4023134	法泉院	曹洞宗	韮崎市	10	韮崎
1048	D	4023135	林泉寺	曹洞宗	韮崎市		
1049	D	4023136	金剛寺	臨済宗	韮崎市	10	韮崎
1050	D	4023137	教覚院	修験	韮崎市		
1051	D	4023138	宝蔵院	修験	韮崎市		

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
1052	D	4023139	了学院	修験	韮崎市		
1272	D	4024001	大竜寺	臨済宗	北杜市		
1273	D	4024002	栄泉院	修験	北杜市		
1274	D	4024003	賞賢院	修験	北杜市		
1275	D	4024004	観音寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
1276	D	4024005	教勝院	修験	北杜市		
1277	D	4024006	源昌寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
1278	D	4024007	公案寺	曹洞宗	北杜市	10	韮崎
1279	D	4024008	光明院	修験	北杜市		
1280	D	4024009	金剛寺	真言宗	北杜市	9	若神子
1281	D	4024010	時法院	修験	北杜市		
1282	D	4024011	持宝院	修験	北杜市		
1283	D	4024012	充円寺	日蓮宗	北杜市	9	若神子
1284	D	4024013	勝永寺	臨済宗	北杜市	9	若神子
1285	D	4024014	浄元	修験	北杜市		
1286	D	4024015	浄居寺	臨済宗	北杜市	9	若神子
1287	D	4024016	常宝院	修験	北杜市		
1288	D	4024017	浄林寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
1289	D	4024018	清普寺	日蓮宗	北杜市	9	若神子
1290	D	4024019	清涼院	臨済宗	北杜市	9	若神子
1291	D	4024020	石塔庵	臨済宗	北杜市	9	若神子
1292	D	4024021	大昌院	修験	北杜市		
1293	D	4024022	大乗院	修験	北杜市		
1294	D	4024023	大福寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
1297	D	4024026	西福寺		北杜市	9	若神子
1298	D	4024027	永泉院	修験	北杜市		
1299	D	4024028	覚宝院	修験	北杜市		
1300	D	4024029	新福寺		北杜市		
1301	D	4024030	正楽寺		北杜市		
1302	D	4024031	大林寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
1303	D	4024032	滝宝院	修験	北杜市		
1304	D	4024033	長清寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
1305	D	4024034	長泉寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
1306	D	4024035	長念寺	真言宗	北杜市		
1307	D	4024036	長竜寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
1308	D	4024037	洞雲寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
1309	D	4024038	東泉寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
1310	D	4024039	繁昌寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
1311	D	4024040	毘沙門堂	日蓮宗	北杜市	9	若神子
1312	D	4024041	福性院	真言宗	北杜市	9	若神子
1313	D	4024042	普門寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
1314	D	4024043	鳳凰院	修験	北杜市		
1315	D	4024044	宝泉院	修験	北杜市		
1316	D	4024045	宝前寺	真言宗	北杜市	9	若神子
1317	D	4024046	宝尊院	修験	北杜市		
1318	D	4024047	宝蔵院	修験	北杜市		
1319	D	4024048	弥陀寺	曹洞宗	北杜市		
1320	D	4024049	妙覚寺	日蓮宗	北杜市	9	若神子
1321	D	4024050	薬王寺	修験	北杜市	9	若神子
1322	D	4024051	竜宝院	修験	北杜市		
1323	D	4024052	蓮花院	修験	北杜市		
2727	D	4025001	阿弥陀寺	曹洞宗	北杜市		
2728	D	4025002	永寿院	修験	北杜市		
2729	D	4025003	円通院	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2730	D	4025004	遠照寺	日蓮宗	北杜市	9	若神子
2731	D	4025005	海岸寺	臨済宗	北杜市	8	谷戸
2732	D	4025006	吉祥院	修験	北杜市		
2733	D	4025007	顕光寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2734	D	4025008	元城院	修験	北杜市		
2735	D	4025009	見性寺	臨済宗	北杜市	9	若神子
2736	D	4025010	見明寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2737	D	4025011	見本寺	日蓮宗	北杜市	9	若神子
2738	D	4025012	光厳寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2739	D	4025013	西光寺	臨済宗	北杜市		
2740	D	4025014	三丘寺	臨済宗	北杜市		
2741	D	4025015	修徳院	臨済宗	北杜市		
2742	D	4025016	正覚寺	臨済宗	北杜市	17	瑞牆山
2743	D	4025017	正覚寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2744	D	4025018	正行寺	浄土宗	北杜市	9	若神子
2745	D	4025019	昌福寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2746	D	4025020	常福寺	臨済宗	北杜市	17	瑞牆山
2747	D	4025021	少林寺	臨済宗	北杜市	9	若神子
2748	D	4025022	信行庵	曹洞宗	北杜市		
2749	D	4025023	真光院	修験	北杜市		
2750	D	4025024	信光寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2751	D	4025025	瑞竜院	臨済宗	北杜市		
2752	D	4025026	誓福寺	浄土宗	北杜市	9	若神子
2753	D	4025027	仙正院	修験	北杜市		
2754	D	4025028	善明院	修験	北杜市		
2755	D	4025029	大慶寺	曹洞宗	北杜市		
2756	D	4025030	大蔵院	修験	北杜市		
2757	D	4025031	多宝院	修験	北杜市		
2758	D	4025032	長光院	臨済宗	北杜市		
2759	D	4025033	長泉院	曹洞宗	北杜市		
2760	D	4025034	長泉寺	時宗	北杜市	9	若神子

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
2761	D	4025035	東雲寺	修験	北杜市		
2762	D	4025036	洞雲寺	修験	北杜市		
2763	D	4025037	東泉院	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2764	D	4025038	東漸寺	臨済宗	北杜市	9	若神子
2765	D	4025039	徳泉寺	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2766	D	4025040	如意寺	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2767	D	4025041	枝元院	曹洞宗	北杜市		
2768	D	4025042	不動院	修験	北杜市		
2769	D	4025043	法道寺	修験	北杜市	9	若神子
2770	D	4025044	妙円寺	日蓮宗	北杜市	9	若神子
2771	D	4025045	妙観寺	日蓮宗	北杜市	9	若神子
2772	D	4025046	無量軒	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2773	D	4025047	明照寺	修験	北杜市		
2774	D	4025048	門長寺	日蓮宗	北杜市	9	若神子
2775	D	4025049	薬恩寺	臨済宗	北杜市		
2776	D	4025050	山宮寺	臨済宗	北杜市		
2777	D	4025051	養泉院	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2778	D	4025052	竜円寺	臨済宗	北杜市		
2779	D	4025053	竜泉寺	臨済宗	北杜市	18	茅ヶ岳
2780	D	4025054	良光院	修験	北杜市		
2177	D	4026001	延寿院	修験	北杜市	9	若神子
2178	D	4026002	円受院	法華宗	北杜市	9	若神子
2179	D	4026003	円通軒	臨済宗	北杜市		
2180	D	4026004	起雲軒	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2181	D	4026005	貴宝院	修験	北杜市		
2182	D	4026006	玉正院	修験	北杜市	8	谷戸
2183	D	4026007	光学院	修験	北杜市		
2184	D	4026008	光村寺	浄土宗	北杜市	8	谷戸
2185	D	4026009	広徳寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2186	D	4026010	光明寺	臨済宗	北杜市		
2187	D	4026011	古心庵	臨済宗	北杜市		
2188	D	4026012	金剛院	修験	北杜市	8	谷戸
2189	D	4026013	慈聞院	曹洞宗	北杜市		
2190	D	4026014	祥雲寺	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2191	D	4026015	正学院	修験	北杜市		
2192	D	4026016	浄光寺	臨済宗	北杜市	9	若神子
2193	D	4026017	昌照寺	浄土真宗	北杜市	9	若神子
2194	D	4026018	常蔵院	修験	北杜市		
2195	D	4026019	真鏡寺	修験	北杜市	8	谷戸
2196	D	4026020	泉願院	修験	北杜市		
2197	D	4026021	千福寺	臨済宗	北杜市		
2198	D	4026022	全福寺	臨済宗	北杜市	9	若神子
2199	D	4026023	泉竜寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2200	D	4026024	大蔵寺	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2201	D	4026025	大蔵寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2202	D	4026026	大学院	修験	北杜市		
2203	D	4026027	大楽院	修験	北杜市		
2204	D	4026028	長誓院	浄土宗	北杜市	8	谷戸
2205	D	4026029	長靖寺	修験	北杜市		
2206	D	4026030	長沢寺	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2207	D	4026031	東泉軒	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2208	D	4026032	福昌寺	修験	北杜市		
2209	D	4026033	不動寺	修験	北杜市	8	谷戸
2210	D	4026034	普門軒	曹洞宗	北杜市		
2211	D	4026035	法円	修験	北杜市		
2212	D	4026036	宝玉院	修験	北杜市		
2213	D	4026037	宝原寺	修験	北杜市	9	若神子
2214	D	4026038	法照院	修験	北杜市		
2215	D	4026039	宝城院	修験	北杜市		
2216	D	4026040	本応院	法華宗	北杜市	8	谷戸
2217	D	4026041	葉光庵	曹洞宗	北杜市		
2218	D	4026042	養福寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2219	D	4026043	竜雲寺	修験	北杜市		
2220	D	4026044	竜体寺	臨済宗	北杜市	9	若神子
2221	D	4026045	霊応寺	修験	北杜市	8	谷戸
2781	D	4027001	円浄寺	臨済宗	北杜市	9	若神子
2782	D	4027002	喜翁院	曹洞宗	北杜市		
2783	D	4027003	慶長院	修験	北杜市		
2784	D	4027004	玄法院	修験	北杜市		
2785	D	4027005	源宝院	修験	北杜市		
2786	D	4027006	見峯寺	日蓮宗	北杜市	2	長坂上条
2787	D	4027007	江月院	曹洞宗	北杜市		
2788	D	4027008	光明寺	曹洞宗	北杜市		
2789	D	4027009	西方院	修験	北杜市		
2790	D	4027010	西方寺	曹洞宗	北杜市	1	小淵沢
2791	D	4027011	慈眼院	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2792	D	4027012	慈眼院	修験	北杜市		
2793	D	4027013	自性院	修験	北杜市		
2794	D	4027014	声聞寺	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2795	D	4027015	清京院	修験	北杜市		
2796	D	4027016	清光寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2797	D	4027017	成泉院	修験	北杜市		
2798	D	4027018	清宝院	修験	北杜市		
2799	D	4027019	大学院	修験	北杜市		
2800	D	4027020	地源寺	曹洞宗	北杜市		

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
2801	D	4027021	長昌院	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2802	D	4027022	長昌寺	真言宗	北杜市		
2803	D	4027023	長徳寺	曹洞宗	北杜市		
2804	D	4027024	藤本	修験	北杜市		
2805	D	4027025	法覚院	修験	北杜市		
2806	D	4027026	法昌寺	曹洞宗	北杜市	1	小淵沢
2807	D	4027027	本源寺	日蓮宗	北杜市	2	長坂上条
2808	D	4027028	妙喜院	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2809	D	4027029	明福寺	修験	北杜市		
2810	D	4027030	妙要寺	日蓮宗	北杜市	9	若神子
2811	D	4027031	妙林寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2812	D	4027032	竜岸寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2813	D	4027033	竜沢寺	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2814	D	4027034	滝本院	修験	北杜市		
2815	D	4027035	蓮成寺	日蓮宗	北杜市	9	若神子
2164	D	4028001	安楽寺	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2165	D	4028002	円学寺	修験	北杜市		
2166	D	4028003	延寿院	修験	北杜市		
2167	D	4028004	海寿院	修験	北杜市		
2168	D	4028005	観音寺	時宗	北杜市	8	谷戸
2169	D	4028006	上行寺	日蓮宗	北杜市	8	谷戸
2170	D	4028007	城元院	修験	北杜市		
2171	D	4028008	忠興寺	曹洞宗	北杜市		
2172	D	4028009	道喜院	曹洞宗	北杜市	8	谷戸
2173	D	4028010	東原寺	曹洞宗	北杜市		
2174	D	4028011	法善寺	曹洞宗	北杜市		
2175	D	4028012	円満寺	修験	北杜市		
2176	D	4028013	光明院	修験	北杜市		
2246	D	4029001	安福寺	曹洞宗	北杜市	2	長坂上条
2247	D	4029002	永徳院	修験	北杜市		
2248	D	4029003	観音寺	曹洞宗	北杜市		
2249	D	4029004	教学院	修験	北杜市		
2250	D	4029005	教慶寺	曹洞宗	北杜市	1	小淵沢
2251	D	4029006	玉昌院	修験	北杜市		
2252	D	4029007	西光寺	曹洞宗	北杜市		
2253	D	4029008	自学院	修験	北杜市		
2254	D	4029009	自元寺	曹洞宗	北杜市	2	長坂上条
2255	D	4029010	貞安寺	曹洞宗	北杜市		
2256	D	4029011	昌福院	曹洞宗	北杜市		
2257	D	4029012	正法院	修験	北杜市		
2258	D	4029013	清泰寺	曹洞宗	北杜市	2	長坂上条
2259	D	4029014	斉法院	修験	北杜市		
2260	D	4029015	大正院	修験	北杜市		
2261	D	4029016	智拳寺	修験	北杜市		
2262	D	4029017	知山	修験	北杜市		
2263	D	4029018	長学院	修験	北杜市		
2264	D	4029019	長喜院	修験	北杜市		
2265	D	4029020	長光寺	曹洞宗	北杜市	2	長坂上条
2266	D	4029021	天竜院	修験	北杜市		
2267	D	4029022	福昌寺	曹洞宗	北杜市	2	長坂上条
2268	D	4029023	福泉寺	曹洞宗	北杜市	1	小淵沢
2269	D	4029024	法全寺	曹洞宗	北杜市	2	長坂上条
2270	D	4029025	法輪寺	日蓮宗	北杜市	2	長坂上条
2271	D	4029026	本了院	修験	北杜市		
2272	D	4029027	文珠院	修験	北杜市		
2273	D	4029028	峯本院	修験	北杜市		
2274	D	4029029	来福寺	臨済宗	北杜市	1	小淵沢
2275	D	4029030	竜福寺	曹洞宗	北杜市	2	長坂上条
2276	D	4029031	蓮照寺	日蓮宗	北杜市	2	長坂上条
2277	D	4029032	和光院	修験	北杜市		
2222	D	4030001	円通寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2223	D	4030002	延宝院	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2224	D	4030003	教学院	修験	北杜市		
2225	D	4030004	教宝院	修験	北杜市		
2226	D	4030005	玄竜	修験	北杜市		
2227	D	4030006	江原院	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2228	D	4030007	興源寺	曹洞宗	北杜市	2	長坂上条
2229	D	4030008	光明院	臨済宗	北杜市		
2230	D	4030009	高竜寺	曹洞宗	北杜市	2	長坂上条
2231	D	4030010	実相寺	日蓮宗	北杜市	2	長坂上条
2232	D	4030011	常運寺	日蓮宗	北杜市	2	長坂上条
2233	D	4030012	大学院	修験	北杜市		
2234	D	4030013	廃柳沢寺	曹洞宗	北杜市	2	長坂上条
2235	D	4030014	万休院	曹洞宗	北杜市	2	長坂上条
2236	D	4030015	普光寺	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2237	D	4030016	宝積院	修験	北杜市		
2238	D	4030017	宝常院	修験	北杜市		
2239	D	4030018	法性寺	修験	北杜市		
2240	D	4030019	宝前院	曹洞宗	北杜市	9	若神子
2241	D	4030020	本法寺	日蓮宗	北杜市	9	若神子
2242	D	4030021	無量院	浄土宗	北杜市	2	長坂上条
2243	D	4030022	明称院	修験	北杜市		
2244	D	4030023	冷宝院	修験	北杜市		
2245	D	4030024	延寿院(坊跡)	修験	北杜市		
2278	D	4031001	安養寺	曹洞宗	北杜市	1	小淵沢

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
2279	D	4031002	永昌寺	修験	北杜市		
2280	D	4031003	円寿院	修験	北杜市	1	小淵沢
2281	D	4031004	円通寺	曹洞宗	北杜市	1	小淵沢
2282	D	4031005	海善	修験	北杜市		
2283	D	4031006	覚泉	修験	北杜市		
2284	D	4031007	玄林院(坊跡)	修験	北杜市		
2285	D	4031008	光覚	修験	北杜市		
2286	D	4031009	光山	修験	北杜市	1	小淵沢
2287	D	4031010	光照院		北杜市		
2288	D	4031011	金剛院	修験	北杜市		
2289	D	4031012	高福寺	曹洞宗	北杜市	1	小淵沢
2290	D	4031013	自福院	修験	北杜市		
2291	D	4031014	正因寺	曹洞宗	北杜市	2	長坂上条
2292	D	4031015	常学院	修験	北杜市		
2293	D	4031016	常学院	修験	北杜市		
2294	D	4031017	昌久寺	曹洞宗	北杜市	1	小淵沢
2295	D	4031018	成就院	修験	北杜市		
2296	D	4031019	正福院		北杜市	1	小淵沢
2297	D	4031020	真蔵院	修験	北杜市		
2298	D	4031021	大覚院	修験	北杜市		
2299	D	4031022	大泉院	修験	北杜市		
2300	D	4031023	胎蔵院	修験	北杜市		
2301	D	4031024	沢宝院	修験	北杜市		
2303	D	4031025	長学院	修験	北杜市		
2302	D	4031026	天沢寺		北杜市	1	小淵沢
2304	D	4031027	東照寺	曹洞宗	北杜市	1	小淵沢
2305	D	4031028	福昌院	修験	北杜市	1	小淵沢
2306	D	4031029	宝泉院	修験	北杜市	2	長坂上条
2307	D	4031030	宝泉寺	修験	北杜市		
2308	D	4031031	宝蔵院	修験	北杜市	1	小淵沢
2309	D	4031032	峰蔵院	修験	北杜市		
2310	D	4031033	法道院	修験	北杜市		
2311	D	4031034	宝道院	修験	北杜市		
2312	D	4031035	本学院	修験	北杜市	1	小淵沢
2313	D	4031036	明泉院	修験	北杜市		
2314	D	4031037	薬王寺	曹洞宗	北杜市	1	小淵沢
2315	D	4031038	竜光院	修験	北杜市		
2316	D	4031039	滝法院	修験	北杜市	1	小淵沢
1324	E	5032001	医泉寺	真言宗	南アルプス市	11	小笠原
1325	E	5032002	円覚寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1326	E	5032003	光昌院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1327	E	5032004	広照寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1328	E	5032005	成就庵	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1329	E	5032006	昌重院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1330	E	5032007	随心院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1331	E	5032008	盛徳院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1332	E	5032009	全式坊	修験	南アルプス市		
1333	E	5032010	仲道院	修験	南アルプス市	11	小笠原
1334	E	5032011	長谷寺	真言宗	南アルプス市	11	小笠原
1335	E	5032012	長盛院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1336	E	5032013	長泉寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1337	E	5032014	桃岳院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1338	E	5032015	福昌院	真言宗	南アルプス市	11	小笠原
1339	E	5032016	豊光寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1340	E	5033001	円通寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1341	E	5033002	覚法院	修験	南アルプス市		
1342	E	5033003	観寿院	修験	南アルプス市		
1343	E	5033004	勧道院房跡	修験	南アルプス市		
1344	E	5033005	行善寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1345	E	5033006	教福院	修験	南アルプス市		
1346	E	5033007	教宝院	修験	南アルプス市		
1347	E	5033008	玉宝院	修験	南アルプス市		
1348	E	5033009	久本寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1349	E	5033010	最宝院	修験	南アルプス市		
1350	E	5033011	慈眼寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1351	E	5033012	持地院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1352	E	5033013	実相院	修験	南アルプス市		
1353	E	5033014	持宝院	修験	南アルプス市		
1354	E	5033015	秋月院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1355	E	5033016	殊勝院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1356	E	5033017	昌庵院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1357	E	5033018	正寿院房迹	修験	南アルプス市		
1358	E	5033019	浄修院	浄土宗	南アルプス市	11	小笠原
1359	E	5033020	正宝院	修験	南アルプス市		
1360	E	5033021	常楽寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1361	E	5033022	真蔵院	曹洞宗	南アルプス市	20	甲府
1362	E	5033023	清宝院	修験	南アルプス市		
1363	E	5033024	善道院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1364	E	5033025	善応寺	臨済宗	南アルプス市	11	小笠原
1365	E	5033026	善養院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1366	E	5033027	蔵福院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1367	E	5033028	大城寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1368	E	5033029	長久寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1369	E	5033030	長性寺	曹洞宗	南アルプス市		
1370	E	5033031	長福寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
1371	E	5033032	福王寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1372	E	5033033	普済寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1373	E	5033034	不動院	修験	南アルプス市		
1374	E	5033035	宝珠院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1375	E	5033036	法正院	修験	南アルプス市		
1376	E	5033037	本隆寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1377	E	5033038	密蔵院	修験	南アルプス市		
1378	E	5033039	妙善寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1379	E	5033040	妙長寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1380	E	5033041	無了寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1381	E	5033042	薬王寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1382	E	5033043	養福院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1383	E	5033044	了円寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1384	E	5033045	隆厳院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1385	E	5033046	隆昌寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1386	E	5033047	竜洞寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1387	E	5033048	林正院	修験	南アルプス市		
1388	E	5033049	蓮行寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1389	E	5033050	蓮華寺	日蓮宗	南アルプス市		
1390	E	5033051	大日庵		南アルプス市	11	小笠原
1391	E	5033052	長円庵		南アルプス市	11	小笠原
1392	E	5033053	七面堂				
1393	E	5034001	光明寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1394	E	5034002	大宝寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1395	E	5034003	妙定寺	日蓮宗	南アルプス市	4	夜叉神峠
1396	E	5035001	安養寺	真言宗	南アルプス市	11	小笠原
1397	E	5035002	円通院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1398	E	5035003	観念寺	曹洞宗	南アルプス市		
1399	E	5035004	行善寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1400	E	5035005	教福寺	真言宗	南アルプス市		
1401	E	5035006	慶昌院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1402	E	5035007	実成寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1403	E	5035008	長遠寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1404	E	5035009	常教寺	日蓮宗	南アルプス市	20	甲府
1405	E	5035010	神宮寺		南アルプス市	20	甲府
1406	E	5035011	泉能寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1407	E	5035012	大乗院	修験	南アルプス市		
1408	E	5035013	道昌寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1409	E	5035014	藤田寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1410	E	5035015	法善寺	真言宗	南アルプス市	11	小笠原
1411	E	5035016	法幢院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1412	E	5035017	本覚寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1413	E	5035018	妙遠寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1414	E	5035019	明行寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1415	E	5035020	妙蓮寺	日蓮宗	南アルプス市		
1416	E	5035021	無量寺	曹洞宗	南アルプス市		
1417	E	5035022	養春院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1418	E	5035023	隆円寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1420	E	5035024	霊運坊	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
2584	E	5035025	福寿院		南アルプス市	11	小笠原
1423	E	5036001	一条院	修験	南アルプス市		
1424	E	5036002	威宝院	修験	南アルプス市		
1425	E	5036003	雨法寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1426	E	5036004	雲耕院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1427	E	5036005	雲沢寺	曹洞宗	南アルプス市		
1429	E	5036006	円妙庵	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1430	E	5036007	円宝寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1431	E	5036008	覚法院	修験	南アルプス市		
1432	E	5036009	久円寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1433	E	5036010	久成寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1434	E	5036011	玉法院	修験	南アルプス市		
1435	E	5036012	顕住寺	日蓮宗	南アルプス市		
1436	E	5036013	顕信坊	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1437	E	5036014	源然寺	浄土宗	南アルプス市	11	小笠原
1438	E	5036015	耕雲寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1439	E	5036016	興隆院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1440	E	5036017	金剛院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1441	E	5036018	西光寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1442	E	5036019	持宝院	修験	南アルプス市		
1443	E	5036020	常仙寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1444	E	5036021	常泰寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1445	E	5036022	昌福院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1446	E	5036023	常法院	修験	南アルプス市		
1447	E	5036024	昌隆寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1448	E	5036025	清源寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1449	E	5036026	善徳院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1450	E	5036027	蔵珠院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1451	E	5036028	宗林寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1452	E	5036029	大慈庵	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1453	E	5036030	大宝院	修験	南アルプス市		
1454	E	5036031	長昌院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1455	E	5036032	長明寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1456	E	5036033	伝嗣院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1457	E	5036034	廃曹源寺		南アルプス市	11	小笠原
1458	E	5036035	富向院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
1459	E	5036036	普門庵	曹洞宗	南アルプス市		
1460	E	5036037	法久寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1461	E	5036038	法源寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1462	E	5036039	宝珠寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1463	E	5036040	本重寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1464	E	5036041	宝泉院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1465	E	5036042	妙経寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1466	E	5036043	妙了寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1467	E	5036044	妙行寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1468	E	5036045	文殊寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1469	E	5036046	竜光院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1470	E	5036047	竜泉院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1471	E	5036048	竜沢寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1472	E	5036049	林応寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1473	E	5036050	蓮経寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1474	E	5036051	蓮法院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1475	E	5036052	潮照庵	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1476	E	5036053	本宗院	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
2041	E	5036054	薬師堂		南アルプス市	11	小笠原
2042	E	5036055	阿弥陀堂		南アルプス市	11	小笠原
2043	E	5036056	薬師堂		南アルプス市	11	小笠原
1477	E	5037001	阿弥陀寺	浄土宗	南アルプス市	12	鰍沢
1478	E	5037002	安養院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1479	E	5037003	円妙寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1480	E	5037004	円立寺	日蓮宗	南アルプス市		
1481	E	5037005	加納院	修験	南アルプス市		
1482	E	5037006	感応寺	日蓮宗	南アルプス市		
1483	E	5037007	菊盛寺	日蓮宗	南アルプス市		
1484	E	5037008	経石庵	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1485	E	5037009	光昌寺	曹洞宗	南アルプス市	12	鰍沢
1486	E	5037010	広誓院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1487	E	5037011	光善寺	曹洞宗	南アルプス市	12	鰍沢
1488	E	5037012	光徳寺	日蓮宗	南アルプス市		
1489	E	5037013	古長禅寺	臨済宗	南アルプス市	11	小笠原
1490	E	5037014	金剛寺	真言宗	南アルプス市	11	小笠原
1491	E	5037015	西光寺	真言宗	南アルプス市	11	小笠原
1492	E	5037016	西念寺	曹洞宗	南アルプス市		
1493	E	5037017	実成寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1494	E	5037018	実成寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1495	E	5037019	寿遠寺	日蓮宗	南アルプス市		
1496	E	5037020	就腰山	日蓮宗	南アルプス市		
1497	E	5037021	松雲院	曹洞宗	南アルプス市		
1498	E	5037022	松岩院	曹洞宗	南アルプス市	12	鰍沢
1499	E	5037023	常寿院	修験	南アルプス市		
1500	E	5037024	常唱庵	日蓮宗	南アルプス市		
1501	E	5037025	生善寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1502	E	5037026	常泉寺	曹洞宗	南アルプス市	12	鰍沢
1503	E	5037027	正宝院	修験	南アルプス市		
1504	E	5037028	正福院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1505	E	5037029	成妙寺	日蓮宗	南アルプス市	12	鰍沢
1506	E	5037030	常楽院	修験	南アルプス市		
1507	E	5037031	深向院	曹洞宗	南アルプス市	12	鰍沢
1508	E	5037032	真豊院	真言宗	南アルプス市	11	小笠原
1509	E	5037033	清福寺	曹洞宗	南アルプス市		
1510	E	5037034	専明坊（迹）	修験	南アルプス市		
1511	E	5037035	大覚院	修験	南アルプス市		
1512	E	5037036	長久寺	日蓮宗	南アルプス市	12	鰍沢
1513	E	5037037	長山	修験	南アルプス市		
1514	E	5037038	八幡寺	真言宗	南アルプス市	11	小笠原
1515	E	5037039	普春院	臨済宗	南アルプス市	11	小笠原
1516	E	5037040	普僊院	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1517	E	5037041	不動寺	真言宗	南アルプス市	11	小笠原
1518	E	5037042	普明院	曹洞宗	南アルプス市		
1519	E	5037043	報恩寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1520	E	5037044	法音寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1521	E	5037045	法教寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1522	E	5037046	法玄寺	日蓮宗	南アルプス市	12	鰍沢
1523	E	5037047	法光寺	日蓮宗	南アルプス市	12	鰍沢
1524	E	5037048	法受庵	日蓮宗	南アルプス市		
1525	E	5037049	宝正院	修験	南アルプス市		
1526	E	5037050	法浄寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1527	E	5037051	法泉院	修験	南アルプス市		
1528	E	5037052	法泉寺	日蓮宗	南アルプス市	12	鰍沢
1529	E	5037053	法泉寺	日蓮宗	南アルプス市		
1530	E	5037054	法善寺	日蓮宗	南アルプス市	12	鰍沢
1531	E	5037055	本乗寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1532	E	5037056	本清寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1533	E	5037057	妙円寺	日蓮宗	南アルプス市		
1534	E	5037058	妙源寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1535	E	5037059	妙善寺	日蓮宗	南アルプス市	12	鰍沢
1536	E	5037060	妙大寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1537	E	5037061	妙長寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
1538	E	5037062	無量寺	臨済宗	南アルプス市	11	小笠原
1539	E	5037063	来光寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1540	E	5037064	隆昌寺	曹洞宗	南アルプス市	11	小笠原
1541	E	5037065	竜聖院	修験	南アルプス市		
1542	E	5037066	隆善寺	曹洞宗	南アルプス市	12	鰍沢
1543	E	5037067	了泉寺	日蓮宗	南アルプス市	11	小笠原
2044	E	5037068	七面堂		南アルプス市	11	小笠原
2045	E	5037069	観音堂		南アルプス市	11	小笠原
2046	E	5037070	観音堂		南アルプス市	11	小笠原
2047	E	5037071	安全堂		南アルプス市	11	小笠原
1908	F	6038001	延寿寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1909	F	6038002	玉全寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1910	F	6038003	慶昌院	曹洞宗	増穂町		
1911	F	6038004	源空寺	浄土宗	増穂町		
1912	F	6038005	懸腰寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1913	F	6038006	幸栖寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1914	F	6038007	金剛院	真言宗	増穂町		
1915	F	6038008	最勝寺	真言宗	増穂町	12	鰍沢
1916	F	6038009	志遠寺	日蓮宗	増穂町		
1917	F	6038010	上行寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1918	F	6038011	常泉寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1919	F	6038012	昌福寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1920	F	6038013	性蓮寺	日蓮宗	増穂町		
1921	F	6038014	真浄寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1922	F	6038015	甚遠寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1923	F	6038016	盛善寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1924	F	6038017	青柳寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1925	F	6038018	善国寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1926	F	6038019	千手院	曹洞宗	増穂町		
1927	F	6038020	善住寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1928	F	6038021	善応寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1929	F	6038022	宗林寺	日蓮宗	増穂町		
1930	F	6038023	鷹尾寺	真言宗	増穂町	12	鰍沢
1931	F	6038024	長命寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1932	F	6038025	徳楽寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1933	F	6038026	徳林寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1934	F	6038027	南明寺	曹洞宗	増穂町	12	鰍沢
1935	F	6038028	法界寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1936	F	6038029	法久寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1937	F	6038030	法寿寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1938	F	6038031	宝前院	曹洞宗	増穂町		
1939	F	6038032	法長寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1940	F	6038033	宝林寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1941	F	6038034	本浄寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1942	F	6038035	明王寺	真言宗	増穂町	12	鰍沢
1943	F	6038036	妙性寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1944	F	6038037	妙諸寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1945	F	6038038	妙善寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1946	F	6038039	妙題寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1947	F	6038040	妙法寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1948	F	6038041	妙祐寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1949	F	6038042	妙楽寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1950	F	6038043	明楽寺	曹洞宗	増穂町		
1951	F	6038044	妙林寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1952	F	6038045	隆運寺	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1953	F	6038046	林応寺	日蓮宗	増穂町		
1954	F	6038047	久成院	日蓮宗	増穂町	12	鰍沢
1955	F	6038048	玄浄院	日蓮宗	増穂町		
1956	F	6038049	仙妙坊	日蓮宗	増穂町		
1957	F	6038050	十如院	日蓮宗	増穂町		
1094	F	6039001	永立寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1095	F	6039002	円応寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1096	F	6039003	感応寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1097	F	6039004	久真院	曹洞宗	鰍沢町	12	鰍沢
1098	F	6039005	経王寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1099	F	6039006	西光寺	曹洞宗	鰍沢町	12	鰍沢
1100	F	6039007	福泉寺	曹洞宗	鰍沢町		
1101	F	6039008	本能寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1102	F	6039009	妙現寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1103	F	6039010	妙成寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1104	F	6039011	妙森寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1105	F	6039012	妙台寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1106	F	6039013	妙長寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1107	F	6039014	永明寺	曹洞宗	鰍沢町		
1108	F	6039015	柳川寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1109	F	6039016	蓮久寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1110	F	6039017	蓮華寺	日蓮宗	鰍沢町	12	鰍沢
1958	F	6040001	永寿庵	曹洞宗	身延町	22	精進
1959	F	6040002	永明院	曹洞宗	身延町	13	切石
1960	F	6040003	延命院	曹洞宗	身延町	13	切石
1961	F	6040004	願光院	曹洞宗	身延町	13	切石
1962	F	6040005	磯善院	曹洞宗	身延町	22	精進
1963	F	6040006	貴宝院	修験	身延町	22	精進
1964	F	6040007	経聖庵	曹洞宗	身延町	22	精進
1965	F	6040008	玉泉寺	曹洞宗	身延町	22	精進
1966	F	6040009	玉宝院	修験	身延町		
1967	F	6040010	旭峯寺	曹洞宗	身延町	22	精進
1968	F	6040011	光学院	修験	身延町	22	精進

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
1969	F	6040012	広泉院	曹洞宗	身延町	22	精進
1970	F	6040013	光沢寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1971	F	6040014	興福寺	曹洞宗	身延町	21	市川大門
1972	F	6040015	幸林寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1973	F	6040016	金竜院	修験	身延町		
1974	F	6040017	西栄寺	曹洞宗	身延町		
1975	F	6040018	西福寺	曹洞宗	身延町	22	精進
1976	F	6040019	西方院	曹洞宗	身延町	14	身延
1977	F	6040020	西方寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1978	F	6040021	三条院	修験	身延町		
1979	F	6040022	地閑庵	曹洞宗	身延町	13	切石
1980	F	6040023	慈観寺	曹洞宗	身延町	22	精進
1981	F	6040024	慈眼庵	曹洞宗	身延町		
1982	F	6040025	慈照院	曹洞宗	身延町	13	切石
1983	F	6040026	地蔵院	曹洞宗	身延町	22	精進
1984	F	6040027	住安寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1985	F	6040028	昌安寺	曹洞宗	身延町		
1986	F	6040029	正因寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1987	F	6040030	常幸院	曹洞宗	身延町	13	切石
1988	F	6040031	昌寿寺	曹洞宗	身延町		
1989	F	6040032	成就院	修験	身延町	13	切石
1990	F	6040033	常信寺	日蓮宗	身延町		
1991	F	6040034	正福寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1992	F	6040035	常宝院	修験	身延町		
1993	F	6040036	常法寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1994	F	6040037	松葉院	曹洞宗	身延町		
1995	F	6040038	常楽院	修験	身延町		
1996	F	6040039	慈量院	曹洞宗	身延町	13	切石
1997	F	6040040	水船庵	曹洞宗	身延町	22	精進
1998	F	6040041	瑞応寺	臨済宗	身延町	13	切石
1999	F	6040042	清久寺	曹洞宗	身延町	22	精進
2000	F	6040043	清性院	修験	身延町		
2001	F	6040044	清沢寺	曹洞宗	身延町	13	切石
2002	F	6040045	宗仙院	曹洞宗	身延町	22	精進
2003	F	6040046	祖師堂	日蓮宗	身延町	13	切石
2004	F	6040047	大照院	修験	身延町		
2005	F	6040048	大成院	修験	身延町		
2006	F	6040049	大泉院	曹洞宗	身延町		
2007	F	6040050	大法院	修験	身延町		
2008	F	6040051	大竜寺	曹洞宗	身延町	13	切石
2009	F	6040052	長松院	曹洞宗	身延町	13	切石
2010	F	6040053	長盛寺	曹洞宗	身延町	22	精進
2011	F	6040054	長泉寺	曹洞宗	身延町	22	精進
2012	F	6040055	長沢寺	曹洞宗	身延町	22	精進
2013	F	6040056	東前院	曹洞宗	身延町	22	精進
2014	F	6040057	東前寺	曹洞宗	身延町	13	切石
2015	F	6040058	徳岩院	曹洞宗	身延町	22	精進
2016	F	6040059	廃　不遠庵		身延町	13	切石
2017	F	6040060	白泉院	曹洞宗	身延町	13	切石
2018	F	6040061	般昌院	修験	身延町		
2019	F	6040062	福寿院	修験	身延町		
2020	F	6040063	普見庵	曹洞宗	身延町		
2021	F	6040064	法円寺	日蓮宗	身延町	13	切石
2022	F	6040065	方外院	曹洞宗	身延町	22	精進
2023	F	6040066	宝光寺	曹洞宗	身延町	13	切石
2024	F	6040067	宝珠庵	曹洞宗	身延町	22	精進
2025	F	6040068	宝寿院	修験	身延町		
2026	F	6040069	法蔵寺	曹洞宗	身延町	13	切石
2027	F	6040070	法林寺	曹洞宗	身延町	13	切石
2028	F	6040071	満蔵院	曹洞宗	身延町	22	精進
2029	F	6040072	万福寺	曹洞宗	身延町	22	精進
2030	F	6040073	妙円寺	日蓮宗	身延町	13	切石
2031	F	6040074	明珠院	曹洞宗	身延町	13	切石
2032	F	6040075	妙立寺	日蓮宗	身延町		
2033	F	6040076	無量寺	曹洞宗	身延町	13	切石
2034	F	6040077	本栖観音堂		身延町		
2035	F	6040078	有明寺	日蓮宗	身延町	22	精進
2036	F	6040079	陽光院	曹洞宗	身延町	13	切石
2037	F	6040080	来光寺	曹洞宗	身延町		
2038	F	6040081	竜泉寺	曹洞宗	身延町	22	精進
2039	F	6040082	竜沢寺	曹洞宗	身延町	13	切石
2040	F	6040083	受性坊	日蓮宗	身延町	22	精進
1809	F	6041001	永久寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1810	F	6041002	栄宝寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1811	F	6041003	円久寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1812	F	6041004	円光寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1813	F	6041005	円通寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1814	F	6041006	円妙寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1815	F	6041007	円明寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1816	F	6041008	耕耘寺	曹洞宗	身延町		
1817	F	6041009	向旭院	曹洞宗	身延町	13	切石
1818	F	6041010	広禅院	曹洞宗	身延町	13	切石
1819	F	6041011	西光寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1820	F	6041012	慈眼寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1821	F	6041013	慈照寺	日蓮宗	身延町	13	切石

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
1822	F	6041014	長遠寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1823	F	6041015	常嶽寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1824	F	6041016	正国院	修験	身延町		
1825	F	6041017	正伝寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1826	F	6041018	盛安寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1827	F	6041019	常楽寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1828	F	6041020	清原院	曹洞宗	身延町	13	切石
1829	F	6041021	千光庵	臨済宗	身延町	13	切石
1830	F	6041022	仙応寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1831	F	6041023	善妙寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1832	F	6041024	大塩寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1833	F	6041025	太心坊	日蓮宗	身延町	13	切石
1834	F	6041026	大聖寺	真言宗	身延町	13	切石
1835	F	6041027	長源寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1836	F	6041028	東泉寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1837	F	6041029	日輪寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1838	F	6041030	如意庵	曹洞宗	身延町	13	切石
1839	F	6041031	福寿院	曹洞宗	身延町	13	切石
1840	F	6041032	普明寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1841	F	6041033	法永寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1842	F	6041034	法月坊	日蓮宗	身延町	13	切石
1843	F	6041035	法向寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1844	F	6041036	宝積寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1845	F	6041037	宝珠院	臨済宗	身延町	13	切石
1846	F	6041038	宝泉寺	曹洞宗	身延町	13	切石
1847	F	6041039	本成寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1848	F	6041040	妙光寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1849	F	6041041	妙光寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1850	F	6041042	妙泉寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1851	F	6041043	妙善坊	日蓮宗	身延町	13	切石
1852	F	6041044	妙伝寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1853	F	6041045	妙蓮寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1854	F	6041046	薬王寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1855	F	6041047	薬王寺	臨済宗	身延町	13	切石
1856	F	6041048	蓮宗寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1857	F	6041049	明沢寺		身延町	13	切石
1858	F	6041050	堂昌堂		身延町	13	切石
1859	F	6041051	春陽堂	真言宗	身延町	13	切石
1751	F	6042001	一円寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1752	F	6042002	雲沢寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1753	F	6042003	円実寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1754	F	6042004	感応寺	日蓮宗	身延町	15	南部
1755	F	6042005	観立寺	曹洞宗	身延町	14	身延
1756	F	6042006	久遠寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1757	F	6042007	慶珠院	曹洞宗	身延町		
1758	F	6042008	耕雲院	臨済宗	身延町		
1759	F	6042009	光沢院	日蓮宗	身延町	15	南部
1760	F	6042010	金福寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1761	F	6042011	金竜寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1762	F	6042012	実教寺	日蓮宗	身延町	15	南部
1763	F	6042013	正運坊	日蓮宗	身延町	13	切石
1764	F	6042014	正慶寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1765	F	6042015	昌寿庵	曹洞宗	身延町	14	身延
1766	F	6042016	浄仙院	曹洞宗	身延町	14	身延
1767	F	6042017	上沢寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1768	F	6042018	浄福寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1769	F	6042019	接心庵	臨済宗	身延町	14	身延
1770	F	6042020	善行寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1771	F	6042021	仙国院	修験	身延町		
1772	F	6042022	宗光寺	日蓮宗	身延町	13	切石
1773	F	6042023	大本寺	臨済宗	身延町	14	身延
1774	F	6042024	長円房	日蓮宗	身延町		
1775	F	6042025	長泉寺	曹洞宗	身延町	14	身延
1776	F	6042026	天輪寺	臨済宗	身延町	14	身延
1777	F	6042027	道昌庵	日蓮宗	身延町		
1778	F	6042028	東照寺	臨済宗	身延町	15	南部
1779	F	6042029	東林庵	曹洞宗	身延町	14	身延
1780	F	6042030	長谷寺	曹洞宗	身延町	14	身延
1781	F	6042031	南松院	臨済宗	身延町	14	身延
1782	F	6042032	廃正福寺	臨済宗	身延町		
1783	F	6042033	廃仁興寺	臨済宗	身延町		
1784	F	6042034	平等寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1785	F	6042035	福昌院	修験	身延町		
1786	F	6042036	普門院	曹洞宗	身延町		
1787	F	6042037	報恩寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1788	F	6042038	本遠寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1789	F	6042039	本光寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1790	F	6042040	本国寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1791	F	6042041	本成寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1792	F	6042042	本妙寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1793	F	6042043	妙学寺	日蓮宗	身延町	15	南部
1794	F	6042044	妙久寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1795	F	6042045	妙経寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1796	F	6042046	妙見寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1797	F	6042047	妙源寺	日蓮宗	身延町		

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
1798	F	6042048	妙正寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1799	F	6042049	妙仙寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1800	F	6042050	妙泉寺	日蓮宗	身延町	15	南部
1801	F	6042051	妙法寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1802	F	6042052	唯勝寺	日蓮宗	身延町	15	南部
1803	F	6042053	竜雲寺	曹洞宗	身延町	14	身延
1804	F	6042054	蓮花寺	日蓮宗	身延町	14	身延
1805	F	6042055	敬慎院	日蓮宗	早川町	7	七面山
1806	F	6042056	延命地蔵		身延町	14	身延
1807	F	6042057	長心庵		身延町	14	身延
1808	F	6042058	一心庵		身延町		
1111	F	6043001	慧光寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1112	F	6043002	円応寺	日蓮宗	南部町	24	上井出
1113	F	6043003	円蔵院	臨済宗	南部町	15	南部
1114	F	6043004	勧行院	修験	南部町		
1115	F	6043005	経王寺	日蓮宗	南部町	16	篠井山
1116	F	6043006	建忠寺	臨済宗	南部町	15	南部
1117	F	6043007	源立寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1118	F	6043008	慈眼寺	臨済宗	南部町	15	南部
1119	F	6043009	実成寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1120	F	6043010	常安寺	臨済宗	南部町	15	南部
1121	F	6043011	松岳院	臨済宗	南部町	15	南部
1122	F	6043012	浄光寺	臨済宗	南部町	15	南部
1123	F	6043013	浄泉寺	日蓮宗	南部町	25	富士宮
1124	F	6043014	清源寺	日蓮宗	南部町		
1125	F	6043015	大慈院	臨済宗	南部町		
1127	F	6043016	長光院	曹洞宗	南部町	16	篠井山
1128	F	6043017	道善寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1129	F	6043018	内船寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1130	F	6043019	梅泉庵	曹洞宗	南部町	16	篠井山
1131	F	6043020	廃大輪寺	臨済宗	南部町		
1132	F	6043021	廃長谷寺	臨済宗	南部町		
1133	F	6043022	仏成寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1134	F	6043023	法眼寺	日蓮宗	南部町		
1135	F	6043024	法源寺	日蓮宗	南部町		
1136	F	6043025	法泉寺	日蓮宗	南部町		
1137	F	6043026	万福寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1138	F	6043027	妙円寺	日蓮宗	南部町		
1139	F	6043028	妙久寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1140	F	6043029	妙高寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1141	F	6043030	妙浄寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1142	F	6043031	妙善寺	日蓮宗	南部町		
1143	F	6043032	蓮性寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1144	F	6044001	一乗寺	日蓮宗	南部町	25	富士宮
1145	F	6044002	観智院	臨済宗	南部町	16	篠井山
1146	F	6044003	観音寺	臨済宗	南部町		
1147	F	6044004	吉祥庵	臨済宗	南部町		
1148	F	6044005	玉泉寺	臨済宗	南部町	16	篠井山
1149	F	6044006	慶徳寺	臨済宗	南部町		
1150	F	6044007	顕本寺	日蓮宗	南部町	25	富士宮
1151	F	6044008	光雲寺	臨済宗	南部町		
1152	F	6044009	弘円寺	日蓮宗	南部町	16	篠井山
1153	F	6044010	広福寺	臨済宗	南部町	25	富士宮
1154	F	6044011	最恩寺	臨済宗	南部町	16	篠井山
1155	F	6044012	慈雲寺	臨済宗	南部町		
1156	F	6044013	慈雲寺	臨済宗	南部町		
1157	F	6044014	修善寺	臨済宗	南部町	16	篠井山
1158	F	6044015	秀宝院坊迹	修験	南部町		
1159	F	6044016	正行寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1160	F	6044017	正法寺	臨済宗	南部町		
1161	F	6044018	宗林寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1162	F	6044019	聴法寺	日蓮宗	南部町	15	南部
1163	F	6044020	徳間寺	臨済宗	南部町	16	篠井山
1164	F	6044021	福寿院	臨済宗	南部町	16	篠井山
1165	F	6044022	法雲寺	臨済宗	南部町		
1166	F	6044023	本光寺	日蓮宗	南部町	25	富士宮
1167	F	6044024	満願寺	臨済宗	南部町	16	篠井山
1168	F	6044025	明岳院	臨済宗	南部町	16	篠井山
1169	F	6044026	妙泉寺	日蓮宗	南部町	25	富士宮
1170		6044027	妙法寺	日蓮宗	南部町	16	篠井山
1171	F	6044028	竜徳寺	臨済宗	南部町	16	篠井山
1172	F	6044029	蓮久寺	日蓮宗	南部町		
1053	F	6045001	常昌院	曹洞宗	早川町	6	新倉
1054	F	6045002	常蔵寺	日蓮宗	早川町	14	身延
1055	F	6045003	正徳寺	日蓮宗	早川町	7	七面山
1056	F	6045004	浄蓮寺	日蓮宗	早川町	6	新倉
1057	F	6045005	真妙寺	日蓮宗	早川町	6	新倉
1058	F	6045006	仙流	修験	早川町		
1059	F	6045007	宗伝寺	曹洞宗	早川町	6	新倉
1060	F	6045008	大抱院	曹洞宗	早川町	6	新倉
1061	F	6045009	外郎寺	日蓮宗	早川町	5	奈良田
1062	F	6045010	雲外寺	曹洞宗	早川町	13	切石
1063	F	6045011	円乗寺	日蓮宗	早川町		
1064	F	6045012	塩上寺	日蓮宗	早川町	6	新倉
1065	F	6045013	円通院	曹洞宗	早川町	6	新倉

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
1066	F	6045014	円立寺	日蓮宗	早川町	13	切石
1067	F	6045015	円立寺	日蓮宗	早川町	7	七面山
1068	F	6045016	学定寺	日蓮宗	早川町	14	身延
1069	F	6045017	建長寺	日蓮宗	早川町	6	新倉
1070	F	6045018	西光寺	曹洞宗	早川町	7	七面山
1071	F	6045019	西方寺	曹洞宗	早川町	6	新倉
1072	F	6045020	上橋寺	日蓮宗	早川町	13	切石
1073	F	6045021	朝晨庵	臨済宗	早川町	6	新倉
1074	F	6045022	長徳寺	日蓮宗	早川町	7	七面山
1075	F	6045023	東陽寺	曹洞宗	早川町	7	七面山
1076	F	6045024	廃新豊寺	曹洞宗	早川町		
1077	F	6045025	方雲寺	日蓮宗	早川町	5	奈良田
1078	F	6045026	宝乗寺	日蓮宗	早川町	6	新倉
1079	F	6045027	法真寺	日蓮宗	早川町	13	切石
1080	F	6045028	法泉寺	日蓮宗	早川町	13	切石
1081	F	6045029	法善寺	日蓮宗	早川町	6	新倉
1082	F	6045030	法幢庵	臨済宗	早川町		
1083	F	6045031	抱明院	曹洞宗	早川町	6	新倉
1084	F	6045032	宝竜寺	真言宗	早川町	6	新倉
1085	F	6045033	本泉寺	日蓮宗	早川町	14	身延
1086	F	6045034	本妙寺	日蓮宗	早川町	13	切石
1087	F	6045035	本証寺	日蓮宗	早川町	13	切石
1088	F	6045036	万部寺	日蓮宗	早川町		
1089	F	6045037	妙浄寺	日蓮宗	早川町	14	身延
1090	F	6045038	妙福寺	日蓮宗	早川町	14	身延
1091	F	6045039	妙法寺	日蓮宗	早川町	7	七面山
1092	F	6045040	妙蓮寺	日蓮宗	早川町	6	新倉
1093	F	6045041	蓮定寺	日蓮宗	早川町	5	奈良田
2138	G	7046001	雲洞寺	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2139	G	7046002	永泉寺	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2140	G	7046003	易宝院 (益宝院坊迹)	修験	市川三郷町		
2141	G	7046004	観行院	修験	市川三郷町		
2142	G	7046005	光源院	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2143	G	7046006	光勝寺	真言宗	市川三郷町	21	市川大門
2144	G	7046007	西福寺	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2145	G	7046008	西福寺	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2146	G	7046009	常光寺	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2147	G	7046010	常明院房跡	修験	市川三郷町		
2148	G	7046011	真福寺	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2149	G	7046012	禅昌寺	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2150	G	7046013	大聖院	修験	市川三郷町		
2151	G	7046014	大乗寺	日蓮宗	市川三郷町	21	市川大門
2152	G	7046015	大真寺	真言宗	市川三郷町	21	市川大門
2153	G	7046016	大竜院	修験	市川三郷町		
2154	G	7046017	長昌院	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2155	G	7046018	多宝院	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2156	G	7046019	長泉寺	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2157	G	7046020	福寿院	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2158	G	7046021	不動院	真言宗	市川三郷町	21	市川大門
2159	G	7046022	薬王寺	真言宗	市川三郷町	21	市川大門
2160	G	7046023	林泉寺	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2161	G	7046024	阿弥陀堂	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2162	G	7046025	阿弥陀堂		市川三郷町		
2163	G	7046026	地蔵堂		市川三郷町		
2079	G	7047001	永盛寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2080	G	7047002	永宝院	修験	市川三郷町		
2081	G	7047003	延寿院	真言宗	市川三郷町		
2082	G	7047004	円立寺	日蓮宗	市川三郷町	21	市川大門
2083	G	7047005	花園院	真言宗	市川三郷町	21	市川大門
2084	G	7047006	華台寺	時宗	市川三郷町	12	鰍沢
2085	G	7047007	願海院	曹洞宗	市川三郷町		
2086	G	7047008	観昌院	曹洞宗	市川三郷町		
2087	G	7047009	吉祥院	修験	市川三郷町		
2088	G	7047010	宮沢寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2089	G	7047011	玉照院	修験	市川三郷町		
2090	G	7047012	慶福院	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2091	G	7047013	源昌寺	曹洞宗	市川三郷町	12	鰍沢
2092	G	7047014	光明院	浄土宗	市川三郷町		
2093	G	7047015	金剛院	真言宗	市川三郷町	21	市川大門
2094	G	7047016	金光寺	真言宗	市川三郷町		
2095	G	7047017	西安寺	曹洞宗	市川三郷町	12	鰍沢
2096	G	7047018	西光寺	曹洞宗	市川三郷町	12	鰍沢
2097	G	7047019	西福寺	曹洞宗	市川三郷町		
2098	G	7047020	寺明庵	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2099	G	7047021	秀宝院	修験	市川三郷町		
2100	G	7047022	浄泉庵	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2101	G	7047023	成蔵院	真言宗	市川三郷町	21	市川大門
2102	G	7047024	浄蓮寺	浄土宗	市川三郷町	21	市川大門
2103	G	7047025	新蔵院	臨済宗	市川三郷町	21	市川大門
2104	G	7047026	清堂院	曹洞宗	市川三郷町		
2105	G	7047027	清養寺	曹洞宗	市川三郷町	12	鰍沢
2106	G	7047028	積善院	真言宗	市川三郷町		
2107	G	7047029	仙国院	修験	市川三郷町		
2108	G	7047030	善福寺	真言宗	市川三郷町	21	市川大門

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
2109	G	7047031	禅林寺	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2110	G	7047032	相延寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2111	G	7047033	大増寺	曹洞宗	市川三郷町	12	鰍沢
2112	G	7047034	大福院	修験	市川三郷町		
2113	G	7047035	大楽院	修験	市川三郷町		
2114	G	7047036	大竜寺	浄土宗	市川三郷町	21	市川大門
2115	G	7047037	多福寺	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2116	G	7047038	長生寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2117	G	7047039	東僊寺	曹洞宗	市川三郷町	21	市川大門
2118	G	7047040	平塩寺	真言宗	市川三郷町	21	市川大門
2119	G	7047041	福寿院	真言宗	市川三郷町	21	市川大門
2120	G	7047042	遍照院	曹洞宗	市川三郷町		
2121	G	7047043	宝寿院	真言宗	市川三郷町	21	市川大門
2122	G	7047044	宝聚寺	真言宗	市川三郷町	12	鰍沢
2123	G	7047045	法受寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2124	G	7047046	法伝寺	日蓮宗	市川三郷町	21	市川大門
2125	G	7047047	宝幢寺	真言宗	市川三郷町	12	鰍沢
2126	G	7047048	本妙寺	日蓮宗	市川三郷町	21	市川大門
2127	G	7047049	妙学寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2128	G	7047050	妙浄寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2129	G	7047051	妙増寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2130	G	7047052	妙伝寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2131	G	7047053	明宝院	修験	市川三郷町		
2132	G	7047054	明学院	修験	市川三郷町		
2133	G	7047055	薬師院	真言宗	市川三郷町		
2134	G	7047056	竜仙院	曹洞宗	市川三郷町	12	鰍沢
2135	G	7047057	流通寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2136	G	7047058	蓮光院	真言宗	市川三郷町	21	市川大門
2137	G	7047059	竜光院	曹洞宗	市川三郷町		
2048	G	7048001	永昌寺	曹洞宗	市川三郷町	13	切石
2049	G	7048002	岳雲院	曹洞宗	市川三郷町	13	切石
2050	G	7048003	光岳寺	曹洞宗	市川三郷町	12	鰍沢
2051	G	7048004	幸岩寺	曹洞宗	市川三郷町		
2052	G	7048005	光全寺	曹洞宗	市川三郷町		
2053	G	7048006	高前寺	曹洞宗	市川三郷町	13	切石
2054	G	7048007	金剛院(坊跡)	修験	市川三郷町		
2055	G	7048008	自徳院	曹洞宗	市川三郷町		
2056	G	7048009	常慶寺	日蓮宗	市川三郷町		
2057	G	7048010	昌寿院	曹洞宗	市川三郷町	13	切石
2058	G	7048011	勝仙院	修験	市川三郷町		
2059	G	7048012	昌全寺	曹洞宗	市川三郷町		
2060	G	7048013	浄善寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2061	G	7048014	少林寺	曹洞宗	市川三郷町		
2062	G	7048015	定林寺	日蓮宗	市川三郷町	13	切石
2063	G	7048016	随岸寺	日蓮宗	市川三郷町	13	切石
2064	G	7048017	善応寺	曹洞宗	市川三郷町	13	切石
2065	G	7048018	相蓮寺	日蓮宗	市川三郷町		
2066	G	7048019	大乗寺	日蓮宗	市川三郷町	13	切石
2067	G	7048020	大仙寺	日蓮宗	市川三郷町	13	切石
2068	G	7048021	沢雲寺	曹洞宗	市川三郷町		
2069	G	7048022	藤尾寺	曹洞宗	市川三郷町		
2070	G	7048023	東陽院	曹洞宗	市川三郷町	13	切石
2071	G	7048024	普蔵院	曹洞宗	市川三郷町	12	鰍沢
2072	G	7048025	宝珠院	曹洞宗	市川三郷町	13	切石
2073	G	7048026	本照寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2074	G	7048027	本定寺	日蓮宗	市川三郷町	13	切石
2075	G	7048028	妙応寺	日蓮宗	市川三郷町		
2076	G	7048029	妙現寺	日蓮宗	市川三郷町	13	切石
2077	G	7048030	妙蓮寺	日蓮宗	市川三郷町	12	鰍沢
2078	G	7048031	無量寺	曹洞宗	市川三郷町		
2488	H	8049001	吉祥寺	臨済宗	富士吉田市	36	富士吉田
2489	H	8049002	祥春庵	臨済宗	富士吉田市	36	富士吉田
2490	H	8049003	上行寺	日蓮宗	富士吉田市	36	富士吉田
2491	H	8049004	地蔵寺	臨済宗	富士吉田市	36	富士吉田
2492	H	8049005	善導寺	浄土宗	富士吉田市	36	富士吉田
2493	H	8049006	西念寺	時宗	富士吉田市	36	富士吉田
2494	H	8049007	福源寺	浄土真宗	富士吉田市	36	富士吉田
2495	H	8049008	大行院	修験	富士吉田市		
2496	H	8049009	月江寺	臨済宗	富士吉田市	36	富士吉田
2497	H	8049010	潮音寺	臨済宗	富士吉田市	36	富士吉田
2498	H	8049011	霊松坊	日蓮宗	富士吉田市	36	富士吉田
2499	H	8049012	正福寺	浄土真宗	富士吉田市	36	富士吉田
2500	H	8049013	大正寺	浄土真宗	富士吉田市	36	富士吉田
2501	H	8049014	如来寺	浄土真宗	富士吉田市	36	富士吉田
2502	H	8049015	万年寺	浄土宗	富士吉田市	36	富士吉田
2503	H	8049016	西方寺	浄土宗	富士吉田市	36	富士吉田
2504	H	8049017	慈光院	臨済宗	富士吉田市	36	富士吉田
2505	H	8049018	輪源寺	修験	富士吉田市	36	富士吉田
2506	H	8049019	千手院	修験	富士吉田市	36	富士吉田
2507	H	8049020	行法院	修験	富士吉田市		
2508	H	8049021	光正院	修験	富士吉田市		
2509	H	8049022	福昌寺	曹洞宗	富士吉田市	35	河口東
2510	H	8049023	清真庵	曹洞宗	富士吉田市	35	河口東
2511	H	8049024	滝本院	修験	富士吉田市		
2512	H	8049025	安祥寺	臨済宗	富士吉田市		

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
2513	H	8049026	見峯庵	臨済宗	富士吉田市		
2514	H	8049027	向富庵	臨済宗	富士吉田市		
2515	H	8049028	正覚庵	臨済宗	富士吉田市		
2516	H	8049029	是徳庵	臨済宗	富士吉田市		
1218	H	8049030	快長院	修験	富士吉田市		
2317	H	8050001	保寿院	曹洞宗	都留市	41	都留
2318	H	8050002	清泉寺	臨済宗	都留市	41	都留
2319	H	8050003	浄泉寺	浄土真宗	都留市	41	都留
2320	H	8050004	瑞雲寺	臨済宗	都留市	40	大月
2321	H	8050005	東陽院	臨済宗	都留市	41	都留
2322	H	8050006	富春寺	臨済宗	都留市	40	大月
2323	H	8050007	西光寺	浄土真宗	都留市	41	都留
2324	H	8050008	法福寺	浄土真宗	都留市	40	大月
2325	H	8050009	延命寺	修験	都留市		
2326	H	8050010	三光院	修験	都留市		
2327	H	8050011	泰祐院	修験	都留市		
2328	H	8050012	円林坊	修験	都留市		
2329	H	8050013	長福寺	臨済宗	都留市		
2330	H	8050014	如意庵	臨済宗	都留市	40	大月
2331	H	8050015	専念寺	浄土真宗	都留市	41	都留
2332	H	8050016	長安寺	浄土宗	都留市	41	都留
2333	H	8050017	西願寺	真宗	都留市	41	都留
2334	H	8050018	真泉院	曹洞宗	都留市	41	都留
2335	H	8050019	普門寺	曹洞宗	都留市	41	都留
2336	H	8050020	法泉寺	曹洞宗	都留市	41	都留
2337	H	8050021	西凉寺	浄土宗	都留市	41	都留
2338	H	8050022	東漸寺	日蓮宗	都留市	41	都留
2339	H	8050023	長生寺	曹洞宗	都留市	41	都留
2340	H	8050024	円通院	曹洞宗	都留市	41	都留
2341	H	8050025	福壽院	曹洞宗	都留市	41	都留
2342	H	8050026	医王堂	曹洞宗	都留市		
2343	H	8050027	正観寺	曹洞宗	都留市	41	都留
2344	H	8050028	万性院	修験	都留市		
2345	H	8050029	正宝院	修験	都留市		
2346	H	8050030	東正院	神社神道	都留市	41	都留
2347	H	8050031	法竜庵	曹洞宗	都留市	41	都留
2348	H	8050032	本光寺	曹洞宗	都留市	41	都留
2349	H	8050033	伝昌寺	曹洞宗	都留市	41	都留
2350	H	8050034	東照寺	曹洞宗	都留市		
2351	H	8050035	天正寺	臨済宗	都留市	41	都留
2352	H	8050036	清宝院	修験	都留市		
2353	H	8050037	弥陀堂		都留市		
2354	H	8050038	浄土庵	曹洞宗	都留市		
2355	H	8050039	永徳寺	臨済宗	都留市	41	都留
2356	H	8050040	積善院	曹洞宗	都留市		
2357	H	8050041	誓願寺	臨済宗	都留市		
2358	H	8050042	江西院	曹洞宗	都留市	41	都留
2359	H	8050043	広教寺	曹洞宗	都留市	41	都留
2360	H	8050044	源正庵	臨済宗	都留市		
2361	H	8050045	桂林寺	臨済宗	都留市	41	都留
2362	H	8050046	玉泉院	曹洞宗	都留市		
2363	H	8050047	観音寺	曹洞宗	都留市		
2364	H	8050048	用津院	曹洞宗	都留市	41	都留
2365	H	8050049	福源院	曹洞宗	都留市	35	河口東
2366	H	8050050	無量寺	曹洞宗	都留市		
2367	H	8050051	東光寺	曹洞宗	都留市	41	都留
2368	H	8050052	真福寺	曹洞宗	都留市	41	都留
2369	H	8050053	専徳寺	浄土真宗	都留市	41	都留
2370	H	8050054	正蓮寺	浄土真宗	都留市	41	都留
2371	H	8050055	林照院	曹洞宗	都留市	41	都留
2372	H	8050056	宝鏡寺	曹洞宗	都留市	35	河口東
2373	H	8050057	泉福寺	曹洞宗	都留市	35	河口東
2374	H	8050058	広徳院	曹洞宗	都留市	35	河口東
2375	H	8050059	真境院	曹洞宗	都留市		
2376	H	8050060	西方寺	曹洞宗	都留市	35	河口東
2377	H	8050061	長泉院	曹洞宗	都留市	41	都留
2378	H	8050062	光照寺	曹洞宗	都留市	41	都留
2379	H	8050063	耕雲院	曹洞宗	都留市	35	河口東
2380	H	8050064	長慶寺	臨済宗	都留市	41	都留
2381	H	8050065	自得院	曹洞宗	都留市	41	都留
2382	H	8050066	永寿院	曹洞宗	都留市	41	都留
2383	H	8050067	棲月院	曹洞宗	都留市	41	都留
2384	H	8050068	光彩院	曹洞宗	都留市	41	都留
2385	H	8050069	清浄院	曹洞宗	都留市		
2386	H	8050070	龍泉寺	修験	都留市		
2387	H	8050071	正寿院	修験	都留市		
2388	H	8050072	大宝院	修験	都留市		
2389	H	8050073	東漸寺	臨済宗	都留市		
2390	H	8050074	平等院	修験	都留市		
2391	H	8050075	宝絹院	修験	都留市		
2392	H	8050076	宝照院	修験	都留市		
2393	H	8050077	紫雲院	修験	都留市		
2394	H	8050078	無量庵	曹洞宗	都留市	35	河口東
2395	H	8050079	万蔵院	曹洞宗	都留市		
2396	H	8050080	大徳寺	天台宗	都留市		

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
2397	H	8050081	念崇寺	浄土宗	都留市	41	都留
2398	H	8050082	明学院	修験	都留市		
1194	H	8051001	永見寺	曹洞宗	道志村	45	大室山
1195	H	8051002	円福寺	曹洞宗	道志村	45	大室山
1196	H	8051003	久昌庵	曹洞宗	道志村	42	御正体山
1207	H	8052001	一乗寺	臨済宗	西桂町	35	河口東
1208	H	8052002	観音寺	臨済宗	西桂町	35	河口東
1209	H	8052003	載運寺	浄土宗	西桂町	35	河口東
1210	H	8052004	定光院	臨済宗	西桂町	35	河口東
1211	H	8052005	松樹庵	臨済宗	西桂町	35	河口東
1212	H	8052006	長得院	曹洞宗	西桂町	35	河口東
1213	H	8052007	福善寺	浄土真宗	西桂町	35	河口東
1214	H	8052008	仏眼寺	曹洞宗	西桂町	35	河口東
1215	H	8052009	宝養寺	曹洞宗	西桂町	35	河口東
1216	H	8052010	品第寺	臨済宗	西桂町	35	河口東
1217	H	8052011	永明寺	臨済宗	西桂町	35	河口東
1219	H	8052012	大乗院	修験	西桂町	35	河口東
1220	H	8052013	本覚院	修験	西桂町		
2482	H	8053001	寿徳寺	臨済宗	山中湖村	42	御正体山
2483	H	8054001	東円寺	天台宗	忍野村	36	富士吉田
2484	H	8054002	承天寺	臨済宗	忍野村	36	富士吉田
2485	H	8054003	光学院	修験	忍野村		
2486	H	8054004	万宝院	修験	忍野村	36	富士吉田
1197	H	8055001	通玄寺	臨済宗	富士河口湖町	30	鳴沢
1198	H	8055002	成宝院	修験	富士河口湖町		
1201	H	8056001	浄蓮寺	日蓮宗	富士河口湖町	29	河口西
1202	H	8056002	妙本寺	日蓮宗	富士河口湖町	29	河口西
1190	H	8056003	役行者堂	修験	富士河口湖町	37	須走
2578	H	8057001	上之坊祖師堂		富士河口湖町	35	河口東
1174	H	8057002	円通寺	臨済宗	富士河口湖町	36	富士吉田
1175	H	8057003	大石寺		富士河口湖町		
1176	H	8057004	海蔵寺	臨済宗	富士河口湖町	29	河口西
1177	H	8057005	観音寺		富士河口湖町	35	河口東
1178	H	8057006	桂久寺	臨済宗	富士河口湖町	35	河口東
1179	H	8057007	光西寺	臨済宗	富士河口湖町	35	河口東
1180	H	8057008	正観寺		富士河口湖町		
1181	H	8057009	清石寺		富士河口湖町		
1182	H	8057010	常在寺	日蓮宗	富士河口湖町	35	河口東
1183	H	8057011	正伝寺		富士河口湖町		
1184	H	8057012	善応寺	臨済宗	富士河口湖町	35	河口東
1185	H	8057013	古寺		富士河口湖町		
1186	H	8057014	法大寺		富士河口湖町		
1187	H	8057015	万光寺		富士河口湖町		
1188	H	8057016	御堂寺		富士河口湖町		
1189	H	8057017	妙法寺	日蓮宗	富士河口湖町	36	富士吉田
1191	H	8057018	大光院	修験	富士河口湖町		
1192	H	8057019	大法院	修験	富士河口湖町		
1193	H	8057020	東覚院	修験	富士河口湖町		
2579	H	8057021	丸尾地蔵堂		富士河口湖町	36	富士吉田
1199	H	8057022	江岸寺	曹洞宗	富士河口湖町	22	精進
1200	H	8057023	竜泉寺	曹洞宗	富士河口湖町	22	精進
1203	H	8058001	観音堂		富士河口湖町		
1204	H	8058002	釈迦堂		富士河口湖町		
1205	H	8058003	東光寺	臨済宗	富士河口湖町	29	河口西
1206	H	8058004	蓮華寺	日蓮宗	富士河口湖町	30	鳴沢
1544	I	9059001	阿弥陀寺	浄土宗	大月市	40	大月
1545	I	9059002	阿弥陀堂	臨済宗	大月市	34	笹子
1546	I	9059003	安楽寺	浄土真宗	大月市	40	大月
1547	I	9059004	威徳寺	曹洞宗	大月市	40	大月
1548	I	9059005	円通寺	真言宗	大月市	40	大月
1549	I	9059006	円通寺	臨済宗	大月市	44	上野原
1550	I	9059007	円福寺	臨済宗	大月市	44	上野原
1551	I	9059008	延命寺	曹洞宗	大月市	40	大月
1552	I	9059009	花井寺	臨済宗	大月市	40	大月
1553	I	9059010	儀光庵	臨済宗	大月市		
1554	I	9059011	悟庵寺	浄土宗	大月市		
1555	I	9059012	光照寺	曹洞宗	大月市	40	大月
1556	I	9059013	光養寺	臨済宗	大月市	40	大月
1557	I	9059014	金竜寺	臨済宗	大月市	40	大月
1558	I	9059015	西方寺	浄土宗	大月市	40	大月
1559	I	9059016	自光院	臨済宗	大月市	34	笹子
1560	I	9059017	地蔵寺	曹洞宗	大月市	40	大月
1561	I	9059018	自徳院	臨済宗	大月市	40	大月
1562	I	9059019	修善庵	臨済宗	大月市		
1563	I	9059020	正覚寺	曹洞宗	大月市	40	大月
1564	I	9059021	照光院	曹洞宗	大月市	40	大月
1565	I	9059022	常光寺	臨済宗	大月市	40	大月
1566	I	9059023	浄照寺	浄土真宗	大月市	40	大月
1567	I	9059024	正念寺	浄土真宗	大月市	40	大月
1568	I	9059025	心月寺	臨済宗	大月市	40	大月
1569	I	9059026	真蔵院	真言宗	大月市	40	大月
1570	I	9059027	真福寺	臨済宗	大月市		
1571	I	9059028	瑞雲寺	臨済宗	大月市		
1572	I	9059029	瑞淵寺	臨済宗	大月市	44	上野原
1573	I	9059030	瑞光寺	臨済宗	大月市	40	大月
1574	I	9059031	瑞竜庵	臨済宗	大月市	34	笹子
1575	I	9059032	全昌寺	臨済宗	大月市	44	上野原
1576	I	9059033	善福寺	浄土真宗	大月市	40	大月
1577	I	9059034	全福寺	曹洞宗	大月市	40	大月
1578	I	9059035	泉竜寺	臨済宗	大月市		
1579	I	9059036	泉冷院	臨済宗	大月市		
1580	I	9059037	惣安寺	浄土宗	大月市	40	大月
1581	I	9059038	大椿寺	臨済宗	大月市	40	大月
1582	I	9059039	長応寺	曹洞宗	大月市	40	大月
1583	I	9059040	長谷寺	曹洞宗	大月市		
1584	I	9059041	東光寺	曹洞宗	大月市	40	大月
1585	I	9059042	東光寺	臨済宗	大月市	40	大月
1586	I	9059043	東陽寺	臨済宗	大月市		
1587	I	9059044	徳念寺	浄土宗	大月市		
1588	I	9059045	福寿庵	臨済宗	大月市		
1589	I	9059046	福聚院	臨済宗	大月市		
1590	I	9059047	福正寺	浄土真宗	大月市	40	大月
1591	I	9059048	福泉寺	臨済宗	大月市	40	大月
1592	I	9059049	福泉寺	浄土真宗	大月市	40	大月
1593	I	9059050	普明院	臨済宗	大月市	34	笹子
1594	I	9059051	法雲寺	曹洞宗	大月市	40	大月
1595	I	9059052	宝鏡寺	真言宗	大月市	40	大月
1596	I	9059053	宝泉寺	真言宗	大月市		
1597	I	9059054	宝全寺	曹洞宗	大月市	40	大月
1598	I	9059055	法幢寺	曹洞宗	大月市	40	大月
1599	I	9059056	宝林寺	曹洞宗	大月市	40	大月
1600	I	9059057	宝林寺	臨済宗	大月市	34	笹子
1601	I	9059058	妙楽寺	臨済宗	大月市	40	大月
1602	I	9059059	無遍寺	浄土宗	大月市	40	大月
1603	I	9059060	養福寺	臨済宗	大月市	44	上野原
1604	I	9059061	竜岩寺	曹洞宗	大月市		
1605	I	9059062	竜法寺	真言宗	大月市		
1606	I	9059063	涼泉寺	臨済宗	大月市	40	大月
1607	I	9059064	常楽院	修験	大月市	40	大月
1608	I	9059065	永正院	修験	大月市		
1609	I	9059066	蔵王院	修験	大月市		
1610	I	9059067	正学院	修験	大月市		
1611	I	9059068	松岳坊	修験	大月市		
1612	I	9059069	正宝院	修験	大月市		
1613	I	9059070	大仙院	修験	大月市		
1614	I	9059071	大宝院	修験	大月市		
1615	I	9059072	大林院	修験	大月市		
1616	I	9059073	国宝院	修験	大月市	34	笹子
1617	I	9059074	常寿院	修験	大月市		
1618	I	9059075	東泉寺	修験	大月市		
1619	I	9059076	宝寿院	修験	大月市		
1620	I	9059077	華蔵院	修験	大月市		
1621	I	9059078	吉祥寺	修験	大月市		
1622	I	9059079	金剛院	修験	大月市		
1623	I	9059080	大正院	修験	大月市		
1624	I	9059081	秀山坊	修験	大月市		
1625	I	9059082	大善寺(廃跡)	修験	大月市		
1626	I	9059083	胎蔵院	修験	大月市		
1627	I	9059084	大山寺	修験	大月市		
1628	I	9059085	蓮乗院	修験	大月市		
1629	I	9059086	大坊	修験	大月市	40	大月
2399	I	9060001	威王院	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2400	I	9060002	威光寺	臨済宗	上野原市		
2401	I	9060003	花岳寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2402	I	9060004	観昌寺	臨済宗	上野原市		
2403	I	9060005	観音堂	臨済宗	上野原市		
2404	I	9060006	観音堂		上野原市	44	上野原
2405	I	9060007	久養寺	臨済宗	上野原市		
2406	I	9060008	桂雲寺	曹洞宗	上野原市		
2407	I	9060009	江月寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2408	I	9060010	光禅寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2409	I	9060011	金剛寺	曹洞宗	上野原市	44	上野原
2410	I	9060012	西光寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2411	I	9060013	西福寺	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2412	I	9060014	桜樹庵	臨済宗	上野原市		
2413	I	9060015	慈眼寺	曹洞宗	上野原市	46	与瀬
2414	I	9060016	自光寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2415	I	9060017	慈昌庵	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2416	I	9060018	地蔵院	臨済宗	上野原市	44	上野原
2417	I	9060019	悉聖寺	曹洞宗	上野原市	44	上野原
2418	I	9060020	正月庵	臨済宗	上野原市		
2419	I	9060021	照沢庵	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2420	I	9060022	正法寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2421	I	9060023	真珠院	臨済宗	上野原市	44	上野原
2422	I	9060024	新沢庵	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2423	I	9060025	瑞光寺	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2424	I	9060026	水泉庵	臨済宗	上野原市		
2425	I	9060027	清泉寺	曹洞宗	上野原市	44	上野原
2426	I	9060028	青苔寺	臨済宗	上野原市	46	与瀬
2427	I	9060029	青竜庵	臨済宗	上野原市		

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
2428	I	9060030	善福庵	臨済宗	上野原市		
2429	I	9060031	蔵雲庵	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2430	I	9060032	曹源寺	曹洞宗	上野原市		
2431	I	9060033	蔵春院	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2432	I	9060034	崇福寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2433	I	9060035	袋光寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2434	I	9060036	大通寺	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2435	I	9060037	大陽寺	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2436	I	9060038	竹清院	臨済宗	上野原市		
2437	I	9060039	長谷寺	曹洞宗	上野原市		
2438	I	9060040	大法院	修験	上野原市		
2439	I	9060041	東正院	修験	上野原市		
2440	I	9060042	能満寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2441	I	9060043	宝勝寺	曹洞宗	上野原市	44	上野原
2442	I	9060044	長福寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2443	I	9060045	東林寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2444	I	9060046	来迎寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2445	I	9060047	常福院	修験	上野原市		
2446	I	9060048	東光寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2447	I	9060049	理法寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2448	I	9060050	成就院	修験	上野原市		
2449	I	9060051	普賢寺	臨済宗	上野原市		
2450	I	9060052	大乗院	修験	上野原市		
2451	I	9060053	福昌寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2452	I	9060054	福現寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2453	I	9060055	普賢院	修験	上野原市	44	上野原
2454	I	9060056	法性寺	天台宗	上野原市	44	上野原
2455	I	9060057	北辰寺	修験	上野原市	44	上野原
2456	I	9060058	宝林寺	曹洞宗	上野原市		
2457	I	9060059	保福寺	曹洞宗	上野原市	44	上野原
2458	I	9060060	東林寺	曹洞宗	上野原市	44	上野原
2459	I	9060061	宝珠院	曹洞宗	上野原市	44	上野原
2460	I	9060062	福泉寺	曹洞宗	上野原市	44	上野原
2461	I	9060063	福昌院	曹洞宗	上野原市		
2462	I	9060064	竜泉寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2463	I	9060065	白蓮寺	天台宗	上野原市		
2464	I	9060066	福聚庵	臨済宗	上野原市	44	上野原

ID	エリア	中世寺院番号	寺院名	新宗名	現行地名	分布図番号	分布図名
2465	I	9060067	不動院	修験	上野原市	44	上野原
2466	I	9060068	宝珠寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2467	I	9060069	芳外庵	臨済宗	上野原市	44	上野原
2468	I	9060070	普済庵	臨済宗	上野原市	44	上野原
2469	I	9060071	宝珠庵	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2470	I	9060072	梁厳寺	臨済宗	上野原市	44	上野原
2471	I	9060073	本光寺	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2472	I	9060074	大正院	修験	上野原市		
2473	I	9060075	東陽庵	臨済宗	上野原市		
2474	I	9060076	東光院	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2475	I	9060077	長泉寺	曹洞宗	上野原市	44	上野原
2476	I	9060078	大泉院	修験	上野原市		
2477	I	9060079	十方院	修験	上野原市		
2478	I	9060080	三明院	修験	上野原市		
2479	I	9060081	宝珠寺	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2480	I	9060082	洞泉寺	臨済宗	上野原市	43	猪丸
2481	I	9060083	延命寺		上野原市	43	猪丸
1227	I	9061001	吉祥寺	真言宗	上野原市	45	大室山
1228	I	9061002	真福持	臨済宗	上野原市	45	大室山
1229	I	9061003	東福庵	臨済宗	上野原市	45	大室山
1230	I	9061004	宝積寺	臨済宗	上野原市	45	大室山
1231	I	9061005	法泉寺	臨済宗	上野原市	45	大室山
1232	I	9061006	菅山坊	修験	上野原市		
1240	I	9062001	西性寺	臨済宗	小菅村		
1233	I	9062002	長谷寺	臨済宗	小菅村	39	七保
1234	I	9062003	宝珠庵	臨済宗	小菅村		
1235	I	9062004	宝生寺	臨済宗	小菅村	38	丹波
1236	I	9062005	弥陀堂		小菅村		
1237	I	9062006	弥陀堂		小菅村		
1238	I	9062007	薬王寺	臨済宗	小菅村	39	七保
1239	I	9062008	桔梗院	修験	小菅村		
1221	I	9063001	金竜寺	真言宗	丹波山村	38	丹波
1222	I	9063002	東福寺	真言宗	丹波山村	38	丹波
1223	I	9063003	福寿庵	臨済宗	丹波山村	38	丹波
1224	I	9063004	福蔵寺	真言宗	丹波山村	38	丹波
1225	I	9063005	法興寺	真言宗	丹波山村	38	丹波
1226	I	9063006	宝蔵寺	真言宗	丹波山村	38	丹波

図　　版

聖応寺（平成 17 年度）

本堂跡（南から）

本堂跡根石
検出状況

開山墓

開山堂を完全に調査した状況

礎石建物跡完掘状況

礎石建物跡（北から）

楽音寺（平成 17 年度）

作業風景

第 1 号トレンチ

円楽寺（平成 17 年度）

調査前状況

六角堂（北西から）遠景

六角堂跡（正面から）

六角堂跡基壇（北東から）

六角堂基壇北東角の井戸

近世の廻国供養塔

行者堂跡

中世石塔群

苗敷山山頂遺跡南西地点（平成 18 年度）

穂見神社奥宮

調査区全景

1 号トレンチの集石遺構

1 号トレンチを完全に調査した状況

4 号トレンチの集石遺構

苗敷山ウォーク（韮崎市と共催）にて現地説明会

善応寺（平成 18 年度）

善応寺本堂

経塚出土伝承地点精査状況（調査区 1 ）

調査区 2 テラス北側の井戸

調査区 2 のトレンチを完全に調査した状況

湧水地点南側集石遺構

湧水地点（北西から）

古長禅寺（平成 18 年度）

調査区全景

第 1 号トレンチ土層

境内に所在する五輪塔（火輪）

寺域を巡る土塁

浄光寺（平成 18 年度）

遠景

石塔群

調査風景

2 号トレンチ

東円寺（平成 19 年度）

3 ～ 5 号トレンチ調査状況

6 号トレンチ調査状況

8・9 号トレンチ調査状況

調査風景（7 号トレンチ）

富士山二合目小室浅間神社境内地行者堂跡（平成 19 年度）

調査前風景

石列検出状況（北から）

調査区南東壁土層

第 4 号トレンチ土層

調査区北西側石垣

委員視察風景

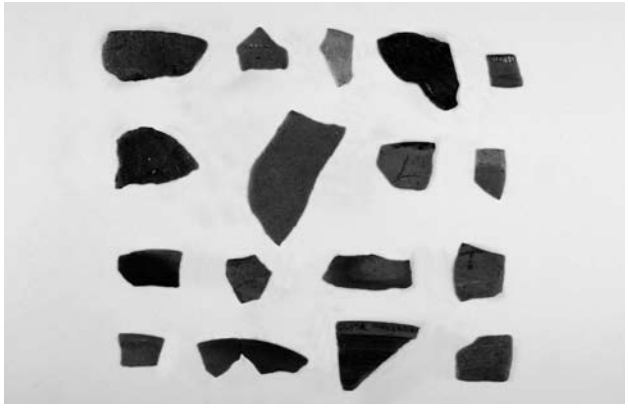
古観音遺跡（平成 19 年度）

礎石検出状況

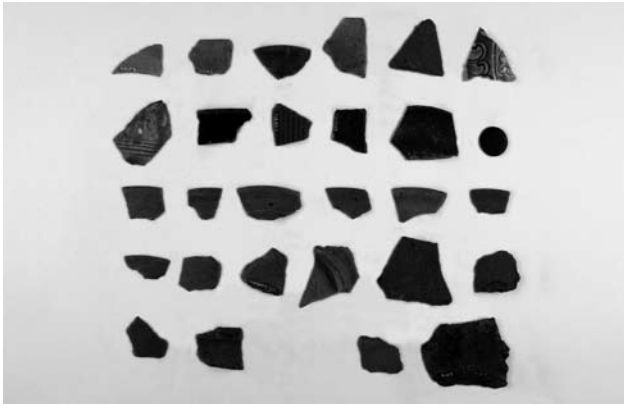
集石検出状況

聖応寺出土遺物

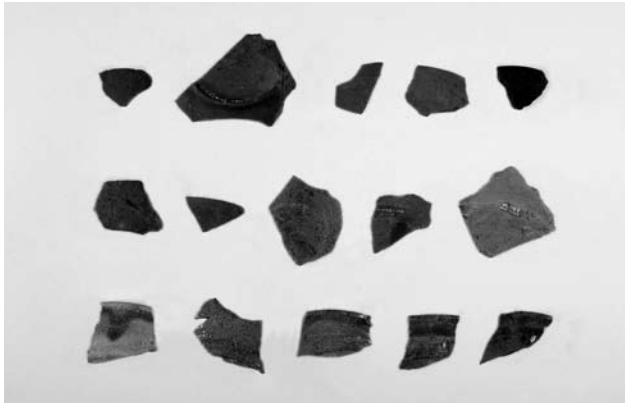
円楽寺出土遺物



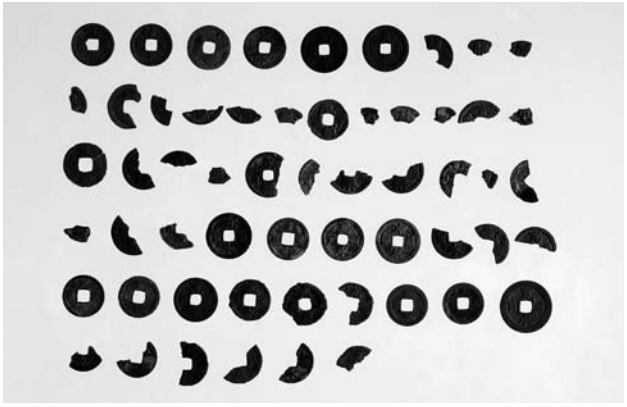
苗敷山山頂遺跡・善応寺（右下１点）出土遺物



古長禅寺（上２段）・東円寺（下３段）出土遺物



富士山二合目行者堂跡出土遺物（山茶碗・鼠志野皿）



富士山二合目行者堂跡出土古銭

大蔵経寺版木

調査検討委員会開催状況

報告書抄録

ふりがな	やまなしけんないちゅうせいじいんぶんぷちょうさほうこくしょ
書名	山梨県内中世寺院分布調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 260 集
編著者名	石神（小林）孝子
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地	山梨県甲府市下曽根町 923　TEL：055-266-3016
発行年月日	2009 年 3 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯（新）	東経（新）	調査期間	調査面積㎡	調査原因
聖応寺	笛吹市境川町大黒坂 1103 ほか	19211	－	35° 35’ 22”	138° 38’ 44”	20051121 ～ 20051209	820	学術調査
楽音寺	笛吹市一宮町塩田 944 ほか	19211	1555	35° 37’ 52”	138° 41’ 23”	20051118	160	
円楽寺	甲府市右左口町岩窪	19201	1998	35° 34’ 10”	138° 34’ 39”	20051212 ～ 20051226 20060213 ～ 20060224	950	
苗敷山山頂遺跡	韮崎市旭町上条南割	19207	－	35° 40’ 42”	138° 24’ 51”	20061101 ～ 20061116	81	
善応寺	南アルプス市大嵐字赤羽根	19208	－	35° 39’ 26”	138° 24’ 29”	20061201 ～ 20061218	111	
古長禅寺	南アルプス市鮎沢 505 ほか	19208	－	35° 35’ 48”	138° 28’ 12”	20061117 ～ 20061130	72	
浄光寺	南巨摩郡南部町 8,843 ほか	19366	－	35° 17’ 13”	138° 27’ 12”	20061023 ～ 20061029	12	
東円寺	南都留郡忍野村忍草 487 ほか	19424	4190	35° 27’ 55”	138° 50’ 06”	20071101 ～ 20071122	74	
富士山二合目 小室浅間神社 境内地行者堂跡	南都留郡富士河口湖町勝山 3,953-1	19430	－	35° 24’ 01”	138° 45’ 19”	20071011 ～ 20071031		
古観音遺跡	北都留郡小菅村長作字古観音	19422	－	35° 43’ 34”	138° 59’ 36”	20070918 ～ 20070925	55	

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
聖応寺	寺院跡	中世～近世	堂跡 2・礎石建物跡	陶器	
楽音寺	寺院跡				
円楽寺	行者堂跡 六角堂跡	中世・近世	行者堂跡・六角堂跡・ 中世石塔群	土師質土器・青磁・常滑・渥美	
苗敷山山頂遺跡		平安	集石 2	土師器・墨書土器・須恵器	
善応寺		平安		土師器	
古長禅寺	寺院跡	古墳・中世・近世	建物跡	土師器・陶器	
浄光寺					
東円寺		平安		土師器・灰釉陶器	
富士山二合目 小室浅間神社 境内地行者堂跡	行者堂跡	中世・近世	石列	土師質土器・中世陶器・陶器・磁器・古銭	石列は行者堂跡と関連するものと考えられる
古観音遺跡		平安・中世・近世	集石・礎石建物跡	土師器・古銭	

要　　約

平成 16(2004) ～ 20(2008) 年度の 5 カ年で行われた、山梨県内の中世寺院分布調査。中世段階に所在した 2,819 ヵ寺の分布を確認しデータ化するとともに、10 地点の発掘調査を実施し、本堂跡や礎石建物跡、祭祀遺構等を確認した。中でも役行者が開いたとされる登山道の拠点である円楽寺行者堂では、13 世紀に位置づけられる礎石建物跡が、また富士山二合目の拠点である地点でも石列を確認した。

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 260 集

山梨県内中世寺院分布調査報告書

印刷日　2009 年（平成 21 年 3 月 25 日）
発行日　2009 年（平成 21 年 3 月 30 日）
編　集　山梨県埋蔵文化財センター
　　山梨県甲府市下曽根町９２３
　　ＴＥＬ　０５５　（２６６）　３０１６
発　行　山梨県教育委員会
印刷所　株式会社　峡南堂印刷所